

五代砂留遺跡群

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

五代砂留遺跡群

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

二〇一二年三月

国土交通省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



2012.3

国土交通省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

五代砂留遺跡群

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2012.3

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺跡遠景(南方から)



遺跡近景(東方から)

序

五代砂留遺跡群は、群馬県前橋市五代町に所在し、国土交通省による一般国道17号（上武道路）改築工事に伴って、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が行われました。その結果、旧石器時代から縄文時代、古墳時代、平安時代、中近世に至る遺跡が発見されました。

本報告書は、五代砂留遺跡群の調査成果のうち、縄文時代以降の調査成果をまとめたものです。

縄文時代は、前期の住居及び墓壙と考えられる土坑が見つかりました。また、縄文時代早期から後期にかけての土器片も多数見つかりました。古墳時代は、従来生産域と考えられていた低地部から前期の集落が見つかりました。台地の上に集落を構え、周辺を開発した人々が低地にも積極的に進出しており、この地域における古墳時代前期という時期を考えるうえで貴重な資料となります。平安時代以降では9世紀後半から10世紀にかけての竪穴住居が14軒見つかり、鍛冶を行っていたと考えられる鍛冶遺構が見つっています。周辺の遺跡でも同じように、集落の中から鍛冶遺構も見つかっており、五代地域における平安時代の姿を見通せる資料を提供することができました。

今後、本報告書が地域の歴史研究をはじめ、地域の歴史資料として学校教育や生涯教育の場で活用されることを切に願っております。

最後に、発掘調査から報告書の作成に至るまで、国土交通省をはじめ、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には多大なご指導、ご協力を賜りました。本報告書の上梓に際し、関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

平成24年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田 栄 一

例 言

1. 本書は、一般国道(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)による、五代砂留遺跡群の発掘調査報告書である。

2. 五代砂留遺跡群は群馬県前橋市五代町805-14番、805-15番、805-16番、820-1番、821-1番、824番、828番、830-1番、830-2番、919-1番、919-3番、919-9番、920-1番、1245-5番、1246-3番、1246-4番、1247-2番、1248番、1249-1番、1249-2番、1253-3番、1254番、1255-1番、1255-2番、1255-3番、1256-1番、1256-4番、1256-5番、1256-6番、1256-7番、1257-1番、1257-2番、1257-6番、1257-8番、1276-1番、1276-5番、1277-4番、1278番、1279番、1282番、1283-1番、1283-3番、1283-4番に所在する。

3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所(旧建設省関東地方建設局高崎工事事務所)

4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 履行期間 平成19年4月1日～平成20年3月31日

調査期間 平成19年5月1日～平成20年3月31日

調査面積19,528.77m²

6. 調査体制は次のとおりである。

平成19年度

調査担当：木津博明(主任専門員(総括))

山田精一(主任調査研究員)

洞口正史(主任専門員)

新倉明彦(主任専門員(総括))

遺跡掘削請負工事：株式会社シン技術コンサル

地上測量及び空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル

7. 整理事業の体制・期間は次のとおりである。

平成22年度

履行期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日

整理期間：平成22年10月1日～平成23年3月31日

整理担当：高井佳弘(主任調査研究員)

平成23年度

履行期間：平成23年4月1日～平成23年3月31日

整理期間：平成23年4月1日～平成24年12月31日

整理担当：宮下寛(主任調査研究員)

8. 本書作成関係者

編集・本文執筆 高井佳弘

宮下寛

齋藤聡

長谷川博幸(調査研究員)

尚、第4章1節は赤沼英男氏、第5章1節は杉山秀宏(主任調査研究員)がそれぞれ執筆した。

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺構写真 発掘調査担当者

遺物写真 佐藤元彦（補佐（総括）

遺物観察、観察表執筆

縄文時代の土器 橋本淳（主任調査研究員）

縄文時代の石器、その他石製品 岩崎泰一（上席専門員）

古墳時代以降の土器 神谷佳明（上席専門員）

保存処理 関邦一（補佐）

9. 金属類の同定は赤沼英男氏(岩手県立博物館)に依頼した。
10. 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県教育委員会事務局文化財保護課、前橋市教育委員会事務局管理部文化財保護課のご指導とご助言を得た。
11. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 本文中に使用した方位は、総て国家座標(国家座標第IX系)の北を用いた。調査区はX=46215～46450、Y=-64075～-64515の範囲に収まり、真北との偏差は、遺跡南東隅部で0度25分27.39秒である。
2. 遺構平面図や遺構断面図に示した数値は標高であり、単位はメートルである。
3. 遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物写真の縮率は原則1/3とし、それ以外のものは明記した。
4. 遺物番号は出土遺構ごとの通し番号とし、器種・分類順に記載した。番号は遺構図、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真図版とも一致している。
5. 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。

遺構平面図



遺物図



6. 遺構の主軸方位・走向は、長軸方向で北から東西90°以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合N-°-Eとした。遺構の面積は、上端を計測した。計測はプランメーターで3回行いその平均値を採用した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し()で表した。推定で全体がわかるものについては()で表した。
7. 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。
 - ・計測値の()は現存値を示す。
 - ・土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1988年版』に基づいている。
 - ・胎土表記中の細砂・粗砂・礫は、径2mm以上を礫、径2～0.2mmを粗砂、径0.2mm以下を細砂とした。
 - ・成・整形の特徴の項目にあるハケ目(本数)は1センチ当たりである。
 - ・金属器類観察表の計測値に()がついているものは残存部分での値である。

8. 本書で使用した石器・石製品の図版上での表現は以下の通りである。

- ・石斧刃部側の摩耗痕については縦位定規線で、着柄部と想定される部分の摩耗痕については横位定規線で図示した。

- ・磨石等礫石器類に用いた縦位・横位定規線は摩耗範囲を示す。

- ・その他の斜位定規線は線條痕の走行を示す。

- ・石皿については、使用部の摩耗および再生状態（再敲打）を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。

- ・台石については、打痕・摩耗痕を含む礫面の状態を表現するため、必要に応じて拓本を使用した。

9. 本書で使用した浅間山噴火による降下火砕物等の呼称については、以下のように表記する。

浅間A軽石：As-A 浅間B軽石：As-B 浅間C軽石：As-C

10. 遺構の土層断面図の太線は、生活面(使用面)を表している。

11. 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土交通省関東地方整備局高崎河川事務所 「一般国道17号(上武道路)の路線」(平成16年作成)

国土地理院 地形図1:25,000「前橋」(平成22年12月1日発行)

「大胡」(平成22年12月1日発行)

「渋川」(平成14年10月1日発行)

「鼻毛石」(平成8年11月1日発行)

前橋市 1:2,500前橋市現形図(平成21年)

目次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

写真図版目次

表目次

第1章 調査の経緯・経過と方法	1
第1節 上武道路の概要	1
第2節 調査に至る経緯	2
1. 上武道路8工区	2
2. 五代砂留遺跡群の調査に至る過程	2
第3節 調査の方法と経過	3
1. グリッドの設定	3
2. 調査区の設定	5
3. 遺跡番号	5
4. 調査経過	5
5. 調査日誌抄録	5
6. 整理作業の経過及び遺跡名称改訂	6
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	10
第1節 遺跡の立地	10
第2節 遺跡周辺の歴史環境	13
1. 縄文時代	13
2. 弥生時代	13
3. 古墳時代	13
4. 奈良・平安時代	14
5. 中世	15
第3章 調査	21
第1節 調査の概要	21
第2節 竪穴住居	28
第3節 掘立柱建物跡	108
第4節 溝・道路状遺構	111
第5節 竪穴状遺構	120
第6節 鍛冶遺構	124
第7節 土坑	129
第8節 水田・谷地	157

第9節 縄文包含層	159
1. 土器	159
2. 石器	166
第10節 遺構外出土遺物	173
第4章 自然科学分析	176
第1節 五代砂留遺跡群出土鉄関連資料の考古学的検討	
1. 分析に至る経緯	176
2. 出土鉄関連資料の金属考古学的調査結果	176
3. 調査資料	176
4. 調査試料の摘出	177
5. 調査方法	177
6. 調査結果	177
7. 考察	179
8. まとめ	183
第5章 調査成果のまとめ	198
第1節 十字鎬造銅鏃について	198
第2節 縄文時代遺構について	200
第3節 古墳時代の遺構について	201
第4節 平安時代の遺構について	202
第5節 地域の中での歴史的評価	203
第6節 課題	204

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

付図1 五代砂留遺跡群遺構全体図

挿 図 目 次

第1図	一般国道17号(上武道路)の路線(国土交通省関東地方整備局高崎河川事務所2004作成「一般国道17号上武道路」より)……………	1	第56図	13号住居……………	65
第2図	上武道路8工区の遺跡 (25,000分の1地形図「前橋」「渋川」使用)……………	2	第57図	13号住居出土遺物(1)……………	66
第3図	五代砂留遺跡群調査区周辺図 (前橋市役所発行2,500分の1前橋市現形図使用)……………	4	第58図	13号住居出土遺物(2)……………	67
第4図	大中グリッド図(国土地理院2万5千分の1地形図「前橋」「渋川」「大胡」「鼻毛石」使用)……………	7	第59図	14号住居……………	68
第5図	中小グリッド図……………	8	第60図	14号住居出土遺物……………	69
第6図	用地区画及び調査区図……………	9	第61図	15号住居(1)……………	70
第7図	遺跡周辺地形図……………	10	第62図	15号住居(2)……………	71
第8図	周辺地形分類図 (群馬県『群馬県史通史編1』付図2を改変使用)……………	11	第63図	15号住居(3)……………	72
第9図	周辺遺跡位置図(国土地理院発行地形図「前橋」「大胡」使用 1/25,000)……………	16	第64図	15号住居(4)……………	73
第10図	基本土層図……………	20	第65図	15号住居(5)……………	74
第11図	22区遺構全体図……………	22	第66図	15号住居出土遺物(1)……………	75
第12図	32区遺構全体図……………	23・24	第67図	15号住居出土遺物(2)……………	76
第13図	33区遺構全体図……………	25	第68図	16号住居……………	77
第14図	34区遺構全体図……………	26	第69図	16号住居出土遺物……………	78
第15図	45区遺構全体図……………	27	第70図	17号住居……………	80
第16図	1号住居(1)……………	28	第71図	17号住居出土遺物……………	80
第17図	1号住居(2)……………	29	第72図	18号住居(1)……………	81
第18図	1号住居出土遺物……………	30	第73図	18号住居(2)……………	82
第19図	2号住居(1)……………	31	第74図	18号住居出土遺物(1)……………	83
第20図	2号住居(2)……………	32	第75図	18号住居出土遺物(2)……………	84
第21図	2号住居出土遺物(1)……………	33	第76図	19号住居(1)……………	85
第22図	2号住居出土遺物(2)……………	34	第77図	19号住居(2)……………	86
第23図	3号住居(1)……………	35	第78図	19号住居出土遺物……………	86
第24図	3号住居(2)……………	36	第79図	20号住居(1)……………	87
第25図	3号住居出土遺物(1)……………	36	第80図	20号住居(2)……………	88
第26図	3号住居出土遺物(2)……………	37	第81図	20号住居(3)……………	89
第27図	4号住居(1)……………	38	第82図	20号住居出土遺物(1)……………	90
第28図	4号住居(2)……………	39	第83図	20号住居出土遺物(2)……………	91
第29図	4号住居出土遺物(1)……………	40	第84図	21号住居(1)……………	92
第30図	4号住居出土遺物(2)……………	41	第85図	21号住居(2)……………	93
第31図	4号住居出土遺物(3)……………	42	第86図	21号住居(3)……………	94
第32図	5号住居……………	43	第87図	21号住居出土遺物(1)……………	94
第33図	5号住居出土遺物(1)……………	44	第88図	21号住居出土遺物(2)……………	95
第34図	5号住居出土遺物(2)……………	45	第89図	21号住居出土遺物(3)……………	96
第35図	5号住居出土遺物(3)……………	46	第90図	22号住居……………	97
第36図	6号住居……………	47	第91図	23号住居……………	98
第37図	6号住居出土遺物……………	48	第92図	24号住居……………	98
第38図	7号住居(1)……………	49	第93図	25号住居……………	99
第39図	7号住居(2)……………	50	第94図	25号住居出土遺物……………	100
第40図	7号住居出土遺物(1)……………	50	第95図	26号住居(1)……………	101
第41図	7号住居出土遺物(2)……………	51	第96図	26号住居(2)……………	102
第42図	8号住居……………	52	第97図	26号住居出土遺物(1)……………	103
第43図	8号住居出土遺物……………	53	第98図	26号住居出土遺物(2)……………	104
第44図	9号住居(1)……………	54	第99図	27号住居(1)……………	105
第45図	9号住居(2)……………	55	第100図	27号住居(2)……………	106
第46図	9号住居出土遺物……………	55	第101図	27号住居出土遺物……………	107
第47図	10号住居(1)……………	57	第102図	1号掘立柱建物……………	109
第48図	10号住居(2)……………	58	第103図	2号掘立柱建物……………	110
第49図	10号住居出土遺物(1)……………	59	第104図	1～4号溝(1)……………	112
第50図	10号住居出土遺物(2)……………	60	第105図	1～4号溝(2)……………	113
第51図	11号住居……………	61	第106図	5号溝……………	114
第52図	11号住居出土遺物……………	62	第107図	7号溝……………	115
第53図	12号住居(1)……………	63	第108図	8号溝(1)……………	115
第54図	12号住居(2)……………	64	第109図	8号溝(2)……………	116
第55図	12号住居出土遺物……………	64	第110図	1・4・5・7号溝出土遺物……………	117
			第111図	9号溝……………	118
			第112図	3号道……………	119
			第113図	1号竪穴状遺構……………	121
			第114図	2・3・4号竪穴状遺構……………	121
			第115図	6・7号竪穴状遺構……………	122
			第116図	5号竪穴状遺構……………	123

第117図	8号竪穴状遺構	123	第138図	縄文時代包含層出土石器(4)	171
第118図	鍛冶遺構	125	第139図	縄文時代包含層出土石器(5)	172
第119図	鍛冶遺構出土遺物(1)	126	第140図	遺構外出土遺物(1)	174
第120図	鍛冶遺構出土遺物(2)	127	第141図	遺構外出土遺物(2)	175
第121図	鍛冶遺構出土遺物(3)	128	第142図	No.1 およびNo.2から抽出した試料の組織観察結果	187
第122図	土坑(1)	131	第143図	No.3 およびNo.4から抽出した試料の組織観察結果	188
第123図	土坑(2)	132	第144図	No.7から抽出した試料の組織観察結果	189
第124図	土坑(3)	133	第145図	No.5から抽出した試料の組織観察結果	190
第125図	土坑出土遺物(1)	133	第146図	No.6・8・9から抽出した試料の組織観察結果	191
第126図	土坑出土遺物(2)	134	第147図	No.10およびNo.14から抽出した試料の組織観察結果	192
第127図	水田	157	第148図	No.13から抽出した試料の組織観察結果	193
第128図	谷地	158	第149図	No.11・12・15から抽出した試料の組織観察結果	194
第129図	縄文時代包含層出土石器(1)	160	第150図	分析した鉄器・鉄塊・鍛造剥片に含有されるNi・Co・Cuの 三成分比と相関	195
第130図	縄文時代包含層出土石器(2)	161	第151図	五代砂留遺跡群出土鉄器・鉄塊・鍛造剥片および富田漆田・ 富田下大日両遺跡出土鉄器・鉄片に含有されるNi・Co・Cuの 三成分比	196
第131図	縄文時代包含層出土石器(3)	162	第152図	151図領域Cに分布する鉄器に含有される Ni・Co・Cuの相関	197
第132図	縄文時代包含層出土石器(4)	163	第153図	群馬県出土十字鏝	199
第133図	縄文時代包含層出土石器(5)	164			
第134図	縄文時代包含層出土石器(6)	165			
第135図	縄文時代包含層出土石器(1)	168			
第136図	縄文時代包含層出土石器(2)	169			
第137図	縄文時代包含層出土石器(3)	170			

写真図版目次

口絵	遺跡遠景(南方から)		PL.11	1	7号住居全景(西から)
	遺跡近景(東方から)			2	7号住居カマド全景(西から)
PL. 1	赤城山南麓地形(南方から)			3	7号住居掘方全景(西から)
	遺跡全景(北方から)			4	7号住居カマド全景(西から)
PL. 2	遺跡全景(南方から)			5	7号住居カマド掘方全景(西から)
	22区全景(西から)		PL.12	1	8号住居遺物出土状況(西から)
PL. 3	32区全景(南から)			2	8号住居カマド全景(西から)
	33区全景(南から)			3	8号住居掘方全景(西から)
PL. 4	34区全景(西から)			4	8号住居全景(西から)
	45区全景(北から)			5	8号住居調査状況
PL. 5	1	1号住居全景(北西から)	PL.13	1	9号住居遺物出土状況(西から)
	2	1号住居カマド全景(北西から)		2	9号住居カマド全景(西から)
	3	1号住居カマド掘方全景(北西から)		3	9号住居掘方全景(西から)
	4	1号住居遺物出土状況(北西から)		4	9号住居カマド遺物出土状況(西から)
	5	1号住居調査状況		5	8号住居・9号住居全景(西から)
PL. 6	1	2号住居遺物出土状況(西から)	PL.14	1	10号住居全景(西から)
	2	2号住居全景(西から)		2	10号住居カマド全景(南西から)
	3	2号住居カマド遺物出土状況(西から)		3	10号住居掘方全景(西から)
	4	2号住居カマド全景(西から)		4	10号住居カマド石組状況(西から)
	5	2号住居掘方全景(西から)		5	10号住居カマド掘方全景(西から)
PL. 7	1	3号住居全景(西から)	PL.15	1	11号住居全景(西から)
	2	3号住居遺物出土状況(西から)		2	11号住居遺物出土状況(北から)
	3	3号住居カマド遺物出土状況(西から)		3	11号住居カマド全景(西から)
	4	3号住居カマド全景(西から)		4	11号住居掘方全景(西から)
	5	3号住居掘方全景(西から)		5	11号住居カマド掘方全景(西から)
PL. 8	1	4号住居全景(西から)	PL.16	1	12号住居全景(西から)
	2	4号住居遺物出土状況(西から)		2	12号住居カマド遺物出土状況(西から)
	3	4号住居カマド全景(西から)		3	12号住居カマド全景(西から)
	4	4号住居掘方全景(西から)		4	12号住居カマド掘方全景(西から)
	5	4号住居カマド掘方全景(西から)		5	12号住居調査状況
PL. 9	1	5号住居全景(西から)	PL.17	1	13号住居全景(西から)
	2	5号住居遺物出土状況(西から)		2	13号住居遺物出土状況(北西から)
	3	5号住居カマド遺物出土状況(西から)		3	13号住居カマド全景(西から)
	4	5号住居掘方全景(西から)		4	13号住居掘方全景(西から)
	5	5号住居カマド掘方全景(西から)		5	13号住居カマド掘方全景(西から)
PL.10	1	6号住居全景(西から)	PL.18	1	14号住居全景(西から)
	2	6号住居カマド全景(西から)		2	14号住居掘方全景(西から)
	3	6号住居掘方全景(西から)		3	14号住居カマド全景(西から)
	4	6号住居カマド掘方全景(西から)		4	14号住居カマド掘方全景(西から)
	5	6号住居遺物出土状況(西から)		5	14号住居調査状況(南東から)

PL.19	1	15号住居全景(南西から)	PL.29	1	4号溝全景(北から)
	2	15号住居遺物出土状況(南西から)		2	8号溝全景その1(南西から)
	3	15号住居炭化物出土状況		3	8号溝全景その2(南東から)
	4	15号住居5号ピット全景		4	9号溝全景(北から)
	5	15号住居掘方全景(南西から)	PL.30	1	7号溝全景(北東から)
PL.20	1	16号住居全景(南西から)		2	3号道全景(北から)
	2	16号住居掘方全景(南西から)	PL.31	1	鍛冶遺構出土状況(北東から)
	3	16号住居埋裏炉(西から)		2	鍛冶遺構全景(北東から)
	4	16号住居遺物出土状況その1		3	鍛冶遺構遺物出土状況(南東から)
	5	16号住居遺物出土状況その2		4	1号竪穴状遺構全景(南から)
PL.21	1	18号住居全景(南西から)		5	17号土坑全景(北から)
	2	18号住居炉跡全景(北西から)	PL.32	1	1129号土坑全景(北から)
	3	18号住居掘方全景(南西から)		2	1196号土坑全景(北から)
	4	18号住居遺物出土状況(南西から)		3	1199号土坑全景(北から)
	5	18号住居掘方遺物出土状況		4	1225号土坑全景(南から)
PL.22	1	20号住居全景(南西から)		5	1226号土坑全景(南から)
	2	20号住居炉跡全景		6	1227号土坑全景(北東から)
	3	20号住居掘方全景(南西から)		7	1260号土坑全景(北から)
	4	20号住居5号ピット全景(北東から)		8	1369号土坑全景(北から)
	5	20号住居6号ピット全景(北東から)	PL.33	1	1373号土坑全景(北から)
PL.23	1	21号住居全景(南西から)		2	1373号土坑深鉢出土状況(北西から)
	2	21号住居遺物出土状況		3	1370号土坑全景(北から)
	3	21号住居焼土全景(南西から)		4	1371号土坑全景(北から)
	4	21号住居焼土断面C-C(南西から)		5	1379号土坑全景(北から)
	5	21号住居焼土断面E-E(南西から)	PL.34	1	As-B混入土を含む水田全景(北から)
PL.24	1	25号住居全景(南から)		2	谷地全景(北東から)
	2	25号住居炉断面(南から)	PL.35		1号住居・2号住居出土遺物
	3	25号住居掘方全景(西から)	PL.36		3号住居・4号住居出土遺物
	4	25号住居炉全景(南から)	PL.37		4号住居出土遺物
	5	25号住居遺物出土状況(西から)	PL.38		4号住居・5号住居出土遺物
PL.25	1	27号住居全景(北西から)	PL.39		5号住居出土遺物
	2	27号住居カマド全景(北西から)	PL.40		6～8号住居出土遺物
	3	27号住居掘方全景(北西から)	PL.41		9号住居・10号住居出土遺物
	4	27号住居カマド掘方全景(北西から)	PL.42		10号住居・11号住居出土遺物
	5	27号住居遺物出土状況(北から)	PL.43		12号住居・13号住居出土遺物
PL.26	1	17号住居全景(北東から)	PL.44		14～16号住居出土遺物
	2	17号住居掘方全景(北東から)	PL.45		16～20号住居出土遺物
	3	19号住居全景(北東から)	PL.46		20号住居・21号住居出土遺物
	4	19号住居炉断面(北東から)	PL.47		21号住居出土遺物
	5	19号住居掘方全景(北東から)	PL.48		25号住居・26号住居出土遺物
	6	22号住居全景(北東から)	PL.49		26号住居・27号住居・溝・鍛冶遺構出土遺物
	7	22号住居炉全景(東から)	PL.50		鍛冶遺構・土坑出土遺物
	8	23号住居全景(南から)	PL.51		土坑出土遺物・縄文包含層出土土器
PL.27	1	1号・2号掘立柱建物全景(東から)	PL.52		縄文包含層出土土器
	2	24号住居炉全景(北東から)	PL.53		縄文包含層出土土器
	3	26号住居全景(南西から)	PL.54		縄文包含層出土土器
	4	26号住居掘方全景(南西から)	PL.55		縄文包含層出土土器
	5	26号住居遺物出土状況(南西から)	PL.56		縄文包含層出土土器
PL.28	1	1～4号溝全景(西から)	PL.57		縄文包含層出土土器
	2	1号溝全景(南東から)	PL.58		縄文包含層出土土器・遺構外出土遺物
	3	5号溝掘方全景(北から)	PL.59		遺構外出土遺物

表 目 次

第1表	上武道路8工区遺跡一覧	3	第12表	調査区別縄文包含層出土石材	167
第2表	遺構名称相対表	6	第13表	調査区別遺構外出土土師器	173
第3表	主な周辺遺跡	17	第14表	調査区別遺構外出土須恵器・灰釉陶器	173
第4表	4号住居ピット計測値一覧	37	第15表	出土鉄関連資料の概要	185
第5表	4号住居ピット間距離一覧	39	第16表	鉄器の分析結果	185
第6表	1号掘立柱建物跡ピット計測値一覧	108	第17表	鉄塊の分析結果	185
第7表	1号掘立柱建物跡柱間距離一覧	108	第18表	調査資料に見出された鉱物相のE PMAによる分析結果	186
第8表	鍛冶遺構計測値一覧	124	第19表	剥片状資料の分析結果	186
第9表	土坑一覧	135	第20表	鉄塊の分析結果	186
第10表	調査区別縄文包含層出土土器	159	第21表	五代砂留遺跡群遺物観察表	205
第11表	縄文包含層出土土器・石材	167	第22表	15号住居出土炭化物	227

第1章 調査の経緯・経過と方法

第1節 上武道路の概要

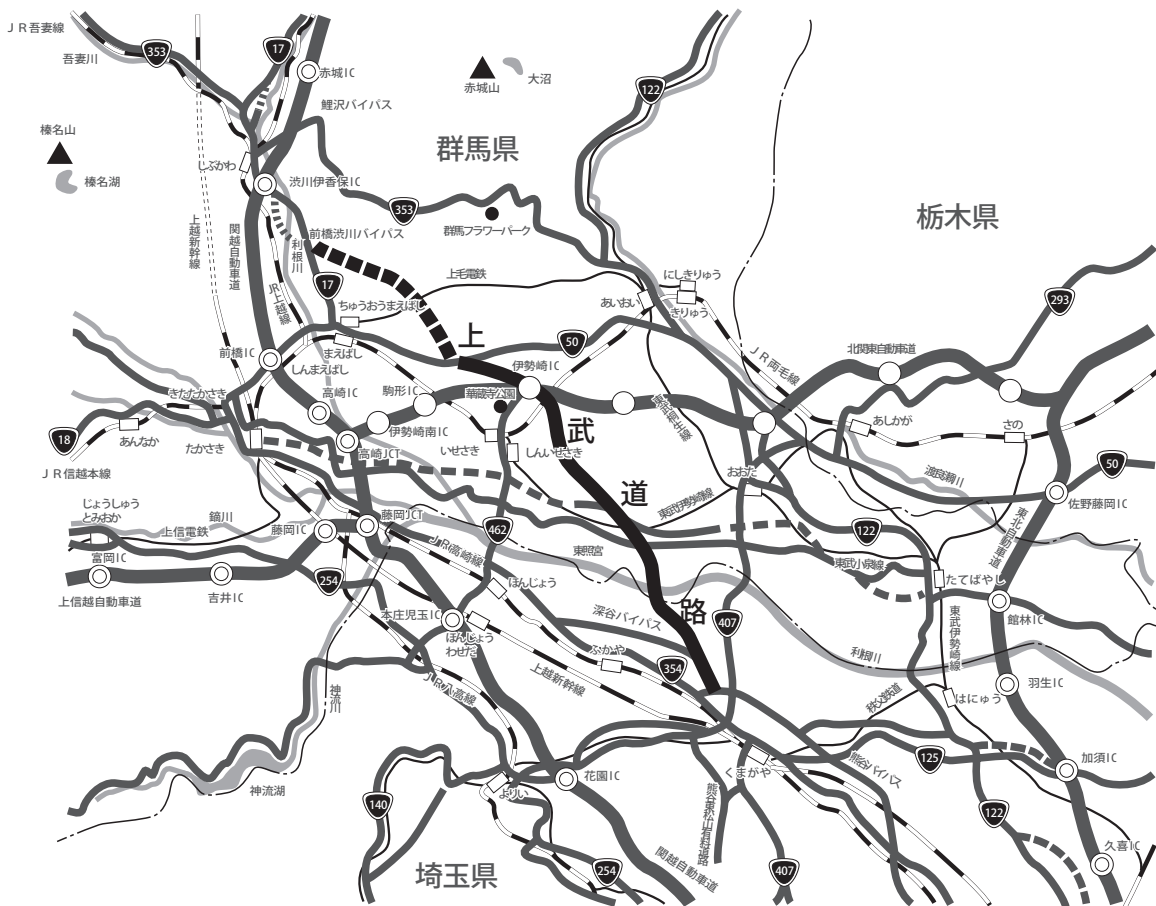
上武道路は、一般国道17号の混雑解消を図るために計画された大規模バイパスである。埼玉県熊谷市の深谷バイパス上武インターチェンジを基点として、群馬県前橋市田口町の現道に接続する延長40.5kmの道路である。平成10年には、前橋渋川バイパスを含め、概略延長70kmの地域高規格道路『熊谷渋川連絡道路』として計画路線の指定を受けている。地域高規格道路は、高規格幹線道路(高速道路)と連携して、地域間連携による「地域集積圏」の形成、集積圏相互の交流、交通拠点との連携を図るものであり、完成が待ち望まれている。

事業は昭和45年度に、国道50号以南の27.4kmがⅠ期工事として事業化され、昭和50年度着工、平成元年度に開

通している。Ⅰ期工事に先立ち昭和48年度から昭和63年度にかけて、群馬県教育委員会及び財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が行われた。調査された遺跡は35遺跡、延べ面積534,000m²に及んだ。

国道50号以北の上武道路については平成元年度にⅡ期工事として事業化された。Ⅱ期工事は国道50号(前橋市今井町)から前橋市上泉町までの4.9km区間であり、7工区と呼ばれる部分である。平成11年より工事が開始され、前橋市富田町までの2.0km区間が平成17年3月に、主要地方道前橋大間々桐生線までの2.9kmが平成20年6月に暫定2車線で供用されている。

7工区の発掘調査は、建設省関東地方建設局、県教育委員会文化財保護課との間で協議が行われ、平成11年4月1日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋



第1図 一般国道17号(上武道路)の路線(国土交通省関東地方整備局高崎河川事務所2004作成「一般国道17号上武道路」より)

第1章 調査の経過と方法

蔵文化財発掘調査(その1)の実施に関わる協定書」が、建設省関東地方建設局、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者によって締結された。

この協定は前橋市堤町までをその範囲としていたため、平成14年4月1日付で「一般国道(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2)の実施に関する協定書」として締結し、さらに平成16年11月10日に変更契約を行い、主要地方道前橋大間々桐生線までの間に範囲を延長して、発掘調査が継続して実施された。

7工区の発掘調査は、17遺跡(7の1で12遺跡(萱野Ⅱ含む))を調査した。

8工区については、平成13年度に事業が着手され、平成24年度までに前橋市芳賀地区までの開通が予定されている。上武道路全線についても平成29年度の開通を目指している。

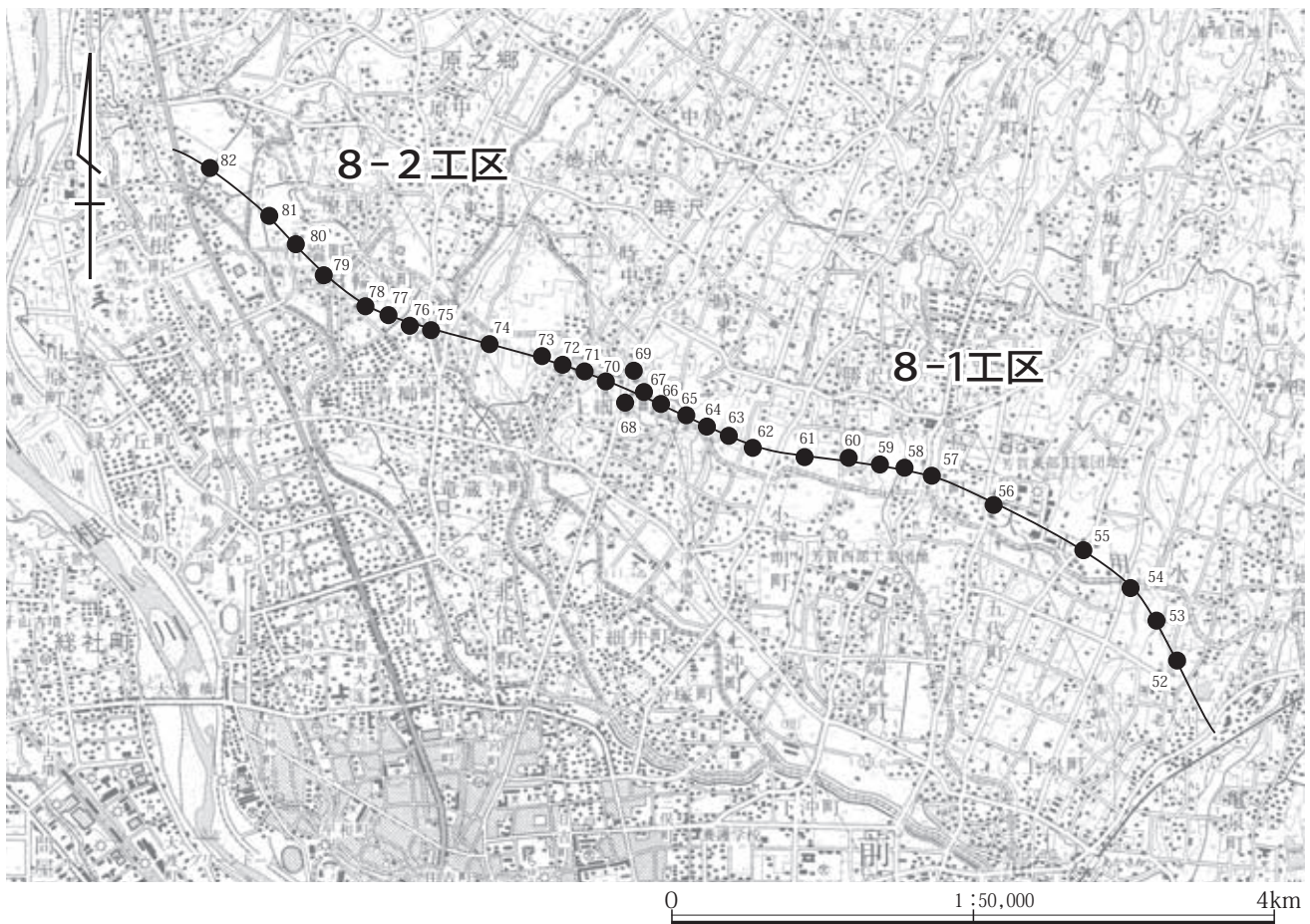
第2節 調査に至る経緯

1 上武道路8工区

主要地方道前橋大間々桐生線以西の前橋市上泉町から田口町に至る8工区については、平成18年2月16日に国土交通省、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者によって「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」が締結され、同年6月20日に協定変更を経て、発掘調査が行われることとなった。調査対象地は31遺跡(第2図)で、東端にあたる。前橋市上泉町の上泉唐ノ堀遺跡及び上泉新田塚遺跡群から発掘調査を開始した。(第1図、第2図、遺跡名称は平成18年契約時のもの)平成23年度の現在、なお発掘調査が継続中である。

2 五代砂留遺跡群の調査に至る過程

五代砂留遺跡群の発掘調査は、「一般国道17号(上武国



第2図 上武道路8工区の遺跡(25,000分の1地形図「前橋」「渋川」使用)

道)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)事業」として、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって行われた。

平成18年6月20日に変更協定が締結された「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」に基づき、平成18年12月5日～7日には、群馬県教育委員会により10,000m²を対象とした試掘調査が行われた。調査の方法は、前橋市上泉町・五代町の事業予定地内において、幅1mの試掘溝を設定し、重機を使用して遺構確認面まで掘削、遺構検出面の認定、遺構有無の確認、遺物出土の確認が行われた。

五代砂留遺跡群内では、5本の試掘溝を設定。奈良・平安時代に属する住居・土坑・溝などを検出。ローム台地上に立地する古代の集落が確認された。この結果を受け、発掘調査実施調査に向けた調整により群馬県教育委員会から、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に対し、

「五代砂留遺跡群」の発掘調査の依頼が行われた。これにより国土交通省と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で平成19年度の発掘調査の契約が締結され、平成19年5月1日調査開始にむけた発掘届等の事務処理が進められることとなった。

第3節 調査の方法と経過

1 グリッドの設定

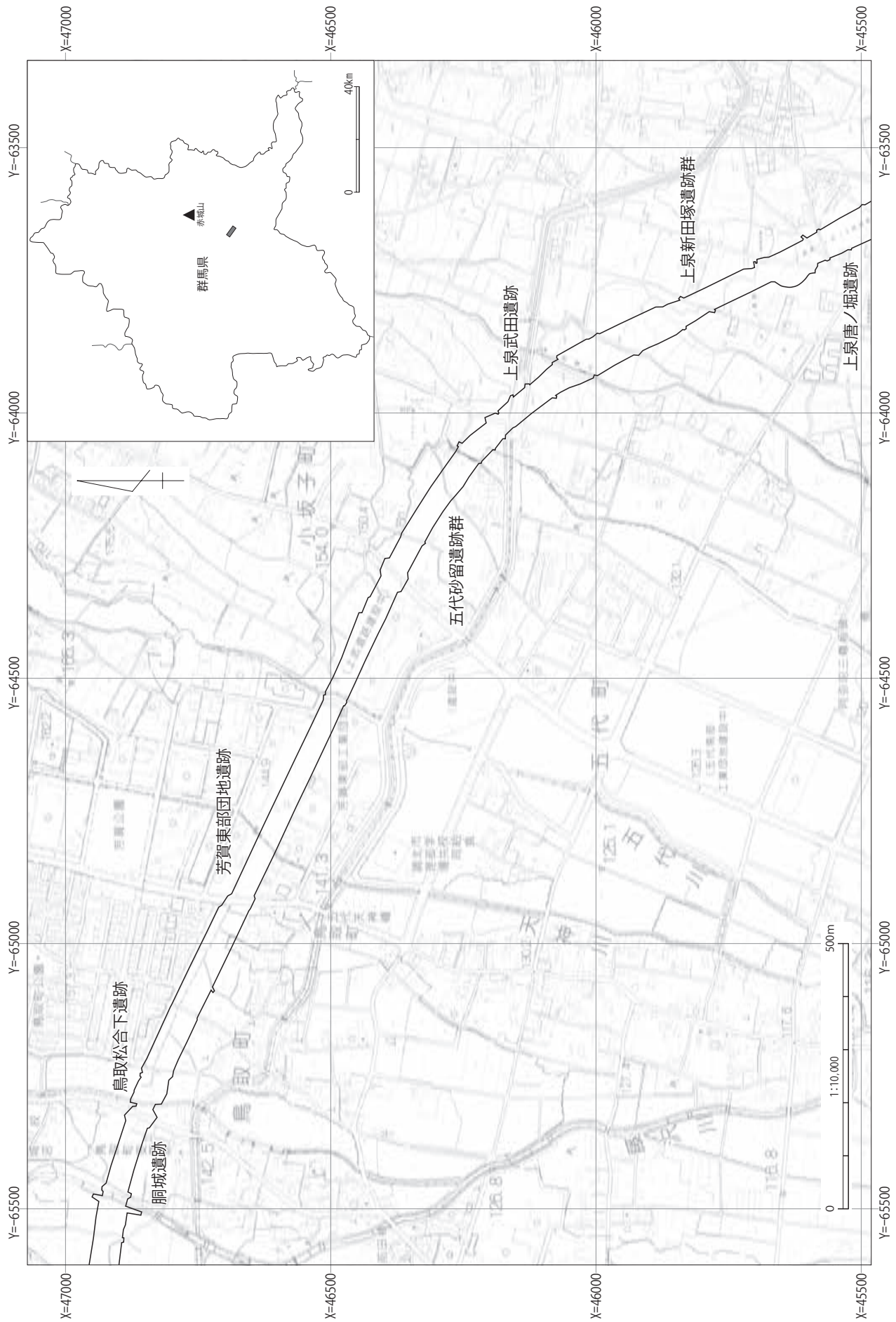
グリッドの設定は、国家座標第IX系(世界測地系)を用いた。X=45.000、Y=-63.000を基準に設定した。これは上武道路8工区調査遺跡の統一仕様である。1km四方を大グリッドとし、地区と呼称した。8工区では、東から順に第9地区までを設定した。

地区の中の100m四方を中グリッドとし、区と呼称した。地区の南東隅を基点として、東から西へ番号を付けた。南東隅から西へ1区から10区と振り、1区の北隣か

第1表 上武道路8工区遺跡一覧(平成18年協定締結時)

遺跡略号	遺跡名	所在地	調査年度
JK52b	上泉唐ノ堀(かみいずみからのぼり)遺跡	前橋市上泉町	平成18～20年度
JK53	上泉新田塚(かみいずみにったづか)遺跡群	前橋市上泉町	平成18～20年度
JK54	上泉武田(かみいずみたけだ)遺跡	前橋市上泉町	平成19年度
JK55	五代砂留(ごだいすなどめ)遺跡	前橋市五代町	平成19～20年度
JK56	芳賀東部工業団地(はがとうぶこうぎょうだんち)遺跡	前橋市五代町・鳥取町	平成18～20年度
JK57	鳥取松合下(とっとりまつあいた)遺跡	前橋市鳥取町	平成20年度
JK58	胴城(どうじょう)遺跡	前橋市鳥取町	平成19・20年度
JK59	鳥取塚田(とっとりつかだ)遺跡	前橋市鳥取町・勝沢町	
JK60	堤(つつみ)遺跡	前橋市勝沢町	平成20年度
JK61	小神明勝沢境(こじんめいかつさわさかい)遺跡	前橋市小神明町	平成20年度
JK62	小神明富士塚(こじんめいふじづか)遺跡群	前橋市小神明町・上細井町	平成20年度
JK63	東田之口(ひがしたのくち)遺跡	前橋市上細井町	平成20年度
JK64	丑子(うしご)遺跡	前橋市上細井町	平成20年度
JK65	上細井五十嵐(かみほそいいがらし)遺跡	前橋市上細井町	平成20・21年度
JK66	天王(てんのう)遺跡	前橋市上細井町	平成20・21年度
JK67	東紺屋谷戸(ひがしこんやがいと)遺跡	前橋市富士見町時沢	平成20・21年度
JK68	上町(かみちょう)遺跡	前橋市上細井町	平成21年度
JK69	西紺屋谷戸(にしこんやがいと)遺跡	前橋市富士見町時沢	平成21年度
JK70	王久保(おうくぼ)遺跡	前橋市上細井町・富士見町時沢	平成21年度
JK71	上細井新田上(かみほそいしんでんかみ)遺跡	前橋市上細井町	
JK72	上細井中島(かみほそいなかじま)遺跡	前橋市上細井町	平成21年度
JK73	上細井蟬山(かみほそいせみやま)遺跡	前橋市上細井町	平成21年度
JK74	山王・柴(さんのう・しば)遺跡群	前橋市上細井町・青柳町	平成21・22年度
JK75	引切塚(ひきりづか)遺跡	前橋市青柳町	
JK76	青柳宿上(あおやぎどうえ)遺跡	前橋市青柳町	
JK77	日輪寺諏訪前(にちりんじすわまえ)遺跡	前橋市日輪寺町	
JK78	諏訪(すわ)遺跡	前橋市上細井町・青柳町	
JK79	川端根岸(かわばたねぎし)遺跡群	前橋市川端町	
JK80	川端山下(かわばたやました)遺跡	前橋市川端町	
JK81	川端細ヶ沢(かわばたこまがさわ)遺跡	前橋市川端町	
JK82	関根(せきね)遺跡群	前橋市関根町	平成23年度

第1章 調査の経過と方法



第3図 五代砂留遺跡群調査区周辺図(前橋市役所発行2,500分の1前橋市現形図(平成21年)使用)

ら西へ11区～20区というかたちで、最北列が91区～100区となり、合計100個の番号を付けた。

さらに、区の中の5m四方を小グリッドとして細分した。区の南東隅を基点として、X軸が南から1～20、Y軸が東から西へA～Tを付け、400個の小グリッドを設定した。

グリッド表記は45-K-12のように区番号-グリッド番号と表記した。地区の表記は、遺跡全体が3地区であることから、省略した。

2 調査区の設定

現道、調査除外地を境界として、5カ所の調査区に区分した。調査区名は中グリッドを利用し、東から22区、32区、33区、34区、45区とした。調査区内は、一筆ごとに国土交通省により東から69～117の用地番号が付けられている。用地区割りは第6図の通りである。調査は、用地取得の関係で、用地番号単位で調査を行った。また、取り上げ遺物のなかには、用地番号で一括して取り上げているものがある。遺物を取り上げた用地は、その番号を第6図に図示した。この図では、調査時に用地番号で遺物を取り上げた用地のみ図示した。

3 遺跡番号

上武道路調査では、遺跡ごとに「JK」の略称を使用している。Jは上武、Kは国道の略である。五代砂留遺跡群は「JK55」（第2図、第1表対応）である。

4 調査経過

調査は平成19年5月、用地番号97・98番の一部の表土掘削から開始した。調査区域の中央部分にあたる33区の北側である。調査事務所プレハブを設置する都合から、ここから調査を行った。同時に22区の中央部分の調査を行っている。6月に入り、33区北側の調査を終了し、現場事務所プレハブを設置し、調査拠点を構えた。用地95番の表土掘削を行い、33区南側の調査に着手した。8月には32区東寄り部分の調査にあたった。32区は用地取得の関係で、調査区を三分割して、調査を行った。9月には西側の調査を、10月には中央部分の調査を行った。12月からは遺跡の西部分34区・45区の調査に着手した。まず遺跡の西端、低地部である45区の調査を行った。45区

では縄文包含層の調査も行い、3月まで調査を継続した。34区は1月の末より調査を行った。2月に入り、22区の残り、遺跡の東端部の調査に着手し、平成19年度の調査は終了した。

5 調査日誌抄録

5月

1日 調査着手。33区北側表土掘削開始。

7日 遺構調査開始。掘削作業員による遺構掘削。

17日 22区中央部表土掘削開始。

18日 33区北側全景撮影。

21日 33区鍛冶関係土坑調査着手。

24日 33区北側旧石器時代調査着手。

31日 33区北側旧石器調査面を拡張、拡張1区と呼称する。

6月

4日 33区北側旧石器時代調査の一部を終了。拡張2区は調査継続。33区南側転石除去、表土掘削に向けて環境整備。

5日 33区南側表土掘削開始。

7日 3～9号住居及び1・2号掘立柱建物を確認。

13日 1、2号掘立柱建物調査開始。

24日 22区中央で旧石器時代調査開始。

26日 5号住居カマド調査、8号住居全景撮影、22区・33区をラジコンヘリコプターにより空中撮影。

27日 22区中央部埋戻し開始。

7月

17日 3～9号住居平面実測。

31日 谷地部全景撮影後、トレンチ調査。

8月

3日 32区東側表土掘削。33区南側縄文時代面掘削、調査。

10日 33区南側縄文時代面全景撮影。

20日 33区南側旧石器時代調査着手。

29日 32区東側縄文時代面掘削開始。

9月

6日 台風のため作業休止。

13日 32区東側旧石器時代調査、32区西側基礎撤去。

20日 32区西側表土掘削開始、33区南側埋戻し開始。

26日 32区5号溝、谷地調査。

第1章 調査の経過と方法

10月

- 1日 10～13号住居調査。
 - 4日 22・32・33区ラジコンヘリコプターにより空中撮影。
 - 17日 32区西側縄文時代面調査開始。
 - 22日 32区西側旧石器時代調査開始
- 11月
- 5日 32区旧石器時代調査、T-3グリッドB P(浅間板鼻褐色テフラ群)混土層上面から黒曜石剥片出土。調査部分拡張。

7日 32区旧石器時代調査、T-3グリッド周辺調査を拡大。

15日 32区旧石器時代調査終了。

12月

7日 45区表土掘削開始。

27日 年内調査終了。

1月

8日 調査再開、17～20号住居調査開始

9日 B混土水田全景撮影。

15日 15・16号住居確認、調査開始。

22日 34区表土掘削開始。

25日 34区表土掘削終了。

30日 34区土坑調査。

2月

1日 34区旧石器時代調査開始。

6日 34区・45区ラジコンヘリコプターにより空中撮影。

12日 34区E-1グリッドより剥片出土。

18日 45区IV層・V層土作業員により掘削、縄文包含層調査。

26日 22区東側表土掘削開始

29日 22区東側表土掘削終了、1号溝検出、調査開始。

3月

7日 45区縄文包含層調査終了、埋戻し着手。

12日 27号住居調査。

17日 22区東側旧石器時代調査。

25日 22区東側縄文時代調査全景撮影、平成19年度調査終了。

6 整理作業の経過及び遺跡名称改訂

五代砂留遺跡群の整理作業、及び報告書編集作業は平成22年10月1日から平成23年12月31日まで実施した。

平成22年度は収納されている出土遺物や記録類の確認作業から開始した。その後、デジタル遺構写真のリネーム作業、遺構図の修正作業、土器の分類・復元作業、及び写真撮影(縄文土器のみ実測作業を開始)、石器の分類作業などを行った。

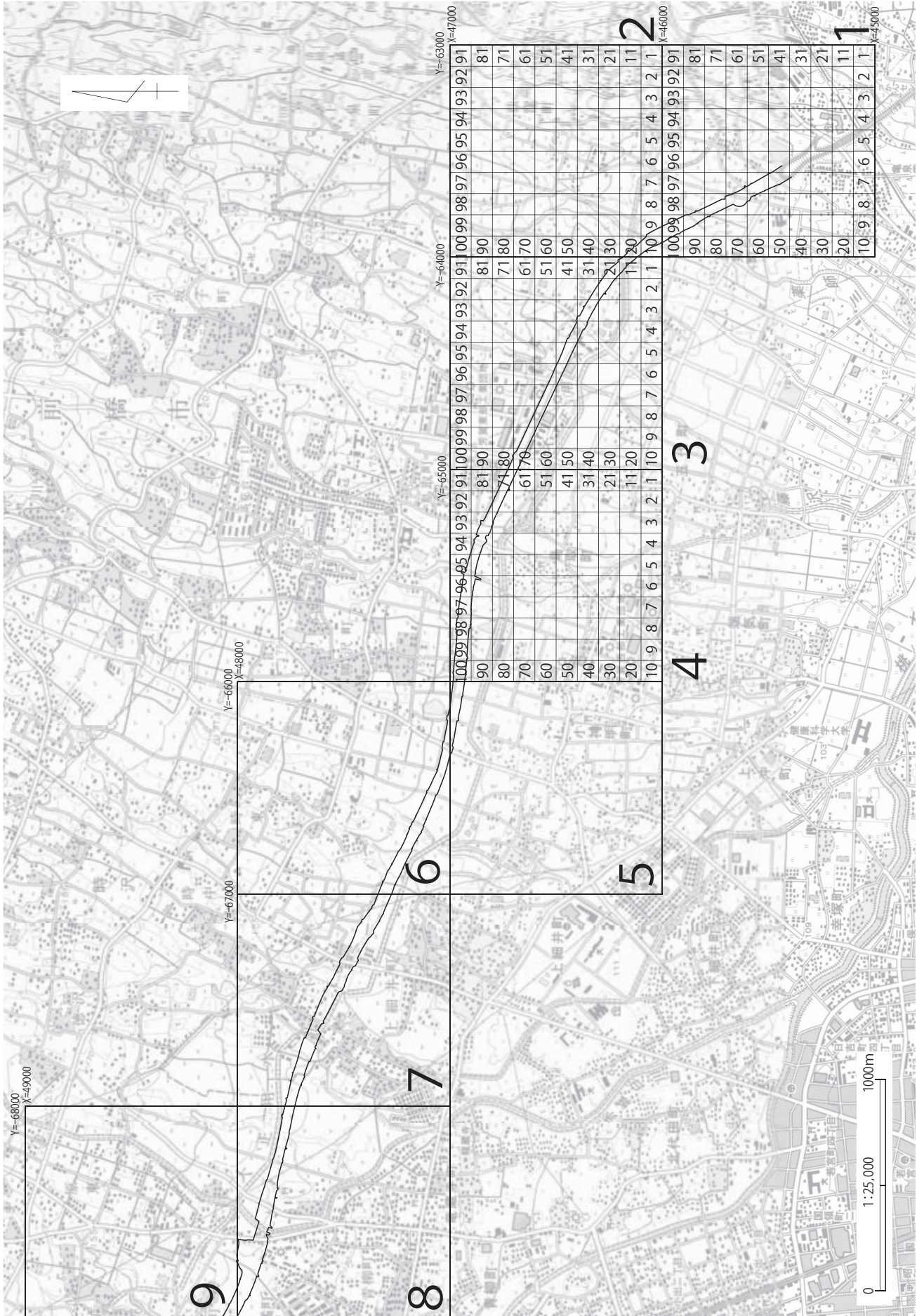
平成23年度は、報告書に掲載する遺構写真の選出し作業、土器・石器の実測・トレース作業、及び観察表の作成作業、遺構図のデジタルトレース作業を行い、原稿を執筆し、報告書作成のための組版作業をデジタルで行った。

整理作業の最後には、遺物管理台帳及び写真管理台帳を作成し、今後の活用にあたり遺物やその他資料の収納作業を行った。

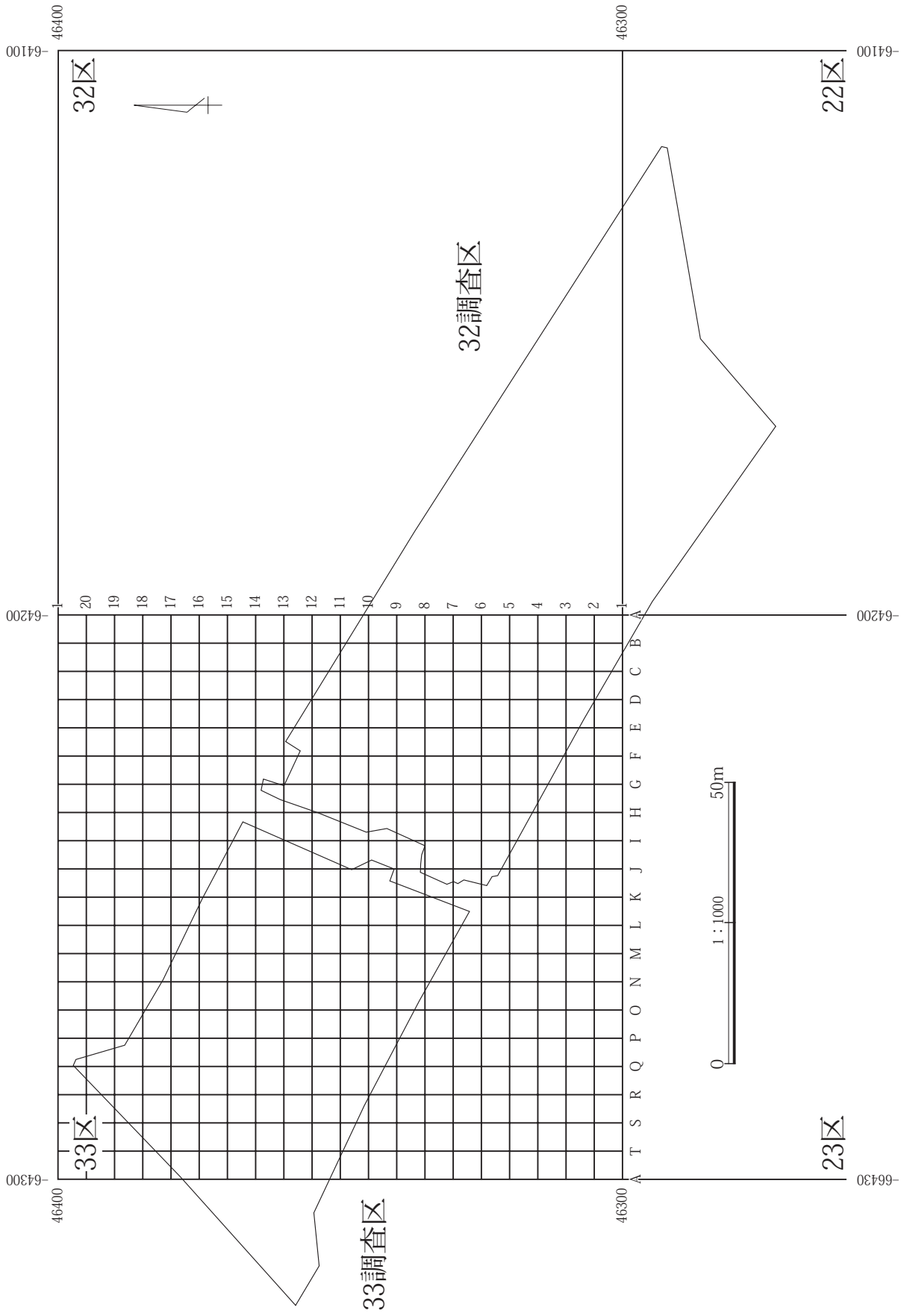
なお、整理の過程で、調査時の遺構名称について改訂が生じている。以下に一覧を示す。

第2表 遺構名称相対表

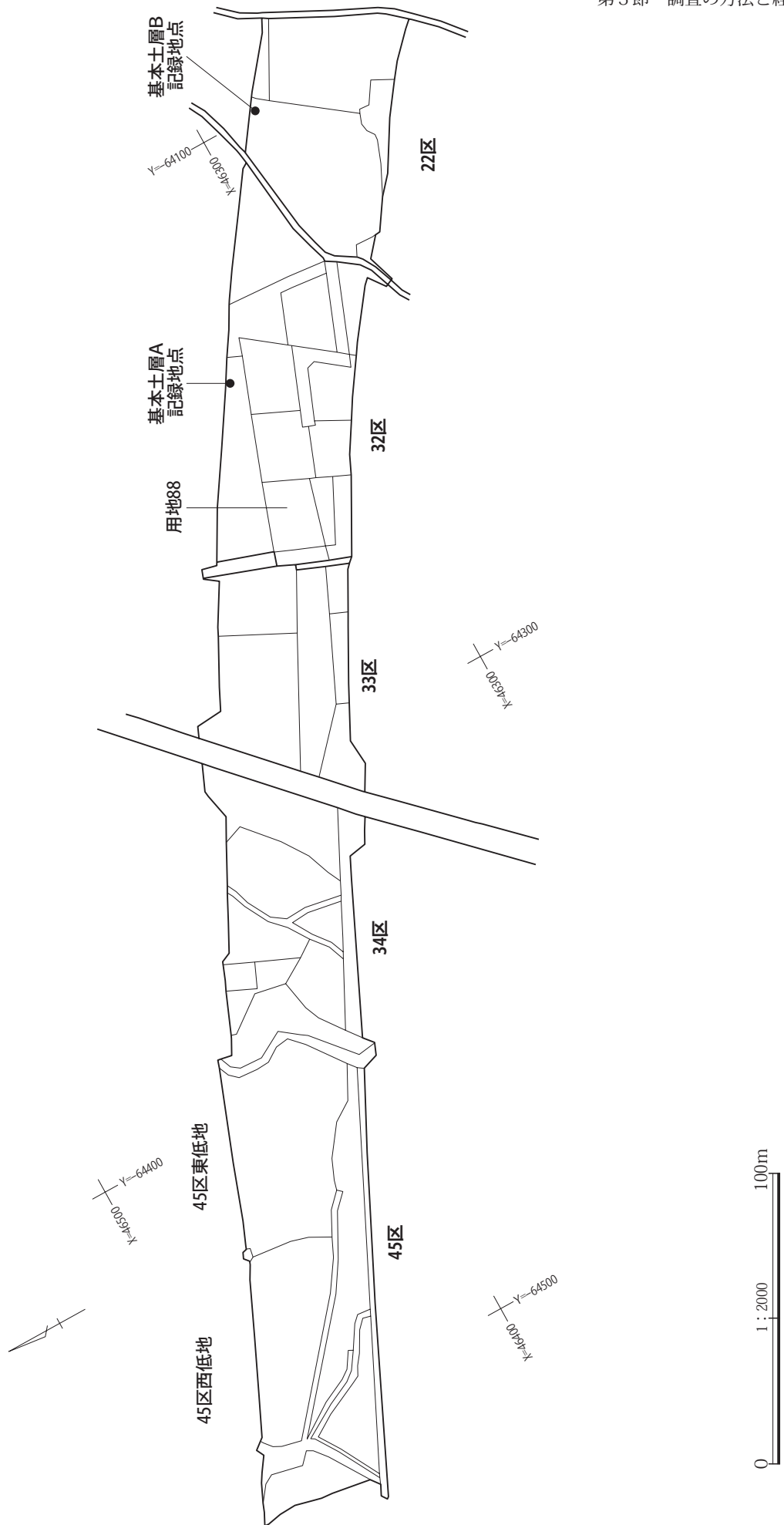
調査時の名称	本報告書での名称
11号住居1号ピット	11号住居貯蔵穴
11号住居2号ピット	11号住居1号ピット
13号住居1号ピット	13号住居貯蔵穴
28号住居	遺構認定除外、欠番
8号ピット	8号土坑
17号ピット	17号土坑
1196号ピット	1196号土坑
1225号ピット	1225号土坑
1227号ピット	1227号土坑
6号溝	欠番
284号土坑	鍛冶遺構
285号土坑	鍛冶遺構
286号土坑	鍛冶遺構
296号土坑	欠番
297号土坑	欠番
299号土坑	鍛冶遺構
300号土坑	鍛冶遺構
467号土坑	欠番



第4図 大中グリッド図(国土地理院2万5千分の1地形図「前橋」「渋川」「大胡」「鼻毛石」使用)



第5図 中小グリッド図



第6図 用地区画及び調査区図

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 遺跡の立地

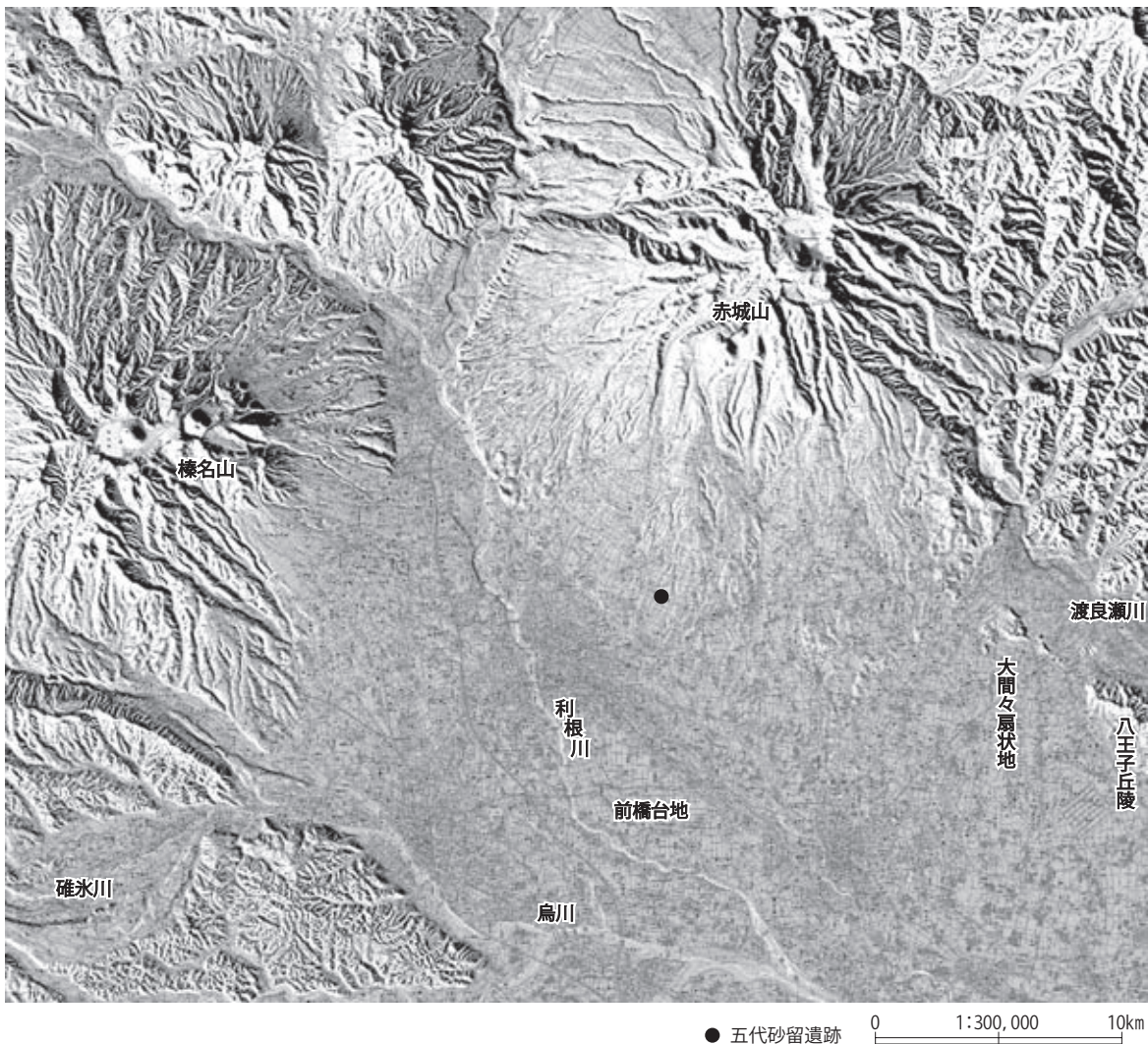
五代砂留遺跡群は、群馬県前橋市五代町1245-5番地他に所在する。五代町は前橋市の北東部に位置し、赤城南麓の丘陵地に立地する。標高は現地表面で33区北側が最も高く、約150m、低地部の45区南側で最も低く約142mである。

前橋市は群馬県の中央部に位置し、周囲を赤城山・榛名山に囲まれ、南に関東平野が広がっている。市内は地形、地質の特徴から「赤城南麓斜面」、「広瀬川低地帯」、「前橋台地」に分けられている。

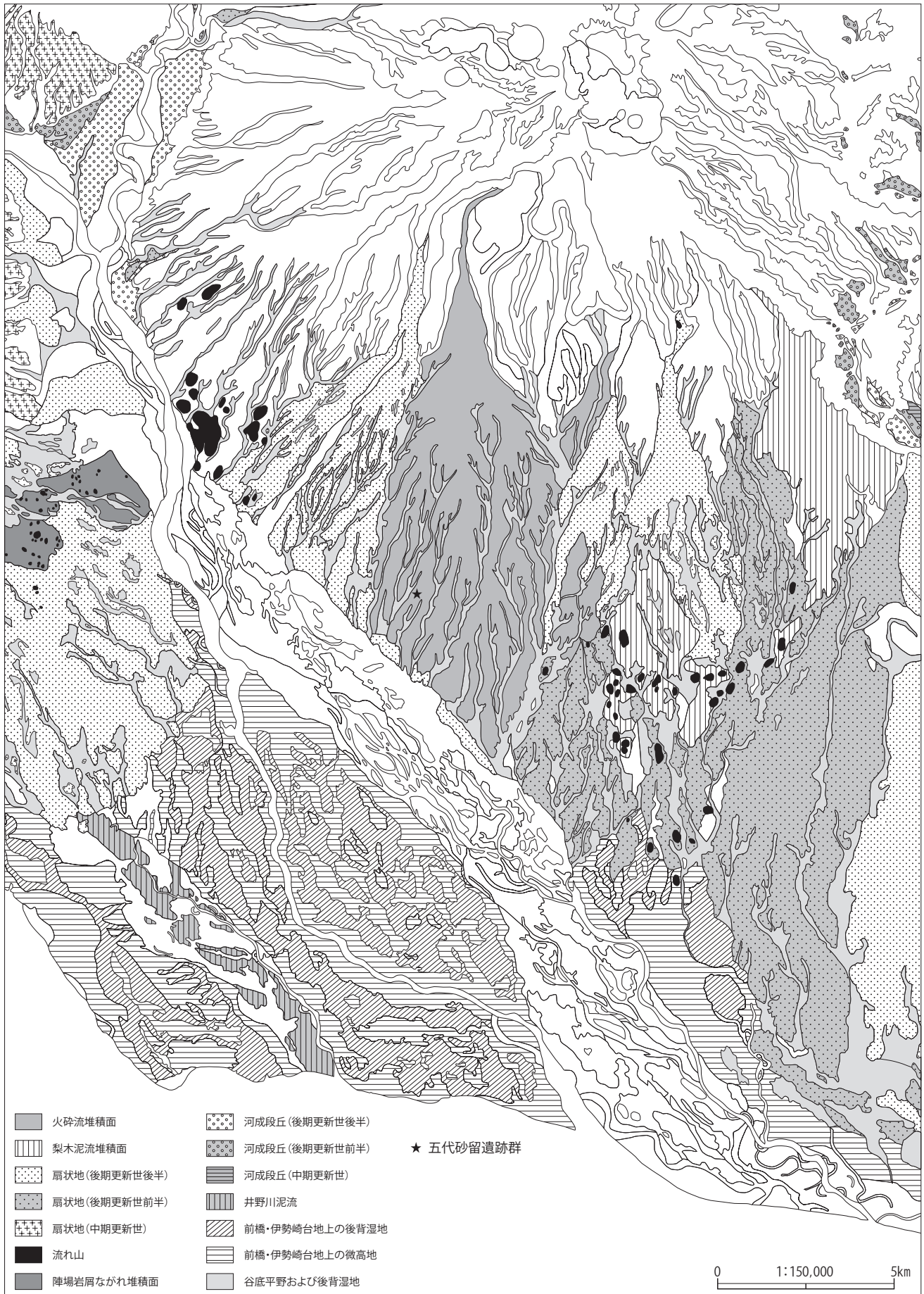
「赤城南麓斜面」は赤城南麓に広がる傾斜地のことであるが、この赤城山は急な斜面から構成される山頂部と

ゆるやかに広がる裾野からなっている。山頂部は標高1,828mの黒檜山を中心に、地藏岳、鍋割山、荒山、鈴ヶ岳などの10あまりの山々から形成されている、那須火山帯に属する複合成層火山である。『裾野は長し赤城山』と「上毛かるた」で詠まれるように、長い裾野を持ち雄大な赤城山は群馬県内でも深く県民に親しまれており、榛名山、妙義山とあわせて上毛三山の一つに数えられている。

赤城山の火山活動は古期成層火山形成期、新期成層火山形成期、中央火口丘形成期の三つの時期に区別されている。古期成層火山形成期はおおよそ40～50万年前からはじまり、約13万年前頃まで続いた。この時期には大規模な成層火山が形成された。約20～30万年前には、山体崩壊による大規模な岩屑なだれである梨木泥流が発生



第7図 遺跡周辺地形図



第8図 周辺地形分類図(群馬県『群馬県史通史編1』付図2を改変使用)

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

し、約4立方キロメートルと見積もられている堆積物が東麓から南東麓にかけて堆積した。この山体崩落に伴い、流山と呼ばれる小丘陵が形成された。多田山、石山、峰岸山などがそれであり、華蔵寺公園の丘や権現山など伊勢崎の南部まで小丘陵は達している。新期成層火山形成期はおよそ13万年前から4～5万年前まで続いた。この時期には火砕流を伴う噴火が多く、西麓から南麓にかけて「棚下火砕流」、「大胡火砕流」がおこり、湯ノ口軽石の噴出に続いて発生した「ガラン石質火砕流」などが堆積した。その後の中央火口丘形成期を経て、現在の姿となっている。

火山造成が終わると、浸食作用により南麓の地形が形成されていく。赤城山は標高400～500mのあたりから急激に山頂に向かいそりあがっていく。この近辺から下を「赤城南麓斜面」と言う。赤城南麓斜面では、赤城白川、藤沢川、寺沢川、荒砥川、神沢川、粕川などの河川が放射線状に流下している。赤城南麓斜面はこれらの河川が丘陵地形を浸食して南北方向に細長く起伏に富んだ丘陵性台地を形成している。さらにこれらの河川や台地端部からの湧水により、樹枝状の開析が進み、台地と低地が複雑に入り組んだ地形がつくられている。また、赤城白川や荒砥川の下流域では扇状地を形成している。赤城南麓斜面の末端は比高10m程度の山麓崖となっており、旧利根川が形成した「広瀬川低地帯」に接している。

その「広瀬川低地帯」は赤城南麓崖線と前橋台地の北東側崖線に挟まれ、約2.5kmから3kmの幅を持ち、前橋市の北西から南東に延びている。前橋台地との比高は、赤城南麓崖線と異なり、わずか数mである。利根川は、現在では前橋台地中央を流下しているが、かつては広瀬川低地帯を流れていた。

「前橋台地」は、市の南西部で広瀬川低地帯より、一段高い高台を形成している。「前橋砂礫層」と呼ばれている厚さ200m以上にも及ぶ砂礫層の上に「前橋泥流」と呼ばれる火山岩や火山灰などの火山起源の堆積物が約15m前後堆積しており、それを被覆するようにローム層が形成されている。

五代砂留遺跡群は、赤城南麓斜面でも端部寄りに位置しており、広瀬川低地帯まで約1.5kmである。藤沢川と寺沢川との間の台地の一角を占めており、五代川という藤沢川に注ぐ支流に向かう谷と低地を内包している。

遺跡の南隣には昭和27年に完成した大正用水が西から東へ流れている。遺跡周辺は水はけが良いが、この用水が完成するまで、長い間水不足に苦しんだ。水に乏しい地域であるが、谷地田の形成をもしていた。現在でもこの地に見られる「堤」・「溜まり」・「池沼」と呼ばれている溜池を利用していたのである。

また水不足を逆手に取ってか、遺跡周囲はかつて群馬県を代表する養蚕地帯であった。前橋市内、特に中心地で隆盛していた産業が製糸や織物であった。それら工場に近く、原料である繭の供給元となっていた。養蚕以外にも、乳牛を中心とする酪農を営む農家も少なからず見られていた。

現在では、遺跡に隣接する芳賀東部・芳賀北部・芳賀西部のそれぞれの工業団地が造成され、一大産業地区ともなっている。近年では遺跡の南側に五代南部工業団地が造成され、平成23年現在でも造成中である。

芳賀東部工業団地の西側では住宅地も造成開発され、人口も増加し、前橋市のベッドタウンとして発展している地域でもある。上武道路が開通することにより、今後の発展が期待される地域であると言える。

第2節 遺跡周辺の歴史環境

五代砂留遺跡群が立地する赤城南麓地域にはおよそ3万年前の旧石器時代遺構から、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中近世にわたって多くの遺跡が残されている。上武道路予定地でも多くの遺跡が発見された。ここでは赤城南麓地域における各時代の様相について、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良・平安時代・中世について概要を報告する。

「第9図 周辺遺跡位置図」および「第3表 主な周辺遺跡」を参照されたい。

1. 縄文時代

本遺跡をはじめ、赤城南麓地域では多くの遺跡が存在している。台地や河川的位置に拘わらず、縄文時代の遺跡が密集している。ここでは上武道路8工区と本遺跡周辺五代地区について、大別時期を単位として集落の立地やその動向を概観してみたい。

早期 上武道路8工区では、上細井中島遺跡(第2図68)から撚糸文系土器や条痕文系土器が出土し、これら遺物に伴う遺構が検出されている。同遺跡は白川扇状地に位置し、扇状地内の微高地に展開していた。本遺跡でも早期撚糸文系土器は出土しているが、遺構は検出されなかった。

前期 当該地区では芳賀東部団地遺跡(23)が拠点となる集落と言える。同遺跡は本遺跡と五代川を挟んだ西側台地上に位置し、標高は150m前後である。前期を通して集落が形成されていた。本遺跡より一段下の面には五代中原遺跡(26)・(27)・五代伊勢宮遺跡(32)・(35)・五代木福遺跡(43)などが展開しているが、それぞれ数軒の住居が検出されたのみである。本遺跡も前期は諸磯c期の住居1軒のみの検出であり、前期の拠点は芳賀東部団地遺跡と言える。

中期 中期に入ると、伊勢宮遺跡(32)・(34)・(36)に拠点が移る。伊勢宮遺跡では中期中葉の住居が37軒検出されている。同遺跡は標高約127m～約134mに展開しており、本遺跡や芳賀東部団地遺跡から一段低い面と言える。自然環境の変化など何らかの要因により、芳賀東部団地遺跡から拠点集落が移ったことが考えられる。

後期 後期に入ると、五代地区では遺構が減少する。中期の拠点であった五代伊勢宮遺跡からは遺構が検出されなかった。芳賀東部工業団地遺跡では後期称名寺期の住居3軒、堀之内期の住居1軒を検出している。本遺跡でも後期の住居2軒、遺物を共伴する土坑3基を検出している。わずかではあるが、標高約150mの地で人々の営みが築かれていた。

2. 弥生時代

縄文時代を通じて遺跡が存在していた赤城南麓地域であるが、弥生時代になると遺跡は減少する。本遺跡周辺でも遺跡が見つかったのは弥生時代の後期になってからである。比較的遺跡が多いのは赤城南麓の荒砥地区である。上武道路8工区路線では小神明勝沢境遺跡(6)で浅間C軽石降下前の樽式土器を伴う竪穴住居跡がみついている。周辺では弥生時代中期から後期と考えられる竪穴住居跡を2軒調査した倉本遺跡(57)、後期と考えられる竪穴住居跡を調査した湯気遺跡(52)がある。また、端気着帳遺跡(61)では周溝墓が2基確認されている。この周溝墓は、周溝埋土中に底部から2層の間層をおいてC軽石純層が厚さ10cmから15cmほど堆積していた。弥生時代末期から古墳時代初頭の周溝墓であることが想定される。いずれも現標高で150mを下回る位置の遺跡である。

上武道路8工区では、山王・柴遺跡群(第2図74)で、前橋渋川バイパスの田口下田尻遺跡でそれぞれ弥生時代後期から古墳時代前期にかけての在来系である樽式にとられないバラエティに富んだ土器とそれに伴う竪穴住居跡がみついている。どちらも赤城山の南西麓、利根川寄りの部分である。これらの遺跡は今後整理されていくが、赤城南麓の弥生時代後期から古墳時代にかけての姿を解明する一助になっていくであろうと期待したい。

3. 古墳時代

古墳時代前期になると赤城南麓は人々の生活が再び活気づいていったようである。本遺跡周辺では芳賀東部団地遺跡、五代中原I遺跡、同II遺跡にて古墳時代前期の集落が確認されている。本遺跡で検出された住居群もこの集落に含まれると考えられるが、芳賀東部団地遺跡(2)・五代中原I遺跡、同II遺跡の集落は台地端部に位

置している。本遺跡はその台地から落ち込む低地に展開する部分と考えられる。この集落を営んでいた人々は吉ヶ谷式・赤井戸式系の流れを組む土器を使用しており、S字状口縁台付甕も出土しているが、ここでは単口縁甕が主流でありS字甕は量が少なく、客体的な存在である。その他、北陸系・畿内系の土器を伴うが、いずれも在地化しているものである。一連の集落は遺構の埋土から浅間C軽石降下後、3世紀末ごろからはじまり、4世紀代に続いていく集落と考えられる。芳賀東部団地遺跡、五代中原I遺跡、同II遺跡とも5世紀代のカマドを伴う竪穴住居跡が調査されているが、その数は前段階に比べて減っている。本遺跡では5世紀代の住居が確認されておらず、この集落のピークは4世紀前半と考えられる。五代江戸屋敷遺跡(39)では4世紀後半の周溝墓2基が確認されており、5世紀代の住居跡も調査されているが、この台地の集落はそのあとの時期の集落が調査されておらず、5世紀代で途絶えていると考えられる。芳賀東部団地遺跡の西側台地では、古墳時代前期の竪穴住居跡がみられず、古墳時代後期から居住がはじまり、奈良・平安時代まで集落が続いていく。

5世紀代から6世紀代の集落は九料遺跡(51)が調査されている。この遺跡は、同じ台地上に芳賀西部団地遺跡(25)が調査されており、32基の古墳が調査されている。5世紀末から6世紀の群集墳であり、九料遺跡の居住域に対しての墓域が芳賀西部団地遺跡とも考えられる。

6世紀から7世紀にかけて主流になっていくのは東田之口遺跡(8)である。68軒の住居が調査されたが、4軒が5世紀代で、その他の64軒は6世紀から7世紀にかけてのものである。周囲を含めれば大きな集落であったことが考えられる。しかし、この遺跡もあとの時代が続かず、短期間で終わっている。赤城南麓で6世紀代のこれだけの規模の調査例はなく、6世紀代拠点となるのは東田之口遺跡周辺だと言える。その他にも芳賀東部団地遺跡西側台地などこの時期から赤城南麓には小集落が広がっていき、7世紀代まで集落を継続させていく。それは6世紀以降の赤城南麓の古墳動向とも合致している。

上毛古墳総覧によれば芳賀村(芳賀地区)には64基、桂萱村79基、南橋村45基の古墳があったとされる。芳賀村のうち五代地区には10基の古墳があった。上毛古墳総覧周知の古墳のうちオブ塚古墳(69)、大日塚古墳(62)、桂

正田稲荷塚古墳(65)、東公田古墳(64)などが調査されている。いずれも6世紀以降の古墳である。上武道路8工区路線では、胴城遺跡(4)で芳賀村1号墳の周溝を調査した。芳賀西部団地遺跡の群集墳、芳賀東部団地遺跡群の古墳4基など、総覧記載漏れの古墳も多く調査されており、芳賀地区では100基以上の古墳の存在が知られている。

集落域、墓域があれば、当然生産域を伴うと考えられる。しかし、上武道路8工区を中心とした赤城南麓では古墳時代の水田を調査した遺跡がまだない。山王・柴遺跡群では浅間C軽石降下前後の畠跡が調査されているが、それ以外にまだ生産域は調査されていない。台地を縫うように走る小河川を利用した生産域も想定されるが、調査例はない。標高150m以下の地域では、さほど遠くない広瀬川低地帯の開発も考えられる。今後、この地域の古墳時代を考えていくうえで生産域の検討が鍵となっていくであろう。

4. 奈良・平安時代

赤城南麓地域は古代には勢多郡として整備された。平安時代に成立した『和名類聚抄』によると、勢多郡は深田(ふかた)、田邑(たむら)、芳賀(はが)、桂萱(かいがや)、真壁(まかべ)、深渠(ふかみぞ)、深澤(ふかさわ)、時澤(ときざわ)、藤澤(ふじさわ)の9郷からなるとある。現在の地名を考えれば、五代砂留遺跡周辺は芳賀郷、遺跡の北西地域は時沢郷、南東地域は桂萱郷に比定できる。しかし、前橋市二之宮町にある二之宮洗橋遺跡から「芳郷」の墨書土器が出土しており、いまだ不確定な要素が多く、比定地は定まっていない。

五代砂留遺跡周辺で中心と考えられるのは芳賀東部団地遺跡である。3つの台地に展開しており、居住跡、掘立柱建物跡、鍛冶遺構などが見つかっている。8世紀中頃から11世紀後半まで続いていく遺跡であり、地域の拠点的場所と言える。律令制下の官衙との関連を決める手だては今のところないが、官衙もしくは有力豪族の拠点と考えられる。本遺跡をはじめ、五代伊勢宮V遺跡、五代木福II遺跡(44)、五代木福III遺跡(45)、五代木福IV遺跡(46)、五代竹花II遺跡(48)など、芳賀東部団地遺跡の東部及び東南部に同時期の集落が広がっている。芳賀東部団地遺跡からは北東にやや離れるが、8世紀代に集落

のピークを迎えたと考えられる桧峯遺跡(21)からは奈良三彩小壺が出土している。本遺跡からは長年大宝が、五代木福Ⅱ遺跡からは和同開珎が、五代竹花Ⅱ遺跡からは和同開珎・神功開宝がそれぞれ出土している。特に五代竹花Ⅱ遺跡は9世紀前半から中頃と比定される同一住居からみついている。それぞれ規模や立地など郷の中心と考えにくい遺跡からも貴重と考えられる遺物がみついていることから、小単位集落でも有力者の存在を示唆しているのではないだろうか。

五代地区から東へ谷を越えた荻窪鱒塚遺跡(76)、荻窪倉兼遺跡(77)、荻窪倉兼Ⅱ遺跡(78)の一带でも同じように集落展開がみられる。この時期に赤城南麓を開発した集団の姿が浮かび上がる。

古墳時代同様、生産域の調査例は少ない。しかし、上細井五十嵐遺跡(10)では天仁元年(1108)噴火の際の降下に比定される浅間B軽石下の水田が調査されており、平安時代の生産域の存在が確認されている。これら集落を支える生産域が集落周辺に営まれたことは想像に難くない。

本遺跡では鍛冶遺構が確認されており、周辺でも芳賀東部団地遺跡、五代伊勢宮Ⅳ遺跡、五代木福Ⅳ遺跡で鍛冶遺構調査例が知られている。芳賀東部団地遺跡は製錬炉とみられる遺構が1基、鍛冶遺構も4基調査されており、地域に於ける鍛冶関連施設の拠点とみられる。伊勢宮Ⅳ遺跡、五代木福Ⅳ遺跡はそれぞれ単独の鍛冶工房跡で、小集落内での鍛冶工房が営まれていたことが考えられる。

5. 中世

平安時代末から中世にかけて赤城南麓一帯で勢力があったのは藤原秀郷を祖とする集団である。そのなかでも本遺跡周辺で勢力をふるったのは、足利重俊を祖とする大胡氏である。平安時代末期の『平治物語』にその名が登場し、『吾妻鏡』では建久元年(1190)1月7日の条に源頼朝入洛の供奉人中大胡太郎の名が見える。

中世では特定の地域が荘(庄)や御厨、保といった私有地となり、それ以上の土地は公領の郷であった。しかし、郷の中には在地領主の開発・再開発によって私有地化していた郷もあった。史料等で赤城南麓で確認できるのは大室庄、青柳御厨、細井御厨、大胡郷である。青柳御厨

は延文五年(1360)成立の「神鳳抄」という伊勢皇大神宮の所領を書きあげた記録に、内宮領であると記されている。細井御厨は同じく「神鳳抄」に伊勢二見の来迎院が領主であると記されている。大室庄は現在の東大室町・西大室町付近の神沢川流域である。鎌倉時代の所領譲状、室町時代の恩賞請求書に記録が残っている。大胡郷は現在の大胡町付近を頂点にして、荒砥川流域を一辺として、底辺が小屋原・今井・片貝・野中・小島田等の旧利根川河道の低地まで下がる扇状の土地で、上泉・沖・三保等も含む広大な郷である。大胡氏一族が、荒砥川流域に基盤を作り、利根川旧河道の開発・再開発を行い発展を遂げた郷である。今のところこれら土地開発に直接関わるような遺構は見つかっていない。赤城南麓の中世史を考えるうえでも今後に期待したい。

中世に至っても水の確保が赤城南麓での課題であった。その最大の痕跡は女堀(84)である。天仁元年(1108年)浅間山噴火から間もないころに掘削が開始されたとされる。赤城南麓中央部から東に貫通する灌漑用水路施設である。全長は13kmに及ぶというが、未完に終わったと理解されている。取水口は桃の木川と交わる近辺の藤沢川の説と現在の利根川にまで達するという説がある。

戦国時代には嶺城跡(63)が築城され、小坂子城跡(66)、勝沢城跡(68)などが支城であったとされる。箕輪長野氏に味方し、聖剣と言われている上泉伊勢守信綱は大胡城の支城上泉城跡(82)を本拠とし、大胡武蔵守とも称している。



第9図 周辺遺跡位置図(国土地理院発行地形図「前橋」「大胡」使用1/25,000)

第3表 主な周辺遺跡

No.	遺跡名	遺跡の概要	主な文献 No.
1	五代砂留遺跡群	旧石器時代。縄文時代竪穴住居跡4。古墳時代竪穴住居跡8。平安時代竪穴住居跡15、鍛冶遺構、道3。中世以降水田跡、溝状遺構、地下式土坑1。	
2	芳賀東部団地遺跡（(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査）	旧石器時代。縄文時代土坑。古墳時代竪穴住居跡23。奈良・平安時代竪穴住居跡28。中近世墓坑12。	1
3	鳥取松合下	旧石器時代。縄文時代竪穴住居跡3、土坑。古墳時代竪穴住居跡10。奈良・平安時代竪穴住居跡20。近世～現代水田痕跡の溝。	2
4	胴城遺跡	古墳時代竪穴住居跡3。平安時代竪穴住居跡8、中近世墓2。	2
5	堤遺跡	縄文時代前期竪穴住居跡1、後期竪穴住居跡7、土坑70、焼土遺構6、埋甕3、配石遺構2。平安時代竪穴住居跡1。中世竪穴状遺構6、火葬墓4。	2
6	小神明勝沢境遺跡	縄文時代埋甕1。弥生時代竪穴建物2。古墳時代竪穴建物7。平安時代溝1。中世溝2、土坑1。近世溝1。	3
7	小神明富士塚遺跡	縄文時代。古墳時代竪穴住居跡9、溝1、土坑2。奈良時代竪穴住居跡3、古代掘立柱建物跡6、道1、溝6、土坑5。中世竪穴状遺構1、溝20、井戸1、土坑3。近世道1、溝2、井戸1。時代不明竪穴建物1、掘立柱建物跡4、竪穴状遺構3。	3
8	東田之口遺跡	古墳時代竪穴住居跡68、粘土採掘坑7、平安時代溜井1・中世館跡。	4
9	丑子遺跡	弥生時代後期竪穴住居跡1。古墳時代竪穴住居跡38。平安時代竪穴住居跡3。中世館の堀、土坑群、井戸。	2
10	上細井五十嵐遺跡	縄文時代竪穴住居跡1。平安時代竪穴住居跡4、水田跡、棚状遺構。	2
11	上泉武田遺跡	旧石器時代。縄文時代土坑1。古墳時代・古代竪穴住居跡。時期不明土坑、ピット。	1
12	上泉新田塚遺跡群	縄文時代竪穴住居跡11、土坑97、集石2。古墳時代竪穴住居跡1、古墳2。奈良・平安時代竪穴住居跡4、道1、井戸1。中近世道3、溝6、堀2。	5
13	上泉唐ノ堀遺跡	縄文時代竪穴住居跡17、土坑217、配石1、掘立柱建物7、柵列1、道1、遺物集中部1。奈良時代以降竪穴住居跡15、土坑4、掘立柱建物10、柵列3、ピット30、溝。近世溝1、道1。時代不明ピット。	5、6
14	荻窪南田遺跡	縄文時代土坑1、包含層。奈良・平安時代田畑、水田1、溝20、道2。中近世土坑1、道6、焼土痕1。	7
15	亀泉西久保Ⅱ遺跡	縄文時代土坑6、古墳時代水田。奈良・平安時代竪穴住居跡、水田、土坑12、溝11、道4。中近世溝13。	7
16	亀泉西久保Ⅱ遺跡	縄文時代土坑6、配石遺構1。包含層。古墳時代の畑、水田。奈良・平安時代の竪穴住居跡、土坑12、溝11、道4。中近世溝13。	7
17	亀泉坂上遺跡	縄文時代竪穴住居跡6、土坑73、ピット45、包含層。古墳時代竪穴住居跡21、古墳1、土坑12、島1、溝1。平安時代溝4、道8、水田。江戸時代の溝10、道1、畑1。	8
18	堤沼上遺跡	縄文時代。古墳時代竪穴住居跡6。奈良・平安時代竪穴住居跡34、土坑56、掘立柱建物18、溝9、井戸1、道3、ピット164、水田。	9
19	萱野Ⅱ遺跡	縄文時代前期竪穴住居跡11、中期竪穴住居跡4、土坑、掘立柱建物3、ピット。古墳時代古墳2。奈良時代竪穴住居跡5、土坑、ピット。	10
20	桧嶺古墳	円墳、7世紀初。横穴式石室、両袖型。直刀、刀子、鉄鏃、耳環、勾玉、管玉出土。	11
21	桧峯遺跡	古墳時代竪穴住居跡。奈良～平安時代竪穴住居跡65。時期不明竪穴住居跡5。奈良三彩小壺出土。	12
22	五代檜峯Ⅱ遺跡	古墳時代竪穴住居跡2。	13
23	芳賀東部団地遺跡（前橋市教育委員会調査）	縄文時代竪穴住居跡58、土坑103、その他1。古墳時代古墳4、竪穴住居跡80。奈良・平安時代竪穴住居跡420、掘立柱建物跡200、製鉄址5、溝74、土坑500。中近世城跡1、土坑271、井戸9。	14
24	芳賀北部団地遺跡Ⅰ	古墳時代～奈良・平安時代竪穴住居跡227、掘立柱建物8、製鉄址3、溝28、井戸5、土坑67。	15
25	芳賀西部団地遺跡	縄文時代前期竪穴住居跡7、ピット8、配石遺構2。古墳時代古墳31。中近世土坑27。	16
26	五代中原Ⅰ遺跡	縄文時代竪穴住居跡3。古墳、平安時代竪穴住居跡24。平安～中世以降柱穴50。縄文～中世以降土坑6。平安～中世掘立柱建物4。時期不明竪穴状遺構2。中世溝1。	17
27	五代中原Ⅱ遺跡	縄文時代竪穴住居跡4、古墳前期～中期竪穴住居跡35、古墳後期以降～近世ピット58、近世以降土坑25、古墳後期以降掘立柱建物跡3、近世以降道路状遺構4、時期不明風倒木痕3。	18
28	五代中原Ⅲ遺跡	古墳時代竪穴住居跡45、土坑55、柱穴57。	19
29	五代山街道Ⅰ遺跡	縄文時代竪穴住居跡9、土坑8、古墳時代竪穴住居跡1、平安時代竪穴住居跡2、掘立柱建物1。	19
30	五代山街道Ⅱ遺跡	縄文時代土坑11、時期不明溝1。	19
31	五代伊勢宮Ⅰ遺跡	古墳時代～中・近世。竪穴住居跡6、土坑2、溝1、ピット132。	20
32	五代伊勢宮Ⅱ遺跡	縄文時代・古墳～近世。竪穴住居跡24、掘立柱建物3、溝3、土坑33。	21
33	五代伊勢宮Ⅲ遺跡	平安時代竪穴住居跡3。時期不明竪穴状遺構1。中世～近代溝3。平安～中世柱穴81。縄文～近世以降土坑67。平安～中世掘立柱建物2。平安～中世井戸。中世地下式土坑5。近代以降道1。	17
34	五代伊勢宮Ⅳ遺跡	縄文時代竪穴住居跡3、集石3。平安時代竪穴住居跡1。時期不明柱穴60。縄文～中世以降土坑229。時期不明溝6。近世以降道1。	17
35	五代伊勢宮Ⅴ遺跡	縄文時代・古墳～近世。竪穴住居跡65、掘立柱建物6、小石塚1、溝6。	22
36	五代伊勢宮Ⅵ遺跡	縄文時代竪穴住居跡22。古墳後期～奈良・平安時代竪穴住居跡23。古墳後期以降～近世ピット336。縄文時代以降土坑1064。近世以降溝状遺構8。奈良・平安～近世掘立柱建物3。近世以降道路状遺構1。時期不明井戸状遺構2。時期不明竪穴状遺構1。	23
37	五代伊勢宮遺跡(1)	縄文時代竪穴住居跡3、土坑40。古墳時代竪穴住居跡9。古墳時代以降竪穴状遺構2。奈良・平安時代竪穴住居跡12、掘立柱建物2。平安以降～近代溝10、土坑54。	24

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

No.	遺跡名	遺跡の概要	主な文献 No.
38	五代伊勢宮遺跡(2)	縄文時代土坑6。平安時代竪穴住居跡1。近代道路跡1。時期不明掘立柱建物跡1、土坑5、溝1。	25
39	五代江戸屋敷遺跡	古墳～中世竪穴住居跡、掘立柱建物、方形周溝墓。	26
40	五代深堀Ⅰ遺跡	縄文時代竪穴住居跡1、平安時代竪穴住居跡2、平安～中世柱穴29、平安～中近世土坑16。	27
41	五代深堀Ⅱ遺跡	縄文時代竪穴住居跡1。古墳、奈良・平安時代竪穴住居跡9。時期不明柱穴57。時期不明土坑15。近代溝1。	28
42	五代深堀Ⅲ遺跡	縄文時代竪穴住居跡3、土坑14、溝2、落ち込み跡2。奈良・平安時代竪穴住居跡29、掘立柱建物5、土坑2、井戸3。	29
43	五代木福Ⅰ遺跡	縄文時代～中・近世。竪穴住居跡55、土坑23、溝22、ピット220、砂鉄ピット3。	30
44	五代木福Ⅱ遺跡	縄文時代配石遺構1。古墳時代竪穴住居跡61。奈良・平安時代竪穴住居跡114、和同開珎。時期不明竪穴住居跡21。平安～近世以降溝19。平安～中近世土坑111。平安～中近世柱穴700。平安～中近世井戸6。中世以降地下式土坑2。時期不明集石1。	
45	五代木福Ⅲ遺跡	古墳時代竪穴住居跡14、掘立柱建物跡。奈良時代竪穴住居跡15、掘立柱建物跡。平安時代竪穴住居跡8。古墳時代～中近世ピット294、溝跡10、井戸跡4、土坑73。時代不明竪穴状遺構1、周溝状遺構1。	31
46	五代木福Ⅳ遺跡	古墳時代竪穴住居跡1。奈良・平安時代竪穴住居跡17、掘立柱建物5、土坑21。中世以降溝4。	29
47	五代竹花遺跡	縄文時代～中・近世。竪穴住居跡18、土坑6、溝4、ピット254。	30
48	五代竹花Ⅱ遺跡	縄文時代竪穴住居跡1、土坑19。古墳時代竪穴住居跡2。奈良時代竪穴住居跡5、掘立柱建物跡。平安時代竪穴住居跡12、和同開珎、神功開宝、掘立柱建物跡。中世地下式土坑1。近世以降道路状遺構4。周溝状遺構1、土坑、ピット、井戸3。	31
49	芳賀北原遺跡	縄文時代、古墳時代、平安時代。古墳時代竪穴住居跡4、平安時代竪穴住居跡6。土坑。	32
50	小神明下田遺跡	縄文時代竪穴住居跡4、ピット3。平安時代竪穴住居跡1。中世以降土坑12。近世井戸12。	33
51	九料遺跡	縄文時代後期敷石竪穴住居跡1、古墳時代竪穴住居跡、溝、ピット。	34、35
52	湯気遺跡	縄文～奈良・平安時代。竪穴住居跡、掘立柱建物跡。	35
53	鳥取東原遺跡	江戸時代埋葬施設1。	36
54	鳥取福蔵寺遺跡	縄文時代～中世竪穴住居跡41、土坑83、落ち込み2、井戸2、精錬鍛冶炉1、掘立柱群。	37
55	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	旧石器時代～中世。竪穴住居跡50、土坑84、溝5、井戸1、工房跡2、掘立柱遺構9。	38
56	西田遺跡	縄文時代後期竪穴住居跡3、古墳時代竪穴住居跡4、古墳5、溝3、道路状遺構1、ピット35。	34
57	倉本遺跡	弥生時代中期～後期竪穴住居跡2、戦国時代以降環濠。近世溝2、ピット21。	34
58	西堀遺跡	縄文時代土坑1。古墳時代竪穴住居跡3。	39
59	谷向遺跡	縄文～古墳時代土坑、井戸。	40
60	大明神遺跡	古墳時代竪穴住居跡2、溝5、土坑6、井戸1。	34
61	端気着帳遺跡	縄文時代竪穴住居跡、周溝墓2。古墳時代竪穴住居跡2。	41
62	大日塚古墳	五代大日塚古墳6～7世紀前半。前方後円墳。横穴石室。上毛古墳総覧芳賀村第11号墳。	11
63	嶺城跡	中世城郭、16世紀	42
64	東公田古墳	古墳時代古墳。7世紀後半円墳。総覧芳賀村第59号。	43
65	桂正田稲荷塚古墳	7世紀後半円墳。横穴式石室。総覧芳賀村第60号。	11、44
66	小坂子城跡	中世城郭 16世紀。	42
67	芳賀北曲輪遺跡	縄文時代前期後半竪穴住居跡11、中～後期環状配石竪穴住居跡1、敷石竪穴住居跡5。古墳時代古墳。	45
68	勝沢城跡	中世城郭 16世紀。	42
69	オブ塚古墳	6世紀後半前方後円墳。自然石乱石積み両袖型横穴式石室。総覧桂萱村第29号。	11、46
70	オブ塚西古墳	古墳時代。墳丘を持たない小型竪穴式石槨。	11
71	小坂子湯田Ⅰ・Ⅱ遺跡	奈良・平安時代溝。	47
72	小坂子要害城跡	中世城郭 16世紀。	42
73	小坂子一木峯遺跡	縄文時代竪穴状遺構1、土坑1。奈良・平安時代竪穴住居跡8。時期不明溝状遺構2、ピット50。	48
74	荻窪東爪遺跡	縄文時代前期竪穴住居跡2。	49
75	川白田遺跡	縄文時代前期竪穴住居跡22、土坑338、集石2。近世土坑2、井戸3、溝2、畑1。	50
76	荻窪鯛塚遺跡	奈良・平安時代竪穴住居跡10、掘立柱建物跡10。	49
77	荻窪倉兼遺跡	奈良・平安時代竪穴住居跡29、掘立柱建物跡12。	51
78	荻窪倉兼Ⅱ遺跡	奈良・平安時代竪穴住居跡36、掘立柱建物跡10、溝4。	51
79	ほっこし塚古墳	古墳時代円墳。総覧桂萱村第58号。	11
80	荻窪城跡	中世城郭 16世紀。	42
81	上泉太郎三前遺跡	縄文時代前期竪穴住居跡5、平安時代竪穴住居跡2。	52
82	上泉城跡	中世城郭 16世紀。	42
83	正円寺古墳	古墳時代。6世紀前半の前方後円墳。全長65m。自然石乱石積み両袖型横穴式石室。総覧桂萱村第66号。	44
84	女堀	灌漑用水路 全長13km。	53
85	石関西田Ⅱ遺跡	古墳時代道3、旧河道1。平安時代～中近世竪穴住居16、水田1、畠11。中近世溝41、土坑22、井戸4、旧河道3。	54
86	茶木田遺跡	奈良～平安時代竪穴住居跡10、溝状遺構2、焼土遺構1、土坑4、柱穴状ピット7。平安時代井戸1、溝状遺構1、柱穴状ピット1。	55
87	桂萱大塚古墳	古墳時代。6世紀前半の前方後円墳。総覧桂萱村第9号。	11
88	南田之口遺跡	古墳時代竪穴住居跡8、掘立柱建物跡1、土坑11、溝11。	56

主な文献No.

- 1『年報27』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008
- 2『年報28』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009
- 3『小神明勝沢境遺跡 小神明富士塚遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011
- 4『東田之口遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011
- 5『上泉唐ノ掘遺跡 上泉新田塚遺跡群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011
- 6『上泉唐ノ掘遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010
- 7『亀泉西久保Ⅱ遺跡 荻窪南田遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008
- 8『亀泉坂上遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008
- 9『提沼上遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008
- 10『萱野Ⅱ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007
- 11『前橋市史第1巻』前橋市史編さん委員会1972
- 12『桧峯遺跡発掘調査報告書』前橋市教育委員会1982
- 13『五代檜峯Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998
- 14『芳賀東部団地遺跡Ⅰ』前橋市教育委員会1984
- 15『芳賀団地遺跡群第5巻芳賀北部団地遺跡Ⅰ』前橋市教育委員会1994
- 16『芳賀団地遺跡群第4巻芳賀西部団地遺跡』前橋市教育委員会1991
- 17『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002
- 18『五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003
- 19『五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004
- 20『五代竹花遺跡 五代木福Ⅰ遺跡 五代伊勢宮Ⅰ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001
- 21『五代伊勢宮Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002
- 22『五代伊勢宮Ⅴ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003
- 23『五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003
- 24『五代南部工業団地遺跡群五代伊勢宮遺跡(1)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2007
- 25『五代伊勢宮遺跡(2)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009
- 26『五代江戸屋敷遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001
- 27『五代木福Ⅱ遺跡 五代深堀Ⅰ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001
- 28『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002
- 29『五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2005
- 30『五代竹花遺跡 五代木福Ⅰ遺跡 五代伊勢宮Ⅰ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001
- 31『五代竹花Ⅱ遺跡、五代木福Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004
- 32『芳賀北原遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1992
- 33『小神明遺跡群』前橋市教育委員会1983
- 34『小神明遺跡群Ⅱ』前橋市教育委員会1984
- 35『小神明遺跡群Ⅳ』前橋市教育委員会1986
- 36『鳥取東原遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998
- 37『鳥取福蔵寺遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998
- 38『鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1999
- 39『西堀遺跡』前橋市教育委員会1987
- 40『谷向遺跡』前橋市教育委員会1985
- 41『端気遺跡群Ⅰ』前橋市教育委員会1983
- 42『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1989
- 43『緊急文化財調査報告書』群馬県教育委員会1982
- 44『群馬県史資料編3』群馬県史編さん委員会1981
- 45『芳賀北曲輪遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1990
- 46『群馬県の史跡<古墳編>』群馬県教育委員会1995
- 47『小坂子湯田Ⅰ・Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1997
- 48『小坂子一木峯遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2005
- 49『荻窪鰯塚遺跡・荻窪東爪遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002
- 50『川白田遺跡調査会』川白田遺跡調査会1998
- 51『荻窪倉兼遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003
- 52『上泉太郎三前遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998
- 53『女堀』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1984
- 54『石関西田Ⅱ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002
- 55『茶木田遺跡』前橋市教育委員会1985
- 56『南田之口遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団1987

第3節 基本土層

五代砂留遺跡群は標高140m～150mの赤城南麓斜面の台地上にあり、22区から34区までの台地部と45区の低地部から形成されている。低地部は34区の調査区西端から傾斜が始まり、東から西にかけて傾斜がかかっていた。低地部は土地改良事業により耕地整理が施されており、IV層まで改築されている状況であった。また低地部では耕地整理によりI層土が台地部と高さを合わせるように厚く盛られており、調査前の現況では、他の場所より低いものの、低地という認識まで至らなかった。試掘トレンチ及び表土掘削の状況により、I層土が厚く盛られていた状況がわかった。

ほかの調査区でも、I層である表土耕作土の下は、多少As-B混入黒色土(II層土)が見られる状況もあったが、ほとんどがIV層土であった。この状況は中世以降の文化層が近代耕作土に変わってしまったと言える。遺構の検出状況も同じく、中世以降と思われるものはほとんど検出されなかった。

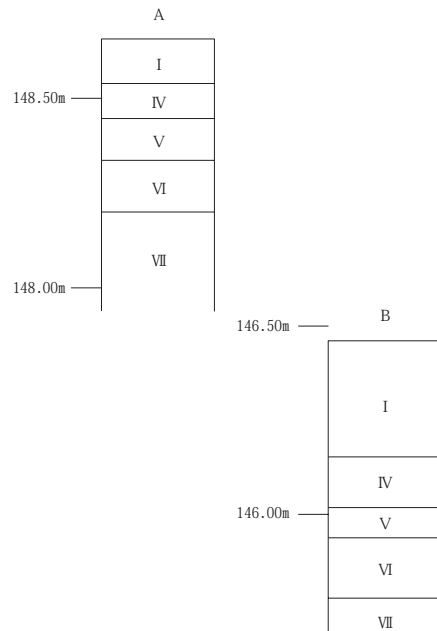
基本土層は22区及び32区の2箇所において確認をした。(第10図)基本土層は以下の通りである。

- I層 表土、耕作土
- II層 As-B混入黒色土
- III層 As-B
- IV層 As-C混入黒色土
- V層 暗褐色土
- VI層 褐色土
- VII層 黄褐色ローム

III層はAs-Bの純堆積層であるが、溝の埋没土中及び水田跡の床土内だけに確認できた。IV層はAs-Cが混入されており、縄文時代から古墳時代に形成された層であり、古代までの地山である。

1面目の調査は、この層を地山として、調査を行った。V層、VI層はローム漸移層であり、V層の暗みがかった色調から下層のVI層へと色調が明るくなっている。V層土は、縄文時代面の地山であり、上層面であるIV層土は縄文時代遺物の包含層である。2面目の調査はこのIV層土を掘り下げて行った。IV層土から縄文時代早期から後期にかけての土器片、石器類が検出された。これは縄文包含層として第3章第9節にて報告した。

A地点とB地点では、1面目の確認面での標高が約2.28m B地点の方が低い。これは遺跡の東側にある荻窪川に向かって、傾斜がかかっているからである。



第10図 基本土層図

第3章 調査

第1節 調査の概要

調査は、1面がAs-Cの混入する黒色土(標準土層IV層)で古墳時代まで、2面目がその下位のソフトローム上面(標準土層IV層)で縄文時代を、さらに3面目として、ローム層で旧石器時代の本調査を行った。

第1章第3節で述べたように、調査区は大グリッドを使用し、区割りをを行った。遺跡を5区に分けて、調査を行った。縄文時代以降の遺構として検出されたのは以下の通りである。

竪穴住居 27軒(縄文時代3軒、古墳時代8軒、平安時代15軒、詳細時期不明だが古代と思われる住居1軒)

掘立柱建物	2棟
竪穴状遺構	8基
土坑	1429基、このうち20基を報告
溝	8条
道	3条、このうち1条を報告
水田	1面

以下、各時代について概略を記す。

縄文時代

縄文時代の遺構として検出されたのは住居3軒、土坑1409基である。45区で検出された住居は前期・諸磯c期の遺構である。34区から検出された住居2軒は炉以外の住居付帯施設が検出されず、帰属時期を遺構から確認することはできなかった。しかし、住居近隣グリッドより加曽利B1式土器片が検出されており、縄文時代後期加曽利B1式期の住居である可能性が高い。土坑1409基のうち縄文土器片を伴った土坑は13基検出された。縄文前期後半の土坑が8基、後期前半の土坑が2基、後期と考えられる土坑1基、前期もしくは後期と考えられる土坑1基であった。前期後半の土坑は45区低地部に、後期の土坑は低地部及び台地上の34区に分布していた。

古墳時代

古墳時代の遺構として検出されたのは住居8軒、溝1条である。いずれも低地部45区で検出された。住居8軒

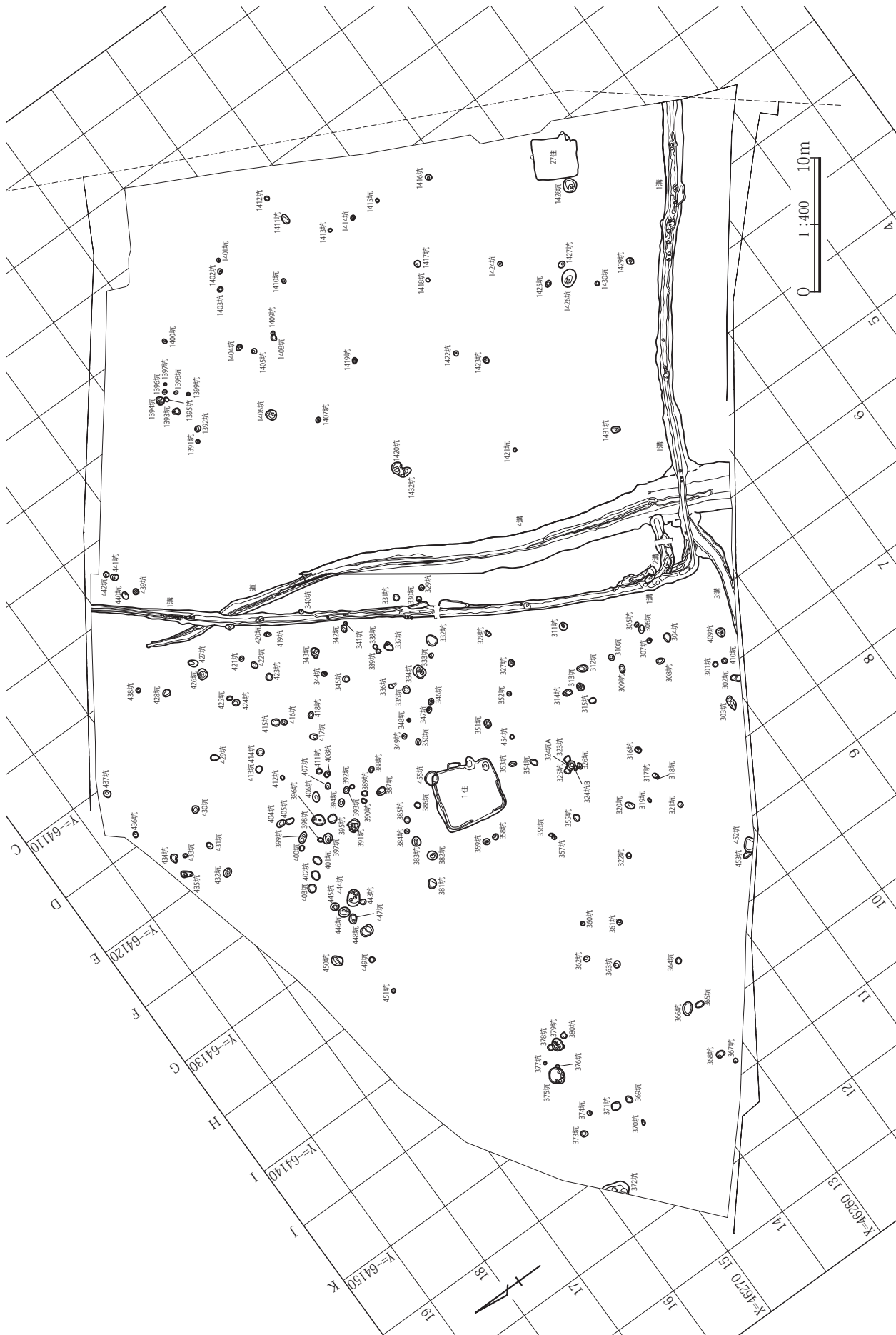
は重複がなく、遺物の特徴から同時期のものである。遺物から古墳時代前期中葉の集落である可能性が高い。45区と五代川を挟んだ西側台地上及び、45区南側一段低い平坦面に古墳時代前期中葉から後葉にかけての集落が展開している。45区の住居群は、これら集落と共時性を持つ可能性が考えられる。

平安時代

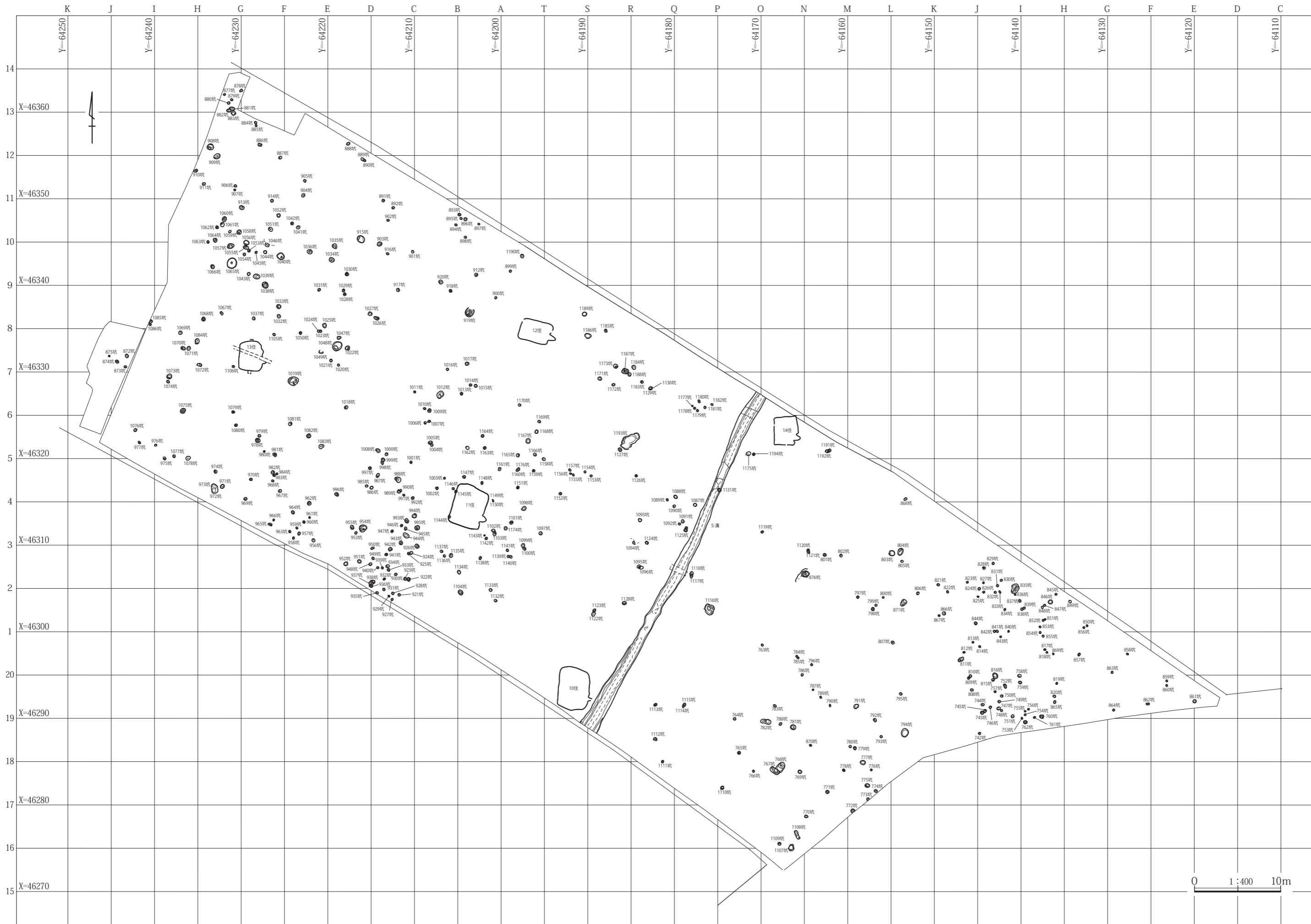
平安時代の遺構として検出されたのは住居15軒・掘立柱建物2棟・鍛冶遺構1基・溝2条・道路状遺構1条である。住居は22区で2軒・32区で5軒・33区で8軒検出した。22区から33区はいずれも台地上である。出土遺物から住居は9世紀後半から10世紀にかけて営まれていたものと考えられる。27号住居から西端の9号住居までは約200m離れており、この範囲で集落を形成していたと考えられる。鍛冶遺構は出土遺物から集落と同時期のものと考えられる。その位置は33区北西端であり、この集落の外れにあたる。本遺跡の台地から五代川を挟んだ西側の台地には、9世紀後葉の住居76軒を検出した芳賀東部団地遺跡がある。

旧石器

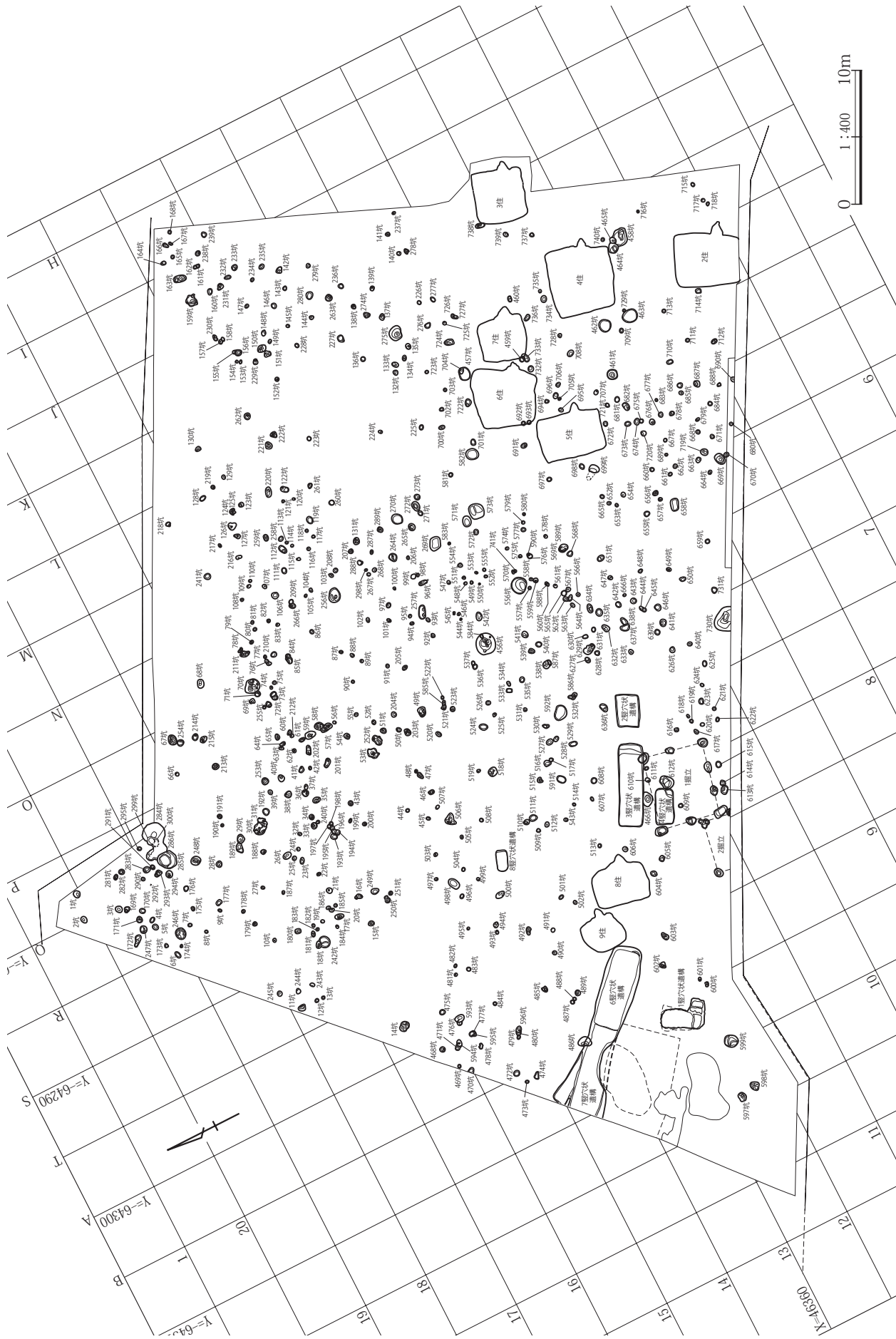
旧石器は5箇所ブロックが検出された。層位は浅間大窪沢第1軽石(As-0k1)下位の槍先形尖頭器(群馬IV期)、自然石のみの浅間板鼻褐色軽石(As-BP)層下位(群馬III期)、2ヶ所の暗色帯中(群馬II期)が出土した。旧石器調査の成果については、『上武道路旧石器編』(2012群埋文)にて、報告している。



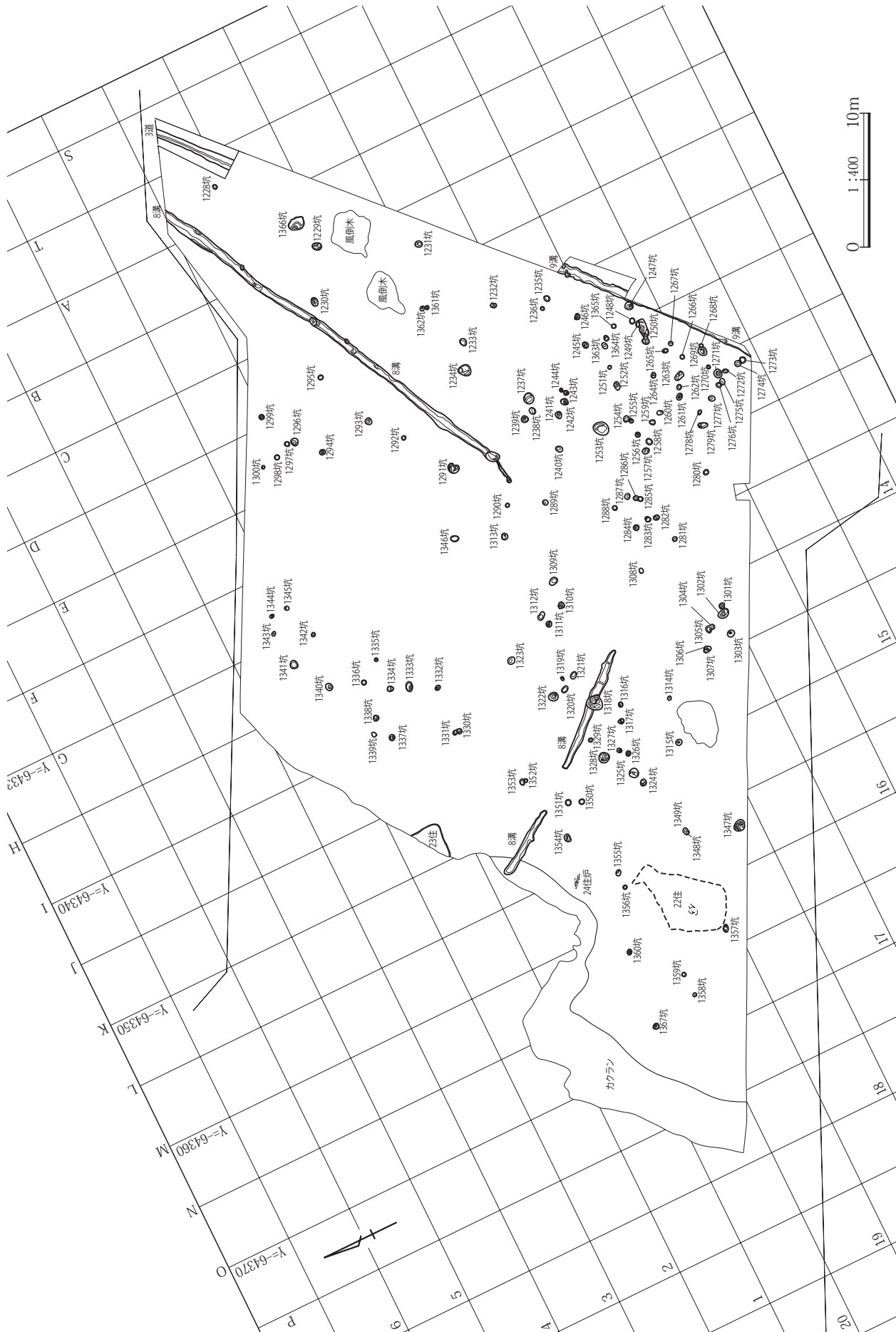
第11図 22区遺構全体図



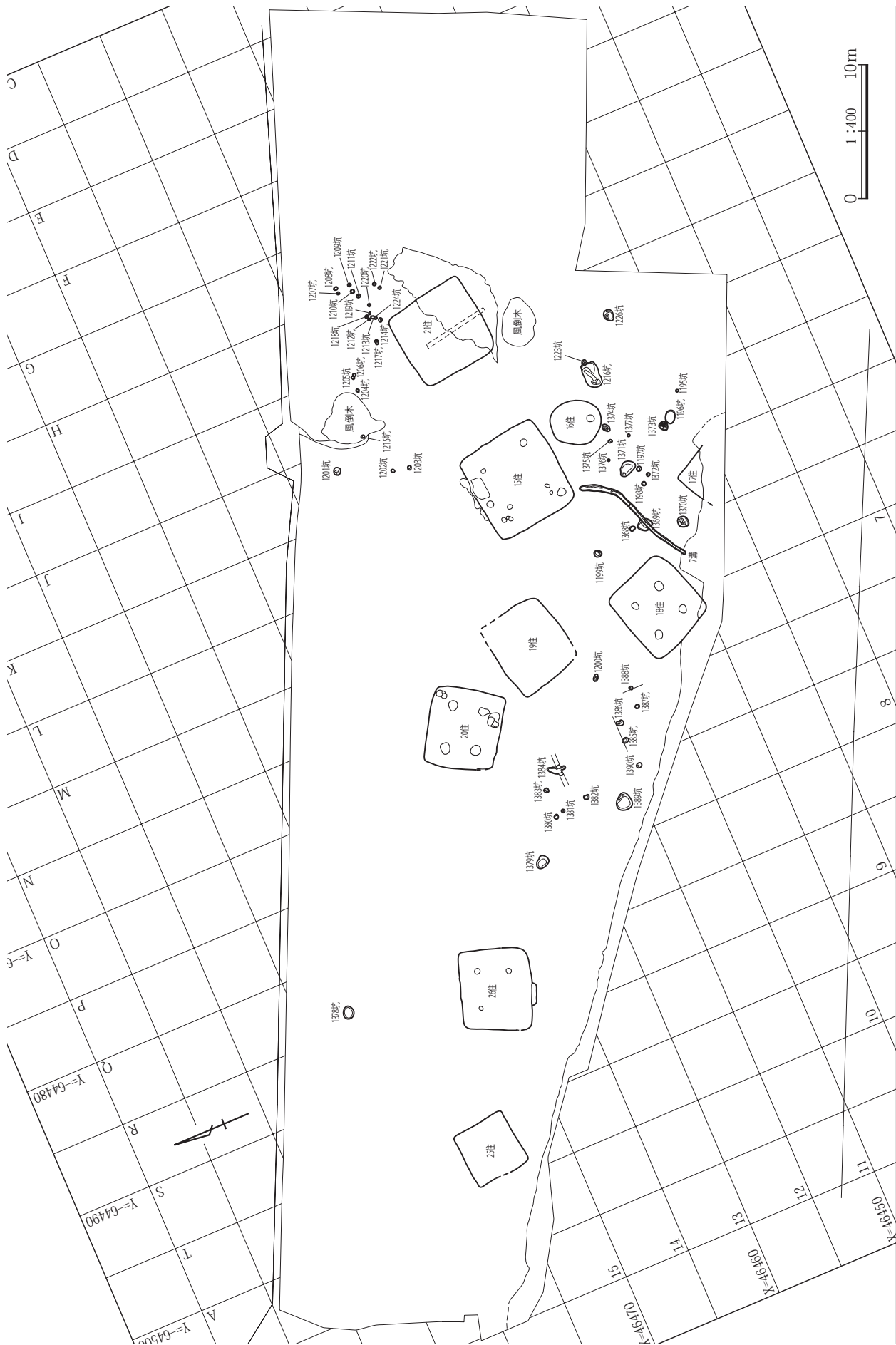
第12图 32区遺構全体图



第13図 33区遺構全体図



第14図 34区遺構全体図



第15図 45区遺構全体図

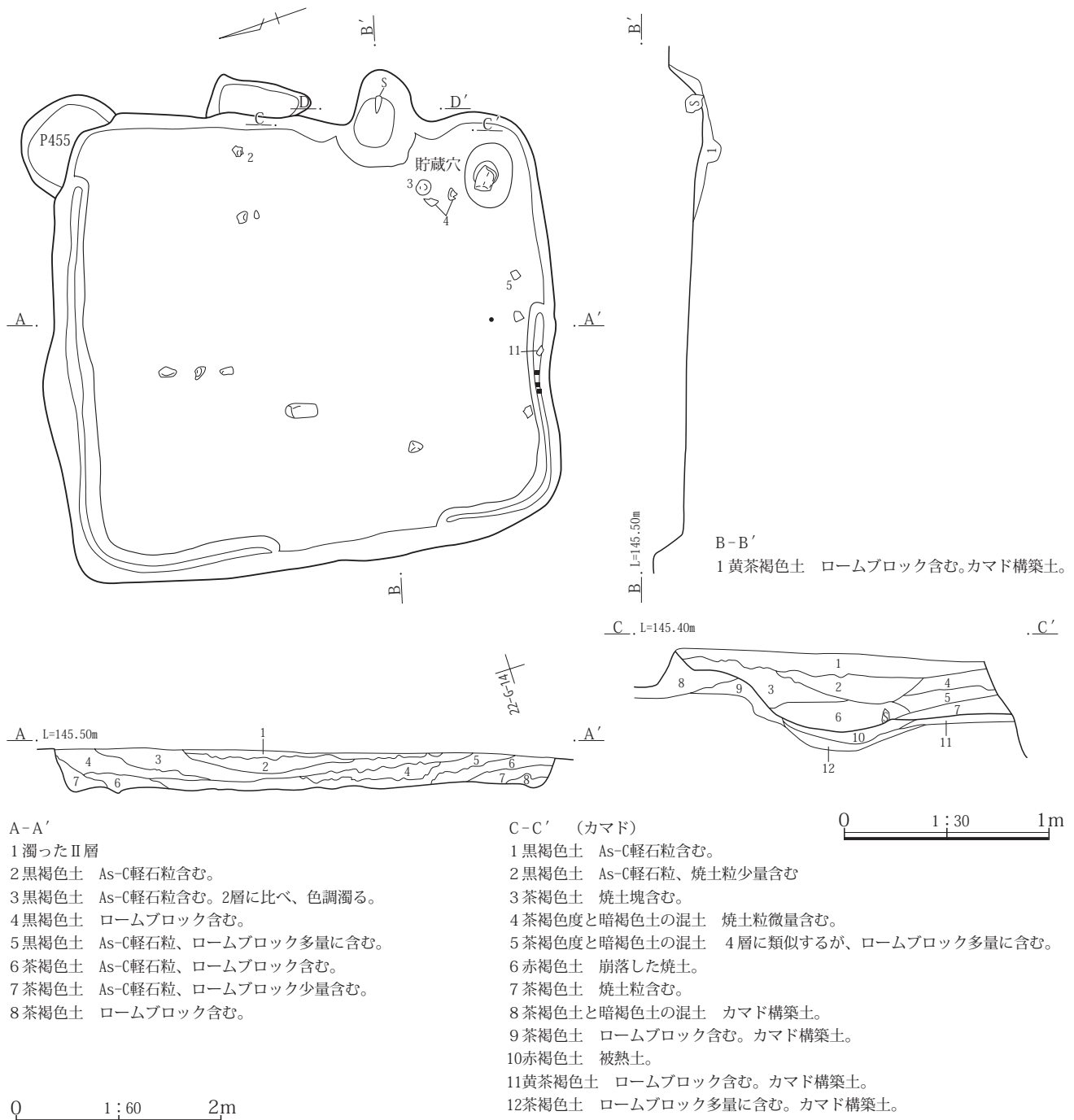
第2節 竪穴住居

竪穴住居は27軒調査した。調査区別では22区で2軒、32区で5軒、33区で8軒、34区で3軒、45区で9軒である。時代ごとでは縄文時代3軒、古墳時代前期8軒、平安時代15軒、古代と考えられる住居1軒である。縄文時代の住居は前期諸磯期の住居1軒・後期加曾利B1期の住居2軒である。古墳時代の住居は前期中葉・4世紀前

半の時期の住居群であった。平安時代の住居は9世紀後半から10世紀にかけての集落であると考えられる。

時代別の分布は、縄文時代前期の住居は45区、後期の住居は34区であった。古墳時代の住居は45区に集中していた。平安時代の住居は22区・32区・33区に渡っていた。22区では2軒、32区では5軒、33区では8軒分布していた。平安時代の分布の中心は32区・33区であったようである。

以下それぞれの住居について報告する。



第16図 1号住居(1)

1号住居(第16～18図、PL. 5・35)

位置 22G14

形状・規模 隅丸方形を呈し、長軸4.87m、短軸4.78mを測る。

面積 21.29m²

方位 N-19°-E

重複 455号土坑。北東端で重複、1号住居が切る。

埋没土 埋没土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

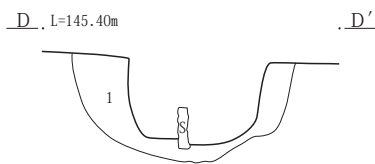
床面 貼り床を構築せず地山を床面として使用していた。床面の確認面からの残存深度は0.39mを測る。壁溝は北壁から西壁にかけて、南西コーナーから南壁にかけての2箇所を確認された。幅0.08m～0.24m、深さ0.01m～0.05mであった。カマド西脇から住居の外に張り出された長軸0.96m、短軸0.45mを測る掘り込みが確認された。掘り込み底面と床面の高低差は0.17mであった。

柱穴 確認されなかった。

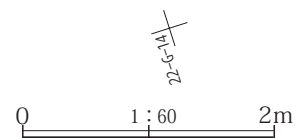
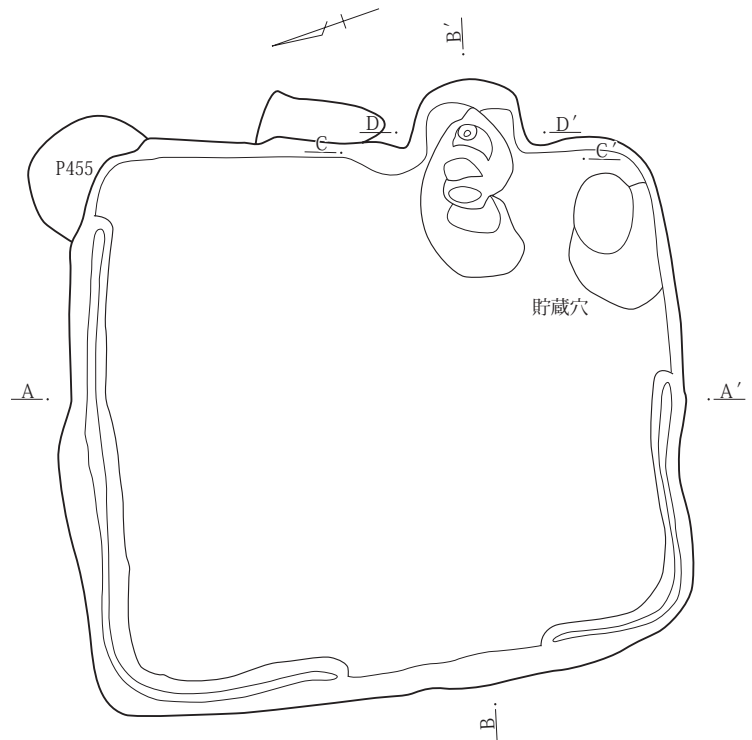
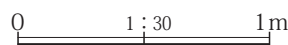
カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長0.94m、屋内長0.42m、屋外長0.52m、焚口部幅0.30m、燃烧部幅0.39m、袖基部幅1.53mを測る。煙道部は確認できず、炊き口部のみ確認できた。袖部残存状況は不良であったが、セクションより左袖部の構築土は確認することができ、ロームブロックを主体とする褐色土を用いて作られたと考えられる。焚口部・燃烧部底面は平坦で、立ち上がりは急である。燃烧部底面及び壁面は被熱している状況が残っていた。燃烧部中央奥壁寄りから支脚と考えられる礫を検出している。

貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸0.62m、短軸0.46m、深さ0.13mを測る。

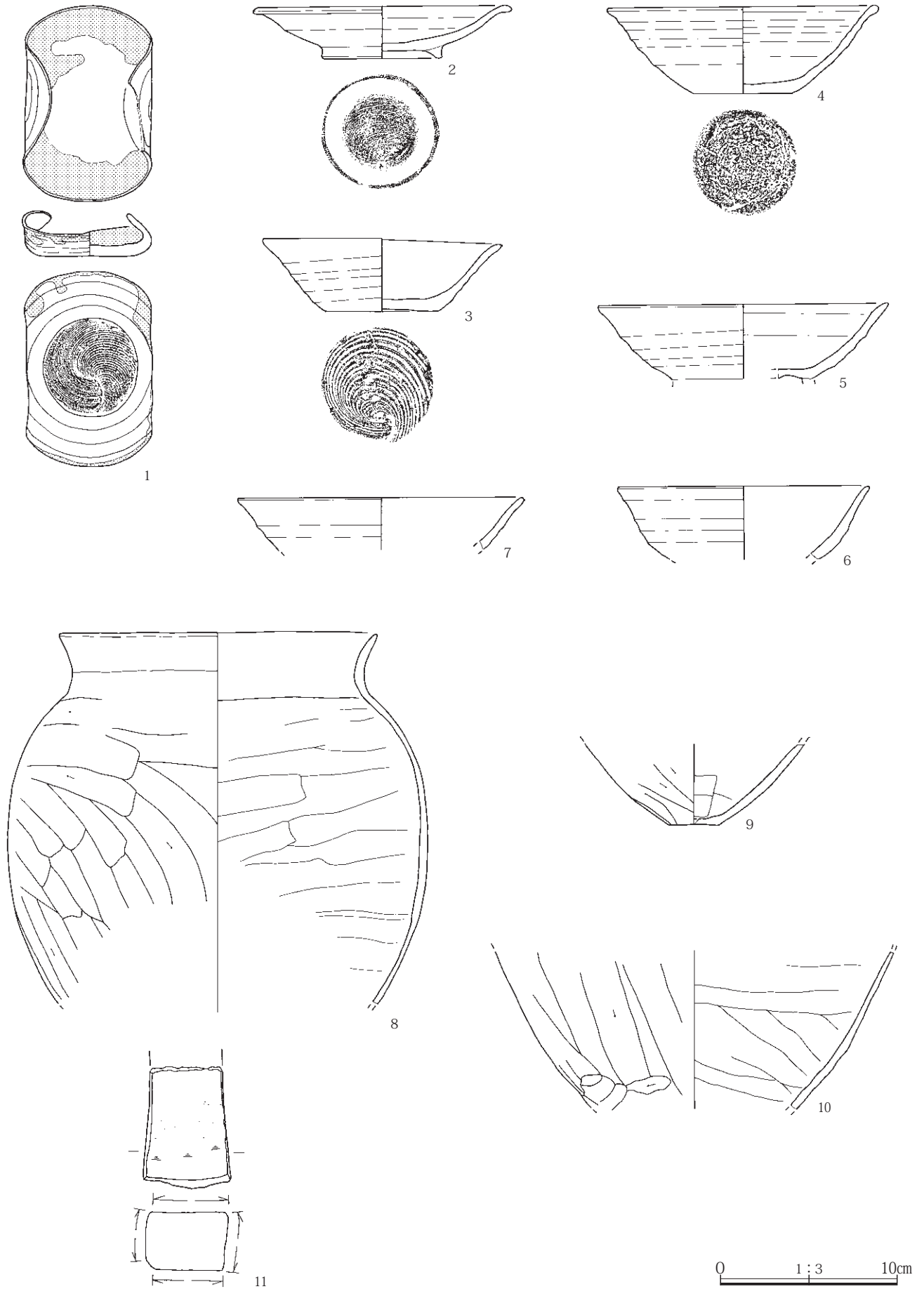
出土遺物 土師器杯3片・甕219片・須恵器杯4片・椀3片・皿1片・灰釉陶器1片を出土した。そのうち図示したものは、灰釉耳皿が1、須恵器皿が2、須恵器杯が3である。4～7は須恵器椀、8～10が土師器甕である。石製品として砥石11が出土している。



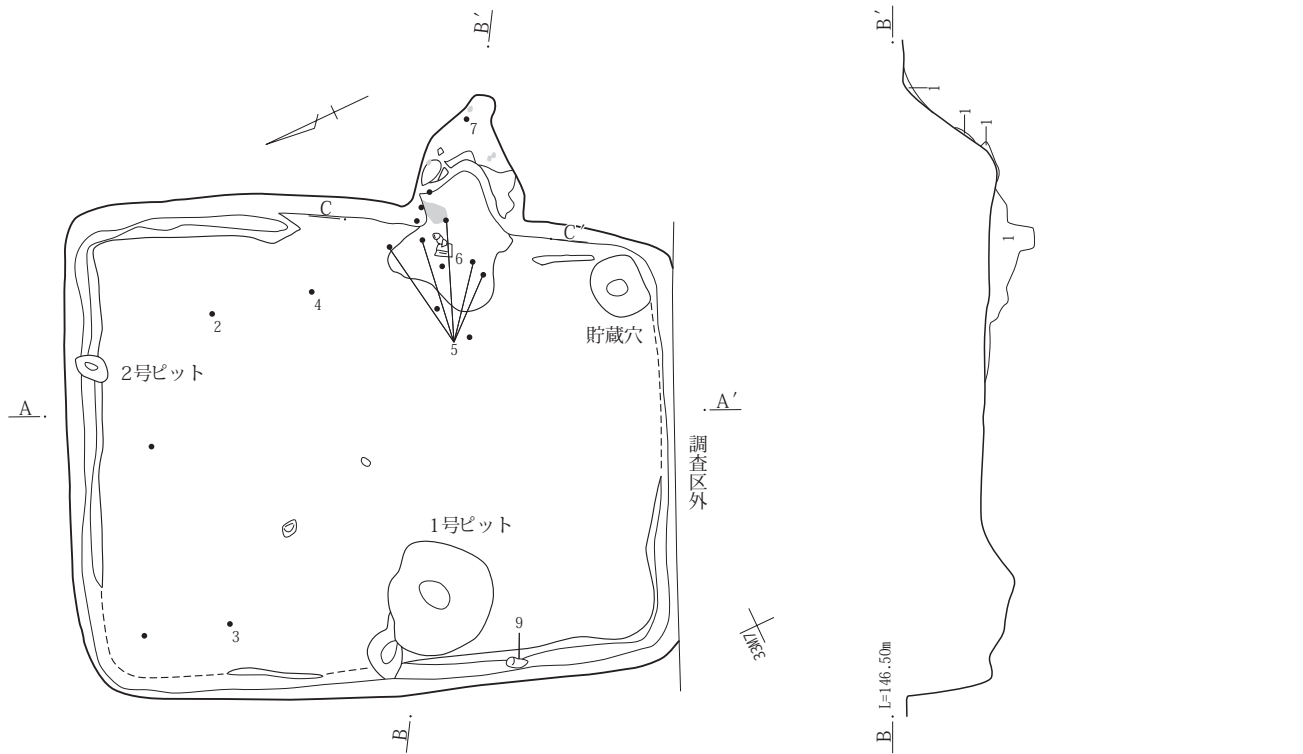
D-D'
1 黄茶褐色土 ロームブロック含む。カマド構築土。



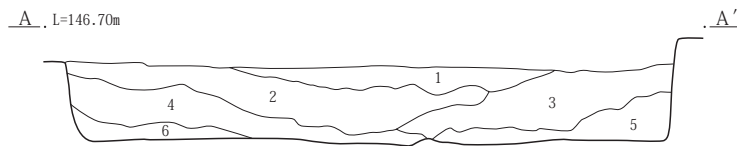
第17図 1号住居(2)



第18図 1号住居出土遺物

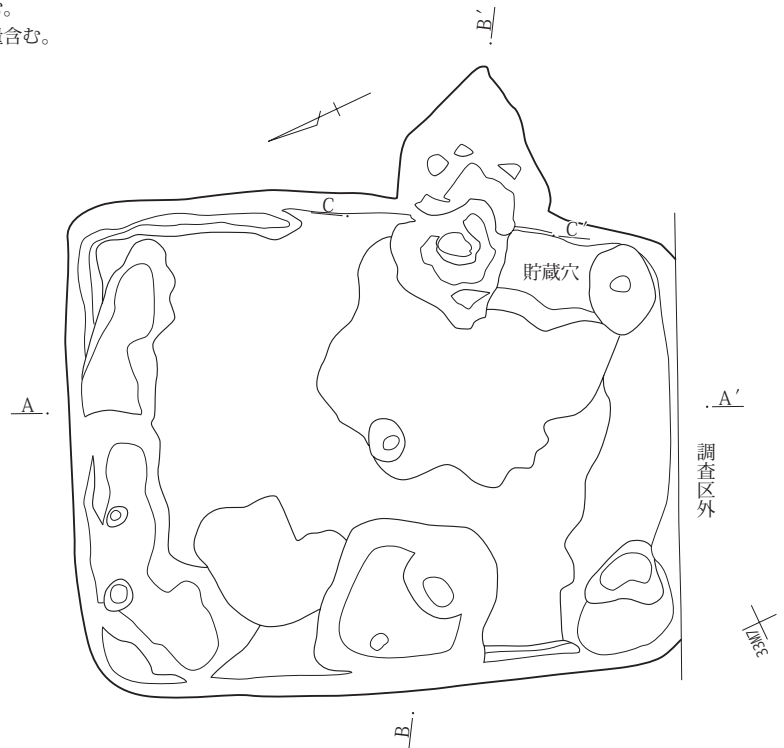


B-B'
1 暗褐色土とロームブロックの混土 カマド掘方埋土。



A-A'

- 1 黒褐色土 As-C軽石粒若干、ロームブロック少量含む。
- 2 黒褐色土 As-C軽石粒、ロームブロック、ローム粒少量含む。
- 3 黒褐色土 As-C軽石粒少量、ロームブロック、ローム粒多量含む。
- 4 黒褐色土 As-C軽石粒若干、ロームブロック微量含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック多量に混ざる。
- 6 灰褐色土 ロームブロック、ローム粒少量含む。



第19図 2号住居(1)

第3章 調査

所見 カマド西側に設けられた掘り込みは住居の付帯施設であり、形状・規模・床面からの高さ等を考えると柵状施設であった可能性が高い。須恵器杯や椀はロクロ整形、底部回転糸切り無調整という技法が取られており、9世紀第四四半期から10世紀第一四半期の所作である。このことから9世紀後半から10世紀初頭の時期の住居跡である。

2号住居(第19～22図、PL. 6・35)

位置 33M 7

形状・規模 隅丸長方形を呈していると考えられ、長軸(4.80)m、短軸3.95mを測る。住居南壁一部が調査区外となっているため、長軸の計測値は推定である。

面積 18.86m²

方位 N-25°-E

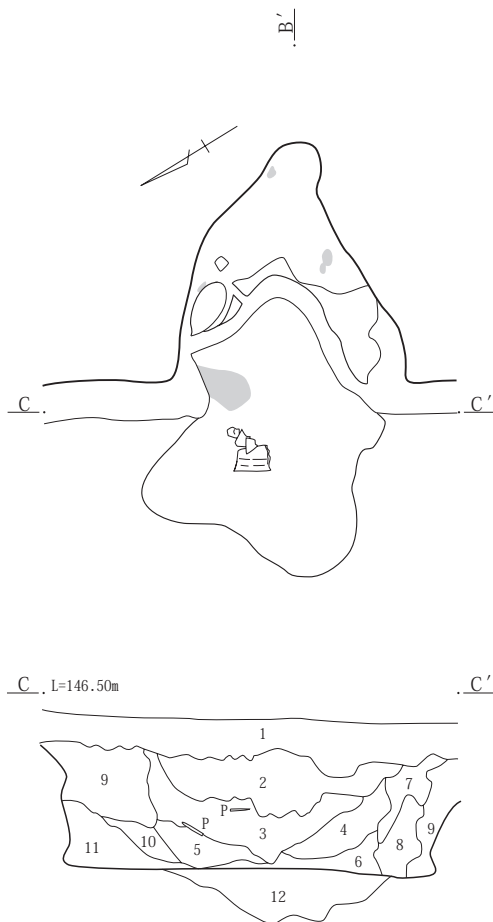
重複 なし

埋没土 As-Cが混入する黒色土を主体とする。埋没土がレンズ状に堆積していることから自然埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土で貼り床が形成され、掘方のカマドの前面部は深く掘り込まれていた。床面の残存深度は0.31mであった。壁溝は北東コーナー、南西コーナーで確認され、幅0.12m～0.21m、深さ0.01m～0.07mであった。西壁寄り中央部より長軸0.90m、短軸0.83m、深さ0.23mを測る1号ピットが確認されたが、用途は不明である。北壁沿いに長軸0.29m、短軸0.18m、深さ0.18mを測る2号ピットを確認した。1号ピット同様用途は不明である。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長1.72m、屋内長0.68m、屋外長1.04m、焚口部幅0.47m、燃烧部幅



C-C' (カマド)

- 1 黒褐色土 As-C軽石粒若干、ロームブロック少量含む。
- 2 黒褐色土 1層に類するが、ロームブロック増す。
- 3 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック混入し、焼土粒含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒含む。
- 8 褐色土 ロームブロックが主体的に混ざる。
- 9 暗褐色土 ロームブロックが多量に混ざる。
- 10 暗褐色土 ロームブロック混入する。
- 11 褐色土 ロームブロックが主体的に混ざる、暗褐色ブロック含む。
- 12 暗褐色土とロームブロックの混土 カマド掘方埋土

0 1:30 1m

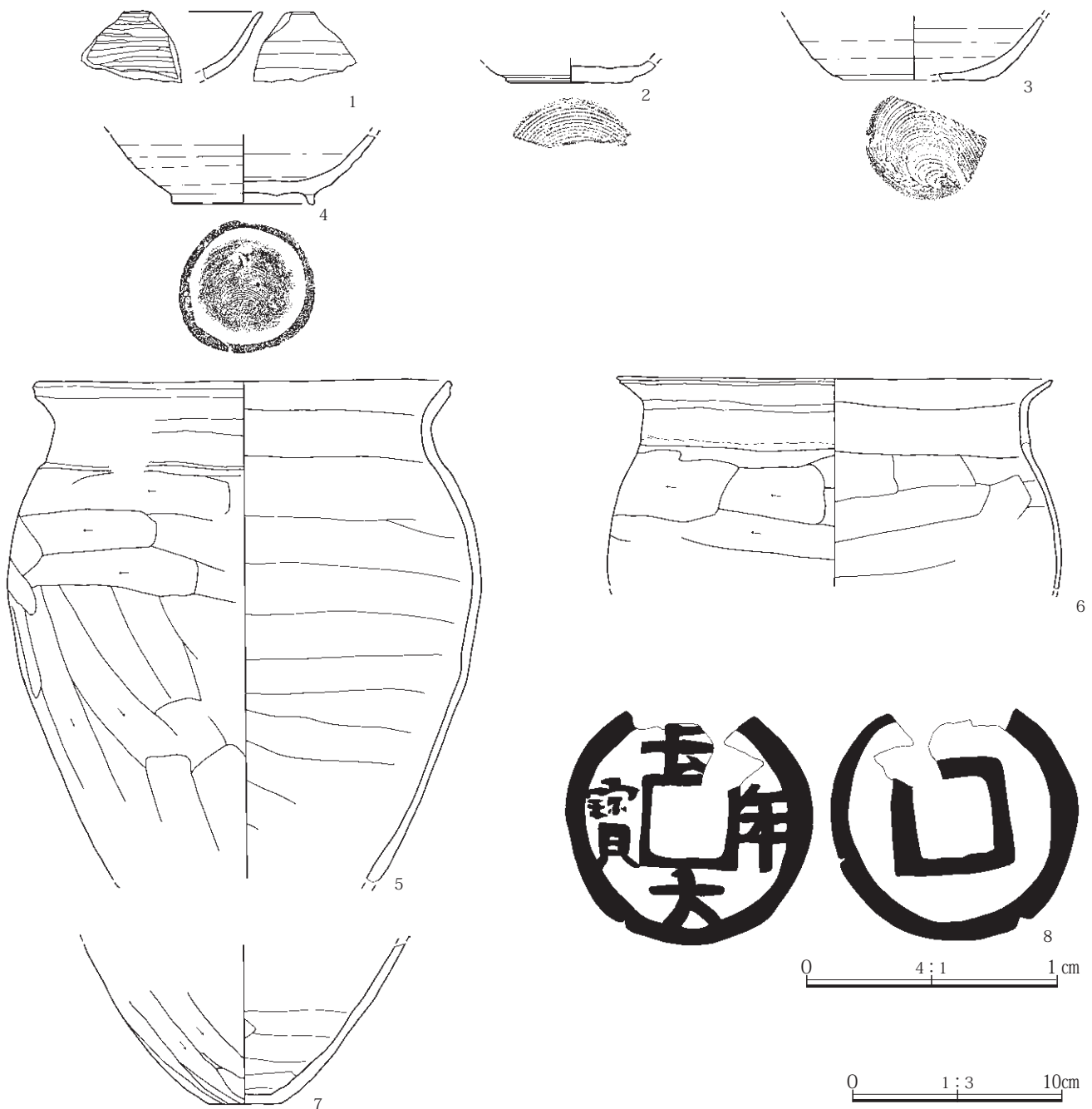
第20図 2号住居(2)

0.72mを測る。ロームブロックを含む暗褐色で袖を構築していたと考えられるが、残存状況はよくなかった。燃烧部底面はやや下がり、立ち上がりは急であった。

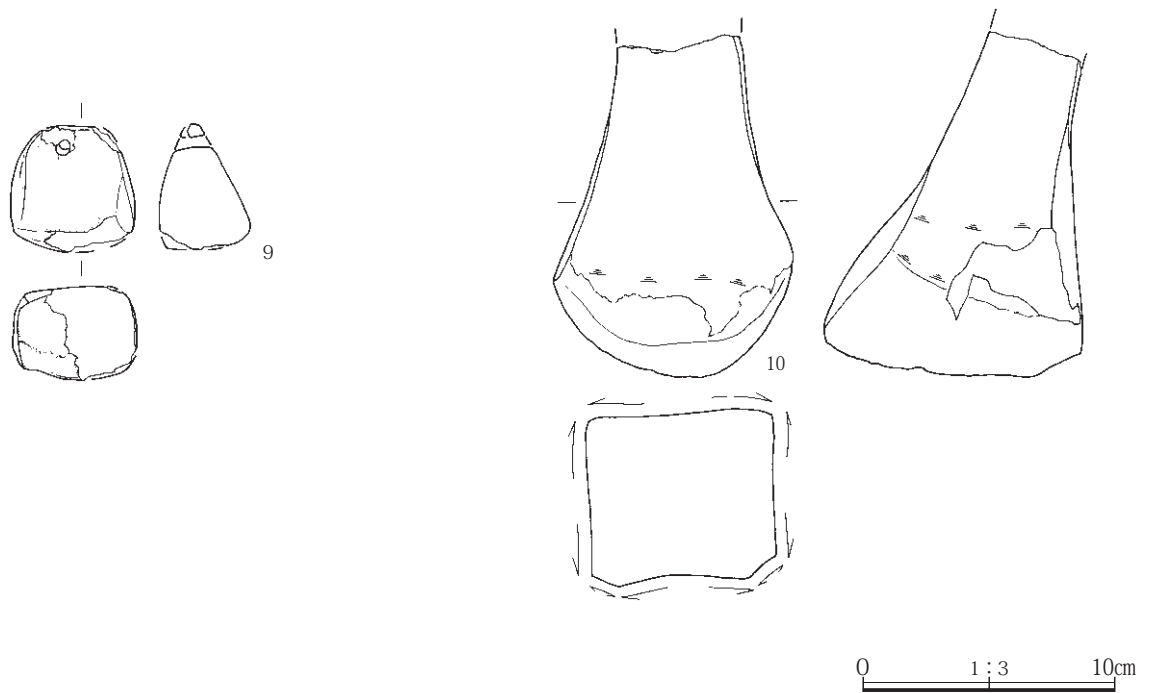
貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸0.50m、短軸0.41m、深さ0.19mであった。

出土遺物 カマド周辺よりまとまって出土した。土師器杯3片・甕106片・須恵器碗18片・瓶2片・皿1点がある。また住居埋没土中より長年大宝1点が出土したが、これは床面直上10cmの埋土洗浄中に出土したものであり、出

土位置等は不明である。また同じく洗浄土中より鍛造剥片が出土している。出土遺物のうち図示したのは黒色土器碗1、須恵器杯2、須恵器碗3・4、カマドより検出した土師器甕5～7、長年大宝8である。また砥石9、石製品10も出土している。石製品は切り砥石状で三角形の断面を呈し、上端に径5mmの孔が両側穿孔している。**所見** 土師器甕・須恵器の形状・技法は9世紀後半である。また長年大宝は鑄造が848年(嘉祥元年)であることから9世紀後半の時期の住居跡であるといえる。



第21図 2号住居出土遺物(1)



第22図 2号住居出土遺物(2)

3号住居(第23～26図、PL. 7・36)

位置 33J 9

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.98m、短軸3.74mを測る。

面積 14.53m²

方位 N-72°-W

重複 なし

埋没土 ロームブロックを主体的に含み、As-Cが少量混入する黒褐色土である。自然埋没土と考えられる。

床面 ロームを含む暗褐色土を掘方として形成されていた。住居中央部やや北よりには長軸1.66m、短軸0.80m、深さ0.66mを測る床下土坑が築かれていた。床面の残存深度は、0.19mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長1.08m、屋内長0.49m、屋外長0.59m、焚口部幅0.36m、燃焼部幅0.66mを測る。粘土で袖を構築していたと考えられるが残っていない。焚口部・燃焼部底面はややくぼんでいるが平坦で、立ち上がりはなだらかである。奥壁及び煙道部左右壁に焼土が確認された。

貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸0.66m、短軸0.52m、深さ0.19mを測る。

出土遺物 出土遺物はカマド及びカマド周辺より出土し

ている。土師器甕193片・須恵器椀7片・瓶1片・灰釉陶器1片を出土した。図示したのは、須恵器椀1・3、須恵器杯2、灰釉陶器椀4、土師器小型甕5、土師器甕6～8である。灰釉陶器椀4は、刷毛塗りで施釉をしていると思われる光ヶ丘1号窯式期のものである。土師器小型甕5はカマド前部より出土しており、内面に煤が付着していた。甕6は9世紀第四四半期、甕7・8は9世紀第三四半期のものかと考えられる。

所見 住居跡の時期は遺物の特徴より9世紀後半の住居跡である。

4号住居(第27～31図、PL. 8・36～38)

位置 33L 9

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.84m、短軸4.71mを測る。

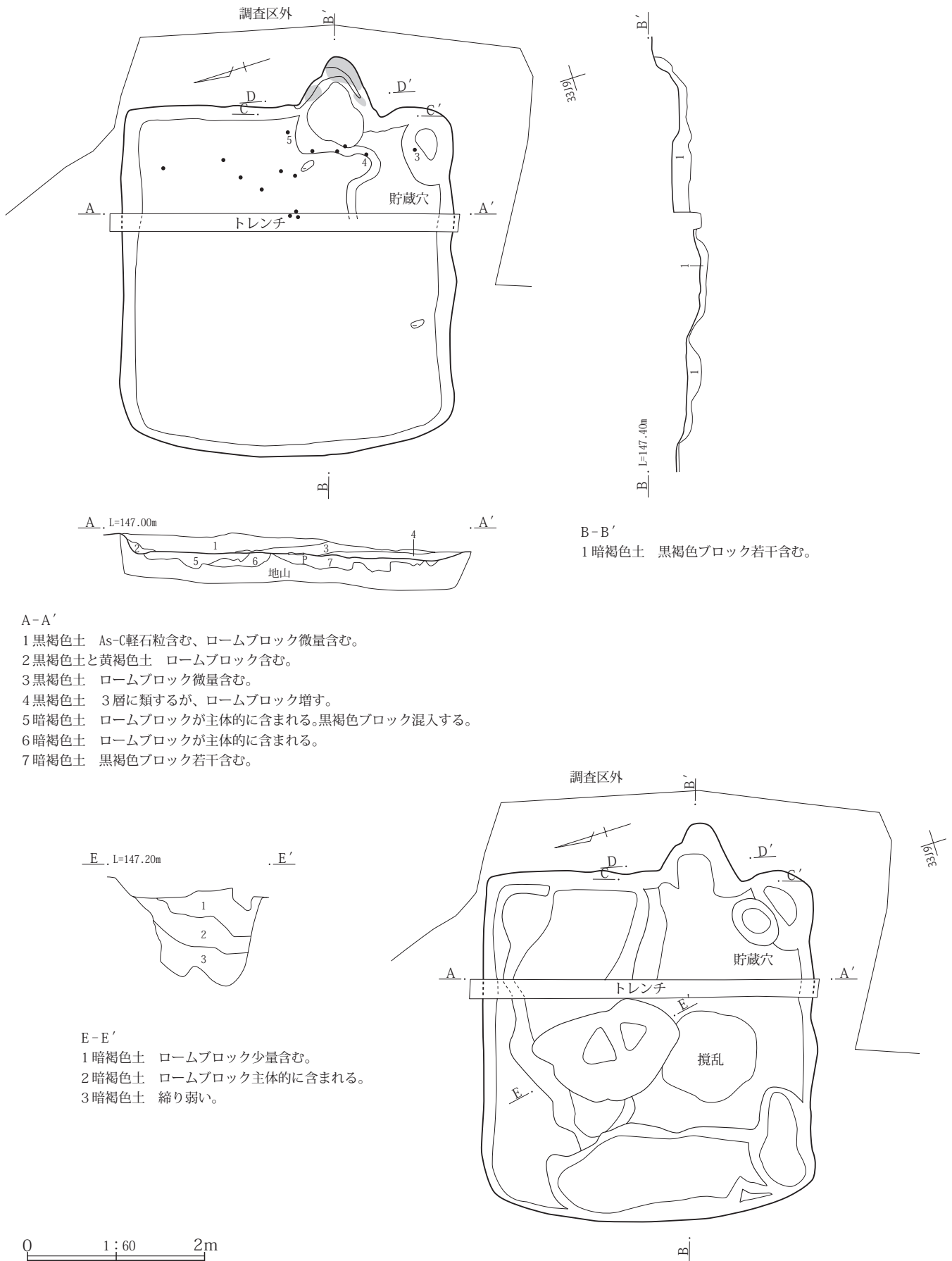
面積 22.69m²

方位 N-71°-W

重複 なし

埋没土 As-Cが混入する黒色土、As-Cが混入する褐色土及びAs-C・ロームブロックが混入する暗褐色土である。埋没土がレンズ状に堆積していることから自然埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む暗褐色土を掘方として形成



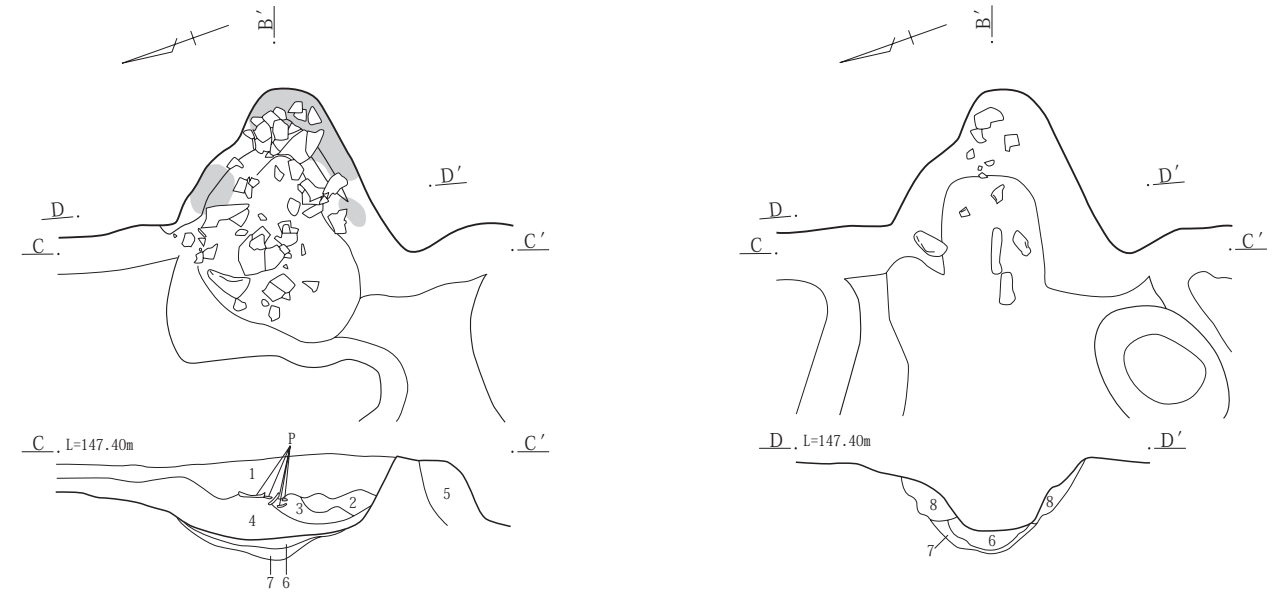
A-A'

- 1 黒褐色土 As-C軽石粒含む、ロームブロック微量含む。
- 2 黒褐色土と黄褐色土 ロームブロック含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック微量含む。
- 4 黒褐色土 3層に類するが、ロームブロック増す。
- 5 暗褐色土 ロームブロックが主体的に含まれる。黒褐色ブロック混入する。
- 6 暗褐色土 ロームブロックが主体的に含まれる。
- 7 暗褐色土 黒褐色ブロック若干含む。

E-E'

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック主体的に含まれる。
- 3 暗褐色土 締め弱い。

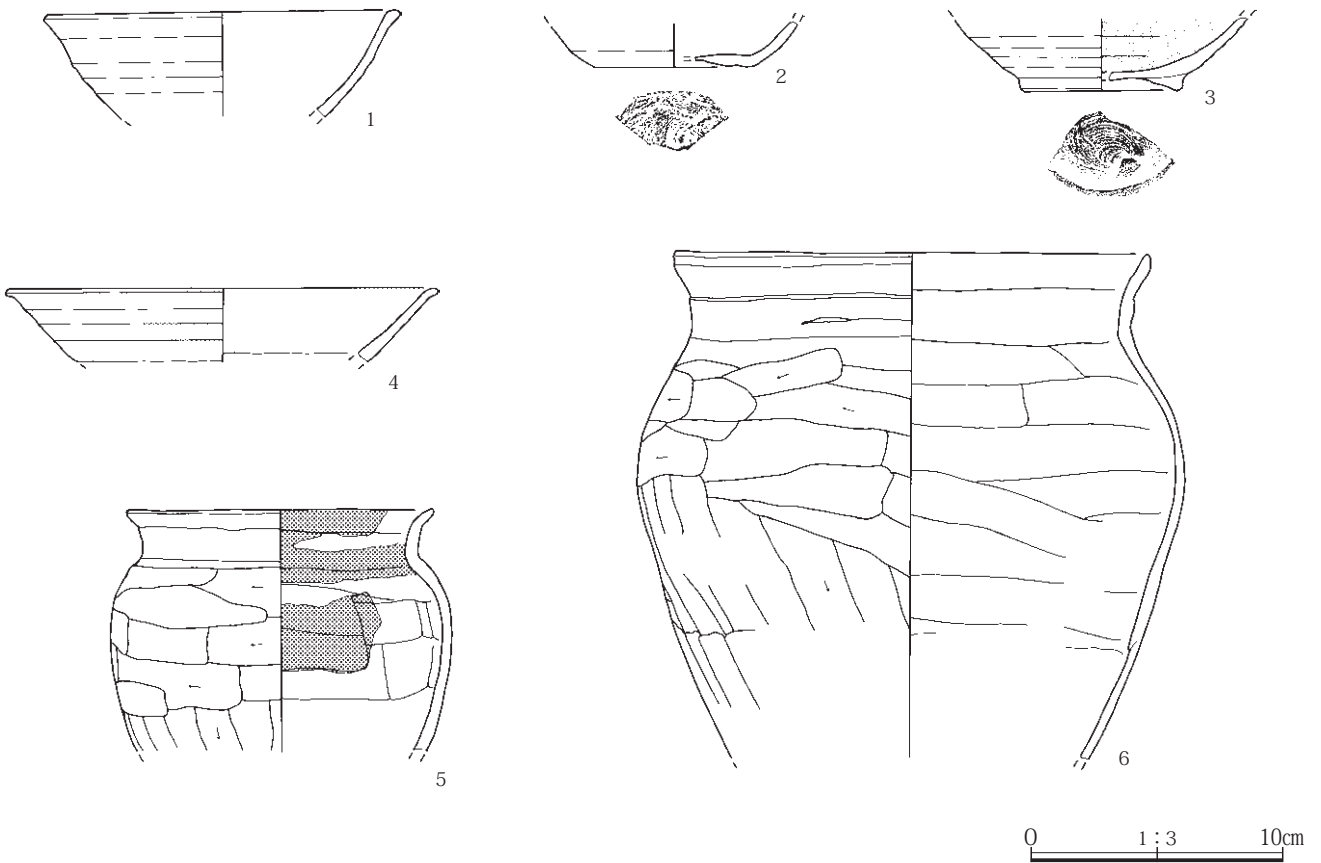
第23図 3号住居(1)



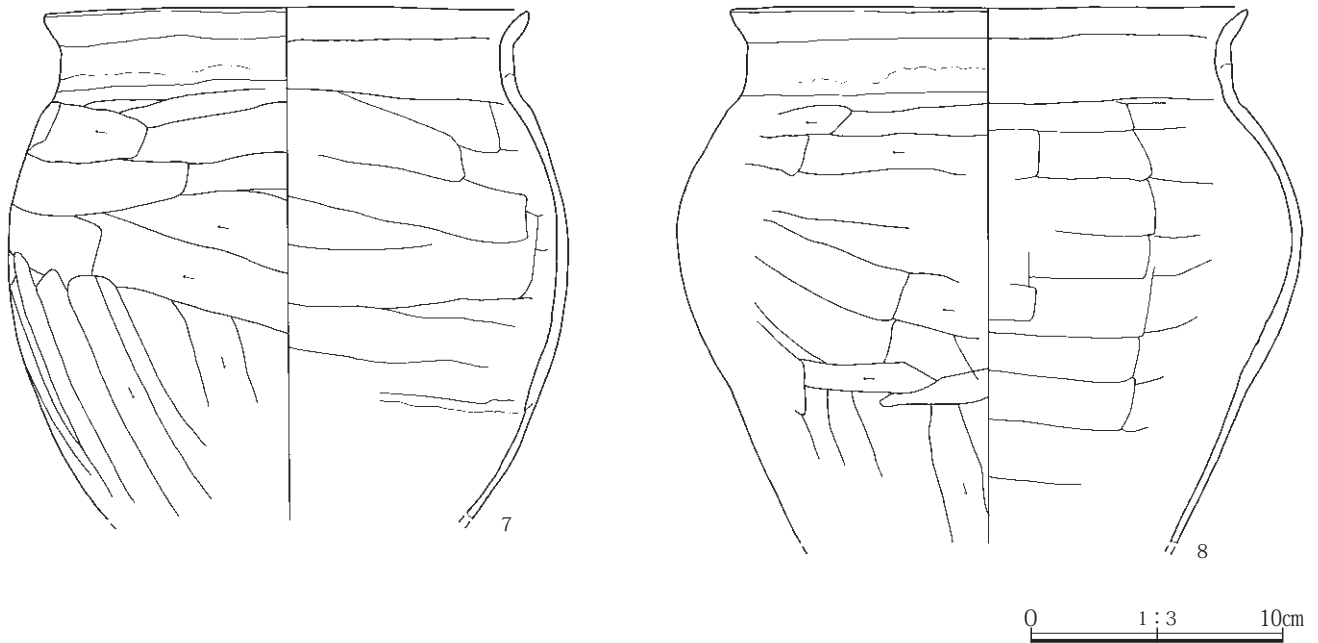
C-C' , D-D'

- 1 黒褐色土 As-C軽石粒微量含む。
- 2 灰褐色土 粘性あり。
- 3 茶褐色土 As-C軽石粒含む。
- 4 暗褐色土 As-C軽石粒微量、焼土粒少量含む。
- 5 黒褐色土 As-C軽石粒微量含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック含むが、6層より割合が多い。
- 8 暗褐色土 焼土粒多く含む。被熱酸化の草木根化が見られる。

第24図 3号住居(2)



第25図 3号住居出土遺物(1)



第26図 3号住居出土遺物(2)

されていた。床面の残存深度は0.66mを測る。北西コーナーにて1号ピットを確認した。長軸0.64m、短軸0.55m、深さ0.29mを測る。用途は不明である。カマド左脇部では床下土坑が確認され、長軸1.35m、短軸0.92m、深さ0.14mを測る。壁溝は南東隅を除きほぼ全周で確認することができた。幅0.08～0.18m、深さ0.03～0.32mを測る。壁溝から12基のピットを確認した。1号から13号ピットの計測値は第4表の通りである。

カマド 東壁ほぼ中央部に設置されていた。全長1.72m、屋内長1.10m、屋外長0.62m、焚口部幅0.60m、燃烧部幅0.76m、煙道部幅0.20m、袖基部幅1.30mを測る。袖部の残存状況は良好であり、地山である黄褐色土を構築材として利用し、袖を形成していた。焚口部底面は床面よりやや下がっている。煙道部の奥壁はやや急に立ち上がる。煙道部には焼土が残存していた。

貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸0.95m、短軸0.52m、深さ0.15mを測る。

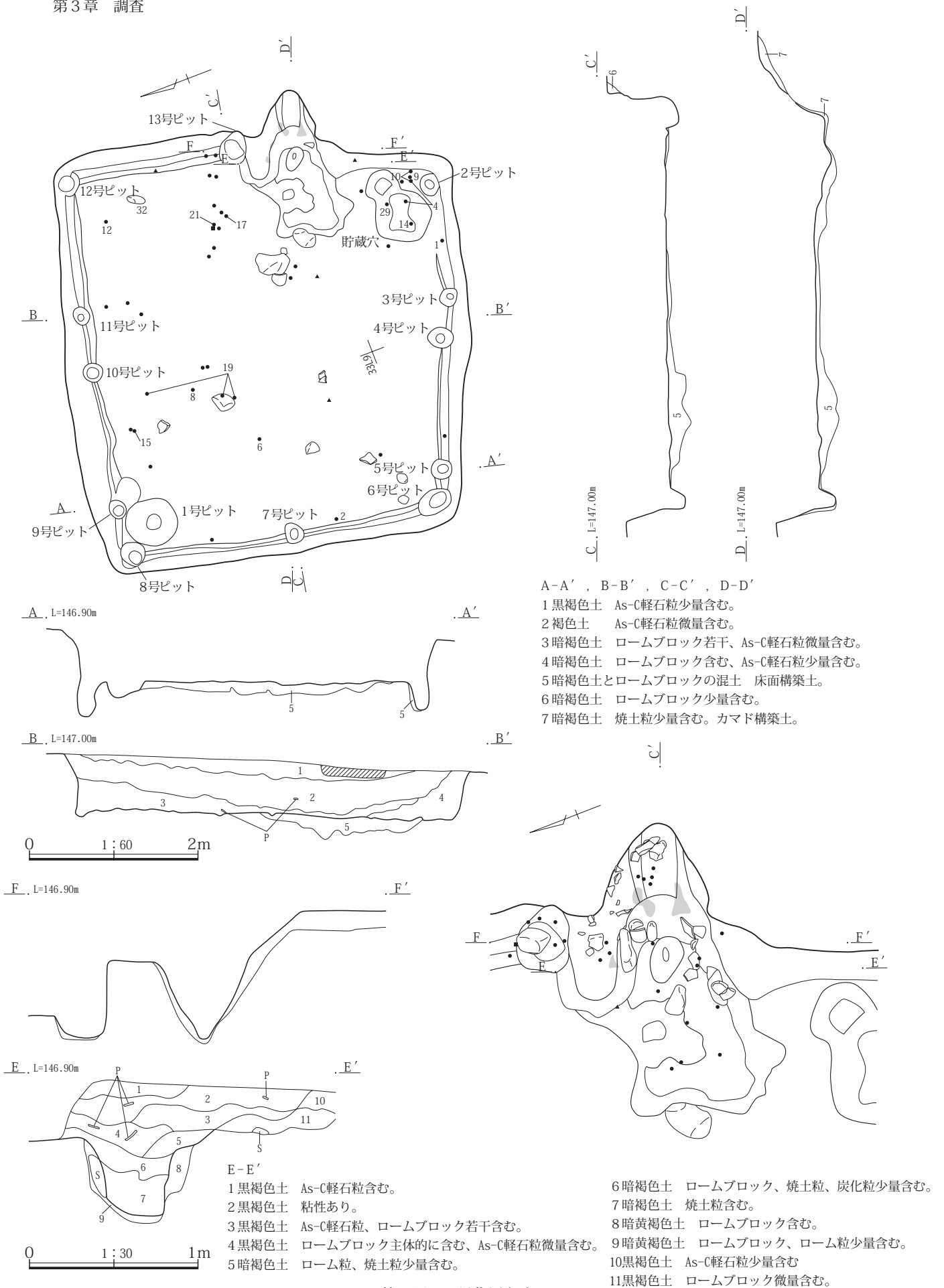
出土遺物 遺物はカマド及びカマド周辺部よりまとまって出土している。土師器杯4片・甕1325片・須恵器杯108片・椀15片・瓶6片・皿1片を出土した。図示したのは土師器杯1～3、須恵器椀4～12・14・15、須恵器杯13、土師器甕16～29、石製品30、敲石31である。土師器甕を14点図示したが、いずれも9世紀第三四半期から第四四半期の特徴を有している。石製品31は柱状を

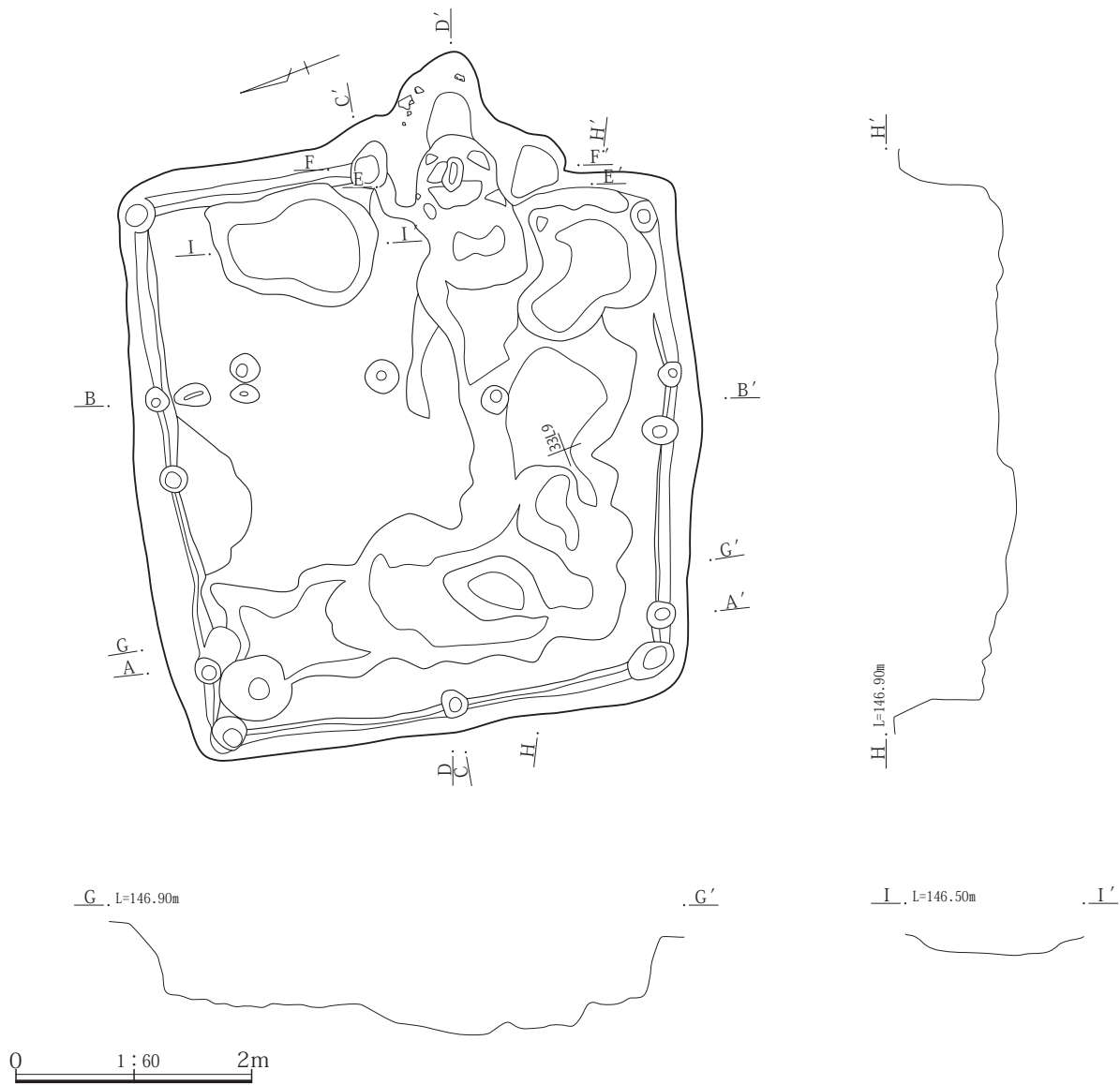
呈し、上端側に浅いU字状の凹線を巡らせている。

所見 周溝上に見られるピットは西壁7号ピットを中心に住居北側と南側で対称に作られている。ピット間の距離は第5表の通りである。間仕切りを作っていた可能性や、壁止めとしての柱を構築していた可能性などが考えられるが、性格は不明である。須恵器の特徴及び土師器甕の特徴を考えると9世紀後半の住居跡と言える。

第4表 4号住居ピット計測値一覧

ピット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
1	0.64	0.55	0.29
2	0.26	0.21	0.11
3	0.23	0.18	0.25
4	0.31	0.24	0.19
5	0.25	0.23	0.31
6	0.43	0.27	0.19
7	0.24	0.21	0.2
8	0.33	0.29	0.16
9	0.24	0.19	0.04
10	0.24	0.23	0.2
11	0.21	0.19	0.33
12	0.31	0.3	0.16
13	0.39	0.33	0.11

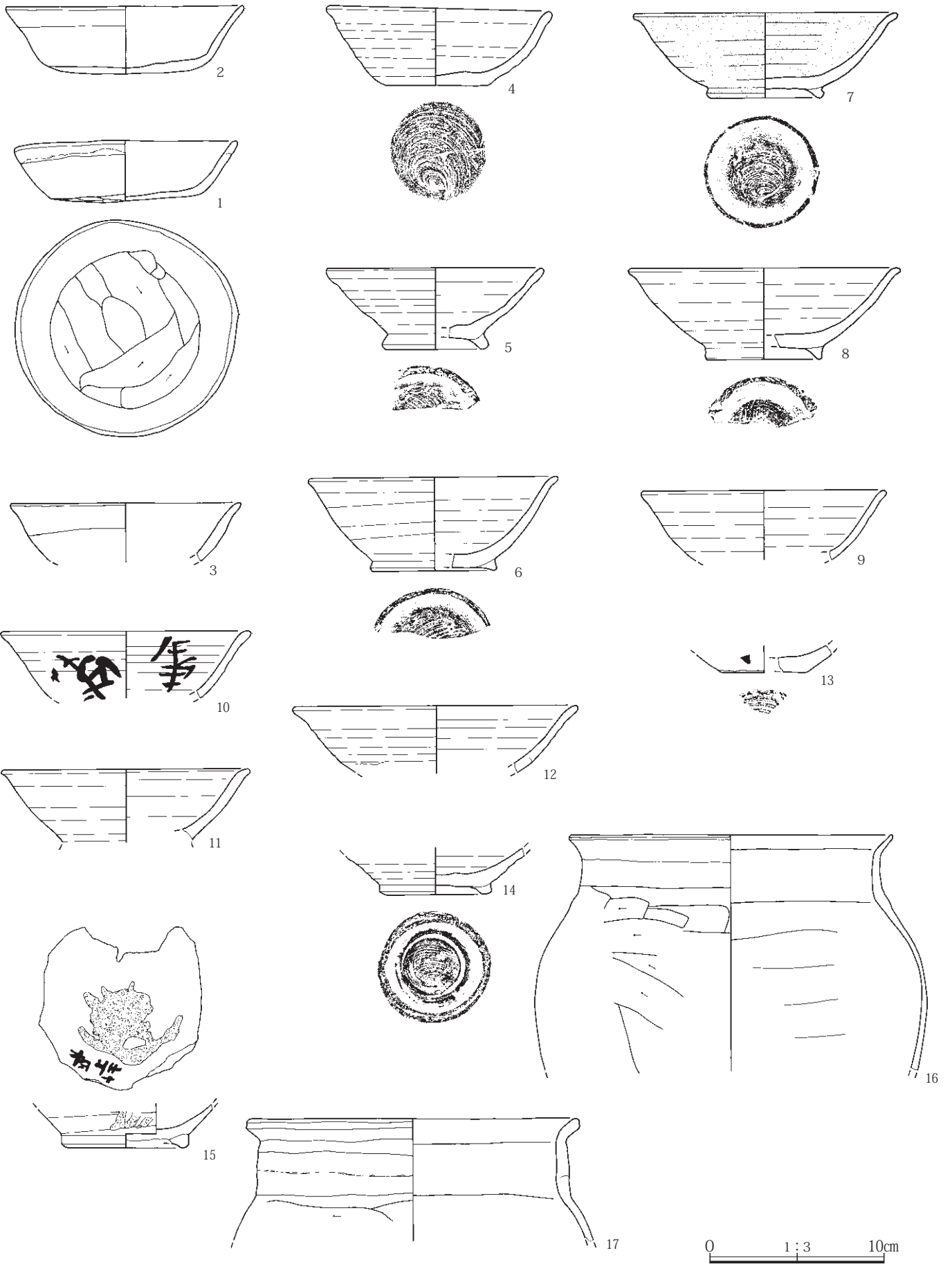




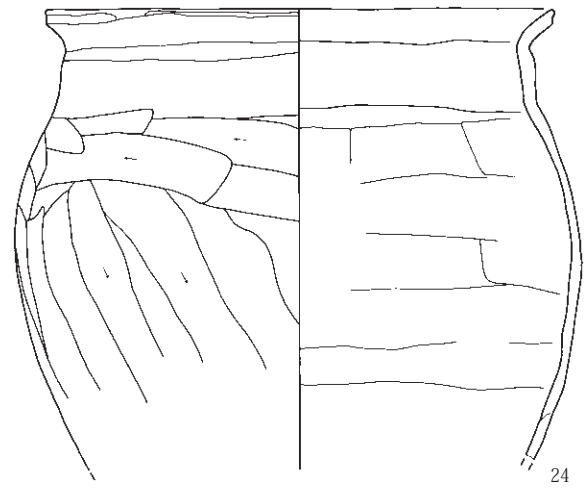
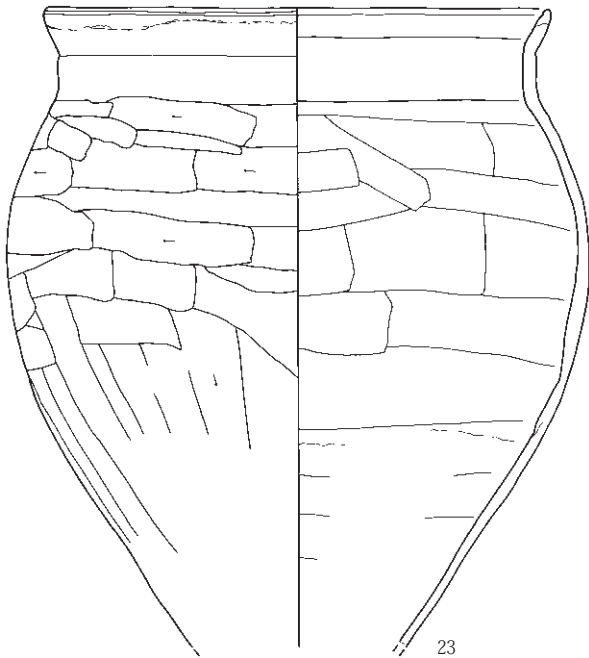
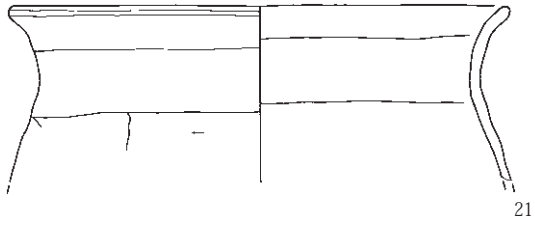
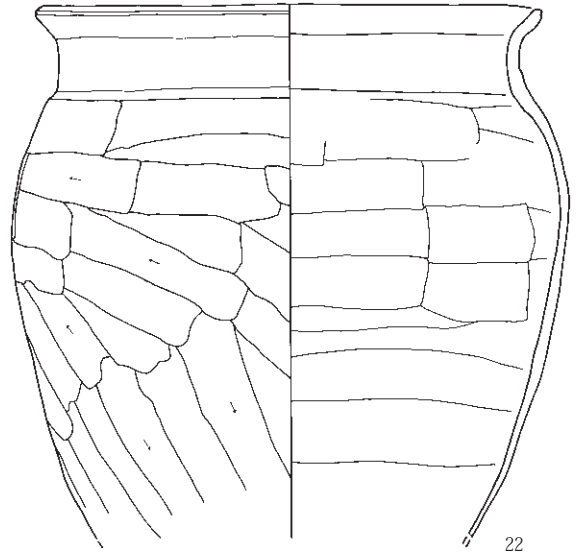
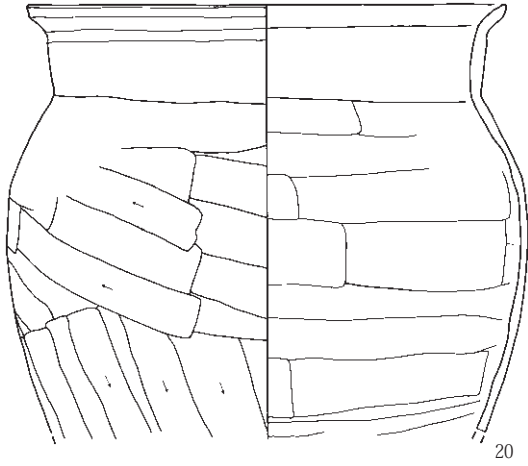
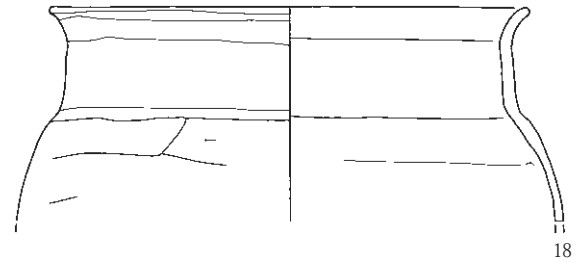
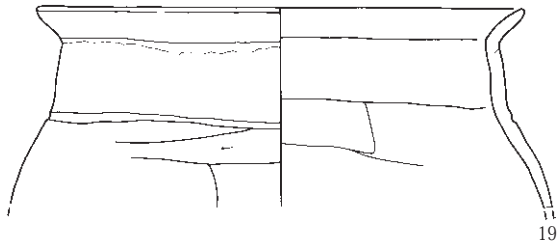
第28図 4号住居(2)

第5表 4号住居ピット間距離一覧

4号住居北側		4号住居南側	
7号ピット-8号ピット	1.94m	7号ピット-6号ピット	1.74m
8号ピット-9号ピット	0.56m	6号ピット-5号ピット	0.37m
9号ピット-10号ピット	1.64m	5号ピット-4号ピット	1.56m
10号ピット-11号ピット	0.67m	4号ピット-3号ピット	0.49m
11号ピット-12号ピット	1.59m	3号ピット-2号ピット	1.38m

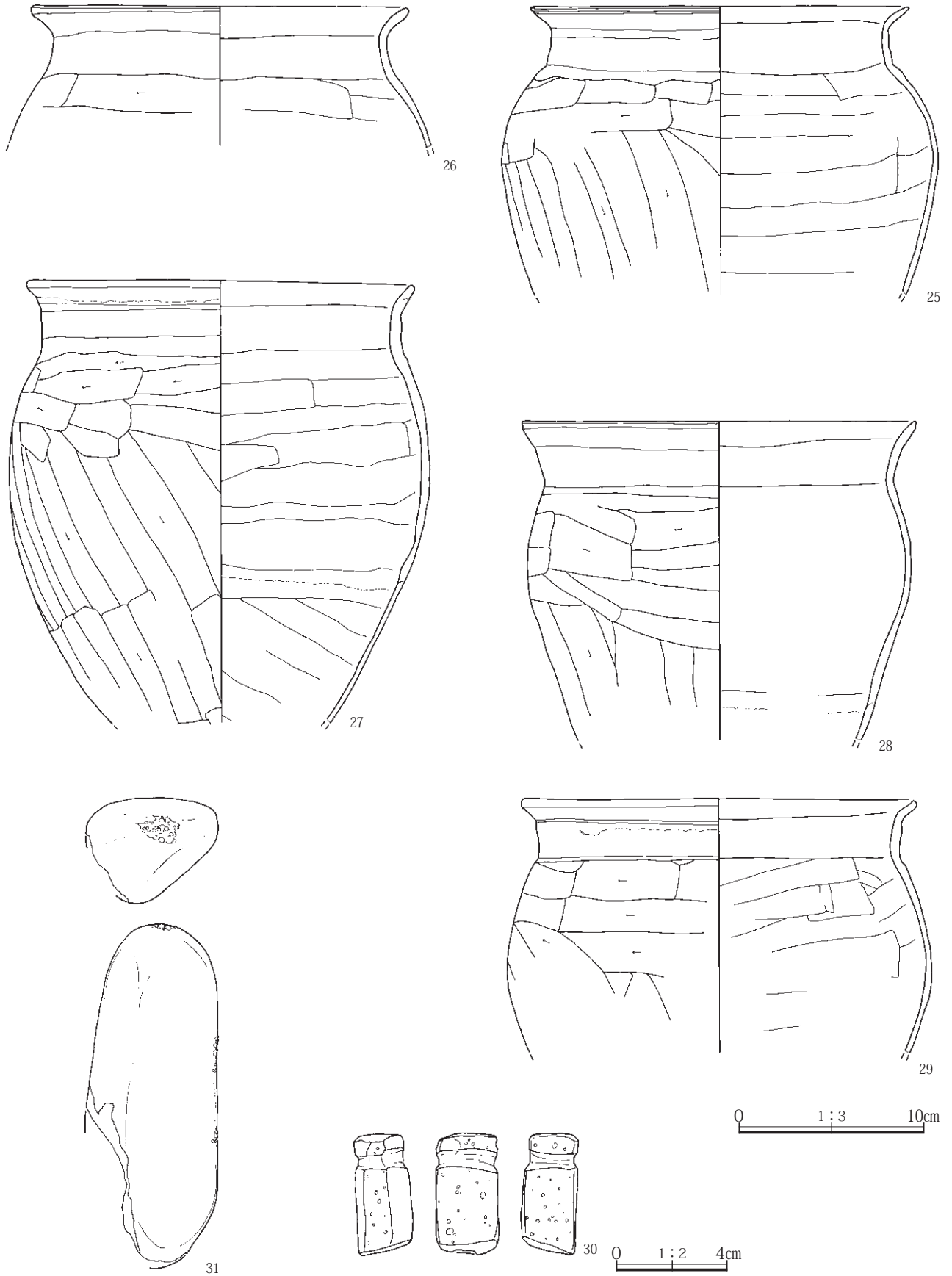


第29図 4号住居出土遺物(1)

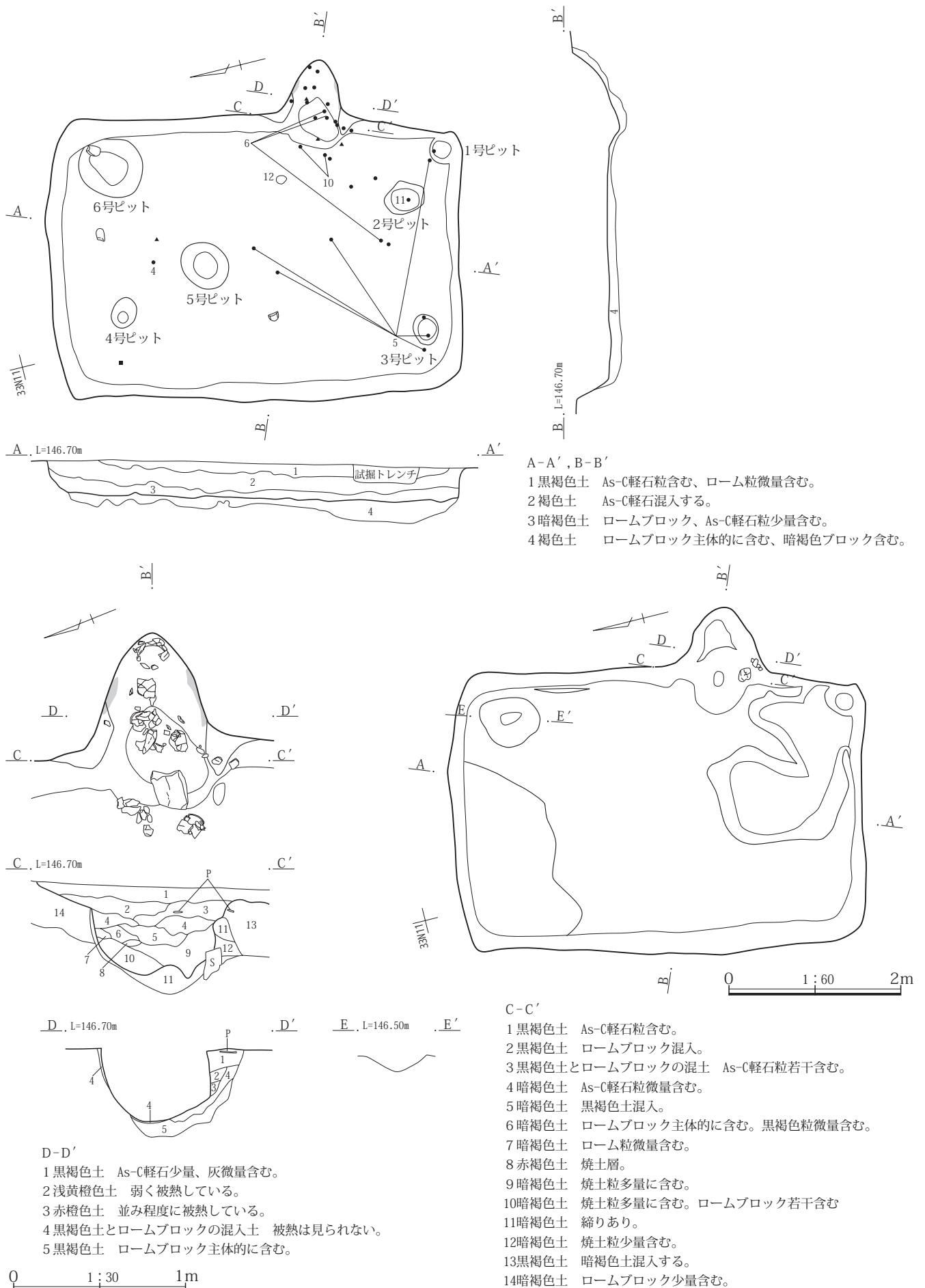


0 1:3 10cm

第30図 4号住居出土遺物(2)



第31図 4号住居出土遺物(3)



第32図 5号住居

第3章 調査

5号住居(第32～35図、PL. 9・38・39)

位置 33N11

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.76m、短軸3.38mを測る。

面積 15.57m²

方位 N-17°-E

重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒褐色土及びロームブロックを含む暗褐色土である。自然埋没土と考えられる。

床面 ロームブロックを含む褐色土を掘方埋土として貼り床が形成されていた。床面の残存深度は0.36mを測る。壁溝は確認されなかった。

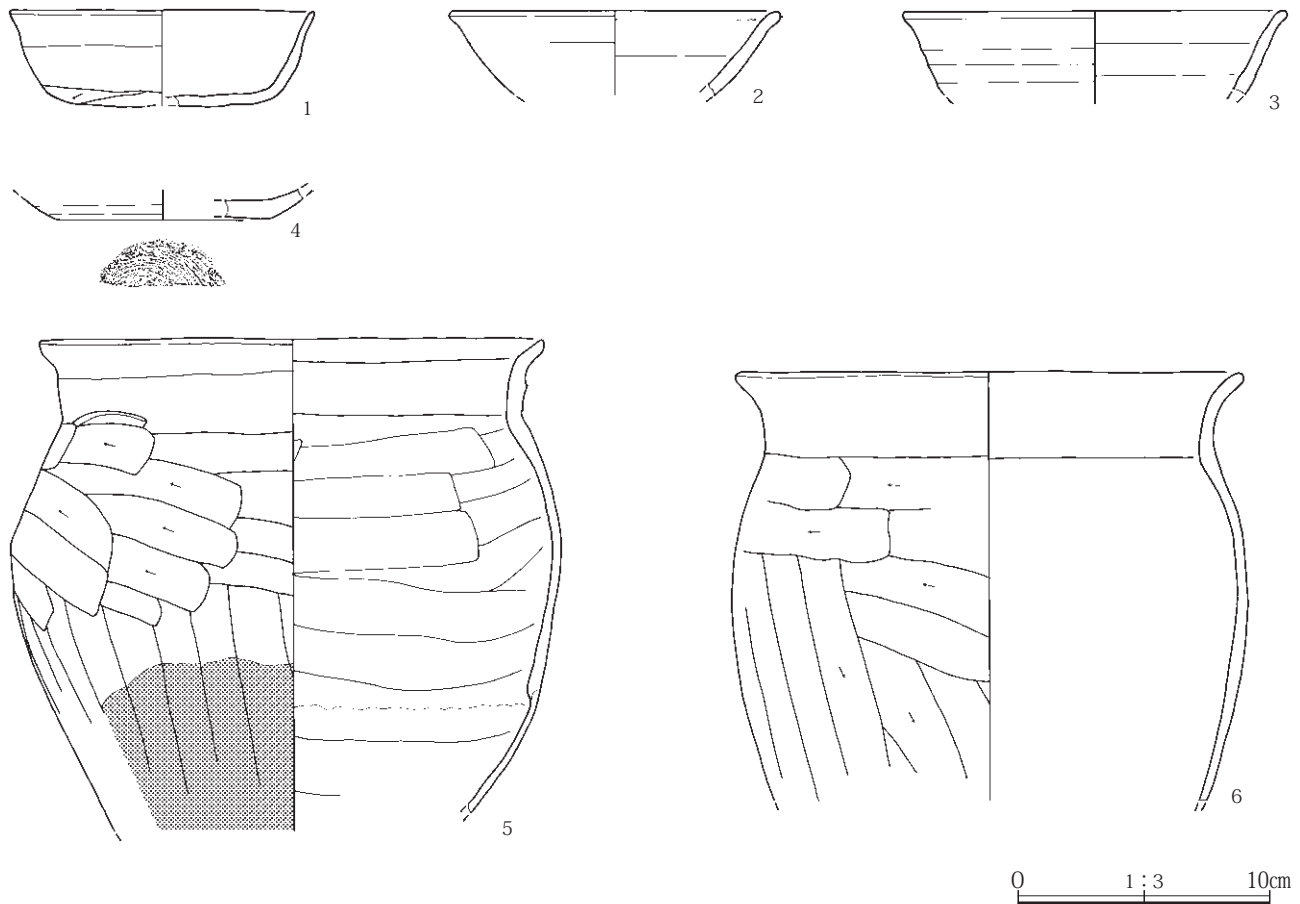
カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長1.00m、屋内長0.36m、屋外長0.64m、焚口部幅0.71m、燃烧部幅0.41mを測る。燃烧部は焚口より0.2mほど掘り下げられていた。奥壁はなだらかに立ち上がっていた。燃烧部左右壁には焼土が残存していた。

貯蔵穴 明確な貯蔵穴は確認されなかった。須恵器甕11

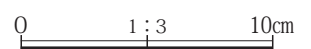
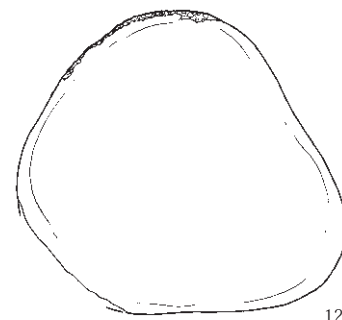
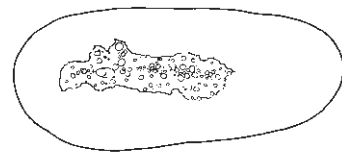
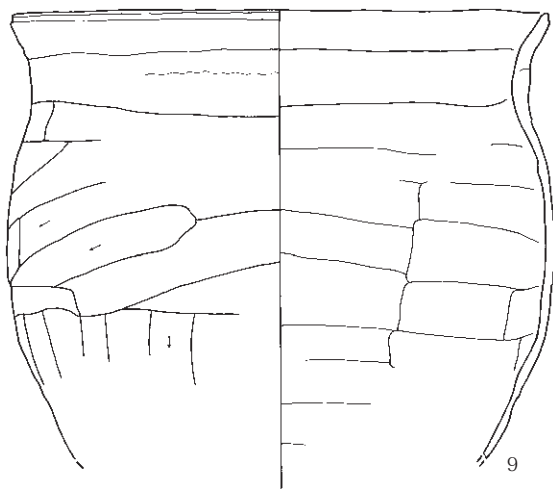
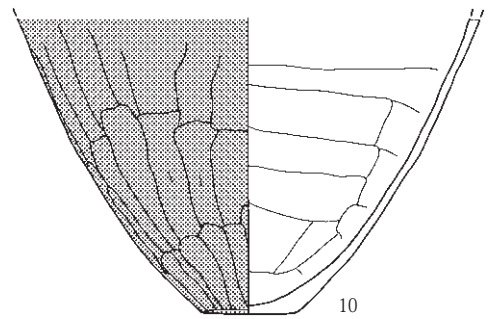
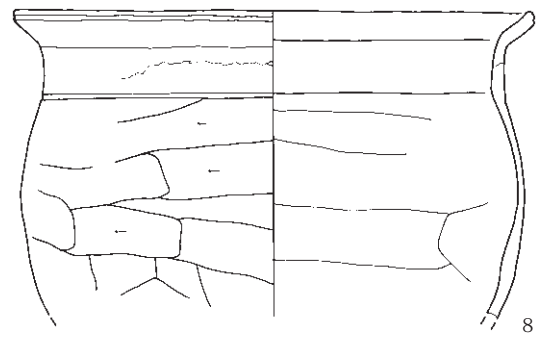
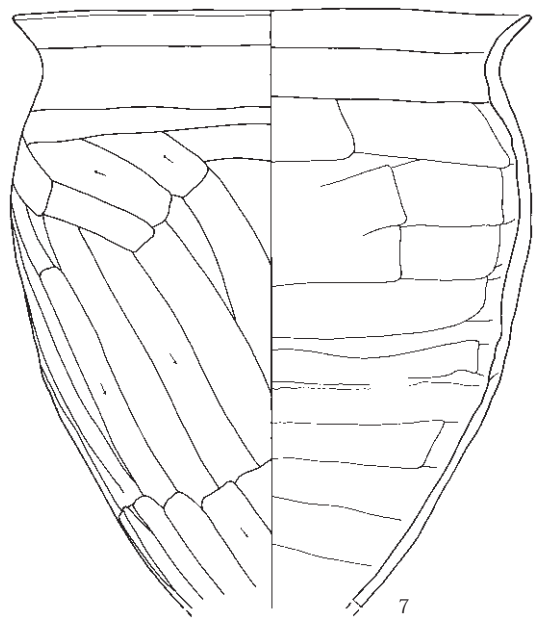
が出土していることから、2号ピットが貯蔵穴であった可能性が高い。

出土遺物 出土遺物はカマドよりまとまって出土している。土師器杯9片・甕490片・須恵器杯23片・椀1片・瓶1片・緑釉陶器1片を出土した。図示したのは土師器杯1、須恵器椀2・3、須恵器杯4、土師器甕5～10、須恵器甕11、敲石12である。カマド使用部から甕片と考えられる土師器片が多く出土したが、結合復元の結果、図示できるものは6のみであった。土師器甕6は口縁部から頸部にかけての形状から9世紀第一四半期に作られたと考えられる。しかし、他の土師器甕・須恵器の特徴は9世紀第三四半期から第四四半期である。

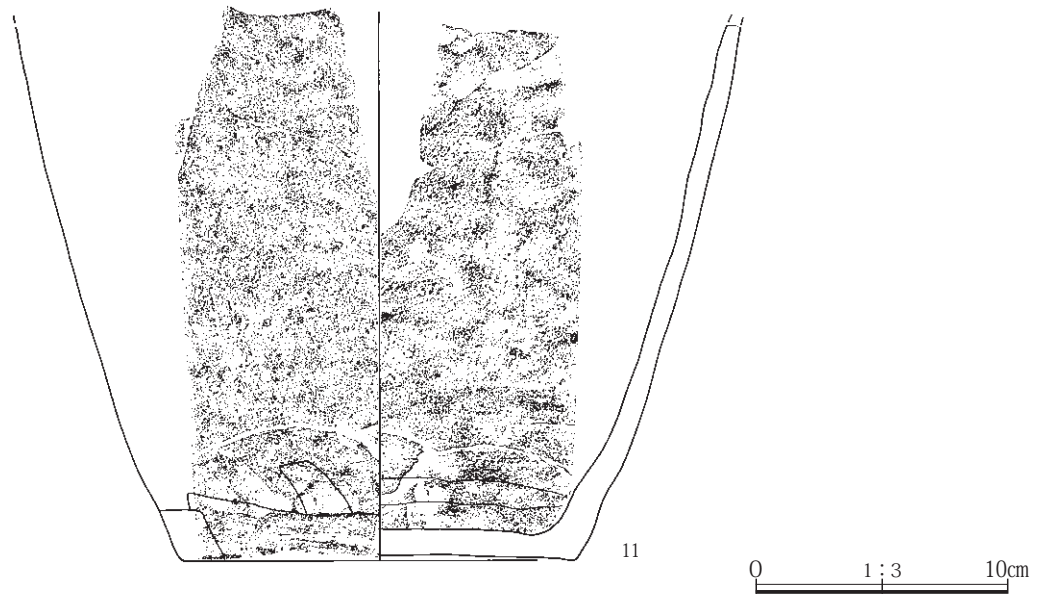
所見 土師器甕6は9世紀第一四半期の特徴を持つ甕であるが、ほかの遺物は総じて9世紀後半のものである。住居の時期は、9世紀後半と考えられるが、9世紀の前半に作られ、9世紀前半から使用されていた可能性も考えられる。



第33図 5号住居出土遺物(1)



第34図 5号住居出土遺物(2)



第35図 5号住居出土遺物(3)

6号住居(第36・37図、PL.10・40)

位置 33M11

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.72m、短軸4.20mを測る。

面積 18.92m²

方位 N-23°-E

重複 なし

埋没土 As-C・ロームブロックを含む黒褐色土であるが、4層はローム粒を多量に含む褐色土である。埋没土から自然埋没であると考えられるが、4層が埋め土であることも考えられ、人為的に埋め戻された可能性も指摘できる。

床面 住居中央部分南寄りでは円形状に掘りくぼめた掘方を有しているが、そのほかは地山を床面として使用していた。残存深度は0.64mを測る。壁溝は南西コーナーから時計回りに北東コーナーまで確認され、幅0.06m～0.20m、深さ0.01m～0.23mを測る。

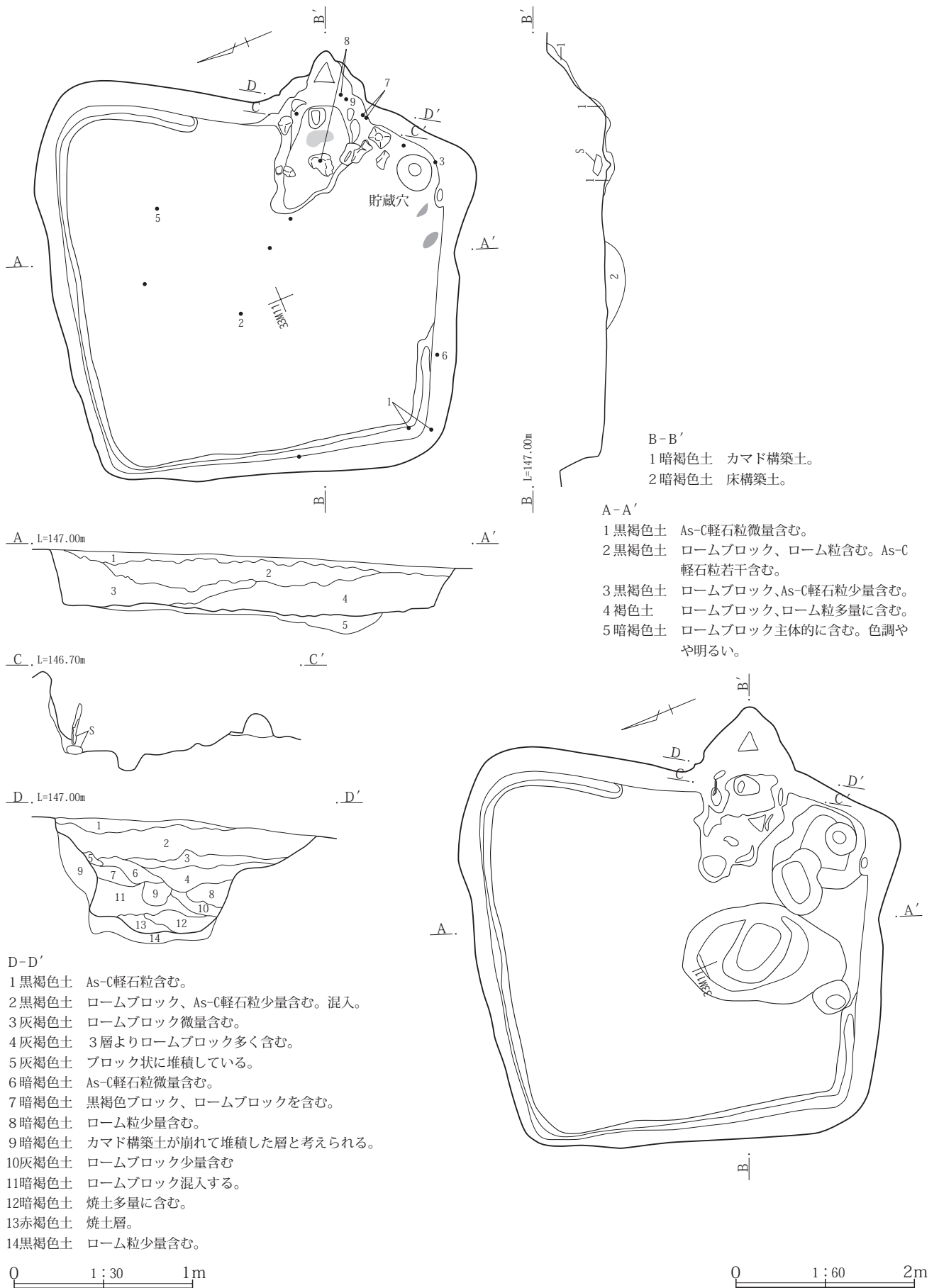
カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長1.88m、屋内長1.28m、屋外長0.60m、焚口部幅 0.62m、燃烧部幅0.76mを測る。埋土に崩落したと考えられる構築土が多く含まれ、露呈した奥壁は不整形であり、検出した状況は崩壊状況であると考えられる。カマドより袖石として利用したと考えられる礫が検出されているが、元位置は留めていない。

貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸0.41m、短軸

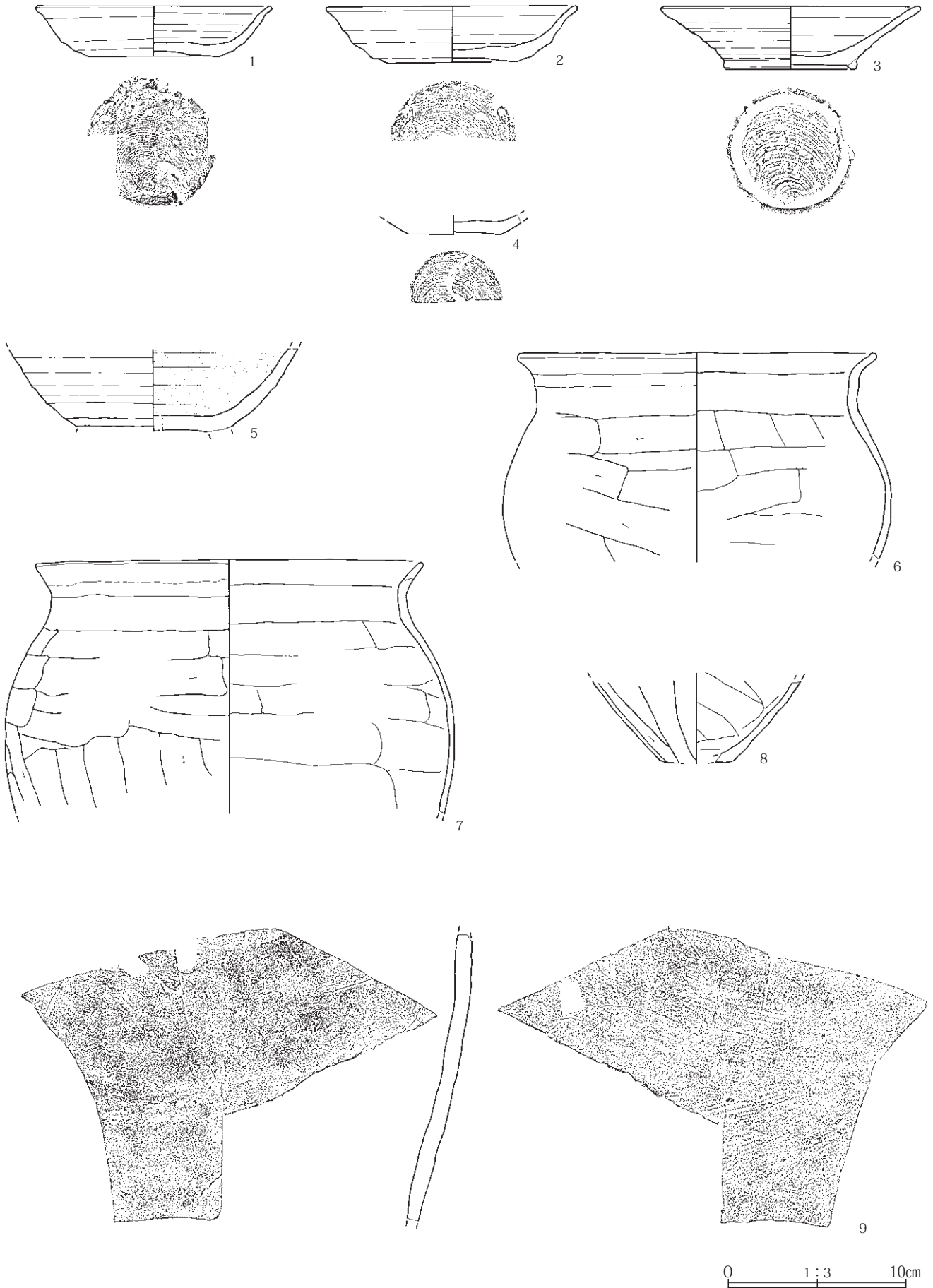
0.38m、深さ0.16mを測る。

出土遺物 遺物は、カマドよりまとまって出土している。土師器杯5片・甕286片・須恵器杯2片・椀24片・瓶3片・皿2片を出土した。図示したのは須恵器杯1・2・4、須恵器皿3、須恵器椀5、土師器甕6～8、須恵器甕9である。須恵器、土師器ともに9世紀後半の特徴を有している。

所見 カマドは、崩壊した状況での検出であり、廃棄後の崩壊により使用時の形状はとどめていなかったと考えられる。遺物より9世紀後半の住居である。



第36図 6号住居



第37图 6号住居出土遺物

7号住居(第38～41図、PL.11・40)

位置33L11

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.48m、短軸3.16mを測る。

面積 11.15m²

方位 N-16°-E

重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒褐色土、ロームブロックを含む褐色土などである。自然埋没土と考えられる。

床面 掘方は、貯蔵穴前面に土坑状に掘り込んでいるが、それ以外は確認できず、地山を床面としていたと考えられる。床面の残存深度は0.54mを測る。壁溝は南東コーナー以外で確認された。幅0.13m～0.26m、深さ0.01m～0.07mを測る。

柱穴 確認されなかった。

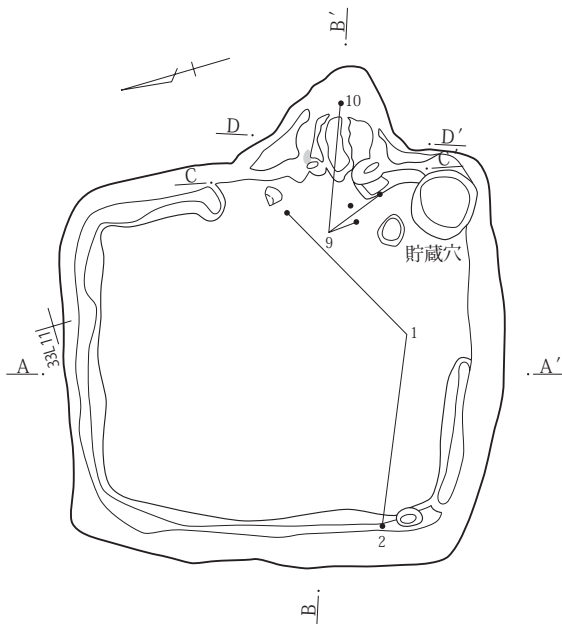
カマド 東壁やや南寄りに設置されていた。全長0.92m、屋内長0.22m、屋外長0.70m、焚口部幅0.34m、燃烧部幅0.70m、袖基部幅1.30mを測る。袖は、残存してい

なかったが、両袖底部からは補強材を据えつけた痕跡と考えられるピット状の掘り込みが確認された。焚口から燃烧部にかけては平坦で、壁の立ち上がりもなだらかであった。

貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸0.55m、短軸0.50m、深さ0.30mを測る。

出土遺物 遺物はカマド及びカマド周辺部よりまとまって出土している。土師器杯6片・甕130片・須恵器杯28片・椀2片・瓶3片・カマド材と考えられる土製品8点を出土した。図示したのは、須恵器椀1～8、土師器甕9・10である。9・10の土師器甕はカマドから出土しており、カマド煙道部分にて一部土器片が重なって出土した。須恵器椀1や2は外反していく口縁部の形状等から9世紀第四四半期の所作と考えられる。土師器甕9も口縁形状等からこの時期の特徴を有するものである。

所見 須恵器椀及び土師器甕の特徴から9世紀後半に使用されていた住居跡である。

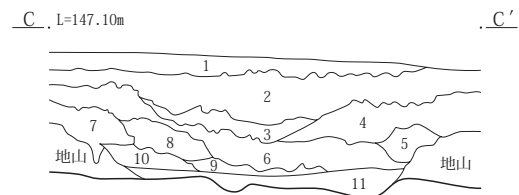
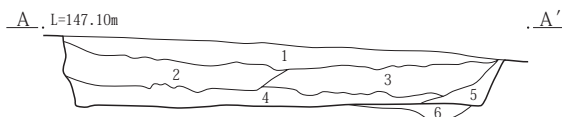


A-A'

- 1 黒褐色土 As-C軽石粒微量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック、As-C軽石粒少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロック、ローム粒混入。
- 4 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒混入する。
- 6 褐色土 ローム粒少量含む。

C-C'

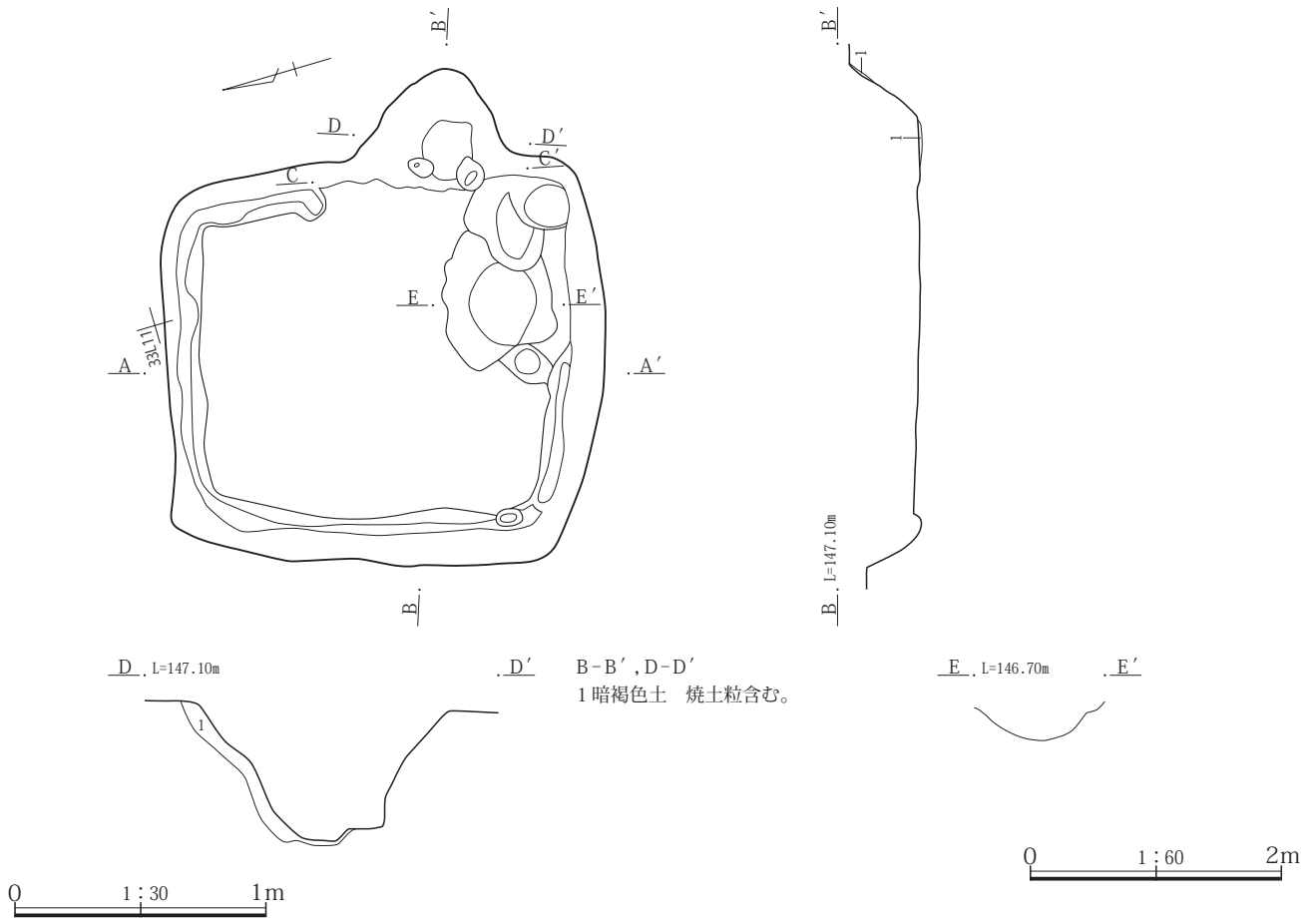
- 1 黒褐色土 As-C軽石粒含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロック主体的に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒混入する。
- 5 暗褐色土とロームブロックの混土 暗褐色土中にロームブロックが混ざる。
- 6 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 7 暗褐色土 ローム粒微量含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロック、As-C軽石粒少量含む。
- 9 暗褐色土 焼土粒微量含む。
- 10 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 11 暗褐色土 ロームブロック混入する。



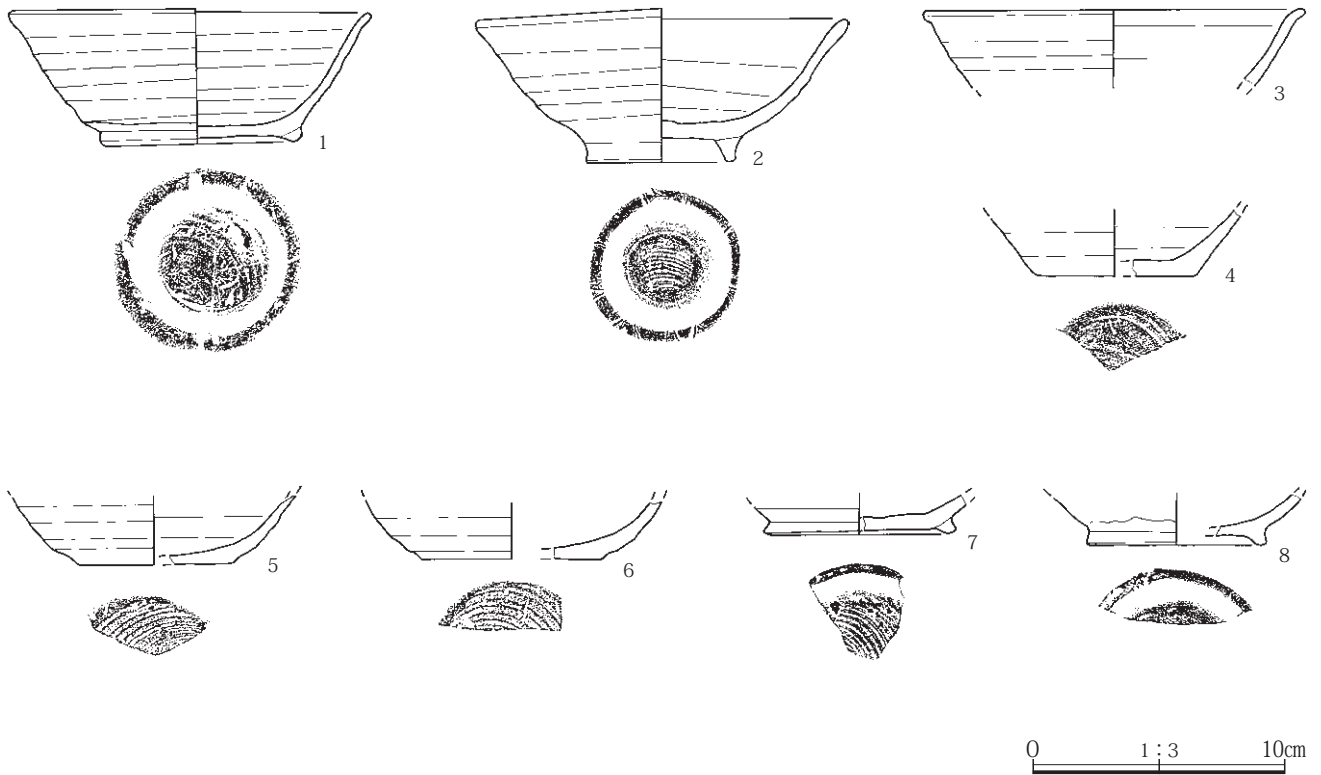
0 1:60 2m

0 1:30 1m

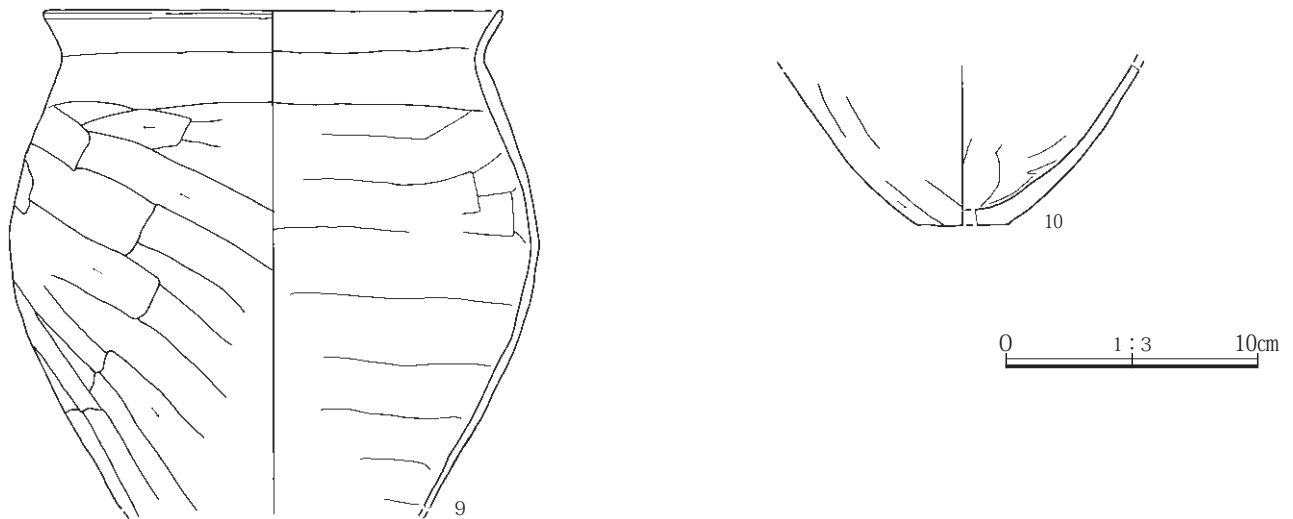
第38図 7号住居(1)



第39図 7号住居(2)



第40図 7号住居出土遺物(1)



第41図 7号住居出土遺物(2)

8号住居(第42・43図、PL.12・40)

位置 33T13

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.12m、短軸2.92mを測る。

面積 11.89m²

方位 N-13°-E

重複 南半部で入れ子状に5号竪穴状遺構と重複しており、5号竪穴状遺構が新しい。

埋没土 As-Cを含む黒褐色土及び黄褐色土を含む暗褐色土である。5号竪穴状遺構に切られているが、レンズ状堆積状況から自然埋没土と考えられる。

床面 掘方は確認されず、地山を床面として使用していたと考えられる。床面の残存深度は0.67mを測る。壁溝は南西コーナー以外で確認され、幅0.10m～0.22m、深さ0.03m～0.10mを測る。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されており、全長1.38m、屋内長0.62m、屋外長0.76m、焚口部幅0.32m、燃焼部幅0.36mを測る。左袖部は残存していたが、右袖部は5号竪穴状遺構により、壊されていた。左袖部には袖石とし

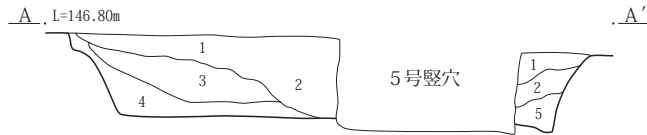
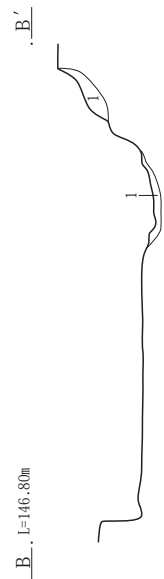
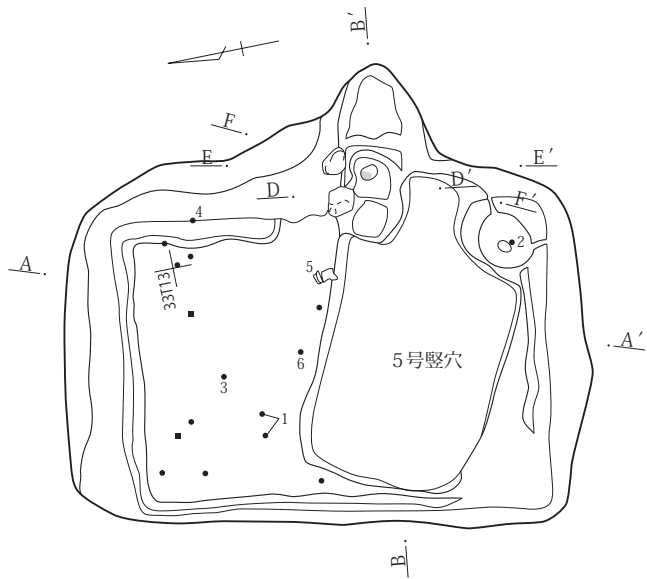
て据えていたと考えられる礫が確認された。また、袖は暗褐色粘質土で構築されていた。燃焼部は焚口より0.14m掘り下げられており、支脚に使用した礫が確認された。奥壁の立ち上がりは急であり、段がついていた。

貯蔵穴 住居南東コーナーに作られており、長軸0.45m、短軸0.40m、深さ0.21mを測る。貯蔵穴内より土師器2が検出されている。

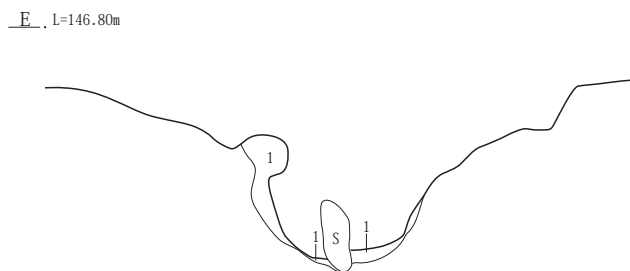
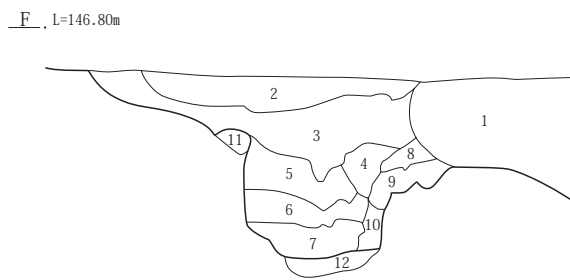
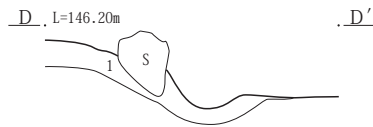
出土遺物 遺物は住居北西部から多く出土している。土師器杯5片・甕7片・須恵器杯2片・椀1片を出土した。図示したのは土師器杯1・2、須恵器椀3、須恵器杯4、土師器甕5・6である。また、住居北壁際より刀子7が出土している。須恵器椀3は口縁形状等から、9世紀第四四半期のものと考えられる。土師器甕は5と6では、6の方が古い、9世紀第四四半期のものと考えられる。土師器甕5及び6はほぼ床面直上より出土している。

所見 カマド左袖、袖石と考えられる礫は、出土状況より元位置からの検出であると考えられる。須恵器椀や土師器甕の特徴から、9世紀第四四半期を中心とする9世紀後半の時期の住居跡であると言える。

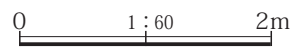
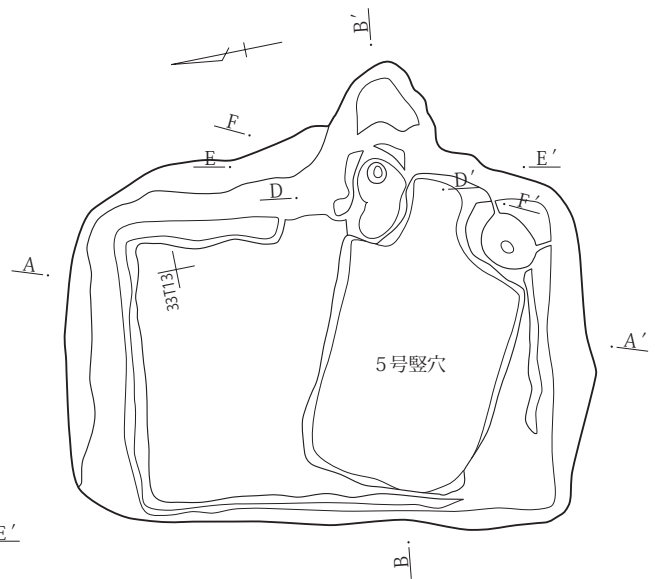
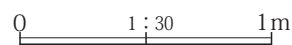
第3章 調査



- A-A'
- 1 黒褐色土 As-C軽石含有する。
 - 2 暗褐色土 As-C軽石少量、塊状Ⅷ層土含有する
 - 3 茶褐色土 塊状Ⅷ層土少量、塊状褐色土含有する。
 - 4 茶褐色土 細粒状As-C軽石微量、塊状Ⅷ層土少量含む。
 - 5 茶褐色土 粗大塊状Ⅷ層土少量含む。

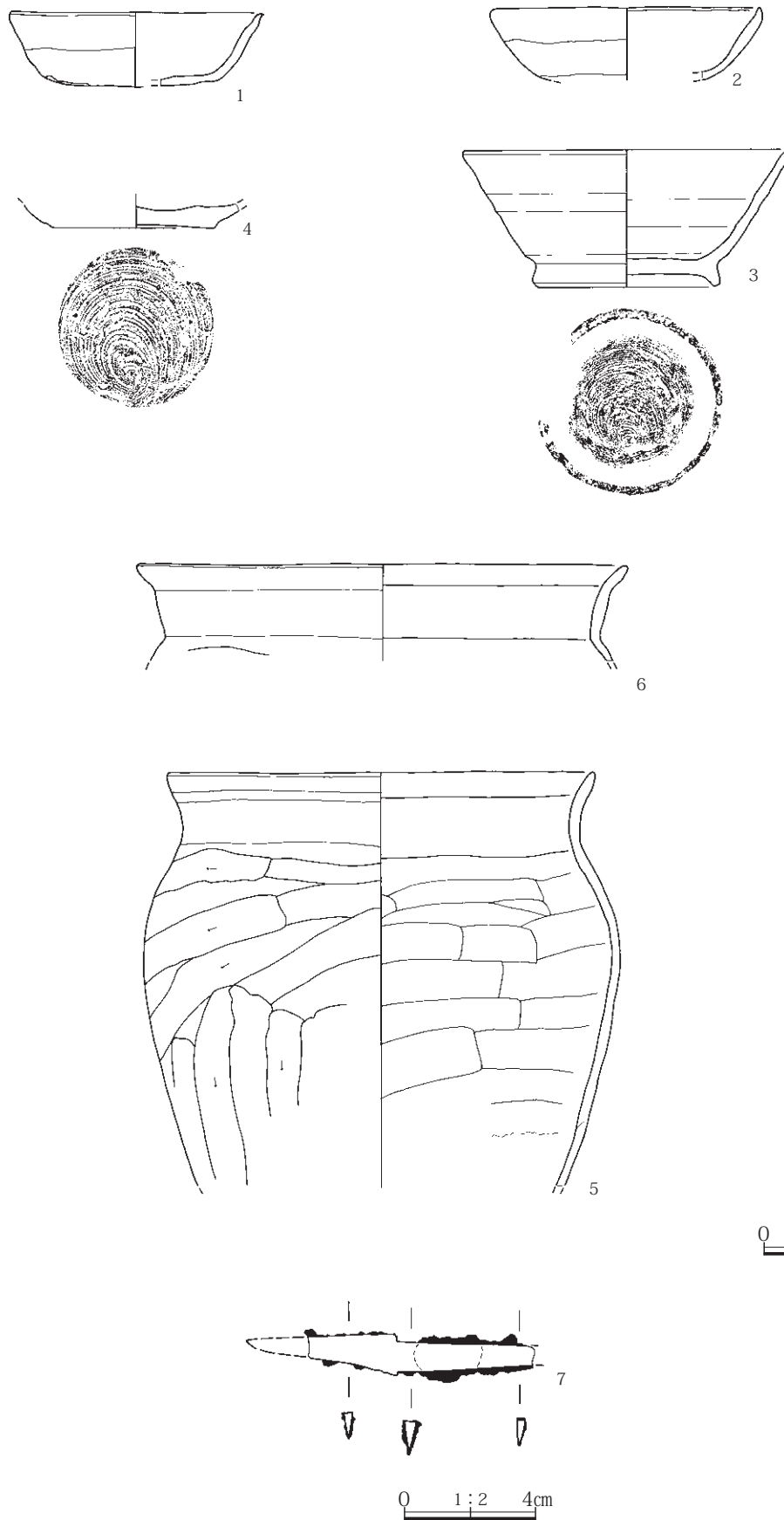


B-B', D-D', E-E'
1 暗褐色土 カマド構築土。



- F-F'
- 1 黒褐色土 粘性あり、締りあり。
 - 2 黒色土 As-C軽石混入する。
 - 3 暗褐色土 As-C軽石含有する。
 - 4 塊状暗褐色土 締りあり。
 - 5 暗褐色土 白色粘土粒少量・粒状焼土少量含む。
 - 6 褐色土 白色粘土粒少量・粒状焼土若干含む。
 - 7 暗褐色土 粒状焼土含有する。
 - 8 暗褐色土 塊状Ⅷ層土の混土。
 - 9 暗褐色土 粒状Ⅷ層土微量含む。
 - 10 暗褐色土 粒状Ⅷ層土若干・白色粘土粒少量含む。
 - 11 暗褐色粘質土 一部に焼土の混入が見られる。カマド袖形成土。
 - 12 暗褐色土 粒状焼土少量含む。

第42図 8号住居



第43図 8号住居出土遺物

第3章 調査

9号住居(第44～46図、PL.13・41)

位置 33A13

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸2.98m、短軸2.66mを測る。

面積 7.13m²

方位 N-90°-E

重複 なし

埋没土 As-C軽石を含む黒褐色土及びAs-C軽石、ローム粒を含む褐色土である。埋没土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 掘方は、住居南側で土坑状に掘り込んでいるが、それ以外は0.01m～0.05m程度の浅い掘り込みを掘方としていた。貼り床構築土は暗褐色土中にロームブロックが混合されていた。床面の残存深度は0.58mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

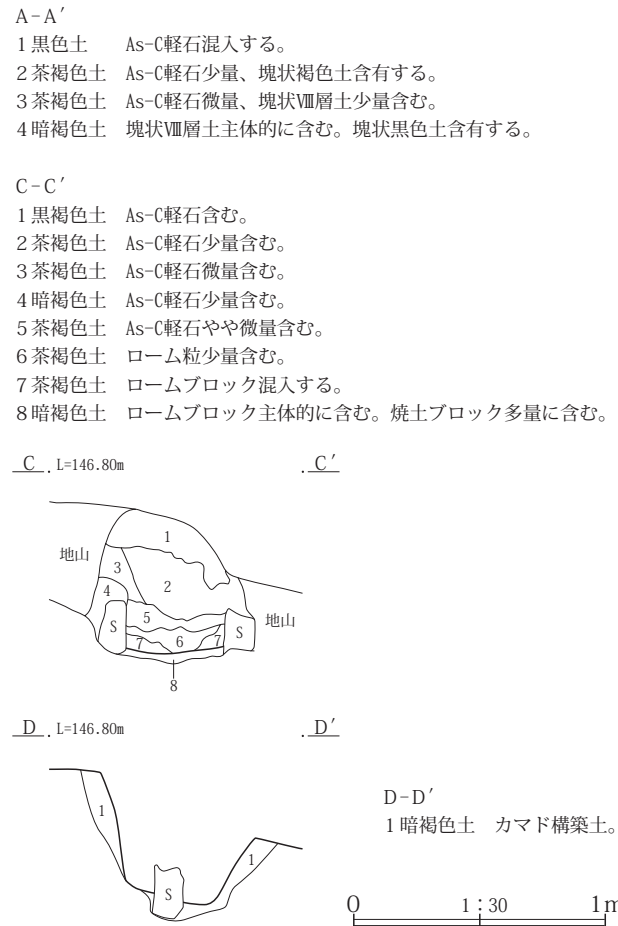
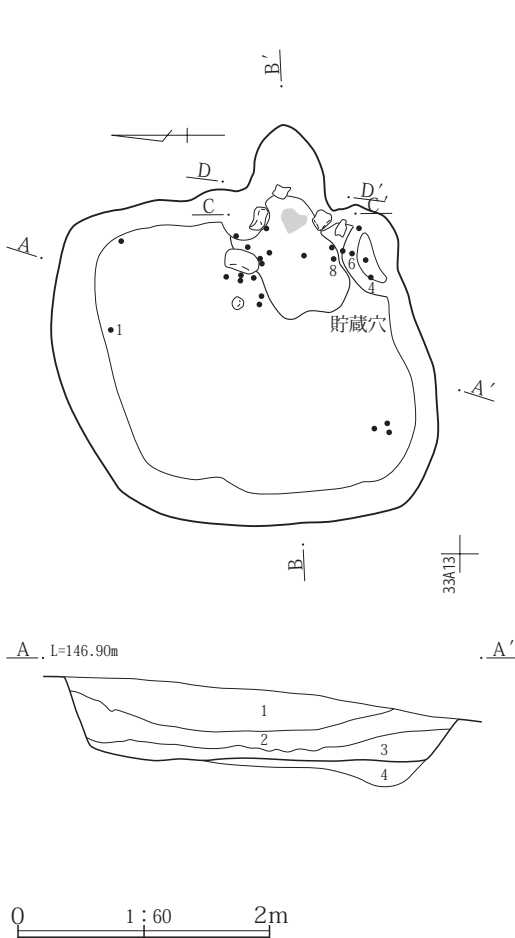
カマド 東壁やや南寄りに設置されていた。全長1.53m、屋内長0.92m、屋外長0.61m、焚口部幅0.46m、燃烧部

幅0.78mを測る。袖は粘土で構築したと思われるが、残っていなかった。補強材と考えられる礫が両袖より確認された。燃烧部は焚口部よりほぼ平坦に作られており、奥壁に向かいなだらかに立ち上がっていた。また、支脚に使用したとみられる礫が確認された。

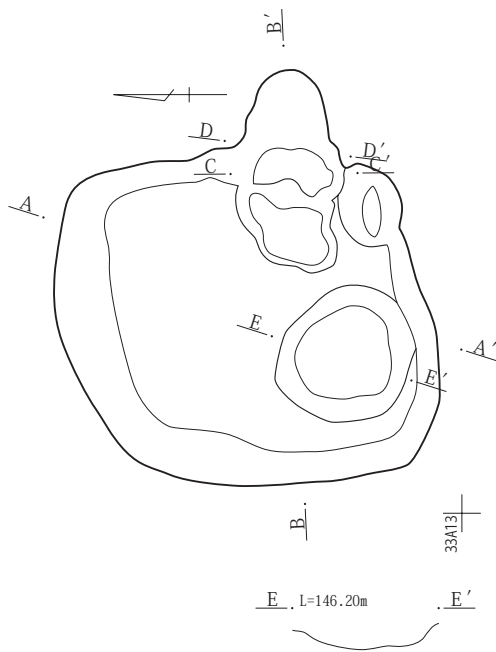
貯蔵穴 住居南東コーナーに作られており、長軸0.62m、短軸0.40m、深さ0.02mを測る。

出土遺物 遺物はカマド及び貯蔵穴よりまとまって出土している。土師器杯33片・甕218片・須恵器杯16片・椀1片・甕1片・蓋1片が出土した。図示したのは、土師器杯1・2、須恵器杯3・4、須恵器椀5、土師器甕6～9である。須恵器杯3は外反する口縁の特徴から9世紀第四四半期のものと見られる。土師器甕6は口縁部から頸部の破片であるが、9世紀第三四半期ないし第四四半期のものと見られる。土師器甕7は9世紀第四四半期かと考えられる。

所見 住居跡の時期は遺物の特徴より9世紀後半の住居跡である。

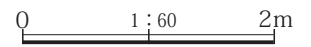


第44図 9号住居(1)

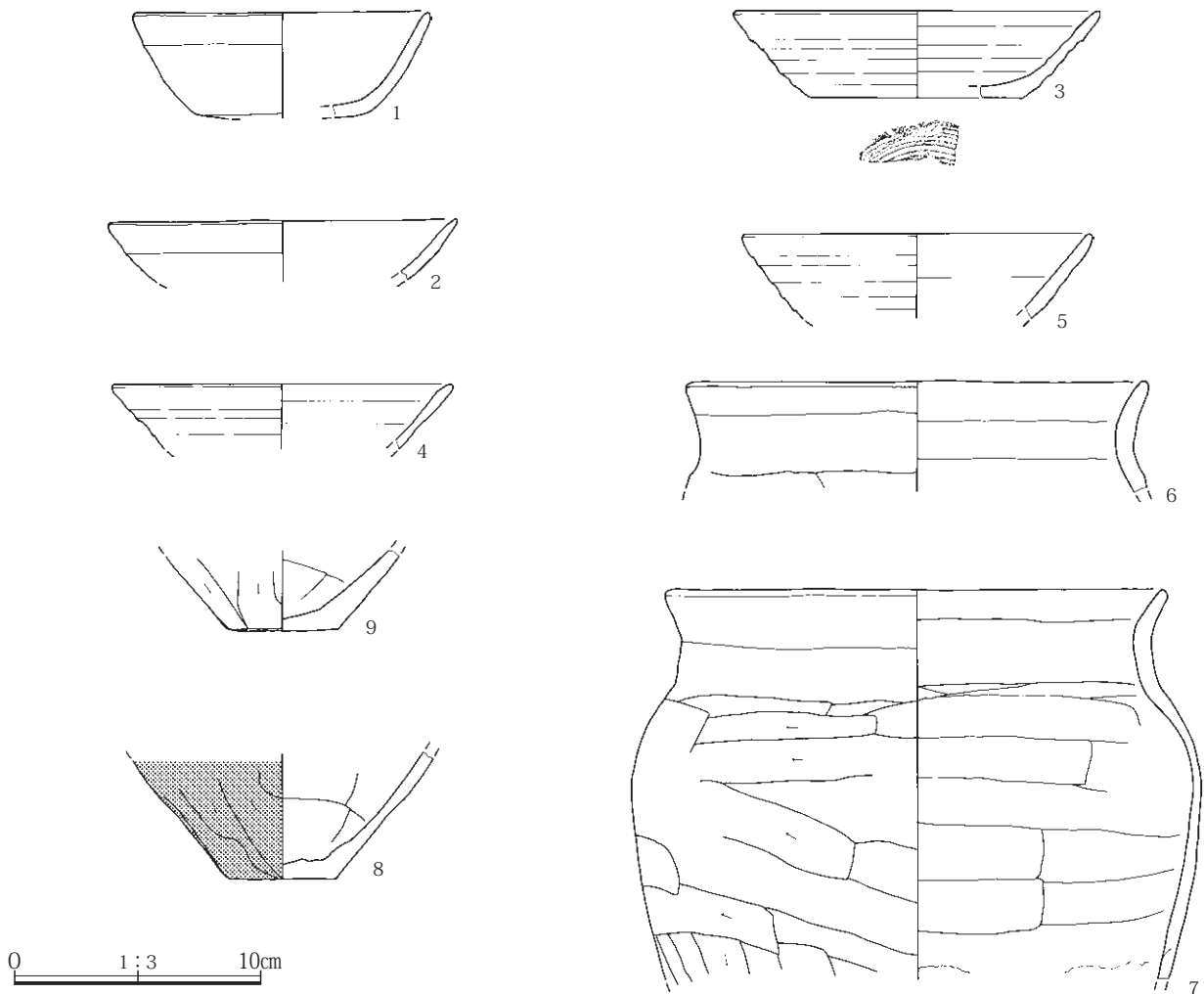


B-B'

1 暗褐色土 ロームブロック含む。床及びカマド構築土だが、区切りは不明。



第45図 9号住居(2)



第46図 9号住居出土遺物

第3章 調査

10号住居(第47～50図、PL.14・41・42)

位置 33S20

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.94m、短軸3.56mを測る。

面積 16.52m²

方位 N-9°-E

重複 なし

埋没土 As-Cが混入する黒色土を主体とする。A-A' セクション4層土はロームブロックが不規則に混入しており、自然堆積土としては考えられず、人為的に埋め戻されたとみられる層である。部分的に人為的に埋め戻したのか、人為的に埋め戻し、途中で埋戻しをやめたのかは不明である。4層土を切る形で堆積している1～3層土は堆積状況から自然埋没によるものと考えられる。

床面 ロームを含む暗褐色土を掘方として形成されていた。床面の残存深度は0.26mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長1.92m、屋内長1.10m、屋外長0.82m、焚口部幅0.43m、燃焼部幅0.26m、煙道部幅0.28mを測る。袖及び煙道は自然礫を主材料として、構築されていた。いわゆる石組みカマドであると考えられる。原位置をとどめていないと考えられる転石を除去した結果、左袖部9石、右袖部7石が残存していた。それぞれ2石積み上げたものを4列並べており、小礫で隙間を補充していたと考えられる。土師器杯2、土師器椀6、土師器甕20はカマド左袖部使用面直上より検出した。

貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸1.02m、短軸0.70m、深さ0.30mであった。貯蔵穴埋土中より須恵器椀10、11などを検出した。

出土遺物 遺物はカマド周辺及び貯蔵穴より集中して出土した。土師器甕229片・須恵器杯18片・椀76片・瓶6片・灰釉陶器7片がある。そのうち図化したのは、土師器杯1～4、土師器椀5・6、黒色土器椀7、須恵器椀8～13、灰釉陶器皿14、灰釉陶器椀15～17、土師器小型甕18・19、土師器甕20・21、鎌22、釘23、敲石26、紡錘車27である。8の須恵器椀は外面後円部に「若」の墨書が施されていた。14の灰釉陶器皿、15の灰釉陶器椀は大原2号窯式期、16・17の灰釉陶器椀は光ヶ丘1号窯式期のも

のである。床面直上より出土した土師器甕20は器形、外面ヘラ削りが胴部中位まで横方向であることなどから9世紀末から10世紀初頭のものであると考えられる。焚口部の洗浄土より炭化米を2点出土した(第50図)。炭化米Aは短粒であり、幅2.59mm・長さ4.44mm・厚さ2.07mm・重さ0.008gを測る。炭化米Bは一部を欠損した長粒であるとみられる。幅2.36mm・長さ(4.46+)mm・厚さ1.68mm・重さ0.006gを測る。長さは、長さ方向で欠損しているため現存長さを測定した。

所見 須恵器椀など9世紀第四四半期の遺物もあるが、灰釉陶器や甕20の特徴などから、10世紀に入ってからのものである。このことから、この住居跡は9世紀後半から10世紀初頭にかけての住居跡であると言える。

11号住居(第51・52図、PL.15・42)

位置 33B4、32区中央部南側。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸4.82m、短軸3.76mを測る。

面積 17.59m²

方位 N-18°-E

重複 なし

埋没土 As-Cが混入する黒色土を主体とする。レンズ状に堆積していることから、自然埋没埋土と考えられる。

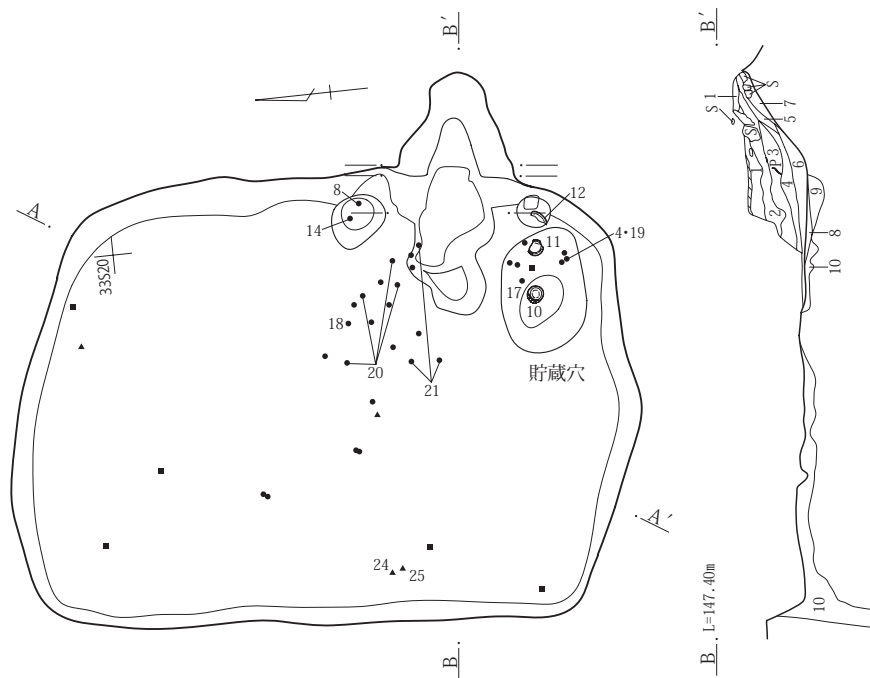
床面 ロームブロックを含む黒色土を埋土として、不整形に浅く掘られた掘方を充填、貼り床としている。床面の残存深度は0.36mを測る。壁溝は確認されなかった。住居南西コーナーには長軸0.68m、短軸0.55m、深さ0.12mを測る1号ピットを確認したが、用途は不明である。

柱穴 確認されなかった。

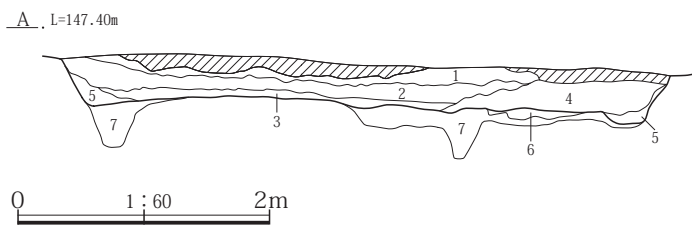
カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長1.12m、屋内長0.50m、屋外長0.62m、焚口部幅0.58m、燃焼部幅0.51mを測る。袖の残存状況は極めて不良であり、袖基底範囲は不明である。焚口部から燃焼部にかけては深さ0.12mと浅く掘り込んでおり、ゆるやかに立ち上がっていた。

貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸0.60m、短軸0.60m、深さ0.34mを測る。

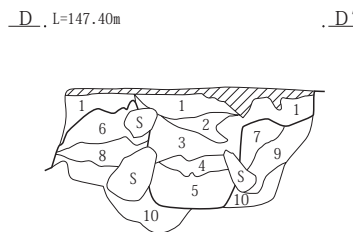
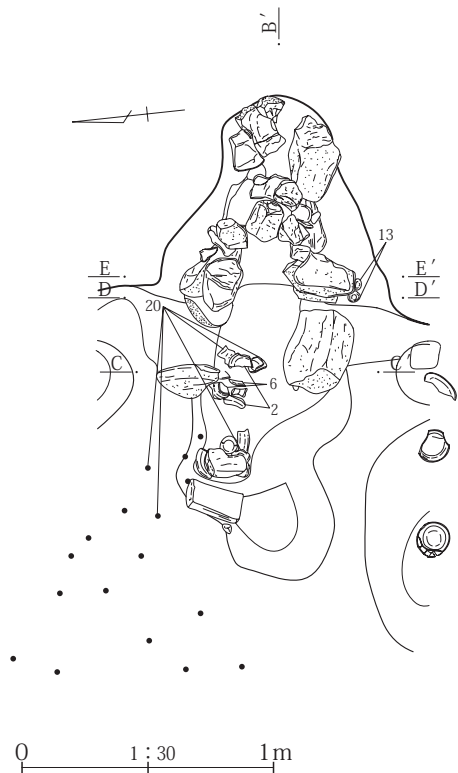
出土遺物 遺物はカマド周辺より集中して出土した。土師器杯5片・甕116片・器種不明粘土塊5片・須恵器杯



- B-B'
- 1 黒色土 白色軽石含有する。
 - 2 暗褐色土 暗黄褐色シルトブロック多量に含む。As-C軽石若干含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多量、As-C軽石微量含む。
 - 4 暗赤褐色土 被熱が認められる。
 - 5 黒褐色土 As-C軽石少量含む。
 - 6 暗褐色土 焼土粒微量含む。
 - 7 暗褐色土 焼土含まず。
 - 8 茶褐色土 カマド掘方埋土。ロームブロックが混土する。
 - 9 茶褐色土 カマド掘方埋土。ロームブロックの混入見られず。
 - 10 黒色土 掘方埋土、塊状Ⅷ層土の混土。上層硬質。

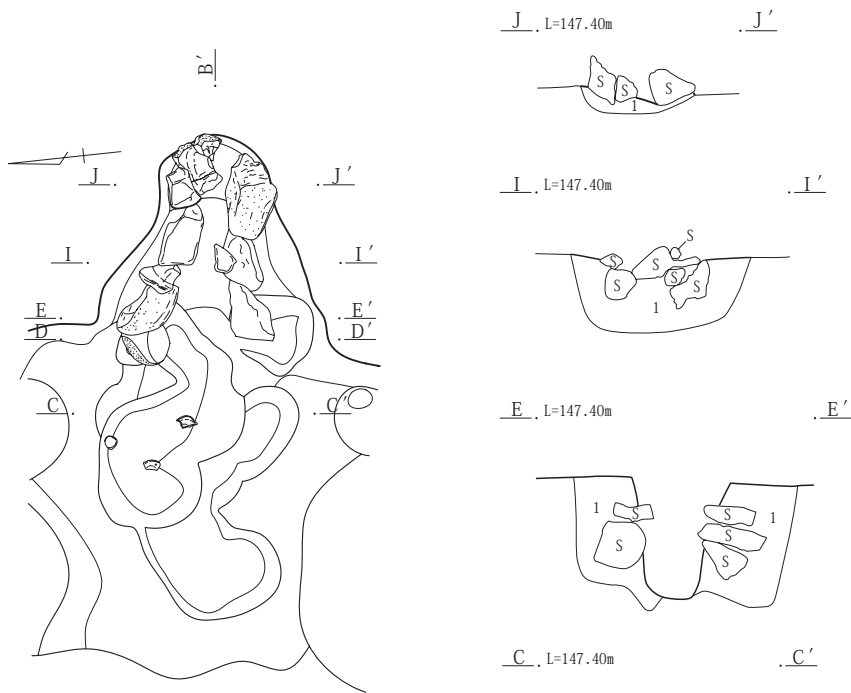
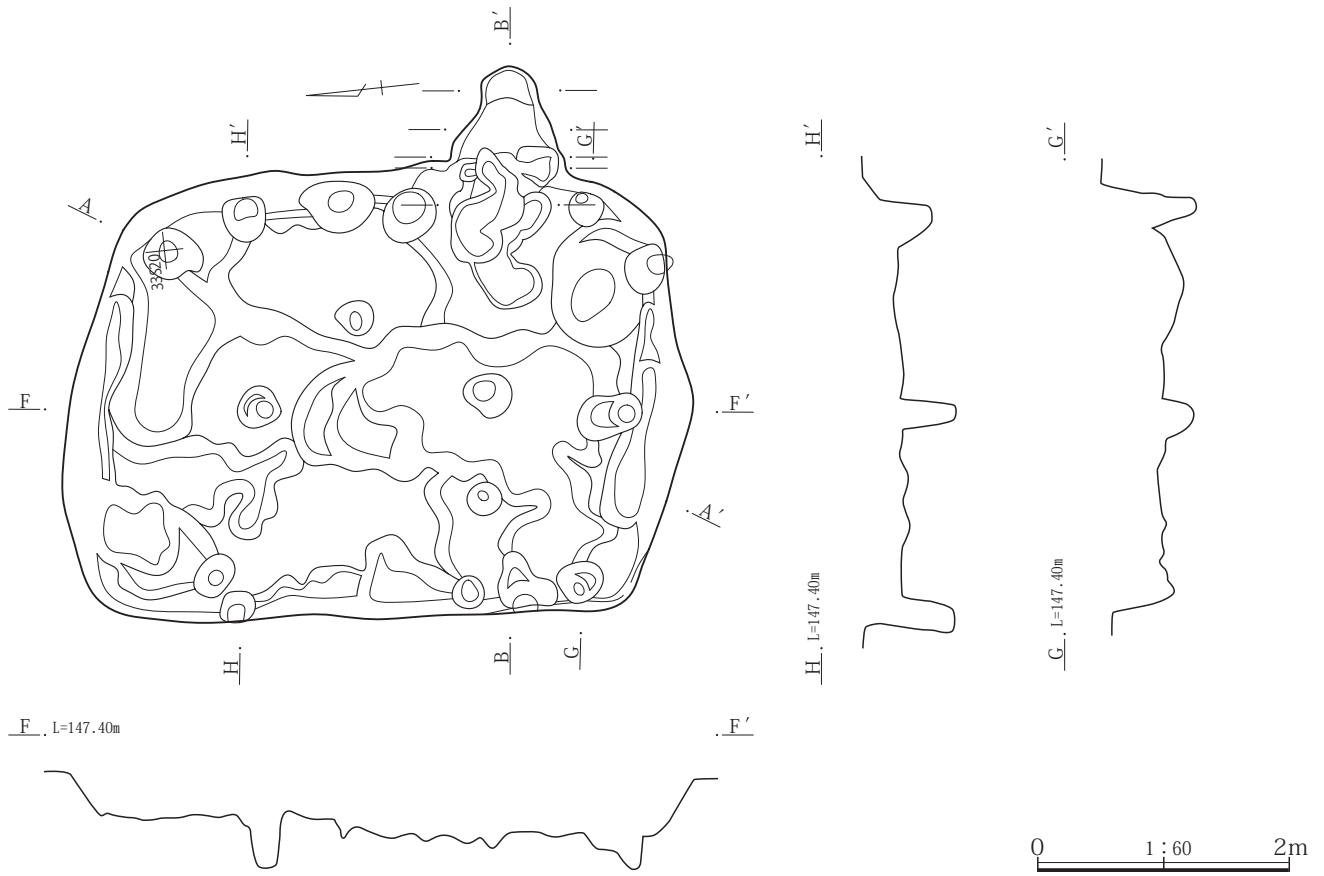


- A-A'
- 1 黒色土 As-C軽石含有する。
 - 2 黒色土 As-C軽石少量含む。塊状褐色土含有する。
 - 3 黒色土 As-C軽石微量含む。
 - 4 黒色土 As-C軽石少量含む。茶褐色土、粗粒状Ⅷ層土が混土する。人為層と考えられる。
 - 5 茶褐色土 粒状Ⅷ層土含有する。
 - 6 硬質黒色土 掘方埋土、細粒状As-C軽石若干含む。
 - 7 黒色土 掘方埋土、塊状Ⅷ層土の混土。上層硬質。



- D-D'
- 1 黒色土 As-C軽石含有する。
 - 2 暗褐色土 暗黄褐色シルトブロック多量に含む。As-C軽石若干含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多量、As-C軽石微量含む。
 - 4 暗赤褐色土 被熱が認められる。
 - 5 暗褐色土 焼土粒微量含む。
 - 6 暗茶褐色土 As-C軽石少量含む。浅く被熱している。
 - 7 赤褐色土 強く被熱し、変色している。
 - 8 赤褐色土 被熱しているが、7層ほどではない。
 - 9 暗褐色土 As-C軽石少量、ロームブロック若干含む。
 - 10 茶褐色土 ロームブロックが混入する。

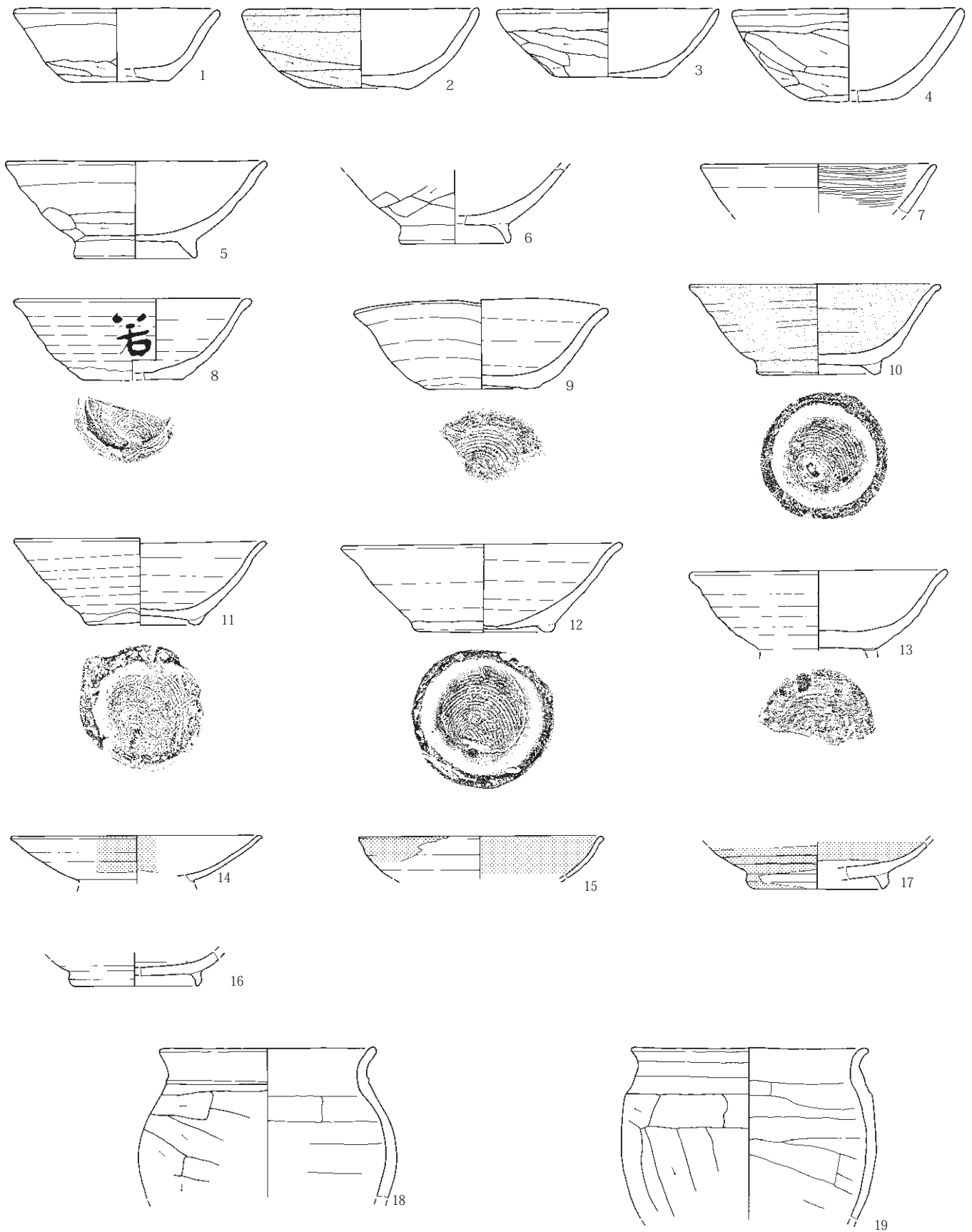
第47図 10号住居(1)



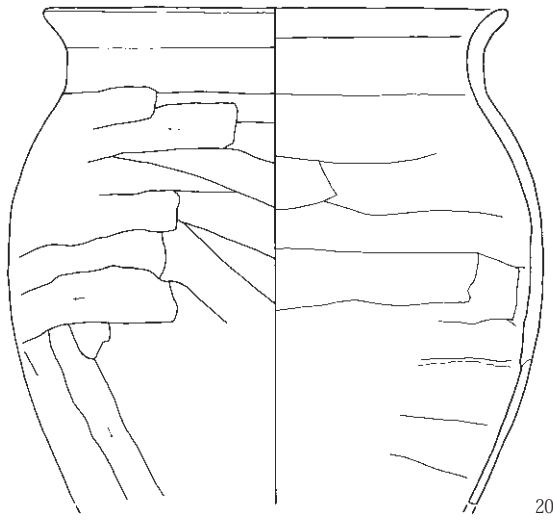
J-J'・I-I'
1 暗褐色土 カマド埋土。

C-C'・E-E'
1 茶褐色土 カマド構築土。

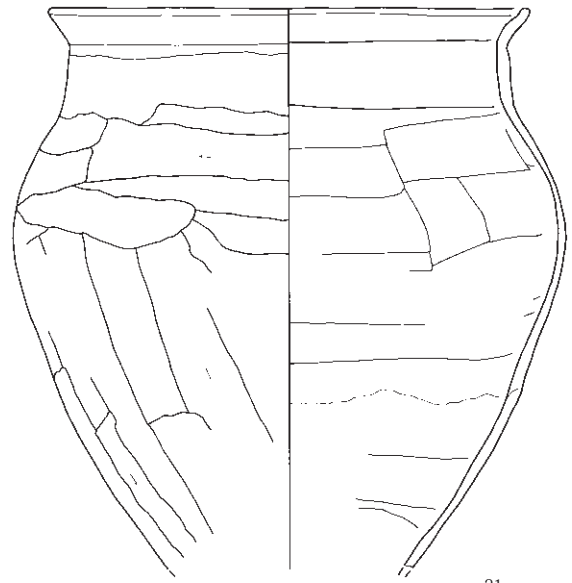
第48図 10号住居(2)



第49図 10号住居出土遺物(1)



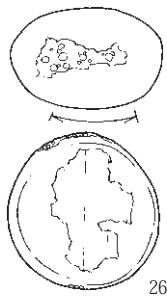
20



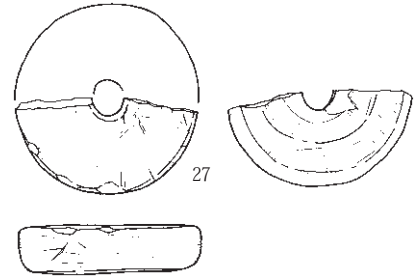
21



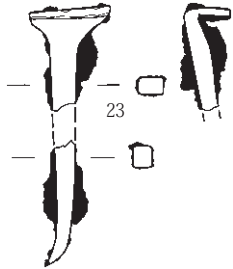
22



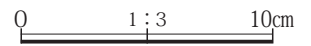
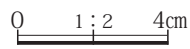
26



27



23



A



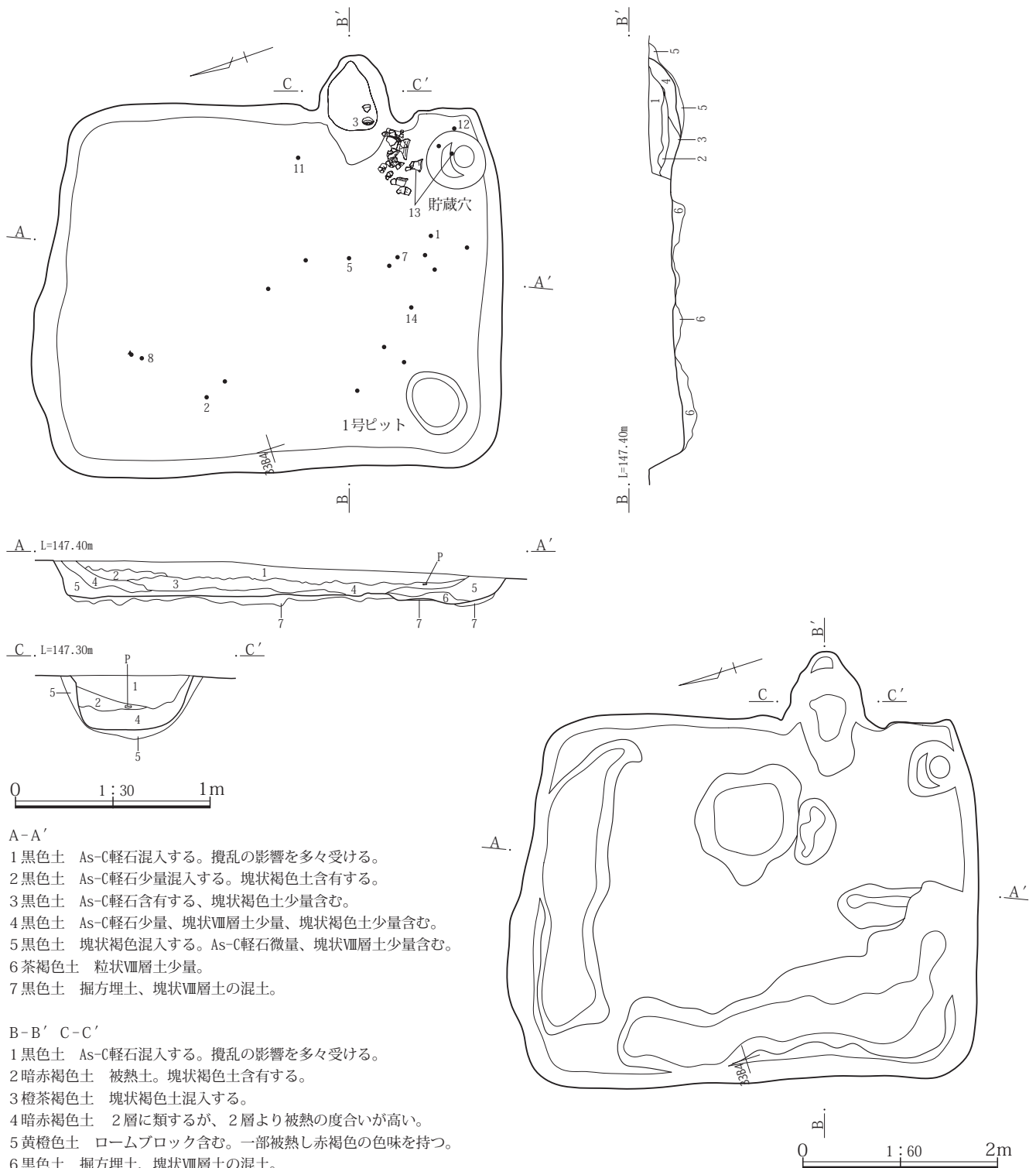
B

第50図 10号住居出土遺物(2)

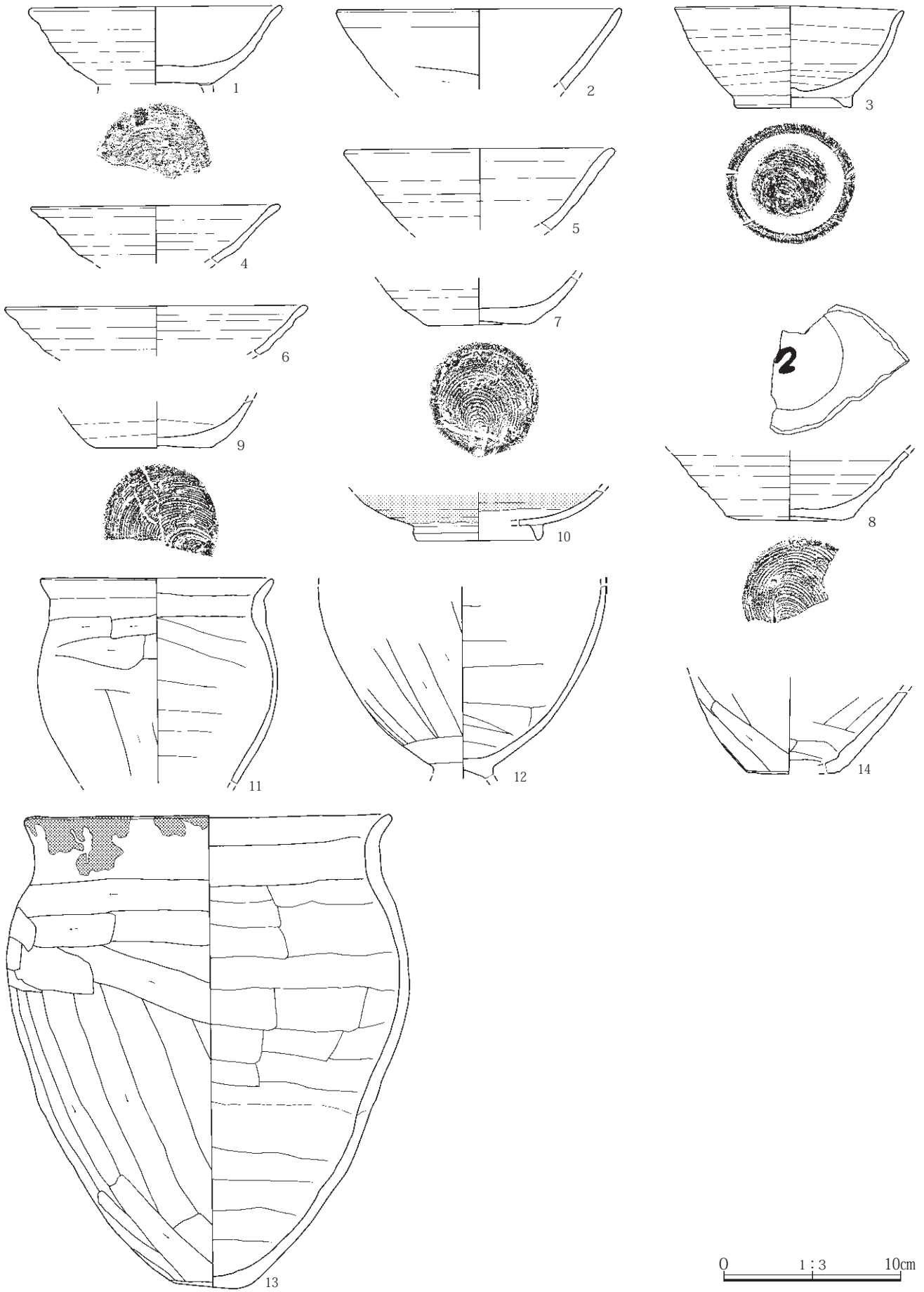
38片・椀26片・瓶2片が出土した。図示したのは土師器椀1・2、須恵器椀3～9、灰釉陶器椀10、土師器甕11、13・14である。12は土師器台付甕である。須恵器椀8は内面底部に「乙」の墨書が施されていた。須恵器椀3は焚口部床上10cmより検出された。須恵器は9世紀後半、

灰釉陶器10は大原2号窯式期のものである。土師器甕は13のように9世紀第四四半期の作りと考えられるものもあるが、14のように10世紀第一四半期のものも出土している。

所見 遺物の特徴より9世紀後半から10世紀初頭にかけての住居跡である。



第51図 11号住居



第52図 11号住居出土遺物

12号住居(第53～55図、PL.16・43)

位置 33T 8、32区中央部北側。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.50m、短軸2.50mを測る。

面積 9.03m²

方位 N-72°-W

重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒色土、一部攪乱土により壊されているが、レンズ状に堆積しており自然埋没土と考えられる。

床面 掘方と貼り床が認められないことから、地山を床面としていた。残存深度は0.52mを測る。壁溝は確認されなかった。住居の北側1/3程度は東西に貫通する攪乱溝により破壊されていた。

柱穴 確認されなかった。

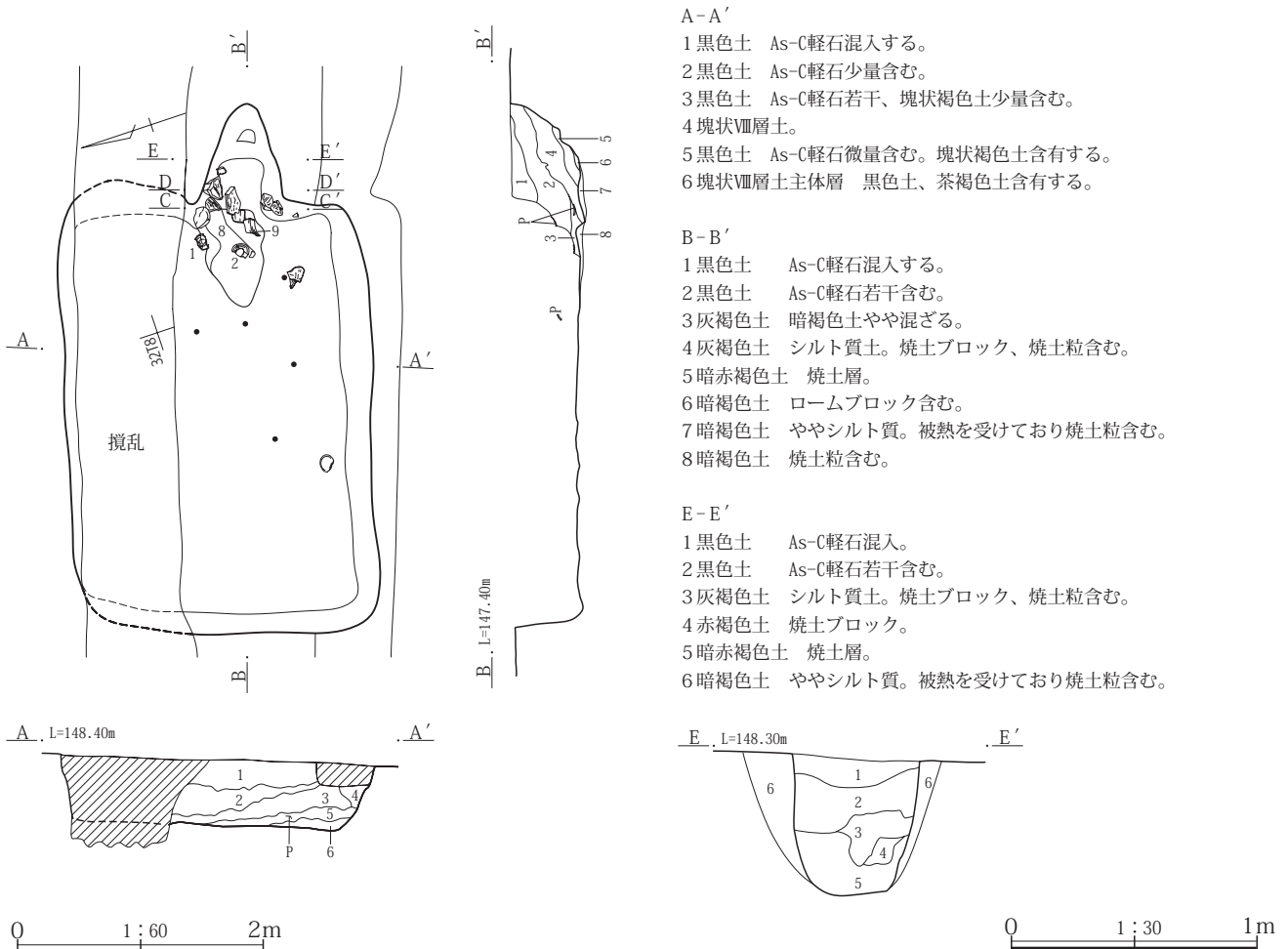
カマド 東壁中央部に設置されていた。全長1.65m、屋内長0.86m、屋外長0.79m、焚口部幅0.40m、燃焼部幅0.40m、煙道部幅0.26mを測る。袖は残存していなかつ

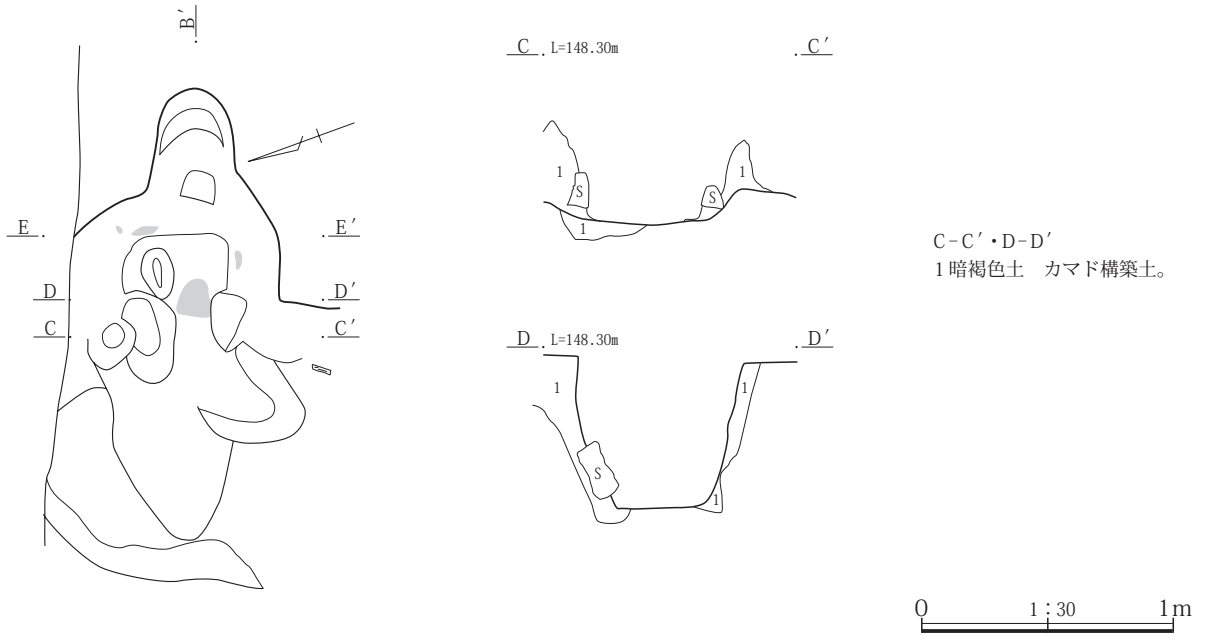
た。両袖部より補強材を据えたと思われる掘り込み及び補強材とみられる礫を出土したが、礫の出土状況より元位置を留めていないと推測される。焚口から燃焼部はほぼ平坦で、立ち上がりは急であった。

貯蔵穴 確認されなかった。

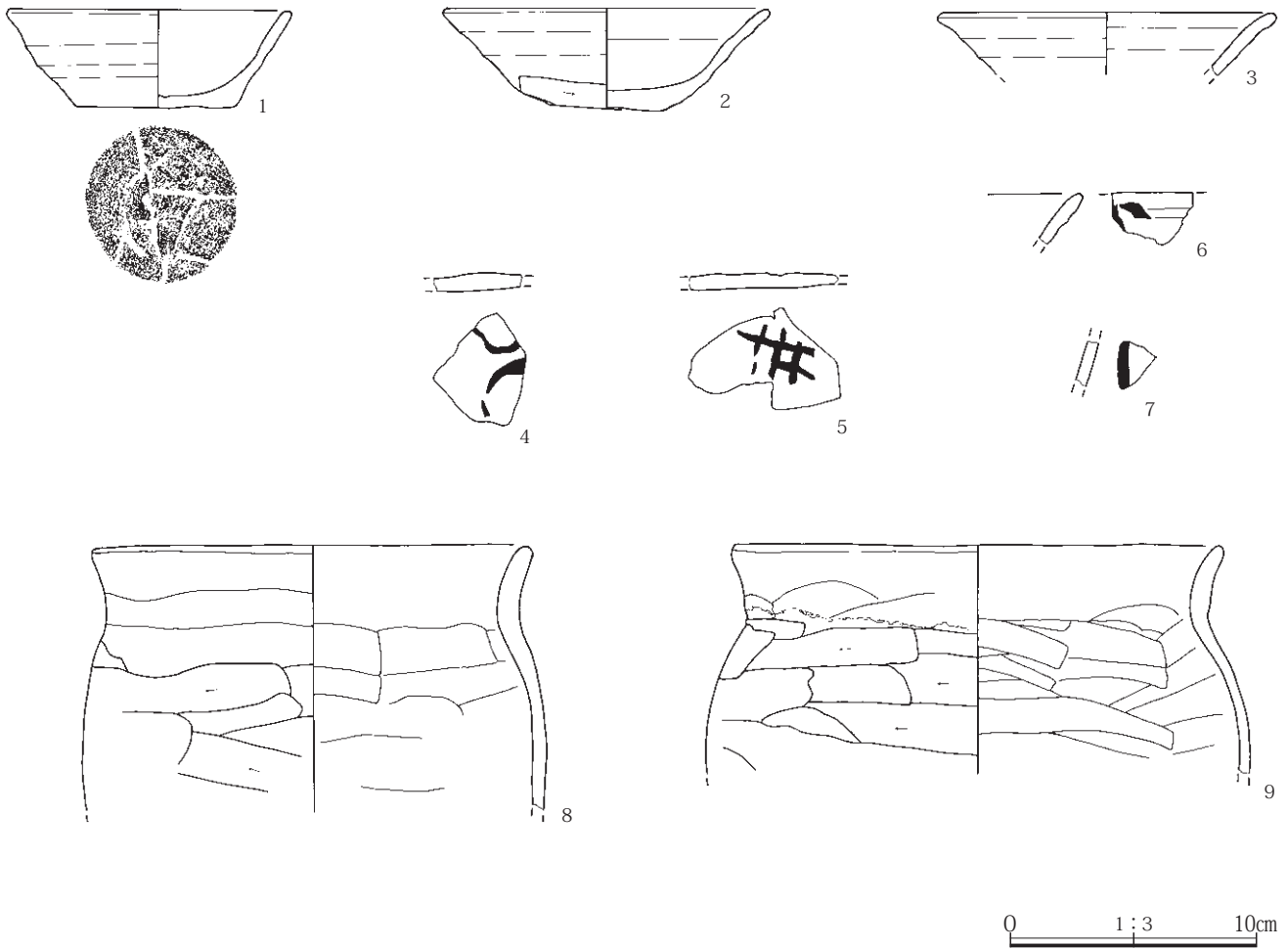
出土遺物 遺物はカマド及びカマド周辺よりまとめて出土した。土師器杯13片・甕44片・須恵器杯4片・椀29片・瓶1片・灰釉陶器椀2片が出土した。図示したのは須恵器椀1～3、土師器杯4・5、須恵器杯6・7、土師器甕8・9である。土師器杯4・5及び須恵器杯6・7はいずれの土器も外面に墨書が施されていたが、判読は不能であった。土師器甕8はカマド使用面直上より出土した。須恵器椀1はカマド左前部の床上1cmより、須恵器椀2はカマド焚口面より5cm上から出土している。須恵器椀は9世紀第四四半期、土師器甕は口縁部屈曲があまり鋭角でないことから9世紀第三四半期のものかと考えられる。

所見 住居の時期は、遺物の特徴より9世紀後半である。





第54図 12号住居(2)



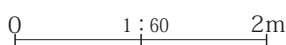
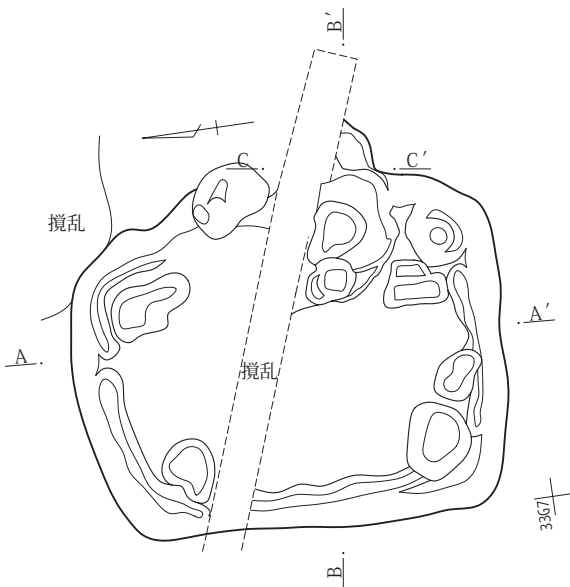
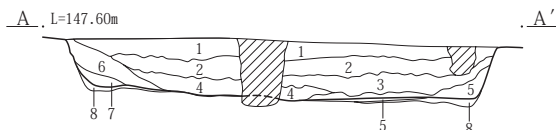
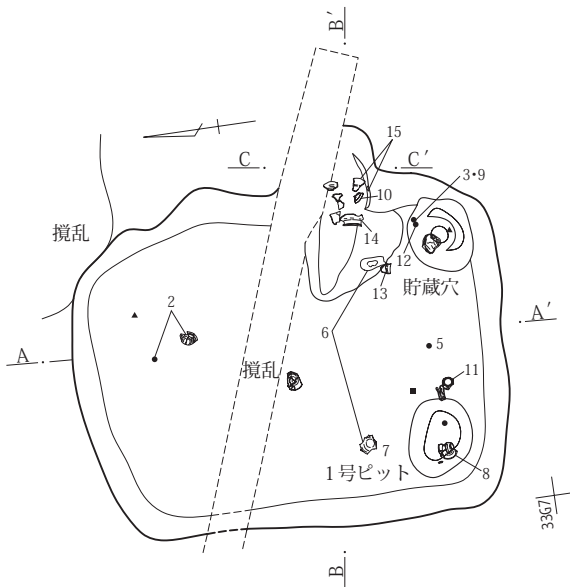
第55図 12号住居出土遺物

13号住居(第56～58図、PL.17・43)

位置 33G 7、32区西部中央。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.46m、短軸2.64mを測る。

面積 8.88m²



重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒色土。レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 四隅を土坑状に掘り込み、ロームブロックが混入する黒色土を掘方として構築していた。床面の残存深度

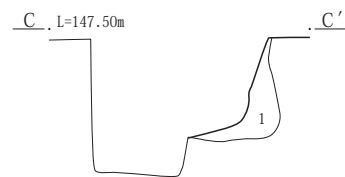


A-A'

- 1 黒色土 As-C軽石多量含む。
- 2 黒色土 As-C軽石混入する、塊状Ⅷ層土少量含む。
- 3 黒色土 As-C軽石含有する、塊状Ⅷ層土若干、塊状褐色土少量含む。
- 4 黒色土 As-C軽石少量含む、塊状褐色土含有する。
- 5 黒色土 As-C軽石微量含む、塊状褐色土多量含む。
- 6 黒色土 As-C軽石少量・塊状褐色土混入。
- 7 黒色土 細粒状微量白色軽石塊状Ⅷ層土含有。
- 8 塊状Ⅷ層土と黒色土の混土 掘方埋土。

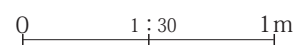
B-B'

- 1 黒色土 As-C軽石多量に含む。
- 2 黒色土 As-C軽石少量含む。
- 3 黄橙色土 被熱土。
- 4 黄褐色土 焼土ブロック、焼土粒多量に含む。
- 5 黒色土 As-C軽石微量含む、塊状褐色土多量含む。
- 6 黄褐色土 焼土粒少量、ロームブロック含む。二次床構築土。
- 7 黄褐色土 焼土粒微量含む。一次床構築土。

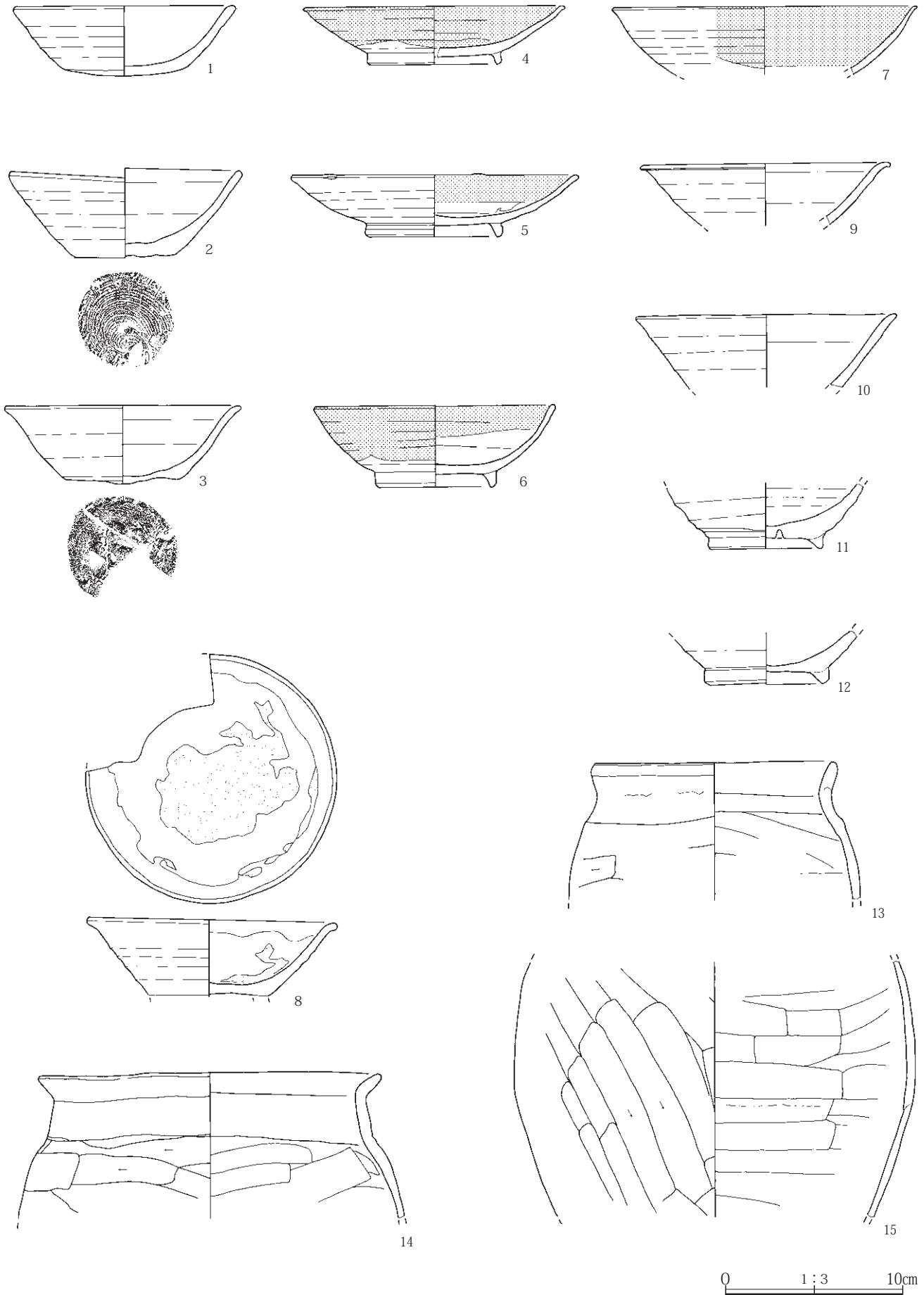


C-C'

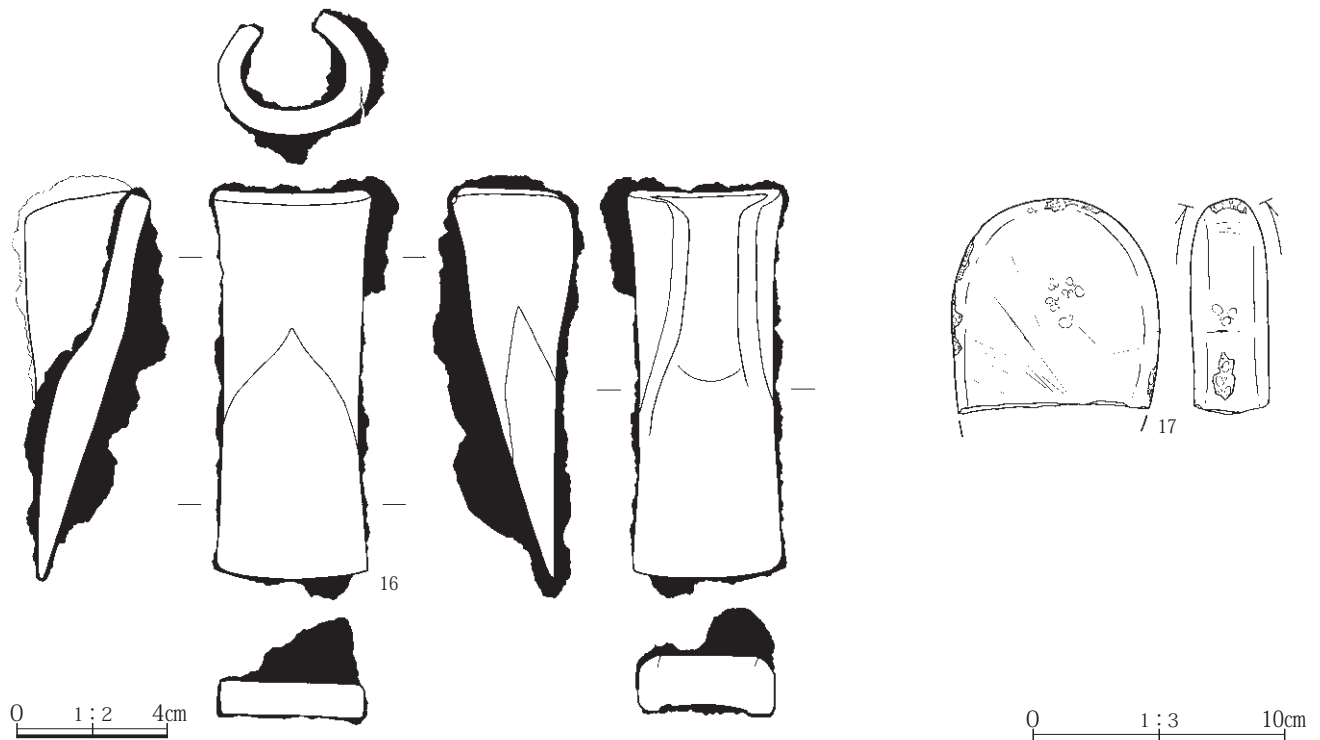
- 1 黒褐色土 カマド構築土。



第56図 13号住居



第57図 13号住居出土遺物(1)



第58図 13号住居出土遺物(2)

は0.38mを測る。壁溝は確認されなかった。住居南西コーナーには、長軸0.63m、短軸0.50m、深さ0.21mを測る1号ピットが作られていたが、用途は不明である。カマド北半分から住居北側にかけて約0.30m幅の攪乱が東西に走向しており、その部分は破壊されていた。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。煙道部先端から焚口にかけての左半分を攪乱により破壊されており、推定であるが、全長(1.46)m、屋外長(0.56)m、燃烧部幅(0.30)mを測る。屋内長0.90m及び焚口部幅0.68mは残存しており、実測することができた。袖は粘土により構築したと考えられるが、残存していなかった。カマドは土層観察の結果、B-B' 7層土を火床面としたものと、6層土を火床面としていたものと二度構築していたと考えられる。7層土の床面の方が古く、6層土の方が新しい火床面である。

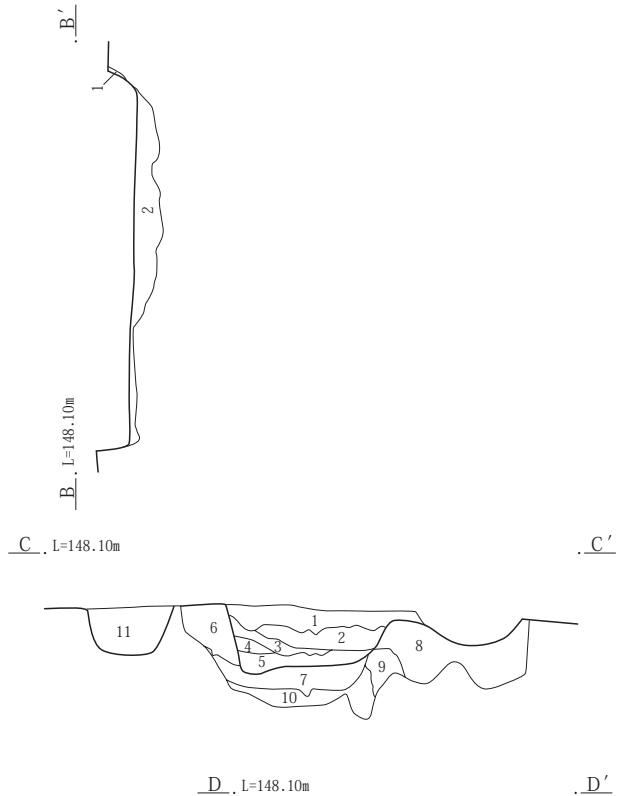
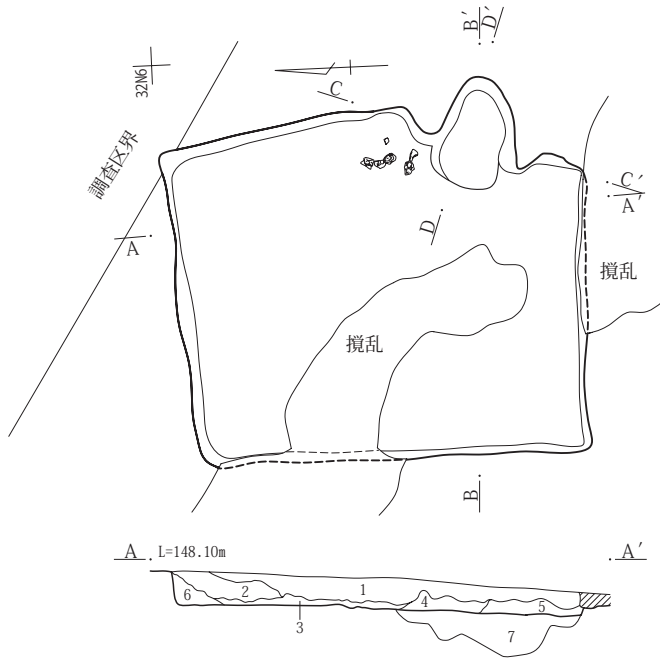
貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸0.65m、短軸0.51m、深さ0.24mを測る。

出土遺物 遺物はカマド及びカマド周辺より集中して出土している。土師器甕45片・須恵器杯29片・椀2片・甕1片・灰釉陶器6片が出土している。そのうち図示したのは須恵器椀1～3、灰釉陶器皿4、灰釉陶器輪花皿5、

灰釉陶器椀6・7、須恵器椀8～12、土師器甕13～15、鉄斧16、敲石17である。また敲石1点(遺構外石器8)を出土したが、これは観察の結果、縄文時代の磨製石斧をこの時代に敲石として再利用したと考えられ、遺構外検出の磨製石斧として分類した。須恵器椀10、土師器甕14・15はカマド使用面直上から出土した。須恵器椀2は床面直上より、須恵器7は床面より4cmの高さから出土した。須恵器椀はいずれも9世紀第四半期から10世紀第一四半期にかけてのもの。灰釉陶器皿4は大原2号窯式期、灰釉陶器輪花皿5は光ヶ丘1号窯式期、灰釉陶器椀6・7は大原2号窯式期のものである。

所見 調査の結果、カマドを一度作りかえている住居であることがわかった。遺物より、住居使用の時期は9世紀後半から10世紀初頭にかけての時期であると言える。

第3章 調査



A-A'

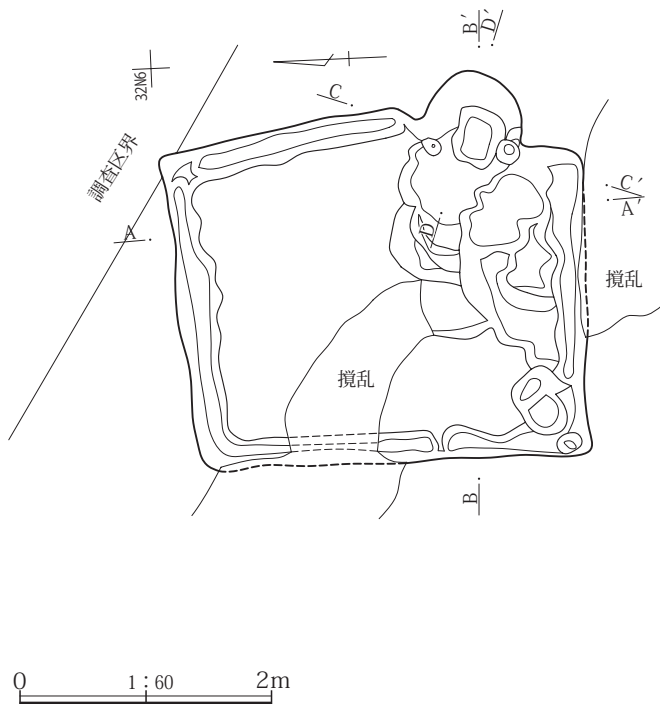
- 1 黒色土 As-C軽石混入する。
- 2 黒色土 As-C軽石、褐色ブロック含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多量含む、As-C軽石若干含む。
- 4 黄褐色土 As-C軽石含む、焼土粒少量含む。カマドの崩壊土と考えられる。
- 5 暗褐色土 As-C軽石少量、焼土粒含む。
- 6 暗褐色土 As-C軽石若干含む、ロームブロック含む。
- 7 粗ローム粒と暗褐色土の混土 掘方埋土。

C-C'

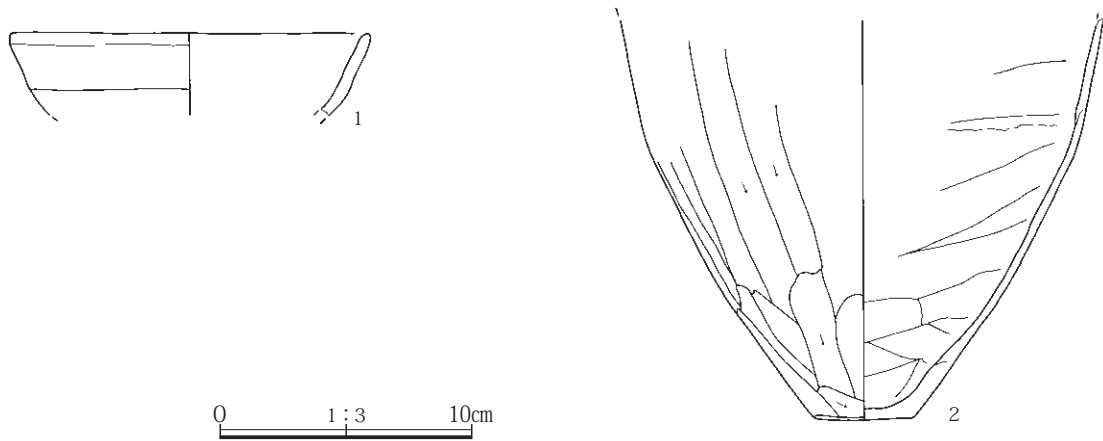
- 1 暗褐色土 As-C軽石少量含む。
- 2 浅黄褐色土 シルト質土、As-C軽石少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒、灰多量に含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒少量、炭化物微量含む。
- 5 暗褐色土 灰多量に含む。
- 6 黒色土 As-C軽石少量含む。
- 7 黒褐色土 ローム粒含む。
- 8 暗褐色土 粘性あり、締り非常に強い。焼土ブロック含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロック少量、焼土粒少量含む。
- 10 黒色土とロームブロックの混土 カマド床構築土。
- 11 黒色土 As-C軽石混入する。

D-D'

- 1 黒色土 As-C軽石混入する。
- 2 暗褐色土 As-C軽石、焼土粒含む。
- 3 暗褐色土 2層に準ずるが、As-C軽石含まれず。
- 4 暗褐色土 As-C軽石少量含む。
- 5 浅黄褐色土 シルト質土、As-C軽石少量含む。
- 6 灰黄色土 シルト質土。
- 7 暗褐色土 焼土粒、灰多量に含む。
- 8 暗褐色土 灰多量に含む。
- 9 暗赤褐色土 被熱土、焼土ブロック、焼土粒含む。
- 10 灰褐色土 灰多量に含む。
- 11 黄褐色土 ローム張床土。
- 12 黒褐色土 ローム粒含む。
- 13 黒色土とロームブロックの混土 カマド床構築土。



第59図 14号住居



第60図 14号住居出土遺物

14号住居(第59・60図、PL.18・44)

位置 32N 6、32区中央部やや東寄り北側に位置する。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.21m、短軸2.26mを測る。

面積 8.59m²

方位 N-5°-E

重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒色土及びAs-Cを含む暗褐色土。レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 カマド及びカマド前面から住居西側にかけて一体となる掘方を確認した。ロームを含む暗褐色土を貼り床構築土としていた。その他の場所は地山を床面としていたと考えられる。また、カマド前面部では黄褐色土の貼り床が確認されたが、他の箇所では確認されなかった。住居中央部西側は攪乱により破壊されていた。床面の残存深度は0.26mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに設置されていた。全長0.89m、屋内長0.31m、屋外長0.58m、袖基部幅1.08m、焚口部幅0.55m、燃烧部幅0.45m、煙道部幅0.40mを測る。ロームブロックを含む暗褐色土で袖を構築。補強材を据えていたとみられるピット状の掘り込みを両袖部の掘方にて確認した。燃烧部は焚口よりほぼ平坦に作られており、なだらかに立ち上がっていた。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器杯5片・甕15片が出土している。図示

したのは土師器杯1、土師器甕2である。土師器杯1は掘方埋土より出土しており、7世紀末から8世紀初頭の遺物である。土師器甕2はカマドより出土した9世紀第三四半世紀の遺物である。

所見 図示できた遺物は少なかったが、カマドや床直上から出土した甕片は土師器甕2と同じ時期のものやそのあとのものであった。土師器杯は掘方からの出土であり、混入された可能性が高い。この住居の時期は甕の帰属時期を考慮し、9世紀後半である。

15号住居(第61～67図、PL.19・44)

位置 45 I 12、45区中央部に位置する。

形状・規模 隅丸方形を呈し、長軸7.03m、短軸6.63mを測る。

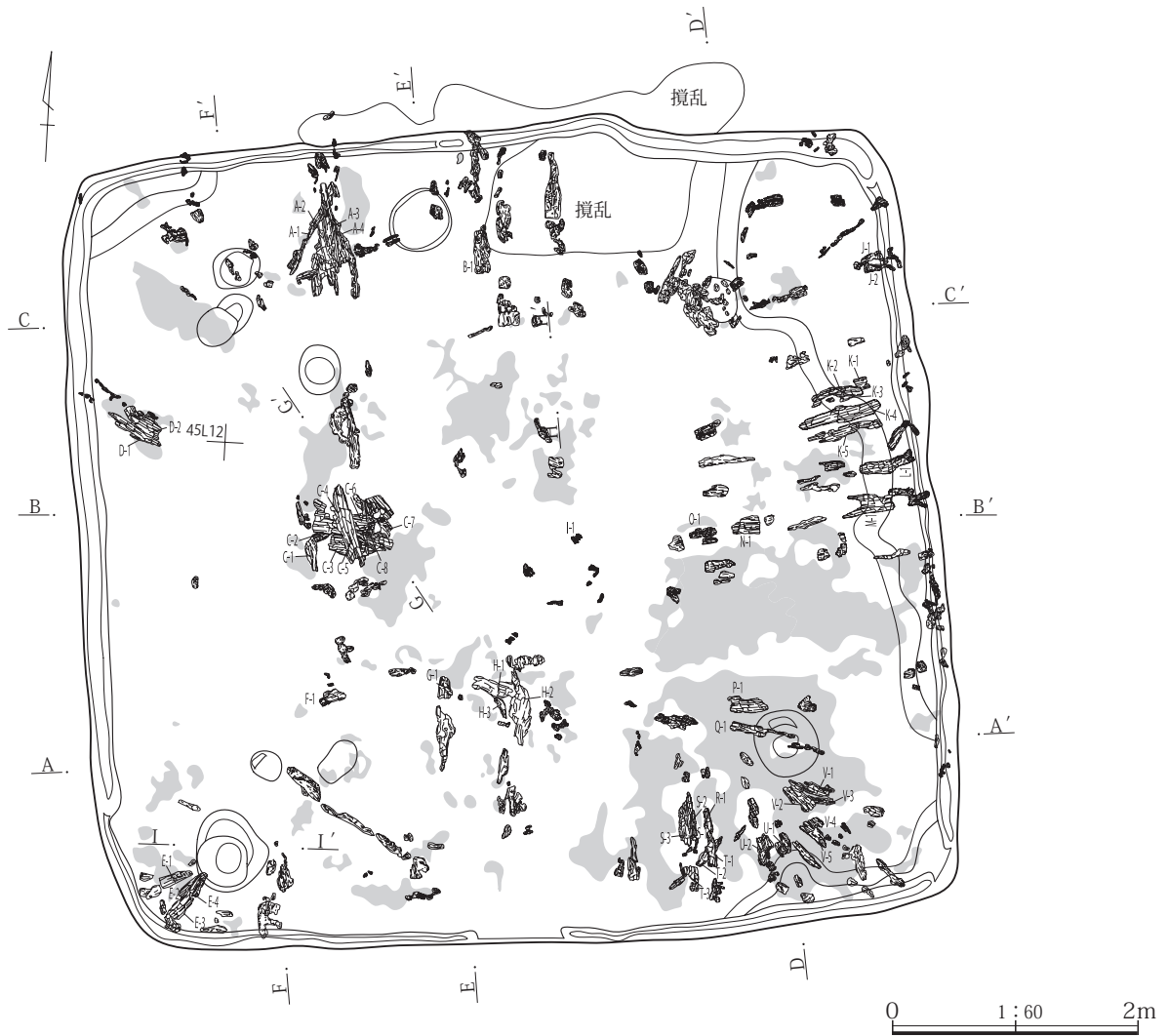
面積 45.56m²

方位 N-86°-E

重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒色土及び黒褐色土。土層堆積の状況から自然埋没土と考えられる。

床面 床面において住居の中心を向く炭化材及び焼土が検出された。床面の残存深度は住居東側で0.49m、西側で0.23mを測る。これは34区が東から西へ傾斜しており、確認面の標高が住居の東と西で差があるからである。壁溝は住居をほぼ全周しており、幅0.09m～0.30m、深さ0.03m～0.09mを測る。0.10m～0.30mほどに掘り込んだ掘方を形成しており、ロームブロックを含んだ黒



第61図 15号住居(1)

色土を構築土としていた。中心部はあまり掘り込んでおらず、柱穴の外側は深く掘り込まれている。掘方面で柱穴の内側にピットが4基方形に並んでいるのが確認された。これも柱穴であることが考えられ、支柱を建て替えたことが想定される。

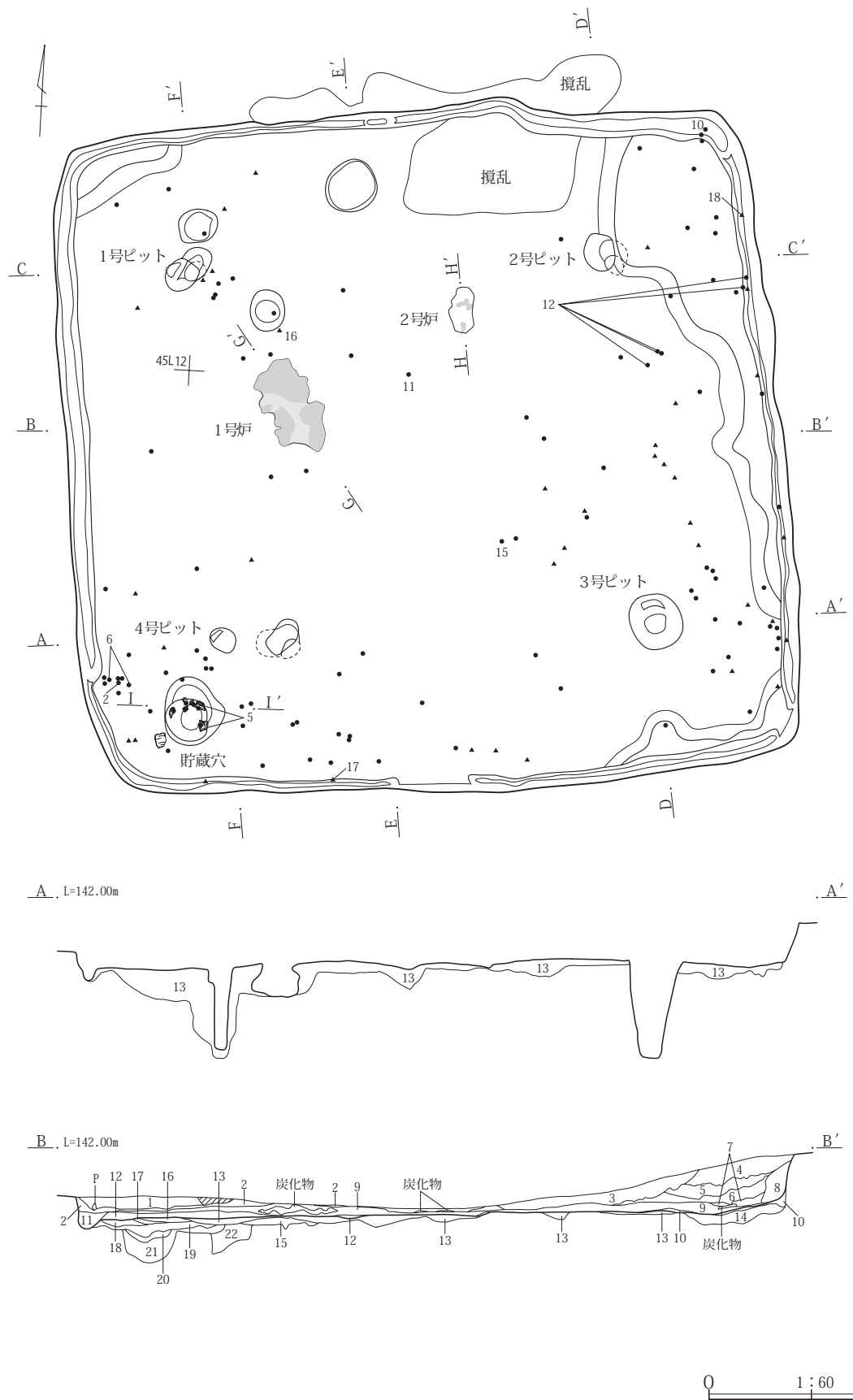
柱穴 4基確認した。北西の柱穴から時計回りに1号ピット～4号ピットと付した。1号ピットは長軸0.35m、短軸0.28mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.91mを測る。2号ピットは長軸0.36m、短軸0.30mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.94mを測る。3号ピットは直径0.54mのほぼ円形を呈し、床面からの深さは0.94mを測る。4号ピットは長軸0.26m、短軸0.22mを測る楕円形を呈し、床面からの深さは0.87mを測る。

炉 2カ所確認した。住居北西部のものを1号炉、住居中央部やや北よりのものを2号炉とした。1号炉は地床炉であり、被熱範囲は長軸0.96m、短軸0.40mを測る。

床面では焼土が確認された。床被熱の深さは最大で0.09mであった。2号炉は地床炉であり、被熱範囲は長軸0.45m、短軸0.22mを測る。床面では焼土が確認された。床被熱の深さは最大で4cmであった。

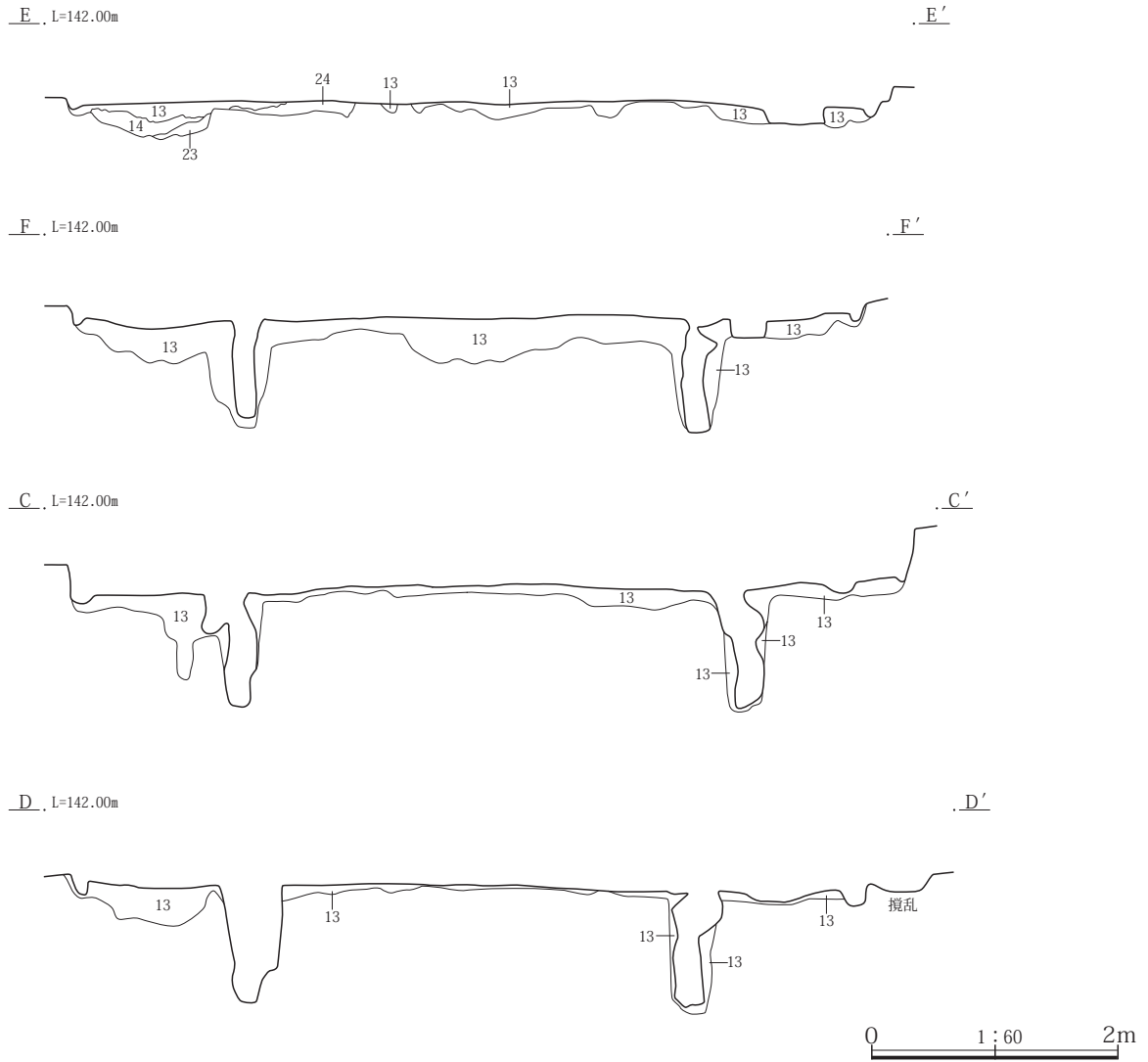
貯蔵穴 住居南西コーナーに設置されており、長軸0.67m、短軸0.59m、深さ0.60mを測る。

出土遺物 土師器甕86片・高杯5片・壺150片・埴57片・須恵器杯2片・甕3片を出土した。土師器甕片のうちS字状口縁台付甕片を31片出土した。須恵器片はいずれも9世紀代のものと見られ、埋土より出土したことから、後世の混入と考えられる。図示したのは土師器高杯1、鉢2～4、埴5～8、鉢9、壺10、台付甕11、甕12～15、石製品と考えられる16、敲石17・18である。台付甕11はS字状口縁台付甕片が出土しており、S字状口縁台付甕である可能性が高い。甕12は形状より平底甕であることが想定される。土師器は古墳時代前期に作られたも



第62図 15号住居(2)

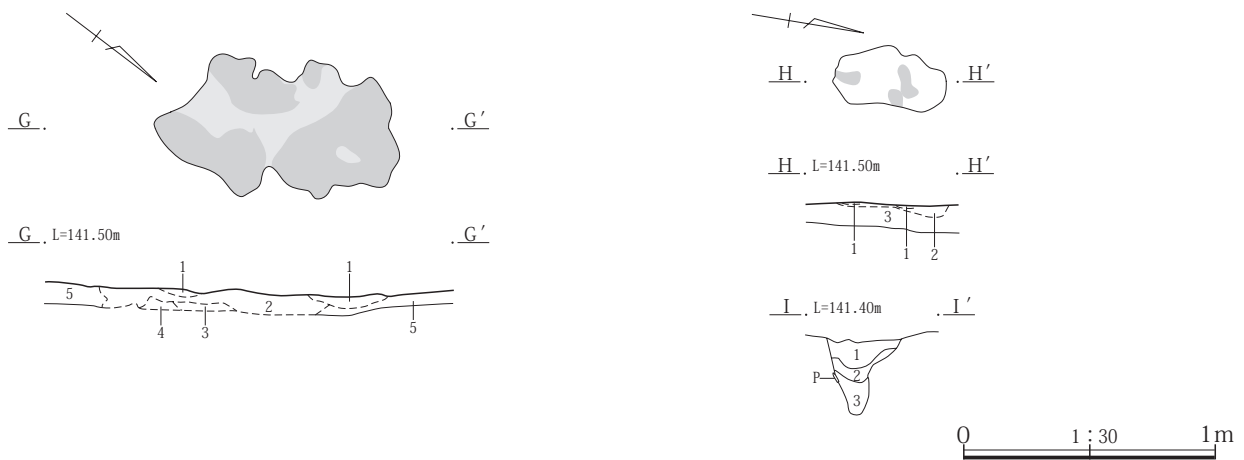
第3章 調査



A-A', B-B', C-C', D-D', E-E', F-F'

- 1 黒褐色土 As-C軽石含有する。
- 2 黒褐色土 細粒状As-C軽石若干含む。
- 3 黒褐色土 細粒状As-C軽石混入する。
- 4 黒褐色土 As-C軽石多量に含む。
- 5 黒色土 As-C軽石含有する。
- 6 黒褐色土 As-C軽石少量含む。
- 7 黒色土と黒褐色土の混土 細粒状As-C軽石微量。
- 8 黒色土 As-C軽石少量、粗粒状Ⅷ層土少量、塊状Ⅷ層土多量含む。塊状焼土含有する。
- 9 黒色土 細粒状As-C軽石微量含む。塊状焼土含有する。粒状焼土混入する。炭化物含有が多量である。
- 10 黒褐色土 微粒状As-C軽石若干含む。粒状Ⅷ層土含有する。
- 11 黒褐色土 As-C軽石若干、粗粒状Ⅷ層土少量含む。
- 12 黒褐色土 細粒状As-C軽石若干、粒状焼土含有する。
- 13 黒色土 掘方埋土。細粒状As-C軽石少量含む。粗粒状Ⅷ層土混入する。塊状Ⅷ層土含有する。
- 14 黒色土 掘方埋土。細粒状As-C軽石若干、粒状Ⅷ層土微量含む。
- 15 黒褐色土 掘方埋土。細粒状As-C軽石若干含む。粗粒状Ⅷ層土混入する。
- 16 塊状Ⅷ層土と黒褐色土の混土 掘方埋土。
- 17 黒褐色土 掘方埋土。細粒状As-C軽石微量含む。
- 18 塊状Ⅷ層土と黒褐色土の混土 掘方埋土。16と同質だが、黒褐色土の割合多し。
- 19 塊状Ⅷ層土と黒褐色土の混土 掘方埋土。18・16層に準じるが、締り強し。
- 20 黒褐色土 掘方埋土。細粒状As-C軽石若干含む。塊状Ⅷ層土含有する。
- 21 塊状Ⅷ層土主体 掘方埋土。塊状黒褐色土含有する。
- 22 黒褐色土 微粒状As-C軽石微量、塊状Ⅷ層土少量含む。
- 23 黒褐色土 微粒状As-C軽石微量、塊状Ⅷ層土微量含む。
- 24 黒褐色土 23層に類するが、色調23層より明るい。

第63図 15号住居(3)



G-G'

- 1 赤褐色土 焼土。
- 2 暗赤褐色土 酸化被熱層。
- 3 黒褐色土 上面は被熱しており赤みを帯びる。
- 4 黒褐色土 焼土ブロックを含み、上面は被熱しており赤みを帯びる
- 5 黒褐色土 掘方埋土。

H-H'

- 1 赤褐色土 表面に残る焼土。
- 2 暗赤褐色土 酸化被熱層。
- 3 黒褐色土 掘方埋土、やや締りあり。

I-I'

- 1 暗褐色砂質土 As-C軽石少量、ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色砂質土 焼土ブロック多量、炭化物小片含む。
- 3 褐色土 ローム粒微量含む。

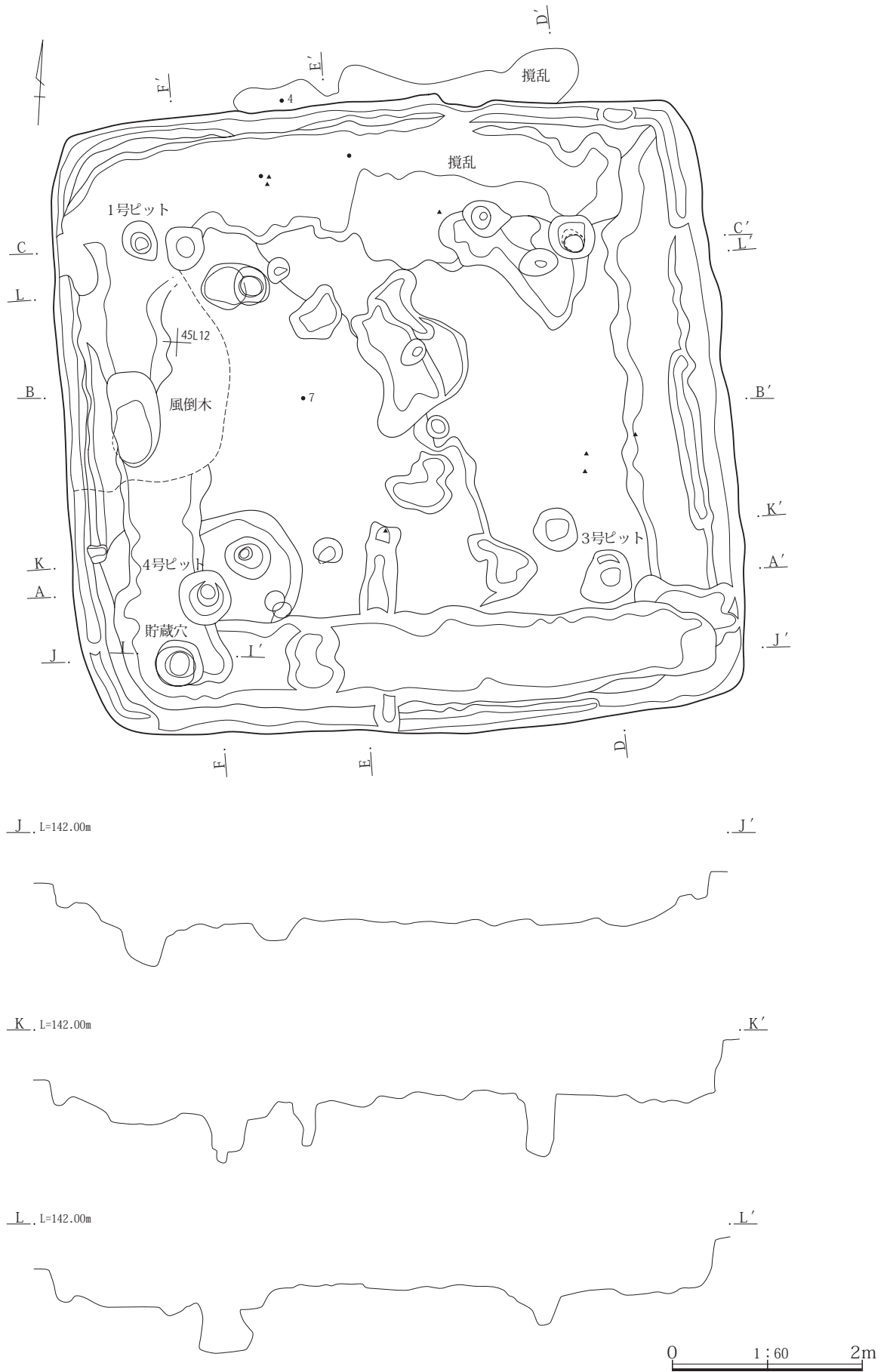
第64図 15号住居(4)

のである。

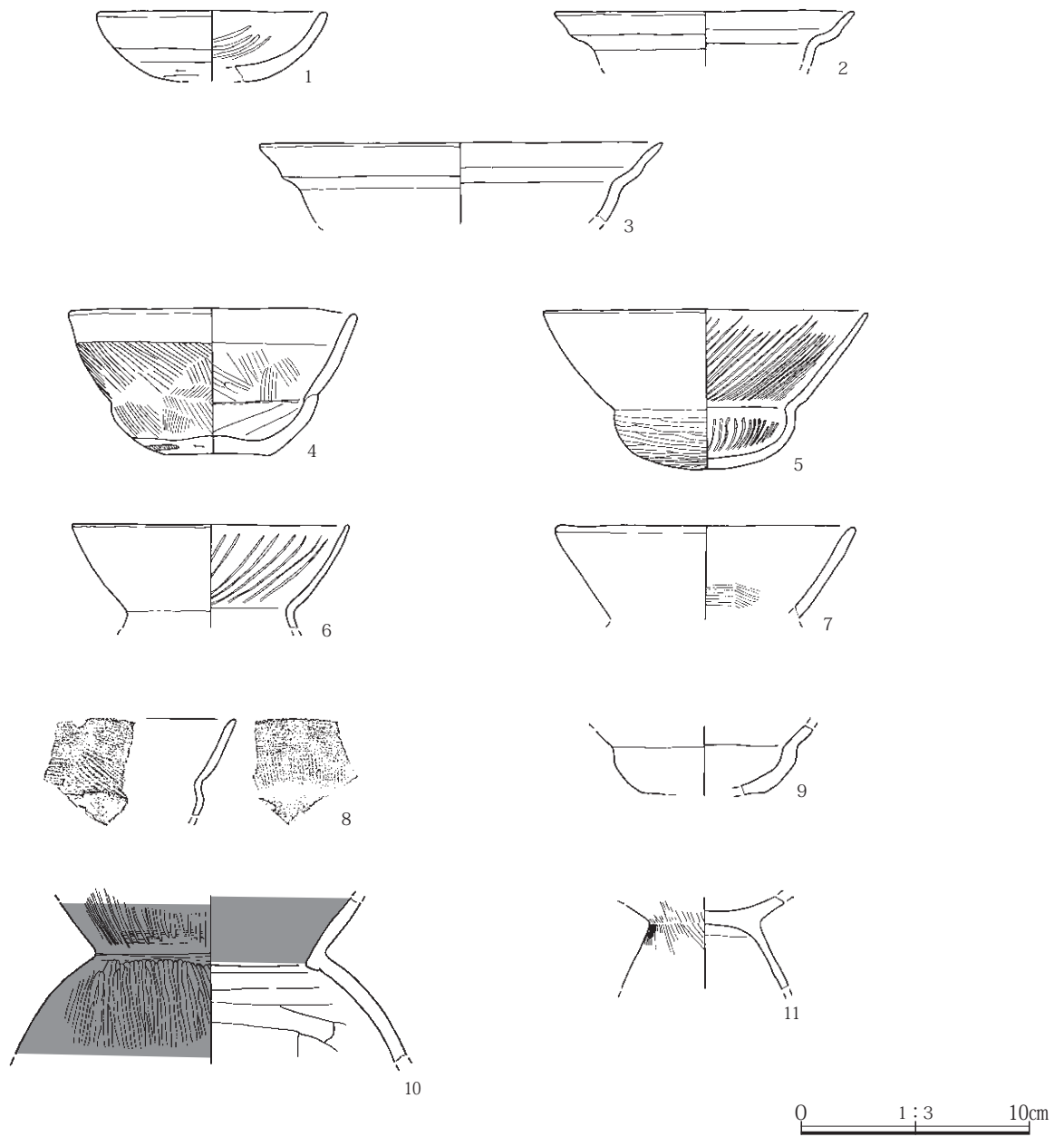
出土した炭化材は、調査時部材の一部をカットして取り上げた。分析の結果、炭化材ほとんどがクヌギ節もしくはコナラ亜属に属する木材を使用しており、割材として加工されていたことがわかった(第22表)。検出の状況から炭化材は、住居の建築部材であることが想定される。住居の中心を向くように出土した木材、取り上げ番号のA群・B群・D群・E群・J群・K群・M群・P群・Q群・S群・T群・U群・V群の炭化材は垂木であることが考えられる。C群は柱間に位置していることから垂木ではないことが考えられ、叉首の可能性が考えられる。主柱や梁・桁に使用したと考えられる丸太材は検出されなかった。

所見 床面において炭化材及び焼土が検出されており、焼失住居と考えられる。出土遺物が少ないことから、住居使用時の失火ではないことが考えられる。床面と炭化

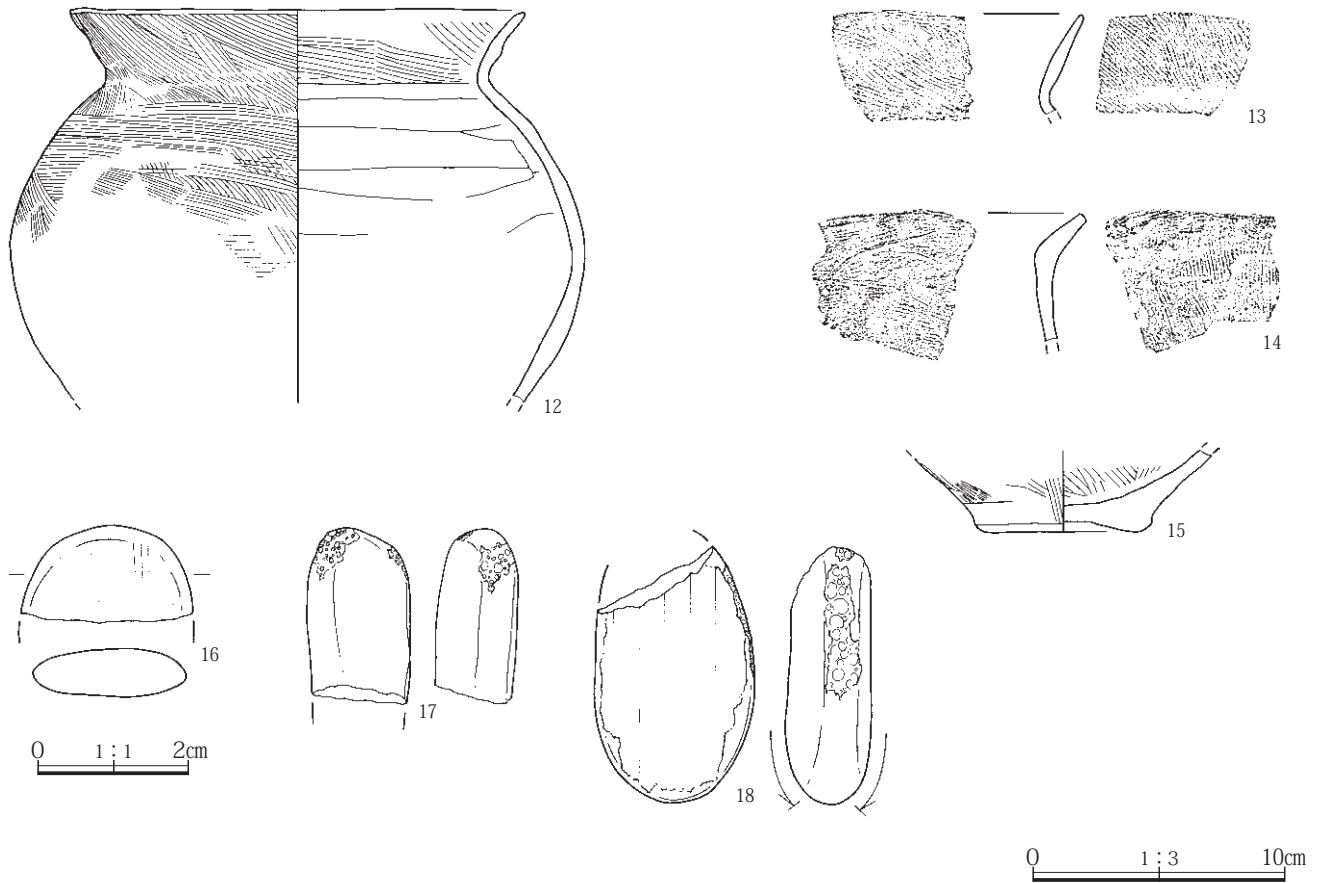
材・焼土の間に黒褐色土が堆積していること、住居北側では攪乱土の上から炭化材が検出されていることから、住居廃絶後時間をおいてから焼失したものと考えられる。出土遺物及び住居形態、埋土にAs-C混土があることなどから4世紀前半の住居と考えられる。



第65図 15号住居(5)



第66図 15号住居出土遺物(1)



第67図 15号住居出土遺物(2)

16号住居(第68・69図、PL.20・44)

位置 45K11 45区

形状・規模 長軸3.77m、短軸3.37mを測り、小判形を呈する。

面積 10.15m²

方位 N-15°-E

重複 なし

埋没土 白色軽石及びロームブロックを含む暗茶褐色土。レンズ状に堆積していることから自然埋没土と考えられる。

床面 ローム土と暗褐色土の混土を構築土として、掘方を築いていた。床面の残存深度は0.41mを測る。壁溝は確認されなかった。住居南側にて長軸0.56m、短軸0.49m、深さ0.19mを測る楕円形を呈した1号ピットを検出した。用途は不明である。

柱穴 確認されなかった。

炉 住居中央部西寄りにて地床炉を、住居中央部北寄りにて埋甕炉をそれぞれ確認した。地床炉の被熱範囲は、長軸0.36m、短軸0.12mを測る。床被熱の深さは最大で

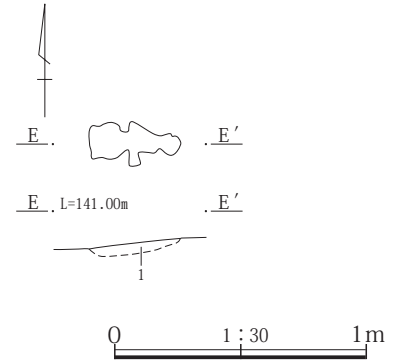
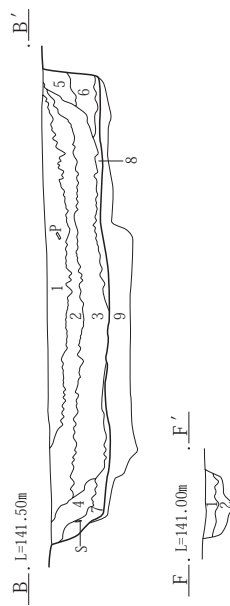
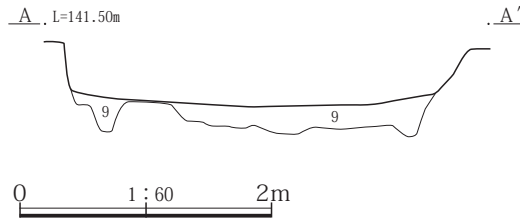
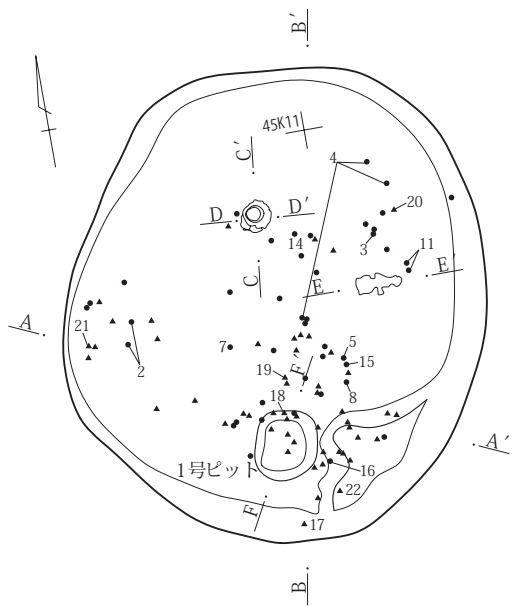
0.04mである。埋甕炉は径0.32m、深さ0.12mの掘り込みを持ち、その中央部に炉体土器(第69図1：諸磯c式)を埋設していた。埋甕炉と地床炉の新旧関係は不明であった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土器については縄文土器54片が出土した。型式別にみると諸磯b式2片、諸磯c式36片、浮島・興津式14片・前期後葉14片・前期後葉浅鉢1片で、諸磯c式が最も多かった。埋甕炉炉体以外はほとんどが埋土中からの出土であった。

石器については打製石斧1点、磨製石斧1点、石匙1点、削器3点、凹石3点、加工痕ある剥片1点が出土した。

所見 出土土器は諸磯c式が最も多かった。ほとんどが埋土中からの検出であるが、住居使用時に使われていたと見られる埋甕炉の炉体土器も諸磯c式である。このことから16号住居は縄文時代前期諸磯c式期の住居と考えられる。



A-A' , B-B'

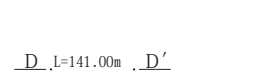
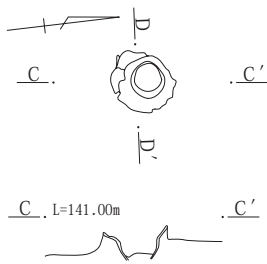
- 1 暗褐色土 白色軽石含有する。
- 2 暗褐色土 白色軽石少量含む。
- 3 暗茶褐色土 白色軽石若干含む。
- 4 暗茶褐色土 塊状Ⅷ層土含有する。
- 5 暗茶褐色土 塊状Ⅷ層土少量含む、塊状暗茶褐色Ⅷ層土含有する。
- 6 暗茶褐色土 炭化物含有する。塊状Ⅷ層土少量含む。
- 7 暗茶褐色土 暗茶褐色Ⅷ層土混入する。
- 8 塊状Ⅷ層土
- 9 埋土塊状Ⅷ層土(主体)と暗褐色土の混土 掘方埋土。

E-E'

- 1 赤橙色土 酸化被熱層。

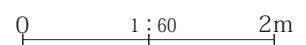
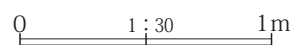
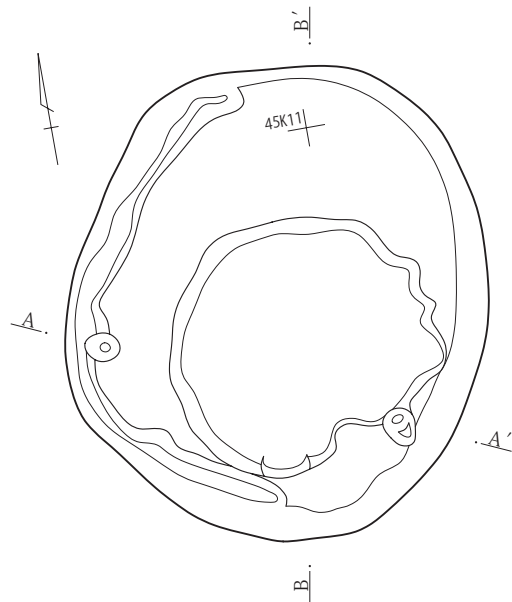
F-F'

- 1 暗褐色土 白色軽石少量含む。
- 2 暗茶褐色土 白色軽石若干含む。

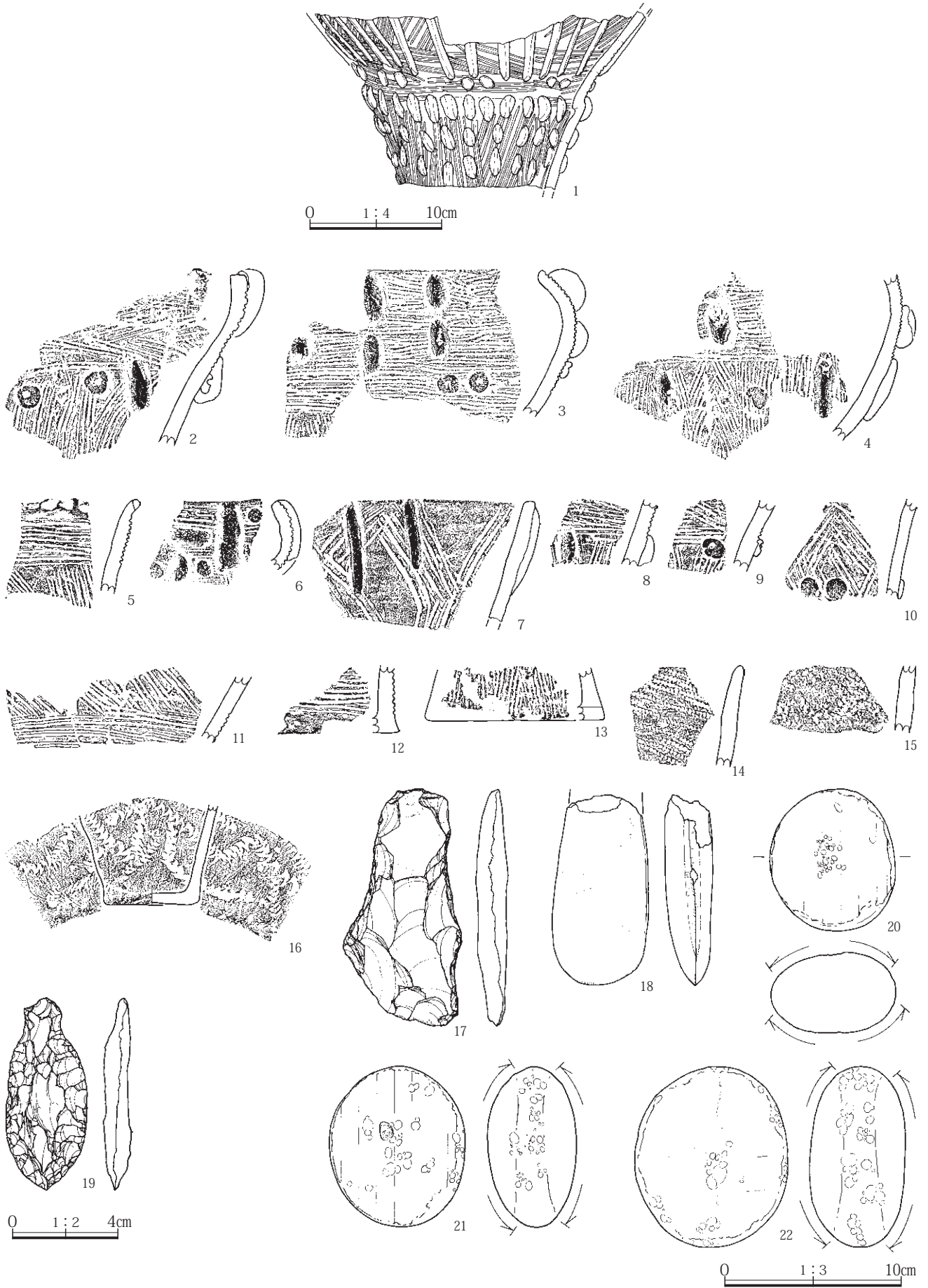


D-D'

- 1 暗褐色土 ローム粒微量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒微量、焼土粒微量含む。



第68図 16号住居



第69図 16号住居出土遺物

17号住居(第70・71図、PL.26・45)

位置 45M 9、45区中央部南端に位置する。西には18号住居が隣接する。

形状・規模 住居の主体は調査区外にあり、また攪乱により破壊されているが、長方形を呈すると考えられる。確認できる範囲で長軸2.14m、短軸1.50mを測る。

面積 確認できた範囲は3.58m²である。

方位 N-35°-W(N-60°-E)

重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒色土、自然埋没土と考えられる。

床面 0.02m～0.12mほどの掘方を構築している。構築土はロームブロックを含む黒褐色土である。床面残存深度は0.14mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

炉 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器杯1片・甕7片・高杯6片・埴5片・壺12片・須恵器瓶1片・灰釉陶器杯1片が出土した。土師器甕のうちS字状口縁台付甕片が4片出土した。土師器甕1を図示した。須恵器瓶及び灰釉陶器杯は埋土からの検出であり、後世の混入と考えられる。土師器は古墳時代前期の特徴を有していた。

所見 攪乱により、住居のコーナー部のみ検出という遺構の検出状況を考えれば、長軸方向はN-35°-Wである。しかし、周囲の15、18、19、20号住居が同じ方向に建てられており、17号住居のコーナー部の角度もそれら住居のコーナー部と近似している。この状況を考え、攪乱により短くなっている方の辺を長辺と考えると17号住居の方位はN-60°-Eであると言える。住居の時期は古墳時代前期、4世紀前半であると考えられる。

18号住居(第72～75図、PL.21・45)

位置 45N 11、45区中央部南側に位置する。東には17号住居が隣接する。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸5.92m、短軸5.60mを測る。

面積 31.89m²

方位 N-66°-E

重複 1225号土坑が住居掘方より検出されている。1225号土坑は縄文時代前期後葉の土坑と考えられ、土坑埋没

後18号住居が構築されたと考えられる。よって、18号住居の方が新しい。

埋没土 As-Cを含む黒色土及び暗褐色土である。レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 0.08m～0.26m程の掘方を構築しており、構築土はロームブロックを含む黒褐色土である。床面の残存深度は住居東側で0.36m、西側で0.08mを測る。住居東側と西側で残存深度が異なるのは、15号住居と同じ理由である。壁溝は確認されなかった。

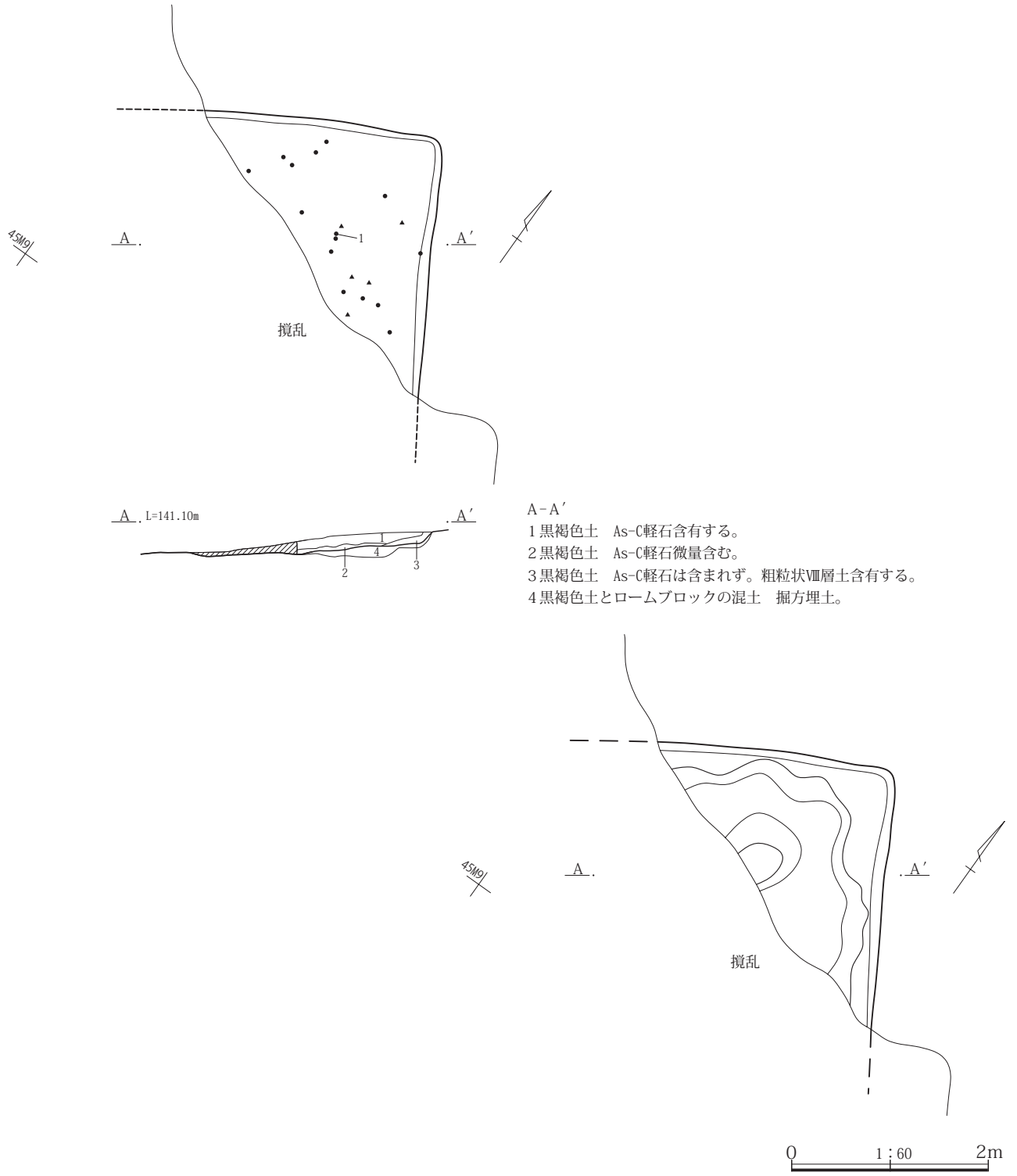
柱穴 4基確認した。南東の柱穴から時計回りに1号ピット～4号ピットと付した。1号ピットは長軸0.70m、短軸0.59mを測る楕円形を呈し、深さ0.30mを測る。2号ピットは長軸0.62m、短軸0.56mを測る楕円形を呈し、深さ0.17mを測る。3号ピットは長軸0.66m、短軸0.52mを測る楕円形を呈し、深さ0.64mを測る。4号ピットは長軸0.57m、短軸0.46mを測る楕円形を呈し、深さ0.28mを測る。

炉 住居中央部にて確認された。楕円形を呈した地床炉であり、被熱範囲は長軸1.26m、短軸0.48mを測る。床被熱の深さは最大0.22mであった。

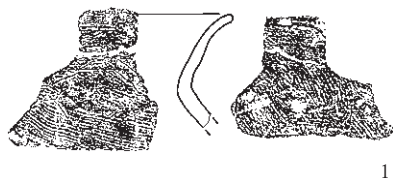
貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器甕52片・高杯1片・埴38片・壺109片・鉢8片・器台4片が出土した。土師器甕のうちS字状口縁台付甕片を31片出土した。そのうち図示したのは土師器鉢1～4、小型鉢5・6、埴7、脚付埴8、器台9、台付甕10、甕11～16、敲石17である。甕10はS字状口縁台付甕の口縁部から胴部上位片である。口縁形態は、やや直立ぎみであり、内面に平坦面がみられる。甕14は底部片であるが、底部にボタン状の突起が貼付けられていた。甕15・16は平底甕底部で、16は床面直上より検出されている。検出されたS字状口縁台付甕片の中には、肩部片で、横線が確認できるものも何片もあった。

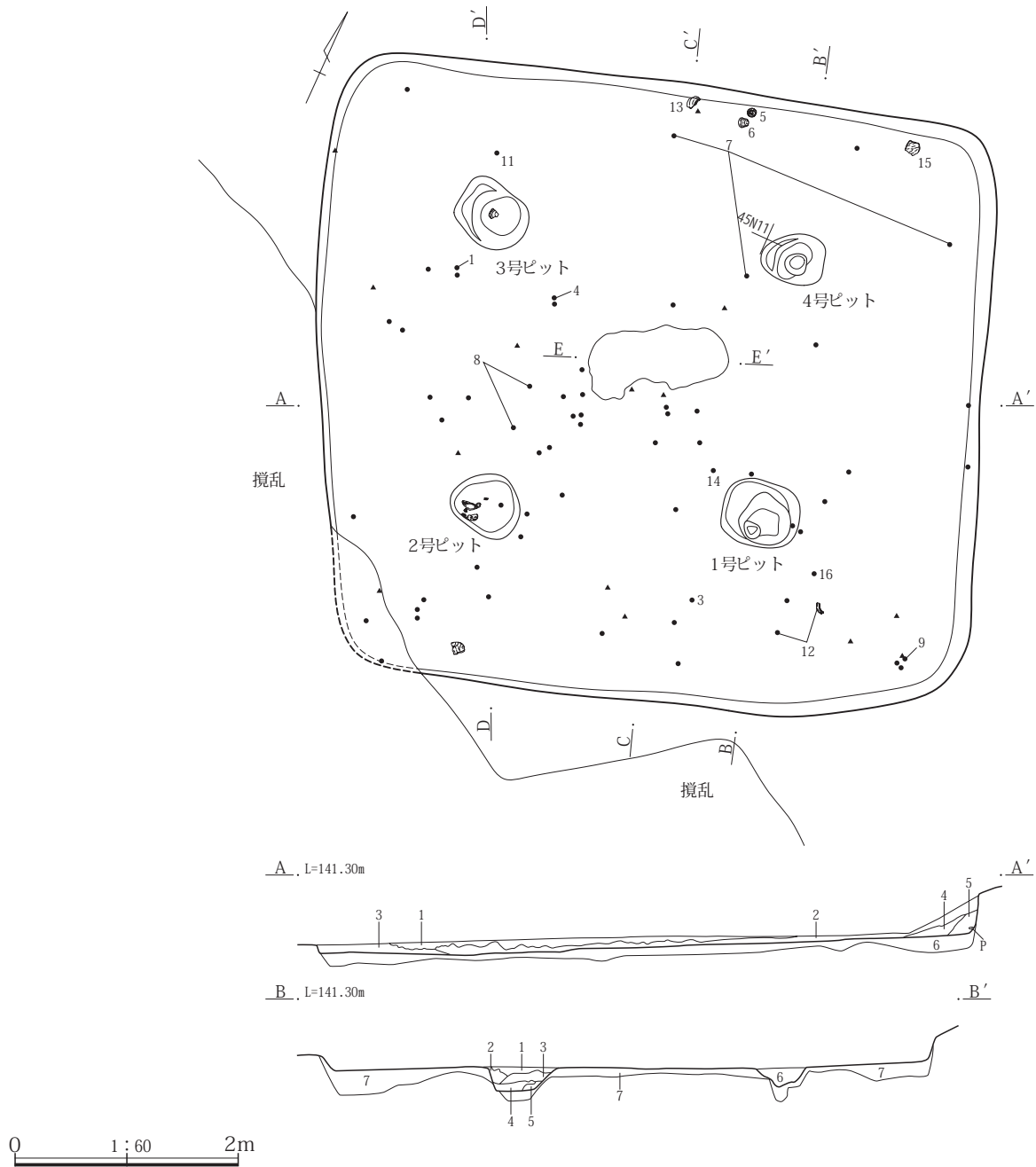
所見 土器の特徴から4世紀前半と考えられる。S字状口縁台付甕の様式から住居の上限は古墳時代前期中葉、3世紀末とも考えられる。



第70図 17号住居



第71図 17号住居出土遺物



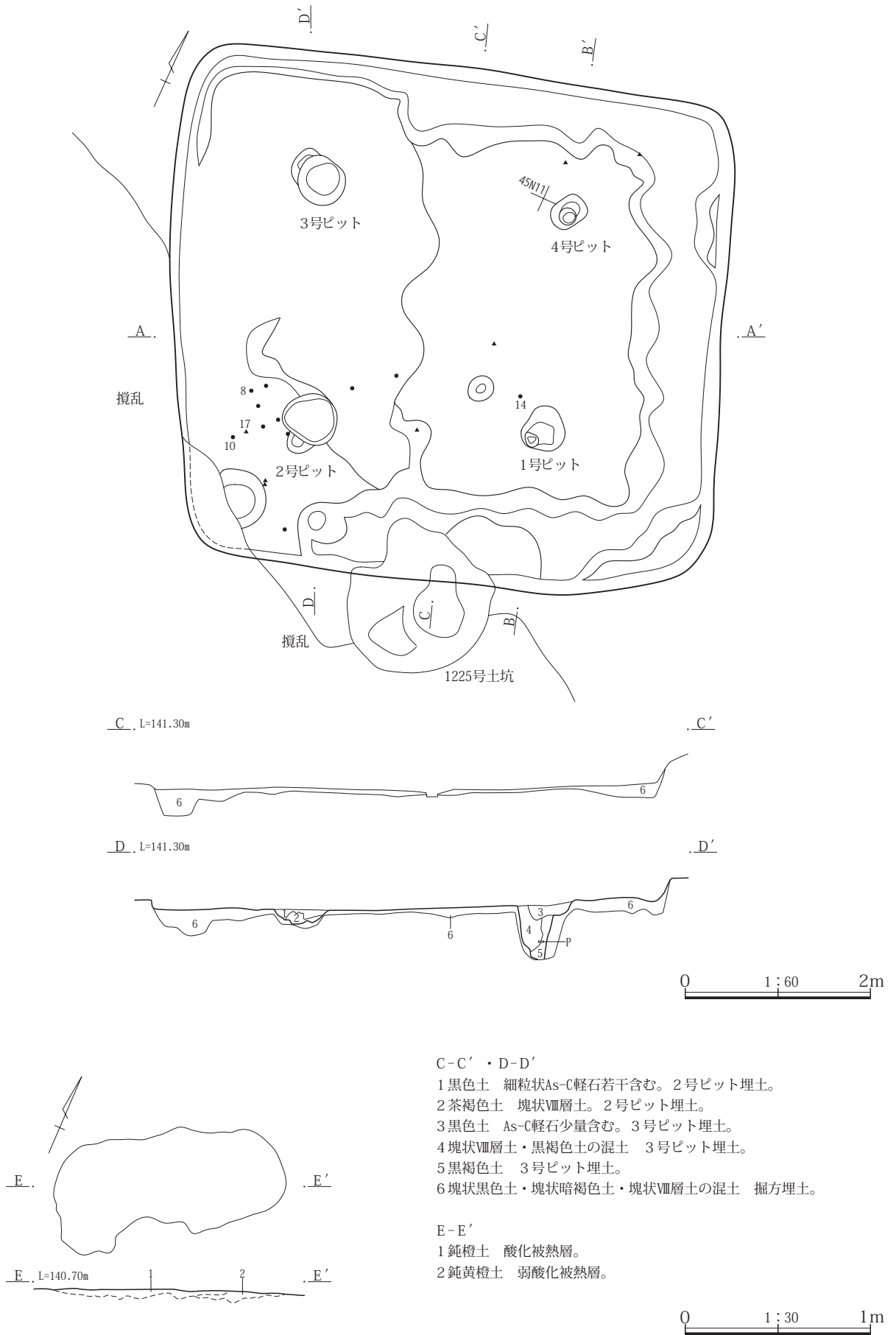
A-A'

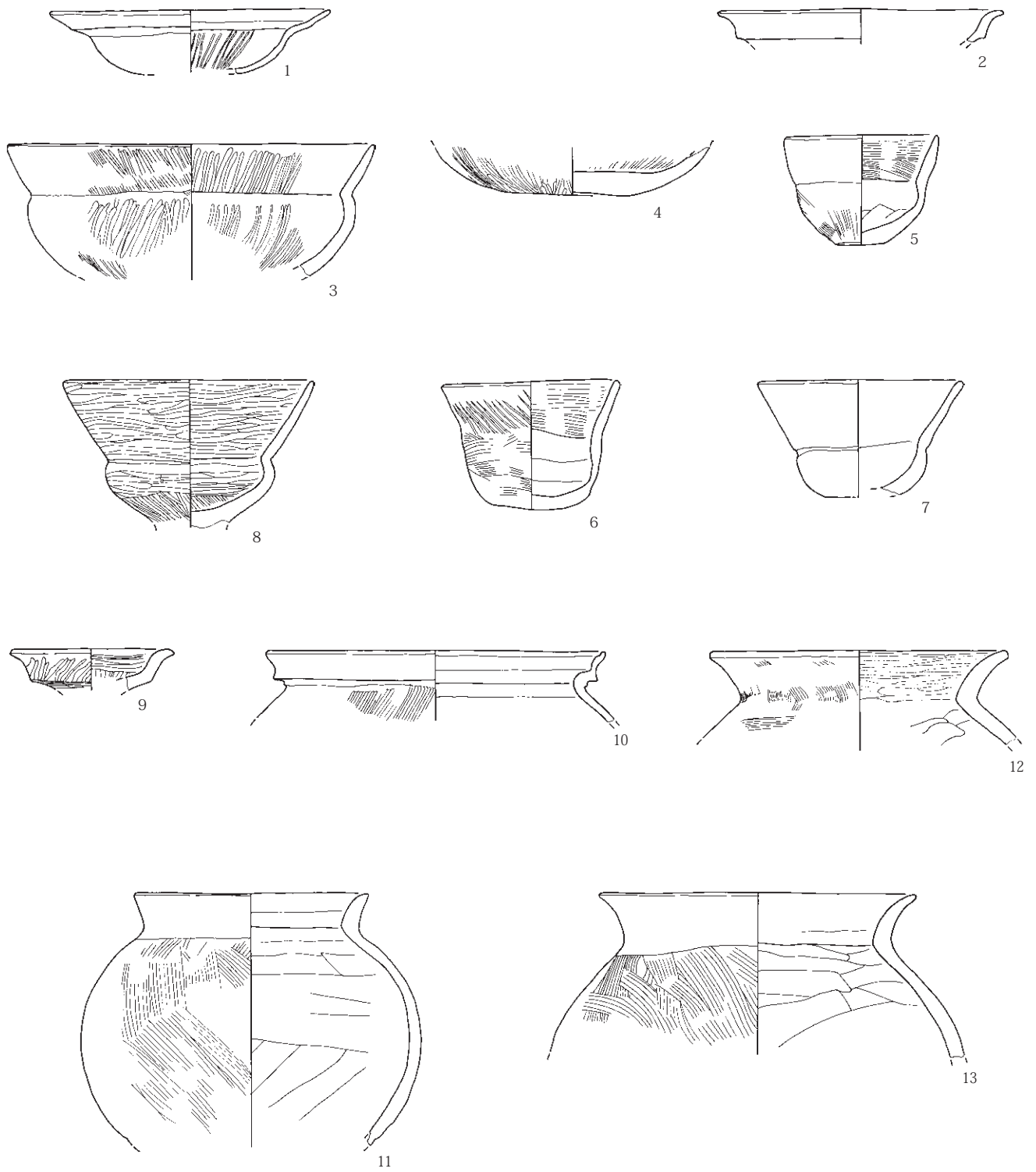
- 1 黒色土 As-C軽石少量含む。
- 2 暗褐色土 As-C軽石若干含む。
- 3 黒色土 As-C軽石少量含む。
- 4 黒色土 3層に類するが、色調3層より暗い。
- 5 暗褐色土 塊状黒色土含有する。As-C軽石微量含む。
- 6 塊状黒色土・塊状暗褐色土・塊状Ⅷ層土の混土 掘方埋土。

B-B'

- 1 黒色土 As-C軽石若干含む。1号ピット埋土。
- 2 黒色土 As-C軽石若干含む。粒状Ⅷ層土含有する。1号ピット埋土。
- 3 黒色土 As-C軽石若干、粒状Ⅷ層土多量含む。粗粒状Ⅷ層土含有する。1号ピット埋土。
- 4 黒色土 As-C軽石若干、塊状Ⅷ層土少量含む。1号ピット埋土。
- 5 黒色土 As-C軽石若干、粒状Ⅷ層土多量、粗粒状Ⅷ層土多量含む。1号ピット埋土。
- 6 黒色土 As-C軽石少量・粗粒状Ⅷ層土少量。4号ピット埋土。
- 7 塊状黒色土・塊状暗褐色土・塊状Ⅷ層土の混土 掘方埋土。

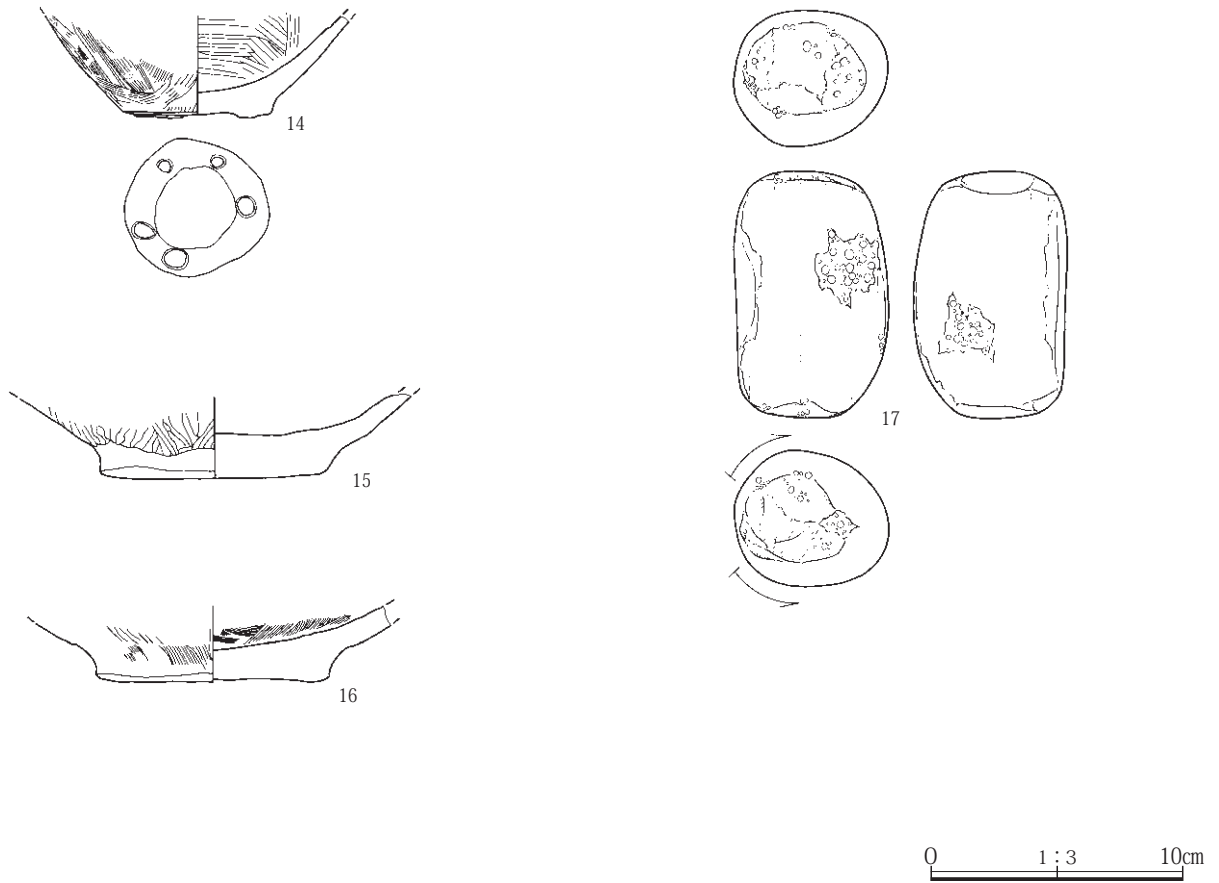
第72図 18号住居(1)





第74図 18号住居出土遺物(1)

0 1:3 10cm



第75図 18号住居出土遺物(2)

19号住居(第76～78図、PL.26・45)

位置 45N13、45区中央部に位置する。北西には20号住居が隣接している。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸6.05m、短軸5.30mを測る。

面積 31.04m²

方位 N-76°-E

重複 なし

埋没土 As-Cおよびロームブロックを少量含む黒色土。自然埋没土と考えられる。

床面 住居西壁に沿って掘方が構築されている。掘方では住居と北西コーナー及び北東寄りの部分に土坑状の掘り込みが検出されたが、用途は不明である。ほかの部分は地山を生活面としていた。床面の残存深度は0.06mを測る。壁溝は確認されなかった。

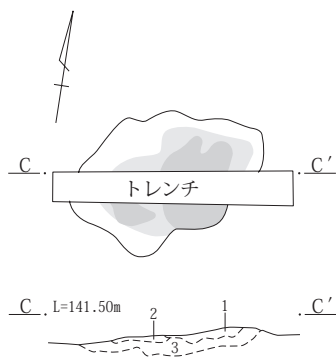
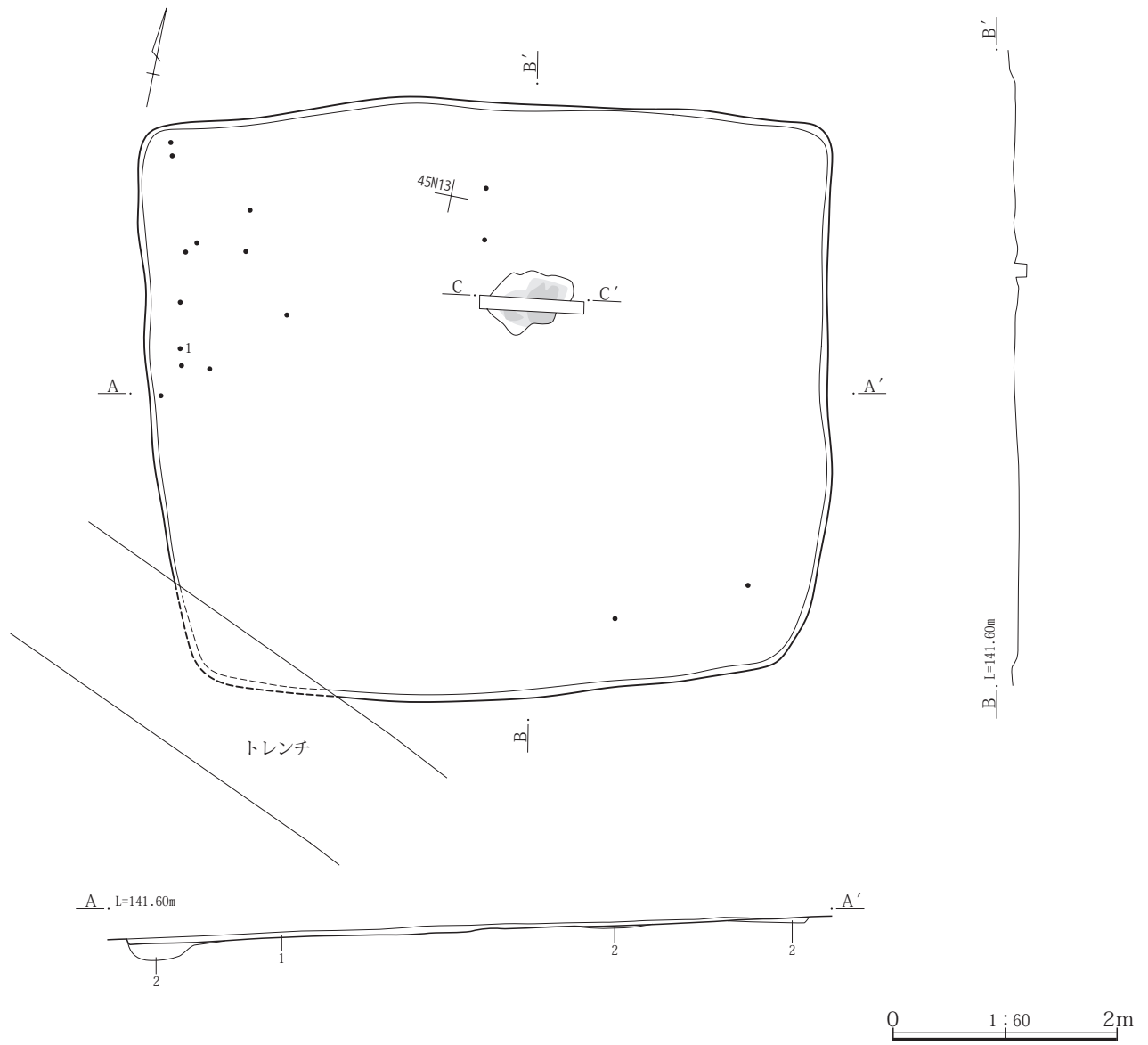
柱穴 確認されなかった。

炉 住居中央北よりにて確認された。楕円形を呈した地床炉であり、被熱範囲は長軸0.74m、短軸0.50mを測る。床被熱の深さは最大0.09mであった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器甕21片・埴4片・須恵器杯1片を出土した。土師器甕のうちS字状口縁台付甕片を3片出土した。そのうち図示したのは土師器埴1、甕2である。遺物は小片であるため仔細がわかるものが少ないが、S字状口縁台付甕片も含まれており、古墳時代前期のものと考えられる。

所見 埋土からAs-C降下以降の時期であると考えられる。住居長軸が15・18・21号住居と同じ傾きをしており、それら住居と同時期が考えられる。



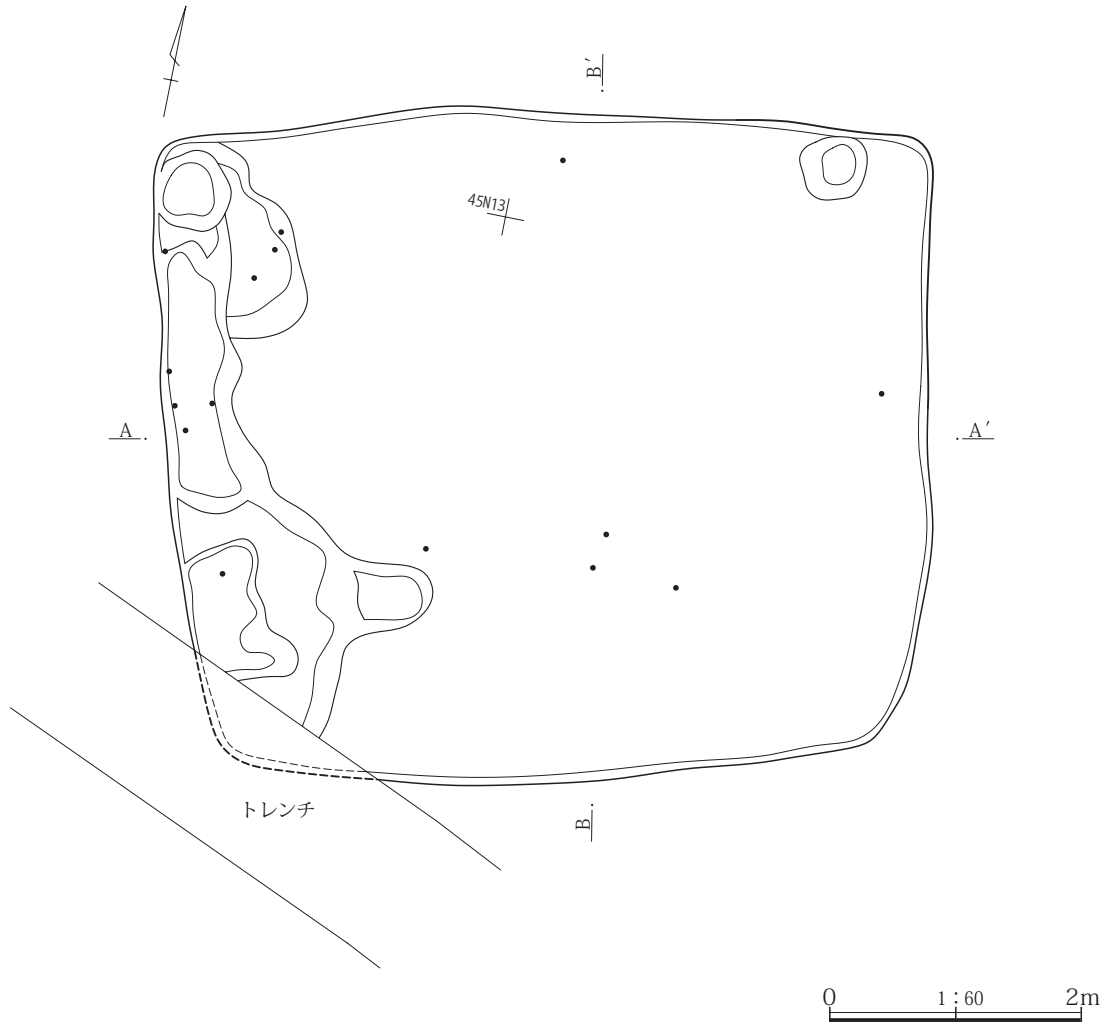
A-A'

- 1 黒色土 細粒状As-C軽石若干、粗粒状Ⅷ層土少量含む。
- 2 黒色土と塊状Ⅷ層土の混土 掘方埋土。

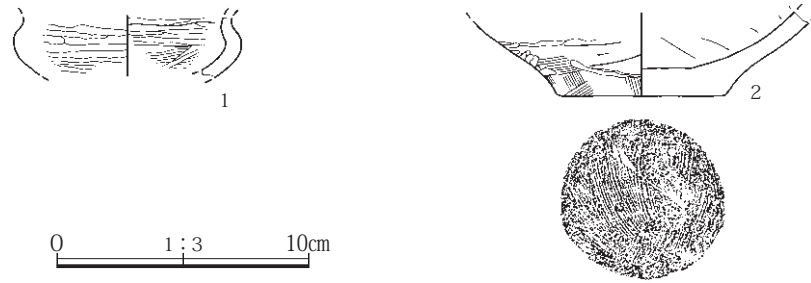
C-C'

- 1 赤橙色土 酸化被熱層。
- 2 橙色土 酸化被熱層。
- 3 黒色土 部分的にやや赤みがかかる。床構築土だが、炉跡範囲のためやや被熱していると思われる。

第76図 19号住居(1)



第77図 19号住居(2)



第78図 19号住居出土遺物

20号住居(第79～83図、PL.22・45・46)

位置 45O14 45区中央部に位置し、南東には19号住居が隣接している。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸5.80m、短軸5.42mを測る。

面積 31.06m²

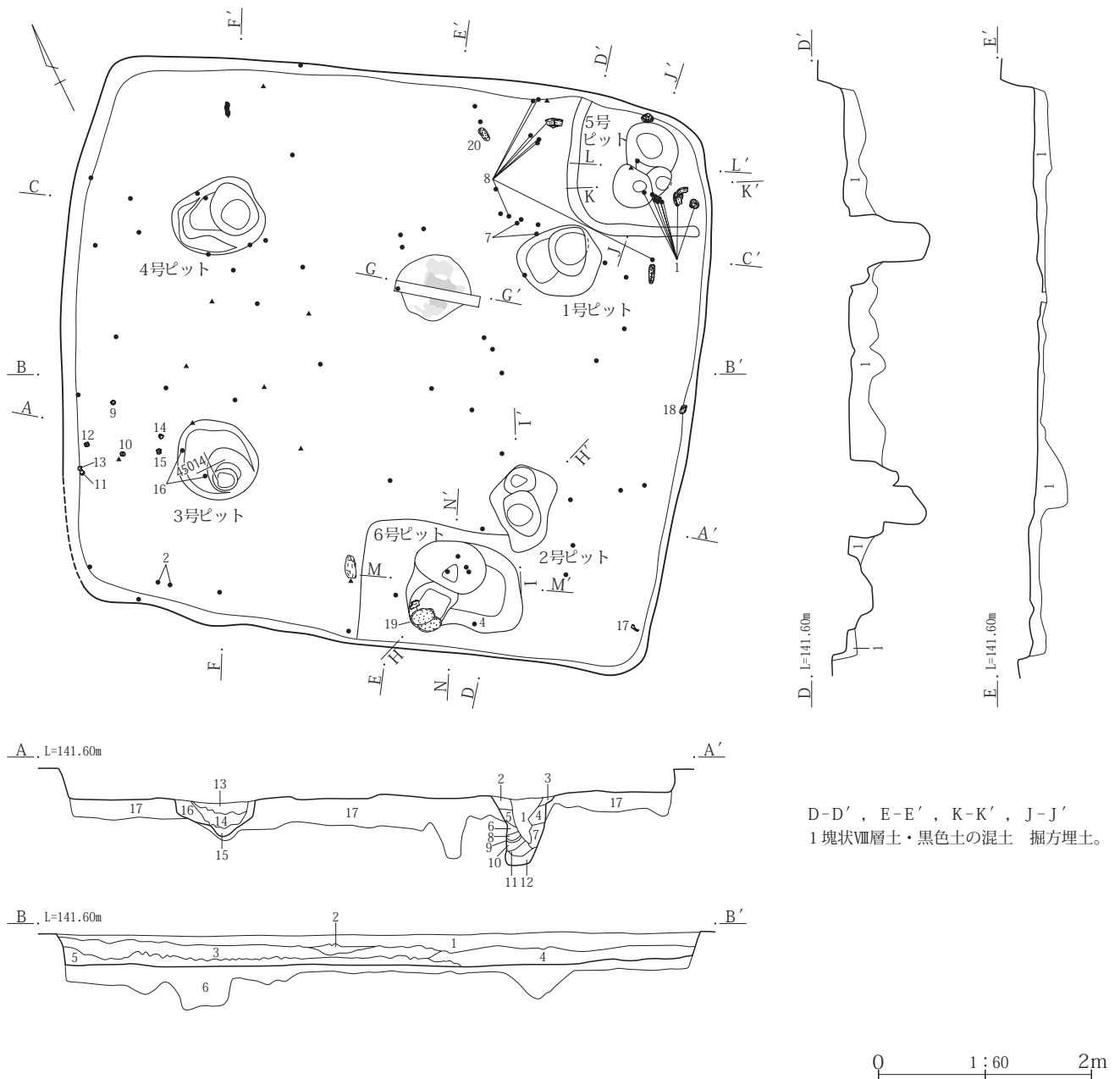
方位 N-63°-W

重複 1227号土坑が住居掘方より検出されている。1227号土坑は縄文時代前期後葉及び後期前葉の遺物が出土していることから、縄文時代の土坑と考えられ、土坑埋没後20号住居が構築されたと考えられる。

埋没土 As-Cを含む黒色土。レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

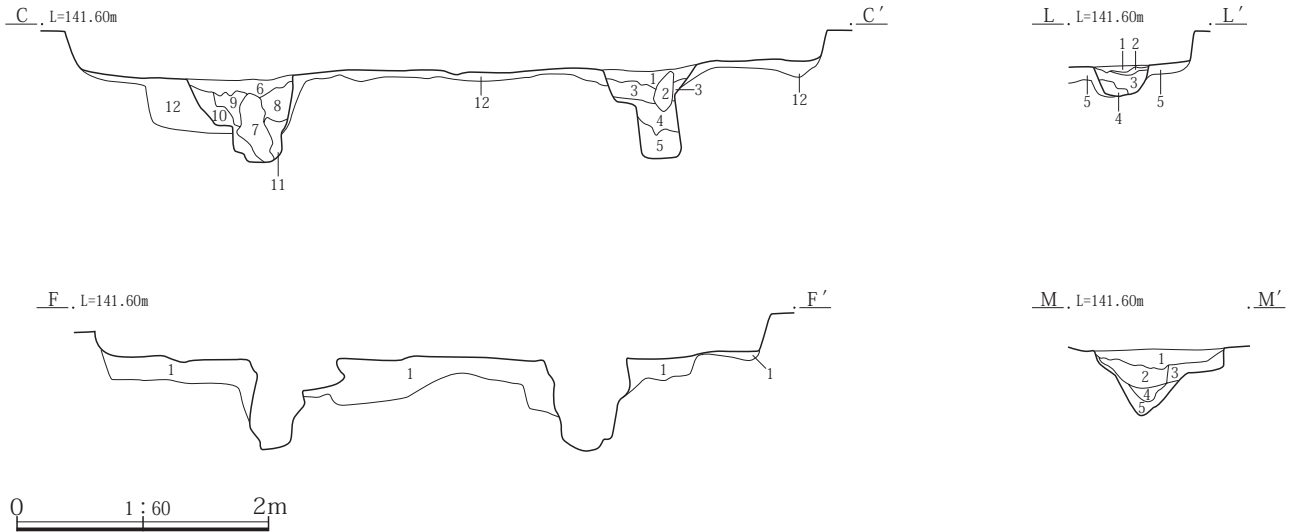
床面 住居全体に掘方を構築している。掘方は住居中央部では0.08m程度と浅いが壁際は0.12m～0.40mと深く構築されていた。構築土はロームブロックを多量に含む黒色土である。床面の残存深度は0.29mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 4基確認した。北東の柱穴から時計回りに1号ピット～4号ピットと付した。1号ピットは長軸0.80m、短軸0.67mを測る楕円形を呈し、深さ0.77mを測る。2号ピットは長軸0.80m、短軸0.51mを測る楕円形を呈し、



第79図 20号住居(1)

第3章 調査



A-A'

- 1 暗褐色土 粒状Ⅷ層土混入する。2号ピット埋土。
- 2 暗褐色土 粒状Ⅷ層土含有する。2号ピット埋土。
- 3 暗褐色土 2層と同質だが、色調2層より暗い。2号ピット埋土。
- 4 塊状黒色土・塊状Ⅷ層土の混土。2号ピット埋土。
- 5 塊状Ⅷ層土・黒色土の混土。2号ピット埋土。
- 6 塊状Ⅷ層土 2号ピット埋土。
- 7 塊状Ⅷ層土多量・黒色土の混土 2号ピット埋土。
- 8 塊状Ⅷ層土・黒色土の混土 2号ピット埋土。
- 9 塊状Ⅷ層土 2号ピット埋土。
- 10 塊状Ⅷ層土多量・黒色土の混土 7層と同質だが、黒色土割合多し。2号ピット埋土。
- 11 塊状Ⅷ層土 2号ピット埋土。
- 12 塊状Ⅷ層土・黒色土の混土 2号ピット埋土。
- 13 黒色土 細粒状As-C軽石微量含む。3号ピット埋土。
- 14 黒色土 粒状Ⅷ層土混入する。3号ピット埋土。
- 15 黒色土 粒状Ⅷ層土含有する。3号ピット埋土。
- 16 黒色土 塊状Ⅷ層土多量に含む。炭化物混入する。3号ピット埋土。
- 17 塊状Ⅷ層土・黒色土の混土 掘方埋土。

B-B'

- 1 黒色土 As-C軽石混入する。
- 2 黒色土 As-C軽石多量含む。
- 3 黒色土 As-C軽石含有する。
- 4 黒色土 As-C軽石少量含む。粒状Ⅷ層土含有する。
- 5 黒色土 細粒状As-C軽石微量含む。
- 6 黒色土・塊状Ⅷ層土の混土 掘方埋土。

C-C'

- 1 茶褐色土 粒状Ⅷ層土多量、炭化物若干含む。1号ピット埋土。
- 2 茶褐色土 1層に類するが、炭化物1層より多く含む。1号ピット埋土。
- 3 茶褐色土・塊状Ⅷ層土・黒色土の混土 1号ピット埋土。
- 4 茶褐色土 塊状Ⅷ層土が主体的に見られる。1号ピット埋土。
- 5 黒色土 塊状Ⅷ層土多量含む。1号ピット埋土。
- 6 黒色土 As-C軽石若干含む。粒状Ⅷ層土含有する。4号ピット埋土。
- 7 粘質暗褐色土 粗粒状Ⅷ層土少量含む。4号ピット埋土。
- 8 暗茶褐色土 塊状Ⅷ層土含有する。4号ピット埋土。
- 9 黒色土 塊状Ⅷ層土含有する。4号ピット埋土。
- 10 粘質暗茶褐色土 塊状Ⅷ層土少量含む。4号ピット埋土。
- 11 暗茶褐色土 塊状Ⅷ層土多量含む。4号ピット埋土。
- 12 黒色土・塊状Ⅷ層土の混土 掘方埋土。

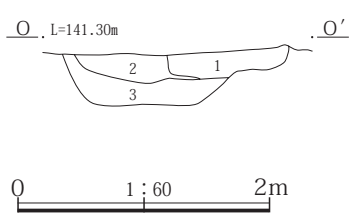
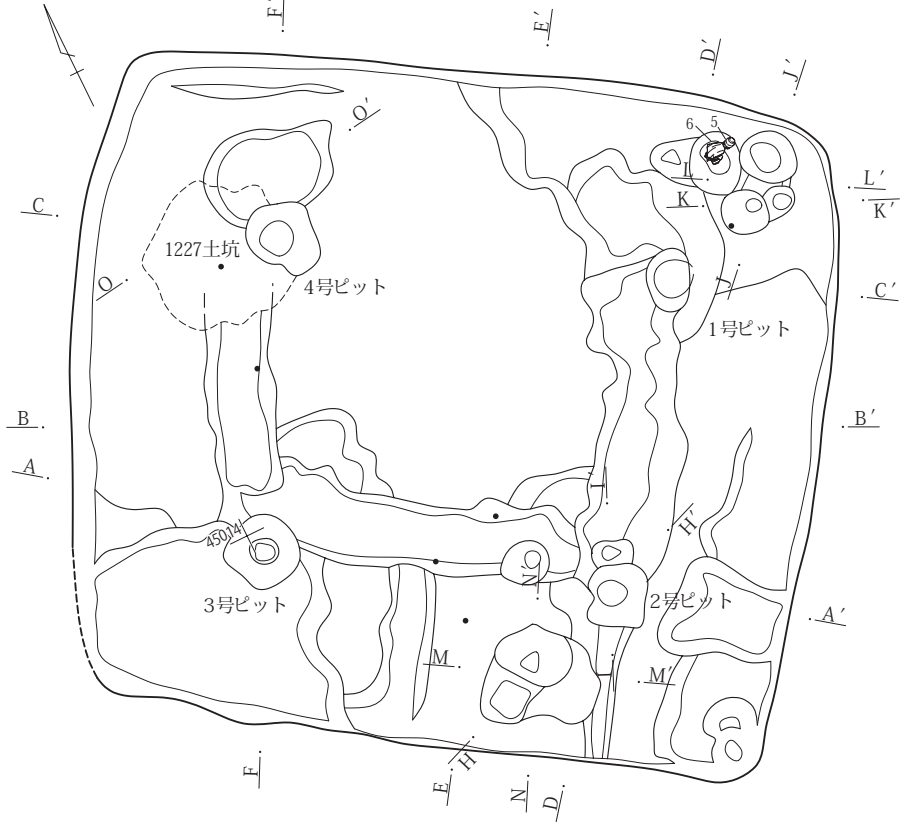
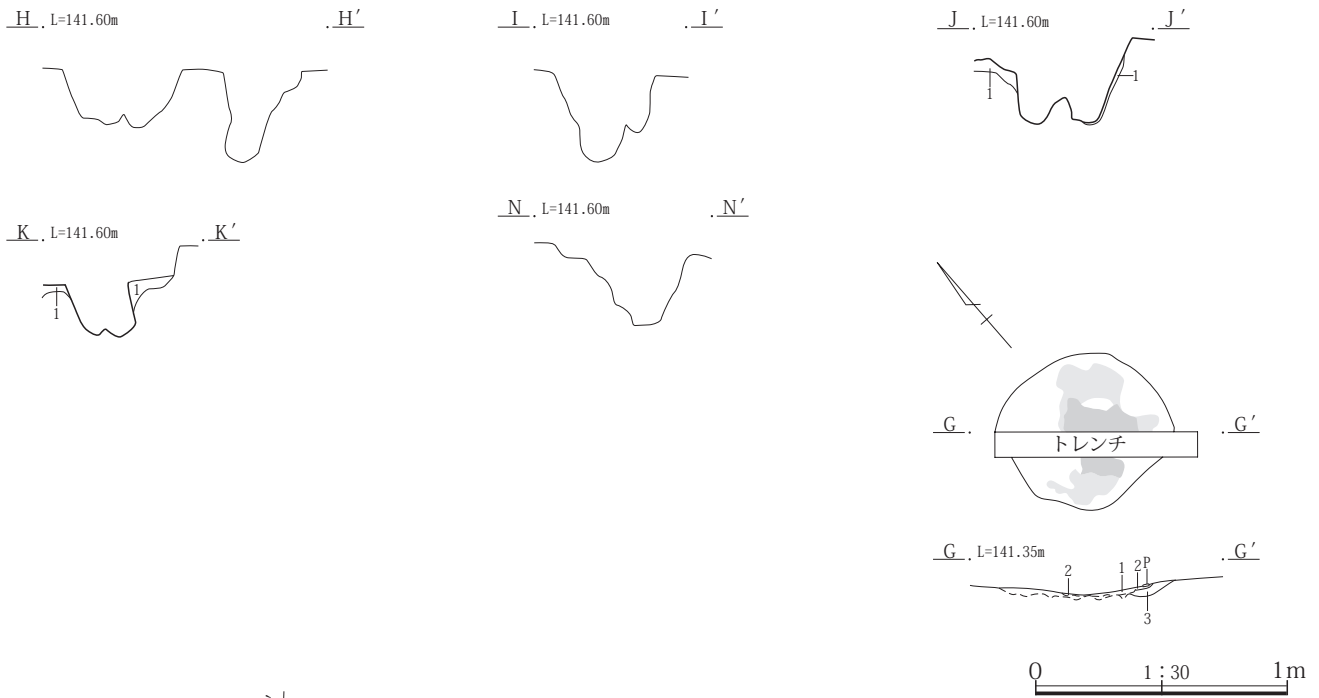
L-L'

- 1 黒色土 細粒状As-C軽石少量、粒状焼土若干含む。
- 2 黒色土 細粒状As-C軽石若干含む。
- 3 黒色土 As-C軽石若干含む。Ⅷ層土含有する。
- 4 黒色土 As-C軽石微量含む。Ⅷ層土含有する。
- 5 黒色土・塊状Ⅷ層土の混土 掘方埋土。

M-M'

- 1 黒褐色土 As-C軽石含有する。
- 2 黒褐色土 As-C軽石少量、塊状Ⅷ層土少量含む。
- 3 黒褐色土 As-C軽石若干、塊状Ⅷ層土少量含む。
- 4 黒色土 As-C軽石少量含む。
- 5 黒色土 細粒状As-C白色軽石微量、塊状Ⅷ層土少量含む。粗粒状Ⅷ層土含有する。

第80図 20号住居(2)



- O-O'
- 1 黒褐色土 As-C軽石含有する。粒状Ⅷ層土若干含む。
 - 2 黒褐色土 As-C軽石若干塊状Ⅷ層土若干、粒状焼土微量含む。
 - 3 粘質暗褐色土 1227号土坑埋土。塊状Ⅷ層土含有する、湧水層多く詳細不明。
- G-G'
- 1 赤橙色土 酸化被熱層。
 - 2 橙色土 酸化被熱層。
 - 3 黒色土・塊状Ⅷ層土の混土 掘方埋土。

第81図 20号住居(3)

第3章 調査

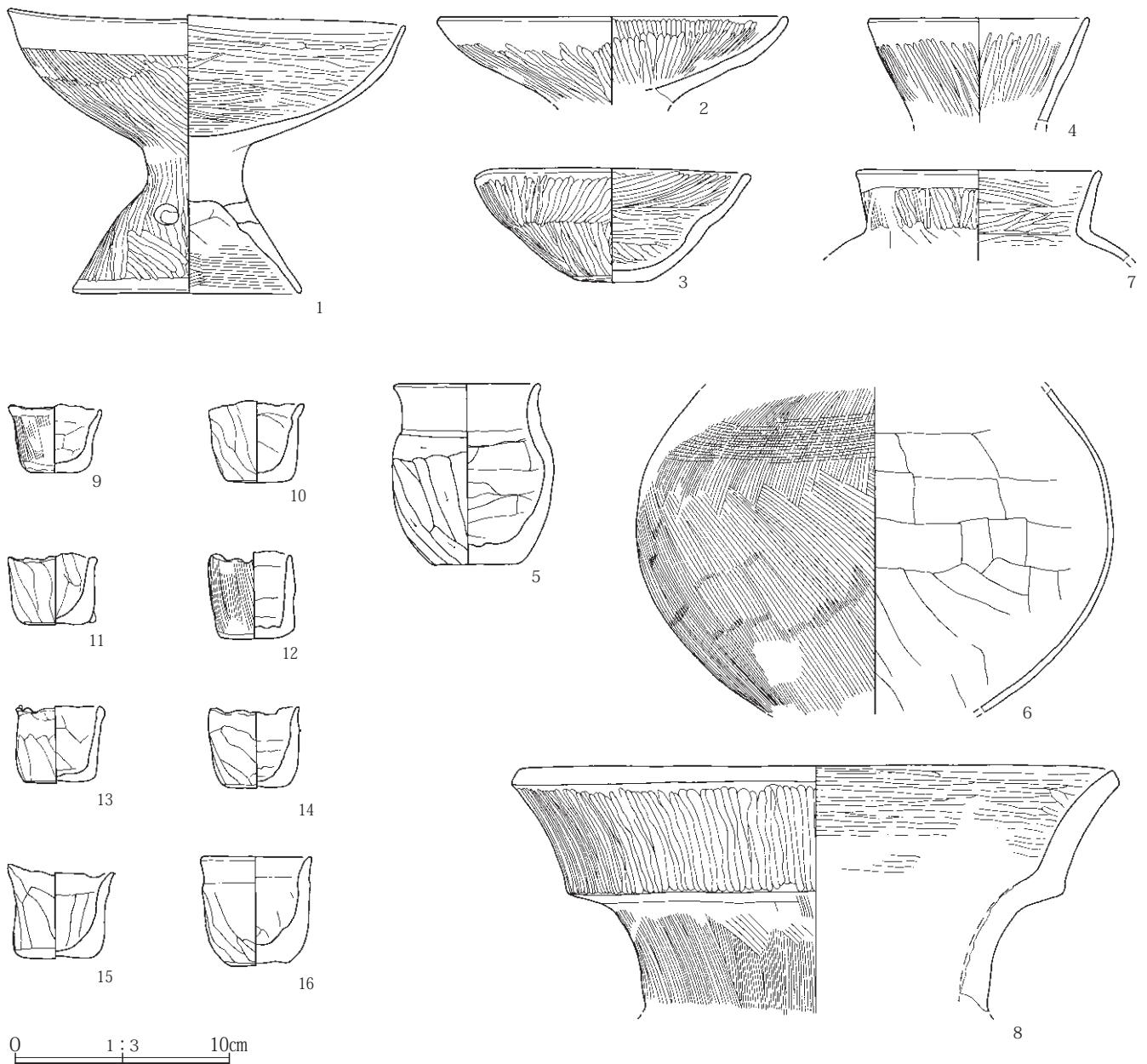
深さ0.74mを測る。3号ピットは長軸0.78m、短軸0.70mを測る楕円形を呈し、深さ0.73mを測る。4号ピットは長軸0.83m、短軸0.66mを測る楕円形を呈し、深さ0.71mを測る。柱穴間の距離は芯々で1・2号ピット間が2.5m、2・3号ピット間が2.8m、3・4号ピット間が2.5m、1・4号ピット間が3.15mである。

炉 住居中央部北よりにて確認された。楕円形を呈した地床炉であり、被熱範囲は長軸0.71m、短軸0.62mを測る。床被熱の深さは最大0.08mであった。

貯蔵穴 5号ピット及び6号ピットが貯蔵穴と考えられる。5号ピットは長軸0.81m、短軸0.46m、深さ0.43m

を測る。6号ピットは長軸1.03m、短軸0.78m、深さ0.52mである。使用の新旧関係は不明である。

出土遺物 住居南西部より完形及び完形に準ずるミニチュア土器が床面直上より7点まとめて出土している。その他の出土遺物は、土師器甕103片・高杯5片・埴12片・壺8片、砥石、敲石を出土した。土師器甕のうち40片がS字状口縁台付甕片であった。そのうち図示したのは土師器高杯1・2、埴3・4、小型甕5、台付甕6、甕7、壺8、手捏ね土器鉢型9～16、砥石17～19、敲石20である。1の高杯はほぼ完形、杯部内面横磨きや椀形の形状から在来系の作出であり、脚部に円形の透孔3



第82図 20号住居出土遺物(1)

カ所を模倣したものである。甕6はS字状口縁台付甕の肩部から胴部である。肩口には横ハケ目が施されている。8の二重口縁壺は頸部より外反する形態であり、畿内系の流れを汲んでいるが、在来系の模倣である。頸部で切られていることから、台として使用したことが考えられる。砥石17は床上3cm、砥石18は床上2cmのところから出土した。敲石20は被熱しており、部分的にひび割れがみられる。土師器の時期は古墳時代前期中葉から、歴年代で考えると3世紀末から4世紀にかけてのものと考えられる。

所見 小型甕と鉢型の手握ね土器が出土しており、住居内祭祀を行っていたことが想定される。土器の型式から3世紀末から4世紀にかけての住居と考えられる。

21号住居(第84～89図、PL.23・46・47)

位置 45 I 12、45区東寄りに位置する。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸6.38m、短軸6.25mを測る。

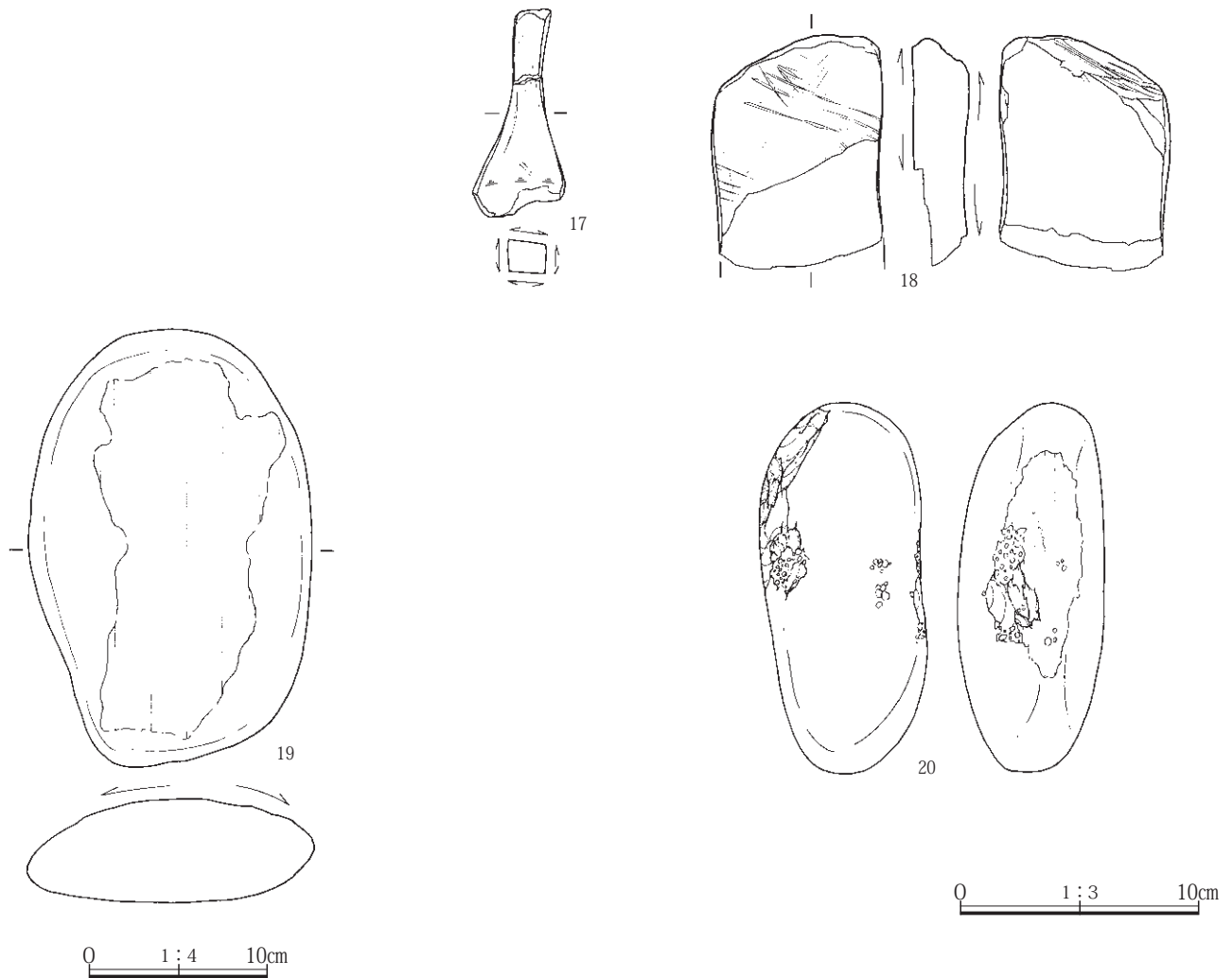
面積 38.18m²

方位 N-11°-W

重複 B混土水田が住居南側三分の二程度を切り耕作されていた。

埋没土 B混水田部分はB混土である。それ以外はAs-Cを含んだ黒色土である。自然埋没ののち、水田耕作がなされたと考えられる。

床面 住居南側三分の二は床面がB混水田により壊されており、掘方のみ検出した。床面の残存深度は0.08mである。壁溝は確認されなかった。住居北西部分から長軸



第83図 20号住居出土遺物(2)

第3章 調査

0.37m、短軸0.34m、深さ0.20mを測る1号ピットを検出したが、用途は不明である。

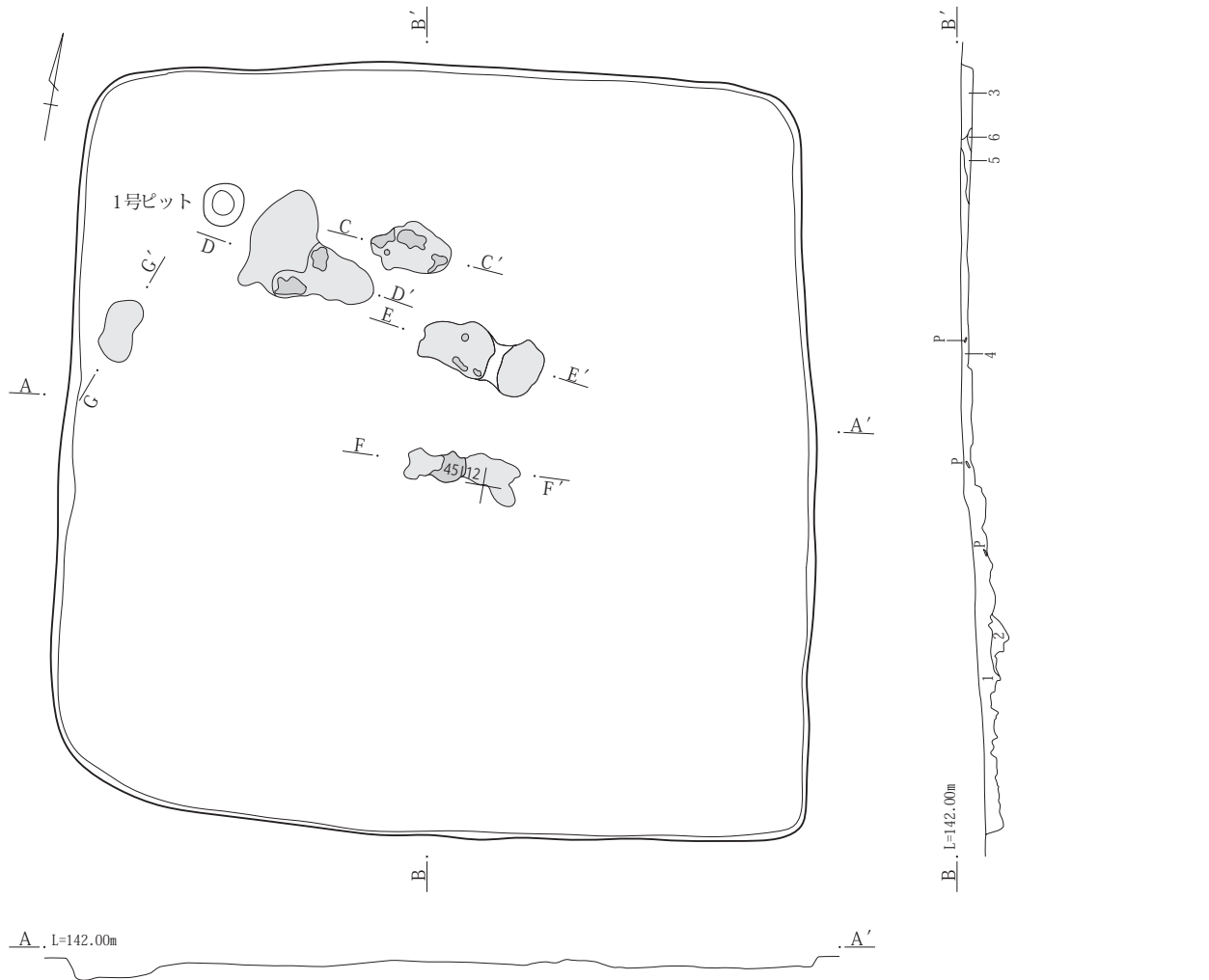
柱穴 確認されなかった。

炉 床面にて被熱している箇所が5箇所確認された。しかし、特定の炉跡を認定することができなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器甕105片・高杯2片・埴29片・壺165片・ミニチュア土器5片・須恵器杯9片・椀3片・瓶3片・灰釉陶器1片が出土している。須恵器及び灰釉陶器はB混水田があることなどから後世の混入と考えられる。S

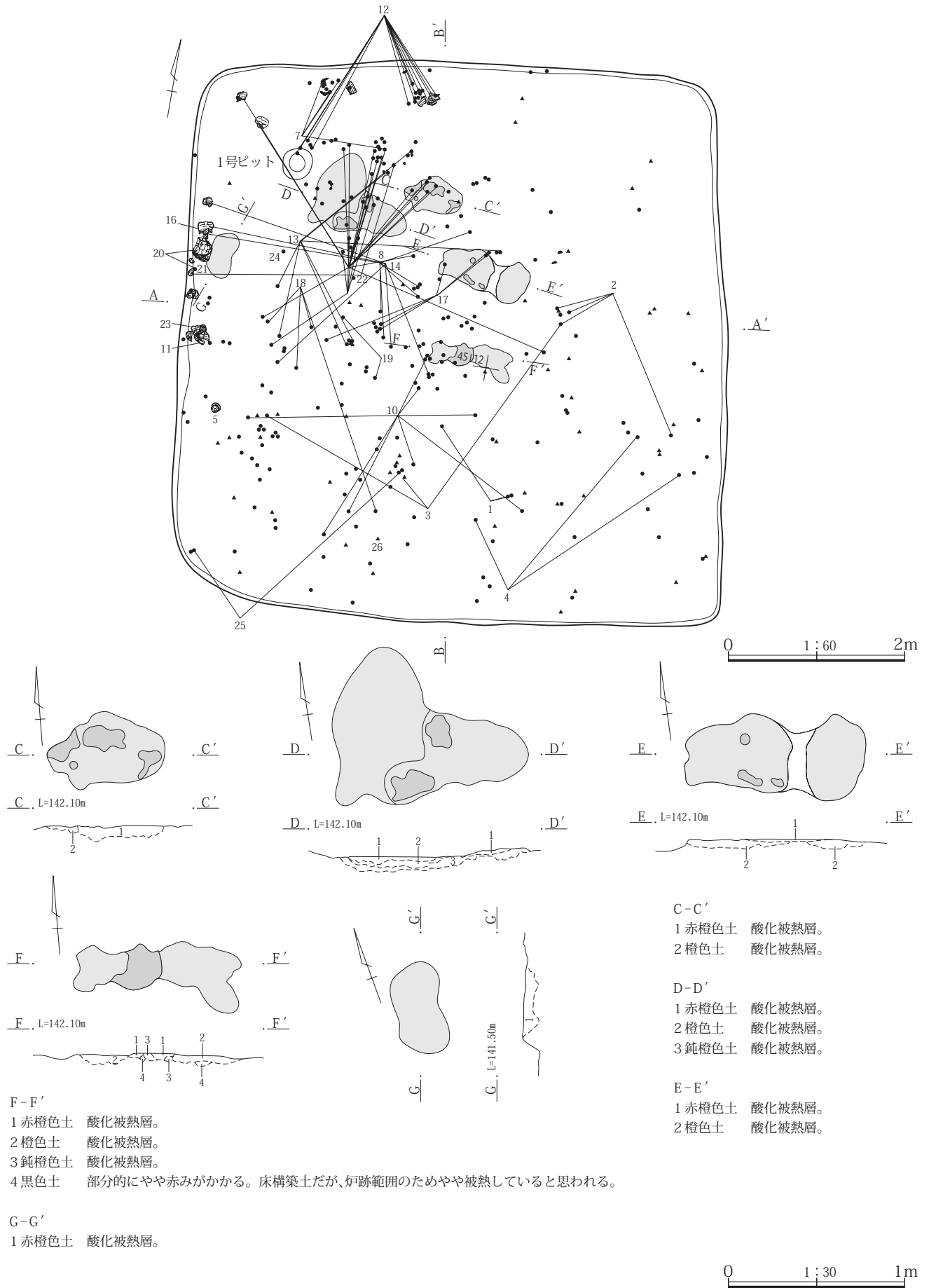
字状口縁台付甕片は出土しなかった。図示したのは土師器鉢1～4、埴5～7、台付甕8、蓋9、甕10～25、砥石26である。図示した遺物は甕11が床上15cm、甕23が床上10cmのところからみつかったがそれ以外はすべて床面から直接出土しているか、床上でも5cm以内の高さから出土している。土師器甕は、図示できたものが台付甕1個体、平底甕16である。しかし、甕10は形状から台部が付く可能性が考えられる。甕のうち外面をへら削り整形しているものが12個体であった。土師器は古墳時代前期のものである。



- B-B'
- 1 黒色土 A s-B 軽石含有する。
 - 2 暗褐色土 A s-B 軽石少量含む。
 - 3 黒色土 A s-B 軽石少量含む。白色軽石、粗粒状焼土含有する。
 - 4 黒色土 As-C 軽石若干含む。As-B 軽石少量混入する。
 - 5 黒色土 As-C 軽石極微量含む。粒状焼土含有する。
 - 6 塊状焼土。

0 1:60 2m

第84図 21号住居(1)

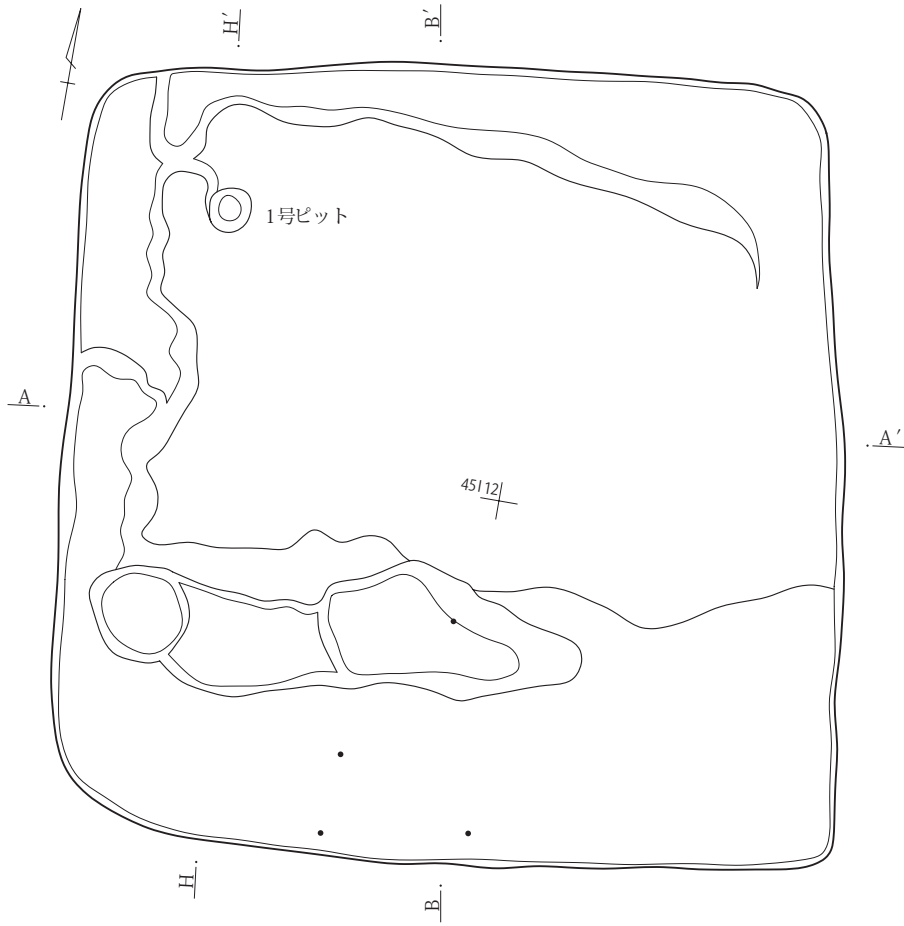


第85図 21号住居(2)

第3章 調査

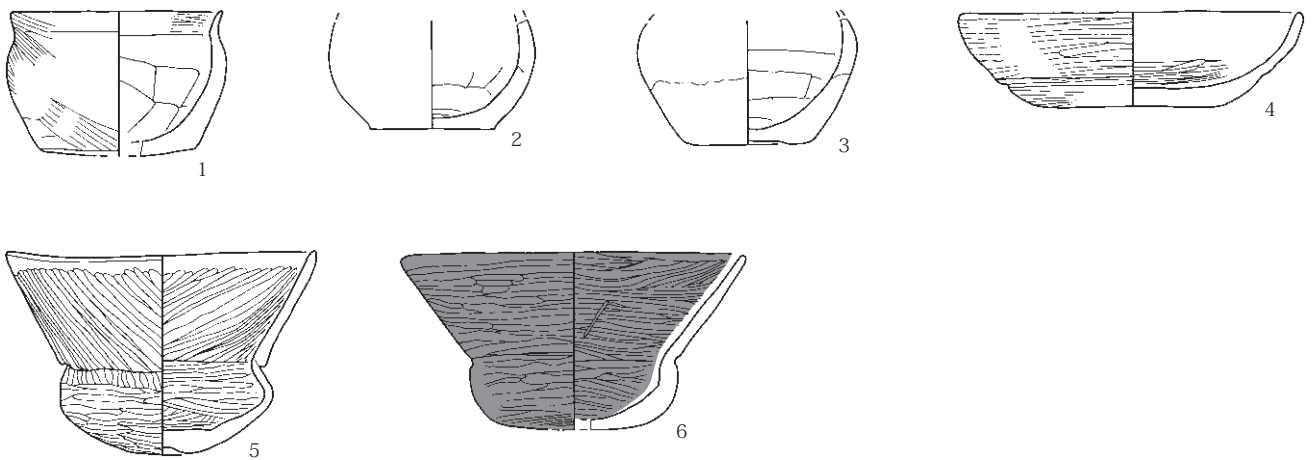
所見 21号住居は住居南側2/3程度が中世に由来すると見られる水田に破壊されていた。住居北側より五カ所の被熱面が確認された。南半面にも被熱面があった可能性も考えられる。図示した遺物は床直上から出土している

ものがほとんどであり、ほぼ使用時のものと思われる。古墳時代前期、4世紀代の住居跡と考えられるが、甕にヘラ削り整形を施しているものが多く、この住居群の中では新しい時期の住居跡と考えられる。



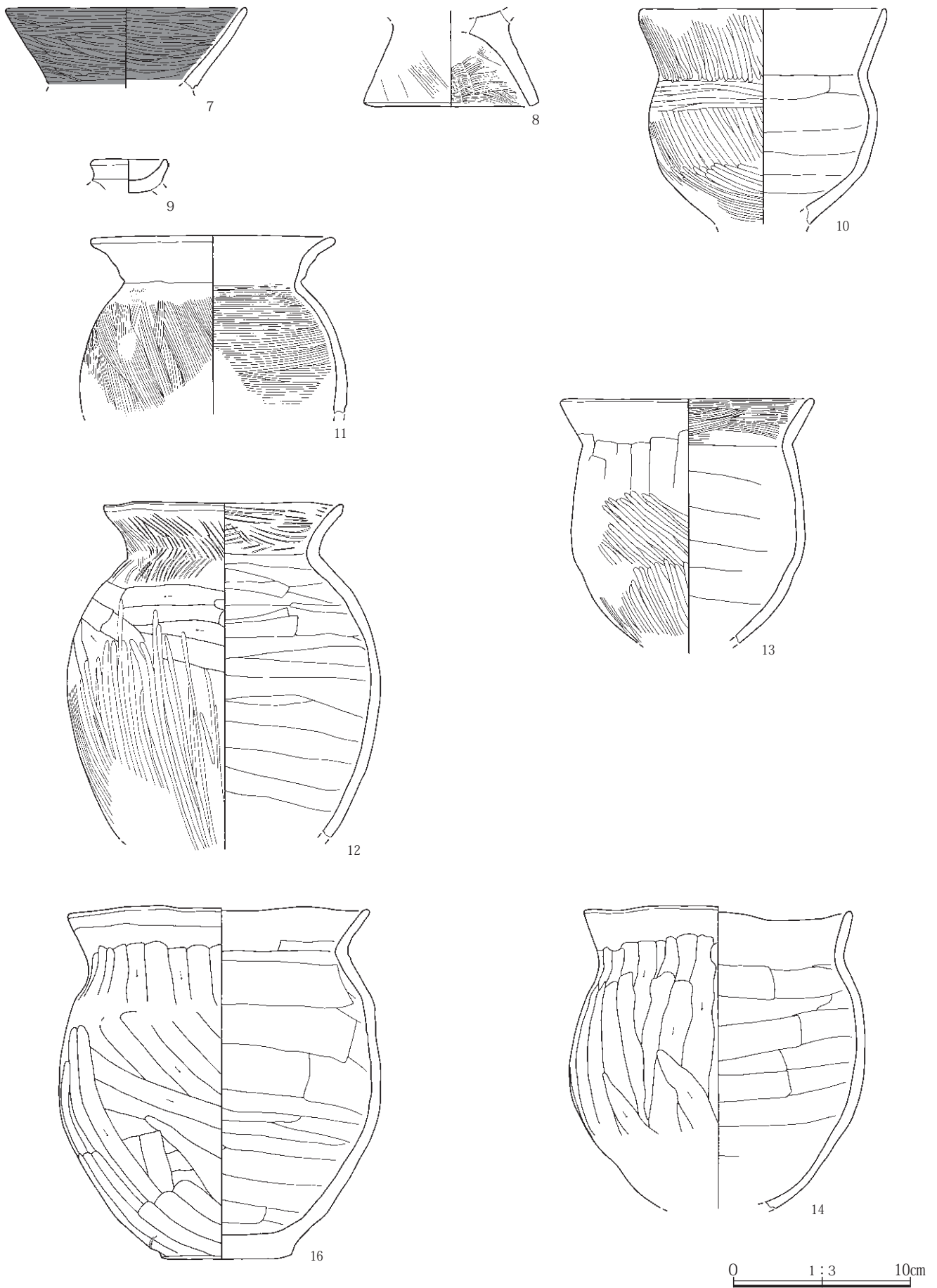
第86図 21号住居(3)

0 1:60 2m

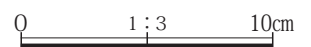
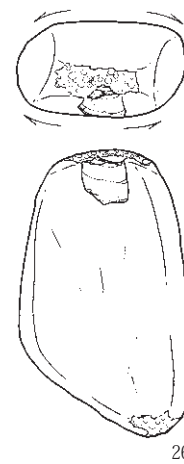
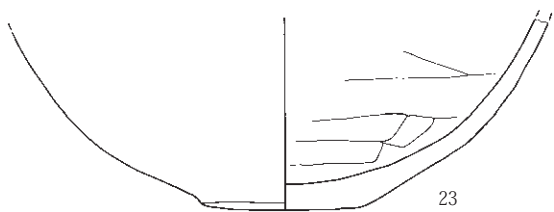
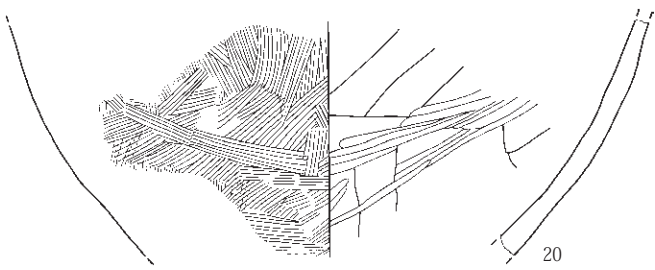
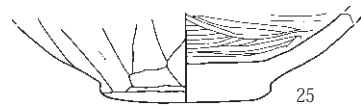
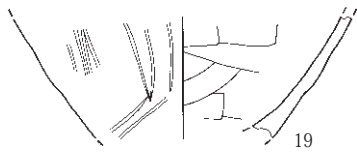
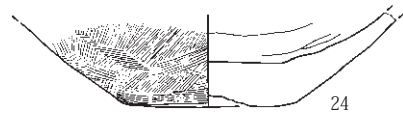
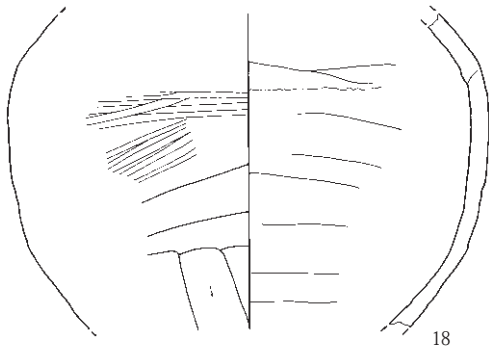
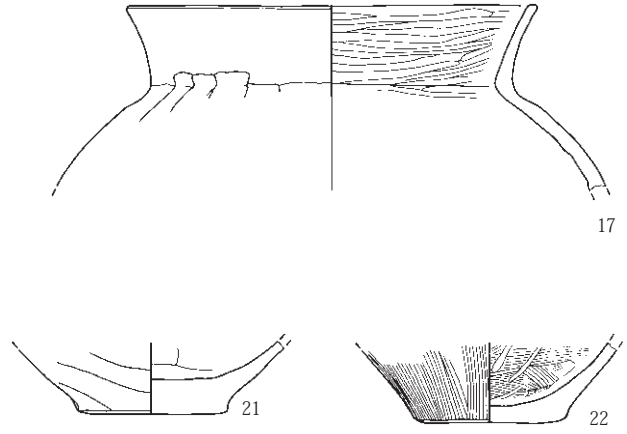
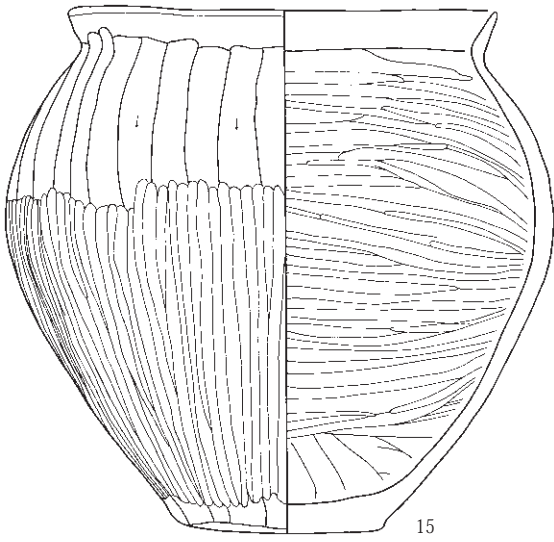


0 1:3 10cm

第87図 21号住居出土遺物(1)



第88図 21号住居出土遺物(2)



第89図 21号住居出土遺物(3)

22号住居(第90図、PL.26)

位置 34M20、44区西端南側に位置する。北側に24号住居が隣接する。

形状・規模 長軸(6.86)m、短軸(3.98)mを測り、形状は隅丸方形か。

面積 (20.58)m²

方位 N-36°-E

重複 なし

埋没土 不明

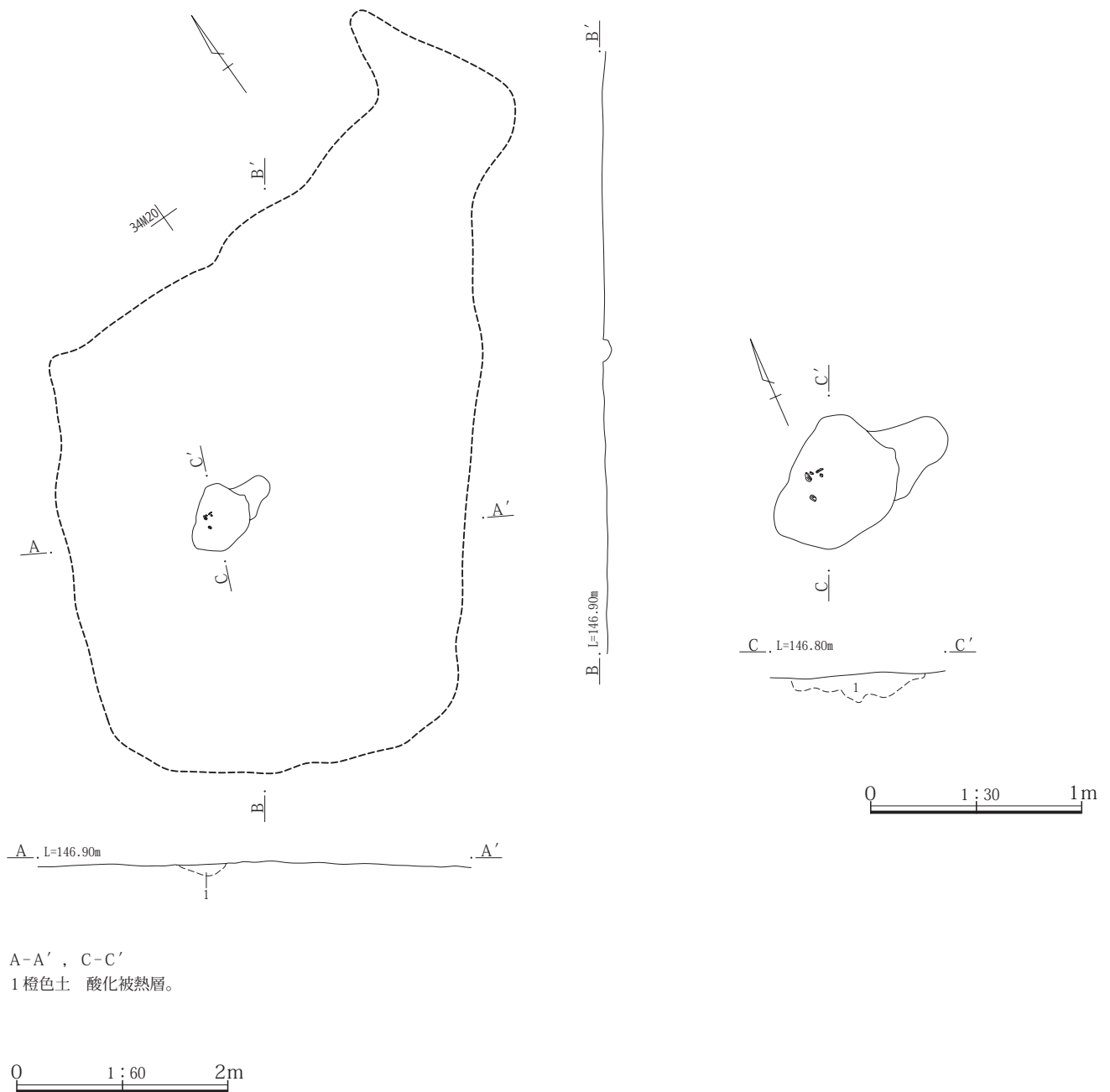
床面 ロームの地山に比べて、暗黒色土の部分に住居床面と考えた。

炉 炉地床炉と考えられ、被熱範囲は長軸0.92m、短軸0.54mを測る。床被熱の深さは最大 0.19mを測る。

貯蔵穴 確認されず

出土遺物 なし

所見 周囲の地山(VII層土)と色調の違う部分(暗褐色土)を検出。精査したところ地床炉と考えられる被熱部分を確認したため、住居と認定した。縄文時代面の確認中に検出したことから、縄文時代住居と考えられる。後世の耕作等により、住居のほとんどを破壊されたと考えられる。



第90図 22号住居

第3章 調査

23号住居(第91図、PL.26)

位置 44K 2、34区西端北側に位置する。

形状・規模 長軸(2.22)m、短軸(1.61)mを測り、形状は隅丸方形か。

面積 (3.49)m²

方位 N-83°-W

埋没土 As-Cを含む黒色土。レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 掘方を構築せず、地山を直接床面として使用していた。床面の残存深度0.10mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

炉 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 なし

所見 44区西端にて住居コーナー部分を検出した。住居の大部分は攪乱により不明であった。埋没土より古墳時代ないし古代の住居であると考えられる。

24号住居(第92図、PL.27)

位置 34L 1、44区西端中央部に位置する。南側に22号住居が隣接する。

形状・規模 不明

面積 不明

方位 不明

埋没土 不明

床面 不明

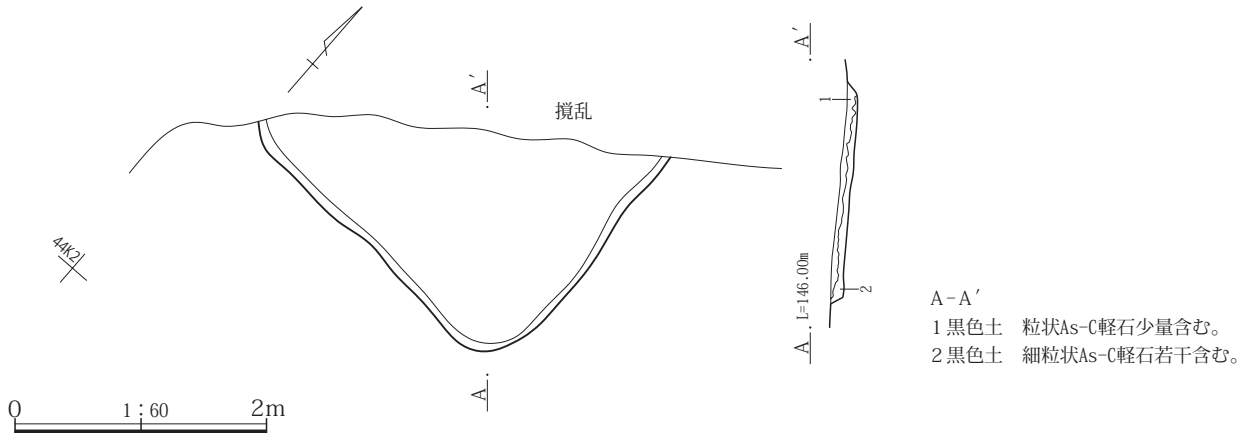
柱穴 不明

炉 長軸0.66m、短軸0.34mを測る地床炉である。床被熱の深さ0.06mを測る。

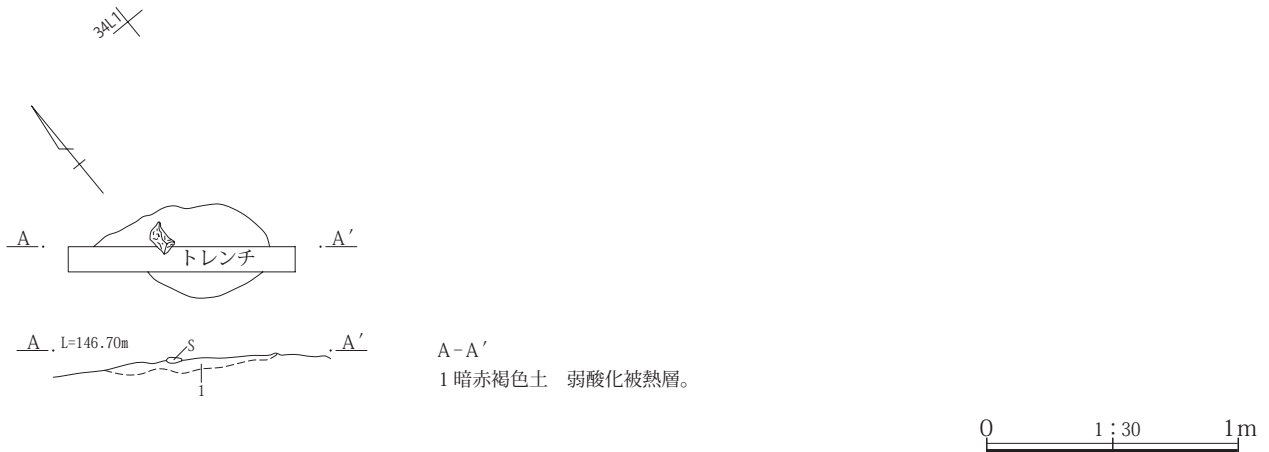
貯蔵穴 不明

出土遺物 なし

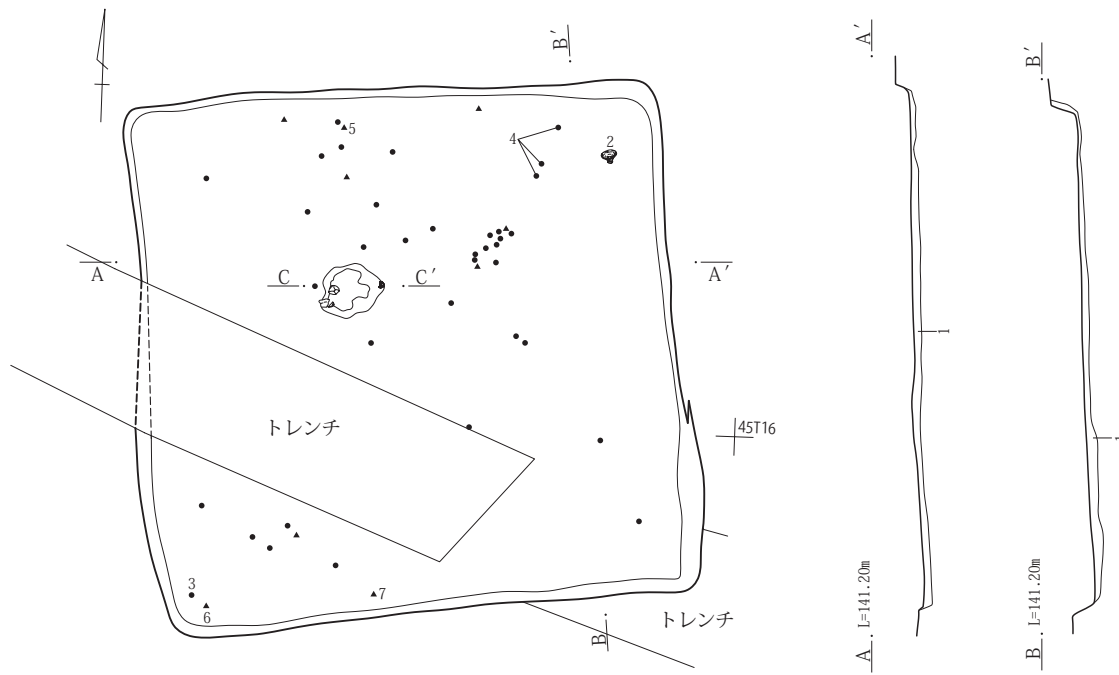
所見 炉のみを検出した。床面をはじめとする他の構造物はすでに破壊されているものと考えられる。Ⅶ層土を地山とした縄文時代面の確認中に検出したことから、縄文時代の住居と考えられる。



第91図 23号住居

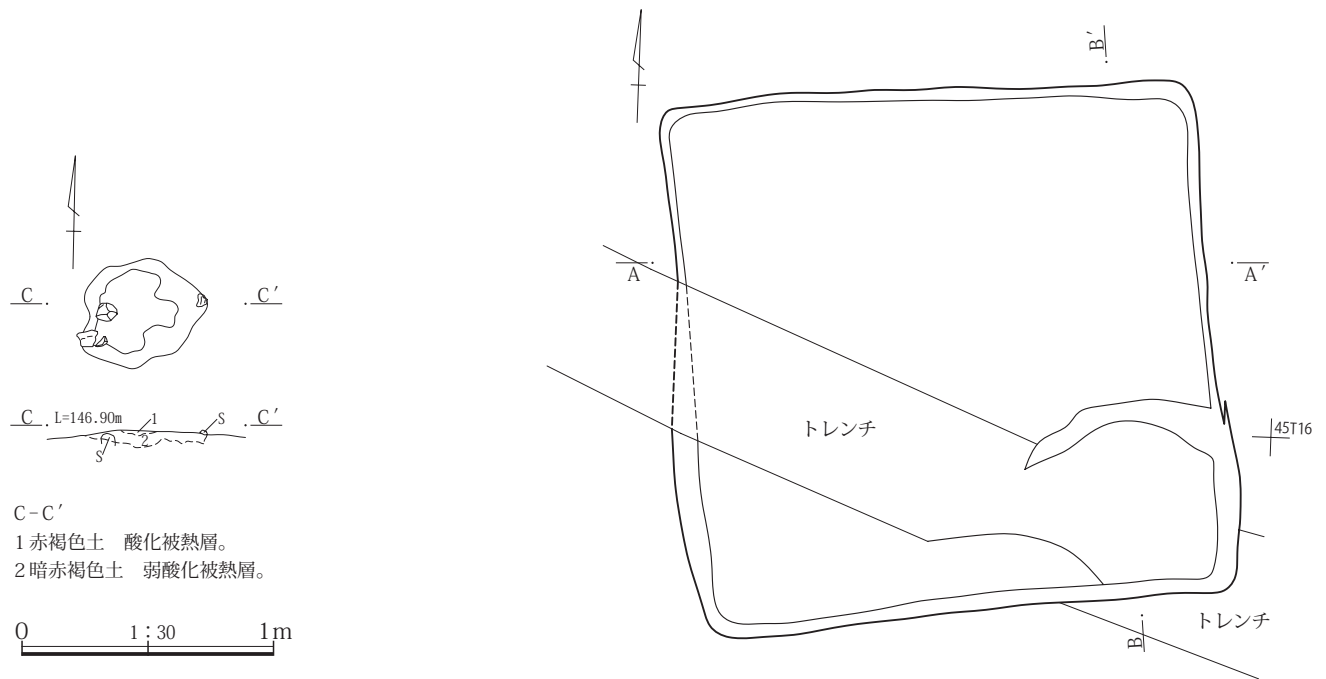


第92図 24号住居



A-A' , B-B'

1 黒色土 部分的に通有As-C軽石を若干見られるが、大半は微粒状As-C軽石を含有。掘方埋土。



C-C'

1 赤褐色土 酸化被熱層。

2 暗赤褐色土 弱酸化被熱層。

0 1:30 1m

0 1:60 2m

第93図 25号住居

第3章 調査

25号住居(第93・94図、PL.24・48)

位置 45T16、45区西端南寄りに位置している。東側に26号住居が隣接している。

形状・規模 隅丸方形を呈し、長軸4.32m、短軸4.20mを測る。

面積 18.03m²

方位 N-87°-E

重複 なし

埋没土 不明

床面 0.05m～0.10mに掘り込まれた掘方が住居全体に施されていた。掘方の構築土は黒色土である。床面の残存深度は0.12mである。壁溝は確認されなかった。

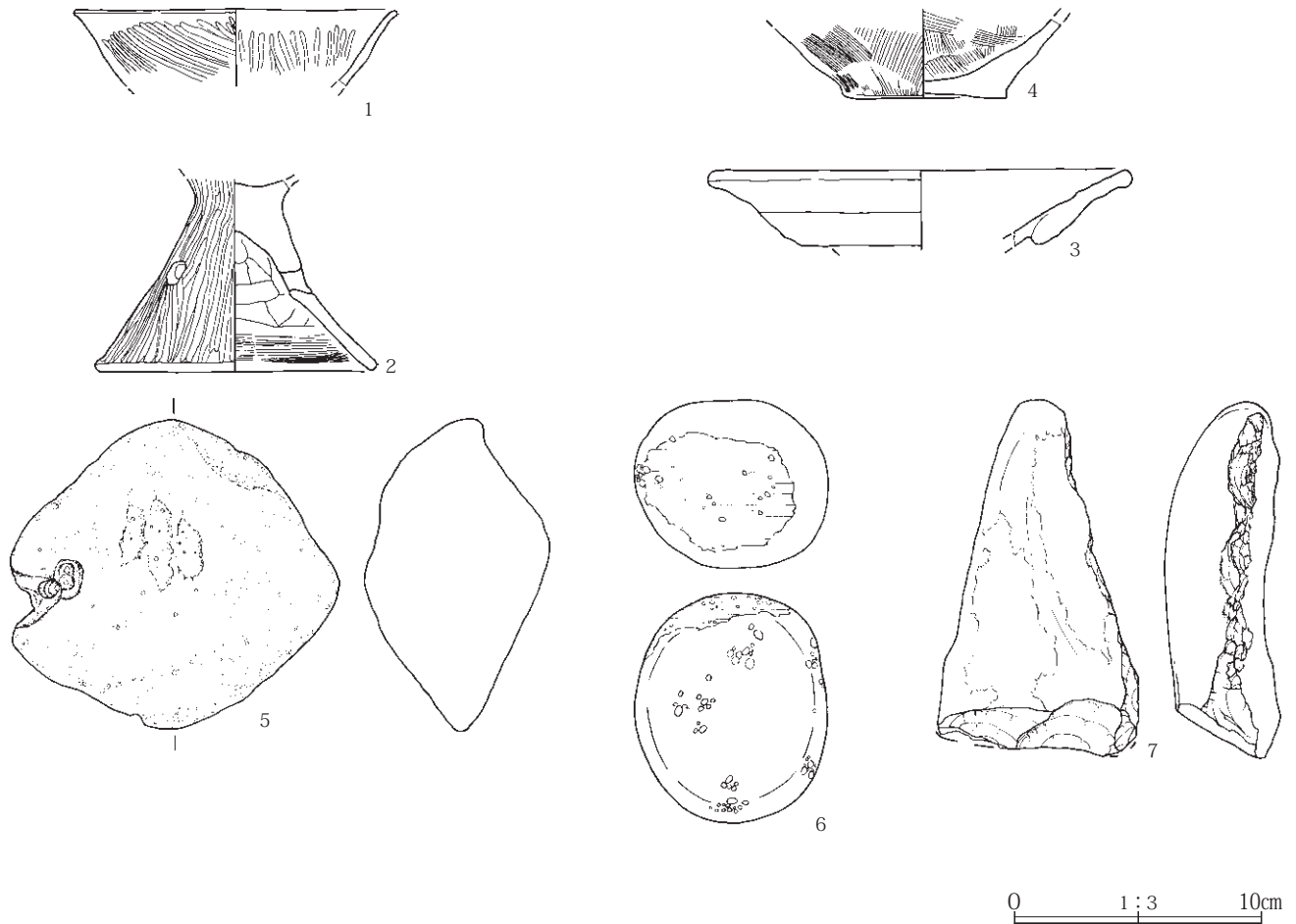
柱穴 確認されず

炉 住居北西部にて確認された。長軸0.54m、短軸0.45mを測る、楕円形を呈した地床炉である。床被熱の深さは最大0.07mを測る。

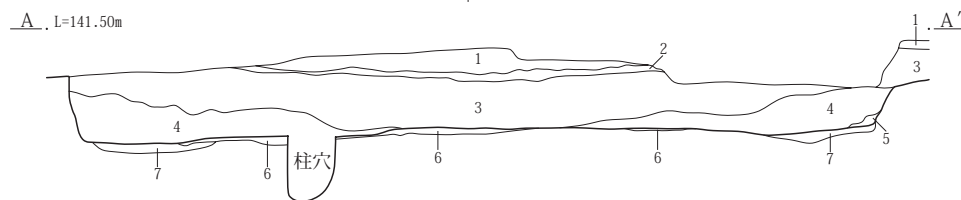
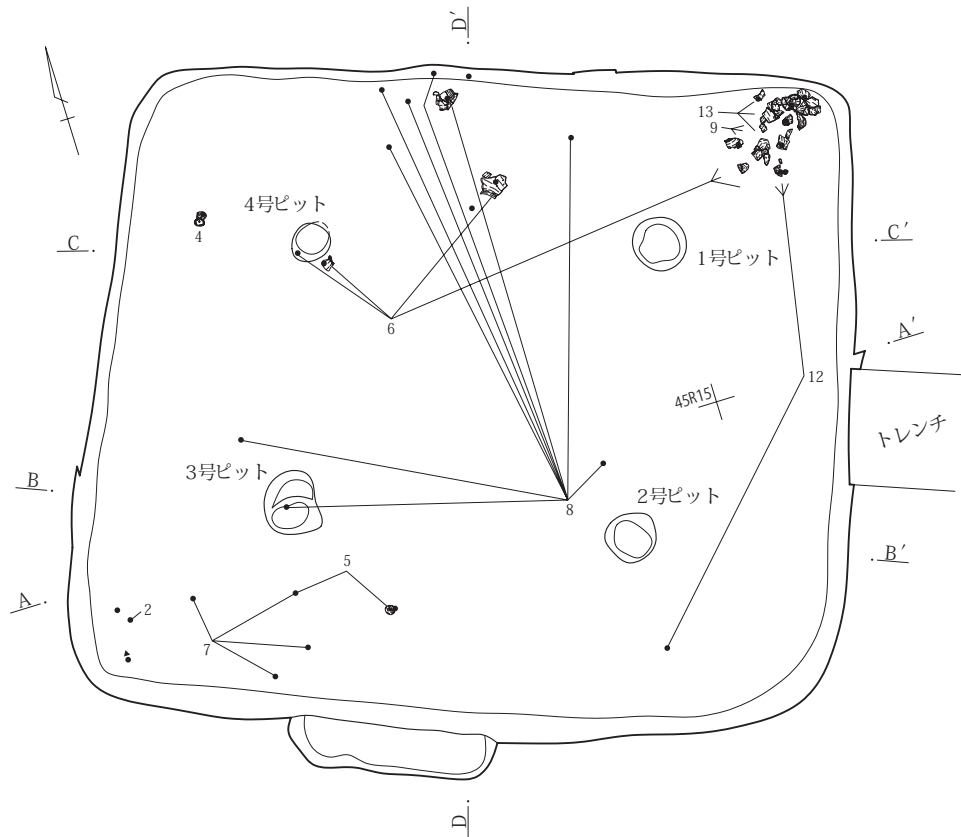
貯蔵穴 確認されなかった。

出土遺物 土師器甕30片・埴9片・壺2片、石製品、敲石、砥石を出土した。図示したのは土師器鉢1、高杯2、壺3、甕4、石製品5、敲石6、砥石7である。鉢1は小片であり、高杯の杯片であることも考えられる。高杯2は床上2cmからみつかった。20号住居の高杯1(第82図1)と脚部の形状は異なるが、内面のヘラナデ整形、下位のハケ目整形が共通している。東海系の高杯を模倣したものと考えられる。壺3は折り返し口縁壺の口縁部である。石製品5は軽石を加工している。背面側・左辺中央をノッチ状に加工しており、加工部に回転穿孔による小孔を穿っている。用途は不明である。砥石7は黒色頁岩を加工しており、右辺に石斧様の側縁加工を施し、下端を大割した礫器状の石器を再利用したものである。土師器はいずれも古墳時代前期のものである。

所見 住居の時期は遺物の特徴から古墳時代前期、4世紀前半と考えられる。

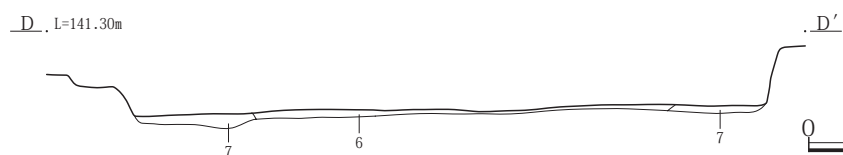
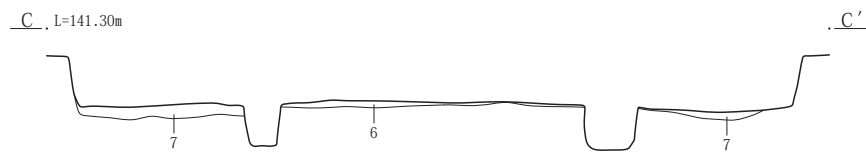
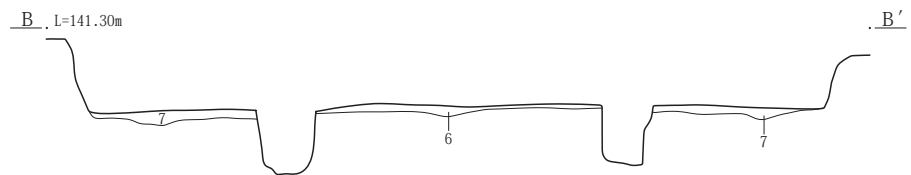


第94図 25号住居出土遺物



A-A' , B-B' , C-C' , D-D'

- 1 黒色土 As-C軽石粒多量に含む。
- 2 黒色土 As-C軽石多量、ロームブロック少量含む。
- 3 黒色土 As-C軽石混入する。下層側に至るに白色軽石含有量少なくなる。
- 4 黒色土 As-C軽石少量含む。
- 5 黒色土 粗粒状Ⅷ層土含有。
- 6 硬質黒褐色土 多量のシルト質ロームブロックを含む貼り床土。
- 7 塊状Ⅷ層土・黒色土の混土 掘方埋土。



0 1:60 2m

第95図 26号住居(1)

第3章 調査

26号住居(第95～98図、PL.27・48・49)

位置 45R15、45区西端南寄りに位置している。西側に25号住居が隣接している。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸6.02m、短軸5.69mを測る。

面積 31.82m²

方位 N-64°-W

重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒色土。レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

床面 壁に沿うように、溝状に掘り込まれた掘方が形成されていた。ローム土と黒色土の混ざった構築土は、厚さが0.06m～0.12mであった。床面の残存深度は0.32mであった。壁溝は確認されなかった。南壁からは住居の外側に張り出している長軸1.65m、短軸0.39を測る掘り込みを検出した。掘り込み底面と住居床面の高低差は

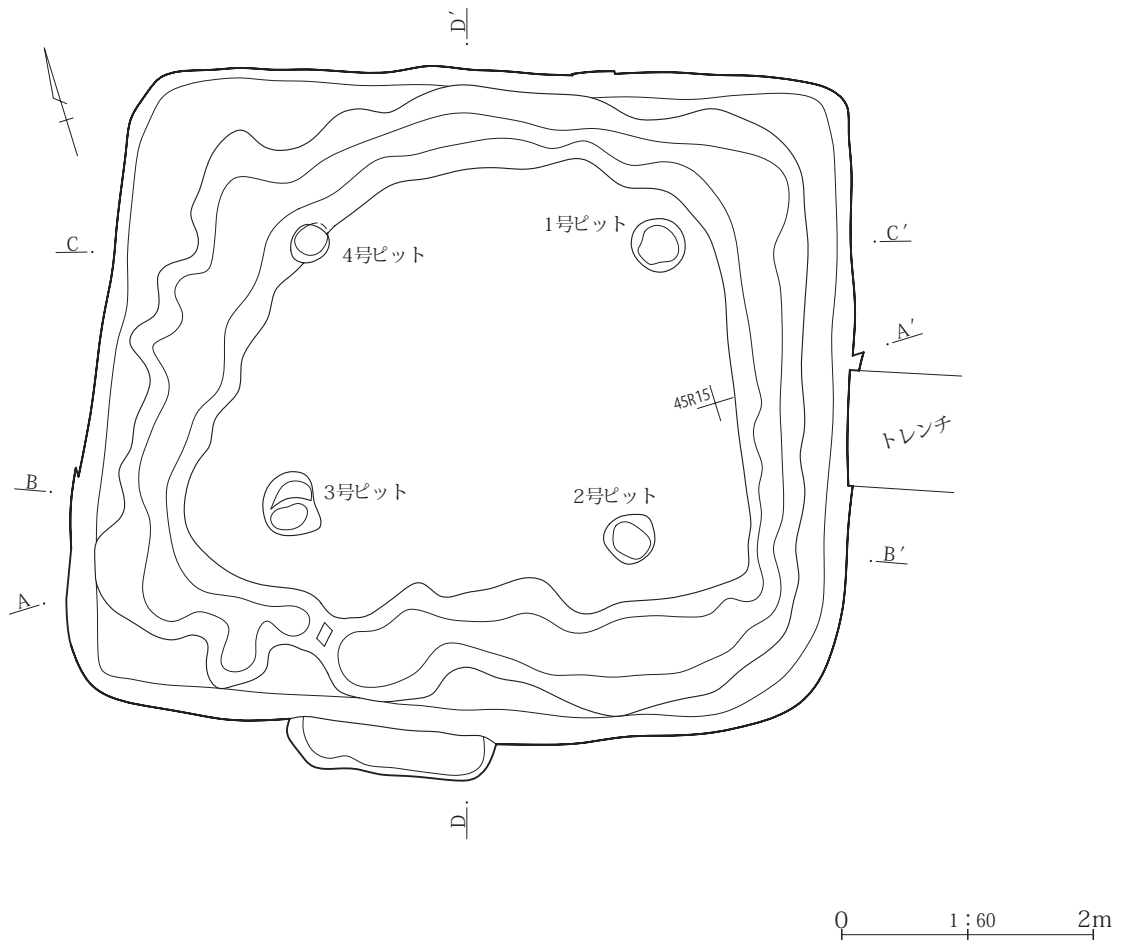
0.24m、確認面と掘り込み底面の高低差は0.10mであった。

柱穴 4基確認した。北東の柱穴から時計回りに1号ピット～4号ピットと付した。1号ピットは長軸0.43m、短軸0.42mを測るほぼ円形を呈し、床面からの深さは0.34mを測る。2号ピットは長軸0.41m、短軸0.40mを測るほぼ円形を呈し、床面からの深さは0.50mを測る。3号ピットは長軸0.50m、短軸0.41mの楕円形を呈し、床面からの深さは0.52mを測る。4号ピットは長軸0.32m、短軸0.30mを測るほぼ円形を呈し、床面からの深さは0.34mを測る。

炉 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

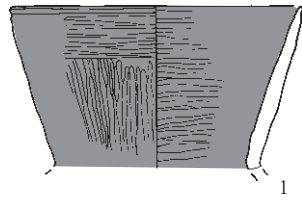
出土遺物 土師器甕24片・壺19片、敲石が出土した。図示したのは土師器直口壺1、壺2、埴3、器台4・5、台付甕6、甕7～11、壺12・13である。台付甕6はほ



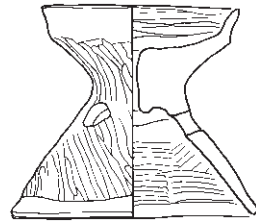
第96図 26号住居(2)

ぼ完形での出土であり、器形など南関東系の影響を受けている。壺12は胴部内面に輪積痕がみられる。土器はいずれも古墳時代前期のものと思われる。

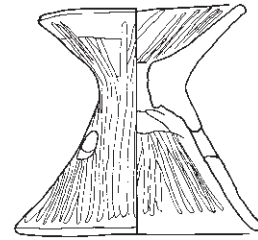
所見 南壁に見られる掘り込みは階段状の入り口施設である可能性が高い。土器は南関東系の影響を受けているが、在来系による模倣と考えられる。住居の時期は遺物の特徴から古墳時代前期、4世紀前半と考えられる。



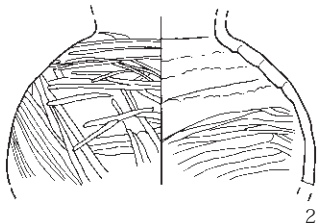
1



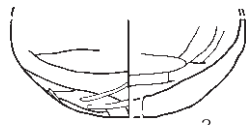
4



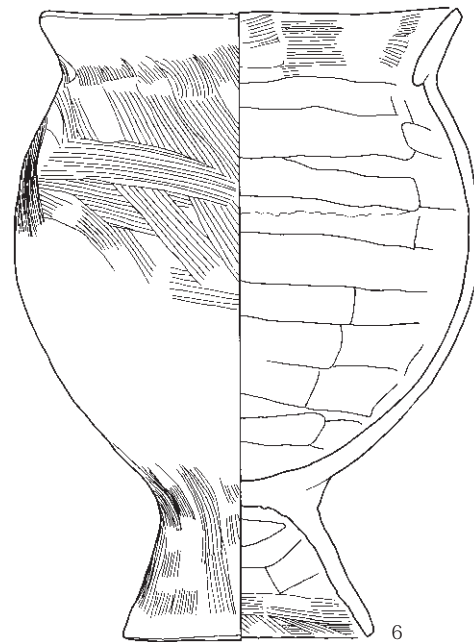
5



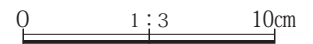
2



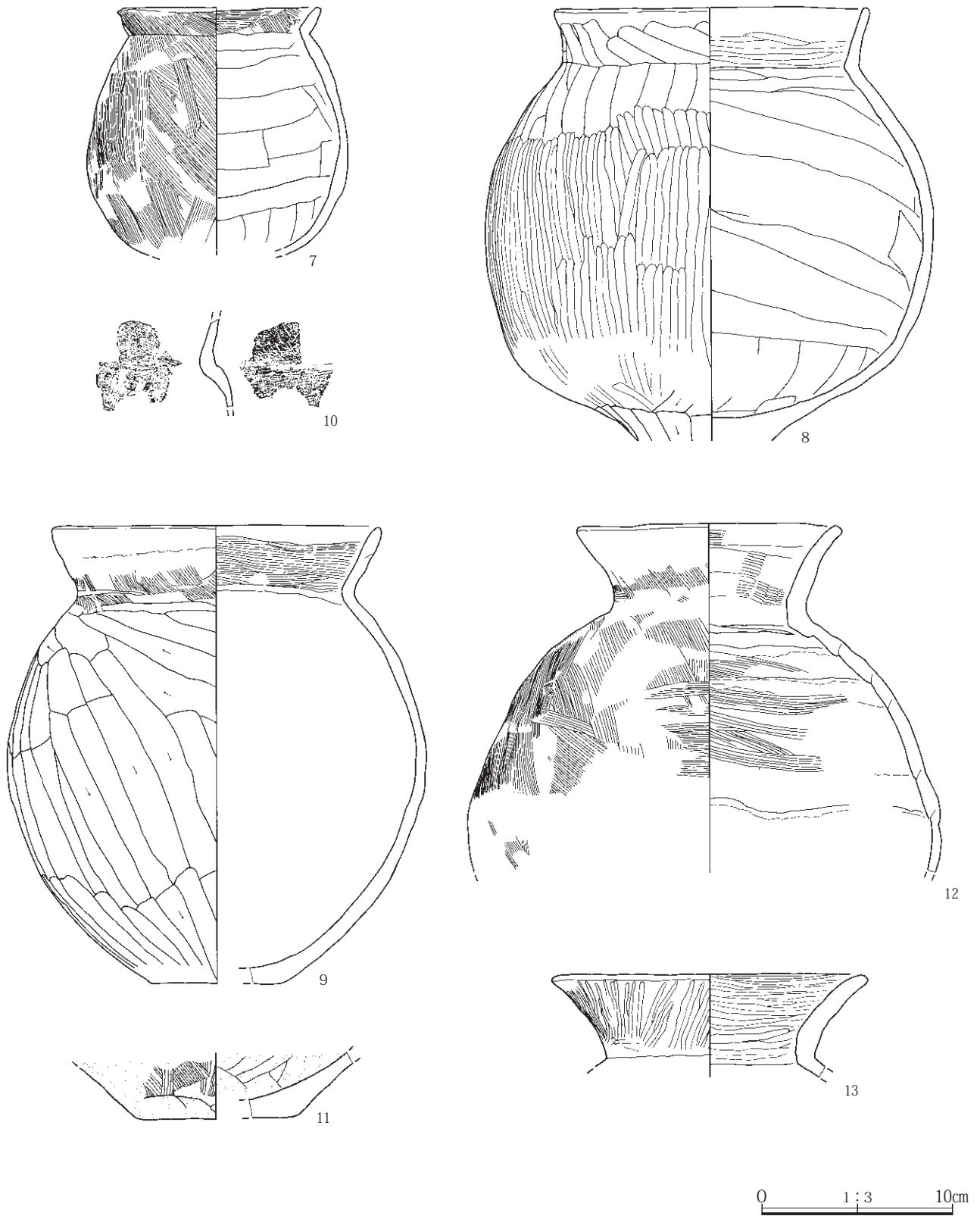
3



6



第97図 26号住居出土遺物(1)



第98図 26号住居出土遺物(2)

27号住居(第99～101図、PL.25・49)

位置 21S 8、22区東端南寄りに位置する。

形状・規模 隅丸長方形を呈し、長軸3.23m、短軸3.04mを測る。

面積 9.92m²

方位 N-28°-E

重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。レンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

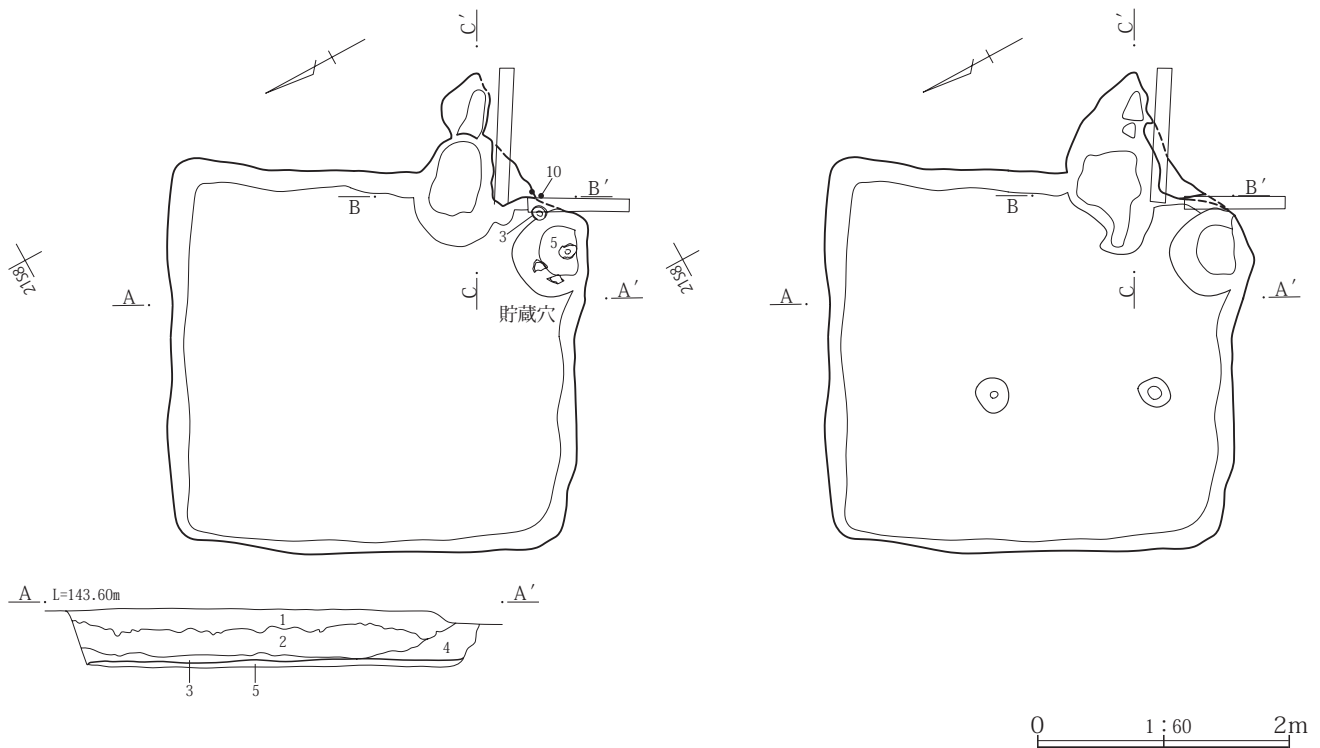
床面 0.04m～0.06mの浅い掘り込みが住居全体に、均一的に施されており、掘方を構築していた。掘方において、住居中央部やや西寄りに二カ所ピット状の掘り込

みが並んでいたが用途は不明である。床面残存度は0.41mを測る。壁溝は確認されなかった。

柱穴 柱穴は確認されなかった。

カマド 東壁南寄りに構築されていた。全長1.38m、屋内長0.46m、屋外長0.92m、焚口部幅0.59m、燃烧部幅0.36m、煙道部幅0.18mを測る。袖はすでに残っていなかったが、ロームブロックを含む黒褐色土で構築されていたと考えられる。焚口から燃烧部にかけてはほぼ平坦に構築され、燃烧部奥壁はやや急に立ち上がる。煙道部はほぼ水平にのび、やや急に立ち上がる。

貯蔵穴 カマド右脇に作られており、長軸0.70m、短軸0.61m、深さ0.19mを測る。



A-A'

- 1 黒褐色土 粒状As-C軽石混入する。
- 2 黒褐色土 粒状As-C軽石若干含む。塊状褐色土含有する。
- 3 黒褐色土 細粒状As-C軽石微量含む。
- 4 茶褐色土 細粒状As-C軽石少量含む。塊状V層土、VI層土含有する。
- 5 黒色土 塊状VI層土多量含む。塊状褐色土混入する。掘方埋土。

第99図 27号住居(1)

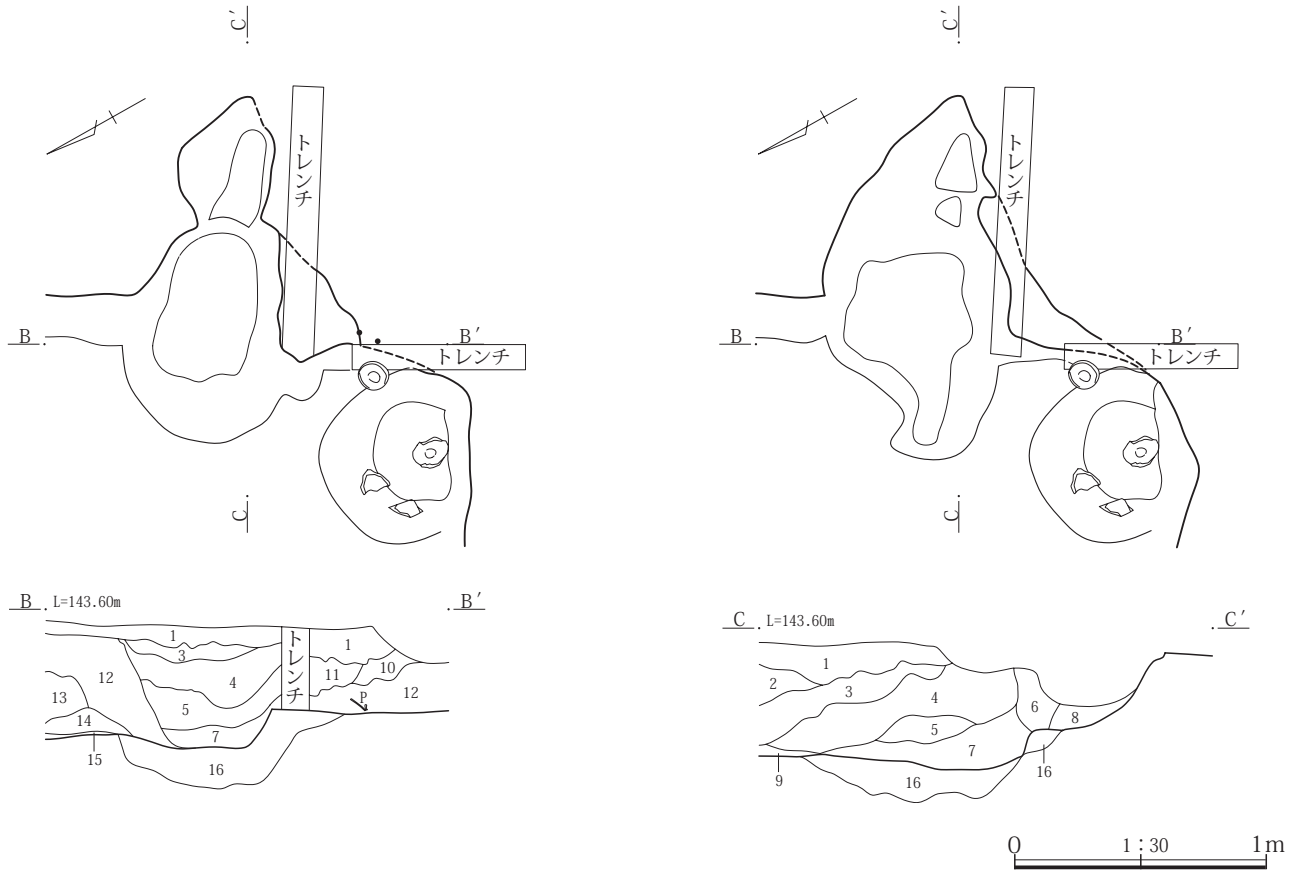
第3章 調査

出土遺物 遺物は土師器杯19片・甕89片・須恵器杯14片・瓶1片・皿1片が出土している。図示したのは須恵器皿1・2、椀3～9、土師器甕10・11である。須恵器椀3

は外面口縁部に「内」の墨書が施されていた。

須恵器及び土師器甕はいずれも9世紀後半のものと考えられる。

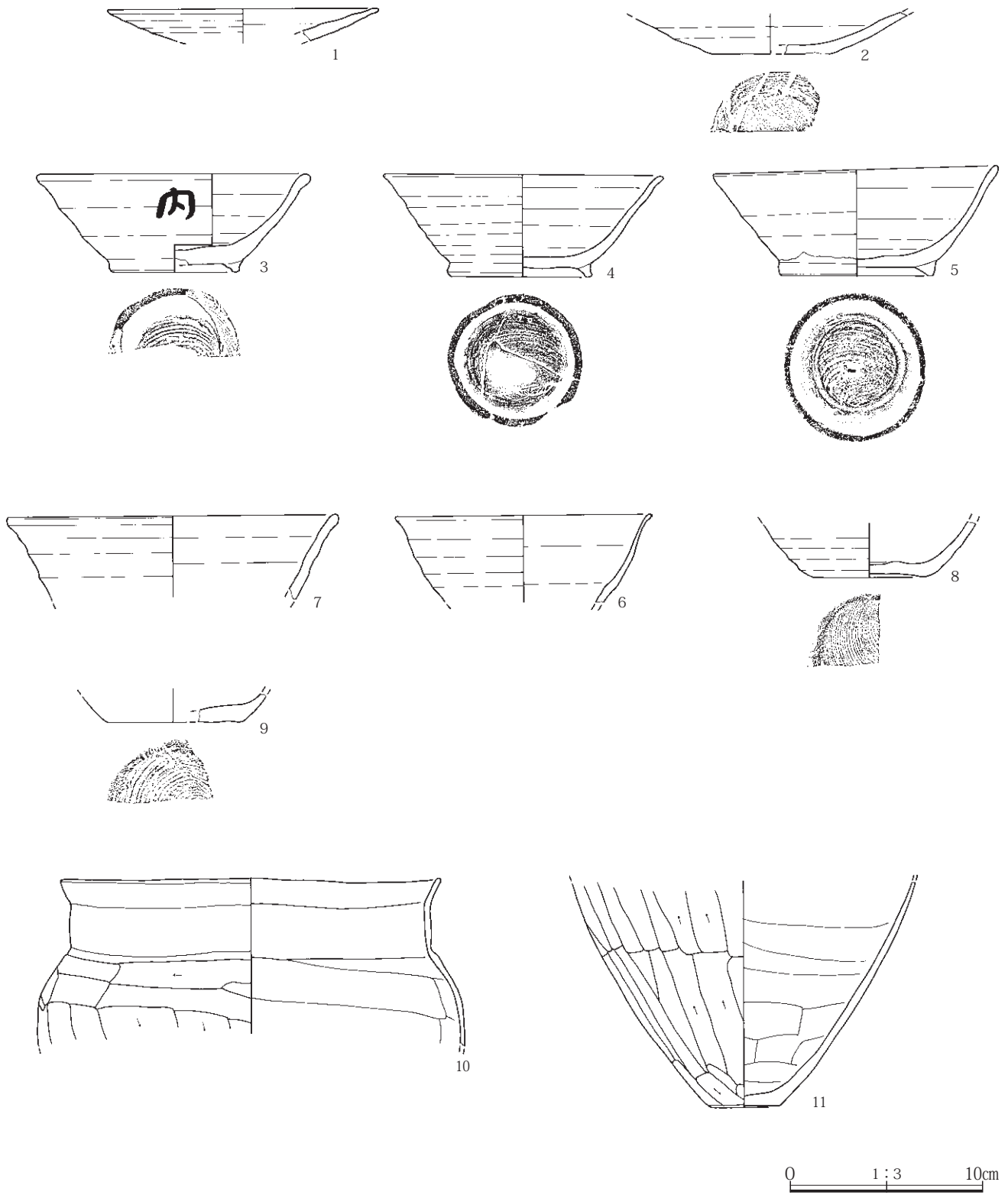
所見 遺物の特徴から9世紀後半の住居跡と考えられる。



B-B' , C-C'

- 1 黒褐色土 粒状As-C軽石混入する。
- 2 黒褐色土 粒状As-C軽石若干含む。塊状褐色土含有する。
- 3 黒褐色土 粒状As-C軽石少量含む。粒状焼土含有する。
- 4 暗茶褐色土 被熱焼土化VII層土多量含む。
- 5 暗茶褐色土 塊状焼土少量含む。粒状焼土含有する。
- 6 茶褐色土 As-C軽石含有する。
- 7 暗茶褐色土 塊状焼土若干含む。粒状焼土含有する。
- 8 茶褐色土 細粒状As-C軽石少量含む。塊状V層土、VI層土、粒状焼土含有する。
- 9 黒褐色土 粒状As-C軽石若干、粒状焼土少量含む。
- 10 黒褐色土 粒状As-C軽石少量、塊状褐色土多量含む。
- 11 黒褐色土 1層に類するが、As-C軽石の混入割合少ない。
- 12 黒褐色土 塊状V・VI層土、粒状焼土含有する。細粒状As-C軽石少量含む。
- 13 黒褐色土 粒状As-C軽石若干含む。
- 14 黒褐色土 粒状As-C軽石混入する。塊状褐色土含有する。
- 15 暗褐色土 粒状As-C軽石若干含む。塊状褐色土含有する。
- 16 暗茶褐色土 粒状As-C軽石少量、塊状焼土若干、粒状焼土若干含む。

第100図 27号住居(2)



第101図 27号住居出土遺物

第3節 掘立柱建物

2棟の掘立柱建物を調査した。どちらも33区での検出であり、2棟は重複していた。1号掘立柱建物は2間×3間の側柱建物であり、2号掘立柱建物は遺構の半分以上が調査区外に延びており、全容は不明であるが、1間×1間以上の建物であった。2棟の新旧関係は不明であった。1号住居の出土遺物より古代の掘立柱建物であると考えられる。

1号掘立柱建物(第102図、PL.27)

位置 33S12、33区中央西寄り、調査区南側に位置する。

形状・規模 2間×3間の側柱建物であると考えられる。梁行は東辺で4.52m、西辺で4.42mを測る。桁行は北辺で5.49m、南辺で5.32mを測る。柱間は梁行で2.10m～2.50m、桁行で1.70m～1.85mを測る。

面積 22.96m²

方位 N-75°-E

重複 2号掘立柱建物、3号竪穴状遺構、4号竪穴状遺構。3号竪穴状遺構は4号ピットと切合っているが、3号竪穴状遺構の方が新しい。4号竪穴状遺構は掘立柱建物内に位置しているが、4号竪穴状遺構の方が新しいと考えられる。2号掘立柱建物との前後関係は不明である。

埋没土 As-Cを含む暗褐色土

柱穴 柱穴は8基確認した。南辺南西隅から西へ1～4号ピット、梁間の2基を西から5号ピット、6号ピット、北辺西隅から7号ピット、8号ピットとした。ピットの計測値は第6表の通りである。

出土遺物 須恵器杯2片、土師器杯1片、甕2片。微細片のため図示できなかった。

所見 竪穴状遺構等により、北辺にて2号ピット、3号ピットに対応する柱穴痕は検出されなかったが、建物構造を考慮し、2間×3間の側柱建物であると考えられる。時期は埋土にAs-Bを含まないこと、検出された土器片から古代と推定されるが、年代は不明である。

2号掘立柱建物(第103図、PL.27)

位置 34A11、33区中央西寄り、調査区南側に位置する。

形状・規模 遺構は調査区外に延びており、遺構の一部

を検出したが、梁行1間×桁行1間以上の建物であると考えられる。梁行は3.95m、桁行の1号ピットと3号ピット柱間で2.14mを測る。

面積 5.98m²

方位 N-79°-W

重複 1号掘立柱建物。1号掘立柱建物の1号ピット掘方の一部分が1号ピットと3号ピットの間にも重なることから、1号掘立柱建物と2号掘立柱建物が同時期に建てられていたとは考えられない。建てられた前後関係は不明である。

埋没土 ロームブロックを含む暗褐色土。

柱穴 柱穴は調査区内にて3基確認した。南東隅のものを1号ピット、北西隅のものを2号ピット、北東隅のものを3号ピットとした。1号ピットは長軸(0.30)m、短軸(0.34)m、深さ0.30mを測る。2号ピットは長軸0.69m、短軸0.52m、深さ0.60mを測る。

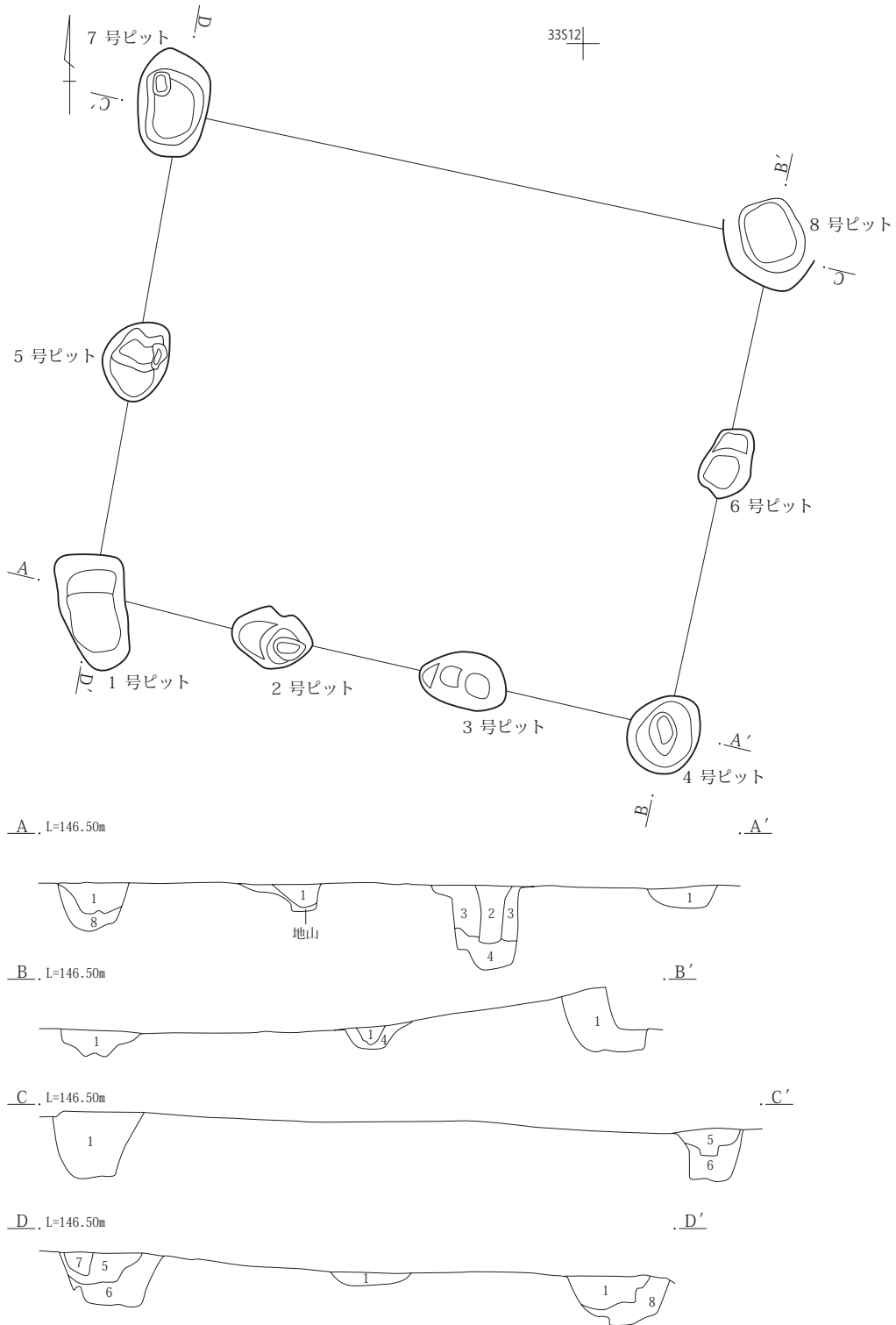
所見 1間×1間以上の掘立柱建物であると考えられるが、遺構の大半が調査区外であるため不明。時期は埋土にAs-Bを含まないことから古代と推定されるが、年代は不明である。

第6表 1号掘立柱建物ピット計測値一覧

ピット番号	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
1	1.06	0.58	0.43
2	0.74	0.50	0.25
3	0.8	0.51	0.79
4	0.71	0.62	0.22
5	0.74	0.58	0.14
6	0.63	0.38	0.25
7	0.94	0.62	0.59
8	0.88	(0.33)	0.62

第7表 1号掘立柱建物柱間距離一覧

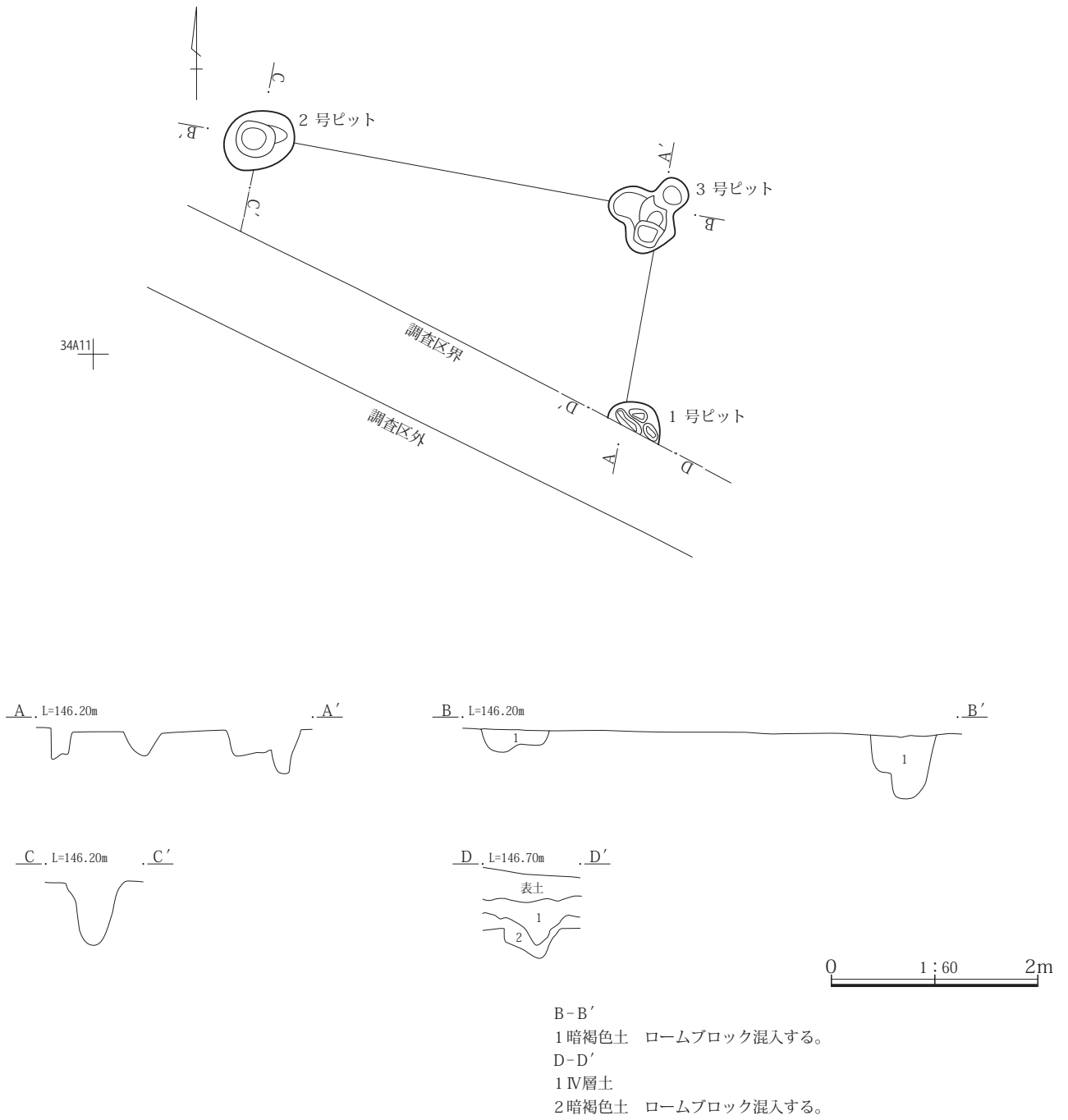
1号掘立柱建物跡柱間	
1号ピット-2号ピット	1.9m
2号ピット-3号ピット	1.67m
3号ピット-4号ピット	1.72m
4号ピット-6号ピット	2.42m
6号ピット-8号ピット	2.2m
7号ピット-8号ピット	5.54m
1号ピット-5号ピット	2.4m
5号ピット-7号ピット	2.14m



- A-A' , B-B' , C-C' , D-D'
- 1 黒褐色土 As-C軽石混入する。ロームブロック少量含む。
 - 2 黒褐色土 1層に類するが、1層よりAs-C軽石少ない。ロームブロックは含まれる。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック主体的に含む。
 - 4 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 5 暗褐色土とロームブロックの混土 As-C軽石少量含む。
 - 6 黒褐色土 As-C軽石少量含む。
 - 7 暗褐色土 As-C軽石、ロームブロック含まず。
 - 8 暗褐色土 ロームブロック含む。

0 1:60 2m

第102図 1号掘立柱建物



第103図 2号掘立柱建物

第4節 溝・道路状遺構

溝と道路状遺構は、8条の溝と1条の道路状遺構を調査した。調査区別では22区で溝4条、32区で溝1条、34区で溝2条・道路状遺構1条、45区で溝1条である。時代別では、古墳時代溝1条、古代溝3条・道路状遺構1条、近世から近代溝3条である。時代別の分布では古墳時代の溝は45区にて検出した。古代の溝は22区・32区・34区、道路状遺構は34区であった。22区の4号溝・32区の5号溝はそれぞれ道路も兼ねていたと考えられる。近代の溝は22区であった。

1号溝(第104・105・110図、PL.28・49)

位置 21T17～21S5、22区東側に位置し、南北に走向し、調査区南端にて東にほぼ直角に折れる。

形状・規模 全長は79.2mである。溝の幅は上端が1.42m～(0.54)m、下端が0.44m～0.08m、深さは0.49m～(0.04)mである。溝の形状は逆三角形で、下底は凹凸がある。勾配は北の方が高く、南の方が低い。北端と南端の比高差は1.08m、勾配率は1.4%である。

方位 N-34°-E及びN-56°-W

重複 4号溝、2号溝。4号溝と2号溝より1号溝の方が新しい。

埋没土 ロームブロックを含む濁黒褐色土。上層よりAs-Aの混入が認められる。水流痕跡は確認されなかった。

出土遺物 灰釉陶器椀6片、土師器杯7片、甕6片が検出された。そのうち埋土より検出された大原2号窯式期の灰釉陶器椀1を図示した。

所見 本遺構は2回に分けられて調査されている。平成19年5月の調査では、調査確認面が溝使用时よりも低い高さであった。そのため、溝上幅及び深さの最小値は参考値となっている。平成20年2月の調査では使用時期と思われる高さで遺構の調査を行った。

As-Aが埋土に見られること、屈曲する形状等から近世から近代の溝であると考えられる。出土した灰釉陶器は10世紀前半のものであるが、流れ込みと考えられる。近隣屋敷の根切り溝として利用していたと考えられる。

2号溝(第104・105図、PL.28)

位置 21T17～22D9、22区東側に位置し、南北に走向し、調査区南端にて東にほぼ直角に折れる。

形状・規模 全長は47.5mである。溝の幅は上端が1.02m～0.66m、下端が0.74m～0.30m、深さは0.64m～0.24mである。皿状の形状を呈している。勾配は北の方が高く、南の方が低い。北端と南端の比高差は0.03m、勾配率は0.7%である。

方位 N-34°-E及びN-64°-W

重複 4号溝、1号溝。4号溝より新しいが1号溝より古い。

埋没土 ロームブロックを含む濁黒褐色土。水流痕跡は確認されなかった。

出土遺物 なし

所見 1号溝に合流するが、B-B'土層より2号溝の方が古いことから、最初に作られた屈曲する溝が2号溝であり、その後南に拡張する形で1号溝が作られたものと考えられる。近世から近代の溝で、1号溝より古い溝であると考えられる。

3号溝(第104・105図、PL.28)

位置 22F9～22E9、22区東側南端に位置し、東西に走向し、1号溝に合流する。

形状・規模 全長は7.2mである。溝の幅は上端が1.14m～0.68m、下端が0.58m～0.38m、深さは0.49m～0.04mである。溝の形状は逆三角で、下底は凹凸がある。勾配は西が高く、東が低い。西端と東端の比高差は0.17m、勾配率は2.4%である。

方位 N-88°-W

重複 なし

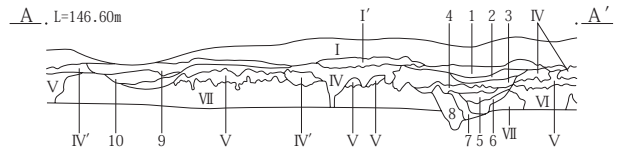
埋没土 不明

出土遺物 須恵器瓶1片、土師器甕1片を検出している。いずれも細微片のため図示できなかった。

所見 溝勾配から、1号溝に合流していると考えられる。埋土は不明であるが、1号溝に合流していることから、1号溝と同時期の溝であり、近世から近代の溝であると考えられる。

4号溝(第104・105・110図、PL.28・29・49)

位置 22A16～22D8、22区東側に位置し、南北に走向している。

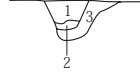


A-A'

I~VII 基本土層 I~VIIに同じ。

- 1 濁黒褐色土 IVブロック混入する。1号溝埋土。
- 2 濁黒褐色土 砂質As-Aがブロック状に多量含まれる。1号溝埋土。
- 3 濁黒褐色土 ローム粒含有する。1号溝埋土。
- 4 濁黒褐色土 ロームブロック、VIIブロック混入する。1号溝埋土。
- 5 濁黒褐色土 IVブロック含有する。VII層土混入する。1号溝埋土。
- 6 濁黒褐色土 5層に類するが、IVブロック5層に比べ少ない。1号溝埋土。
- 7 濁黒褐色土 ロームブロック若干含む。VI混入する。1号溝埋土。
- 8 濁黒褐色土 細粒白色軽石含有する。ローム粒微量含む。2号溝埋土。
- 9 黒色土 白色軽石少量含む。4号溝埋土。
- 10 黒色土 白色軽石微量含む。底部締り強く、硬化している。4号溝埋土。

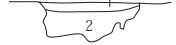
B, L=145.30m .B'



B-B'

- 1 濁黒褐色土 IVブロック含有する。VII層土混入する。1号溝埋土。
- 2 濁黒褐色土 1層に類するが、IVブロック1層に比べ少ない。1号溝埋土。
- 3 濁黒褐色土 細粒白色軽石含有する。ローム粒微量含む。2号溝埋土。

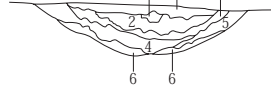
C, L=144.90m .C'



C-C'

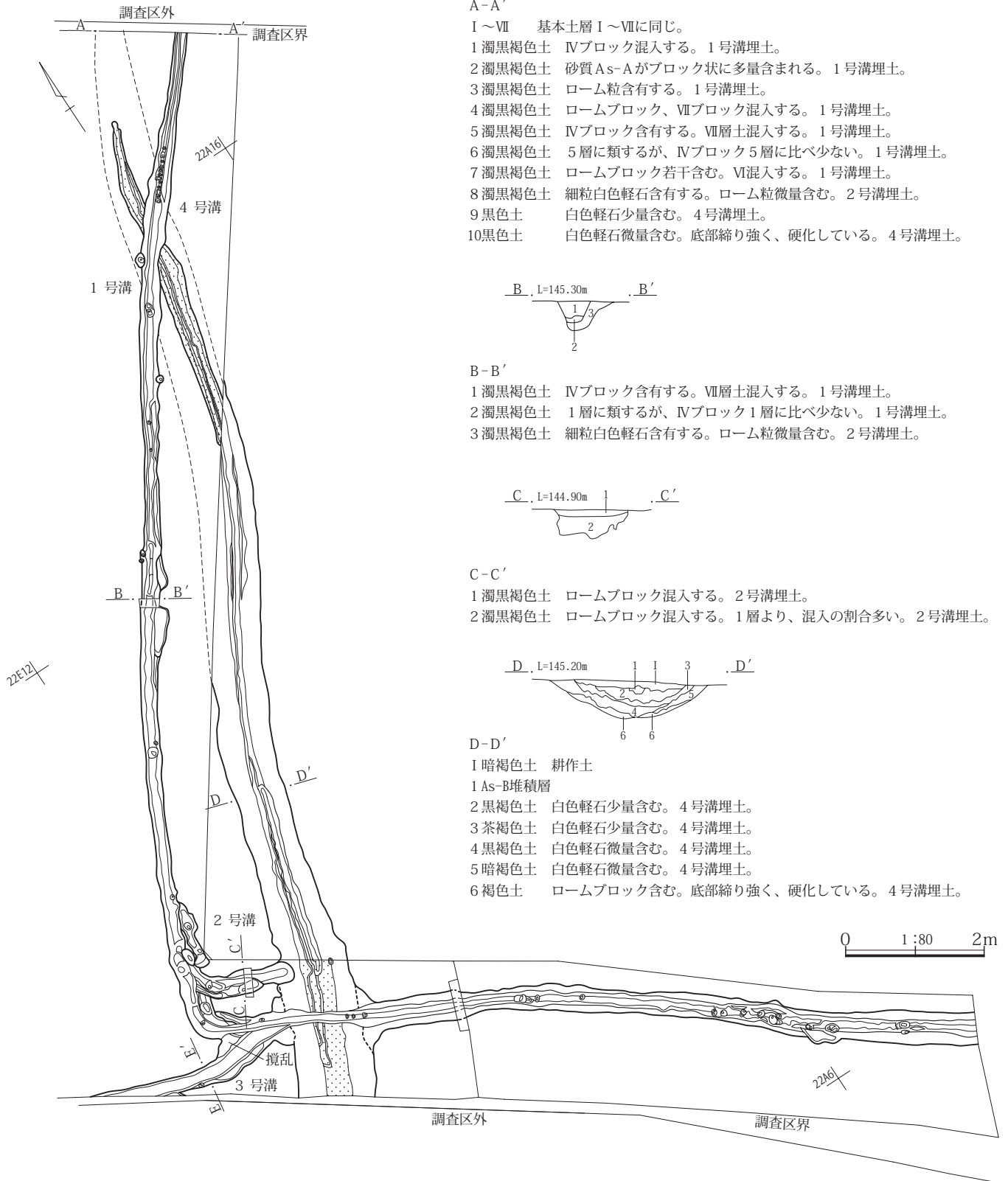
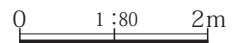
- 1 濁黒褐色土 ロームブロック混入する。2号溝埋土。
- 2 濁黒褐色土 ロームブロック混入する。1層より、混入の割合多い。2号溝埋土。

D, L=145.20m .D'

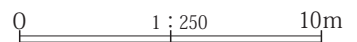


D-D'

- 1 暗褐色土 耕作土
- 1 As-B堆積層
- 2 黒褐色土 白色軽石少量含む。4号溝埋土。
- 3 茶褐色土 白色軽石少量含む。4号溝埋土。
- 4 黒褐色土 白色軽石微量含む。4号溝埋土。
- 5 暗褐色土 白色軽石微量含む。4号溝埋土。
- 6 褐色土 ロームブロック含む。底部締り強く、硬化している。4号溝埋土。



第104図 1~4号溝(1)



形状・規模 全長は44.8mである。溝の幅は上端が3.52m～(0.75)m、下端が1.42m～0.18m、深さは1.08m～0.05mである。溝の形状は皿状を呈し、底部は平坦であり、硬化している。勾配は北の方が高く、南の方が低い。北端と南端の比高差は1.43m、勾配率は3.2%である。

方位 N-21°-E

重複 1号溝、2号溝。4号溝より1号溝及び2号溝の方が新しい。

埋没土 白色軽石粒を含む黒褐色土。底面に近い層は硬く締まった黄褐色土。水流痕跡は確認されなかった。

出土遺物 須恵器碗が埋土より検出されている。9世紀後半の所作である。

所見 本遺構は1号溝同様2回に分けられて調査されている。平成19年5月の調査では、調査確認面が溝使用時よりも低い高さであった。そのため、溝上幅及び深さの最小値は参考値となっている。平成20年2月の調査では

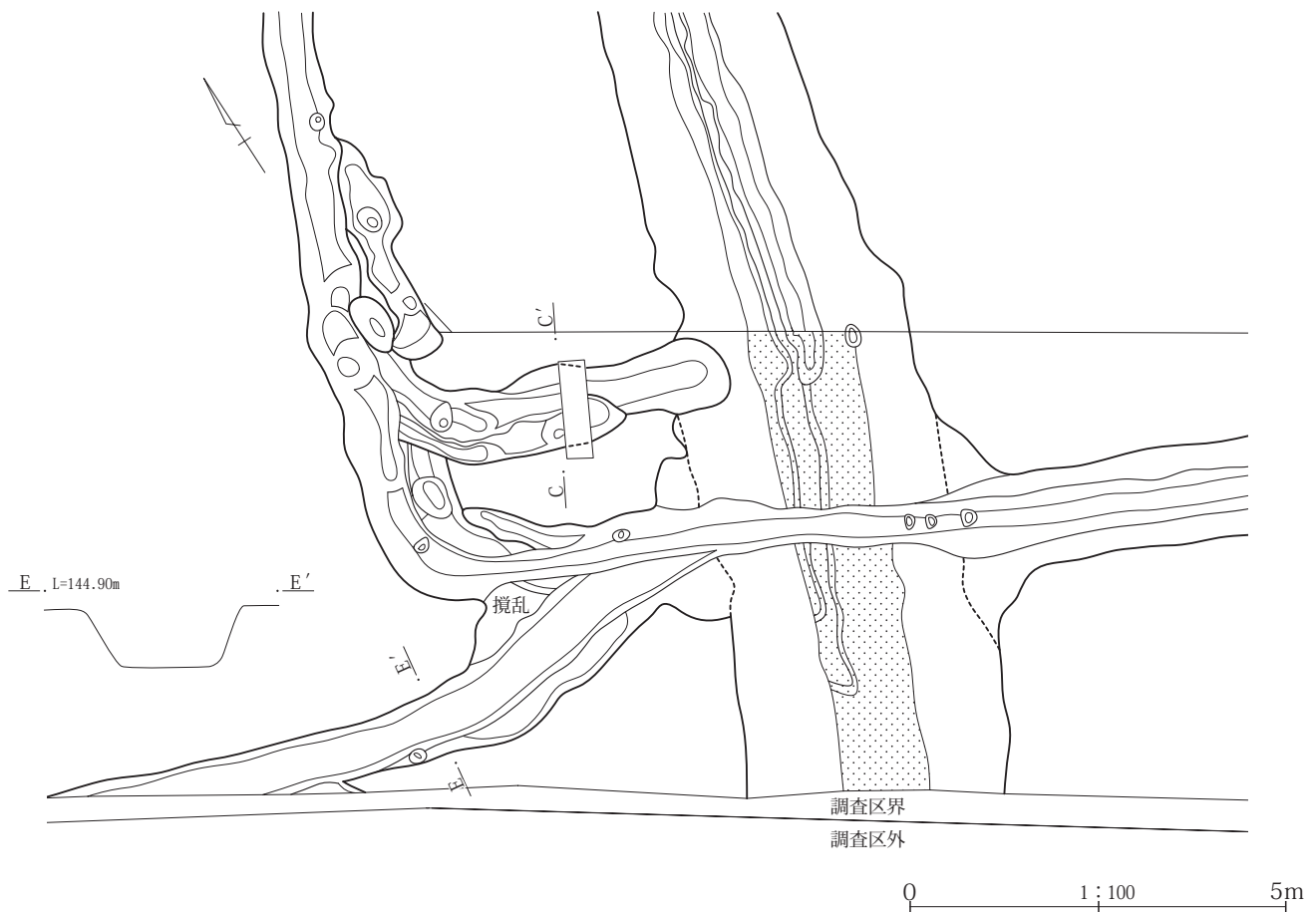
使用時期と思われる高さで遺構の調査を行った。底部は平坦であり、硬化していること、1m以上の幅を有することから、道路として機能していたものと考えられる。調査時には調査区北にて、遺構を確認できなかったが、北壁(A-A')にて溝痕跡を確認できた。南北に貫く道として機能していたことがうかがえる。使用時期は古代であると考え。尚、道路としての機能を考慮し、調査時は4号溝と呼称するとともに、1号道とも呼称していた。

5号溝(第106・110図、PL.28・49)

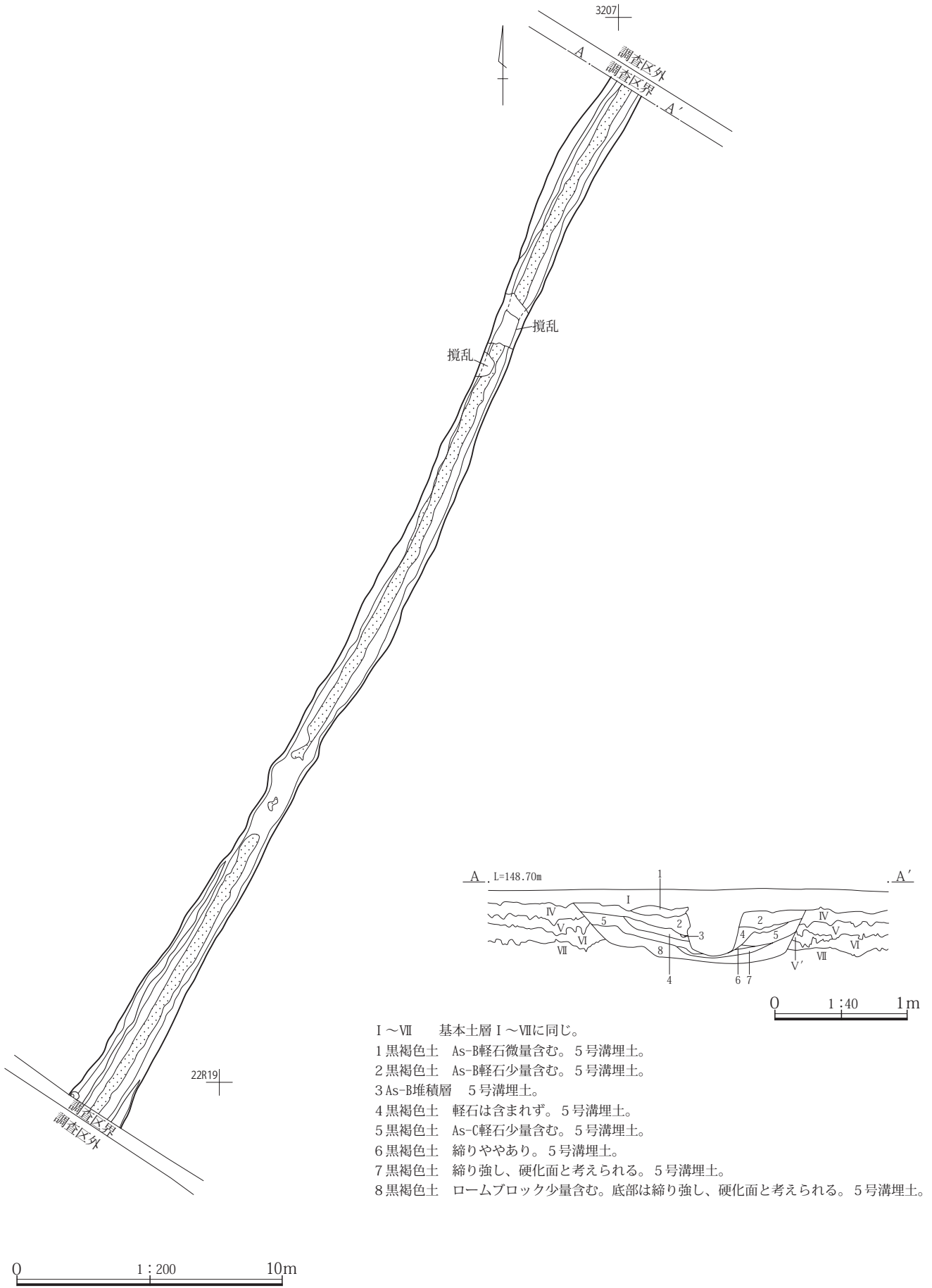
位置 32N 6～22R 18、32区中央に位置し、調査区を南北に貫通している。

形状・規模 全長は43.6mである。溝の幅は上端が2.26m～0.98m、下端が1.06m～0.68m、深さは0.43m～0.05mである。溝の形状は皿状を呈し、底部は平坦であり、硬化している。勾配は北の方が高く、南の方が低い。北端と南端の比高差は1.35m、勾配率は3.1%である。

方位 N-26°-E



第105図 1～4号溝(2)



- I～VII 基本土層 I～VIIに同じ。
- 1 黒褐色土 As-B軽石微量含む。5号溝埋土。
 - 2 黒褐色土 As-B軽石少量含む。5号溝埋土。
 - 3 As-B堆積層 5号溝埋土。
 - 4 黒褐色土 軽石は含まれず。5号溝埋土。
 - 5 黒褐色土 As-C軽石少量含む。5号溝埋土。
 - 6 黒褐色土 縮りややあり。5号溝埋土。
 - 7 黒褐色土 縮り強し、硬化面と考えられる。5号溝埋土。
 - 8 黒褐色土 ロームブロック少量含む。底部は縮り強し、硬化面と考えられる。5号溝埋土。

第106図 5号溝

重複 なし

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。埋土中層にAs-Bの堆積が見られ、その上層にはB混土と考えられる層が堆積している。

出土遺物 須恵器杯7片、灰釉陶器椀1片、土師器甕30片が出土している。埋土より出土した大原2号窯式期の灰釉陶器椀1を図示した。

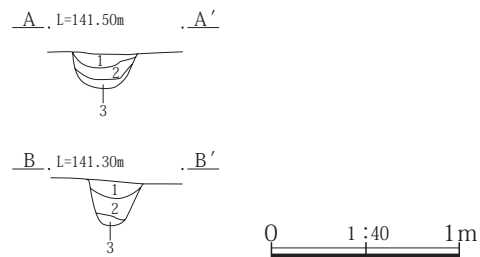
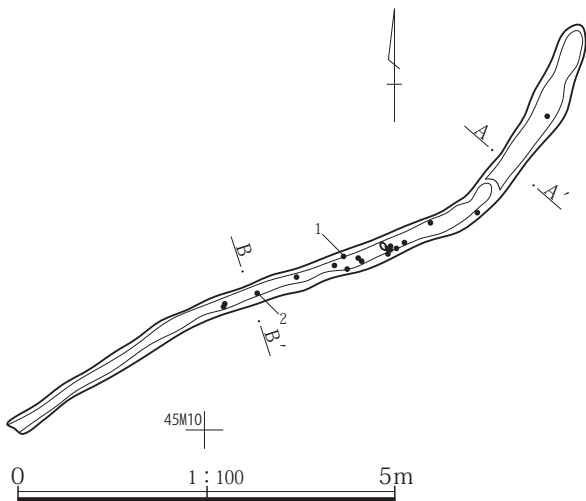
所見 溝底部が平坦であり、硬化面がほぼ溝全体の底部

に見られることから、道として機能していたものと考えられる。時期は古代である。埋没土中層にAs-Bの堆積が見られることから、As-B降下時には、溝及び道として機能していなかったと考えられる。尚、調査時には5号溝と呼称するとともに、2号道とも呼称していた。

7号溝(第107・110図、PL.30・49)

位置 45L11～45M10、45区西寄り南側に位置し、北東から南西へ屈曲しながら走行している。

形状・規模 全長は9.6mである。溝の幅は上端が0.52



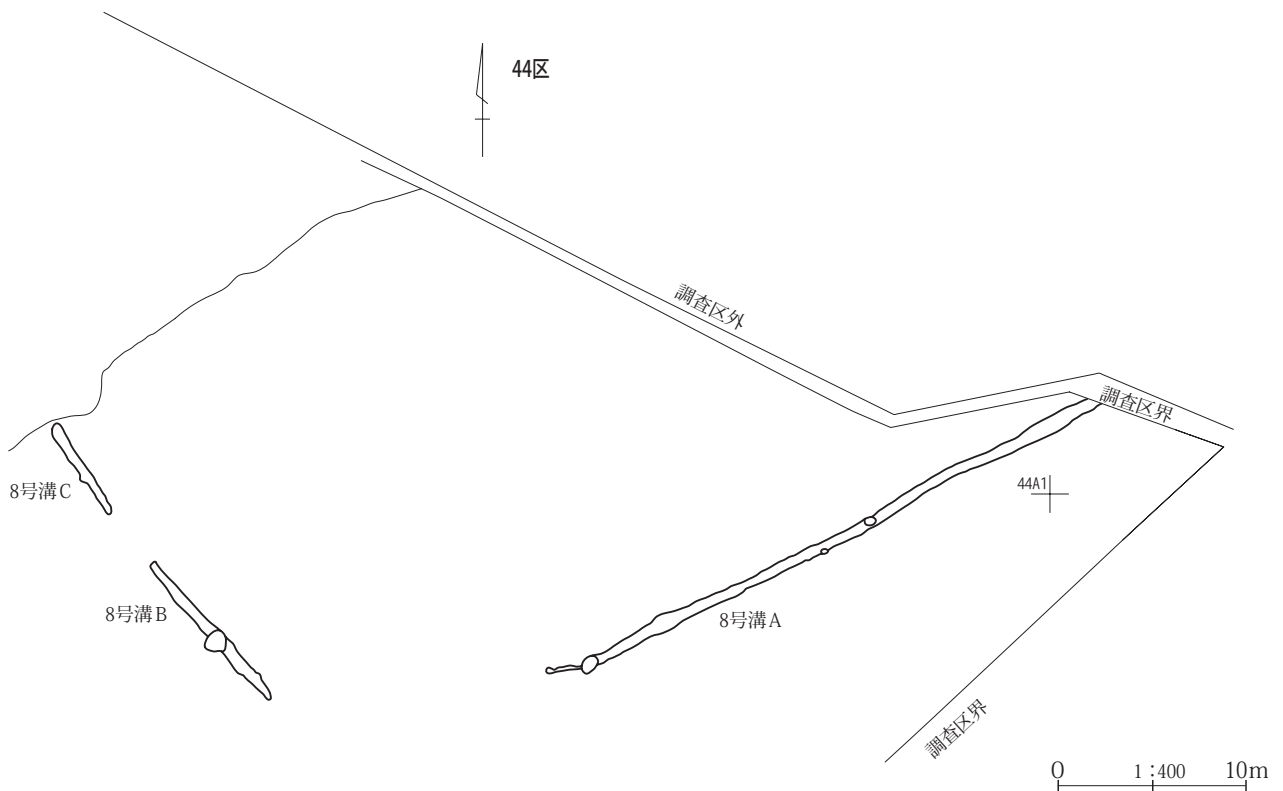
A-A' , B-B'

1 黒色土 粒状As-C軽石混入。

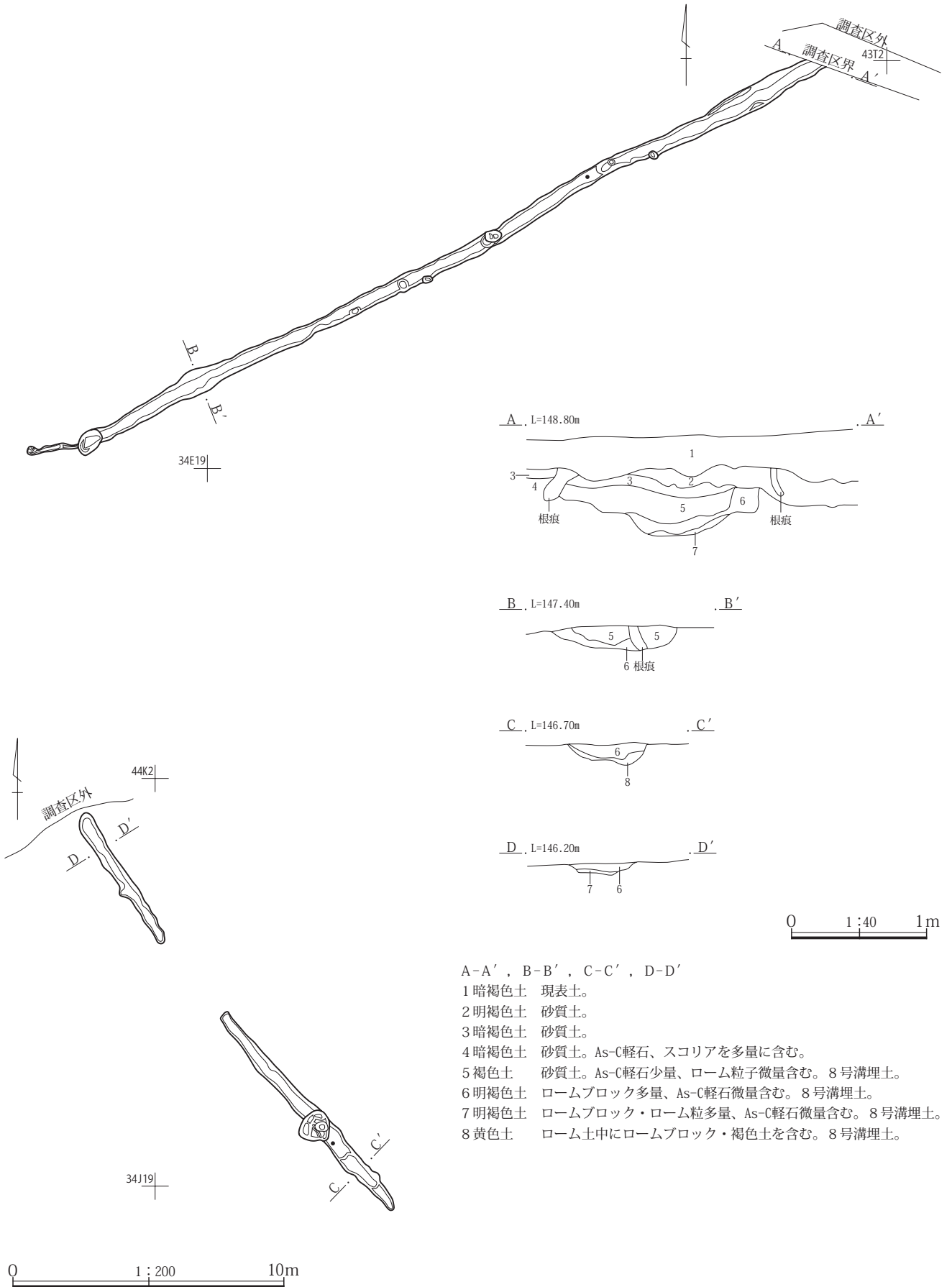
2 黒褐色土 粒状As-C軽石若干含む。塊状ロームブロック、粒状ローム土含有する。

3 黒褐色土 As-C軽石の含有無し。

第107図 7号溝



第108図 8号溝(1)



A-A' , B-B' , C-C' , D-D'

- 1 暗褐色土 現表土。
- 2 明褐色土 砂質土。
- 3 暗褐色土 砂質土。
- 4 暗褐色土 砂質土。As-C軽石、スコリアを多量に含む。
- 5 褐色土 砂質土。As-C軽石少量、ローム粒子微量含む。8号溝埋土。
- 6 明褐色土 ロームブロック多量、As-C軽石微量含む。8号溝埋土。
- 7 明褐色土 ロームブロック・ローム粒多量、As-C軽石微量含む。8号溝埋土。
- 8 黄色土 ローム土中にロームブロック・褐色土を含む。8号溝埋土。

第109図 8号溝(2)

m～0.22m、下端が0.32m～0.10m、深さは0.33m～0.16mである。溝の形状は皿状を呈し、底部は平坦であり、硬化している。勾配は溝北側が高く、南西側が低い。北端と南端の比高差は0.43m、勾配率は4.5%である。

方位 N-31°-E及びN-64°-E

重複 1369号土坑と重なっているが、7号溝の方が新しい。

埋没土 As-Cを含む黒褐色土。

出土遺物 土師器杯2片、甕33片、埴4片、器台1片、ミニチュア土器1片が出土する。図示したのは土師器鉢1、甕2である。図示した甕は胴部外面がハケ目調整されていた。図示しなかった土師器甕胴部片にも外面にハケ目調整がなされているものもあった。いずれも古墳時代前期の特徴を有す土器である。

所見 土器の特徴から古墳時代前期、4世紀前半の時期に使用されたものである。45区の前古墳時代前期集落と同時期の溝と考えられる。

8号溝(第108・109図、PL.29)

位置 43T 1～34F 19 (8号溝A)

44K 1～34I 18 (8号溝B・C)

34区を南北及び東西に走向している3本の溝である。同一の埋土を有することから1本の溝とし、東から8号溝A・8号溝B・8号溝Cとした。

形状・規模 8号溝Aの全長は32.4mである。溝の幅

は上端が0.93m～0.39m、下端が0.44m～0.13m、深さは0.23m～0.07mである。断面形は半円形を呈する。8号溝Bの全長は9.6mである。溝の幅は上端が0.72m～0.32m、下端が0.54m～0.18m、深さは0.10m～0.03mである。断面形は半円形を呈す。8号溝Cの全長は5.6mである。溝と溝の間、底部が消滅してしまっている部分を含めると全長65.6mである。勾配はAパートでは北東部が高く、南西部が低い。北東部端と南西部端の比高差は1.24m、勾配率は3.8%である。Bパートは北東部が高く、南西部が低い。北東部端と南西部端の比高差は0.02m、勾配率は0.2%である。Cパートは北西部が高く、南西部が低い。北西部端と南西部端の比高差は0.60m、勾配率は10.7%である。

方位 N-62°-E (8号溝A)

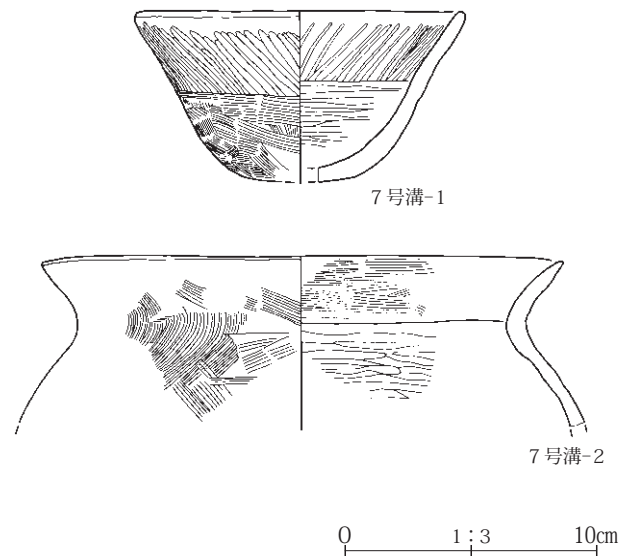
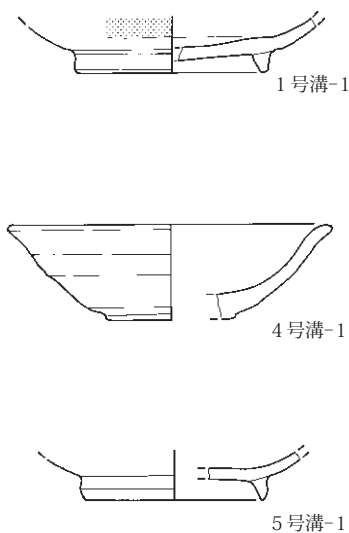
N-42°-E (8号溝B)

N-47°-E (8号溝C)

埋没土 As-Cを含む褐色土、黄褐色土

出土遺物 なし

所見 34区で検出した溝3条は、埋土を同じにすることから、同一遺構とした。水成堆積層がみられないことから、水流は無いと考えられる。溝の底部分を検出したと考えられる。Bは北西部から南西部に下がって走向していく。Cは南東部から北西部に下がって走向していく。Cパートは北西側に谷が入り込むため、北西側に下がっていくものと考えられる。BとCは一直線上に続くもの



第110図 1・4・5・7号溝出土遺物

第3章 調査

と考えられるが消滅した部分を頂点として、両端(Bパートの南東端とCパートの北西端)に向かって下がっている。このため、水流があったとは考えにくい。AとBがどのように接続するのかについては不明。AパートとBパートの走向を考えれば、消滅している部分で溝がラウンドしていることが想定できる。Aの南西部とBの南東部ではAの南西部の方が高い。水流性の溝ではなく、区画溝のような性格が想定される。埋土にAs-Bが含まれず、使用時期は古代と考えられ、As-B降下時には埋没していたものとする。

9号溝(第111図、PL.29)

位置 34C17～34F15、34区東端に位置し、北東から南西に走向している。

形状・規模 全長は15.2mである。溝の幅は上端が0.82m～0.51m、下端が0.56m～0.28m、深さは0.20m～0.08mである。断面形は浅い皿状を呈す。勾配は溝北東側が高く、南西側が低い。北東部端と南西部端の比高差は0.36m、勾配率は2.4%である。

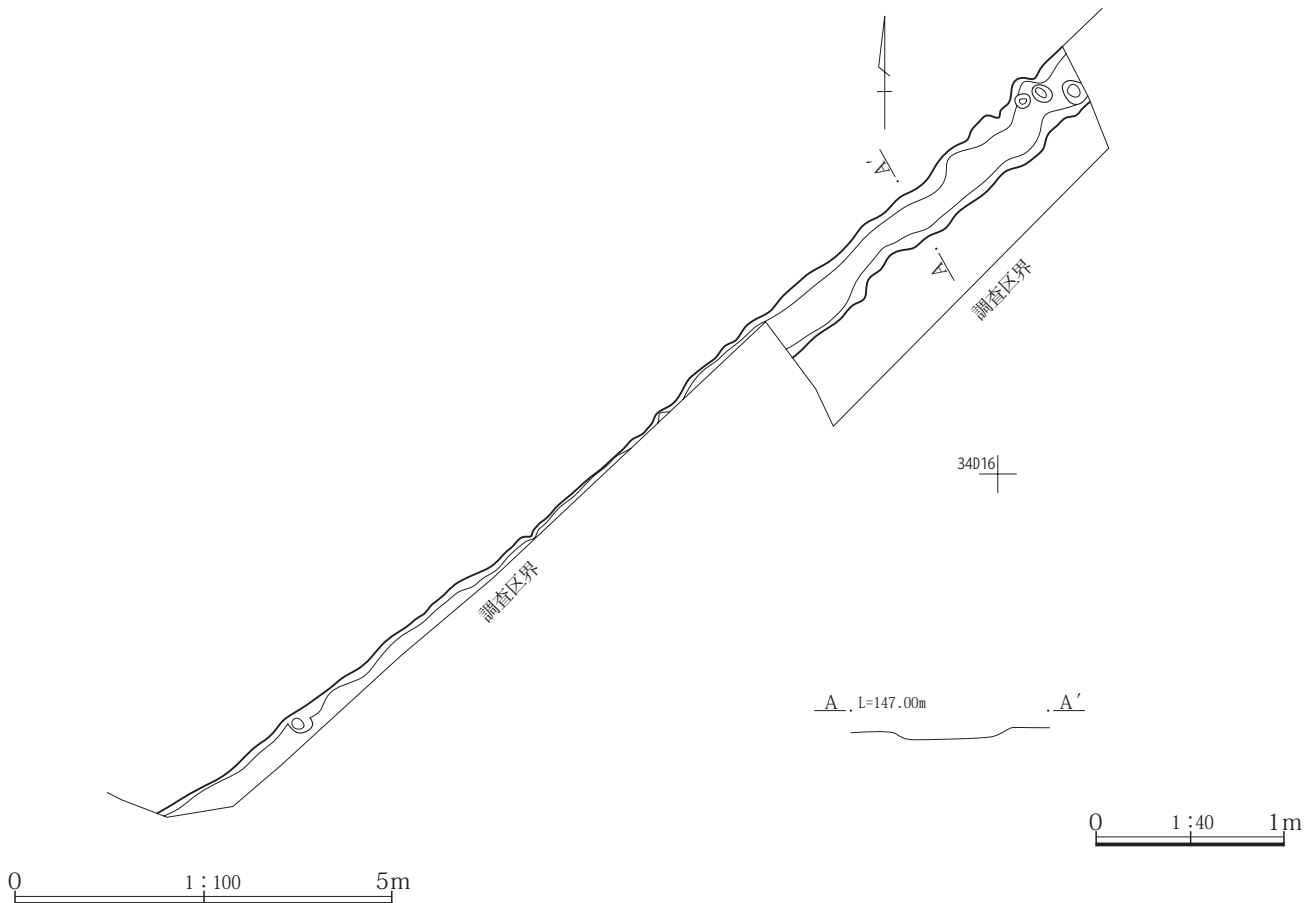
方位 N-47°-E

重複 なし

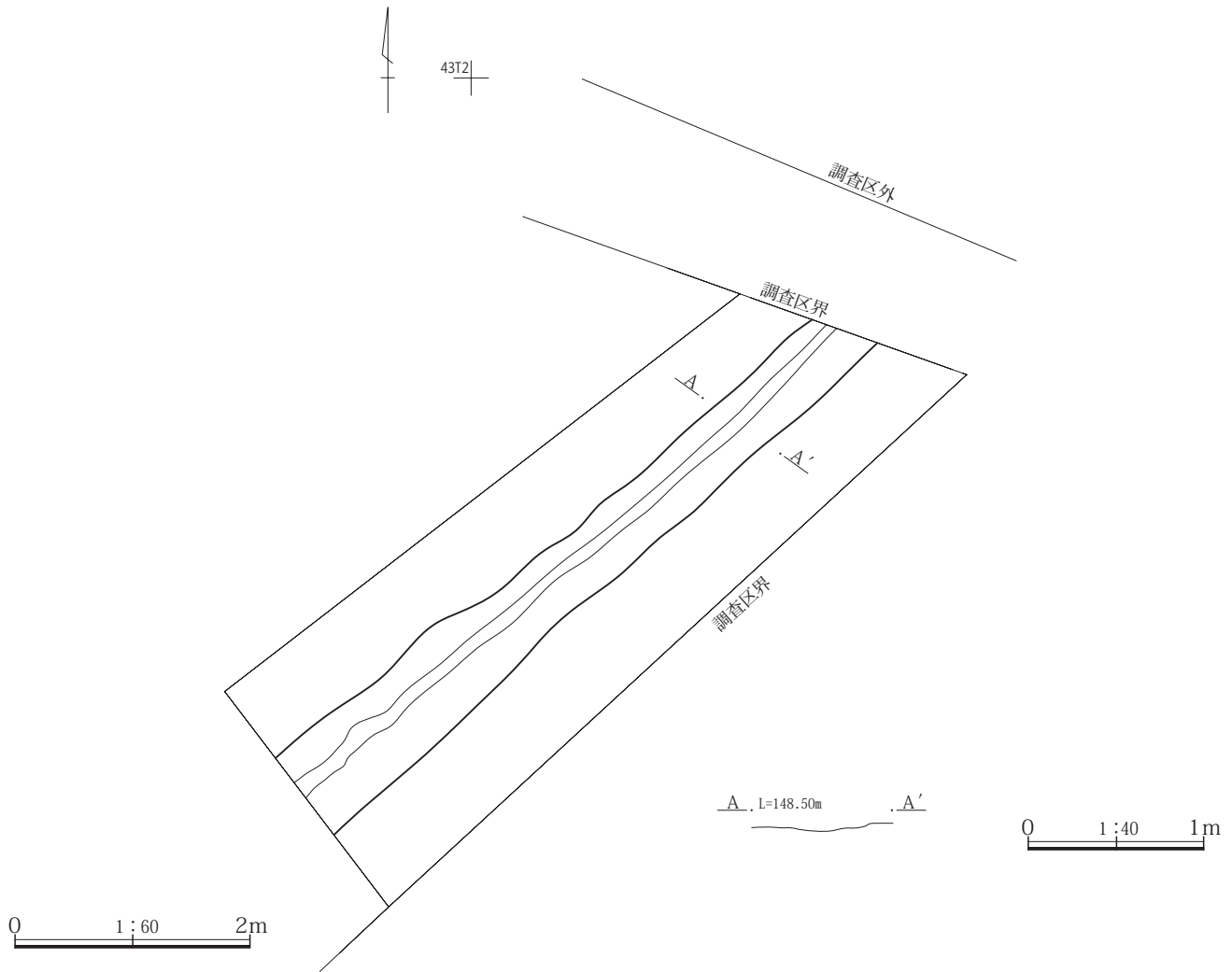
埋没土 記録なし

出土遺物 なし

所見 34区調査区東壁際より溝の肩一部を検出。全容を調査するため、一部を調査区境際まで調査。埋土はほぼI層土であったため、土層を記録せず。溝の底部のみの検出であり、近代の溝であると考えられる。



第111図 9号溝



第112図 3号道

3号道(第112図、PL.30)

位置 43 S 1 ~ 33 T 20、34区東端に位置し、北東から南西に走向している。

形状・規模 全長は6.02mである。溝の幅は上端が0.82m ~ 0.51m、下端が0.16m ~ 0.08m、深さは0.11m ~ 0.06mである。勾配は北東側が高く、南西側が低い。

方位 N-49°-E

重複 なし

埋没土 As-Bを含む黒褐色土。

出土遺物 なし

所見 溝とは言えない浅くなだらかな落ち込みが続く遺構であった。底部は硬化していることから道であると判断した。遺構の上端がすでに削平されている可能性も考えられ、1号道、2号道同様溝状遺構であった可能性も

考えられる。図化していないが、調査区北壁において、遺構底部直上からAs-B堆積層がみられた。As-B降下直前まで機能していたことも考えられる古代の道である。

第5節 竪穴状遺構

竪穴状遺構は8基調査した。調査区別ではすべて33区内で検出した。遺構の形状・埋土より近現代の遺構と考えられる。1号竪穴状遺構は、形状より防空壕かムロとして使用されていたことが考えられる。

1号竪穴状遺構(第113図、PL.31)

位置 34B13、33区西端南側に位置する。

形状・規模 隅丸長方形の土坑に階段状の掘り込みが張り出している。逆L字状の形状を呈す。長軸3.15m、短軸1.42m、深さ1.35mを測る。

面積 5.01m²

方位 N-33°-E

重複 なし

埋没土 現代耕作土

出土遺物 ガラス瓶片

所見 遺構南側が入り口で、階段状の張り出しから底部に至る。土坑内北・東・西壁は上端より奥に拡張されていた。埋土から近現代の遺構であり、防空壕かムロとして使用されていたことが考えられる。

2号竪穴状遺構(第114図)

位置 33R12、33区中央やや西寄り、調査区南側に位置する。西隣りに3号竪穴状遺構が隣接する。

形状・規模 長方形を呈し、長軸2.40m、短軸1.72m、深さ0.45mを測る。

面積 4.08m²

方位 N-66°-W

重複 なし

埋没土 現代耕作土

出土遺物 なし

所見 埋土から近現代の遺構であると考えられるが、用途は不明である。

3号竪穴状遺構(第114図)

位置 33R12、33区中央やや西寄り、調査区南側に位置する。東隣りに2号竪穴状遺構、南隣りに4号竪穴状遺構が隣接する。

形状・規模 長方形を呈し、長軸6.22m、短軸1.83m、深さ0.49mを測る。

面積 11.21m²

方位 N-62°-W

重複 1号掘立柱建物

埋没土 現代耕作土

出土遺物 なし

所見 埋土から近現代の遺構であると考えられるが、用途は不明である。

4号竪穴状遺構(第114図)

位置 33R12、33区中央やや西寄り、調査区南側に位置する。北隣りに3号竪穴状遺構が隣接する。

形状・規模 長方形を呈し、長軸2.68m、短軸1.34m、深さ0.57mを測る

面積 3.48m²

方位 N-62°-W

重複 1号掘立柱建物。4号竪穴状遺構の方が新しい。

埋没土 現代耕作土

出土遺物 なし

所見 埋土から近現代の遺構であると考えられるが、用途は不明である。

5号竪穴状遺構(第116図)

位置 33T13、33区東寄り、調査区南側に位置する。

形状・規模 凸字状を呈し、長軸2.52m、短軸1.49m、深さ0.78mを測る。

面積 3.05m²

方位 N-69°-W

重複 8号住居。8号住居埋没後5号竪穴状遺構が作られている。

埋没土 現代耕作土

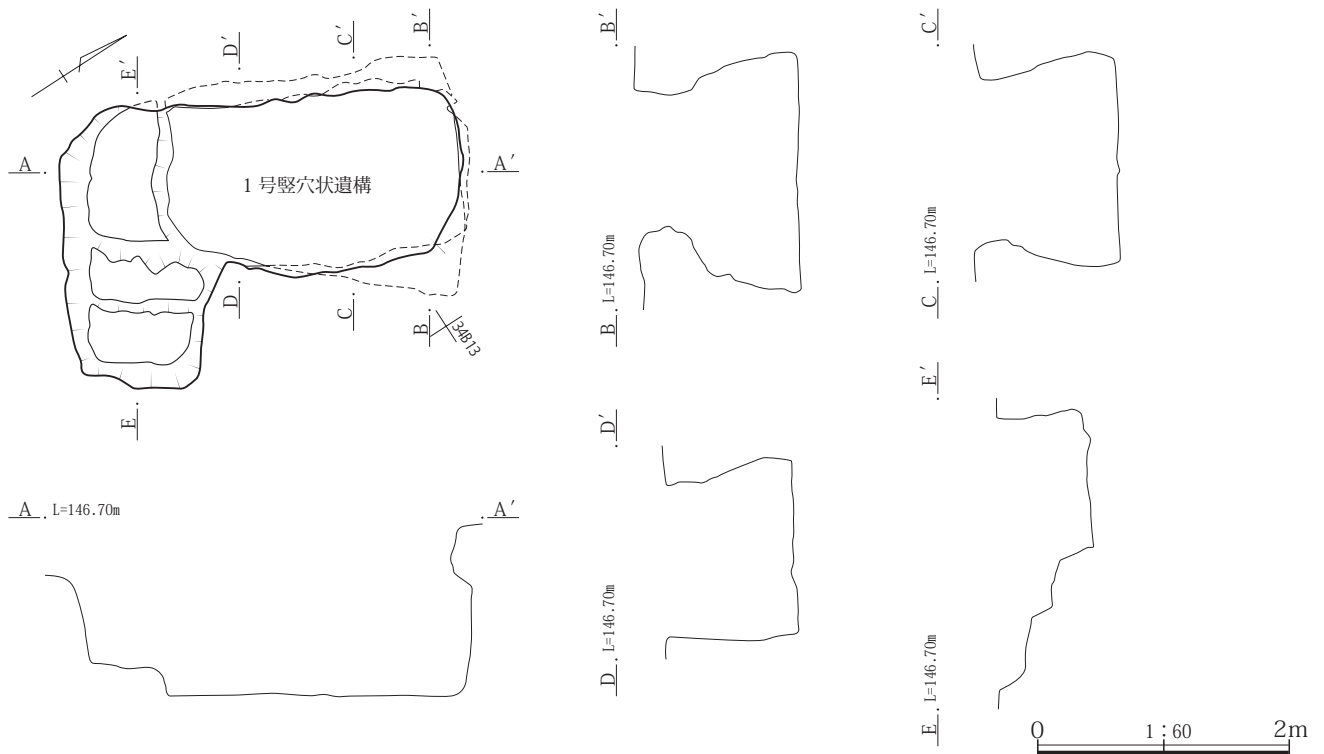
出土遺物 なし

所見 埋土から近現代の遺構であると考えられるが、用途は不明である。

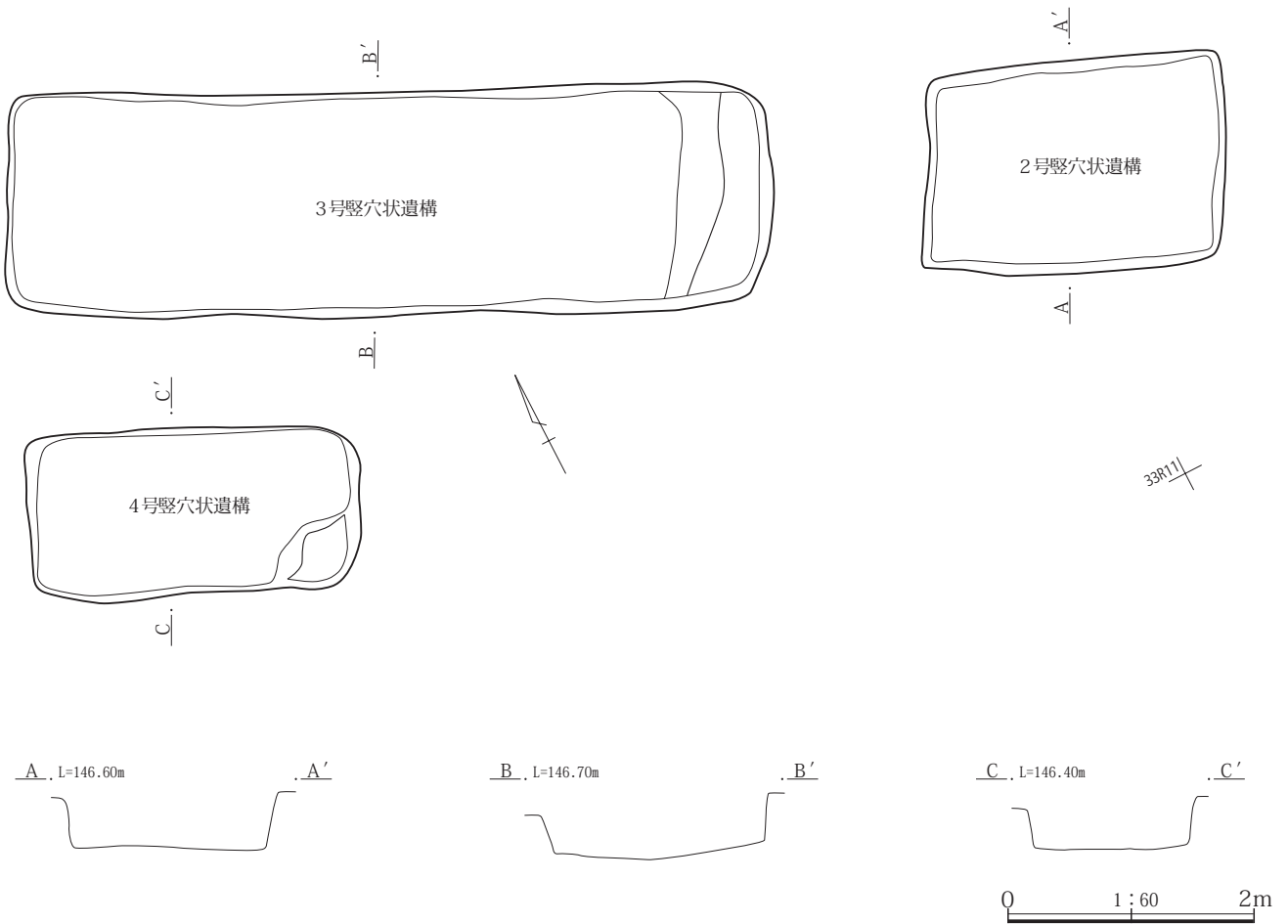
6号竪穴状遺構(第115図)

位置 34A13、33区西端際、調査区南側に位置する。

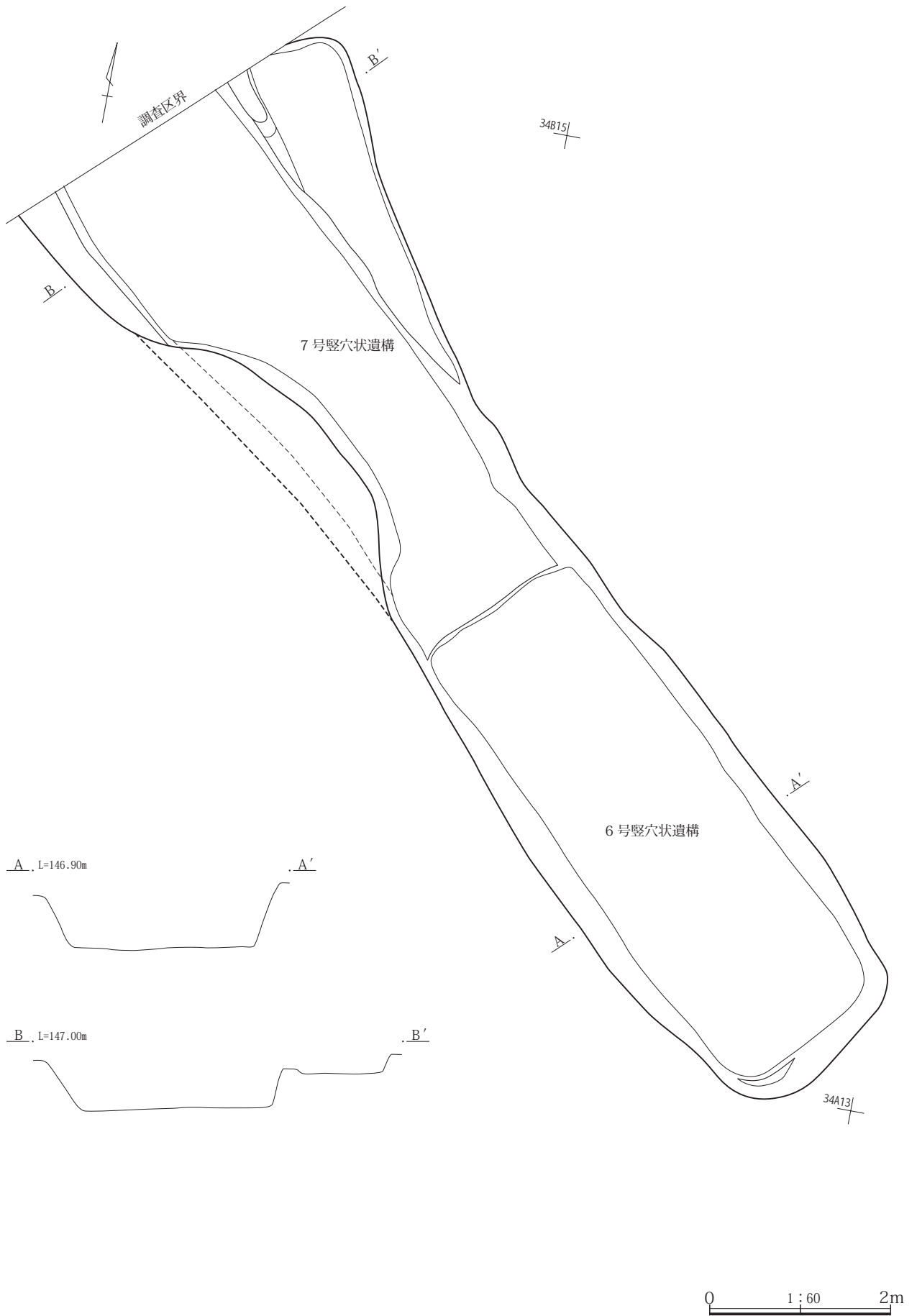
形状・規模 長方形を呈す。長軸6.21m、短2.57m、深さ0.77mを測る。



第113图 1号豎穴状遺構



第114图 2・3・4号豎穴状遺構



第115図 6・7号竖穴状遺構

面積 15.37m²

方位 N-46°-W

重複 7号竪穴状遺構

埋没土 現代耕作土

出土遺物 なし

所見 埋土から近現代の遺構であると考えられるが、用途は不明である。6号竪穴状遺構の底面の方が7号竪穴状遺構の底面より深く、6号竪穴状遺構が7号竪穴状遺構を切って構築されたと考えられるが、詳細は不明である。

7号竪穴状遺構(第115図)

位置 34B15、33区西端際、調査区南側に位置する。

形状・規模 西辺より東辺の方が広く、ぼち形を呈している。長軸(6.50)m、短軸1.70m、深さ0.63mを測るが、遺構の西側は調査区外に延びていると考えられる。

面積 (16.13)m²

方位 N-47°-W

重複 6号竪穴状遺構

埋没土 現代耕作土

所見 埋土から近現代の遺構であると考えられるが、用途は不明である。

8号竪穴状遺構(第117図)

位置 33S14、33区東寄り中央部分に位置する。

形状・規模 長方形を呈し、長軸1.56m、短軸0.84m、深さ0.22mを測る。

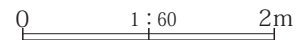
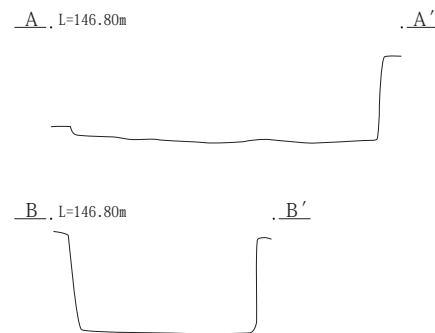
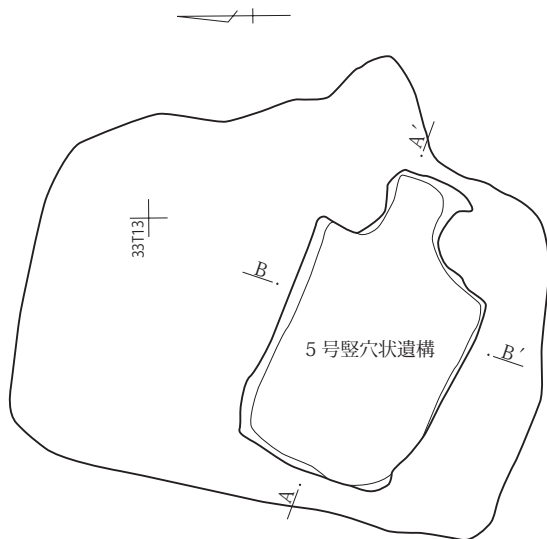
面積 1.22m²

方位 N-68°-W

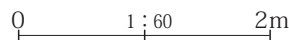
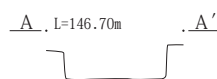
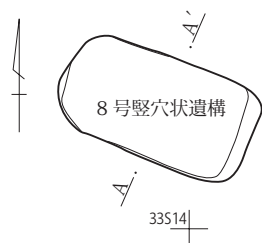
重複 なし

埋没土 現代耕作土

所見 埋土から近現代の遺構であると考えられるが、用途は不明である。



第116図 5号竪穴状遺構



第117図 8号竪穴状遺構

第6節 鍛冶遺構

土坑として調査した遺構の中で、複合した土坑群を、出土状況、出土遺物等から鍛冶遺構と判断して、報告する。鍛冶遺構として報告するのは284号土坑・285号土坑・286号土坑・299号土坑・300号土坑である。33区北西端より検出した。覆屋等の外部施設を有する鍛冶であったことが想定できるが、外部施設は確認されなかった。出土遺物より遺構の使用時期は他の平安時代の住居と同様9世紀後半であると考えられる。(第118～121図、PL.31・49・50)

位置 33Q19、33区西側、調査区北端際に位置する。

形状・規模 東西に長く、楕円形が連結しているような形状である。調査時は、西から285号土坑、286号土坑、300号土坑、299号土坑、284号土坑とし、調査を行った。遺構全体の長軸は3.14m、短軸は0.84mである。それぞれの土坑の計測値は第8表のとおりである。

方位 N-80°-E

重複 なし

埋没土 ロームブロックを含む濁黒褐色土。上層よりAs-Cの混入が認められる。

出土遺物 284号土坑から須恵器坏1、須恵器椀2～5が出土した。2の椀は内面口縁部に煤が付着しており燈明皿として使用していたことが考えられる。286号土坑南側からは粗粒輝石安山岩の金床石が出土している。その他にも礫片が出土している。鉄滓は286号土坑から1937.0g、300号土坑から1237.2g出土している。検出土坑が特定できない鉄滓は15.85gである。出土した鉄滓のうち、自然科学分析を行ったものを中心に10点図化した。第119～121図6～15である。鍛造剥片は284号土坑から6883.43g、285号土坑から1181.11g、299号土坑から207.32g出土している。300号土坑からは細微片化した鉄滓21.49g出土している。位置が特定できない鍛造剥片は190.73gである。遺構全体からは鍛造剥片12064.25g出土している。湯玉は284号土坑から45.89g、285号土坑から7.78g、286号土坑から17.78g、299号土坑から0.73g、300号土坑から1.50g出土している。遺構全体からは73.67g出土している。粒状炭化物が284号土坑から25.40

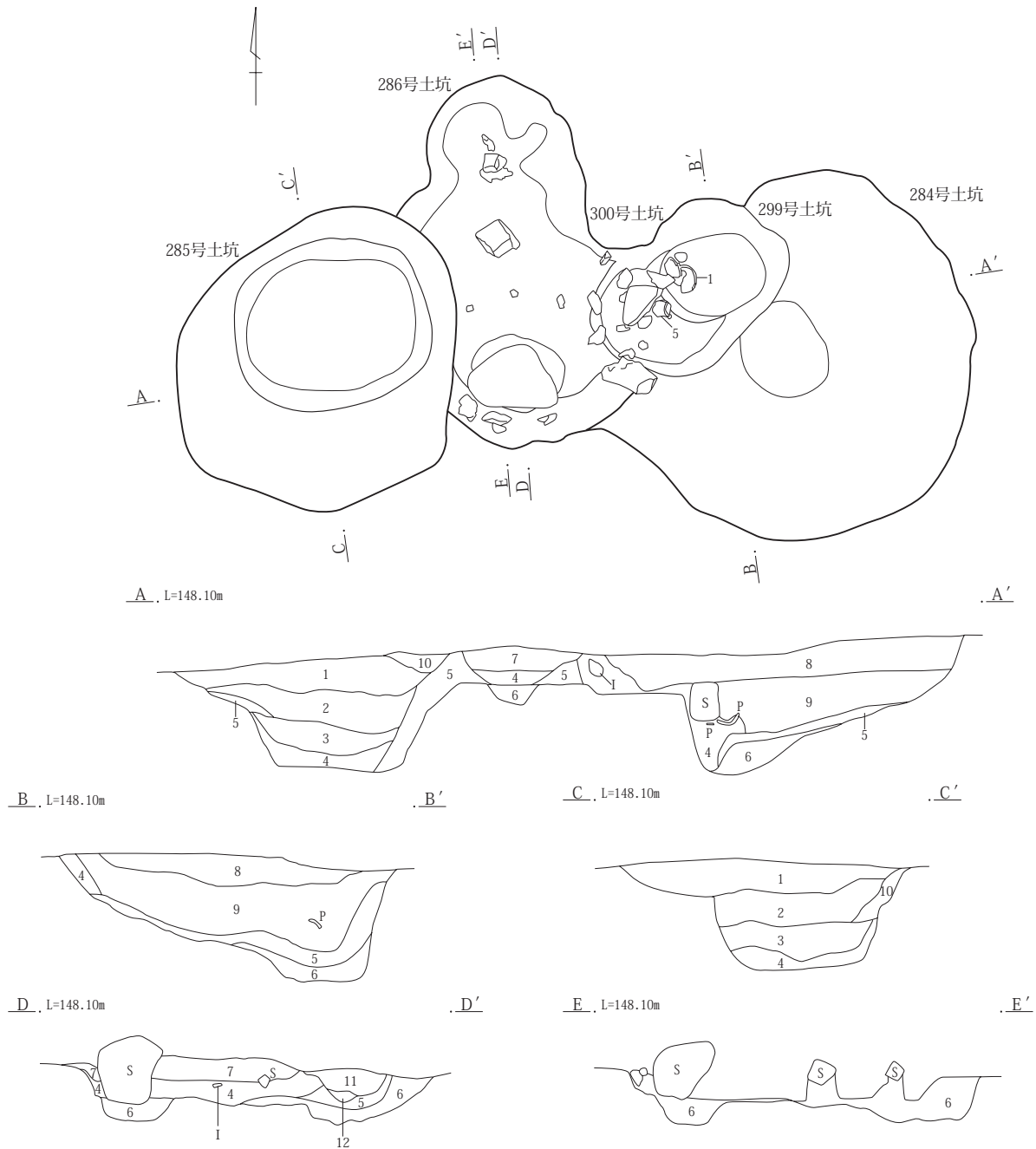
g、285号土坑から13.30g出土している。

所見 出土遺物より9世紀後半の遺構と考えられる。調査時遺構として検出されなかったが、土坑周辺部は周囲と土の色がわずかに異なっており、遺構の使用時には、長方形に一段掘り下げられていたと考えられる。また、柱穴と考えられるピットを検出することができなかったが、覆屋がかけられていたことが想定できる。遺構の東半分から集中して鉄滓、鍛造剥片、粒状炭化物が検出されたことから東半分が炉及び作業場であった可能性が考えられる。出土鉄滓の自然科学分析の結果は第4章で述べる。

第8表 鍛冶遺構計測値一覧

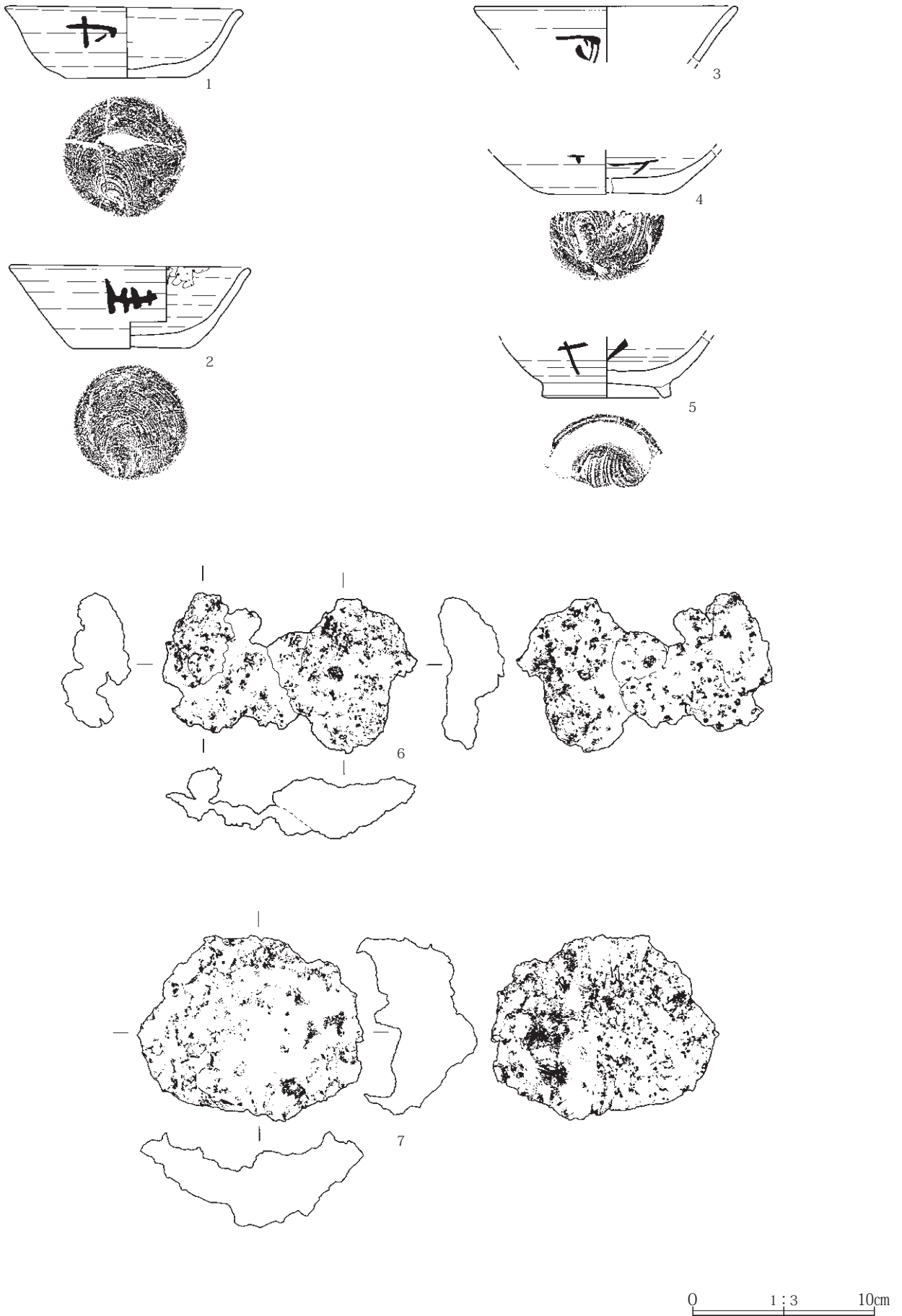
土坑名称	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
284号土坑	1.71	(1.08)	0.41
285号土坑	1.47	1.29	0.46
286号土坑	1.68	0.87	0.18
299号土坑	0.65	(0.56)	0.14
300号土坑	0.65	(0.33)	0.25

33019

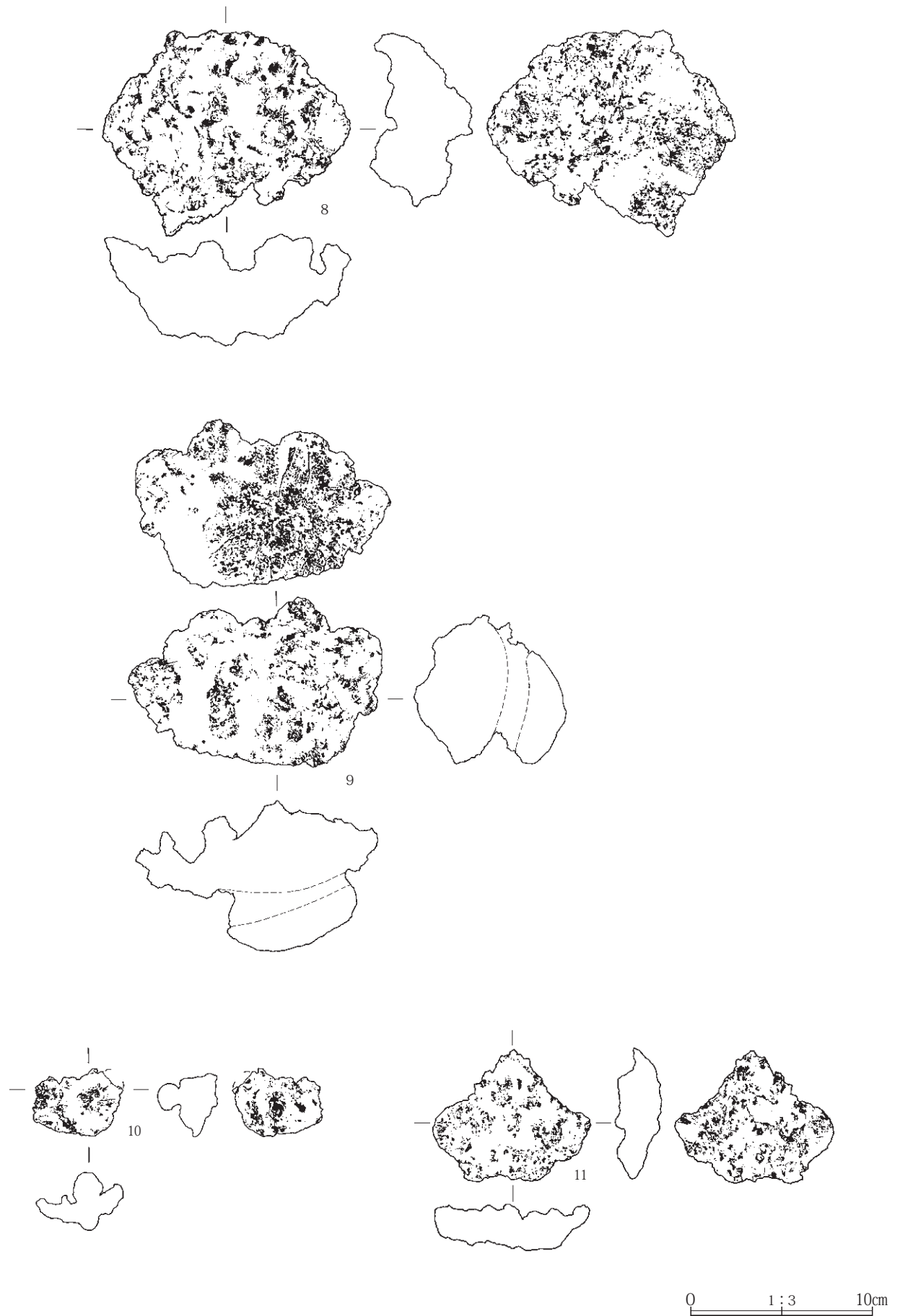


- 1 暗褐色土 As-C軽石混ざる。
- 2 暗褐色土 1層に類するが、ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック少量含む。As-C軽石は、ほとんど見られない。
- 4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土とロームブロックの混土 ロームブロックの方が割合多い。
- 6 暗褐色土とロームブロックの混土 暗褐色土の方が割合多い。
- 7 暗褐色土 1層に類するが、焼土ブロック、焼土粒少量含む。
- 8 黒褐色土 As-C軽石混ざる。
- 9 暗褐色土 As-C軽石を含むが8層より少量。
- 10 暗褐色土 ロームブロック、小礫多量に含む。
- 11 暗褐色土 7層に類するが、焼土ブロック、焼土粒7層より多く含む。
- 12 黒褐色土 灰を多く含む。

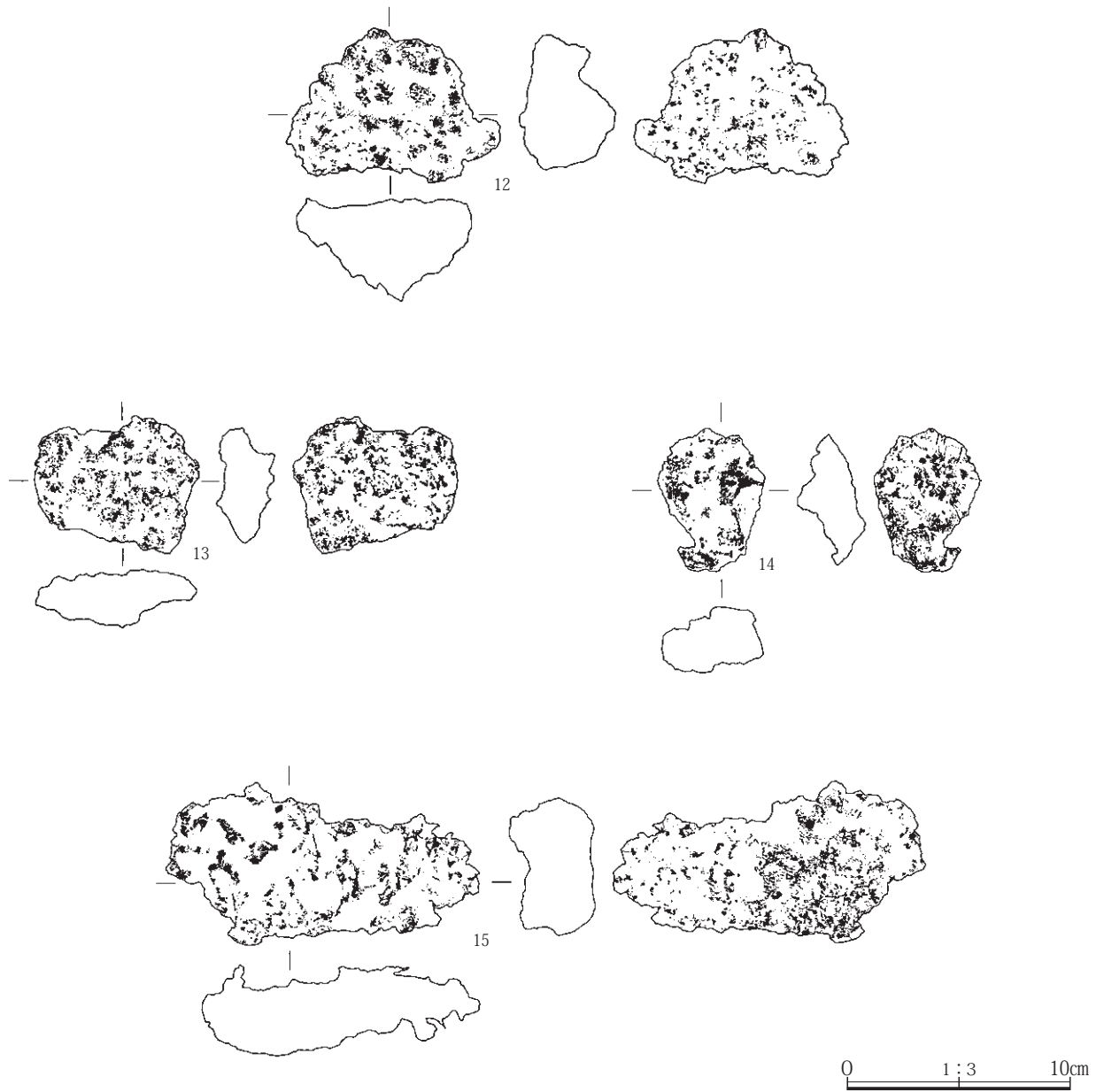
第118図 鍛冶遺構



第119図 鍛冶遺構出土遺物(1)



第120図 鍛冶遺構出土遺物(2)



第121図 鍛冶遺構出土遺物(3)

第7節土坑

本項では1429基の土坑を扱ったが、詳述するものは土器片や礫などの遺物を供出する土坑に限定している。他の土坑については、第9表の一覧に概略を記した。尚、一覧表の土層はAがC軽石含有する黒色土=IV層土、Bが塊状ローム含有する暗褐色土、Cが暗褐色土、Dが茶褐色土である。

縄文時代確認面で検出した土坑は1409基である。土坑の分布は、22区288基・32区121基・33区791基・34区142基・45区66基である。台地中央部の33区に半数以上が分布している。1373号土坑は墓壇の可能性が考えられるが、ほとんどの土坑の機能・用途は不明である。

平安時代確認面で検出した土坑は20基である。土坑の分布状況は33区13基・34区2基である。284～286号土坑、299～300号土坑は調査時、個別の土坑として調査したが、鍛冶遺構として、一括して報告する。他の土坑の機能・用途は不明である。

17号土坑(第122・125図、PL.31・50)

位置 33R16

形状・規模 長円形を呈し、長軸0.70m、短軸0.38mを測る。深さは0.29mであった。

方位 N-18°-E

埋没土 埋没状況は不明である。

出土遺物 加曽利B1式の深鉢底部破片1点が出土した。

所見 出土遺物より、縄文時代後期の土坑と考えられる。

570号土坑(第122・125図、PL.50)

位置 33O12

形状・規模 長円形を呈し、規模は長軸0.30m、短軸0.16mを測る。深さ0.33mであった。

方位 N-83°-W

重複 741号土坑

埋没土 埋没状況は不明である。

出土遺物 土師器甕片が出土した。

所見 出土遺物より平安時代の土坑と考えられる。

1129号土坑(第122・125図、PL.32・50)

位置 32Q6

形状・規模 長円形を呈し、規模は長軸0.37m、短軸0.33mを測る。深さは0.23mであった。

方位 N-2°-E

重複 1130号土坑

埋没土 埋没状況は不明である。

出土遺物 外面口縁部に「○井」の墨書が出土。

所見 遺物より平安時代の土坑と考えられる。

出土遺物 須恵器杯片が出土。外面口縁部に「○井」の墨書が施されていた。

1196号土坑(第122・125図、PL.32・50)

位置 45K9

形状・規模 長円形を呈し、底面は平坦である。規模は長軸1.00m、短軸0.69mを測る。深さは0.13mであった。

方位 N-58°-W

埋没土 少量のロームブロックを含む暗褐色砂質土だが、単層であり、自然埋没土と考えられる。

出土遺物 諸磯c式の深鉢胴部破片1点、チャートの剥片1点が出土した。

所見 遺物より縄文時代前期後半の土坑と考えられる。

1199号土坑(第122・125図、PL.32・50)

位置 45M11

形状・規模 円形を呈し、規模は長軸0.50m、短軸0.48mを測る。深さは0.13mであった。

方位 N-59°-E

埋没土 埋没状況は不明である。

出土遺物 諸磯b式土器片3点、縄文後期前葉と考えられる土器片1点、黒色安山岩の剥片1点、黒色頁岩の削器1点を検出した。そのうち諸磯b式の深鉢胴部を図化した。

所見 出土遺物より縄文時代前期後半の土坑と考えられる。

1225号土坑(第123図、PL.32)

位置 45M10

形状・規模 不整形を呈するが、北半分は18号住居の掘方と重複している。もともと円形を呈していたが、18号

第3章 調査

住居に破壊され、不整形となったものと考えられる。長軸1.65m、短軸1.57mを測る。深さは0.63mであった。

方位 N-0°

重複 18号住居

埋没土 ロームブロックを含む暗褐色土が認められ、人為埋没と考えられる。

出土遺物 縄文前期後葉と考えられる土器片1点、縄文後期前葉と考えられる土器片1点、黒曜石の楔形石器1点、細粒輝石安山岩の剥片1点が出土した。

所見 出土遺物より縄文時代後期前半の土坑と考えられる。

1226号土坑(第123・125図、PL.32・50)

位置 45 I 9

形状・規模 長円形を呈し、規模は長軸0.85m、短軸0.68mを測る。深さは0.30mであった。

方位 N-77°-W

埋没土 レンズ状の堆積状況から自然埋没土と考えられる。

出土遺物 諸磯b式の深鉢胴部破片1点が出土した。

所見 出土遺物より縄文時代前期後半の土坑と考えられる。

1227号土坑(第123・125図、PL.32・50)

位置 45 N14

形状・規模 不整形を呈するが、20号住居4号ピットに切られており、もともとは円形を呈していたと考えられる。規模は長軸1.25m、短軸0.95mを測る。深さは0.37mであった。

方位 N-0°

重複 20号住居 20号住居4号ピットと切りあっている。

埋没土 レンズ状の堆積状況から自然埋没土と考えられる。

出土遺物 縄文前期後葉の土器片1点、縄文後期前葉の土器片1点、黒色頁岩の剥片1点が出土した。

所見 出土遺物より縄文時代前期後半もしくは後期前半の土坑であると考えられる。

1260号土坑(第123・125図、PL.32・50)

位置 34 F 16

形状・規模 長円形を呈し、規模は長軸0.46m、短軸0.30mを測る。深さは0.23mであった。

方位 N-18°-E

埋没土 埋没状況は不明である。

遺物 堀之内2式の深鉢口縁部破片1点が出土した。

所見 出土遺物より縄文時代後期の土坑と考えられる。

1369号土坑(第123図、PL.32)

位置 45 L 10

形状・規模 隅丸長方形を呈しているが、中央部分を東西に貫通する7号溝により壊されていた。規模は長軸1.13m、短軸0.92mを測る。深さは0.17mであった。

方位 N-39°-E

重複 7号溝

埋没土 埋没状況は不明である。

出土遺物 黒色頁岩の剥片1点が出土した。

所見 出土遺物より縄文時代の土坑と考えられる。

1370号土坑(第123・125図、PL.33・50)

位置 45 M9

形状・規模 長円形を呈し、底面は凹凸が多い。規模は長軸0.80m、短軸0.78mを測る。深さは0.25mであった。

方位 N-84°-W

埋没土 埋没状況は不明である。

出土遺物 諸磯c式の深鉢胴部破片1点が出土した。

所見 出土遺物より縄文時代前期後半の土坑と考えられる。

1371号土坑(第123・125図、PL.33・50)

位置 45 L 10

形状・規模 不整形を呈し、長軸1.32m、短軸0.88mを測る。深さは0.14mであった。

方位 N-25°-W

埋没土 レンズ状の堆積状況から自然埋没土と考えられる。

出土遺物 諸磯c式の土器片1点、縄文前期末葉の土器片2点、黒色安山岩の石核1点が出土した。

所見 出土遺物より縄文時代前期後半の土坑と考えられる。

1373号土坑(第123・126図、PL.33・51)

位置 45K9

形状・規模 長円形を呈し、長軸0.70m、短軸0.62mを測る。深さは0.17mであった。

方位 N-69°-E

埋没土 ロームブロックを含む暗褐色土が認められ、人為埋没と考えられる。

出土遺物 諸磯b式の土器片1点、諸磯c式の土器片1点、縄文後期前葉の土器片2点、細粒輝石安山岩の打製石斧1点、チャートの石鏃1点、細粒輝石安山岩の磨石1点、黒色頁岩の加工痕ある剥片1点、黒色安山岩の石核1点、黒色頁岩の剥片5点、黒色安山岩の剥片4点、ホルンフェルスの剥片5点、黒曜石の剥片4点が出土した。諸磯c式深鉢は角礫に潰された状態で検出された。

所見 出土遺物より縄文時代前期後半の土坑と考えられる。土器片や角礫を載せていることから墓塚の可能性が考えられる。

1379号土坑(第124図、PL.33)

位置 45K9

形状・規模 不整形を呈し、長軸1.02m、短軸0.80mを測る。深さは0.19mであった。

方位 N-22°-W

埋没土 埋没状況は不明である。

出土遺物 諸磯c式の土器片1点、黒曜石の剥片1点が出土した。

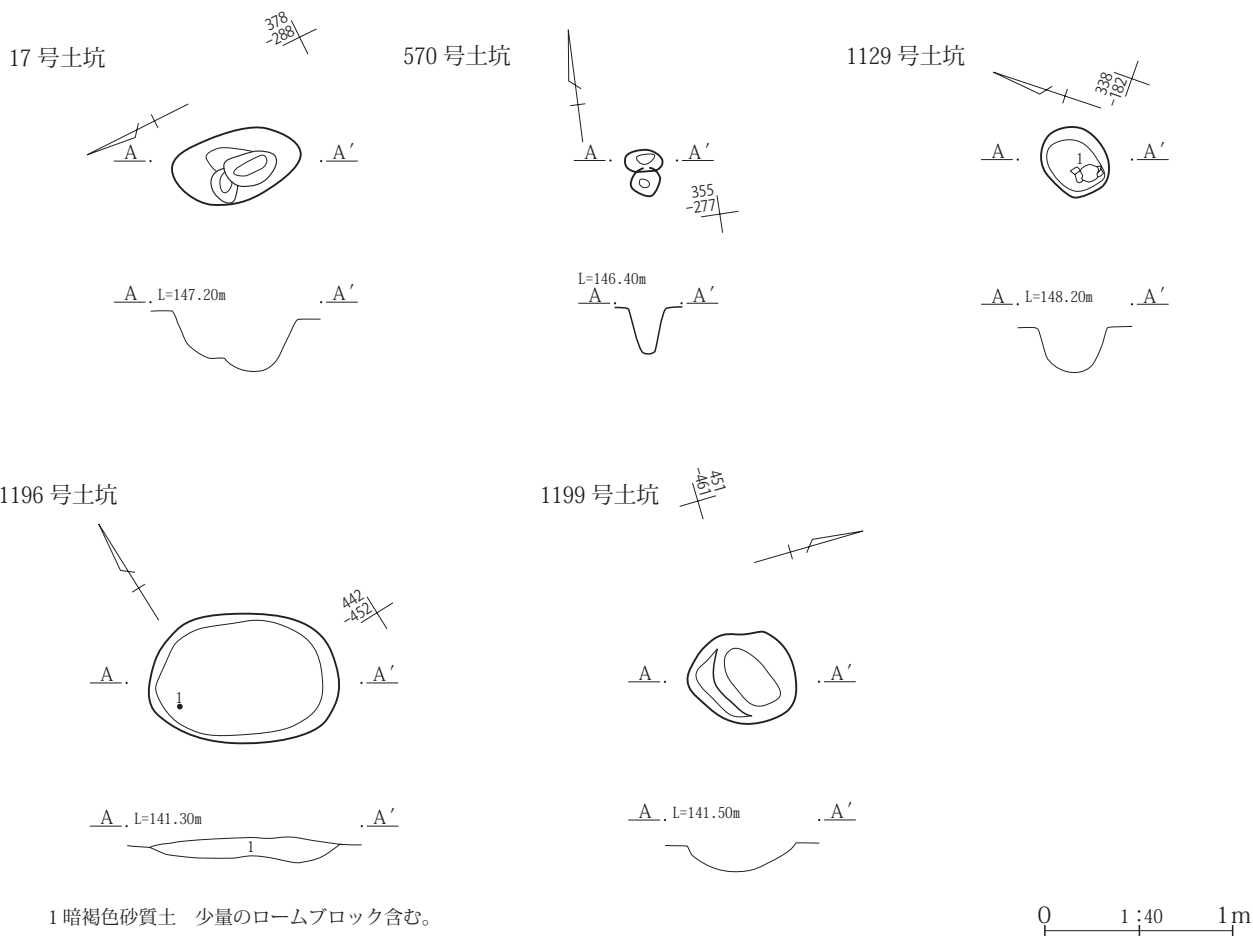
所見 出土遺物より縄文時代前期後半の土坑と考えられる。

1384号土坑(第124図)

位置 45O13

形状・規模 不整形を呈する。調査時遺構検出が困難であったため、遺構上端は推定である。規模は長軸(160)m、短軸(65)mを測る。深さは0.28mであった。

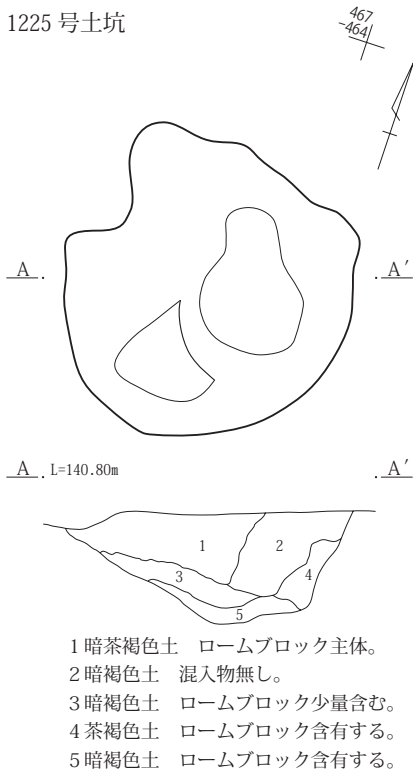
方位 N-35°-E



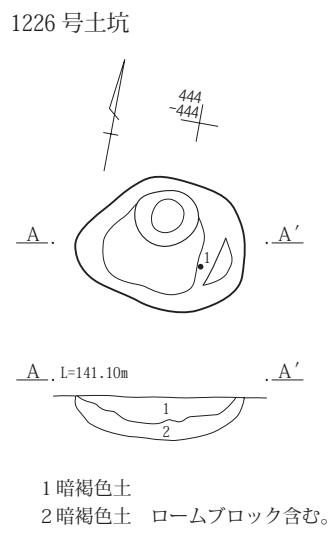
第122図 土坑(1)

第3章 調査

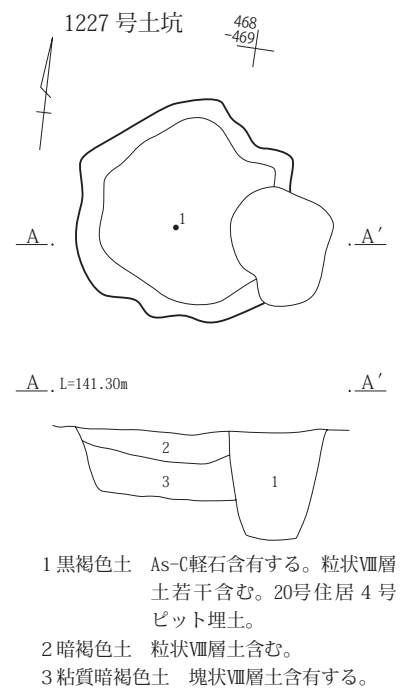
1225号土坑



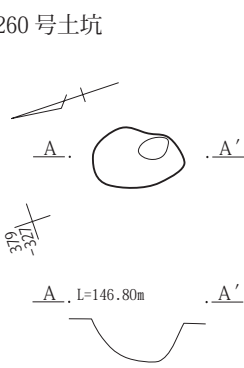
1226号土坑



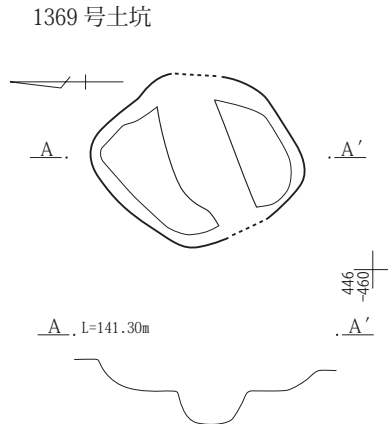
1227号土坑



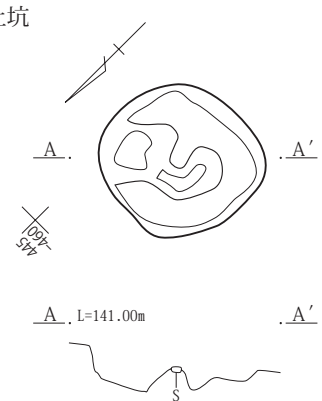
1260号土坑



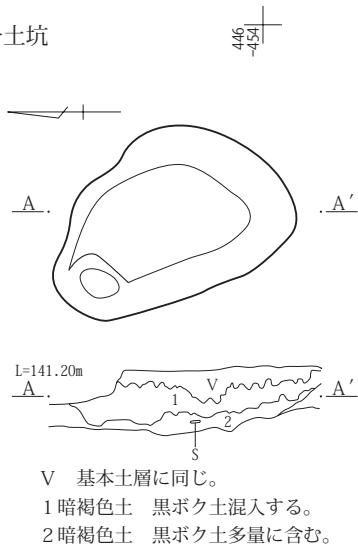
1369号土坑



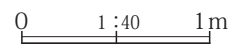
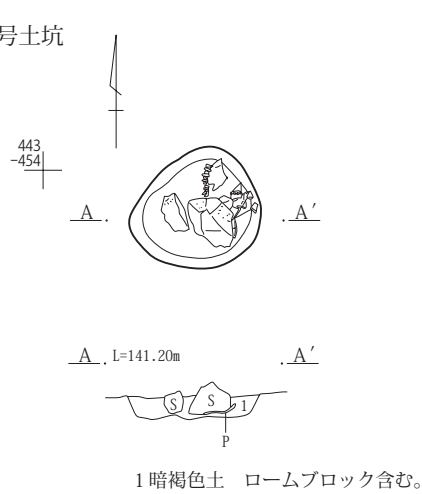
1370号土坑



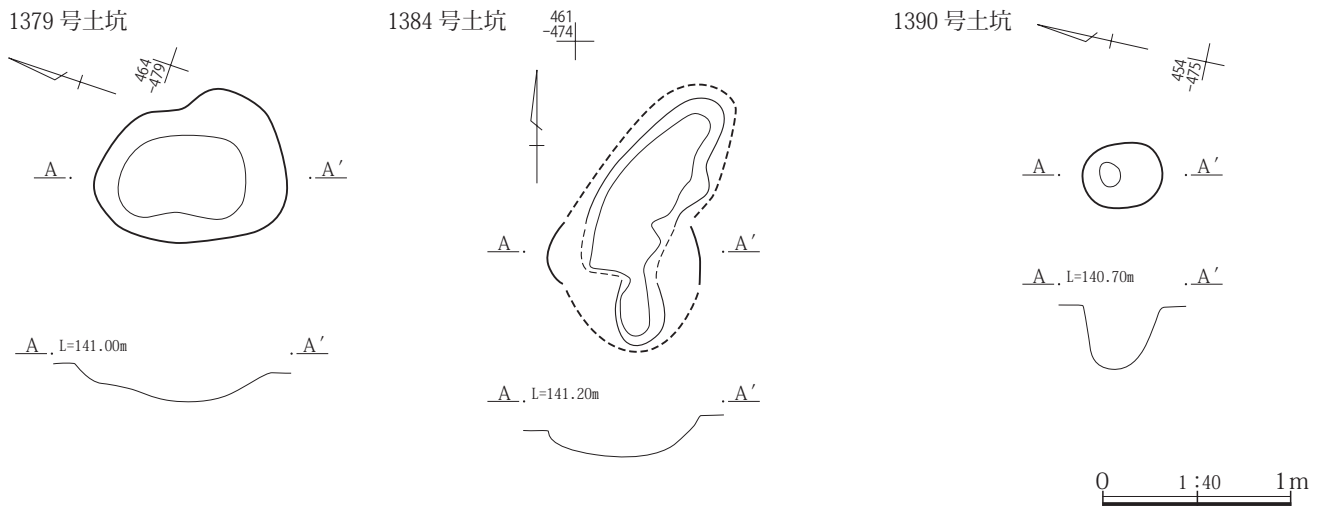
1371号土坑



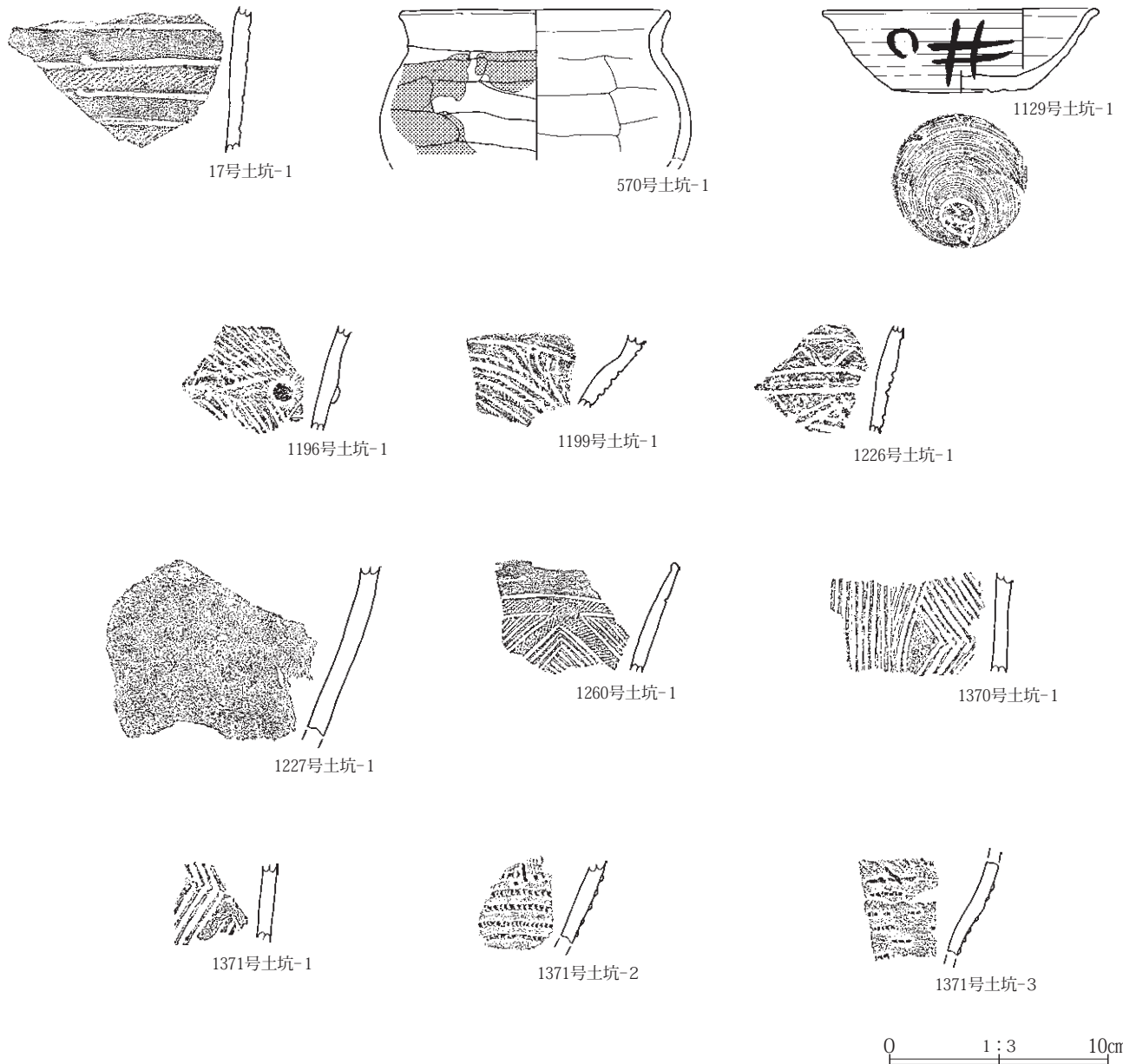
1373号土坑



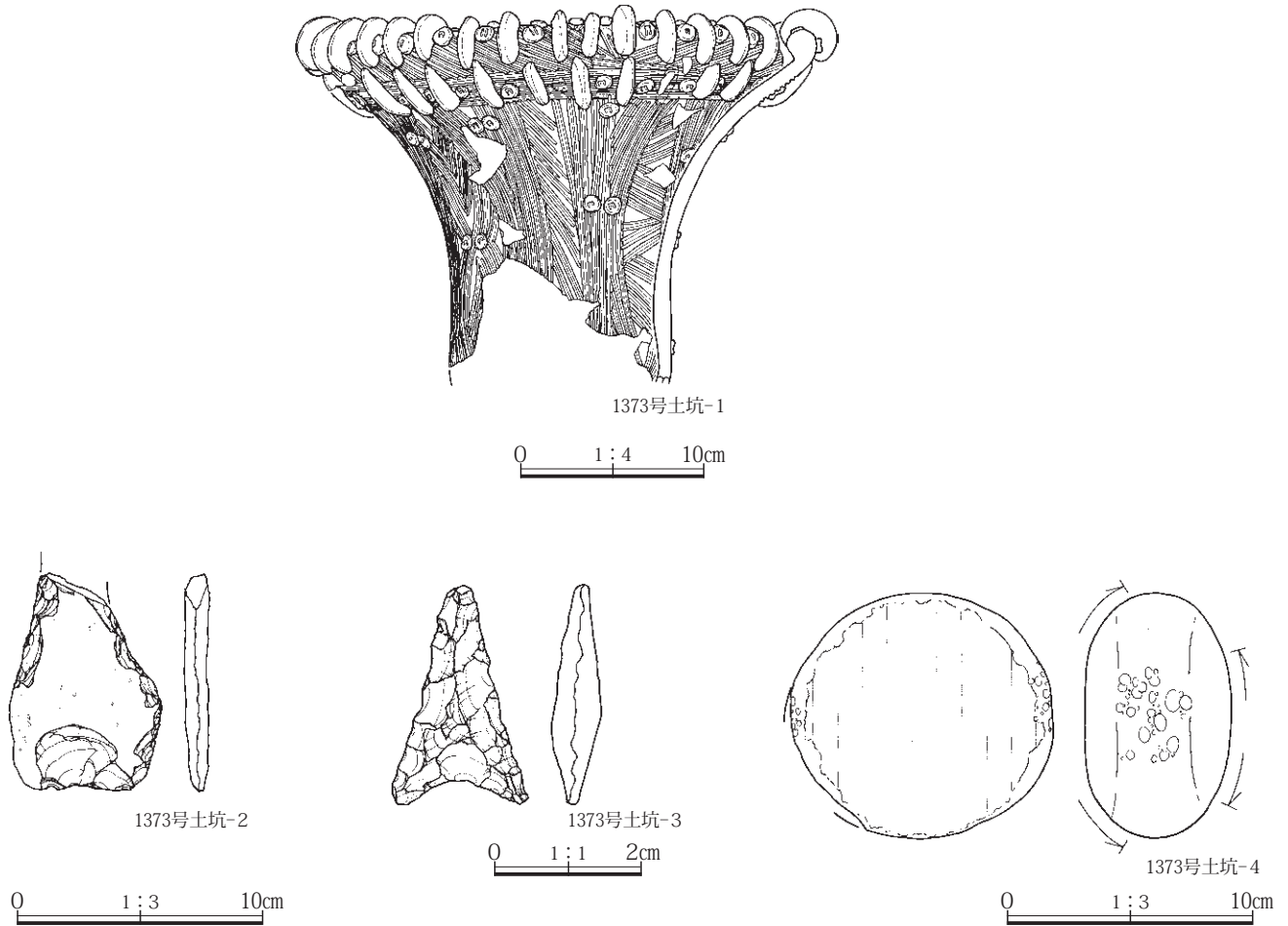
第123図 土坑(2)



第124图 土坑(3)



第125图 土坑出土遺物(1)



第126図 土坑出土遺物(2)

埋没土 埋没状況は不明である。

出土遺物 縄文前期末葉の土器片1点、黒色頁岩の剥片1点が出土した。

所見 出土遺物より縄文時代前期末期の土坑と考えられる。

1390号土坑(第124図)

位置 45 P 11

形状・規模 長円形を呈し、規模は長軸0.42m、短軸0.35mを測る。深さは0.34mである。

方位 N-29° -W

埋没土 埋没状況は不明である。

出土遺物 縄文前期後葉の土器片2点、珪質頁岩の剥片1点が出土した。

所見 出土遺物より縄文時代前期後半の土坑と考えられる。

第9表 土坑一覧

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
1号土坑	N-56°-E	隅丸方形	33	33-P-20	52	47	17		
2号土坑	N-83°-E	長円形	33	33-Q-20	50	43	21		
3号土坑	N-47°-E	方形	33	33-Q-19	54	45	19		
4号土坑	N-40°-W	長円形	33	33-Q-19	46	28	16		
5号土坑	N-64°-E	円形	33	33-Q-19	44	39	19		
6号土坑	N-80°-E	長円形	33	33-R-19	53	31	19		
7号土坑	N-20°-E	円形	33	33-Q-18	30	25	18		
8号土坑	N-45°-E	円形	33	33-Q-18	26	23	16		
9号土坑	N-31°-E	円形	33	33-Q-18	27	22	21		
10号土坑	N-81°-W	隅丸方形	33	33-R-17	28	24	21		
11号土坑	N-27°-W	不整形	33	33-S-17	59	47	53		
12号土坑	N-64°-W	長円形	33	33-S-17	29	27	17		
13号土坑	N-23°-W	長円形	33	33-S-17	27	24	15		
14号土坑	N-38°-W	隅丸長方形	33	33-T-16	76	59	18		
15号土坑	N-32°-W	円形	33	33-R-16	37	37	-		
16号土坑	N-14°-E	長円形	33	33-R-16	57	34	38		
18号土坑	N-59°-W	長円形	33	33-R-17	55	35	22		242号土坑と重複
19号土坑	N-0°	円形	33	33-R-16	25	25	60		
20号土坑	N-8°-E	長円形	33	33-R-16	39	27	52		
21号土坑	N-42°-E	長円形	33	33-R-16	43	40	44		
22号土坑	N-0°	隅丸長方形	33	33-Q-16	30	23	39		
23号土坑	N-53°-W	長円形	33	33-Q-16	48	27	34		
24号土坑	N-7°-W	長円形	33	33-Q-16	26	24	45		
25号土坑	N-43°-W	円形	33	33-Q-16	33	30	30		
26号土坑	N-7°-W	長円形	33	33-Q-17	65	43	35		
27号土坑	N-43°-E	円形	33	33-Q-17	28	23	22		
28号土坑	N-44°-W	長円形	33	33-Q-17	47	42	39		
29号土坑	N-60°-W	長円形	33	33-Q-17	65	51	38		
30号土坑	N-44°-W	不整形	33	33-P-17	94	85	40		31号土坑と重複
31号土坑	N-25°-E	不整形	33	33-P-17	58	30	26		30号土坑と重複
32号土坑	N-59°-E	円形	33	33-Q-16	27	25	30		
33号土坑	N-55°-W	円形	33	33-Q-16	48	42	22		
34号土坑	N-15°-W	円形	33	33-Q-16	38	38	68		
35号土坑	N-0°	長円形	33	33-P-16	60	38	33		
36号土坑	N-33°-E	隅丸長方形	33	33-P-16	50	44	19		
37号土坑	N-61°-W	長円形	33	33-P-16	38	25	23		
38号土坑	N-0°	長円形	33	33-P-16	52	45	42		
39号土坑	N-76°-E	長円形	33	33-P-16	37	30	41		
40号土坑	N-74°-E	長円形	33	33-P-16	52	45	54		
41号土坑	N-43°-W	長円形	33	33-P-16	46	34	29		
42号土坑	N-54°-W	長円形	33	33-P-16	26	20	36		
43号土坑	N-41°-W	円形	33	33-Q-15	36	36	34		
44号土坑	N-6°-E	長円形	33	33-Q-15	30	25	8		
45号土坑	N-36°-E	隅丸方形	33	33-Q-14	30	22	34		
46号土坑	N-9°-W	隅丸長方形	33	33-Q-14	42	30	21		
47号土坑	N-74°-E	長円形	33	33-Q-14	53	30	34		
48号土坑	N-62°-W	円形	33	33-Q-14	26	23	30		
49号土坑	N-90°	不整形	33	33-P-14	70	52	25		
50号土坑	N-81°-E	円形	33	33-P-14	34	30	12		
51号土坑	N-42°-E	円形	33	33-P-14	44	38	26		
52号土坑	N-90°	長円形	33	33-P-14	35	30	15		
53号土坑	N-13°-E	不整形	33	33-P-15	68	68	38		
54号土坑	N-58°-W	隅丸方形	33	33-P-15	46	38	28		
55号土坑	N-0°	円形	33	33-P-15	28	28	40		
56号土坑	N-48°-E	円形	33	33-P-15	26	23	33		
57号土坑	N-7°-W	隅丸長方形	33	33-P-15	90	46	37		58号土坑と重複
58号土坑	N-25°-E	隅丸長方形	33	33-P-15	68	57	31		57号土坑と重複
59号土坑	N-2°-W	長円形	33	33-P-15	81	50	38		
60号土坑	N-34°-W	長円形	33	33-O-16	40	28	25		
61号土坑	N-18°-E	隅丸方形	33	33-P-16	25	23	30		
62号土坑	N-0°	円形	33	33-P-16	29	29	27		
63号土坑	N-26°-W	長円形	33	33-P-16	37	23	30		
64号土坑	N-2°-W	長円形	33	33-P-16	46	24	32		
65号土坑	N-74°-W	長円形	33	33-O-16	46	33	54		
66号土坑	N-20°-E	円形	33	33-O-17	29	28	54		

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
67号土坑	N-66°-W	隅丸方形	33	33-O-17	70	62	22		
68号土坑	N-66°-W	隅丸長方形	33	33-N-16	66	46	36		
69号土坑	N-0°	不整形	33	33-O-16	40	30	36		
70号土坑	N-57°-W	不整形	33	33-O-16	105	100	26		71号土坑と重複
71号土坑	N-56°-W	長円形	33	33-O-16	45	42	25		70号土坑と重複
72号土坑	N-87°-E	長円形	33	33-O-16	46	36	47		
73号土坑	N-86°-E	不整形	33	33-O-16	61	40	22		
74号土坑	N-79°-W	円形	33	33-O-16	25	20	29		
75号土坑	N-6°-W	隅丸方形	33	33-O-16	28	26	18		
76号土坑	N-9°-E	長円形	33	33-N-15	36	25	68		
77号土坑	N-87°-W	長円形	33	33-N-15	27	21	24		
78号土坑	N-85°-W	長円形	33	33-N-16	22	16	16		
79号土坑	N-15°-W	長円形	33	33-N-16	31	25	27		
80号土坑	N-10°-W	円形	33	33-N-15	28	25	19		
81号土坑	N-50°-W	長円形	33	33-N-15	29	21	24		
82号土坑	N-34°-W	円形	33	33-N-15	29	26	43		
83号土坑	N-14°-W	円形	33	33-N-15	38	24	22		
84号土坑	N-78°-W	長円形	33	33-N-15	20	13	21		85号土坑と重複
85号土坑	N-81°-W	不整形	33	33-N-15	70	44	44		84号土坑と重複
86号土坑	N-55°-W	円形	33	33-N-15	30	30	27		
87号土坑	N-32°-E	長円形	33	33-O-14	28	23	37		
88号土坑	N-62°-E	円形	33	33-O-14	32	29	15		
89号土坑	N-0°	円形	33	33-O-14	25	25	33		
90号土坑	N-0°	円形	33	33-O-14	23	23	16		
91号土坑	N-0°	円形	33	33-O-14	27	27	16		
92号土坑	N-72°-W	不整形	33	33-O-13	30	30	45		
93号土坑	N-64°-E	隅丸長方形	33	33-O-13	34	23	31		
94号土坑	N-10°-E	円形	33	33-O-13	31	24	30		
95号土坑	N-48°-W	円形	33	33-O-13	26	22	38		
96号土坑	N-0°	不整形	33	33-N-13	64	28	45		
97号土坑	N-42°-W	長円形	33	33-N-13	42	34	50		
98号土坑	N-54°-W	長円形	33	33-N-13	26	20	18		
99号土坑	N-0°	不整形	33	33-N-13	38	33	44		
100号土坑	N-90°	不整形	33	33-N-13	22	18	31		
101号土坑	N-55°-E	長円形	33	33-O-14	33	22	23		
102号土坑	N-80°-W	長円形	33	33-N-14	36	22	27		
103号土坑	N-46°-E	不整形	33	33-N-14	36	28	29		
104号土坑	N-81°-E	不整形	33	33-N-14	30	24	22		
105号土坑	N-40°-W	長円形	33	33-N-15	25	18	25		
106号土坑	N-20°-W	円形	33	33-N-15	49	47	13		
107号土坑	N-59°-E	隅丸方形	33	33-M-15	35	27	30		
108号土坑	N-6°-E	隅丸方形	33	33-M-15	25	20	23		
109号土坑	N-3°-E	長円形	33	33-M-15	32	23	52		
110号土坑	N-14°-W	円形	33	33-M-15	22	22	32		
111号土坑	N-70°-W	長円形	33	33-M-15	45	35	10		
112号土坑	N-66°-E	長円形	33	33-M-14	68	36	27		
113号土坑	N-9°-E	不整形	33	33-M-14	22	18	15		
114号土坑	N-0°	円形	33	33-M-14	23	20	55		
115号土坑	N-20°-E	不整形	33	33-M-14	30	18	83		
116号土坑	N-0°	円形	33	33-M-14	28	26	32		
117号土坑	N-5°-W	隅丸方形	33	33-M-14	24	22	18		
118号土坑	N-20°-E	円形	33	33-M-14	24	22	21		
119号土坑	N-90°	長円形	33	33-M-14	58	44	19		
120号土坑	N-25°-E	不整形	33	33-L-14	22	16	40		
121号土坑	N-42°-W	不整形	33	33-L-14	22	20	24		
122号土坑	N-39°-E	長円形	33	33-L-14	62	36	26		
123号土坑	N-2°-W	隅丸方形	33	33-L-15	38	32	35		
124号土坑	N-22°-E	不整形	33	33-L-15	42	25	19		125号土坑と重複
125号土坑	N-8°-W	不整形	33	33-L-15	40	24	40		124号土坑と重複
126号土坑	N-1°-W	不整形	33	33-L-15	61	56	35		
127号土坑	N-33°-E	長円形	33	33-L-15	49	30	23		
128号土坑	N-15°-W	長円形	33	33-L-15	48	34	16		
129号土坑	N-79°-W	円形	33	33-L-15	33	27	38		
130号土坑	N-9°-W	長円形	33	33-K-15	42	30	20		
131号土坑	N-90°	隅丸方形	33	33-M-13	46	44	27		

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
132号土坑	N-42°-E	円形	33	33-K-12	36	34	16		
133号土坑	N-43°-E	長円形	33	33-K-12	50	35	17		
134号土坑	N-49°-W	長円形	33	33-K-12	41	28	81		
135号土坑	N-84°-W	長円形	33	33-K-11	44	42	35		
136号土坑	N-30°-W	円形	33	33-K-12	38	33	10		
137号土坑	N-43°-W	長円形	33	33-K-12	44	34	20		
138号土坑	N-71°-E	不整形	33	33-J-12	36	32	26		
139号土坑	N-43°-W	隅丸長方形	33	33-J-12	34	28	19		
140号土坑	N-0°	円形	33	33-J-11	32	30	70		
141号土坑	N-0°	円形	33	33-J-11	32	30	17		
142号土坑	N-38°-W	不整形	33	33-I-13	50	36	23		
143号土坑	N-38°-W	長円形	33	33-J-13	32	26	16		
144号土坑	N-7°-E	不整形	33	33-J-13	32	27	27		
145号土坑	N-33°-E	円形	33	33-J-13	26	23	17		
146号土坑	N-60°-E	長円形	33	33-J-13	40	36	18		
147号土坑	N-20°-W	長円形	33	33-I-13	32	24	25		
148号土坑	N-46°-W	不整形	33	33-J-13	43	30	42		
149号土坑	N-34°-W	長円形	33	33-J-13	30	20	25		
150号土坑	N-11°-W	長円形	33	33-J-13	70	50	29		
151号土坑	N-25°-E	不整形	33	33-J-13	49	36	27		
152号土坑	N-0°	円形	33	33-K-13	30	30	34		
153号土坑	N-46°-W	長円形	33	33-J-14	28	18	20		
154号土坑	N-54°-E	隅丸方形	33	33-J-14	20	18	12		
155号土坑	N-59°-E	円形	33	33-J-14	74	23	37		156号土坑と重複
156号土坑	N-0°	不整形	33	33-J-14	52	47	20		155号土坑と重複
157号土坑	N-46°-W	円形	33	33-J-14	30	30	38		158号土坑と重複
158号土坑	N-90°	長円形	33	33-J-14	32	26	15		157号土坑と重複
159号土坑	N-90°	不整形	33	33-I-14	80	72	14		
160号土坑	N-60°-W	長円形	33	33-I-14	46	33	17		
161号土坑	N-0°	不整形	33	33-I-14	(26)	28	17		162号土坑と重複
162号土坑	N-0°	不整形	33	33-I-14	26	26	21		161号土坑と重複
163号土坑	N-17°-E	長円形	33	33-I-14	93	48	37		
164号土坑	N-0°	長円形	33	33-H-14	38	28	18		
165号土坑	N-7°-W	円形	33	33-H-14	27	24	17		
166号土坑	N-49°-E	不整形	33	33-H-14	48	22	32		
167号土坑	N-39°-E	不整形	33	33-H-14	30	18	40		
168号土坑	N-39°-W	隅丸方形	33	33-H-14	26	23	20		
169号土坑	N-43°-E	不整形	33	33-Q-19	45	29	10		
170号土坑	N-33°-E	長円形	33	33-Q-19	44	35	15		
171号土坑	N-66°-W	長円形	33	33-Q-19	48	42	14		
172号土坑	N-46°-W	長円形	33	33-Q-19	94	46	18		
173号土坑	N-81°-W	不整形	33	33-Q-19	28	22	18		
174号土坑	N-70°-W	長円形	33	33-R-19	24	16	13		
175号土坑	N-71°-W	円形	33	33-Q-18	32	22	18		
176号土坑	N-66°-W	隅丸方形	33	33-Q-18	38	33	11		
177号土坑	N-17°-W	隅丸長方形	33	33-Q-18	46	34	19		
178号土坑	N-10°-W	円形	33	33-Q-17	28	25	31		
179号土坑	N-23°-W	隅丸方形	33	33-R-17	32	31	16		
180号土坑	N-13°-W	隅丸長方形	33	33-R-17	44	34	14		
181号土坑	N-69°-W	長円形	33	33-R-17	44	28	19		
182号土坑	N-82°-E	長円形	33	33-R-17	25	21	14		
183号土坑	N-42°-W	円形	33	33-R-17	25	24	44		
184号土坑	N-90°	長円形	33	33-R-16	26	21	52		
185号土坑	N-60°-W	円形	33	33-R-16	25	23	10		
186号土坑	N-10°-E	長円形	33	33-R-16	33	22	11		
187号土坑	N-57°-E	長円形	33	33-Q-17	29	21	10		
188号土坑	N-18°-E	隅丸方形	33	33-Q-17	42	35	12		
189号土坑	N-68°-W	長円形	33	33-Q-17	65	46	20		
190号土坑	N-58°-W	円形	33	33-P-17	23	21	18		
191号土坑	N-15°-E	円形	33	33-P-17	35	33	17		
192号土坑	N-90°	長円形	33	33-P-16	50	44	11		
193号土坑	N-33°-E	長円形	33	33-Q-16	49	38	16		
194号土坑	N-51°-E	長円形	33	33-Q-16	37	29	20		195号土坑と重複
195号土坑	N-68°-W	不整形	33	33-Q-16	34	(33)	29		194・196号土坑と重複
196号土坑	N-47°-W	不整形	33	33-Q-16	37	(30)	10		195・197・198号土坑と重複

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
197号土坑	N-50°-W	不整形	33	33-Q-16	32	27	12		196・198号土坑と重複
198号土坑	N-10°-W	円形	33	33-Q-16	29	26	12		196・197号土坑と重複
199号土坑	N-35°-W	長円形	33	33-Q-15	33	17	23		
200号土坑	N-73°-E	円形	33	33-Q-15	31	28	37		
201号土坑	N-48°-W	長円形	33	33-P-15	82	34	31		
202号土坑	N-62°-W	隅丸長方形	33	33-P-16	69	29	21		
203号土坑	N-86°-E	不整形	33	33-P-14	53	42	22		
204号土坑	N-80°-W	隅丸方形	33	33-P-14	37	35	14		
205号土坑	N-19°-W	長円形	33	33-O-14	45	29	13		
206号土坑	N-67°-W	不整形	33	33-N-13	26	20	25		
207号土坑	N-0°	不整形	33	33-M-14	36	32	17		
208号土坑	N-21°-W	円形	33	33-N-14	34	32	15		
209号土坑	N-31°-W	円形	33	33-N-15	37	34	10		266号土坑と重複
210号土坑	N-20°-W	長円形	33	33-N-15	46	38	15		
211号土坑	N-4°-E	不整形	33	33-N-16	76	46	23		
212号土坑	N-0°	長円形	33	33-P-16	44	29	23		
213号土坑	N-21°-E	長円形	33	33-O-17	52	45	21		
214号土坑	N-36°-E	長円形	33	33-O-17	47	40	21		
215号土坑	N-10°-W	長円形	33	33-O-17	57	40	30		
216号土坑	N-6°-E	隅丸長方形	33	33-M-15	45	22	40		
217号土坑	N-84°-E	長円形	33	33-L-15	25	21	26		
218号土坑	N-0°	長円形	33	33-L-16	37	32	20		
219号土坑	N-79°-W	円形	33	33-L-15	28	28	23		
220号土坑	N-67°-W	長円形	33	33-L-14	76	42	18		
221号土坑	N-90°	不整形	33	33-K-14	56	46	27		
222号土坑	N-90°	不整形	33	33-K-14	46	40	13		
223号土坑	N-0°	円形	33	33-L-13	32	32	8		
224号土坑	N-39°-E	長円形	33	33-L-12	30	22	21		
225号土坑	N-43°-W	長円形	33	33-L-12	36	31	17		
226号土坑	N-90°	円形	33	33-K-11	30	26	9		
227号土坑	N-65°-E	不整形	33	33-K-12	58	44	20		
228号土坑	N-60°-E	長円形	33	33-J-13	33	28	11		
229号土坑	N-63°-W	長円形	33	33-J-14	42	34	13		
230号土坑	N-90°	不整形	33	33-J-14	48	22	16		
231号土坑	N-29°-W	不整形	33	33-I-14	40	38	39		
232号土坑	N-13°-E	長円形	33	33-I-13	50	24	23		
233号土坑	N-15°-W	円形	33	33-I-13	43	38	17		
234号土坑	N-37°-W	長円形	33	33-I-13	30	22	33		
235号土坑	N-20°-W	長円形	33	33-I-13	43	34	27		
236号土坑	N-72°-E	隅丸方形	33	33-J-12	38	32	12		
237号土坑	N-0°	長円形	33	33-I-11	26	20	41		
238号土坑	N-16°-W	長円形	33	33-H-14	42	35	27		
239号土坑	N-86°-E	円形	33	33-H-13	40	38	19		
240号土坑	N-78°-E	隅丸方形	33	33-Q-16	27	24	48		
241号土坑	N-13°-E	円形	33	33-M-16	49	45	18		
242号土坑	N-82°-W	不整形	33	33-R-17	88	(71)	20		18号土坑と重複
243号土坑	N-52°-E	隅丸長方形	33	33-S-17	35	24	27		
244号土坑	N-73°-W	長円形	33	33-S-17	38	32	33		
245号土坑	N-63°-W	円形	33	33-S-18	40	35	47		
246号土坑	N-65°-W	長円形	33	33-Q-18	85	72	26		
247号土坑	N-64°-W	方形	33	33-Q-19	56	48	24		
248号土坑	N-28°-E	円形	33	33-P-18	69	63	35		
249号土坑	N-9°-E	長円形	33	33-R-16	59	42	57		
250号土坑	N-84°-W	隅丸長方形	33	33-R-15	54	35	18		
251号土坑	N-15°-W	隅丸方形	33	33-R-15	33	29	14		
252号土坑	N-57°-E	不整形	33	33-P-15	74	56	27		
253号土坑	N-90°	円形	33	33-P-16	49	49	69		
254号土坑	N-22°-W	隅丸方形	33	33-O-17	49	46	23		
255号土坑	N-51°-E	円形	33	33-O-16	27	23	25		
256号土坑	N-61°-W	長円形	33	33-N-14	108	80	27		
257号土坑	N-59°-W	長円形	33	33-O-13	106	50	39		
258号土坑	N-20°-W	長円形	33	33-M-14	40	32	14		
259号土坑	N-82°-W	長円形	33	33-M-15	48	32	21		
260号土坑	N-0°	円形	33	33-M-14	40	38	13		
261号土坑	N-39°-W	不整形	33	33-L-14	40	30	15		

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
262号土坑	N-41°-W	円形	33	33-K-14	48	45	25		
263号土坑	N-24°-W	円形	33	33-J-12	48	48	47		
264号土坑	N-13°-E	不整形	33	33-N-13	61	60	22		
265号土坑	N-62°-W	円形	33	33-N-13	52	50	21		
266号土坑	N-37°-E	長円形	33	33-N-15	50	38	32		209号土坑と重複
267号土坑	N-0°	円形	33	33-N-14	28	26	10		
268号土坑	N-0°	円形	33	33-N-13	32	31	14		
269号土坑	N-72°-W	不整形	33	33-N-12	94	76	23		
270号土坑	N-90°	不整形	33	33-M-13	77	76	20		
271号土坑	N-90°	円形	33	33-M-12	38	32	15		
272号土坑	N-90°	長円形	33	33-M-12	72	50	32		
273号土坑	N-72°-E	円形	33	33-M-12	44	40	71		
274号土坑	N-23°-E	不整形	33	33-J-12	46	33	23		
275号土坑	N-34°-W	不整形	33	33-K-12	106	98	69		
276号土坑	N-90°	不整形	33	33-K-11	40	34	15		
277号土坑	N-61°-E	長円形	33	33-K-11	42	30	10		
278号土坑	N-68°-E	不整形	33	33-J-11	36	30	22		
279号土坑	N-13°-W	円形	33	33-I-12	32	30	44		
280号土坑	N-37°-W	長円形	33	33-J-12	56	50	18		
281号土坑	N-50°-W	長円形	33	33-P-19	43	29	16		
282号土坑	N-5°-E	円形	33	33-P-19	43	42	17		
283号土坑	N-6°-E	長円形	33	33-P-18	53	43	15		
287号土坑	N-56°-W	長円形	33	33-N-13	32	24	20		
288号土坑	N-0°	不整形	33	33-N-14	38	36	59		
289号土坑	N-47°-E	長円形	33	33-M-13	42	36	19		
290号土坑	N-19°-E	円形	33	33-P-19	29	27	13		
291号土坑	N-43°-E	長円形	33	33-P-18	36	32	17		
292号土坑	N-86°-E	隅丸方形	33	33-P-18	26	22	20		293号土坑と重複
293号土坑	N-20°-E	不整形	33	33-P-18	47	43	28		292号土坑と重複
294号土坑	N-79°-W	円形	33	33-P-18	51	51	34		
295号土坑	N-18°-W	円形	33	33-P-18	29	29	17		
298号土坑	N-0°	長円形	33	33-N-14	22	18	19		
301号土坑	N-0°	円形	22	22-F-10	40	38	9		
302号土坑	N-32°-E	不整形	22	22-G-9	(60)	(42)	21		
303号土坑	N-80°-W	長円形	22	22-G-10	112	52	22		
304号土坑	N-55°-W	長円形	22	22-F-10	66	51	13		
305号土坑	N-15°-W	長円形	22	22-E-10	38	30	26		
306号土坑	N-45°-W	長円形	22	22-E-10	62	40	17		
307号土坑	N-50°-W	長円形	22	22-F-10	38	34	19		
308号土坑	N-25°-E	長円形	22	22-F-10	60	43	19		
309号土坑	N-66°-W	長円形	22	22-F-11	66	36	23		
310号土坑	N-45°-W	円形	22	22-E-11	42	42	22		
311号土坑	N-30°-W	隅丸方形	22	22-E-11	58	54	34		
312号土坑	N-30°-E	長円形	22	22-E-11	84	50	24		
313号土坑	N-82°-E	長円形	22	22-E-11	62	50	59		
314号土坑	N-21°-E	長円形	22	22-E-12	74	45	37		
315号土坑	N-15°-E	隅丸方形	22	22-F-11	50	40	5		
316号土坑	N-35°-E	長円形	22	22-G-11	50	41	20		
317号土坑	N-35°-E	不整形	22	22-G-11	43	33	31		318号土坑と重複
318号土坑	N-0°	不整形	22	22-G-11	(23)	(14)	11		317号土坑と重複
319号土坑	N-90°	長円形	22	22-G-12	36	21	9		
320号土坑	N-46°-E	長円形	22	22-G-12	72	42	26		
321号土坑	N-80°-E	隅丸方形	22	22-H-11	40	34	26		
322号土坑	N-45°-W	円形	22	22-H-12	41	36	21		
323号土坑	N-90°	不整形	22	22-F-12	50	(43)	20		324 A号土坑と重複
324A号土坑	N-20°-W	不整形	22	22-F-12	70	(60)	62		323・324 B・325号土坑と重複
324B号土坑	N-45°-W	長円形	22	22-F-12	36	18	43		324 A号土坑と重複
325号土坑	N-20°-W	不整形	22	22-F-12	(32)	48	18		324 A号土坑と重複
326号土坑	N-80°-W	不整形	22	22-F-12	50	33	42		
327号土坑	N-30°-W	円形	22	22-E-12	48	43	28		
328号土坑	N-85°-E	長円形	22	22-D-12	50	28	14		
329号土坑	N-40°-W	長円形	22	22-C-12	45	36	35		
330号土坑	N-90°	円形	22	22-C-13	40	38	17		
331号土坑	N-35°-W	円形	22	22-C-13	48	46	18		
332号土坑	N-80°-E	長円形	22	22-D-13	88	76	4		

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
333号土坑	N-20°-W	円形	22	22-D-13	37	32	15		
334号土坑	N-72°-W	不整形	22	22-D-13	104	86	33		
335号土坑	N-0°	円形	22	22-D-14	56	50	30		
336号土坑	N-90°	不整形	22	22-D-14	34	26	-		
337号土坑	N-65°-E	長円形	22	22-C-13	70	50	20		
338号土坑	N-0°	円形	22	22-C-14	34	30	28		
339号土坑	N-0°	円形	22	22-C-14	34	32	29		
340号土坑	N-50°-W	円形	22	22-B-14	32	32	34		1号溝と重複
341号土坑	N-10°-E	円形	22	22-C-14	28	26	60		
342号土坑	N-55°-W	隅丸方形	22	22-C-14	50	38	23		
343号土坑	N-60°-W	不整形	22	22-C-14	78	54	18		
344号土坑	N-30°-E	円形	22	22-C-14	42	36	27		
345号土坑	N-35°-E	円形	22	22-C-14	50	46	11		
346号土坑	N-25°-W	長円形	22	22-D-13	51	38	27		
347号土坑	N-45°-W	長円形	22	22-D-13	42	33	24		
348号土坑	N-40°-W	円形	22	22-D-14	29	28	49		
349号土坑	N-30°-W	円形	22	22-E-14	38	37	37		
350号土坑	N-50°-W	長円形	22	22-E-14	47	36	22		
351号土坑	N-70°-W	長円形	22	22-E-13	64	50	25		
352号土坑	N-90°	円形	22	22-E-12	48	42	15		
353号土坑	N-20°-E	長円形	22	22-F-13	55	34	26		
354号土坑	N-60°-E	長円形	22	22-F-13	60	38	10		
355号土坑	N-80°-E	長円形	22	22-G-13	56	44	18		
356号土坑	N-30°-E	長円形	22	22-G-13	38	23	9		357号土坑と重複
357号土坑	N-30°-W	円形	22	22-G-13	32	30	23		356号土坑と重複
358号土坑	N-16°-W	不整形	22	22-G-14	44	38	23		
359号土坑	N-21°-E	長円形	22	22-G-14	52	40	32		
360号土坑	N-25°-E	隅丸方形	22	22-H-13	30	30	78		
361号土坑	N-65°-W	隅丸方形	22	22-I-13	38	36	-		
362号土坑	N-50°-W	円形	22	22-I-14	43	44	17		
363号土坑	N-20°-W	円形	22	22-I-13	52	46	23		
364号土坑	N-30°-W	円形	22	22-J-13	46	44	21		
365号土坑	N-0°	長円形	22	22-J-13	68	44	18		
366号土坑	N-50°-W	長円形	22	22-J-13	104	72	17		
367号土坑	N-2°-E	隅丸方形	22	22-K-13	30	30	33		
368号土坑	N-6°-W	長円形	22	22-K-13	66	46	27		
369号土坑	N-60°-W	隅丸方形	22	22-K-14	45	43	28		
370号土坑	N-75°-W	長円形	22	22-K-14	42	23	17		
371号土坑	N-20°-E	隅丸長方形	22	22-K-15	68	58	20		
372号土坑	N-47°-E	不整形	22	22-L-15	191	82	71		
373号土坑	N-19°-E	円形	22	22-K-15	50	44	20		
374号土坑	N-75°-E	円形	22	22-K-15	34	32	17		
375号土坑	N-90°	長円形	22	22-J-15	131	112	48		376号土坑と重複
376号土坑	N-30°-E	円形	22	22-J-15	29	21	46		375号土坑と重複
377号土坑	N-0°	円形	22	22-J-15	21	21	25		
378号土坑	N-50°-W	不整形	22	22-J-15	42	(34)	16		379号土坑と重複
379号土坑	N-90°	不整形	22	22-J-15	98	79	44		378号土坑と重複
380号土坑	N-70°-E	不整形	22	22-I-15	40	39	20		
381号土坑	N-47°-W	長円形	22	22-G-15	74	58	17		
382号土坑	N-23°-E	長円形	22	22-F-15	73	64	38		
383号土坑	N-60°-W	長円形	22	22-F-15	70	64	24		
384号土坑	N-50°-E	円形	22	22-F-15	36	35	53		
385号土坑	N-90°	円形	22	22-F-15	45	44	23		
386号土坑	N-60°-E	隅丸長方形	22	22-E-14	44	39	18		
387号土坑	N-10°-W	長円形	22	22-E-15	72	50	58		
388号土坑	N-25°-W	長円形	22	22-E-15	45	34	16		
389号土坑	N-40°-E	円形	22	22-E-15	44	40	10		
390号土坑	N-75°-E	長円形	22	22-E-15	42	34	16		
391号土坑	N-28°-W	不整形	22	22-E-15	96	80	34		
392号土坑	N-15°-E	円形	22	22-E-15	34	30	12		
393号土坑	N-40°-W	長円形	22	22-E-15	50	40	22		
394号土坑	N-45°-W	長円形	22	22-E-15	60	43	22		
395号土坑	N-9°-E	長円形	22	22-E-16	65	62	10		
396号土坑	N-40°-E	長円形	22	22-E-16	98	78	25		
397号土坑	N-30°-W	長円形	22	22-E-16	80	68	27		

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
398号土坑	N-40°-E	長円形	22	22-E-16	42	32	16		
399号土坑	N-37°-W	長円形	22	22-E-16	86	48	29		
400号土坑	N-35°-W	長円形	22	22-E-16	46	38	14		
401号土坑	N-80°-E	長円形	22	22-E-16	70	54	21		
402号土坑	N-70°-W	長円形	22	22-E-16	70	58	16		
403号土坑	N-0°	円形	22	22-F-16	60	60	15		
404号土坑	N-5°-E	長円形	22	22-D-16	72	43	21		
405号土坑	N-20°-E	長円形	22	22-E-16	60	40	14		
406号土坑	N-59°-W	長円形	22	22-D-16	74	48	19		
407号土坑	N-45°-W	長円形	22	22-D-15	48	38	20		
408号土坑	N-0°	隅丸長方形	22	22-D-15	50	38	21		
409号土坑	N-90°	長円形	22	22-F-9	70	62	29		
410号土坑	N-0°	円形	22	22-F-9	42	42	8		
411号土坑	N-55°-W	円形	22	22-D-15	44	42	12		
412号土坑	N-90°	円形	22	22-D-16	32	30	15		
413号土坑	N-40°-E	円形	22	22-D-16	52	48	12		
414号土坑	N-65°-W	円形	22	22-C-16	56	54	19		
415号土坑	N-50°-E	円形	22	22-C-15	60	56	19		
416号土坑	N-50°-E	隅丸方形	22	22-C-15	44	38	18		
417号土坑	N-40°-E	長円形	22	22-D-15	60	42	23		
418号土坑	N-40°-W	長円形	22	22-C-15	50	36	16		
419号土坑	N-27°-E	長円形	22	22-B-15	36	24	29		420号土坑と重複
420号土坑	N-30°-E	不整形	22	22-B-15	(14)	30	14		419号土坑と重複
421号土坑	N-18°-W	長円形	22	22-B-15	40	33	14		
422号土坑	N-30°-W	長円形	22	22-B-15	50	40	15		
423号土坑	N-85°-W	円形	22	22-C-15	52	48	9		
424号土坑	N-20°-E	円形	22	22-C-16	54	48	9		
425号土坑	N-15°-E	長円形	22	22-C-16	40	32	9		
426号土坑	N-15°-E	隅丸方形	22	22-B-16	78	70	26		
427号土坑	N-45°-E	長円形	22	22-B-16	72	46	26		
428号土坑	N-2°-E	長円形	22	22-B-16	60	52	23		
429号土坑	N-32°-E	長円形	22	22-C-16	67	44	9		
430号土坑	N-35°-W	円形	22	22-D-17	56	52	18		
431号土坑	N-80°-E	長円形	22	22-D-17	53	38	27		
432号土坑	N-25°-W	長円形	22	22-E-17	70	53	22		
433号土坑	N-7°-E	円形	22	22-D-18	34	30	21		
434号土坑	N-90°	不整形	22	22-D-18	68	56	16		
435号土坑	N-35°-E	長円形	22	22-D-18	90	40	41		
436号土坑	N-65°-W	長円形	22	22-C-18	46	38	22		
437号土坑	N-45°-E	長円形	22	22-C-18	54	48	77		
438号土坑	N-35°-W	円形	22	22-B-17	34	34	13		
439号土坑	N-35°-W	円形	21	21-T-16	46	44	23		
440号土坑	N-90°	長円形	21	21-T-16	59	40	27		
441号土坑	N-50°-E	長円形	21	21-T-16	58	40	33		
442号土坑	N-33°-E	不整形	21	21-T-16	42	30	22		
443号土坑	N-30°-E	不整形	22	22-F-16	(50)	36	22		444号土坑と重複
444号土坑	N-50°-W	隅丸長方形	22	22-F-16	126	88	47		443号土坑と重複
445号土坑	N-25°-W	隅丸方形	22	22-F-16	56	56	28		
446号土坑	N-30°-E	長円形	22	22-F-16	84	72	23		
447号土坑	N-42°-W	隅丸長方形	22	22-F-16	70	54	15		
448号土坑	N-3°-W	長円形	22	22-G-16	93	74	11		
449号土坑	N-50°-E	円形	22	22-G-16	43	42	17		
450号土坑	N-43°-E	隅丸長方形	22	22-G-17	85	68	23		
451号土坑	N-15°-E	円形	22	22-G-16	32	32	16		
452号土坑	N-50°-W	不整形	22	22-I-11	109	(65)	21		453号土坑と重複
453号土坑	N-5°-W	長円形	22	22-I-11	(60)	38	17		452号土坑と重複
454号土坑	N-50°-W	円形	22	22-E-13	34	30	9		
455号土坑	N-35°-W	円形	22	22-E-14	104	97	19		1号住居と重複
456号土坑	N-90°	長円形	33	33-P-12	154	143	67		
457号土坑	N-82°-W	長円形	33	33-L-11	97	76	10		704号土坑と重複
458号土坑	N-83°-W	不整形	33	33-K-8	(122)	112	34		464・465号土坑と重複
459号土坑	N-18°-W	長円形	33	33-L-10	44	34	15		733号土坑と重複
460号土坑	N-85°-W	長円形	33	33-K-10	43	26	18		
461号土坑	N-36°-E	円形	33	33-M-9	77	74	20		
462号土坑	N-47°-E	円形	33	33-M-9	90	90	12		

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
463号土坑	N-10°-E	長円形	33	33-L-8	115	96	26		
464号土坑	N-84°-E	不整形	33	33-K-8	80	78	41		458・465号土坑と重複
465号土坑	N-55°-E	不整形	33	33-K-8	52	40	27		458・464号土坑と重複
466号土坑	N-46°-W	不整形	33	33-S-11	94	(68)	48		
468号土坑	N-10°-W	隅丸方形	34	34-A-16	40	40	20		
469号土坑	N-58°-W	円形	34	34-A-16	27	23	11		
470号土坑	N-43°-W	不整形	34	34-A-16	40	34	23		
471号土坑	N-40°-W	隅丸長方形	34	34-A-16	52	32	17		594号土坑と重複
472号土坑	N-68°-E	隅丸長方形	34	34-A-15	42	42	12		
473号土坑	N-13°-E	長円形	34	34-B-15	26	22	8		
474号土坑	N-53°-W	不整形	34	34-B-15	56	30	10		
475号土坑	N-0°	円形	33	33-T-15	42	38	16		
476号土坑	N-60°-W	円形	33	33-T-15	38	38	14		593号土坑と重複
477号土坑	N-18°-W	長円形	34	34-A-15	48	32	10		595号土坑と重複
478号土坑	N-62°-W	不整形	34	34-A-15	43	27	9		
479号土坑	N-47°-W	長円形	34	34-A-15	31	24	18		
480号土坑	N-55°-W	隅丸方形	34	34-A-15	(37)	36	10		596号土坑と重複
481号土坑	N-53°-W	円形	33	33-T-15	25	23	49		
482号土坑	N-43°-W	長円形	33	33-T-15	29	21	7		
483号土坑	N-60°-E	円形	33	33-T-15	31	30	15		
484号土坑	N-72°-E	円形	33	33-T-15	29	28	16		
485号土坑	N-77°-E	不整形	34	34-A-14	41	34	40		
486号土坑	N-23°-E	不整形	34	34-B-14	103	66	57		
487号土坑	N-44°-E	円形	34	34-A-14	31	27	11		
488号土坑	N-45°-E	円形	34	34-A-14	26	22	9		
489号土坑	N-90°	長円形	34	34-A-14	40	37	19		
490号土坑	N-31°-W	円形	33	33-T-14	32	29	55		
491号土坑	N-44°-W	円形	33	33-T-13	30	30	53		
492号土坑	N-66°-W	長円形	33	33-T-14	60	28	32		
493号土坑	N-70°-W	長円形	33	33-S-14	29	23	22		
494号土坑	N-50°-W	長円形	33	33-S-14	44	35	34		
495号土坑	N-34°-W	円形	33	33-S-15	22	19	30		
496号土坑	N-40°-W	長円形	33	33-S-14	36	25	13		
497号土坑	N-21°-E	円形	33	33-R-15	26	23	39		
498号土坑	N-60°-E	長円形	33	33-S-14	90	55	34		
499号土坑	N-76°-E	円形	33	33-S-14	26	23	22		
500号土坑	N-13°-W	長円形	33	33-S-14	74	43	34		
501号土坑	N-18°-W	長円形	33	33-S-13	40	26	9		
502号土坑	N-77°-W	長円形	33	33-T-13	28	26	41		
503号土坑	N-57°-W	円形	33	33-R-15	27	25	65		
504号土坑	N-60°-W	円形	33	33-R-14	28	24	20		
505号土坑	N-35°-W	円形	33	33-R-14	26	22	13		
506号土坑	N-55°-W	不整形	33	33-R-14	83	62	23		
507号土坑	N-18°-W	長円形	33	33-Q-14	31	22	46		
508号土坑	N-0°	円形	33	33-R-14	27	27	9		
509号土坑	N-44°-W	隅丸方形	33	33-R-13	50	26	9		
510号土坑	N-6°-W	長円形	33	33-R-13	48	40	24		
511号土坑	N-12°-E	長円形	33	33-R-13	59	46	12		
512号土坑	N-60°-W	長円形	33	33-R-13	37	31	25		
513号土坑	N-40°-W	円形	33	33-S-12	28	26	12		
514号土坑	N-40°-E	円形	33	33-R-12	24	20	14		
515号土坑	N-41°-E	不整形	33	33-R-13	44	38	21		
516号土坑	N-21°-E	不整形	33	33-R-12	52	40	18		
517号土坑	N-8°-W	隅丸方形	33	33-R-12	28	26	1		
518号土坑	N-47°-W	長円形	33	33-Q-13	71	64	25		
519号土坑	N-12°-W	長円形	33	33-Q-13	28	23	16		
520号土坑	N-58°-E	隅丸長方形	33	33-P-14	43	30	40		
521号土坑	N-35°-W	不整形	33	33-P-13	36	32	19		585号土坑と重複
522号土坑	N-62°-W	長円形	33	33-P-13	25	20	14		
523号土坑	N-49°-W	円形	33	33-P-13	38	36	58		
524号土坑	N-33°-E	長円形	33	33-Q-13	65	47	13		
525号土坑	N-40°-W	長円形	33	33-Q-13	31	23	51		
526号土坑	N-42°-W	円形	33	33-P-13	36	32	15		
527号土坑	N-3°-W	長円形	33	33-Q-12	52	40	23		
528号土坑	N-30°-W	長円形	33	33-Q-12	42	30	14		

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
529号土坑	N-10°-E	長円形	33	33-Q-12	60	32	19		
530号土坑	N-39°-E	不整形	33	33-Q-12	48	24	21		
531号土坑	N-65°-W	隅丸方形	33	33-Q-12	26	24	71		
532号土坑	N-62°-E	長円形	33	33-Q-12	52	24	22		586号土坑と重複
533号土坑	N-30°-E	隅丸長方形	33	33-P-12	40	26	9		
534号土坑	N-90°	長円形	33	33-P-12	38	23	12		
535号土坑	N-42°-W	円形	33	33-P-12	42	37	13		
536号土坑	N-42°-W	長円形	33	33-P-13	40	34	11		537号土坑と重複
537号土坑	N-65°-W	長円形	33	33-P-13	31	24	7		536号土坑と重複
538号土坑	N-11°-W	不整形	33	33-P-12	(44)	52	28		587号土坑と重複
539号土坑	N-34°-E	長円形	33	33-P-12	46	34	28		
540号土坑	N-24°-E	長円形	33	33-P-12	44	38	17		
541号土坑	N-90°	円形	33	33-P-12	50	44	17		
542号土坑	N-60°-W	長円形	33	33-O-12	62	44	23		
543号土坑	N-18°-E	長円形	33	33-R-13	30	25	13		
544号土坑	N-35°-W	長円形	33	33-O-13	19	16	19		
545号土坑	N-65°-W	不整形	33	33-O-13	23	11	14		
546号土坑	N-50°-W	円形	33	33-O-13	24	22	21		
547号土坑	N-85°-W	円形	33	33-O-13	28	26	23		
548号土坑	N-0°	円形	33	33-O-12	24	22	30		
549号土坑	N-30°-W	不整形	33	33-O-12	24	23	17		
550号土坑	N-47°-W	円形	33	33-O-12	13	12	16		
551号土坑	N-15°-E	不整形	33	33-O-12	24	23	33		
552号土坑	N-23°-E	不整形	33	33-O-12	26	22	19		
553号土坑	N-40°-E	不整形	33	33-O-12	23	16	18		
554号土坑	N-90°	不整形	33	33-N-12	32	30	11		
555号土坑	N-37°-E	隅丸方形	33	33-O-12	23	22	11		
556号土坑	N-0°	円形	33	33-O-12	116	122	13		
557号土坑	N-16°-W	円形	33	33-O-11	24	24	16		
558号土坑	N-30°-E	長円形	33	33-O-11	28	22	33		
559号土坑	N-29°-E	円形	33	33-O-11	34	34	25		
560号土坑	N-58°-E	長円形	33	33-O-11	(18)	22	10		588号土坑と重複
561号土坑	N-63°-E	円形	33	33-O-11	28	25	27		
562号土坑	N-31°-E	不整形	33	33-P-11	(38)	32	23		564号土坑と重複
563号土坑	N-76°-E	長円形	33	33-P-11	34	24	41		
564号土坑	N-57°-W	不整形	33	33-P-11	46	26	12		562号土坑と重複
565号土坑	N-0°	円形	33	33-O-11	40	36	6		
566号土坑	N-0°	円形	33	33-P-11	29	29	21		
567号土坑	N-28°-E	隅丸方形	33	33-O-11	32	30	46		
568号土坑	N-34°-W	不整形	33	33-O-11	44	34	15		
569号土坑	N-35°-E	長円形	33	33-O-11	52	34	7		589号土坑と重複
571号土坑	N-83°-W	長円形	33	33-N-12	80	62	20		
572号土坑	N-90°	円形	33	33-N-12	38	36	20		
573号土坑	N-90°	隅丸方形	33	33-N-12	112	106	34		
574号土坑	N-90°	長円形	33	33-N-12	28	22	32		
575号土坑	N-0°	長円形	33	33-O-11	26	22	33		
576号土坑	N-0°	隅丸方形	33	33-O-11	36	36	33		590号土坑と重複
577号土坑	N-15°-W	円形	33	33-N-11	32	30	15		
578号土坑	N-72°-E	円形	33	33-O-11	28	24	34		
579号土坑	N-60°-E	不整形	33	33-N-11	26	22	27		
580号土坑	N-59°-E	円形	33	33-N-11	21	20	41		
581号土坑	N-52°-E	円形	33	33-M-12	32	30	14		
582号土坑	N-18°-E	長円形	33	33-M-11	92	80	26		
583号土坑	N-0°	円形	33	33-N-12	18	18	29		
584号土坑	N-90°	長円形	33	33-O-12	32	22	6		
585号土坑	N-66°-W	不整形	33	33-P-13	36	20	19		521号土坑と重複
586号土坑	N-46°-E	隅丸方形	33	33-Q-12	32	30	22		532号土坑と重複
587号土坑	N-90°	長円形	33	33-P-12	42	22	18		538号土坑と重複
588号土坑	N-48°-W	長円形	33	33-O-11	32	16	17		560号土坑と重複
589号土坑	N-16°-E	長円形	33	33-O-11	64	46	15		569号土坑と重複
590号土坑	N-0°	隅丸方形	33	33-O-11	22	18	25		576号土坑と重複
591号土坑	N-45°-E	長円形	33	33-R-12	68	48	9		
592号土坑	N-36°-W	不整形	33	33-Q-12	113	96	14		
593号土坑	N-4°-W	長円形	33	33-T-15	74	50	28		476号土坑と重複
594号土坑	N-72°-W	長円形	34	34-A-15	50	32	22		471号土坑と重複

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
595号土坑	N-14°-E	円形	34	34-A-15	34	31	11		477号土坑と重複
596号土坑	N-55°-W	長円形	34	34-A-15	46	35	17		480号土坑と重複
597号土坑	N-85°-W	不整形	34	34-C-12	66	56	32		
598号土坑	N-40°-E	不整形	34	34-C-12	66	56	24		
599号土坑	N-32°-E	長円形	34	34-B-12	101	86	15		
600号土坑	N-75°-W	不整形	34	34-B-12	35	22	23		
601号土坑	N-65°-W	長円形	34	34-A-12	29	21	30		
602号土坑	N-20°-E	隅丸方形	34	34-A-12	40	40	19		
603号土坑	N-69°-E	長円形	34	34-A-12	62	33	20		
604号土坑	N-20°-E	不整形	33	33-T-12	44	38	15		
605号土坑	N-41°-W	隅丸長方形	33	33-T-12	41	36	17		
606号土坑	N-0°	円形	33	33-S-12	38	37	22		
607号土坑	N-82°-W	長円形	33	33-R-12	32	20	10		
608号土坑	N-34°-W	不整形	33	33-R-12	44	40	11		
609号土坑	N-0°	隅丸方形	33	33-S-11	32	28	14		
610号土坑	N-90°	円形	33	33-R-11	32	30	19		
611号土坑	N-22°-W	長円形	33	33-R-11	31	25	11		
612号土坑	N-53°-E	不整形	33	33-S-11	107	76	38		
613号土坑	N-45°-W	不整形	33	33-S-10	64	48	18		
614号土坑	N-30°-E	隅丸方形	33	33-S-10	38	38	14		
615号土坑	N-90°	隅丸方形	33	33-S-10	44	40	13		
616号土坑	N-18°-E	隅丸方形	33	33-R-10	30	26	20		
617号土坑	N-74°-E	長円形	33	33-R-10	40	29	10		
618号土坑	N-80°-E	長円形	33	33-R-10	26	19	29		
619号土坑	N-0°	円形	33	33-R-10	26	26	8		
620号土坑	N-70°-E	長円形	33	33-R-10	30	24	30		
621号土坑	N-0°	円形	33	33-R-10	28	26	6		
622号土坑	N-51°-W	長円形	33	33-R-10	34	26	12		
623号土坑	N-64°-W	長円形	33	33-R-10	44	34	13		
624号土坑	N-62°-E	長円形	33	33-R-10	28	22	6		
625号土坑	N-59°-W	長円形	33	33-Q-10	42	30	7		
626号土坑	N-90°	隅丸方形	33	33-Q-10	40	38	19		
627号土坑	N-90°	長円形	33	33-P-11	40	34	9		
628号土坑	N-30°-E	不整形	33	33-P-11	37	34	15		
629号土坑	N-90°	不整形	33	33-P-11	94	56	42		
630号土坑	N-10°-E	長円形	33	33-P-11	40	27	15		
631号土坑	N-66°-W	長円形	33	33-P-11	37	30	15		
632号土坑	N-64°-E	不整形	33	33-P-11	60	38	16		
633号土坑	N-0°	円形	33	33-Q-11	36	32	21		
634号土坑	N-77°-W	長円形	33	33-P-11	66	38	23		
635号土坑	N-90°	円形	33	33-P-11	52	50	14		
636号土坑	N-17°-W	長円形	33	33-Q-11	68	44	19		
637号土坑	N-0°	不整形	33	33-P-10	66	46	10		638号土坑と重複
638号土坑	N-90°	長円形	33	33-P-10	60	36	15		637号土坑と重複
639号土坑	N-32°-W	隅丸方形	33	33-Q-10	38	38	22		
640号土坑	N-40°-E	長円形	33	33-Q-10	34	29	11		
641号土坑	N-6°-E	不整形	33	33-P-10	52	48	44		
642号土坑	N-90°	長円形	33	33-P-10	44	36	8		
643号土坑	N-5°-W	円形	33	33-P-10	42	42	22		
644号土坑	N-90°	長円形	33	33-P-10	32	24	30		645号土坑と重複
645号土坑	N-52°-E	不整形	33	33-P-10	(24)	30	8		644号土坑と重複
646号土坑	N-66°-E	不整形	33	33-P-10	48	45	15		
647号土坑	N-0°	長円形	33	33-P-10	34	30	43		
648号土坑	N-32°-W	隅丸長方形	33	33-P-10	30	24	31		
649号土坑	N-31°-E	長円形	33	33-P-10	34	28	25		
650号土坑	N-0°	不整形	33	33-P-9	43	30	13		
651号土坑	N-10°-W	長円形	33	33-O-10	56	38	13		
652号土坑	N-17°-E	隅丸方形	33	33-O-10	32	26	24		
653号土坑	N-75°-W	円形	33	33-O-10	26	24	18		
654号土坑	N-62°-E	円形	33	33-O-10	35	33	86		
655号土坑	N-0°	長円形	33	33-O-10	42	37	17		
656号土坑	N-0°	長円形	33	33-O-9	42	32	16		
657号土坑	N-21°-E	不整形	33	33-O-9	28	26	23		
658号土坑	N-68°-W	隅丸長方形	33	33-O-9	92	56	18		
659号土坑	N-5°-W	隅丸方形	33	33-P-9	33	30	8		

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
660号土坑	N-0°	円形	33	33-N-9	32	30	27		
661号土坑	N-15°-W	円形	33	33-O-9	30	26	7		
662号土坑	N-37°-W	円形	33	33-O-9	32	28	31		
663号土坑	N-24°-W	長円形	33	33-O-8	39	33	27		
664号土坑	N-26°-W	長円形	33	33-O-8	32	24	28		
665号土坑	N-0°	円形	33	33-N-10	30	30	8		
666号土坑	N-18°-E	隅丸長方形	33	33-P-10	22	16	29		
667号土坑	N-0°	円形	33	33-N-9	26	26	9		
668号土坑	N-39°-E	円形	33	33-N-8	32	29	12		
669号土坑	N-67°-E	長円形	33	33-O-8	87	64	35		
670号土坑	N-0°	円形	33	33-O-8	38	34	18		
671号土坑	N-90°	隅丸方形	33	33-N-8	32	28	14		
672号土坑	N-19°-W	隅丸方形	33	33-M-9	34	34	23		
673号土坑	N-0°	隅丸長方形	33	33-N-9	43	33	14		
674号土坑	N-62°-W	長円形	33	33-N-9	50	37	31		
675号土坑	N-22°-E	円形	33	33-N-9	30	29	24		
676号土坑	N-67°-W	長円形	33	33-N-9	42	38	28		
677号土坑	N-73°-E	隅丸方形	33	33-N-9	36	30	30		
678号土坑	N-19°-E	隅丸方形	33	33-N-8	34	30	23		
679号土坑	N-0°	長円形	33	33-N-8	30	18	31		
680号土坑	N-0°	円形	33	33-N-8	26	26	15		
681号土坑	N-62°-W	長円形	33	33-M-9	42	36	8		
682号土坑	N-79°-E	長円形	33	33-M-9	62	42	55		
683号土坑	N-90°	円形	33	33-M-9	22	20	5		
684号土坑	N-0°	円形	33	33-N-8	32	30	16		
685号土坑	N-0°	円形	33	33-N-8	30	30	12		
686号土坑	N-0°	円形	33	33-M-8	40	38	13		
687号土坑	N-40°-E	隅丸方形	33	33-N-8	44	44	69		
688号土坑	N-0°	不整形	33	33-N-8	28	24	11		
689号土坑	N-14°-W	不整形	33	33-N-9	22	20	9		
690号土坑	N-57°-W	不整形	33	33-N-7	36	(27)	16		
691号土坑	N-0°	長円形	33	33-M-11	44	33	13		
692号土坑	N-0°	円形	33	33-M-10	30	30	11		
693号土坑	N-47°-W	円形	33	33-M-10	30	29	9		
694号土坑	N-52°-W	隅丸方形	33	33-M-10	26	26	10		
695号土坑	N-29°-E	長円形	33	33-M-10	34	28	16		
696号土坑	N-32°-W	長円形	33	33-M-10	44	34	17		
697号土坑	N-25°-E	長円形	33	33-N-10	36	30	19		
698号土坑	N-53°-E	隅丸方形	33	33-N-10	40	32	19		
699号土坑	N-40°-E	不整形	33	33-N-10	73	56	-		
700号土坑	N-11°-E	長円形	33	33-L-12	46	26	20		
701号土坑	N-75°-W	長円形	33	33-M-11	46	34	12		
702号土坑	N-0°	長円形	33	33-L-11	30	24	13		
703号土坑	N-0°	円形	33	33-L-11	28	24	15		
704号土坑	N-56°-W	長円形	33	33-L-11	45	29	20		457号土坑と重複
705号土坑	N-26°-W	長円形	33	33-M-10	26	20	15		
706号土坑	N-30°-W	長円形	33	33-M-10	36	28	16		
707号土坑	N-29°-W	長円形	33	33-M-9	36	30	21		
708号土坑	N-26°-W	長円形	33	33-L-9	52	38	23		
709号土坑	N-60°-W	円形	33	33-L-9	34	29	12		
710号土坑	N-5°-E	長円形	33	33-M-8	46	30	8		
711号土坑	N-21°-E	円形	33	33-M-8	30	28	8		
712号土坑	N-0°	長円形	33	33-M-7	45	30	73		
713号土坑	N-26°-E	円形	33	33-L-8	28	26	10		
714号土坑	N-20°-E	隅丸方形	33	33-L-7	38	33	22		
715号土坑	N-90°	円形	33	33-K-7	32	28	9		
716号土坑	N-90°	円形	33	33-K-8	20	19	7		
717号土坑	N-0°	円形	33	33-K-7	28	27	11		
718号土坑	N-53°-W	長円形	33	33-K-7	30	22	8		
719号土坑	N-32°-E	長円形	33	33-O-8	54	45	26		
720号土坑	N-10°-E	隅丸方形	33	33-N-9	36	36	14		
721号土坑	N-66°-E	長円形	33	33-M-9	34	28	10		
722号土坑	N-43°-W	長円形	33	33-L-11	54	41	16		
723号土坑	N-0°	円形	33	33-L-11	26	24	8		
724号土坑	N-20°-E	不整形	33	33-K-11	70	44	34		

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
725号土坑	N-90°	円形	33	33-K-11	27	26	22		
726号土坑	N-90°	不整形	33	33-K-11	38	26	13		727号土坑と重複
727号土坑	N-45°-E	不整形	33	33-K-11	32	22	15		726号土坑と重複
728号土坑	N-34°-W	不整形	33	33-L-9	28	27	7		
729号土坑	N-0°	円形	33	33-L-8	23	22	9		
730号土坑	N-7°-W	不整形	33	33-Q-9	(138)	152	69		
731号土坑	N-60°-E	不整形	33	33-P-9	40	38	12		
732号土坑	N-30°-W	円形	33	33-L-10	43	40	16		
733号土坑	N-77°-E	長円形	33	33-L-10	68	38	26		459号土坑と重複
734号土坑	N-50°-W	長円形	33	33-K-9	50	42	19		
735号土坑	N-49°-W	円形	33	33-K-9	24	22	9		
736号土坑	N-25°-W	長円形	33	33-L-10	54	30	14		
737号土坑	N-52°-E	不整形	33	33-J-9	30	28	9		
738号土坑	N-13°-E	長円形	33	33-J-10	70	32	14		
739号土坑	N-48°-E	長円形	33	33-J-9	36	30	16		
740号土坑	N-0°	円形	33	33-K-8	27	26	37		
741号土坑	N-30°-E	隅丸方形	33	33-O-12	22	20	22		570号土坑と重複
742号土坑	N-55°-E	隅丸方形	22	22-I-18	24	18	28		
743号土坑	N-0°	円形	22	22-I-19	40	39	44		
744号土坑	N-90°	長円形	22	22-I-19	36	26	31		
745号土坑	N-35°-E	隅丸長方形	22	22-I-19	34	26	25		
746号土坑	N-90°	円形	22	22-I-19	30	26	25		
747号土坑	N-60°-E	円形	22	22-I-19	42	36	20		
748号土坑	N-55°-W	隅丸方形	22	22-I-19	24	22	23		
749号土坑	N-0°	円形	22	22-I-19	32	31	24		
750号土坑	N-90°	円形	22	22-I-19	30	28	25		
751号土坑	N-27°-E	円形	22	22-I-19	36	34	24		
752号土坑	N-22°-W	長円形	22	22-I-19	54	28	30		
753号土坑	N-14°-W	長円形	22	22-H-19	22	18	30		
754号土坑	N-0°	円形	22	22-H-19	23	23	17		
755号土坑	N-90°	円形	22	22-H-19	22	18	11		
756号土坑	N-75°-E	隅丸方形	22	22-H-19	22	18	25		
757号土坑	N-25°-W	不整形	22	22-I-19	23	22	17		
758号土坑	N-90°	円形	22	22-H-19	39	36	13		
759号土坑	N-75°-W	長円形	22	22-H-19	38	32	18		
760号土坑	N-90°	隅丸長方形	22	22-H-19	44	36	9		
761号土坑	N-50°-E	長円形	22	22-H-19	26	22	9		
762号土坑	N-75°-W	円形	22	22-H-18	44	38	10		
763号土坑	N-0°	円形	22	22-N-20	26	24	10		
764号土坑	N-17°-W	不整形	22	22-O-18	32	30	19		
765号土坑	N-0°	円形	22	22-O-18	36	34	32		
766号土坑	N-35°-E	隅丸方形	22	22-O-17	26	22	8		
767号土坑	N-53°-W	長円形	22	22-N-17	116	54	35		768号土坑と重複
768号土坑	N-40°-E	不整形	22	22-N-17	110	80	31		767号土坑と重複
769号土坑	N-60°-W	円形	22	22-N-17	43	40	16		
770号土坑	N-90°	不整形	22	22-M-16	38	30	20		
771号土坑	N-90°	円形	22	22-M-17	40	38	19		
772号土坑	N-50°-E	不整形	22	22-L-16	(30)	48	78		
773号土坑	N-18°-E	不整形	22	22-L-17	33	(28)	14		
774号土坑	N-80°-W	長円形	22	22-L-17	40	30	27		
775号土坑	N-90°	長円形	22	22-L-17	54	44	18		
776号土坑	N-15°-W	円形	22	22-L-17	24	20	29		
777号土坑	N-56°-W	長円形	22	22-L-17	56	48	16		
778号土坑	N-45°-W	長円形	22	22-M-17	34	26	23		
779号土坑	N-30°-E	円形	22	22-L-18	36	35	69		
780号土坑	N-35°-W	円形	22	22-L-18	30	28	55		
781号土坑	N-90°	円形	22	22-N-18	60	56	31		
782号土坑	N-82°-W	長円形	22	22-N-18	117	44	23		
783号土坑	N-48°-W	長円形	22	22-N-19	35	24	23		
784号土坑	N-0°	円形	22	22-N-20	24	24	20		
785号土坑	N-0°	円形	22	22-N-20	22	22	24		
786号土坑	N-14°-E	長円形	22	22-M-20	29	23	41		
787号土坑	N-50°-E	円形	22	22-M-19	20	20	22		
788号土坑	N-30°-E	長円形	22	22-N-18	38	26	60		
789号土坑	N-28°-W	長円形	22	22-M-19	28	20	41		

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
790号土坑	N-0°	長円形	22	22-M-19	32	18	20		
791号土坑	N-47°-E	長円形	22	22-L-19	57	44	-		
792号土坑	N-40°-W	長円形	22	22-L-18	42	32	21		
793号土坑	N-18°-W	円形	22	22-L-18	26	26	13		
794号土坑	N-10°-E	長円形	22	22-K-18	98	78	22		
795号土坑	N-45°-W	長円形	22	22-K-19	32	26	12		
796号土坑	N-10°-E	円形	22	22-M-20	26	22	17		
797号土坑	N-0°	円形	32	32-L-1	28	28	19		
798号土坑	N-11°-W	円形	32	32-L-1	39	36	40		
799号土坑	N-71°-W	円形	32	32-L-1	27	24	40		
800号土坑	N-90°	円形	32	32-L-1	22	20	14		
801号土坑	N-68°-W	円形	32	32-M-2	38	34	36		
802号土坑	N-17°-W	円形	32	32-M-2	34	32	39		
803号土坑	N-84°-W	隅丸方形	32	32-K-2	62	58	24		
804号土坑	N-23°-E	長円形	32	32-K-2	83	58	20		
805号土坑	N-72°-W	長円形	32	32-K-2	29	23	32		
806号土坑	N-28°-E	円形	32	32-K-1	34	28	16		
807号土坑	N-74°-W	円形	22	22-K-20	37	32	27		
808号土坑	N-90°	長円形	22	22-J-19	34	28	33		
809号土坑	N-30°-E	隅丸方形	22	22-J-19	28	24	33		
810号土坑	N-12°-W	円形	22	22-J-19	32	30	22		
811号土坑	N-50°-E	不整形	22	22-J-20	74	44	25		
812号土坑	N-90°	長円形	22	22-J-20	27	21	16		
813号土坑	N-50°-E	円形	22	22-J-20	22	20	27		
814号土坑	N-90°	円形	22	22-I-20	24	23	33		
815号土坑	N-43°-W	円形	22	22-I-19	32	30	16		
816号土坑	N-21°-W	不整形	22	22-I-19	70	56	38		
817号土坑	N-90°	円形	22	22-H-20	26	22	16		
818号土坑	N-62°-W	不整形	22	22-H-20	22	20	12		
819号土坑	N-35°-E	円形	22	22-H-19	25	21	15		
820号土坑	N-90°	長円形	22	22-H-19	32	27	6		
821号土坑	N-70°-W	長円形	32	32-J-2	32	28	23		
822号土坑	N-20°-W	円形	32	32-J-1	31	24	25		
823号土坑	N-9°-E	隅丸方形	32	32-J-2	23	23	19		
824号土坑	N-15°-E	円形	32	32-I-1	33	30	23		
825号土坑	N-76°-W	円形	32	32-I-1	22	16	13		
826号土坑	N-58°-E	隅丸方形	32	32-I-1	28	23	49		
827号土坑	N-15°-W	円形	32	32-I-2	23	22	24		
828号土坑	N-68°-W	円形	32	32-I-2	35	32	24		
829号土坑	N-15°-E	円形	32	32-I-2	29	25	18		
830号土坑	N-90°	円形	32	32-I-2	28	24	9		
831号土坑	N-20°-E	円形	32	32-I-2	31	27	19		
832号土坑	N-54°-W	円形	32	32-I-1	27	24	31		
833号土坑	N-31°-W	長円形	32	32-I-1	33	16	16		
834号土坑	N-33°-E	隅丸方形	32	32-I-1	26	20	20		
835号土坑	N-23°-E	不整形	32	32-I-1	116	70	23		
836号土坑	N-66°-W	円形	32	32-I-1	20	18	18		
837号土坑	N-26°-W	長円形	32	32-H-1	35	28	58		
838号土坑	N-12°-W	円形	32	32-H-1	32	27	25		
839号土坑	N-0°	円形	32	32-H-1	29	27	15		
840号土坑	N-28°-E	長円形	32	32-I-1	24	19	17		
841号土坑	N-24°-W	長円形	32	32-I-1	28	24	18		
842号土坑	N-33°-W	長円形	32	32-I-1	30	23	16		
843号土坑	N-25°-E	円形	22	22-I-20	22	20	15		
844号土坑	N-60°-W	円形	32	32-I-1	34	32	26		
845号土坑	N-0°	円形	32	32-H-1	25	23	45		
846号土坑	N-0°	円形	32	32-H-1	52	52	16		
847号土坑	N-50°-E	円形	32	32-H-1	28	25	14		
848号土坑	N-24°-W	円形	32	32-H-1	28	22	39		
849号土坑	N-68°-W	円形	32	32-G-1	32	28	40		
850号土坑	N-16°-W	円形	32	32-G-1	25	21	36		
851号土坑	N-52°-E	円形	32	32-H-1	22	18	25		
852号土坑	N-20°-W	円形	32	32-H-1	26	23	32		
853号土坑	N-71°-W	円形	32	32-H-1	23	21	15		
854号土坑	N-0°	円形	22	22-H-20	24	22	20		

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
855号土坑	N-0°	円形	22	22-H-20	26	24	12		
856号土坑	N-0°	円形	32	32-G-1	23	23	21		
857号土坑	N-28°-E	長円形	22	22-G-20	38	24	36		
858号土坑	N-25°-W	長円形	22	22-F-20	22	22	8		
859号土坑	N-45°-W	円形	22	22-E-19	24	20	16		
860号土坑	N-10°-W	円形	22	22-E-19	24	22	20		
861号土坑	N-0°	円形	22	22-D-19	38	38	13		
862号土坑	N-87°-E	長円形	22	22-F-19	40	20	21		
863号土坑	N-0°	円形	22	22-F-20	26	24	22		
864号土坑	N-0°	円形	22	22-F-19	24	24	24		
865号土坑	N-20°-E	長円形	22	22-H-19	34	27	17		
866号土坑	N-0°	円形	32	32-J-1	38	38	21		
867号土坑	N-0°	円形	32	32-J-1	22	22	40		
868号土坑	N-58°-E	長円形	32	32-K-4	38	26	15		
869号土坑	N-15°-W	円形	32	22-H-20	24	19	10		
870号土坑	N-51°-W	円形	32	22-M-18	28	23	21		
871号土坑	N-32°-E	隅丸長方形	32	32-K-1	83	52	67		
872号土坑	N-7°-W	隅丸方形	33	33-I-7	41	34	21		
873号土坑	N-86°-W	長円形	33	33-I-7	33	26	14		
874号土坑	N-49°-W	長円形	33	33-I-7	42	34	29		
875号土坑	N-66°-W	円形	33	33-I-7	21	17	13		
876号土坑	N-74°-E	不整形	32	32-M-2	96	75	59		
877号土坑	N-84°-E	長円形	33	33-G-13	27	22	11		
878号土坑	N-65°-E	不整形	33	33-F-13	37	25	11		
879号土坑	N-74°-W	長円形	33	33-G-13	27	23	9		
880号土坑	N-33°-E	円形	33	33-G-13	32	29	9		
881号土坑	N-79°-W	不整形	33	33-G-13	67	36	15		882号土坑と重複
882号土坑	N-88°-W	長円形	33	33-G-13	50	35	17		881号土坑と重複
883号土坑	N-40°-W	隅丸方形	33	33-G-12	59	50	-		
884号土坑	N-29°-W	長円形	33	33-F-12	37	25	7		
885号土坑	N-82°-W	円形	33	33-F-12	23	22	7		
886号土坑	N-72°-W	隅丸長方形	33	33-F-12	46	29	22		
887号土坑	N-40°-E	隅丸方形	33	33-F-11	36	31	17		
888号土坑	N-52°-E	長円形	33	33-D-12	43	29	2		
889号土坑	N-59°-W	不整形	33	33-D-11	35	29	15		890号土坑と重複
890号土坑	N-59°-W	円形	33	33-D-11	28	24	17		889号土坑と重複
891号土坑	N-25°-E	隅丸方形	33	33-C-10	31	31	26		
892号土坑	N-82°-E	隅丸長方形	33	33-C-10	31	25	8		
893号土坑	N-68°-W	長円形	33	33-A-10	35	31	12		
894号土坑	N-71°-W	長円形	33	33-A-10	29	25	11		
895号土坑	N-26°-E	円形	33	33-A-10	28	26	25		
896号土坑	N-23°-E	隅丸方形	33	33-A-10	38	35	37		
897号土坑	N-70°-W	円形	33	33-A-10	24	22	8		
898号土坑	N-66°-W	不整形	33	33-A-10	29	26	33		
899号土坑	N-49°-E	長円形	33	32-T-9	29	26	8		
900号土坑	N-6°-E	円形	33	33-A-8	28	25	8		
901号土坑	N-34°-W	長円形	33	33-B-9	33	26	24		
902号土坑	N-75°-W	長円形	33	33-C-10	29	24	8		
903号土坑	N-45°-W	長円形	33	33-C-9	55	48	17		
904号土坑	N-48°-E	長円形	33	33-E-11	43	36	18		
905号土坑	N-25°-W	長円形	33	33-E-11	36	30	13		
906号土坑	N-69°-W	不整形	33	33-G-11	33	28	11		
907号土坑	N-67°-W	隅丸方形	33	33-G-11	23	20	19		
908号土坑	N-82°-W	不整形	33	33-G-12	90	76	-		
909号土坑	N-62°-E	長円形	33	33-G-12	44	30	-		
910号土坑	N-76°-E	長円形	33	33-G-11	48	30	19		
911号土坑	N-76°-E	長円形	33	33-G-11	37	30	19		
912号土坑	N-0°	隅丸方形	33	33-A-9	27	23	43		
913号土坑	N-60°-W	不整形	33	33-F-10	58	42	18		
914号土坑	N-70°-W	円形	33	33-F-10	33	33	12		
915号土坑	N-60°-W	長円形	33	33-D-10	93	75	12		
916号土坑	N-70°-W	長円形	33	33-C-9	32	22	19		
917号土坑	N-27°-W	隅丸方形	33	33-C-8	38	34	46		
918号土坑	N-10°-E	隅丸方形	33	33-B-8	33	30	23		
919号土坑	N-45°-E	不整形	33	33-A-8	(102)	94	23		

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
920号土坑	N-41°-W	隅丸長方形	33	33-B-9	47	41	23		
921号土坑	N-18°-E	隅丸方形	33	33-C-1	29	27	34		
922号土坑	N-27°-W	長円形	33	33-C-2	45	37	18		
923号土坑	N-55°-W	不整形	33	33-C-2	39	33	18		
924号土坑	N-82°-W	隅丸方形	33	33-C-2	38	34	31		
925号土坑	N-32°-W	長円形	33	33-C-2	31	23	14		
926号土坑	N-47°-W	隅丸長方形	33	33-B-2	54	40	51		
927号土坑	N-34°-E	長円形	33	33-C-1	28	24	16		
928号土坑	N-5°-E	長円形	33	33-C-1	31	30	30		
929号土坑	N-50°-W	隅丸方形	33	33-C-1	25	20	21		
930号土坑	N-15°-W	隅丸方形	33	33-C-2	31	28	25		
931号土坑	N-0°	円形	33	33-C-1	29	29	33		
932号土坑	N-54°-E	長円形	33	33-C-2	31	23	41		
933号土坑	N-46°-W	隅丸方形	33	33-C-2	33	29	43		
934号土坑	N-86°-E	長円形	33	33-C-2	43	33	25		
935号土坑	N-69°-W	長円形	33	33-C-1	35	25	20		
936号土坑	N-70°-W	不整形	33	33-C-2	42	35	38		937号土坑と重複
937号土坑	N-47°-W	不整形	33	33-C-2	47	34	26		936・938号土坑と重複
938号土坑	N-66°-W	不整形	33	33-C-2	38	34	25		937号土坑と重複
939号土坑	N-60°-W	円形	33	33-C-2	25	25	15		
940号土坑	N-72°-W	長円形	33	33-C-2	29	22	20		
941号土坑	N-73°-W	長円形	33	33-C-2	33	28	19		
942号土坑	N-68°-W	不整形	33	33-C-2	43	43	27		
943号土坑	N-0°	円形	33	33-C-3	43	40	49		
944号土坑	N-59°-W	長円形	33	33-C-3	73	51	22		
945号土坑	N-2°-W	長円形	33	33-C-3	38	27	32		
946号土坑	N-6°-W	円形	33	33-C-3	29	28	25		
947号土坑	N-8°-E	長円形	33	33-C-3	33	28	31		
948号土坑	N-63°-E	長円形	33	33-C-2	36	31	26		
949号土坑	N-56°-W	長円形	33	33-C-2	33	28	16		
950号土坑	N-65°-E	隅丸長方形	33	33-C-2	42	22	17		
951号土坑	N-32°-W	円形	33	33-D-2	45	42	16		
952号土坑	N-74°-E	隅丸方形	33	33-D-2	43	43	15		
953号土坑	N-40°-E	隅丸方形	33	33-D-3	30	25	33		
954号土坑	N-68°-E	不整形	33	33-D-3	86	80	29		
955号土坑	N-12°-W	隅丸方形	33	33-D-3	45	37	29		
956号土坑	N-42°-W	長円形	33	33-E-3	40	34	28		
957号土坑	N-12°-E	長円形	33	33-E-3	39	29	16		
958号土坑	N-5°-E	長円形	33	33-E-3	29	23	15		
959号土坑	N-48°-W	長円形	33	33-E-3	26	19	19		
960号土坑	N-45°-W	円形	33	33-E-3	30	29	20		
961号土坑	N-46°-W	円形	33	33-E-3	22	21	11		
962号土坑	N-52°-E	隅丸方形	33	33-E-3	43	40	23		
963号土坑	N-37°-W	円形	33	33-E-3	31	27	9		
964号土坑	N-31°-W	長円形	33	33-E-3	42	33	18		
965号土坑	N-65°-W	不整形	33	33-F-3	48	25	37		
966号土坑	N-18°-E	長円形	33	33-F-3	24	18	11		
967号土坑	N-81°-E	隅丸方形	33	33-F-4	37	33	16		
968号土坑	N-73°-W	長円形	33	33-F-4	29	22	24		
969号土坑	N-65°-W	隅丸方形	33	33-F-4	33	33	19		
970号土坑	N-74°-W	長円形	33	33-F-4	35	29	10		
971号土坑	N-27°-E	長円形	33	33-G-4	49	44	17		
972号土坑	N-14°-W	不整形	33	33-G-4	71	70	26		973号土坑と重複
973号土坑	N-59°-W	不整形	33	33-G-4	75	33	17		972号土坑と重複
974号土坑	N-20°-W	長円形	33	33-G-4	41	33	20		
975号土坑	N-18°-W	不整形	33	33-H-5	32	28	23		
976号土坑	N-80°-W	長円形	33	33-H-5	30	24	10		
977号土坑	N-54°-W	不整形	33	33-I-5	32	25	30		
978号土坑	N-64°-W	長円形	33	33-F-5	54	50	25		
979号土坑	N-89°-W	円形	33	33-F-5	33	31	18		
980号土坑	N-45°-E	円形	33	33-F-5	24	21	13		
981号土坑	N-50°-W	不整形	33	33-F-5	50	42	29		
982号土坑	N-67°-E	不整形	33	33-F-4	42	36	21		
983号土坑	N-74°-E	円形	33	33-F-4	30	30	24		
984号土坑	N-80°-E	円形	33	33-F-4	25	25	11		

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
985号土坑	N-32°-W	長円形	33	33-D-4	32	26	15		
986号土坑	N-27°-E	隅丸方形	33	33-C-4	35	32	9		
987号土坑	N-26°-E	長円形	33	33-C-4	51	30	13		
988号土坑	N-68°-W	不整形	33	33-C-4	74	61	42		
989号土坑	N-50°-W	不整形	33	33-C-4	38	33	18		990号土坑と重複
990号土坑	N-7°-W	長円形	33	33-C-4	31	21	25		989号土坑と重複
991号土坑	N-46°-W	長円形	33	33-C-4	27	19	10		
992号土坑	N-50°-E	長円形	33	33-B-4	35	32	11		
993号土坑	N-39°-W	長円形	33	33-C-3	49	40	33		
994号土坑	N-61°-E	長円形	33	33-B-3	55	46	14		
995号土坑	N-70°-E	隅丸方形	33	33-B-3	57	49	24		
996号土坑	N-50°-W	不整形	33	33-D-4	50	36	10		
997号土坑	N-58°-W	円形	33	33-C-4	35	33	18		
998号土坑	N-9°-W	不整形	33	33-C-4	41	29	33		999号土坑と重複
999号土坑	N-50°-W	不整形	33	33-C-4	42	36	33		998号土坑と重複
1000号土坑	N-58°-E	隅丸方形	33	33-C-5	35	30	30		
1001号土坑	N-8°-W	円形	33	33-C-4	30	26	20		
1002号土坑	N-62°-E	隅丸方形	33	33-B-4	30	28	8		
1003号土坑	N-8°-W	円形	33	33-B-4	24	21	14		
1004号土坑	N-10°-E	円形	33	33-B-5	33	29	13		
1005号土坑	N-86°-E	不整形	33	33-B-5	50	36	26		
1006号土坑	N-34°-E	隅丸方形	33	33-B-5	28	26	30		
1007号土坑	N-57°-E	不整形	33	33-B-5	35	26	29		
1008号土坑	N-62°-W	不整形	33	33-C-5	55	41	17		
1009号土坑	N-27°-E	不整形	33	33-B-6	42	37	65		
1010号土坑	N-77°-W	長円形	33	33-B-6	32	24	21		
1011号土坑	N-51°-W	円形	33	33-B-6	25	25	20		
1012号土坑	N-51°-E	不整形	33	33-B-6	85	63	15		
1013号土坑	N-31°-W	円形	33	33-A-6	33	31	20		
1014号土坑	N-81°-W	円形	33	33-A-6	31	28	16		
1015号土坑	N-9°-W	円形	33	33-A-6	35	33	12		
1016号土坑	N-20°-W	円形	33	33-B-7	29	27	10		
1017号土坑	N-67°-E	隅丸方形	33	33-A-7	40	37	11		
1018号土坑	N-50°-E	長円形	33	33-D-6	43	36	48		
1019号土坑	N-67°-W	不整形	33	33-E-6	112	100	39		
1020号土坑	N-44°-W	円形	33	33-D-7	27	25	9		
1021号土坑	N-45°-W	円形	33	33-D-7	34	33	14		
1022号土坑	N-10°-E	不整形	33	33-D-7	50	45	17		
1023号土坑	N-2°-E	隅丸方形	33	33-E-7	27	25	11		1024号土坑と重複
1024号土坑	N-0°	隅丸方形	33	33-E-7	29	27	9		1023号土坑と重複
1025号土坑	N-0°	不整形	33	33-E-8	52	40	17		
1026号土坑	N-73°-W	長円形	33	33-C-8	62	34	13		
1027号土坑	N-66°-W	不整形	33	33-C-8	45	38	14		
1028号土坑	N-63°-W	円形	33	33-D-8	34	32	13		
1029号土坑	N-5°-E	長円形	33	33-D-8	37	29	15		
1030号土坑	N-39°-W	隅丸方形	33	33-D-9	38	38	19		
1031号土坑	N-50°-E	長円形	33	33-E-8	35	29	13		
1032号土坑	N-48°-W	不整形	33	33-F-8	43	40	20		
1033号土坑	N-86°-W	不整形	33	33-F-8	50	48	11		
1034号土坑	N-68°-W	不整形	33	33-D-9	58	50	15		
1035号土坑	N-25°-W	不整形	33	33-D-9	59	48	21		
1036号土坑	N-45°-W	円形	33	33-E-9	57	52	27		
1037号土坑	N-20°-W	不整形	33	33-F-8	39	33	14		
1038号土坑	N-21°-W	長円形	33	33-F-9	73	65	26		
1039号土坑	N-9°-W	長円形	33	33-F-9	75	55	17		
1040号土坑	N-36°-W	隅丸長方形	33	33-F-9	81	74	25		
1041号土坑	N-60°-E	円形	33	33-E-10	42	38	23		
1042号土坑	N-36°-W	円形	33	33-E-10	35	35	14		
1043号土坑	N-18°-E	円形	33	33-F-9	37	33	4		
1044号土坑	N-6°-W	隅丸方形	33	33-F-9	37	35	9		
1045号土坑	N-24°-E	円形	33	33-F-9	27	25	12		
1046号土坑	N-60°-W	不整形	33	33-F-9	48	(40)	21		
1047号土坑	N-78°-E	不整形	33	33-D-7	44	36	13		
1048号土坑	N-57°-E	長円形	33	33-D-7	116	100	32		
1049号土坑	N-68°-W	不整形	33	33-E-7	45	31	12		

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
1050号土坑	N-49°-E	隅丸方形	33	33-E-7	31	29	16		
1051号土坑	N-45°-W	不整形	33	33-F-10	53	42	22		
1052号土坑	N-0°	円形	33	33-F-10	42	39	11		
1053号土坑	N-8°-E	長円形	33	33-F-9	36	30	11		
1054号土坑	N-17°-W	不整形	33	33-F-9	35	30	11		
1055号土坑	N-78°-W	長円形	33	33-F-9	60	42	18		
1056号土坑	N-59°-W	不整形	33	33-F-9	60	53	14		
1057号土坑	N-66°-W	不整形	33	33-G-9	80	57	21		
1058号土坑	N-17°-E	隅丸方形	33	33-G-10	52	48	20		
1059号土坑	N-48°-E	長円形	33	33-G-10	32	23	36		
1060号土坑	N-10°-E	長円形	33	33-G-10	63	47	24		
1061号土坑	N-2°-E	長円形	33	33-G-10	50	45	17		
1062号土坑	N-65°-W	長円形	33	33-G-10	36	32	15		
1063号土坑	N-15°-W	長円形	33	33-G-10	30	26	37		
1064号土坑	N-2°-W	不整形	33	33-G-10	48	42	15		
1065号土坑	N-3°-E	長円形	33	33-G-9	122	102	18		
1066号土坑	N-35°-W	長円形	33	33-G-9	49	41	16		
1067号土坑	N-42°-E	隅丸長方形	33	33-G-8	38	22	22		
1068号土坑	N-15°-W	長円形	33	33-G-8	48	44	12		
1069号土坑	N-84°-E	隅丸方形	33	33-H-7	38	38	14		
1070号土坑	N-70°-W	長円形	33	33-H-7	54	36	22		
1071号土坑	N-26°-E	長円形	33	33-H-7	46	38	19		
1072号土坑	N-72°-W	長円形	33	33-G-7	55	33	16		
1073号土坑	N-49°-E	円形	33	33-H-6	61	54	14		
1074号土坑	N-50°-W	長円形	33	33-H-6	37	29	17		
1075号土坑	N-46°-E	不整形	33	33-H-6	65	53	28		
1076号土坑	N-77°-W	不整形	33	33-I-5	32	32	11		
1077号土坑	N-22°-W	円形	33	33-H-5	34	31	21		
1078号土坑	N-69°-E	長円形	33	33-H-5	55	40	34		
1079号土坑	N-75°-W	長円形	33	33-G-6	35	30	16		
1080号土坑	N-68°-W	円形	33	33-G-5	34	30	9		
1081号土坑	N-25°-E	長円形	33	33-E-5	47	40	36		
1082号土坑	N-27°-W	隅丸方形	33	33-E-5	45	45	19		
1083号土坑	N-71°-E	不整形	33	33-E-5	58	45	26		
1084号土坑	N-14°-E	不整形	33	33-G-7	65	48	25		
1085号土坑	N-15°-E	不整形	33	33-I-8	46	32	15		1086号土坑と重複
1086号土坑	N-65°-W	円形	33	33-I-8	29	25	10		1085号土坑と重複
1087号土坑	N-55°-W	円形	32	32-P-3	39	37	9		
1088号土坑	N-49°-W	長円形	32	32-P-4	47	36	16		
1089号土坑	N-38°-W	長円形	32	32-Q-4	29	25	21		
1090号土坑	N-62°-E	円形	32	32-P-3	33	29	51		
1091号土坑	N-14°-W	円形	32	32-P-3	39	34	39		
1092号土坑	N-63°-W	円形	32	32-P-3	30	26	5		
1093号土坑	N-86°-W	隅丸方形	32	32-Q-3	39	35	5		
1094号土坑	N-36°-W	長円形	32	32-Q-3	32	22	2		
1095号土坑	N-52°-E	円形	32	32-Q-2	43	38	52		
1096号土坑	N-74°-W	長円形	32	32-Q-2	53	34	54		
1097号土坑	N-63°-W	円形	32	32-T-3	40	37	29		
1098号土坑	N-36°-E	長円形	32	32-T-3	54	40	17		
1099号土坑	N-11°-E	円形	32	32-T-2	44	40	66		1100号土坑と重複
1100号土坑	N-58°-W	長円形	32	32-T-2	43	32	48		1099号土坑と重複
1101号土坑	N-58°-E	長円形	32	32-T-3	42	31	21		
1102号土坑	N-88°-W	不整形	33	33-A-3	42	37	50		1103号土坑と重複
1103号土坑	N-0°	長円形	33	33-A-3	56	36	53		1102号土坑と重複
1104号土坑	N-37°-W	長円形	33	33-A-1	62	47	52		
1105号土坑	N-52°-W	長円形	33	33-F-7	32	26	8		
1106号土坑	N-62°-W	円形	33	33-G-7	28	27	40		
1107号土坑	N-28°-E	不整形	22	22-N-16	79	56	20		
1108号土坑	N-25°-W	不整形	22	22-N-16	104	32	41		
1109号土坑	N-90°	円形	22	22-N-16	38	35	23		
1110号土坑	N-0°	隅丸方形	22	22-O-17	37	34	45		
1111号土坑	N-17°-E	長円形	22	22-Q-18	32	23	14		
1112号土坑	N-78°-W	長円形	22	22-Q-18	42	34	32		
1113号土坑	N-54°-E	長円形	22	22-Q-19	40	26	17		
1114号土坑	N-90°	不整形	22	22-P-19	(26)	18	9		1115号土坑と重複

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
1115号土坑	N-30°-E	隅丸方形	22	22-P-19	34	32	14		1114号土坑と重複
1116号土坑	N-21°-W	不整形	32	32-P-1	133	106	30		
1117号土坑	N-2°-E	不整形	32	32-P-2	45	32	31		
1118号土坑	N-88°-W	不整形	32	32-P-2	38	32	30	C	
1119号土坑	N-53°-E	長円形	32	32-N-3	32	25	12	D	
1120号土坑	N-80°-E	不整形	32	32-M-2	27	8	13	C	1121号土坑と重複
1121号土坑	N-16°-W	不整形	32	32-M-2	43	26	8	C	1120号土坑と重複
1122号土坑	N-33°-E	長円形	32	32-R-1	48	37	18	C	
1123号土坑	N-29°-E	長円形	32	32-R-1	40	28	23	D	
1124号土坑	N-57°-W	長円形	32	32-Q-3	38	30	47	D	
1125号土坑	N-10°-E	不整形	32	32-P-3	58	28	25	C	
1126号土坑	N-53°-W	円形	32	32-Q-4	29	29	14	C	
1127号土坑	N-44°-W	長円形	32	32-R-5	45	37	18	C	
1128号土坑	N-82°-W	長円形	32	32-R-1	47	37	25	C	
1130号土坑	N-6°-W	不整形	32	32-Q-6	33	-10	12	C	1129号土坑と重複
1131号土坑	N-60°-W	長円形	32	32-O-4	46	36	18	C	5号溝と重複
1132号土坑	N-74°-W	長円形	33	33-A-1	35	27	31	C	
1133号土坑	N-57°-W	隅丸方形	33	33-A-1	35	30	12	D	
1134号土坑	N-65°-W	長円形	33	33-A-2	46	35	34	D	
1135号土坑	N-2°-E	長円形	33	33-B-2	46	35	14	C	
1136号土坑	N-41°-W	長円形	33	33-B-2	29	26	19	C	
1137号土坑	N-69°-W	長円形	33	33-B-2	33	29	14	C	
1138号土坑	N-28°-E	隅丸長方形	33	33-A-2	38	24	17	D	
1139号土坑	N-74°-W	円形	33	32-T-2	28	28	29	D	1140号土坑と重複
1140号土坑	N-40°-W	円形	33	32-T-2	33	31	43	D	1139号土坑と重複
1141号土坑	N-17°-W	円形	33	32-T-2	30	30	23	C	
1142号土坑	N-28°-E	長円形	33	33-A-3	33	26	13	D	
1143号土坑	N-28°-E	長円形	33	33-A-3	19	16	12	D	
1144号土坑	N-10°-W	不整形	33	33-A-3	30	28	23	C	
1145号土坑	N-13°-E	不整形	33	33-A-4	29	19	32	D	
1146号土坑	N-8°-E	不整形	33	33-B-4	25	25	24	C	
1147号土坑	N-5°-W	円形	33	33-A-4	38	34	15	C	
1148号土坑	N-5°-E	長円形	33	33-A-4	36	26	26	D	
1149号土坑	N-19°-W	円形	33	33-A-4	13	13	12	C	
1150号土坑	N-19°-W	円形	33	33-A-4	16	16	10	D	
1151号土坑	N-38°-E	長円形	32	32-T-4	34	28	18	C	
1152号土坑	N-89°-W	円形	32	32-S-4	33	30	28	C	
1153号土坑	N-40°-W	円形	32	32-R-4	30	25	13	D	
1154号土坑	N-0°	円形	32	32-S-4	26	26	14	D	
1155号土坑	N-19°-W	長円形	32	32-S-4	28	22	25	D	
1156号土坑	N-84°-W	長円形	32	32-S-4	26	17	27	D	
1157号土坑	N-48°-W	長円形	32	32-S-4	34	25	27	C	
1158号土坑	N-45°-W	円形	32	32-S-4	36	32	49	D	
1159号土坑	N-77°-W	円形	32	32-T-4	30	28	28	C	
1160号土坑	N-0°	隅丸方形	32	32-T-4	25	25	34		1176号土坑と重複
1161号土坑	N-19°-E	隅丸方形	32	32-T-4	38	30	54	D	
1162号土坑	N-63°-W	長円形	33	33-A-5	40	35	47	D	
1163号土坑	N-50°-E	円形	33	33-A-5	35	30	26	D	
1164号土坑	N-23°-E	長円形	33	33-A-5	36	31	25	D	
1165号土坑	N-20°-W	円形	32	32-T-5	42	36	38	C	
1166号土坑	N-48°-W	円形	32	32-T-5	37	33	42	C	
1167号土坑	N-2°-W	隅丸長方形	32	32-T-5	55	47	19	C	
1168号土坑	N-9°-E	長円形	32	32-T-5	43	34	14	C	
1169号土坑	N-50°-W	長円形	32	32-T-5	35	27	37	D	
1170号土坑	N-67°-W	長円形	32	32-T-6	30	28	27	A	
1171号土坑	N-27°-W	隅丸方形	32	32-T-6	40	40	29	A	
1172号土坑	N-76°-E	長円形	32	32-T-6	36	29	47	A	
1173号土坑	N-54°-W	長円形	32	32-R-7	50	47	58	C	
1174号土坑	N-23°-E	円形	32	32-T-3	40	37	27	A	
1175号土坑	N-50°-E	長円形	32	32-O-5	48	42	42	D	
1176号土坑	N-17°-E	不整形	32	32-T-4	35	32	32	D	1160号土坑と重複
1177号土坑	N-58°-W	円形	32	32-P-6	18	16	14	D	
1178号土坑	N-72°-W	円形	32	32-P-6	26	24	23	C	
1179号土坑	N-21°-W	円形	32	32-P-6	27	25	11	D	
1180号土坑	N-17°-W	長円形	32	32-P-6	36	24	32	D	

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
1181号土坑	N-27°-W	円形	32	32-P-6	29	27	34	C	
1182号土坑	N-30°-W	円形	32	32-P-6	26	22	27	C	
1183号土坑	N-56°-W	円形	32	32-Q-6	33	31	61	C	
1184号土坑	N-30°-W	長円形	32	32-Q-7	48	40	32		
1185号土坑	N-15°-W	長円形	32	32-R-7	37	31	37		
1186号土坑	N-71°-W	長円形	32	32-R-7	74	56	23		
1187号土坑	N-73°-W	隅丸長方形	32	32-R-7	76	55	35		
1188号土坑	N-9°-W	隅丸方形	32	32-Q-6	39	35	24		
1189号土坑	N-82°-W	円形	32	32-S-8	52	49	13		
1190号土坑	N-17°-W	円形	32	32-T-9	43	39	10		
1191号土坑	N-60°-E	不整形	32	32-M-5	45	32	10		1192号土坑と重複
1192号土坑	N-9°-W	不整形	32	32-M-5	35	28	13		1191号土坑と重複
1193号土坑	N-49°-E	隅丸長方形	32	32-Q-5	242	110	31		
1194号土坑	N-3°-E	円形	32	32-O-5	33	28	33		
1195号土坑	N-12°-E	円形	45	45-K-9	24	19	30	C	
1197号土坑	N-25°-W	円形	45	45-L-10	38	35	15	A	
1198号土坑	N-12°-E	円形	45	45-L-10	34	32	10	A	
1200号土坑	N-57°-W	隅丸長方形	45	45-N-11	55	33	28	A	
1201号土坑	N-56°-W	隅丸長方形	45	45-J-14	55	50	20	A	
1202号土坑	N-77°-E	不整形	45	45-J-13	23	23	30	A	
1203号土坑	N-60°-W	隅丸長方形	45	45-J-13	33	28	22	A	
1204号土坑	N-48°-W	隅丸方形	45	45-I-13	22	22	4	A	
1205号土坑	N-67°-E	隅丸長方形	45	45-I-13	26	18	4	A	
1206号土坑	N-44°-E	隅丸方形	45	45-I-13	23	23	2	A	
1207号土坑	N-56°-W	隅丸方形	45	45-G-13	20	20	28	A	
1208号土坑	N-0°	長円形	45	45-G-13	32	25	9	A	
1209号土坑	N-45°-W	円形	45	45-G-13	26	26	34	A	
1210号土坑	N-50°-W	円形	45	45-G-13	28	28	23	A	
1211号土坑	N-32°-E	隅丸方形	45	45-H-12	30	30	22	A	
1212号土坑	N-40°-E	隅丸方形	45	45-H-12	17	17	13	A	
1213号土坑	N-36°-E	隅丸長方形	45	45-H-12	25	21	15	A	
1214号土坑	N-50°-E	隅丸方形	45	45-H-12	22	20	14	A	
1215号土坑	N-11°-W	円形	45	45-J-13	26	26	15	A	
1216号土坑	N-88°-W	不整形	45	45-J-10	191	116	54	C	1223号土坑と重複
1217号土坑	N-90°	不整形	45	45-H-12	38	22	27	A	
1218号土坑	N-18°-W	長円形	45	45-H-12	26	22	18	A	
1219号土坑	N-66°-W	長円形	45	45-H-12	19	15	8	A	
1220号土坑	N-61°-E	円形	45	45-H-12	24	23	16	A	
1221号土坑	N-18°-W	円形	45	45-H-12	25	21	9	A	
1222号土坑	N-10°-E	円形	45	45-H-12	28	23	15	A	
1223号土坑	N-75°-W	不整形	45	45-J-10	(42)	38	29	A	1216号土坑と重複
1224号土坑	N-36°-E	隅丸方形	45	45-H-12	24	20	13	A	
1228号土坑	N-69°-E	長円形	43	43-T-1	37	30	18	C	
1229号土坑	N-87°-W	長円形	34	34-A-20	69	53	13	C	
1230号土坑	N-17°-W	長円形	34	34-B-20	67	47	29	C	
1231号土坑	N-26°-E	隅丸長方形	34	34-B-18	54	45	21	C	
1232号土坑	N-41°-E	隅丸長方形	34	34-C-18	45	30	25	C	
1233号土坑	N-81°-E	長円形	34	34-D-18	58	45	17	C	
1234号土坑	N-15°-E	不整形	34	34-D-19	93	80	29	C	
1235号土坑	N-56°-E	長円形	34	34-D-17	48	40	28	C	
1236号土坑	N-55°-E	隅丸方形	34	34-D-17	29	28	15	C	
1237号土坑	N-62°-W	長円形	34	34-E-18	85	78	26	C	
1238号土坑	N-78°-E	長円形	34	34-E-18	51	43	28	C	
1239号土坑	N-55°-E	隅丸方形	34	34-E-18	50	48	17	C	
1240号土坑	N-49°-E	長円形	34	34-F-18	54	41	26	C	
1241号土坑	N-83°-E	隅丸方形	34	34-E-18	51	42	33	C	
1242号土坑	N-48°-E	長円形	34	34-E-17	61	45	23	C	
1243号土坑	N-85°-E	円形	34	34-E-17	37	35	11	C	
1244号土坑	N-83°-W	円形	34	34-E-17	29	25	21	C	
1245号土坑	N-72°-E	長円形	34	34-D-17	45	40	21	C	
1246号土坑	N-45°-W	不整形	34	34-D-17	45	38	25	C	
1247号土坑	N-51°-E	隅丸方形	34	34-D-16	62	56	20	C	
1248号土坑	N-72°-W	円形	34	34-D-16	40	40	12	C	
1249号土坑	N-65°-W	長円形	34	34-E-16	40	24	19	C	1250号土坑と重複
1250号土坑	N-75°-W	不整形	34	34-E-16	188	62	26	C	1249号土坑と重複

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
1251号土坑	N-45°-W	円形	34	34-E-17	30	27	7	C	
1252号土坑	N-74°-W	長円形	34	34-E-17	67	43	26	C	
1253号土坑	N-50°-E	長円形	34	34-F-17	119	95	24	C	
1254号土坑	N-53°-W	長円形	34	34-F-17	50	(41)	25	C	1255号土坑と重複
1255号土坑	N-63°-E	隅丸長方形	34	34-F-17	35	28	22	C	1254号土坑と重複
1256号土坑	N-65°-E	円形	34	34-F-17	39	37	22	C	
1257号土坑	N-4°-W	長円形	34	34-F-17	54	43	22	C	
1258号土坑	N-67°-E	長円形	34	34-F-17	50	43	20	C	
1259号土坑	N-25°-E	長円形	34	34-F-16	43	33	15	C	
1261号土坑	N-42°-W	長円形	34	34-F-16	53	39	19	C	
1262号土坑	N-58°-W	長円形	34	34-F-16	39	33	19	C	
1263号土坑	N-20°-W	隅丸長方形	34	34-F-16	75	42	20	C	
1264号土坑	N-56°-W	隅丸長方形	34	34-E-16	43	33	14	C	
1265号土坑	N-6°-E	長円形	34	34-E-16	43	29	9	C	
1266号土坑	N-60°-E	円形	34	34-E-16	35	31	15	C	
1267号土坑	N-21°-E	円形	34	34-E-16	35	33	20	C	
1268号土坑	N-33°-E	長円形	34	34-E-15	32	25	13	C	
1269号土坑	N-20°-E	不整形	34	34-E-15	62	62	38	C	
1270号土坑	N-32°-W	隅丸方形	34	34-F-15	28	28	15	C	
1271号土坑	N-84°-E	隅丸方形	34	34-F-15	61	55	28	C	
1272号土坑	N-25°-E	長円形	34	34-F-15	45	29	15	C	
1273号土坑	N-0°	隅丸方形	34	34-F-15	43	43	13	C	
1274号土坑	N-0°	隅丸方形	34	34-F-15	45	45	24	C	
1275号土坑	N-69°-W	長円形	34	34-F-15	48	39	23	C	1276号土坑と重複
1276号土坑	N-58°-E	長円形	34	34-F-15	40	34	22	C	1275号土坑と重複
1277号土坑	N-38°-E	長円形	34	34-F-15	47	40	24	C	
1278号土坑	N-41°-W	長円形	34	34-F-16	78	20	16	C	
1279号土坑	N-23°-E	長円形	34	34-F-16	72	37	21	C	
1280号土坑	N-3°-E	隅丸方形	34	34-G-16	38	35	15	C	
1281号土坑	N-11°-W	長円形	34	34-H-17	48	33	15	C	
1282号土坑	N-7°-E	長円形	34	34-G-17	46	35	12	C	
1283号土坑	N-68°-E	長円形	34	34-G-17	46	38	21	C	
1284号土坑	N-7°-W	円形	34	34-G-17	43	43	21	C	
1285号土坑	N-40°-E	円形	34	34-G-17	39	37	20	C	1286号土坑と重複
1286号土坑	N-50°-W	円形	34	34-G-17	37	35	18	C	1285号土坑と重複
1287号土坑	N-37°-W	隅丸長方形	34	34-G-17	43	37	21	C	
1288号土坑	N-42°-E	円形	34	34-G-17	37	34	16	C	
1289号土坑	N-61°-E	長円形	34	34-F-18	41	38	16	C	
1290号土坑	N-56°-W	円形	34	34-F-19	32	32	11	C	
1291号土坑	N-47°-E	不整形	34	34-E-19	85	54	26	C	
1292号土坑	N-52°-W	隅丸方形	34	34-E-20	33	31	14	C	
1293号土坑	N-55°-W	長円形	34	34-D-20	50	50	26	C	
1294号土坑	N-17°-W	円形	44	44-D-1	44	38	24	C	
1295号土坑	N-2°-W	円形	34	34-C-20	35	35	16	C	
1296号土坑	N-18°-E	円形	44	44-D-1	57	52	44	C	
1297号土坑	N-30°-E	円形	44	44-D-1	40	37	27	C	
1298号土坑	N-54°-W	長円形	44	44-D-2	40	35	16	C	
1299号土坑	N-10°-E	円形	44	44-C-2	38	38	21	C	
1300号土坑	N-48°-W	円形	44	44-D-2	28	24	10	C	
1301号土坑	N-66°-W	不整形	34	34-I-17	44	38	23	C	
1302号土坑	N-15°-W	円形	34	34-I-17	88	61	31	C	
1303号土坑	N-26°-E	円形	34	34-I-17	56	50	36	C	
1304号土坑	N-1°-W	不整形	34	34-I-17	39	25	19	C	1305号土坑と重複
1305号土坑	N-79°-W	不整形	34	34-I-17	53	42	36	C	1304号土坑と重複
1306号土坑	N-29°-E	不整形	34	34-I-17	52	40	18	C	1307号土坑と重複
1307号土坑	N-2°-E	長円形	34	34-I-17	38	30	26	C	1306号土坑と重複
1308号土坑	N-88°-E	長円形	34	34-H-17	38	31	54	C	
1309号土坑	N-18°-W	長円形	34	34-G-19	68	49	22	C	
1310号土坑	N-89°-E	不整形	34	34-H-19	47	45	20	C	
1311号土坑	N-75°-W	隅丸方形	34	34-H-19	44	41	30	C	
1312号土坑	N-47°-W	隅丸長方形	34	34-H-19	65	37	21	C	
1313号土坑	N-86°-W	円形	34	34-G-19	49	47	26	C	
1314号土坑	N-45°-W	長円形	34	34-J-18	30	27	41	C	
1315号土坑	N-15°-W	長円形	34	34-J-18	48	44	25	C	
1316号土坑	N-71°-W	長円形	34	34-J-19	39	33	25	C	

第7節 土坑

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
1317号土坑	N-11°-E	長円形	34	34-J-19	47	38	23	C	
1318号土坑	N-4°-E	不整形	34	34-I-19	111	107	28	C	8号溝と重複
1319号土坑	N-80°-E	不整形	34	34-I-19	29	23	27	C	
1320号土坑	N-37°-W	長円形	34	34-I-19	56	38	18	C	
1321号土坑	N-40°-W	長円形	34	34-I-19	58	44	6	C	
1322号土坑	N-0°	長円形	34	34-I-19	71	63	38	C	
1323号土坑	N-29°-W	長円形	34	34-H-20	62	50	34	C	
1324号土坑	N-54°-W	長円形	34	34-K-19	50	43	17	C	
1325号土坑	N-63°-W	円形	34	34-J-19	68	66	43	C	
1326号土坑	N-67°-W	円形	34	34-J-19	41	36	23	C	
1327号土坑	N-72°-E	円形	34	34-J-19	35	33	19	C	
1328号土坑	N-47°-E	隅丸方形	34	34-J-19	75	73	32	C	
1329号土坑	N-48°-E	円形	34	34-J-19	31	31	16	C	
1330号土坑	N-83°-W	不整形	44	44-I-1	38	33	20	C	
1331号土坑	N-33°-W	長円形	44	44-I-1	36	31	8	C	
1332号土坑	N-13°-W	長円形	44	44-H-1	43	32	22	C	
1333号土坑	N-68°-W	長円形	44	44-H-1	72	48	18	C	
1334号土坑	N-30°-E	不整形	44	44-H-2	47	38	22	C	
1335号土坑	N-58°-E	円形	44	44-G-2	25	25	33	C	
1336号土坑	N-70°-W	隅丸方形	44	44-H-2	36	36	15	C	
1337号土坑	N-73°-W	長円形	44	44-H-2	45	42	16	C	
1338号土坑	N-87°-E	円形	44	44-H-2	42	42	18	C	
1339号土坑	N-73°-E	円形	44	44-H-2	39	33	43	C	
1340号土坑	N-64°-E	長円形	44	44-G-2	56	49	38	C	
1341号土坑	N-84°-W	長円形	44	44-G-3	62	55	23	C	
1342号土坑	N-62°-W	隅丸長方形	44	44-G-2	32	26	34	C	
1343号土坑	N-42°-W	長円形	44	44-F-3	36	28	16	C	
1344号土坑	N-7°-W	長円形	44	44-F-3	34	24	38	C	
1345号土坑	N-71°-E	隅丸方形	44	44-F-2	31	31	37	C	
1346号土坑	N-29°-E	長円形	34	34-F-20	60	45	11	C	
1347号土坑	N-40°-W	長円形	34	34-L-18	91	75	29	C	
1348号土坑	N-63°-W	不整形	34	34-L-19	42	38	28	C	1349号土坑と重複
1349号土坑	N-15°-W	不整形	34	34-L-19	32	(20)	20	C	1348号土坑と重複
1350号土坑	N-0°	隅丸方形	34	34-K-20	42	39	15	C	
1351号土坑	N-82°-W	円形	34	34-J-20	43	43	14	C	
1352号土坑	N-90°	円形	34	34-J-20	28	27	20	C	1353号土坑と重複
1353号土坑	N-66°-W	不整形	34	34-J-20	46	35	17	C	1352号土坑と重複
1354号土坑	N-84°-W	長円形	34	34-K-20	59	43	21	C	
1355号土坑	N-54°-W	長円形	34	34-L-20	47	36	15	C	
1356号土坑	N-70°-W	隅丸方形	34	34-L-20	31	31	16	C	
1357号土坑	N-63°-W	長円形	34	34-M-19	58	36	39	C	
1358号土坑	N-30°-W	円形	34	34-N-20	30	29	33	C	
1359号土坑	N-3°-E	円形	34	34-N-20	31	31	21	C	
1360号土坑	N-52°-W	長円形	34	34-M-20	42	34	21	C	
1361号土坑	N-50°-W	長円形	34	34-C-19	34	26	11	C	
1362号土坑	N-40°-W	長円形	34	34-C-19	39	31	25	C	
1363号土坑	N-78°-E	長円形	34	34-E-16	52	33	24	C	
1364号土坑	N-88°-E	長円形	34	34-E-16	42	35	17	C	
1365号土坑	N-0°	円形	34	34-D-16	35	35	16	C	
1366号土坑	N-17°-W	不整形	34	34-A-20	126	91	19	C	
1367号土坑	N-53°-W	円形	34	34-N-20	47	45	25	C	
1368号土坑	N-0°	長円形	45	45-L-10	45	35	8		
1372号土坑	N-48°-W	円形	45	45-L-10	29	28	13		
1374号土坑	N-61°-E	長円形	45	45-K-10	67	43	27		
1375号土坑	N-2°-W	長円形	45	45-K-10	29	21	36		
1376号土坑	N-0°	円形	45	45-K-10	18	18	7		
1377号土坑	N-0°	円形	45	45-K-10	20	20	16		
1378号土坑	N-65°-W	長円形	45	45-Q-17	96	80	10		
1380号土坑	N-58°-W	長円形	45	45-P-13	36	30	12		
1381号土坑	N-0°	円形	45	45-P-13	26	25	12		
1382号土坑	N-8°-E	隅丸長方形	45	45-P-12	38	29	15		
1383号土坑	N-10°-W	隅丸方形	45	45-O-13	34	32	13		
1385号土坑	N-25°-W	隅丸方形	45	45-O-11	48	35	21		
1386号土坑	N-5°-E	長円形	45	45-O-11	54	34	37		
1387号土坑	N-28°-W	円形	45	45-O-11	34	30	17		

第3章 調査

遺構名称	長軸方位	形状	区	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
1388号土坑	N-46°-E	円形	45	45-O-11	30	24	35		
1389号土坑	N-74°-W	不整形	45	45-P-12	128	116	48		
1391号土坑	N-0°	円形	22	21-S-14	30	30	25		
1392号土坑	N-57°-W	円形	22	21-S-14	44	42	26		
1393号土坑	N-40°-E	不整形	22	21-S-14	56	46	28		
1394号土坑	N-90°	円形	22	21-R-14	64	58	31		
1395号土坑	N-90°	長円形	22	21-R-14	38	30	22		
1396号土坑	N-0°	円形	22	21-R-14	34	32	29		
1397号土坑	N-0°	円形	22	21-R-14	24	22	24		
1398号土坑	N-0°	長円形	22	21-R-14	30	24	36		
1399号土坑	N-51°-E	円形	22	21-S-14	28	26	20		
1400号土坑	N-90°	長円形	22	21-R-13	38	32	14		
1401号土坑	N-0°	円形	22	21-Q-12	30	30	21		
1402号土坑	N-30°-W	長円形	22	21-Q-12	42	32	12		
1403号土坑	N-0°	長円形	22	21-R-12	42	36	16		
1404号土坑	N-0°	不整形	22	21-R-13	52	38	17		
1405号土坑	N-22°-W	円形	22	21-S-12	40	38	16		
1406号土坑	N-43°-E	長円形	22	21-S-13	82	74	38		
1407号土坑	N-17°-W	円形	22	21-T-12	40	35	21		
1408号土坑	N-73°-W	長円形	22	21-S-12	46	40	20		
1409号土坑	N-0°	不整形	22	21-S-12	30	26	17		
1410号土坑	N-90°	円形	22	21-R-11	38	30	22		
1411号土坑	N-90°	長円形	22	21-Q-11	76	46	20		
1412号土坑	N-50°-E	円形	22	21-Q-11	38	36	19		
1413号土坑	N-2°-E	円形	22	21-R-10	30	28	17		
1414号土坑	N-12°-W	長円形	22	21-R-10	38	32	25		
1415号土坑	N-90°	円形	22	21-R-10	30	28	21		
1416号土坑	N-24°-E	長円形	22	21-R-9	48	42	59		
1417号土坑	N-0°	円形	22	21-S-10	46	42	28		
1418号土坑	N-90°	隅丸方形	22	21-S-10	28	26	57		
1419号土坑	N-39°-W	長円形	22	21-T-11	46	35	22		
1420号土坑	N-20°-W	不整形	22	22-A-12	88	(80)	34		1432号土坑と重複
1421号土坑	N-10°-W	円形	22	22-B-10	28	28	14		
1422号土坑	N-49°-W	円形	22	21-T-10	38	34	7		
1423号土坑	N-90°	長円形	22	22-A-10	50	42	17		
1424号土坑	N-0°	隅丸方形	22	21-T-9	34	34	18		
1425号土坑	N-27°-W	長円形	22	21-T-8	54	36	75		
1426号土坑	N-40°-W	長円形	22	21-T-8	135	95	21		
1427号土坑	N-0°	長円形	22	21-T-8	53	43	24		
1428号土坑	N-47°-W	隅丸方形	22	21-S-7	100	98	52		
1429号土坑	N-45°-E	隅丸方形	22	22-A-7	54	46	19		
1430号土坑	N-90°	円形	22	22-A-8	34	32	14		
1431号土坑	N-24°-E	長円形	22	22-C-9	66	42	36		
1432号土坑	N-4°-E	不整形	22	22-A-12	98	(60)	22		1420号土坑と重複

第8節 水田・谷地

水田1ヶ所と谷地1ヶ所を調査した。水田は45区北東部にて検出された。浅間B軽石を含んだ床土を検出してあり、中世の水田と考えられる。

谷地は33区南側にて検出された。縄文時代以降に形成された谷地であると考えられる。須恵器片・土師器片などが出土した。

水田(第127図、PL.34)

45区北東側(45 I 11グリッド付近)では、調査時に細い棒状の高まりを確認した。この高まりに沿って浅間B軽石を含む暗褐色土が堆積していた。その状況から高まりは畔であり、当該の範囲(第127図)を水田跡とした。検出した部分は45区でも比較的低い場所であったため、現表土からの深度が深く、後世の耕作土等の影響を受けず

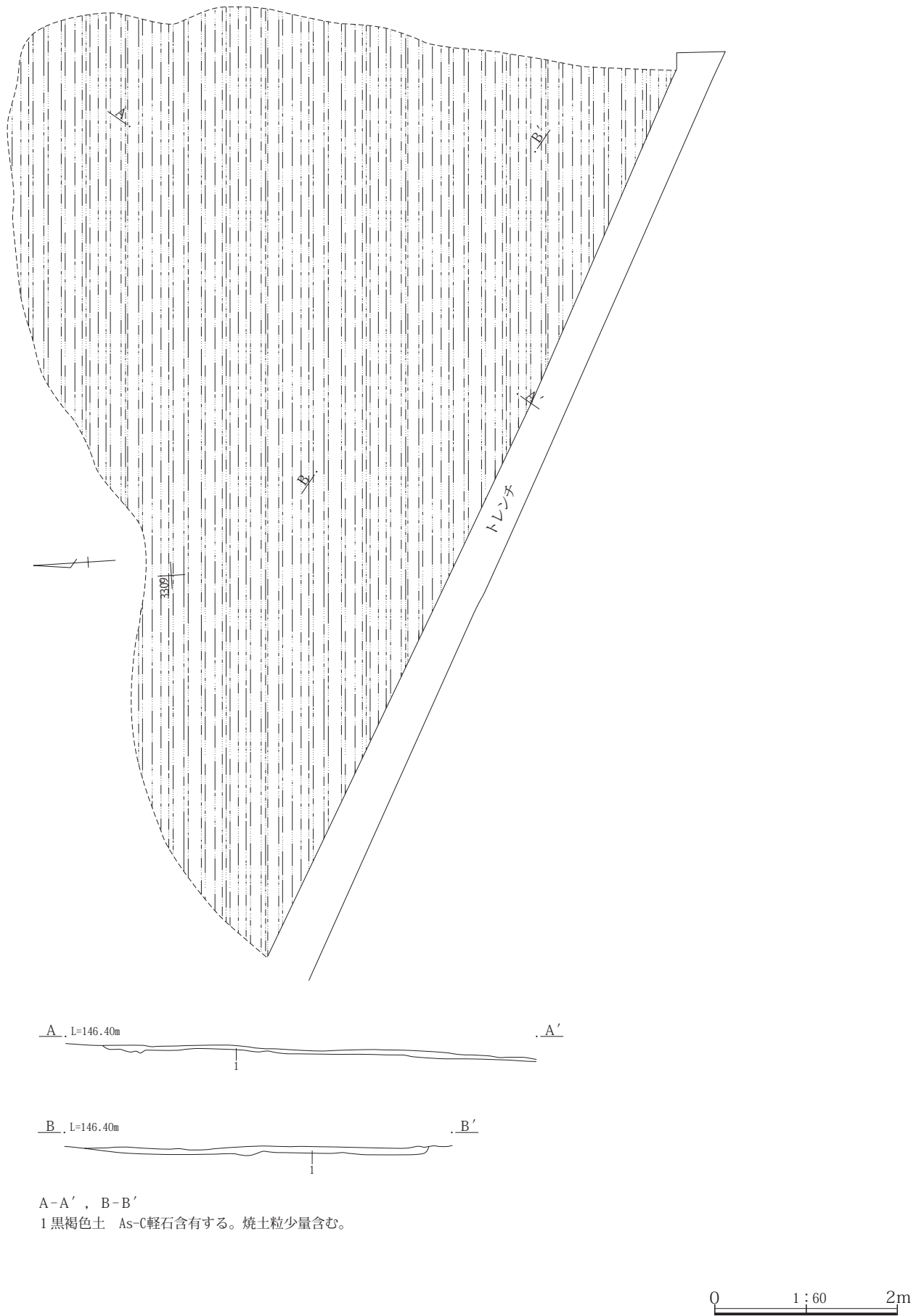
に、水田が検出されたと考えられる。45区は遺跡群の中でも、低地部であり全面的に水田が広がっていたことが想定される。同面から15世紀後半と見られる内耳鍋片が出土しており、水田の時期は中世と考えられる。尚、畔と考えられる高まりは冬季の霜により煙滅してしまった。

谷地(第128図、PL.34)

33区では、調査区南側(33O9グリッド付近)において谷地と考えられる落ち込みを確認した。須恵器椀片14片、土師器甕片58片を検出した。谷地の下面において縄文時代の土坑を確認した。落ち込みであった場所が、浅間C軽石降下後土器などの廃棄場所となったことが考えられる。



第127図 水田



A-A' , B-B'
 1 黒褐色土 As-C軽石含有する。焼土粒少量含む。

第128図 谷地

第9節 縄文包含層

1. 土器

縄文包含層(標準土層IV層)出土土器は、縄文時代早期から縄文時代後期前半までに型式分類できる縄文土器片が出土した。

検出した土器片のうち、型式分類できたものは第10表の通りである。分類できた土器片だけでも、2816片あった。早期撚糸文系・押型文系・条痕文系にはじまり、前期黒浜式期・諸磯式期、中期五領ヶ台式期・加曾利E式期、後期称名寺式期・堀之内式期のものなどが見られる。(第10表・第129図)前期後葉としたものは諸磯b式ないし諸磯c式土器片である。後期前葉としたものは無文あるいは縄文のみで、正確な型式比定ができないがほとんどは堀之内1式と思われる。出土した2816片のうち205片を図示した。(第129～134図、PL.51～56)

遺物の出土量にかかわらず、総ての調査区から縄文土器片が出土した。分布状況で言えば、圧倒的に低地部である45区で出土している。縄文時代住居が検出されたのは34区及び45区であり、45区では縄文土器片を含む土坑を検出している。

包含層出土縄文土器片で最も多いのは諸磯c式土器

558片、次いで多いのは諸磯b式土器439片である。(第10表、第129図～第134図)その次に多いのは堀之内1式土器208片と堀之内2式土器273片である。このことから本遺跡では前期諸磯b式・c式期と後期堀之内1式・2式にピークがあったと考えられる。

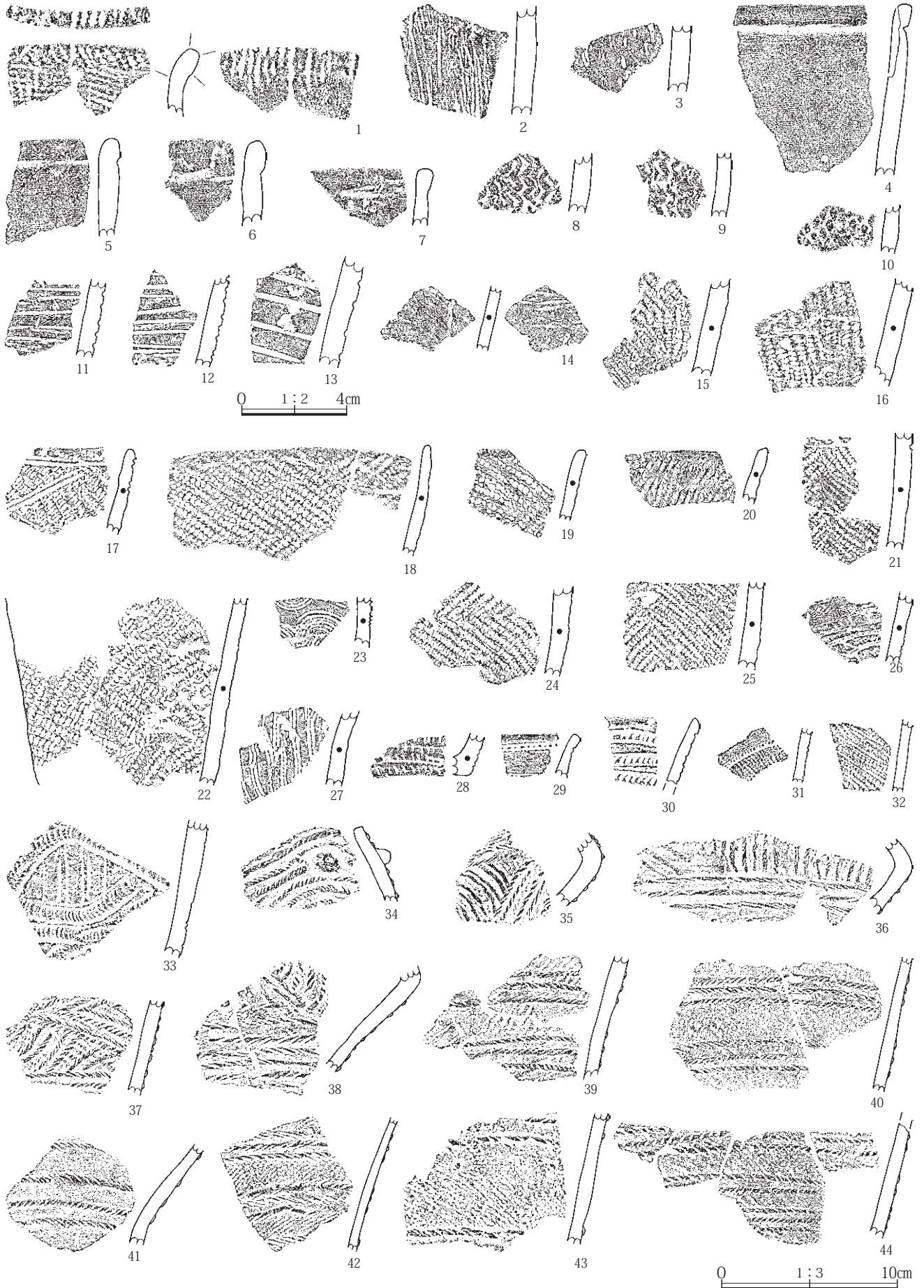
包含層出土土器の出土層位であるが、すべてIV層土であった。V層土はローム漸移層であり、縄文時代の生活面地山相当であると考え(第10図)。IV層土は縄文時代全般を通し堆積した層であるとも考えられ、層位的に矛盾していない。

縄文時代の遺構との関係であるが、45区では、諸磯c式土器期と考えられる16号住居、諸磯c式土器が出土した1371号土坑、1373号土坑などが検出された。加曾利B1式土器片のなかには34区34K20グリッドより検出されたものがある。そのグリッド周辺には住居施設のほとんどが後世の耕作等により失われていた22号住居、炉体のみ検出した24号住居が検出されている。これら住居が加曾利B1式期を含む後期の住居址である可能性も言及できる。

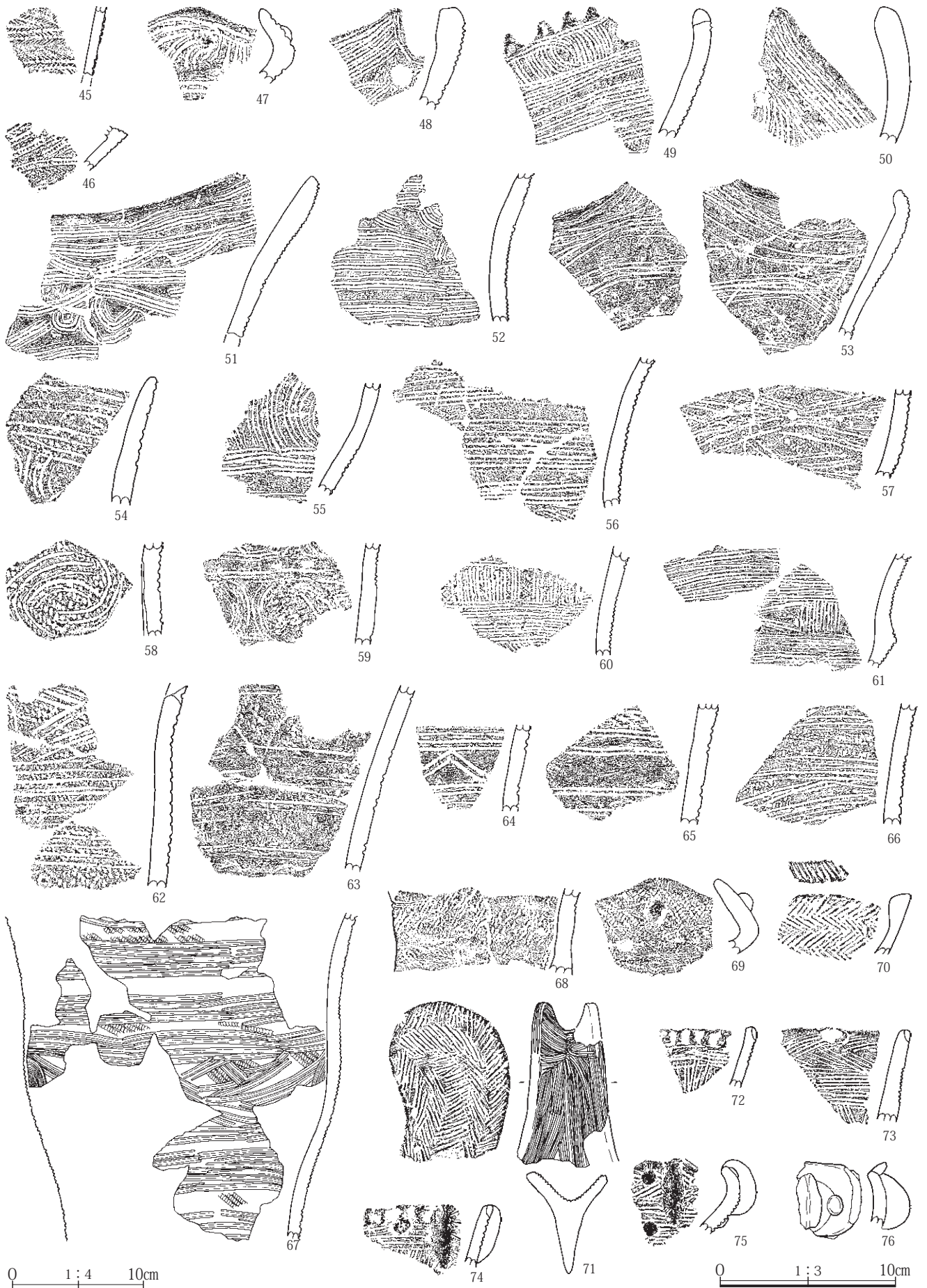
45区に遺構及び遺物が密集しているが、22区から条痕文系土器片や堀之内2式土器片が出土していることやほかの調査区でも前期から後期にかけての土器片が出土していることから遺跡全体に縄文時代早期から後期にかけて人々の生活があったことが考えられる。

第10表 調査区別縄文包含層出土土器

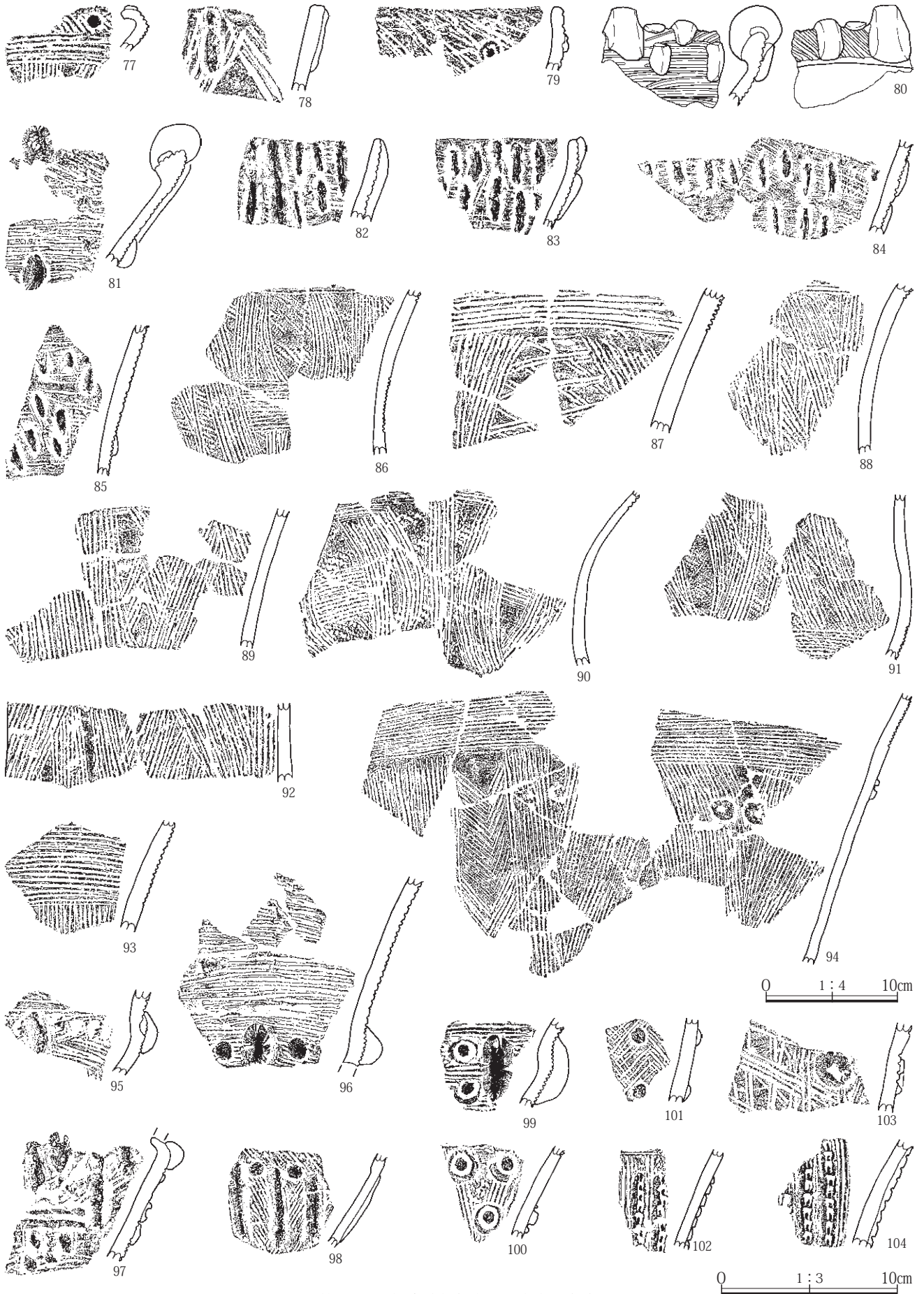
土器型式/調査区	22区	32区	33区	34区	45区	合計
撚糸文系					10	10
押型文系			1		4	5
田戸下層					4	4
条痕文系	3					3
花植下層					6	6
前期前葉					4	4
黒浜・有尾		1		2	93	96
諸磯a	1	10	2		28	41
諸磯b爪形					2	2
諸磯b浮線		1			153	154
諸磯b沈線	1	2	3	3	274	283
諸磯c	1	7	4	15	531	558
浮島・興津					16	16
前期後葉	1	1	4		402	408
前期後葉浅鉢						0
前期末葉					11	11
五領ヶ台					45	45
加曾利E					14	14
称名寺			1		7	8
堀之内1		2		1	205	208
堀之内2	1	7	2	3	260	273
後期前葉		13	9	1	640	663
加曾利B				2	2	4
合計	8	44	26	27	2711	2816



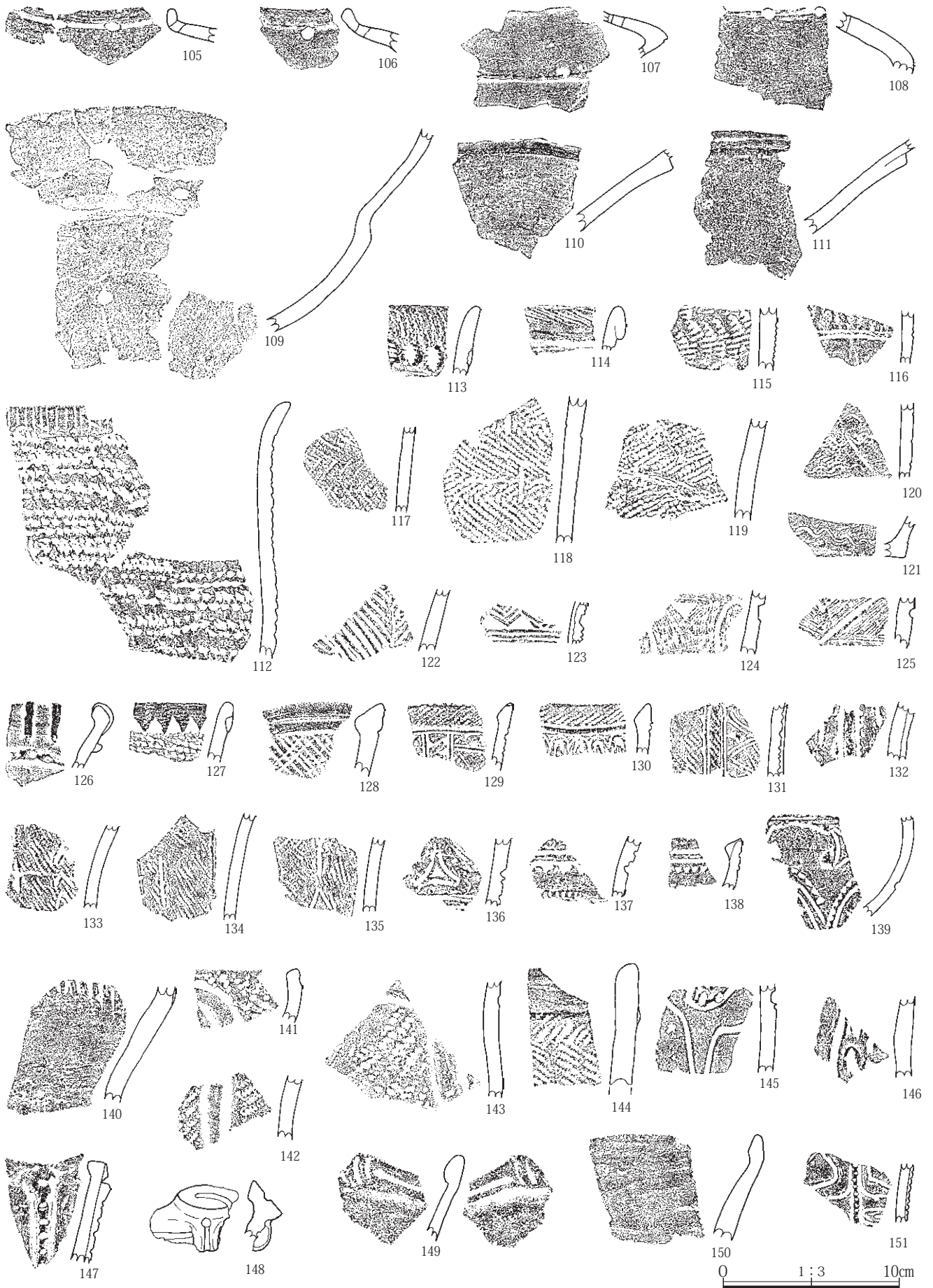
第129図 縄文時代包含層出土土器(1)



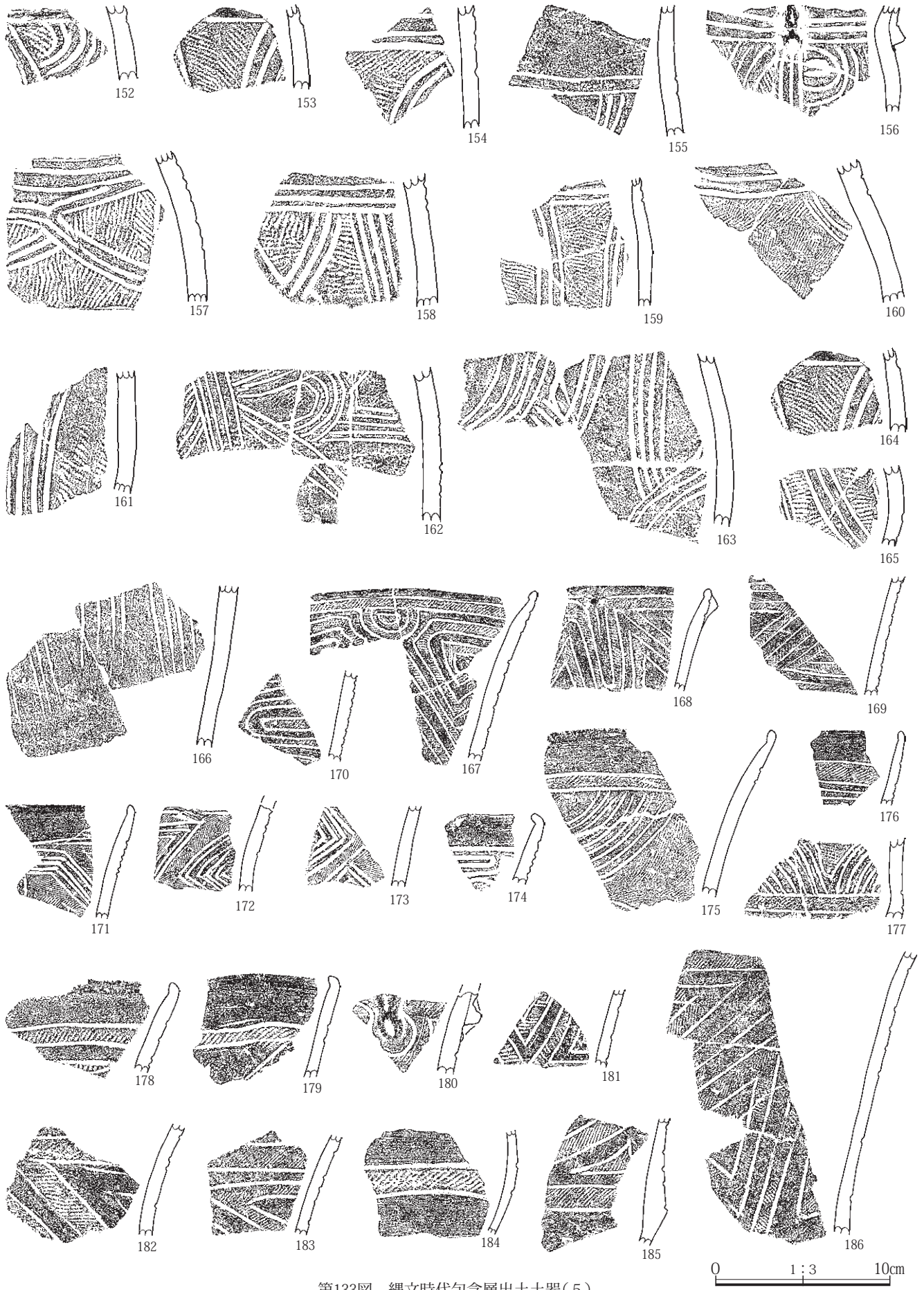
第130図 縄文時代包含層出土土器(2)



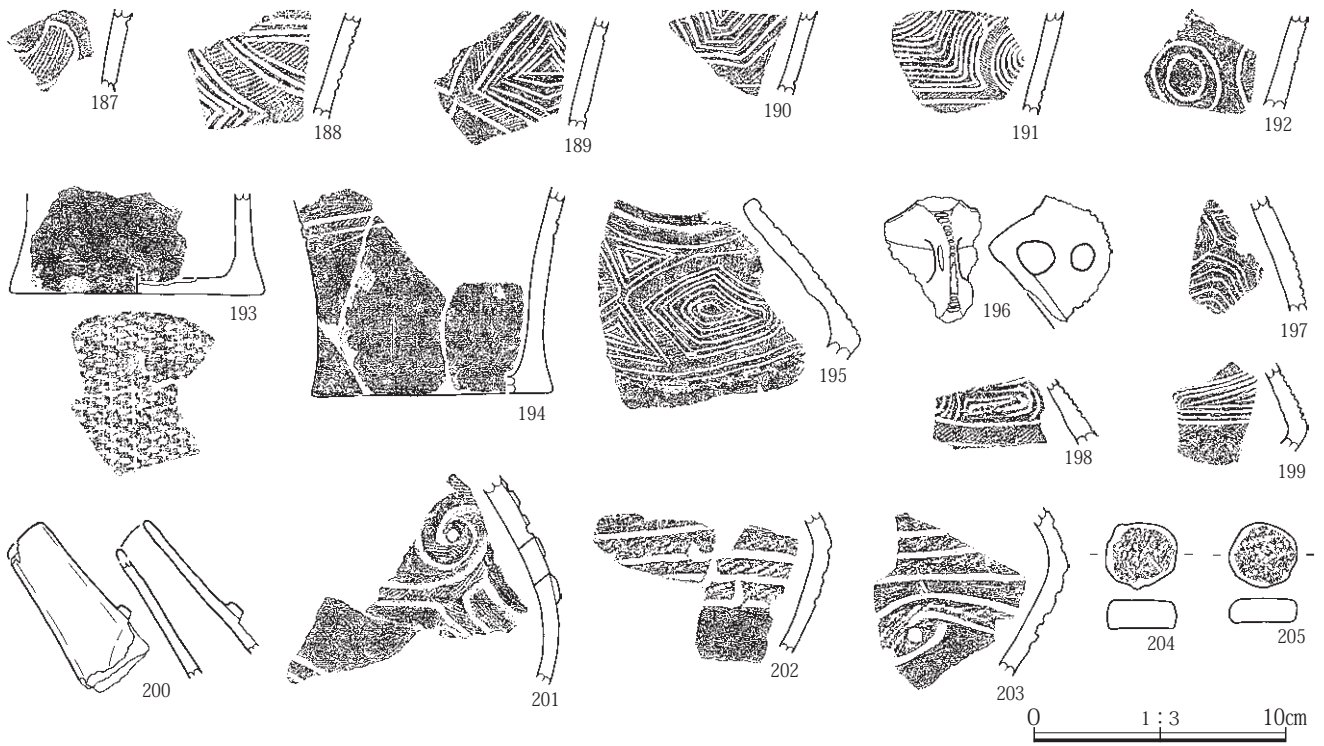
第131図 縄文時代包含層出土土器(3)



第132図 縄文時代包含層出土土器(4)



第133図 縄文時代包含層出土土器(5)



第134図 縄文時代包含層出土土器(6)

2. 石器

包含層(標準土層IV層)出土の石器として227点が、剥片類1231点が出土した。出土石器には撚糸文期スタンプ形石器や前期前葉期の直刃斧、中後期の分銅型石斧・多孔石など形態的特徴から帰属時期の分かるものもあるが、これらを除いて、個別石器の形態的特徴だけではその帰属時期を明らかにすることができないのが現状であり、同じ包含層から前期諸磯期や後期称名寺式期の土器片類が出土していることから、石器類についても同時期のものだろうと推測せざるを得ない状況にある。(第135～139図、PL.57・58)

(1) 器種組成・石材組成

出土石器227点は、石鏃等の剥片系石器187点・磨石等の礫石器類40点からなる。剥片系石器には打製石斧41点、磨製石斧5点、石鏃24点、石匙・石錐等の小型石器3点、削器等の加工具類82点などがあり、礫石器類には凹石・磨石類16点、敲石6点、石製研磨具・石製品(第11表)が少量あり、漁労具を除く各種石器がある。

石器石材は22種類が同定されている。(第12表)剥片系石器には黒色頁岩の使用頻度が高く、打製石斧から石鏃まで多様な器種に使われている。これと同じ傾向にある石材として頁岩がある。これに対し、火山ガラスという範疇で括られる黒色安山岩や黒曜石は石鏃等の小型石器に使用されたようである。チャートも同質(珪化)石材とすることができ、石鏃等の小型石器に多用されている。礫石器類には粗粒輝石安山岩が多用、これを補完するように火山岩類(花こう岩)が使われている。信州産黒曜石や三波川起源の片岩類、産地不詳の硬質頁岩・珪化木を除き、大半は利根川起源の石材を石器石材とすることが判明した。

(2) 分布状況・出土層位

包含層出土の石器・剥片類については、縄文期住居・土坑の分布域に多く出土した。縄文時代の住居・土坑は遺跡西側を流れる五代川から北東側に延びる谷を挟んだ両側の台地(34・45区)にあり、これに重なるように石器・剥片類も分布したとすることができる(第12表)。とりわけ、45区の出土量が多く、90%以上(1186点)の剥片類が出土したことになる。

出土層位は、基本土層のIV層(暗褐色土、第10図)とさ

れた暗褐色土で、上層の遺構精査および縄文期遺構確認に伴う包含層調査で出土したものが多数を占める。

(3) 各種石器について

打製石斧は、未掲載のものを含め41点が出土した。従来型の分類基準に従い、短冊型32点・分銅型7点・直刃斧短冊・撥・分銅3タイプに分類した。短冊型とした打製石斧は32点中25点が完成・使用状態にあり、7点が未製品であった。完成状態にある25点中20点が破損品で、激しい使用状況が窺えた。破損部位は刃部破片が10点(頭部破片5点・胴部破片3点)と半数を占めた。こうした破損部位の在り方は基本的には石斧使用法を反映したものとされるだろうが、頭部破片も5点ほどあり、これについては石斧加工時や刃部再生等による破損も反映している可能性が否定できない。石器石材は25点中12点が黒色頁岩、10点が細粒輝石安山岩を用いていたが、こうした在り方は近接する新田塚遺跡でも確認されている。分銅型とした打製石斧は5点(このうち3点は破損品)とも完成状態で、未製品とされるものはない。

黒色頁岩製の短冊型石斧12点は、いずれも完成状態にある。同・石材製石斧の遺跡内製作・使用を想定した場合、原石から大型剥片を取り出し加工するか、別地点で剥離した大型剥片を遺跡に持ち込み加工するか、いずれかであろう。石斧製作に伴う不要剥片類は、石斧の加工が形状修正的であることを考えれば、相当量に達するはずであるが、出土剥片類には打製石斧の調整剥片類が少なく、幅広の平坦打面を有する通常剥片の類が圧倒的多数を占める。こうした状況を踏まえるならば、石斧類については遺跡内では装着する際の最終加工、刃部再生等の石斧メンテナンスに係る作業、不足した石斧類の補充が行われただろうと考えておきたい。

石鏃は24点中14点が欠損品であり、黒曜石製のものが主体を占めた。石鏃の遺跡内製作を想定した場合、一般的に石鏃製作に伴う未製品・碎片類の有無・量比で判断される。五代砂留遺跡群では、碎片類の出土量が少なく、石鏃を遺跡内製作した積極的な根拠はないが、破損率が高く、在地・非在地石材に係らず破損品が存在することから、石鏃は遺跡製作の石器とすることができる。また、破損品の存在は不足した狩猟具(石鏃)について自ら調達した道具とすることができる。

楔形石器は、黒曜石・チャートと「器種：石材関係」の

関係性が強い。本遺跡から検出された楔形石器の石材は黒曜石1点、チャート2点でその関係性の傾向にある。

削器類は82点(加工痕ある剥片62点を含む)が出土した。削器類としたものは典型的な遺跡内製作・使用の石器で、剥片形状に即して「縦長剥片：両側縁」「横長・幅広剥片：剥片端部」に刃部が形成されることが多い。削器類には定型化したものはないが、それは削器が遺跡内で必要に応じて作られる「便宜的石器」であり、刃部再生により徐々に形態が変わる「リダクション型」の石器であるためである。加工痕ある剥片としたものには、その製作意図が打製石斧・削器・石鏃と推測されるものがあり、加工の連続性や組織性の点で削器とするのが躊躇されたものの62点中39点(62.9%)が削器類の製作を意図したも

のと捉えた。器種認定する際、同様な理由で分類が妥当か躊躇されたものの62点中9点(14.5%)が打製石斧、7点が石鏃、9点が製作意図不明と捉えた。削器類は黒色頁岩が圧倒的多数を占める。加工痕ある剥片については、黒色頁岩に次いで細粒輝石安山岩・黒色安山岩・黒曜石が多い。

凹石・磨石は量的に拮抗しており、両者が機能的に重複したものであることが分かる。石材は凹石が粗粒輝石安山岩7点・かこう岩1点、磨石が粗粒輝石安山岩6点・かこう岩2点である。

孔2を穿つ錘飾がある。帰属時期については不明だが、既存の出土例からみて、前期諸磯期に帰属する可能性が高い。

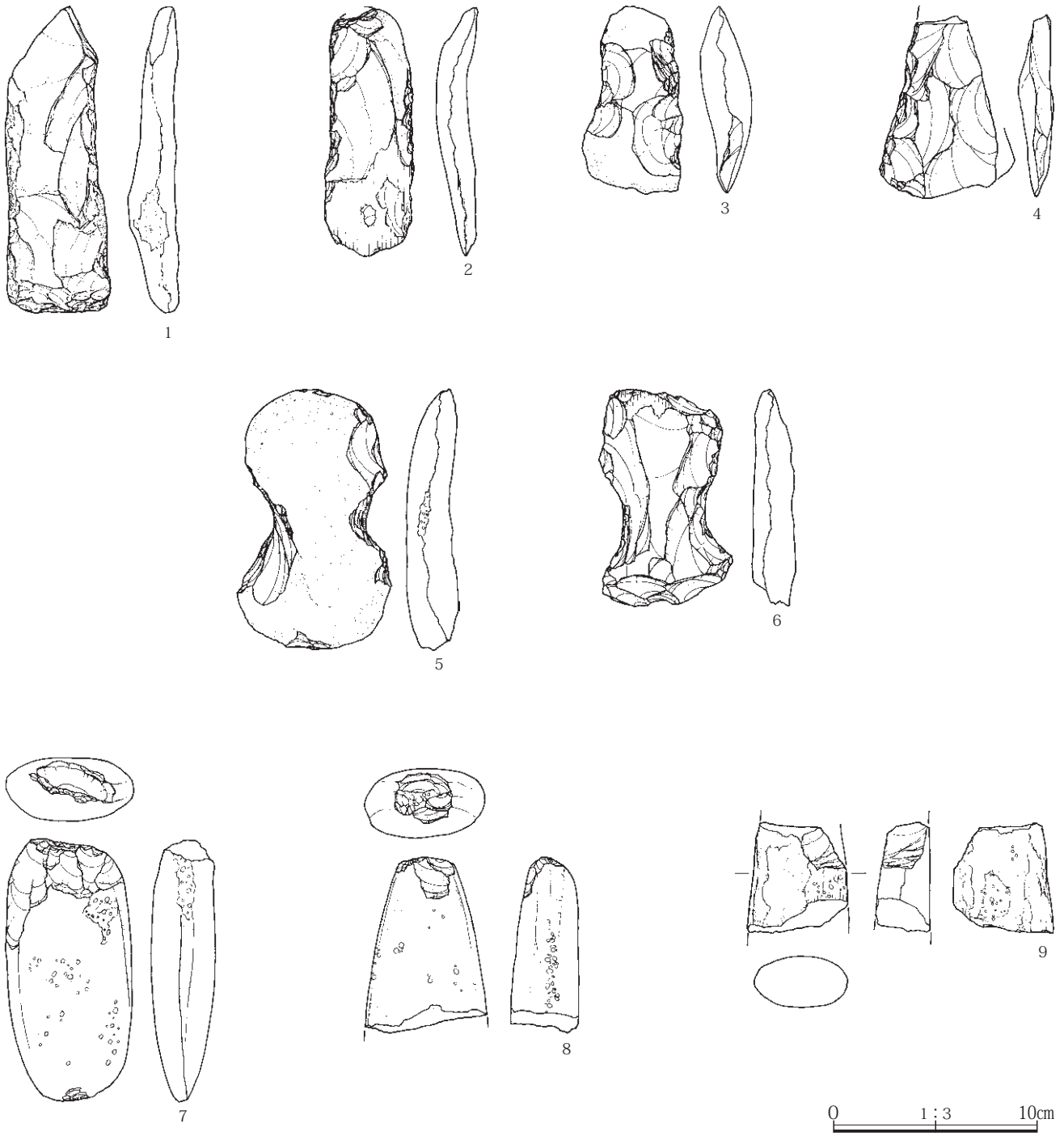
第11表 縄文包含層出土石器・石材

器種/石材	黒頁	頁岩	珪頁	砂岩	黒安	黒曜石	チャー	ホル	細安	灰安	粗安	溶凝	花崗岩	変質玄	珪準	軽石	珪化	総計
打製石斧	22	1						1	15	1					1			41
磨製石斧											1			4				5
石鏃	4				1	13	5										1	24
石匙		1				1												2
石錐							1											1
楔形石器						1	2											3
削器	15	4							1									20
石核	16				12	4	2											34
加工痕	41	1	2	2	4	4	2	1	5									62
凹石												7	1					8
磨石											6		2					8
敲石			1	2					1		1			1				6
石皿											1							1
台石											1							1
スタンプ形石器									1		1			1				3
多孔石											3							3
石製品		1														1		2
研磨具											1	1						2
砥石				1														1
総計	98	8	3	5	17	23	12	2	23	1	22	1	3	6	1	1	1	227

黒頁=黒色頁岩・珪頁=珪質頁岩・黒安=黒色安山岩・チャー=チャート・ホル=ホルンフェルス・細安=細粒輝石安山岩
灰安=灰色安山岩・粗安=粗粒輝石安山岩・変質玄=変質玄武岩・溶凝=溶結凝灰岩・珪準=珪質準片岩・珪化=珪化木

第12表 調査区別縄文包含層出土石材

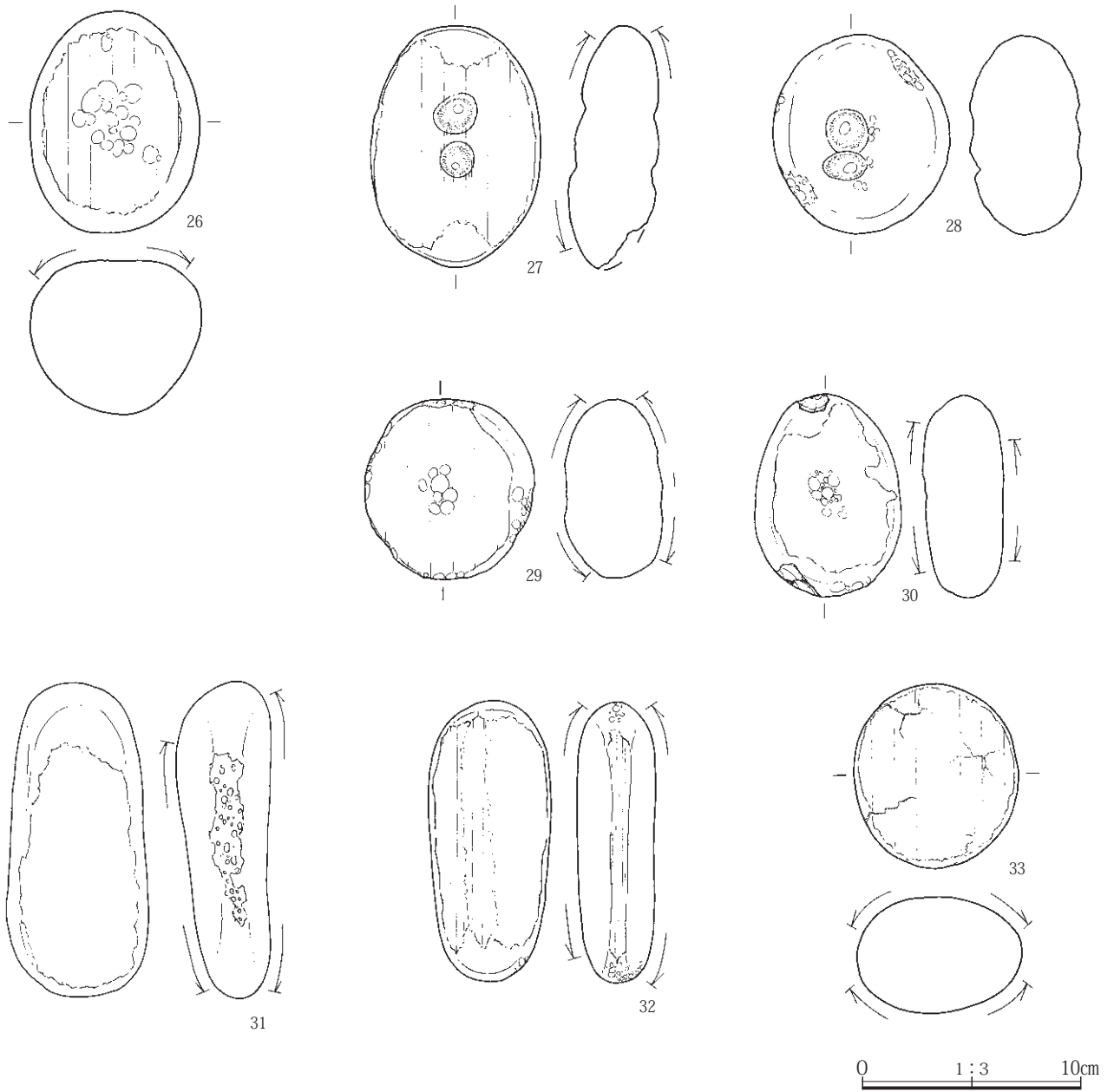
石材/調査区	21区 (点数・重量)		22区 (点数・重量)		32区 (点数・重量)		33区 (点数・重量)		34区 (点数・重量)		45区 (点数・重量)		合計 (点)	合計 (g)
黒色頁岩	3	53.6	9	220.8	4	178.8	10	185.0	4	62.2	581	7050.7	611	7751.1
頁岩			2	6.9							26	278	28	284.9
珪質頁岩							1	8.1			10	152.5	11	160.6
砂岩	1	7.0									5	62.3	6	69.3
黒色安山岩			1	3.4	1	32.1	4	140.3			271	1678.1	277	1853.9
黒曜石							1	1.1			132	138.1	133	139.2
硬質頁岩											3	5.5	3	5.5
赤碧玉											1	5.1	1	5.1
褐色碧玉									1	2.1	1	2.2	2	4.3
チャート							1	7.9			118	464.5	119	472.4
ホルンフェルス			1	20.6							10	227.2	11	247.8
細粒輝石安山岩											15	137.1	15	137.1
灰色安山岩											1	75.7	1	75.7
変質玄武岩											10	214.9	10	214.9
デイサイト									1	8.5	2	6.7	3	15.2
緑色片岩													0	0
合計	4	60.6	13	251.7	5	210.9	17	342.4	6	72.8	1186	10499	1231	11437.0



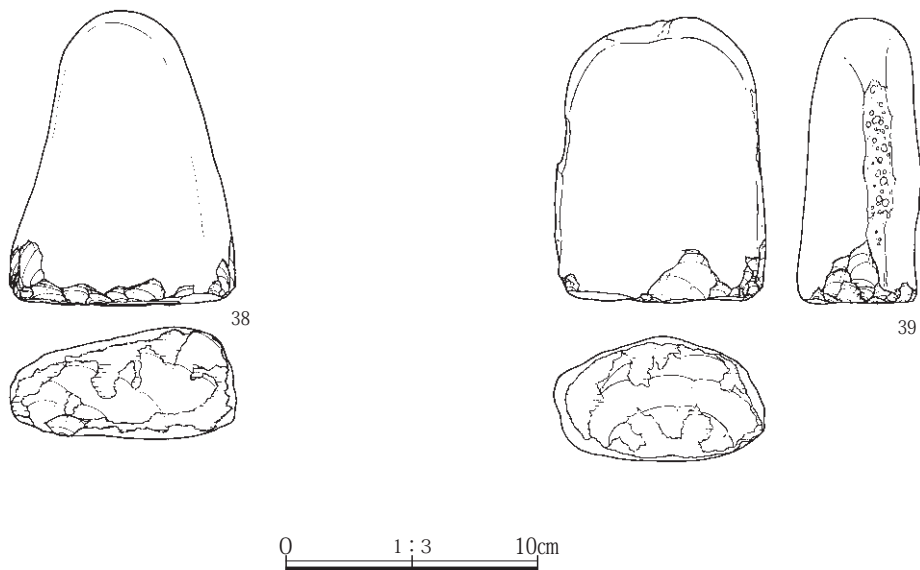
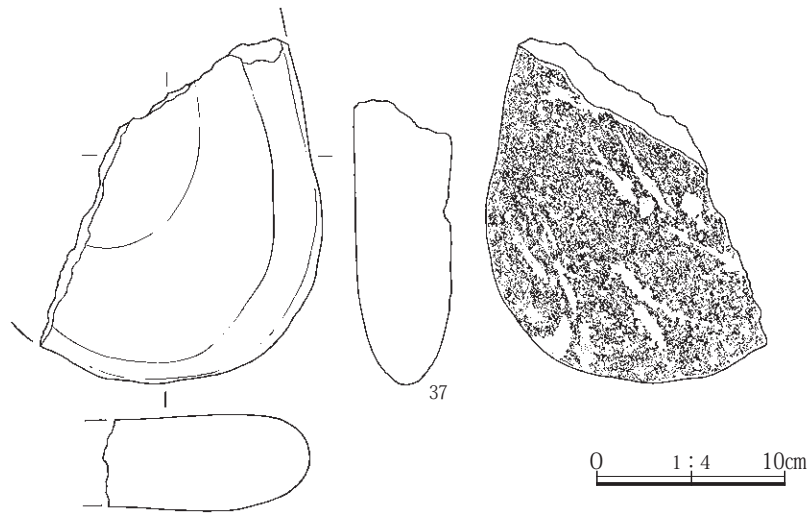
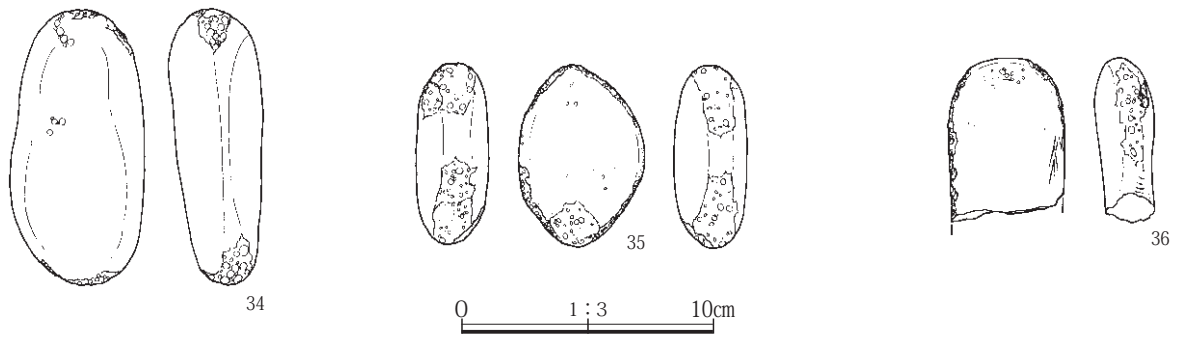
第135図 縄文時代包含層出土石器(1)



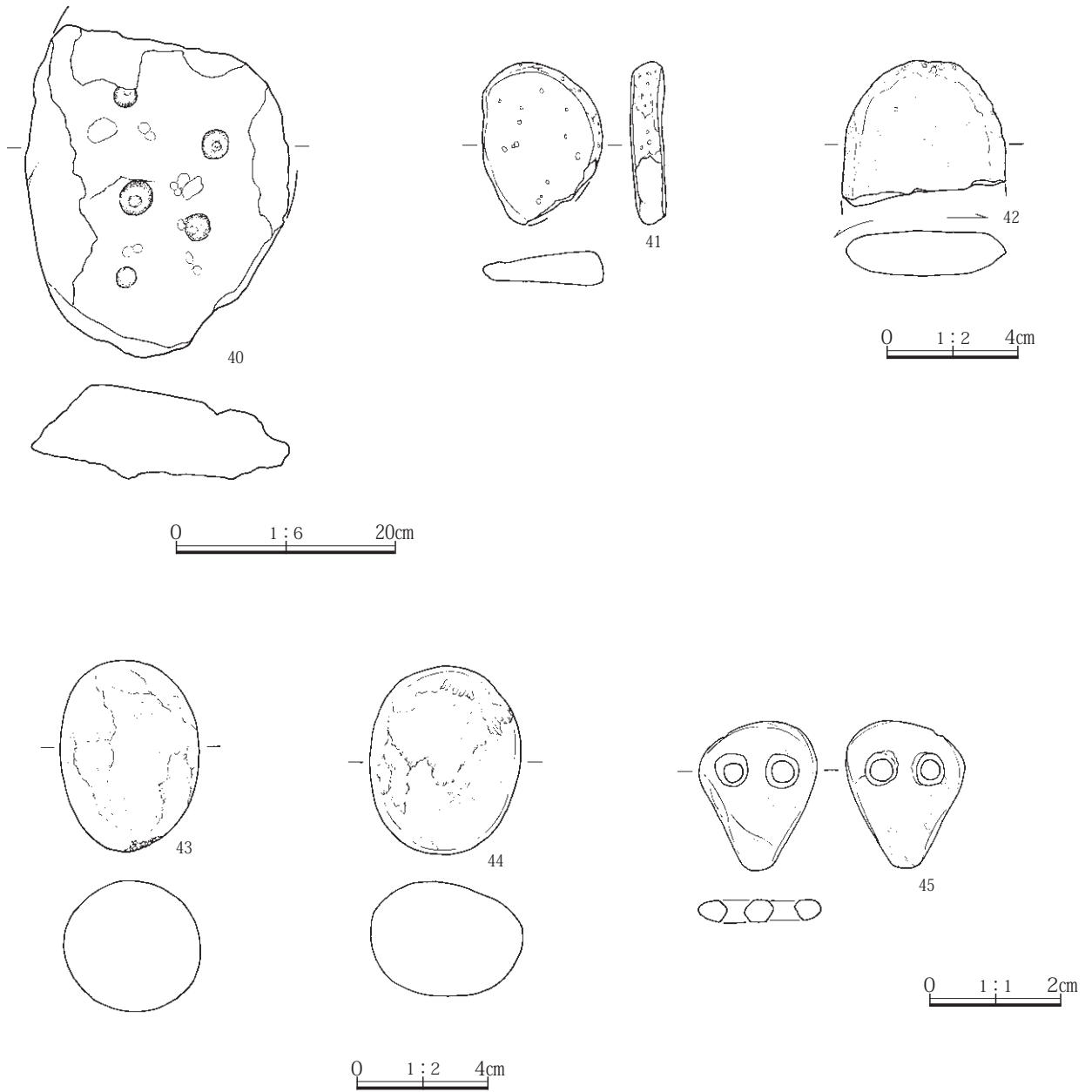
第136図 縄文時代包含層出土石器(2)



第137図 縄文時代包含層出土石器(3)



第138図 縄文時代包含層出土石器(4)



第139図 縄文時代包含層出土石器(5)

第10節 遺構外出土遺物

五代砂留遺跡群では、縄文包含層以外に遺構外から土師器片・須恵器片などが出土した。出土点数は1404点である。内訳は土師器片1089片・須恵器306片・灰釉陶器8片・金属器1点である。器種別・調査区別の出土数は第13表・第14表の通りである。(第140・141図、PL.58・59)

金属器は45区調査区南壁から返刺を持つ十字鑄造銅鏃(第141図22)が出土した。4世紀代の遺物と考えられ、県内では頼母子古墳例に続く、2例目の出土である。この遺物に関しては第5章1節で別途考察している。

図示したのは土師器埴(第140図1)、古墳時代と考えられる甕(第140図2～5)、9世紀代の須恵器(第140図6～9・第141図10～11・16～17)、9世紀後半から10世紀にかけての灰釉陶器(第141図12～15)、9世紀代の

甕(第141図18～19)、鞆片(第141図20～21)である。鞆片は、一つは22区(27号住居南)、もう一つは出土位置不明である。検出された鍛冶遺構で使われていたものであると断定すべき根拠は無いが、鞆が検出されたこと自体に矛盾は無い。

第140図6～9及び第141図21は27号住居南側から出土した。調査当初住居であろうと考えたが、住居プランが確認されず遺構外遺物としたが、住居があり攪乱等により住居壁までが壊されてしまったと考えられる。

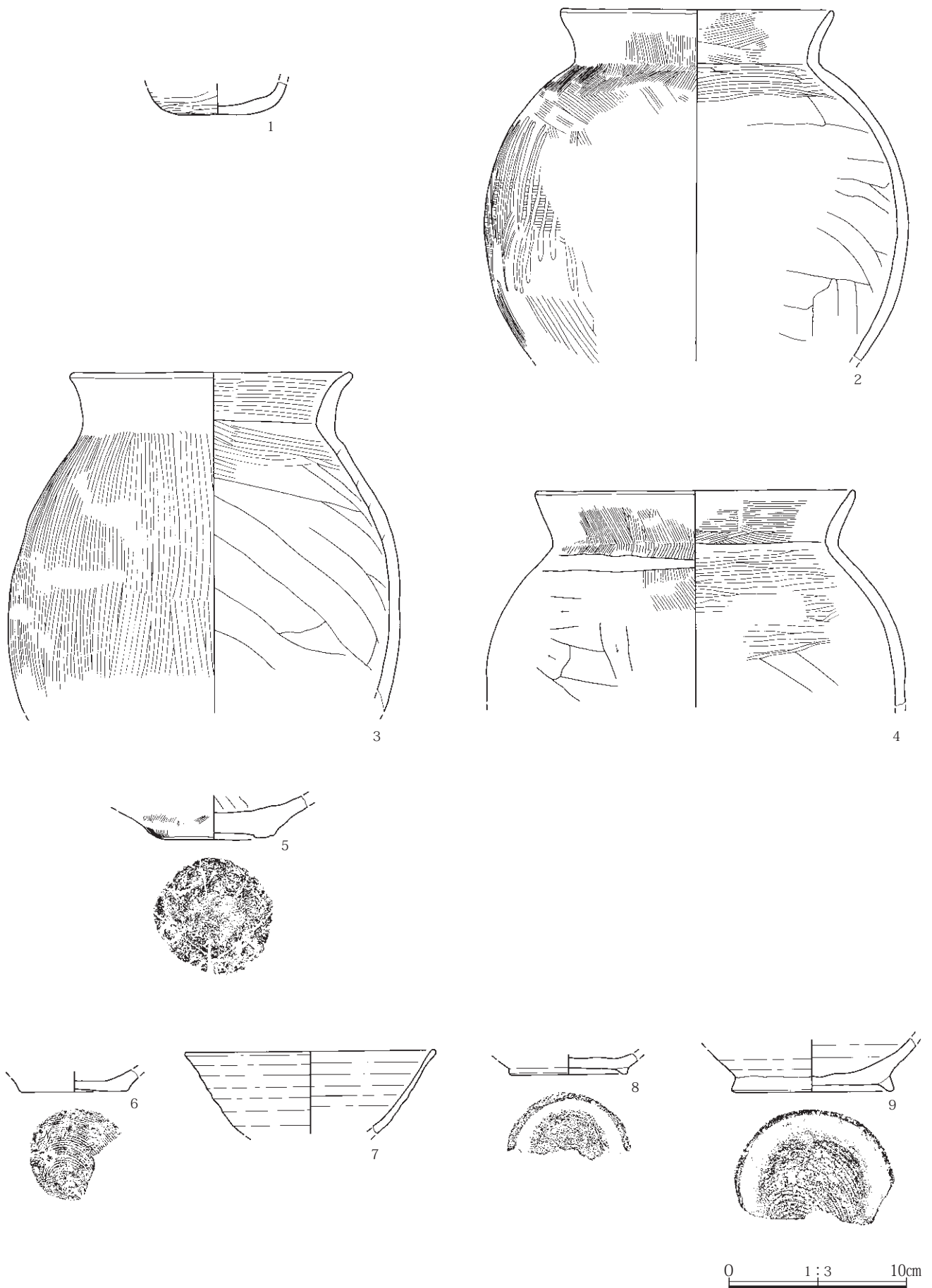
分布傾向は45区が多く、出土遺物の73.8%を占めている。45区から検出された遺構は縄文時代の住居・土坑、古墳時代の住居・溝、中世と考えられる水田である。しかし遺構外遺物をみても、古墳時代前期の遺物と考えられるS字状口縁台付甕片・高杯片・器台片などのほかに平安時代の遺物であるコの字甕片や須恵器・灰釉陶器が出土している。45区にも平安時代の遺構が存在していた可能性も考えられる。

第13表 調査区別遺構外出土土師器

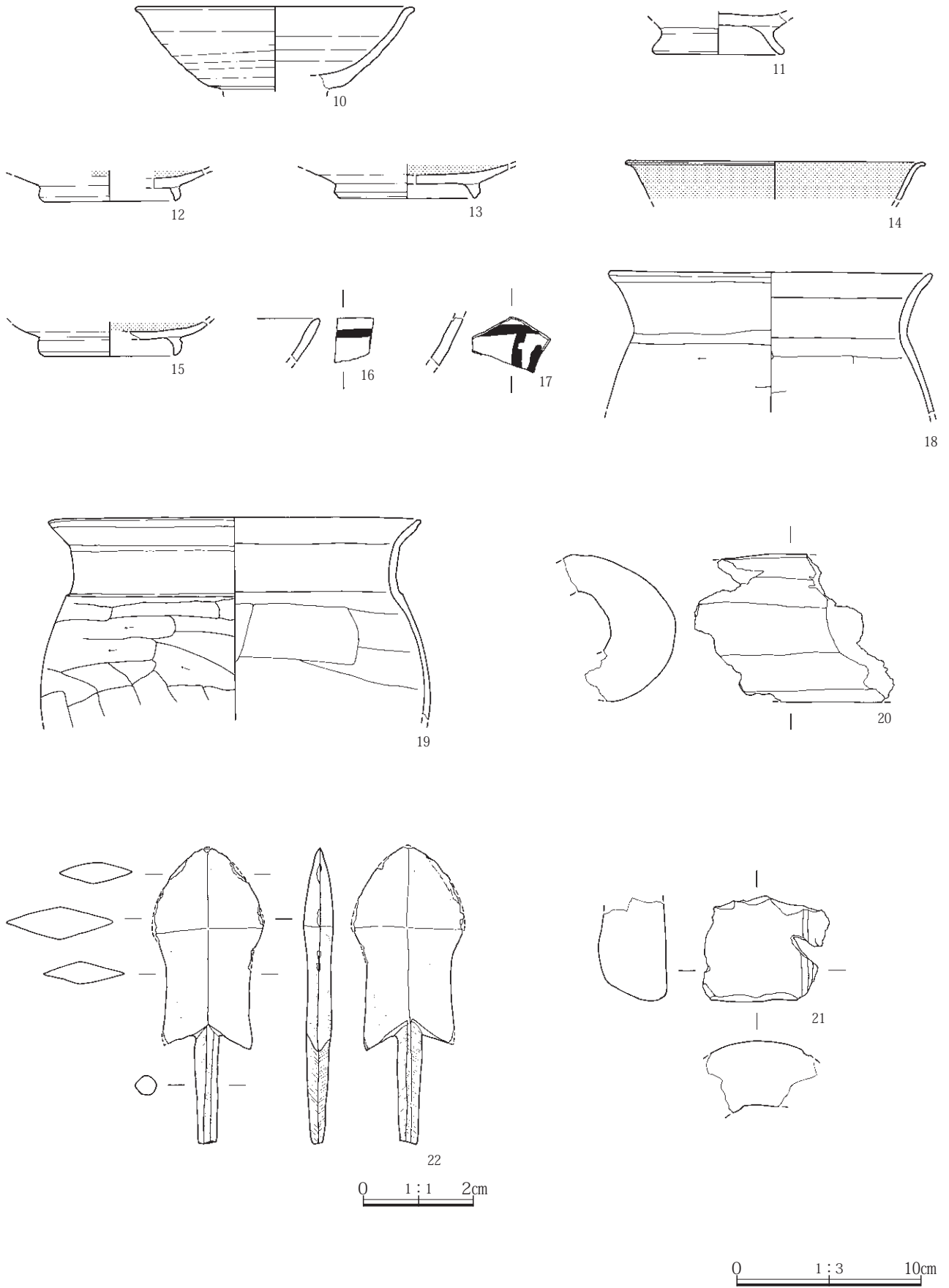
調査区/器種	壺	台付甕	S字状口縁台付甕	高杯	器台	埴	小型壺	小型甕	ミニチュア	杯	甕	コの字状口縁甕	合計
22区				1						1	13		15
32区											7	8	15
33区		1								16	78	166	261
34区													0
45区	6		11	5	2	19	4	3	2	81	549	116	798
合計	6	1	11	6	2	19	4	3	2	98	647	290	1089

第14表 調査区別遺構外出土須恵器・灰釉陶器

調査区/器種	須恵器杯	須恵器椀	須恵器皿	須恵器甕	須恵器瓶	須恵器壺	灰釉陶器杯	灰釉陶器椀	合計
22区	1			6			1		8
32区	2	2	2						6
33区	20	25	9		5	1		2	62
34区	1								1
45区	28	91	1	61	51		5		237
合計	52	118	12	67	56	1	6	2	314



第140図 遺構外出土遺物(1)



第141図 遺構外出土遺物(2)

第4章 自然科学分析

第1節 五代砂留遺跡群出土鉄関連資料の考古学的検討

1. 分析に至る経緯

五代砂留遺跡群では、東側調査区の西端側で確認された第284号～第286号土坑、第299号～第300号土坑の遺構確認面において、多くの鍛造剥片と鉄滓が認められた。この状況から、鉄器生産に関わる遺構の性格が推測された。調査の結果、当初の推測通り、覆土内からは多量の鍛造剥片と少数の鉄滓(椀形滓)、鍛造に伴う台石などが出土し、部分的に酸化被熱変色した部分が発見された。

この状況から、当該遺構は鉄器生産に関わる遺構、小鍛冶遺構であろうことを所見として得た。

調査区内で発見された平安時代の遺構は、9世紀後半から10世紀初頭頃に限定される住居跡が主体であった。しかし、住居跡では小鍛冶生産に伴う具体的な遺物等が未発見であった。

住居跡の調査では(埋土の掘り下げ段階)、少数の鉄器の出土のみで、小鍛冶に伴う具体的な遺物の出土が無かった。このことから、調査の方針を若干変更し、床面直上層の埋土を精査し、鍛造剥片等の遺物の発見に心掛けた。この結果、第2号住居跡において、微量な鍛造剥片・湯玉を発見することが出来た。しかし、量的には小鍛冶生産を直接に示せる出土量ではなかったことから、小鍛冶遺構は、第284号～第286号土坑、第299号・第300号土坑の位置を中心とする限定的な範囲の中に分布し、そこで鉄器生産が行われていたことが確認された。

また、調査区の近傍において、耕地の断面に露呈されている住居跡の埋土上層部から、羽口・鉄滓・鍛造剥片等が採集された。このことから、遺跡地周辺でも鉄器の生産が確認できている。

今回の分析は、上記所見と調査結果から以下の点について確認・精査することを目的とした。

- 1 鍛造剥片と鉄器の成分分析を通して、双方の主原料の関係を確認する。

- 2 鉄滓と鉄器の成分分析を通して、双方の主原料の関係を確認する。

上記の2点について岩手県立博物館の赤沼英男氏に分析を依頼し、その結果は以下の通りである。

2. 出土鉄関連資料の金属考古学的調査結果

平安時代の住居跡のうち、10号住居からは鉄鎌、および釘などの鉄器に加え、小鉄塊が検出された。2号住居跡、285号土坑跡からも剥片状資料が、284号土坑および300号土坑からは、剥片状資料または鉄滓が見出されている¹⁾²⁾。これらの調査結果は日常生活における鉄器使用のみならず、遺跡内において、利用目的を果たした鉄器の再加工、あるいは外部からもたらされた原料鉄(鉄器を製作するための素材鉄)を処理し、目的とする鉄器を製作する操作が行われていた可能性が高いことを示している。後述するように、検出された剥片状資料の中には、鉄滓が混在または固着しているものもみられる。剥片状資料を加熱・鍛打する際に排出された資料で、遺跡内で加熱・鍛打による鉄の純化操作および鉄器製作が行われていた可能性がきわめて高いことを示している。

10号住居跡から出土した小鉄塊の中には、鑄造鉄器である鉄鍋が錆化した際に生ずる、細かな亀裂が発生した資料が確認された。遺跡内で鉄銑を脱炭し鋼を製造する操作が行われていた可能性を考察することができる。

平安時代に五代砂留遺跡群において使用されていた鉄器の組成上の特徴、および遺跡内における鉄関連生産活動の実態を解明することを目的として、五代砂留遺跡群出土鉄器、鉄塊、剥片状資料、および鉄滓の金属考古学的調査を行った。以下に、調査結果を報告する。

3. 調査資料

調査資料は第142図～第144図に示す鉄器5点(No. 1～4、No. 7)、第145図・第146図に示す鉄塊2点(No. 5・6)、第146図・第147図に示す剥片状資料4点(No. 8～10、No.14)、および第148図・第149図に示す鉄滓4点(No.11～13、No.15)である。

No. 5 およびNo. 6 は磁性が強く、重量感のある資

料で、No. 5 資料表面には多数の亀裂が発生していた。No.11～13、No.15は椀形滓で、4 資料の凸部には木炭の固着や噛み込みはみられない。4 資料とも凹面は長軸13～15cm、短軸8.5～10cmとほぼ同じ大きさである。No.13凸部は青灰色を呈し、溶融または部分溶融した砂状物質で覆われている。

4. 調査試料の抽出

鉄器からの調査試料は、第142図～第144図に示す矢印の箇所から、ダイヤモンドカッターを装着したハンドドリル(以下、ハンドドリルという)を使って抽出した。抽出した0.1～0.2gの試料を2分し、大きい方を組織観察に、小さい方を化学成分分析に用いた。No. 2およびNo. 7については第142図および第144図に示す2ヶ所から試料を抽出した。剥片状資料については採取された各資料群の中から2資料を選別し、それぞれを2分した後、一方を組織観察に、もう一方を化学成分分析に供した。

5. 調査方法

鉄器および鉄塊から抽出した組織観察用試料はエポキシ樹脂に埋め込み、エメリー紙、ダイヤモンドペーストを使って研磨した。No. 5から抽出した試料(No. 5 Sa₁)およびNo. 7から抽出した2試料(No. 7 Sa_{1.2})にはメタルが残っていたので、研磨面をナイトール(硝酸2.5ml、エチルアルコール97.5mlの混合液)で腐食した後、金属顕微鏡で観察した。次に、1 μmのダイヤモンドペーストを使って腐食面を再研磨し、カーボン蒸着した後、No. 5 Sa₁の代表的組織およびNo. 7 Sa_{1.2}のメタル中に見出された代表的な非金属介在物を、エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー(EPMA:日本電子株式会社・JXA8230)で分析した。

錆化した試料についてはダイヤモンドペーストによる研磨終了後、金属顕微鏡で顕鏡し、混在する非金属介在物をEPMA分析した。剥片状資料および鉄滓から抽出した資料も鉄器および鉄塊と同様の方法で研磨し、得られた研磨面を金属顕微鏡で観察した。さらに、混在する鉱物相をEPMA分析した。

化学分析用試料は表面に付着する土砂、錆をハンドドリルで丹念に削り落とし、エチルアルコール、アセトンで超音波洗浄した。試料を130℃で2時間以上乾かし、

メタルを除く試料についてはメノウ乳鉢で粉碎した後、メタルについては直接テフロン分解容器に秤量し、塩酸、硝酸、およびフッ化水素酸を使って溶解した。溶液を蒸留水で定溶とし、鉄器、鉄塊、および剥片状資料についてはT.Fe(全鉄)、Cu(銅)、ニッケル(Ni)、コバルト(Co)、マンガン(Mn)、リン(P)、チタン(Ti)、ケイ素(Si)、カルシウム(Ca)、アルミニウム(Al)、マグネシウム(Mg)、バナジウム(V)、ヒ素(As)、およびいおう(S)の14元素を、高周波誘導結合プラズマ発光分光分析法(ICP-AES法:パーキンエルマー株式会社 Optima 4300)で分析した。No.11～13、およびNo.15鉄滓から抽出した試料については上記14化学成分のうちSを除く13化学成分を、同様の方法で分析した。

6. 調査結果

6-1 鉄器・鉄塊から抽出した試料の調査結果

No. 1から抽出した試料のマクロ組織は錆化が進んでいて、いたるところに空隙や亀裂がみられ、刀身断面中央部は失われていた(第142図)。マクロ組織領域(Reg.1)内部のEPMAによる反射電子組成像(BEI)にはほとんどところに、微細な線状結晶(Cm)が層状に並び、島状領域を形成した組織、または結晶Cmの欠落孔によって構成される島状組織が観察された(第142図)。含有される元素濃度分布のカラーマップによって、結晶CmはFeおよび炭素(C)を主成分とすることが確認された。これまでに行われた出土鉄器の組織解析結果に基づけば、この組織はパーライト中のセメンタイト、またはセメンタイトが欠落して生じた組織、とみることができる(佐々木・村田1984)。マクロ組織に占める島状組織を錆化前の地金のパーライトとし、錆化による組織の膨張を無視したうえで、その分布状況を標準炭素鋼の腐食組織(佐藤知雄編1968)(東北大学金属材料研究所編1953)と比較すると、錆化前の地金は炭素量0.1～0.3mass%の鋼と推定される。ほぼ同様の組織はNo. 3およびNo. 4にも見出され(第143図)、No. 3については炭素量0.3～0.4mass%、No. 4については0.2～0.3mass%と判定された。

No. 1、No. 3、およびNo. 4にはいずれにもFe-Ti-Al-Mg-V-O系化合物(XT:以下鉄チタン酸化物)が見出されていて(第142図・第143図)、EPMA分析によりNo. 4についてはチタノマグネタイト(Tmag)に近い組成であるこ

第4章 自然科学分析

とが分かった(第18表)。

No. 7 Sa₁およびSa₂から抽出した試料は共にメタルで構成されていたので、ナイタールで腐食した。マクロエッチング組織から明らかのように、Sa 1 およびSa 2 から抽出した試料には炭素濃度分布に若干の不均一さがみられる。Sa 1 領域(Reg.1)内部および領域(Reg.2)内部のミクロエッチング組織は、パーライトとセメンタイト組織によって構成されていた(第144図)。前者は炭素量0.3～0.4mass%の鋼、後者は炭素量0.2～0.3mass%の鋼と推定される。Sa 2 領域(Reg.1)内部のミクロエッチング組織は炭素量0.1～0.2mass%の鋼によって構成されていた。領域(Reg.2)内部は炭素量0.3～0.4mass%の鋼からなり、針状に析出したフェライトが認められた。パーライト変態点以上の高温領域から空冷された鋼の可能性が高い。

No. 7 Sa₁およびSa₂から抽出した試料には灰色を呈するウスタイト(Wus)、暗灰色を呈する鉄かんらん石(Fa)、および微細粒子が混在するガラス化した領域(Ma)によって構成される非金属介在物が観察された(第144図、第18表)³⁾。

No. 2 から抽出した試料は錳化が著しく、錳化前の地金の状態を推定できる領域を見出すことができなかった。Sa 1 には(XT)、Fe-Mg-Si-O系化合物(XF)、および微細粒子が析出したガラス化した領域(Ma)からなる非金属介在物、およびFe-Mg-Si-O系化合物(XF)および微細粒子が混在したガラス化した領域(Ma)からなる非金属介在物が観察された。Sa 2 には鉄チタン酸化物(XT)と微細粒子が混在したガラス化した領域(Ma)からなる非金属介在物が見出された(第142図)。

No. 5 (第145図a₁)から抽出した試料のマクロエッチング組織にはいたるところに大小多数の空隙がみられた(第145図b₁)。領域(Reg.1)内部はパーライト中に黒色を呈する片状黒鉛(G)が析出した組織によって(第145図c 1・2)、領域(Reg.2)内部は初析セメンタイト(PCm)とパーライトからなる組織によって構成されていた(第145図d 1)。

No. 6 から抽出した試料には、錳化した領域に鉄滓が混在していた。錳化した領域にはわずかにセメンタイトの欠落孔(Cm)によって構成される組織をたどることができ、炭素量0.1～0.2mass%の鋼と推定された。混在す

る鉄滓は、ウスタイト(Wus)、鉄チタン酸化物(XT)、Fe-Mg-Si-O系化合物(XF)、および微細粒子が混在するガラス化した領域(Ma)によって構成されていた(第146図、第18表)。

6-2 鉄器・鉄塊から抽出した試料の化学組成

No. 7 Sa_{1,2}のT.Feはそれぞれ93.34mass%、93.20mass%で、メタルに少量の錳が混在した試料が分析されたことがわかる(第16表)。上記2試料からはそれぞれ0.020mass%、0.017mass%のCu、0.027mass%、0.024mass%のNi、および0.066mass%、0.061mass%のCoが検出された。No. 7 Sa₁には0.05mass%のSも含有されていた。No. 7 Sa_{1,2}については埋蔵環境からの微量成分の富化の可能性は乏しく、検出された微量成分は、製造時の地金そのものに含有されていた、とみることができる。

No. 1、No. 2 Sa_{1,2}、およびNo. 3～6 から抽出した試料のT.Feは、60.23～87.53mass%で、錳化した試料が分析に供されている(第16表・第17表)。上記7試料からは0.006～0.117mass%のCu、0.013～0.138mass%のCo、および0.06～0.22mass%のSが検出された。No. 1 からはそれぞれ0.117mass%、0.05mass%と他に比べ高レベルのCuおよびAsが分析されている。No. 1、No. 2 Sa 1・2、No. 3、およびNo. 4からは0.015～0.036 mass%のNi、No. 5・6からはそれぞれ0.14mass%、0.16mass%のPの含有が確認された。既述のとおり上記7試料は錳化した試料である。このような場合、微量成分の埋蔵環境下からの富化、あるいは埋蔵環境下への溶出を考慮する必要がある(佐々木・村田 1984)。

No. 2 Sa₁は同一資料から抽出したNo. 2 Sa₂よりも錳化が進んだ試料であるが、No. 2 Sa₂に比べCu、Ni、およびS含有量は低い。No. 2 とほぼ同じ埋蔵環境にあったとみなすことができ、No. 2 Sa₂に比べ錳化が進んでいるNo. 4 Sa 1 のCu、Ni、Co、およびS含有量もNo. 2 Sa₂に比べ低レベルであることをふまえると、上記4成分の埋蔵環境下から富化の影響は乏しいとみなすことができる。No. 2～4 とほぼ同じ埋蔵環境下にあったと解釈されるNo. 5・6 から検出された0.1mass%以上のPについても、同様のことが言える。No. 1 から検出されたAsについては、ほぼ同一の埋蔵環境下にあった鉄器および鉄塊の分析値がないため、上記と同様の議論はできない。

ただし、No. 2～7に含有されるAsがいずれも0.01mass%未満であることをふまえると、検出された0.05mass%のAsは錆化前の地金に含有されていた可能性が高い、と考えることができる。

6-3 剥片状資料から抽出した試料の組織観察結果

No. 8から抽出した試料のマクロ組織には大小多数の空隙がみられた。マクロ組織領域(Reg.1)内部のEPMAによる反射電子組成像(BEI)によると、ウスタイト(Wus)が濃密に析出していて、その周りは微細粒子が混在するガラス化した領域(Ma)によって構成されていた。ウスタイトの内部にはマグネタイトまたはヘマタイトと思われる暗灰色領域が析出していた(第146図、第18表)。マクロ組織領域(Reg.2)内部は、ウスタイト(Wus)および微細粒子が混在するガラス化した領域(Ma)からなる。No. 9マクロ組織領域(Reg.1)内部・領域(Reg.2)内部、No.10マクロ組織領域(Reg.1)内部、およびNo.14マクロ組織領域(Reg.1)内部・領域(Reg.2)内部はNo. 8マクロ組織領域(Reg.1)内部とほぼ同じ組織をとっていた(第146図・第147図、第18表)。

No.10マクロ組織領域(Reg.2)内部はFe-0系領域(I0：ウスタイトと思われる)、鉄チタン酸化物(XT)、鉄かんらん石(Fa)、および微細粒子が混在したガラス化した領域(Ma)によって構成されていた(第147図、第18表)。

6-4 剥片状資料から抽出した試料の化学組成

表5は剥片状試料の化学成分分析結果である。No. 8～10およびNo.14のT.Feは72.64～75.03mass%で、酸化鉄を主体とする試料であることを示している。4試料すべてに0.006mass%以上のCu、Ni、およびCoが含有されていた。

6-5 鉄滓から抽出した試料の組織観察結果

既述のとおり、No.13は椀形滓で、凸面には溶融または部分溶融した砂状物質が固着していた。凹面には、黒褐色および茶褐色を呈する鉄滓が混在していた。凸面Sa 1部から抽出した試料断面のマクロ組織は、厚さ2～3mmの暗灰色領域に灰色を呈する領域が固着した組織によって構成されていた。凸面Sa 1部マクロ組織領域(Reg.1)内部のEPMA反射電子組成像(BEI)には、溶融ま

第1節 五代砂留遺跡群出土鉄関連資料の考古学的検討

たは部分溶融した領域の中に、斜方輝石(Opx)および斜長石(P1)が混在した組織が観察された。灰色領域(Reg.2)内部はマグネタイト(Mag)、Fe-Al-O系化合物(Ha) (ハースナイトと推定される)、Fe-Mg-Si-O系化合物(XF)が微細粒子が混在するガラス化した領域(Ma)の中に析出した組織が見出された(第148図、第18表)。凹面Sa₂部マクロ組織領域(Reg.1)および領域(Reg.2)内部は、鉄チタン酸化物(XT)、Fe-Mg-Si-O系化合物(XF)、および微細粒子が混在したガラス化した領域(Ma)によって構成されていた(第148図)。

No.12およびNo.15から抽出した試料のマクロ組織領域(Reg.1)内部および領域(Reg.2)内部もNo.13Sa 1部マクロ組織領域(Reg.1)内部とほぼ同様の鉱物組成であった(第149図、第18表)。No.11から抽出した試料のマクロ組織領域(Reg.1)内部は、Fe-0系領域(I0)、チタノマグネタイト(Tmag)、鉄かんらん石(Fa)、微細粒子が混在するガラス化した領域(Ma)、領域(Reg.2)内部はFe-0系領域(I0)、鉄チタン酸化物(XT)、Fe-Mg-Si-O系化合物(XF)、および微細粒子が混在したガラス化領域(Ma)によって構成されていた。

6-6 鉄滓から抽出した試料の化学組成

第20表は鉄滓の化学成分分析結果である。No.13Sa₁を除く5試料のT.Feは32.03～65.29mass%、Siは4.18～19.8mass%、Alは1.67～7.48mass%である。6-5で述べた組織観察結果を考え合わせると、酸化鉄に富んだスラグが固化した資料とみることができる。

No.13Sa₁のT.Feは5.96mass%で、上記5試料に比べ低レベルである。構成鉱物が斜方輝石、斜長石、およびガラス化した領域であること、Si、Alがそれぞれ17.7mass%、7.19mass%と高レベルにあることを考慮すると、粘土状物質を主体とする試料と推定される。

7. 考察

7-1 組織観察結果に基づく鉄器・鉄塊・剥片状資料の分類

調査資料の金属考古学的調査の結果、No. 1、No. 3～5、およびNo. 7は垂共析鋼(炭素量0.5mass%未満の鋼)を素材とし製作されていることがわかった。No. 2

第4章 自然科学分析

は錆化が著しく、錆化前の地金の炭素量を推定できる組織を見出すことができなかった。非金属介在物組成を考慮すると、鋼を素材としていた可能性が高い。

No. 5は鉄鉄と過共析鋼からなる鉄塊、No. 6は亜共析鋼に鉄滓が混在した鉄塊、No. 8～10、およびNo.14は鍛造剥片で、No.10には酸化鉄、鉄チタン酸化物、鉄かんらん石、およびガラス化した領域からなる鉄滓が混在していることが判明した。No.11～13およびNo.15は椀形滓で、いずれの凸面にも木炭の混在や固着はみられなかった。No.13の凸部には斜方輝石や斜長石が混在した、熔融または部分熔融した粘土状物質が固着していた。火山灰が混在した砂状物質を起源とする砂を素材とする物質が凸面を覆っていた可能性が高い。

7-2 微量元素組成比に基づく調査鉄器・鉄塊・鍛造剥片の分類

古代および中世には複数の鋼製造法があった可能性が高い(赤沼・佐々木・伊藤2000)(赤沼・福田 1997)。いずれの方法が用いられたとしても、多段階の工程を経て目的とする鋼が製造されたことは間違いない。出発物質として同一の製鉄原料が使用されたとしても、製造方法や製造条件に応じ、最終的に得られる鋼の組成にはばらつきが生じる。錆化が進んだ資料の場合、埋蔵環境からの富化の影響についても検討する必要がある。従って、金属考古学的調査結果、とりわけ抽出した試料の組成分析結果を単純に比較するという解析方法では、実態を反映した資料の分類結果を得ることは難しい。製造法の如何に係わらず、地金を精度高く分類する方法の確立が必要である。

銅(Cu)、ニッケル(Ni)、およびコバルト(Co)の三成分は鉄よりも錆びにくい金属であるため、鉄中に取り込まれた後は、そのほとんどが鉄中にとどまると推定される。5-2で述べたとおり、調査資料におけるCu・Ni・Co三成分の埋蔵環境からの富化の影響は乏しい。従って、合金添加が行われていなかったとすると、その組成比は鋼製造法の如何に関わらず、製鉄原料の組成比に近似すると推定される。

第16表、第17表、および第19表の分析結果から0.005mass%以上のNiまたはCoを含有する⁴⁾、鉄器、鉄塊、および鍛造剥片の(mass% Co) / (mass% Ni) (本稿で

はCo*と記載)と(mass% Cu) / (mass% Ni) (本稿ではCu*と記載)、(mass% Ni) / (mass% Co) (本稿ではNi**と記載)と(mass% Cu) / (mass% Co) (本稿ではCu**と記載)をそれぞれ求めると、第16表、第17表、および第19表の右欄のとおりとなる。それらの値をプロットしたものが第150図a_{1,2}である。No. 5のNi含有量は0.004mass%で第150図へのプロットは見合わせるべきであるが、T.Feが87.53mass%でメタルと錆が混在した試料である。埋蔵環境下からの富化があったとしてもその影響は低レベルであることを考慮し、ここではあえてプロットした。

図では非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出された鋼製鉄器を黒丸(●)、非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出されなかった鋼製鉄器を白丸(○)、非金属介在物が見出されなかった鋼製鉄器を白三角(△)、鉄チタン酸化物が見出された鉄塊を黒四角(■)、鉄チタン酸化物が見出されなかった鉄塊を白四角(□)、鉄チタン酸化物が見出された鍛造剥片を黒菱形(◆)、鉄チタン酸化物が見出されなかった鍛造剥片を白菱形(◇)で示した。

第150図b_{1,2}および第150図c_{1,2}はそれぞれ第150図a_{1,2}の領域Aに分布するNo. 5、No. 8～10、およびNo.14の5試料、領域Bに分布するNo. 2 Sa₂、No. 3、およびNo. 4の3試料に含有されるNiおよびCo、CoおよびCuの相関を示したものである。いずれも相関係数9をはるかに上回っている。この結果は、領域Aおよび領域Bに分布する資料がそれぞれ同一の製鉄原料を用いて製造された地金を素材としている可能性が高いことを示している。No. 8～10、No.14の鍛造剥片は、No. 5鉄塊を加熱・鍛打した際に生成した資料とみることができる。第15表から明らかのように、No. 5は10世紀初頭に比定される10号住居跡、No. 8は9世紀後半に比定される2号住居跡、No. 9・10およびNo.14はいずれも9世紀後半に比定される284号土坑および285号土坑から出土している。この結果から、9世紀後半から10世紀初頭にかけて、五代砂留遺跡群にはある特定の地域から鉄器製作の素材となる原料鉄がもたらされていた可能性が高いことを指摘できる。調査した他の鋼製鉄器の中に、第150図a_{1,2}領域Aに分布する資料がみられないという事実は、調査鉄器がいずれも製品として遺跡内に搬入された可能性が高いことを示している。No. 2のSa₁およびSa₂部から抽出した試料の化学組成に差異がみられるという事実から

は、少なくとも当該鉄器が組成の異なる2種類の鋼を用いて製作された可能性が高いことが推定される。

第150図a 1ではNo. 1は右上に、第150図a 2ではNo. 1およびNo. 6の2試料は左上に分布する。これらはNo. 1およびNo. 6がそれぞれ、領域AおよびBに分布する資料とは別に遺跡内に運び込まれた製品鉄器、あるいは原料鉄とみることができる。No. 1には調査した他の鉄器よりも高レベルのCuおよびAsが含有されている。この結果も、上記したNo. 1の来歴に関する解釈を支持している。

第151図には10世紀代に比定される、群馬県前橋市富田下大日遺跡出土鉄器(Rf 1～Rf 5)、および同じく10世紀代に比定される群馬県前橋市富田漆田遺跡出土鉄器(Rf 6～Rf 10)の三成分比もプロットした。図から明らかなように、Rf 1(棒状鉄器)、Rf 2(有袋鉄器)、Rf 3-2(鉄鋤)、Rf 4(大形鉄鋤)、Rf 5(刀子)、Rf 6(釘)、Rf 7(鏝)、Rf 8(刀子)、Rf 9(鉄片)、およびRf 10(刀子)は領域Cに、Rf 3-1(鉄鋤)は領域Aに分布する。第152図から明らかなように、第151図領域Aに分布する12試料のNiとCo、NiとCuの相関係数は9以上である。五代砂留遺跡群13号住居跡出土有袋鉄斧は、第151図領域Cに分布する前橋市富田漆田・富田下大日両遺跡出土鉄器と同じ地域で産出された製鉄原料を用いて製造された鋼を素材としていた可能性が高い。

第150図～第152図の調査結果から、以下の5点を指摘できる。

- ① No. 8～10およびNo. 14鍛造剥片、No. 5鉄塊に含有されるCu・Ni・Co三成分比、およびNo. 2棟部(Sa₂)、No. 3、およびNo. 4から抽出した試料に含有されるCu・Ni・Co三成分比はそれぞれ、ほぼ同じである。上記6試料はほぼ同じ組成の製鉄原料を起源とする、と推定される。
- ② No. 5およびNo. 6鉄塊のCu・Ni・Co三成分比には明瞭な差異がみられる。No. 5・6が同一遺構から出土していることを考え合わせると、10世紀初頭、遺跡内には異なった地域から原料鉄が運び込まれていた可能性がある。
- ③ No. 7有袋鉄斧は10世紀代に比定される富田下大日遺跡・富田漆田遺跡出土鉄器とほぼ同じ組成の原料鉄を用いて製作された可能性が高い。No. 7有袋鉄

斧は鉄チタン酸化物が見出されていない、という点で富田下大日遺跡・富田漆田遺跡出土鉄器の非金属介在物組成とは異なるが、これは後述する原料鉄の処理方法、とりわけ銑鉄の脱炭方法に起因すると思われる。

- ④ No. 1およびNo. 2の刃部から抽出した試料のCu・Ni・Co三成分比は、調査した他の2点の鉄器および鉄塊、4点の鍛造剥片とは大きく異なる。No. 1およびNo. 2の刃部には異なった上記6資料とは組成の異なる地金が配されていた可能性が高い。
- ⑤ No. 2は異なった組成の地金を用いて製作された可能性が高い。参考資料とした富田下大日遺跡出土鉄鋤についても同様のことが言える。

7-3 推定される鉄関連生産活動

現在提案されている古代および中世の鋼製造方法は以下の2つに大別される。一つは、鉄中に相当量の鉄滓が混在した組成不均一な鉄を加熱・鍛打して純化し、目的とする鋼を製造するという方法である。原料鉱石を製錬して得られる鉄は炭素量に応じ、鋼と銑鉄に分類される。製錬炉内に残存する鉄を炉外に取り出し小割した後、含有される不純物を除去するとともに、炭素量の増減を行って目的とする鋼を製造する。そのようにして得られた鋼を使って、製品鉄器が製作された、とする見解が提示されている(大澤 1984)。製錬炉で直接に鋼がつくり出されるという意味でこの方法は、近世たたら吹製鉄における鋸押法によって生産された鉄塊を純化する操作に位置付けられる。また、この方法によって得られた鉄(炭素量が不均一で鉄滓が混在した鉄(主に鋼からなるが銑鉄も混在すると考えられている))を精製し目的とする鋼に変える操作は、精錬鍛冶と呼ばれている。古代および中世に鋼を溶融する技術は未確立であったと考えられるので(溶融温度は地金の炭素量によって異なるが、炭素量0.1～0.2mass%の鋼を溶融するためには少なくとも炉内温度を1,550℃以上に保つ必要がある)、主として鋼から成る鉄から鉄滓を分離・除去する際の基本操作は加熱・鍛打によったと推定される。組成が不均一な鉄から純化された鋼を得る操作に精錬鍛冶という用語が用いられたのは、上述の事情によるものと推察される。夥しい数の鉄仏や鉄鍋、鉄釜をはじめとする鑄造鉄器の

第4章 自然科学分析

普及が示すように、列島内でも遅くとも9世紀には銑鉄を生産する技術が確立されていた、とする見方が提示されている(五十川 1992)。弥生時代および古墳時代の遺跡から鑄造鉄斧をはじめとする農工具が検出されているという事実をふまえると、鑄造鉄器自体はそれ以前から使用されていたことは間違いない。銑鉄を溶解し鑄型に注ぎ込むことによって鑄造鉄器が製作される。また、生産された銑鉄、あるいは使用不能となった鑄造鉄器を脱炭することにより鋼の製造が可能となる。この方法による鋼製造は銑鉄を経由して鋼が製造されるという意味で、間接製鋼(鉄)法(近世たたら吹き製鐵における大鍛冶)に位置づけられる。

2号住居跡出土No. 8、284土坑出土No. 9・10、および285土坑出土No.14鍛造剥片は、固体鉄を加熱・鍛打する際に排出された資料である。No.10およびNo.14には鉄チタン酸化物や鉄かんらん石が析出した鉄滓が含有されていることから、加熱・鍛打した鉄塊には相当量の鉄滓が固着または混在していたものと推定される。284号および285号土坑出土鍛造剥片の組成は、鉄滓が混在または固着した鉄塊を加熱・鍛打して純化し、目的とする鋼を製造する操作が行われていた可能性が高いこと、そして純化された鋼を加熱・鍛打し、目的とする鉄器に造形する操作までもが実施されていた可能性があることを示している。この結果に上述した直接製鋼法による鋼製造法を適応すると、遺跡内には製錬して得られた炭素量が不均一で鉄滓が固着・混在した鉄塊が運び込まれていて、それを加熱・鍛打して目的とする鋼を製造する操作が行われていたものと推定される。

7-2で述べたように、調査した上記4つの鍛造剥片とほぼ同じ組成の製鉄原料を起源とすると推定されたNo. 5鉄塊は、目的とする鋼を得るために遺跡内に運び込まれた鉄塊で、炭素濃度が不均一で高く、使用不能と判断され、廃棄された資料とみることができる。No.10およびNo.14鍛造剥片に混在する鉄滓、およびNo.11～13、およびNo.15鉄滓は製錬時に生成した鉄滓がその後の一連の操作によって再び溶融または部分溶融した後、再固化したものである。鉄チタン酸化物が混在した資料が観察されていることから、製錬時の原料鉱石は鉄チタン磁鉄鉱、またはその風化堆積物(砂鉄)が有力視される。

上記操作を想定した場合に問題となるのが、No.11～13、No.15は椀形滓の形態である。直接製鋼の立場に立った場合上記4資料については、固体鉄を加熱・鍛打する際に破碎された鉄滓が火窟炉の中に入り込み、炉床部で固化した資料と解釈される。この操作での生成を想定した場合、椀形滓には相当量の木炭が混在するはずであるが、既述のように、No.11～13、No.15の凸部外表面には木炭の噛み込みや混在はみられない。これら4資料を直ちに、鉄滓が固着・混在した鉄塊を加熱・鍛打する際に生成した資料とみることが危険である。

No. 5鉄塊は銑鉄と過共析鋼からなる。この資料については、製錬産物という見方の他に、銑鉄を脱炭し鋼を製造する過程での生成物、ともみることができる。銑鉄の脱炭には熱源の確保が重要な課題となる。その方法の一つとして、木炭を使い銑鉄を加熱・溶銑または部分溶融した後、空気送入する方法が有力視される。溶融または部分溶融した銑鉄に送り込まれた空気中の酸素が鉄と反応し酸化鉄が生成する。その際の発熱が脱炭の円滑な進行に寄与したものと推定される⁵⁾。銑鉄の脱炭方法として、溶銑を準備した後、酸化鉄を含む鉄滓と接触させ、さらに空気を挿入する、あるいは酸化鉄を含む鉄滓と接触させた後、長時間加熱し続ける、という方法も考えられる。後者の場合、より清純な鋼の入手が期待できる。いずれの場合であっても、溶銑を入れるための容器または設備、さらには溶銑中に空気を送り込むための羽口(粘性の高い溶銑内部に多量の空気を送る必要があったと考えられることから、相当の風圧確保が可能な、肉厚で気道内径が細い羽口)が必要である。284号土坑、285号土坑、300号土坑、およびNo. 5・6鉄塊が検出された10号住居跡はもとより、調査区域内から該当する羽口は確認されていない¹⁾。今後の調査によって該当する羽口が検出されれば、その可能性は一層高まる。

No.11～13およびNo.15は椀形滓で、No.15には局所的に、青灰色を呈する物質が固着している。摘出した試料の鉱物組成から、火山灰を含む砂状物質が溶融または部分溶融したものと推定される。この青灰色物質は銑鉄を脱炭し鋼を製造する際に使用された椀形容器(るつぼ状容器)の残骸の可能性もある。この点についても類似資料の蓄積を重ね、検討すべき課題である。

284号土坑および285号では焼土遺構と鍛造剥片が検出

されただけで、銑鉄の脱炭操作を示唆する遺構や資料は確認されていない。遺跡内の別の場所で銑鉄を脱炭する操作が行われ、製造した鋼が上記2遺構に運び込まれてきた、と考える必要がある。

銑鉄の脱炭が進み鉄中の炭素量が減少するにつれ、熔融状態にあった鉄は固化する。最終的に得られる鋼はつぼ容器に固着し、脱炭操作の過程で酸化鉄などの造滓材が用いられた場合には鋼中に相当量の鉄滓が固着・混入したはずである。そこで、製造された鋼を加熱・鍛打し純化し、形状を整える必要があったに違いない。鍛造剥片を出土したNo.284および285号土坑、2号住居跡では上記操作が行われていた、と考えることによって調査結果の説明が可能となる。すなわち、No.11～13およびNo.15は銑鉄を脱炭し、鋼を製造する過程で生成した椀形滓で、椀形滓内に生成した鋼を回収した後廃棄された資料、No.8～10およびNo.14剥片状資料は製造された鋼を純化し目的とする形状に整える過程で排出された資料で、No.10およびNo.14は純化初期のもの、No.8およびNo.9はかなり純化が進んだ後に排出された資料と推定される。10号住居跡から検出されたNo.5・6鉄塊は脱炭不十分のため使用不能と判断された鉄塊と思われる。

7-2で述べたように、調査した2点の鉄塊、および4点の鍛造剥片とほぼ同じCu・Ni・Co三成分比を有する鉄器は未確認である。従って、遺跡内で目的とする鉄器製作まで実施されていたことを指摘することは難しい。ただし、上記6資料とほぼ同じ三成分比を有する鉄器が10世紀代に比定される富田下大日遺跡において確認されていること{(第151図鉄鋤(Rf 3-2))をふまえると、五代砂留遺跡群においても日常生活に必要な鉄器製作が行われていた可能性が多分に考えられる。この点については、今後調査対象資料を拡大し確認すべき課題である。併せて、利用目的を果たした鉄器の再利用についても検討する必要がある。

8. まとめ

五代砂留遺跡群出土鉄関連資料の金属考古学的調査の結果、以下の4点が明らかとなった。

① 遺跡内では運び込まれた原料鉄を処理し鋼製造が行

われ、さらに日常生活に必要な鋼製鉄器が製作されていた可能性が高い。鋼製造法としては、製錬によって得られた鉄塊を加熱・鍛打して純化する方法と、銑鉄を脱炭し鋼を製造する方法の2つを挙げることができるが、出土した椀形滓の形状と組成を加味すると、後者の可能性が高いと考えられる。その実施をより明確なものとするためには、生産遺構および生産に使用された道具類、とりわけ羽口の確認とその金属考古学的調査が必要である。

- ② 同一遺構から出土した2点の鉄塊の微量元素組成比を考慮すると、遺跡内には異なった地域で製造された原料鉄がもたらされていた可能性がある。
- ③ 微量元素組成比のうえから、調査した鉄器は4つに細分された。遺跡内にはほぼ同時代に複数の地域から製品鉄器および原料鉄がもたらされていた、あるいは9世紀後半から10世紀代の間にそれらの供給地域が変化した可能性があることを示している。この点については、今後調査資料の蓄積を重ね、吟味する必要がある。
- ④ No.2から抽出した試料の組成が示すように、日常生活に必要な鉄器を製作するに当たり、組成の異なる地金が用いられた可能性が高い。

五代砂留遺跡群では、9世紀後半から10世紀代に異なった地域から原料鉄および製品鉄器の供給を受け、さらには利用目的を果たした鉄器の再利用を行って、日常生活に必要な鉄器を製作していた様子のみとれた。今後、ほぼ同時代に比定される鉄生産関連遺構の確認と、共伴して出土する鉄塊、鉄滓、羽口を始めとする道具類、およびほぼ同時代に比定される製品鉄器に関する調査結果の蓄積を図ることによって、当該時期における鉄生産関連活動の状況と鉄器使用の実態が見えてくるにちがいない。

注

- 1) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・長谷川博幸より情報提供。
- 2) 固体鉄を加熱した際に固体鉄表面が酸化される。それを鍛打した際に、酸化表面が剥離する。このようにして生成した資料が鍛造剥片と呼ばれている。検出された資料の中には、資料断面厚が不均一なものもある。相当量の鉄滓が混在している可能性が高く、ただちに鍛造剥片とみなすことは難しい。以上の理由からここでは、剥片状資料とした。
- 3) No.7 Sa₂から抽出した試料に見出された非金属介在物には灰色を呈するFe-0系領域(10)が見出された。微細なためEPMAによる定量は困難であったが、析出形状からウスタイトと推定される。

第4章 自然科学分析

- 4) これまでに行われた出土鉄器および鉄塊の金属考古学的調査において、0.005mass%以上のNiおよびCoを含有する土砂は未確認である。
- 5) 溶融または部分溶融した銑鉄に送り込まれた空気中の酸素は銑鉄中の炭素および鉄と反応し、前者は二酸化炭素として、後者は酸化鉄として鉄浴から排出される。鉄浴の酸化に伴う発熱が脱炭の進行に寄与したと推定される。

引用文献

- 赤沼英男 2004 『出土遺物の組成からみた物質文化交流』岩手県立博物館
- 赤沼英男 2009 『東北地方北部および北海道出土刀剣類の形態と組成からみた日本刀成立過程』岩手県立博物館、pp.22-59
- 赤沼英男 2009 『東北地方北部および北海道出土刀剣類の形態と組成からみた日本刀成立過程』岩手県立博物館、pp.22-59
- 赤沼英男、佐々木稔、伊藤薫 2000 「出土遺物からみた中世の原料鉄とその流通」『製鉄史論文集』たたら研究会編、pp.553-576赤沼英男・福田豊彦1997 「鉄の生産と流通からみた北方世界」国立歴史民俗博物館研究報告、72、pp. 1-40
- 五十川伸矢 1992 「古代・中世の鑄鉄鑄物」国立歴史民俗博物館研究報告第46集、pp. 1-79
- 大澤正巳 1984 「古墳供献鉄滓からみた製鉄の開始時期」季刊考古学、8、pp.36-40
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編 2008 『群馬県前橋市富田下大日遺跡・富田漆田遺跡』
- 佐々木稔、村田朋美 1984 「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」季刊考古学、8、pp.27-33
- 佐藤知雄編 1968 『鋼の顕微鏡写真と解説』丸善株式会社
- 東北大学金属材料研究所編 1953 『金属顕微鏡組織』

第15表 出土鉄関連資料の概要

No.	遺物番号	資料名	検出遺構	推定時期
1	8号住居7	刀子	8号住居	9世紀後半
2	10号住居22	鎌		10世紀初頭か
3	10号住居23	釘		
4	10号住居23	釘	10号住居	
5	10号住居24	小鉄塊		
6	10号住居25	小鉄塊		
7	13号住居16	有袋鉄条	13号住居	9世紀末～10世紀初頭
8	-	剥片状資料	2号住居	9世紀後半
9	-	剥片状資料	284号土坑	9世紀後半(鍛冶関係遺跡)
10	-	剥片状資料		
11	鍛冶遺構6	鉄滓		
12	鍛冶遺構7	鉄滓		
13	鍛冶遺構8	鉄滓		
14	-	剥片状資料	285号土坑	
15	鍛冶遺構9	鉄滓	286号土坑	

*No.は、岩手県立博物館における分析番号。資料番号、検出遺構および推定時期は群馬県埋蔵文化財調査事業団・木津博明氏による。

第16表 鉄器の分析結果

No.	資料名	Sa	化学組成(mass%)														ミクロ組織			Cu・Ni・Co三成分比		
			T.Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Si	Ti	Ca	Al	Mg	V	As	S	Co*(Co/Ni)	Cu*(Cu/Ni)	Ni**(Ni/Co)	Cu***(Cu/Co)		
1	刀子	1	65.38	0.117	0.024	0.138	0.001	0.01	0.003	0.324	0.015	0.097	0.005	0	0.051	0.221	Cm(0.1-0.3)	XI	5.75	4.88	0.17	0.85
2	鎌	1	60.23	0.029	0.028	0.039	0.002	0.057	0.029	0.712	0.027	0.235	0.016	0.003	<0.01	0.132	(XT,XF,Ma),(XF,Ma)		1.39	1.04	0.72	0.74
2		2	64.07	0.036	0.036	0.063	0.001	0.045	0.006	0.321	0.017	0.09	0.007	0.002	<0.01	0.215	no		1.75	1	0.57	0.57
3	釘	1	64.71	0.014	0.016	0.031	0.007	0.036	0.056	0.15	0.031	0.042	0.014	0.008	<0.01	0.062	Cm(0.3-0.4)	XT, Ma	1.94	0.88	0.52	0.45
4	釘	1	63.49	0.014	0.015	0.031	0.005	0.044	0.025	0.354	0.044	0.169	0.017	0.008	<0.01	0.057	Cm(0.2-0.3)		2.07	0.93	0.48	0.45
7	有袋鉄条	1	93.34	0.02	0.027	0.066	<0.001	0.021	0.003	<0.01	0.012	0.03	0.005	0.001	<0.01	0.052	Pa(0.3-0.4),Pa(0.2-0.3)	Tmag	2.44	0.74	0.41	0.3
2		2	93.2	0.017	0.024	0.061	<0.001	0.022	0.001	<0.01	<0.001	0.015	<0.001	0.002	<0.01	0.009	Pa(0.1-0.2),Pa(0.3-0.4)	(Wus, Ma)	2.54	0.71	0.39	0.28

*No.は第15表に対応。Saはサンブル抽出位置。化学成分分析はICP-AES法による。

**Pa=パーライト、Cm=セメンタイトまたはその欠落孔。括弧内の数値はミクロ組織またはミクロエッチング組織から推定される炭素量。no=見いだされず。

***n.m.i.=非金属 inclusion。10=酸化鉄(Wus=ウスタイト)、XF=Fe-Mg-Si-0系化合物(Fe=鉄かんらん石)、XT=鉄チタン酸化物(Tmag=チタノマグネサイト)、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

第17表 鉄塊の分析結果

No.	資料名	Sa	化学組成(mass%)														ミクロ組織			Cu・Ni・Co三成分比		
			T.Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Si	Ti	Ca	Al	Mg	V	As	S	Co*(Co/Ni)	Cu*(Cu/Ni)	Ni**(Ni/Co)	Cu***(Cu/Co)		
5	小鉄塊	1	87.53	0.006	0.004	0.013	0.012	0.164	0.087	-	0.053	0.036	0.051	0.033	<0.01	0.075	C, P _{cm}	-	(3.25)	(1.50)	0.31	0.46
6	小鉄塊	1	60.25	0.019	<0.001	0.023	0.452	0.14	<0.50	5.05	0.692	3.21	2.27	0.489	<0.01	0.084	Cm(0.1-0.2)	Wus, XT, XF, Ma	-	-	<0.01	0.83

*No.は第15表に対応。Saはサンブル抽出位置。化学成分分析はICP-AES法による。

**C=片状黒鉛、P_{cm}=初析セメンタイト、Cm=セメンタイトまたはその欠落孔。括弧内の数値はミクロ組織から推定される炭素含有量。

***n.m.i.=非金属 inclusion。10=酸化鉄(Wus=ウスタイト)、XF=鉄チタン酸化物、XT=Fe-Mg-Si-0系化合物、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

第18表 調査資料に見出された鉱物相のE P M Aによる分析結果

No.	測定鉱物相	図	Na20	K20	Fe0	Mg0	Ca0	Mn0	Al203	Ti02	Zr02	Si02	V203	V205	Cr203	P205	合計
4	Tmag(1)	143	0.033	<0.01	39.15	16.679	0.093	<0.01	8.251	25.947	0.079	0.066	6.988		1.38	<0.01	98.69
	Tmag(2)		0.029	<0.01	34.306	19.363	0.117	<0.01	8.931	24.802	<0.01	0.05	10.293		3.003	<0.01	100.93
	Tmag(1)	-	<0.01	<0.01	31.759	17.924	0.003	<0.01	8.244	28.185	0.057	0.011	9.92		2.004	<0.01	98.13
6	Wus(1)	146	0.05	<0.01	97	0.239	0.009	<0.01	0.684	0.103	<0.01	0.187	0.026	-	<0.01	0.026	99.61
	Wus(1)		<0.01	<0.01	97.157	0.012	0	<0.01	1.026	0.581	<0.01	0.41	0.074		0.054	<0.01	99.48
7Sa1	Fa(1)	144	<0.01	0.074	69.56	0.688	0.339	<0.01	0.366	<0.01	<0.01	28.707	0.054		0.111	<0.01	100.59
	Fa(1)		0.11	<0.01	67.216	0.675	0.691	<0.01	0.399	0.041	<0.01	29.016	0.005		0.007	<0.01	99.61
7Sa2	Fa(1)	144	0.132	0.006	63.234	1.496	1.073	<0.01	0.616	<0.01	<0.01	27.772	0.015		<0.01	<0.01	98.06
	Wus(1)		<0.01	<0.01	96.177	<0.01	0.023	<0.01	0.285	0.073	<0.01	0.081	<0.01		0.007	0.006	96.68
8	Wus(1)	146	0.006	<0.01	98.369	0.047	0.059	<0.01	0.602	0.196	<0.01	0.167	0.065		<0.01	0.005	99.57
	Wus(1)		<0.01	<0.01	96.576	0.037	0.131	<0.01	0.142	0.048	<0.01	<0.01	<0.01		0.007	<0.01	96.97
9	Wus(1)		<0.01	<0.01	96.671	0.022	0.06	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.029		<0.01	<0.01	96.81
	Wus(1)	146	0.066	<0.01	97.008	0.04	0.005	<0.01	0.01	0.062	0.022	0.145	0.063		<0.01	0.005	97.43
10	Wus(2)		<0.01	<0.01	95.833	0.058	0.022	<0.01	0.027	0.018	<0.01	0.062	0.013		<0.01	<0.01	96.01
	Wus(1)	147	<0.01	<0.01	97.111	<0.01	0.013	<0.01	0.311	0.011	0.017	0.105	<0.01		0.019	<0.01	97.6
14	Wus(2)		<0.01	0.069	59.954	2.026	2.38	<0.01	0.777	0.43	0.009	30.699	0.029		0.017	0.168	96.68
	Fa(1)		<0.01	<0.01	96.033	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.021	<0.01	0.161	0.053		<0.01	<0.01	96.23
11	Fa(1)	147	0.018	<0.01	69.482	0.061	0.571	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	30.438	0.006		0.045	0.316	100.94
	Hem(1)		<0.01	<0.01	91.703	0.005	0.005	<0.01	<0.01	<0.01	0.027	0.216	0.005		<0.01	<0.01	91.98
12	Tmag(1)	149	0.037	<0.01	70.08	0.272	0.009	0	12.84	10.48	0.088	0.109	1.867		0.307	<0.01	96.1
	Fa(1)		<0.01	<0.01	59.29	2.471	2.909	<0.01	0.162	0.153	<0.01	33.18	<0.01		0.038	0.268	98.5
13Sa1	Tmag(1)	149	0.032	<0.01	-	<0.01	<0.01	<0.01	13.404	17.624	<0.01	0.088	-	0.668	0.079	<0.01	96.27
	Fa(1)		<0.01	<0.01	4.229	0.081	<0.01	1.876	0.12	0.284	0.024	30.277	-	0.044	<0.01	0.036	99.28
148	Opx(1)-1		<0.01	<0.01	21.3	22.8	0.876	<0.01	0.714	0.111	<0.01	52.607	-	0.026	<0.01	<0.01	95.58
	Opx(1)-2		0.02	<0.01	21.383	23.1	0.77	<0.01	0.637	0.133	<0.01	52.918	-	0.028	0.031	<0.01	99.06

* No.は第15表に対応。Saはサンプル抽出位置。化学成分分析はICP-AES法による。

**Wus=ウスタイト、Hem=ヘマタイト、Fa=鉄かんらん石、Tmag=チタノマグネサイト、Ha=鉄-Al-O系鉱物、Opx=斜方輝石、Pl=斜長石。

第19表 剥片状資料の分析結果

No.	化学組成(mass%)													Cu・Ni・Co三成分比					
	T	Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	As	S	Co*(Co/Ni)	Cu*(Cu/Ni)	Ni**(Ni/Co)	Cu**(Cu/Co)
8	74.36	0.01	0.011	0.034	0.001	0.001	0.01	0.004	<0.01	0.108	0.064	0.043	<0.001	<0.01	<0.01	3.09	0.91	0.32	0.29
9	72.64	0.01	0.012	0.039	0.001	0.007	0.012	0.114	0.06	0	0.02	0.003	<0.01	<0.01	(Wus, Ma)	3.25	0.83	0.31	0.26
10	75.03	0.011	0.013	0.043	0	0.008	0.01	0.005	0.022	0.048	0.011	0.001	<0.01	<0.01	(Wus, Ma), (10, XT, Fa, Ma)	3.31	0.85	0.3	0.26
14	72.72	0.008	0.006	0.021	0.003	0.012	0.021	0.017	0.058	0.096	0.029	0.001	<0.01	<0.01	(Wus, Fa, Ma), (10, Hem)	3.5	1.33	0.29	0.38

* No.は第15表に対応。化学成分分析はICP-AES法による。

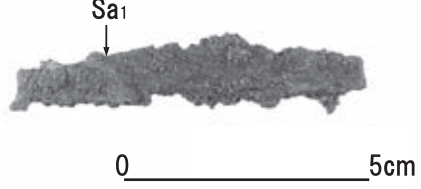
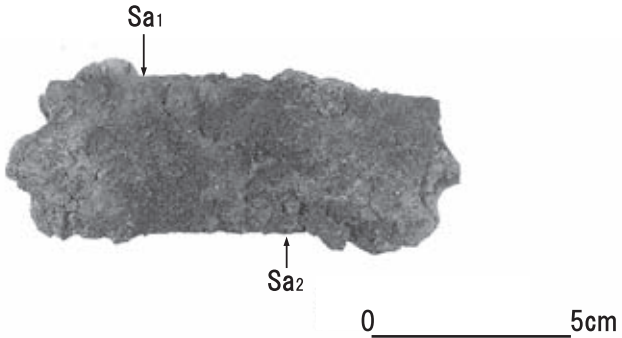
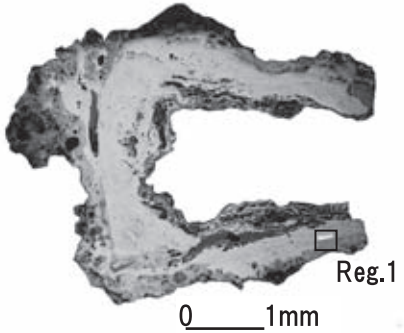
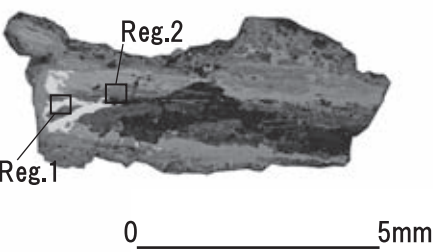
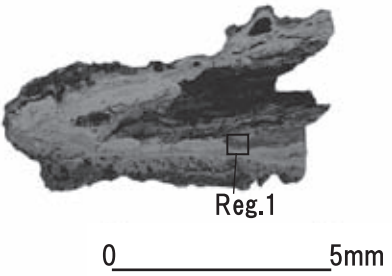
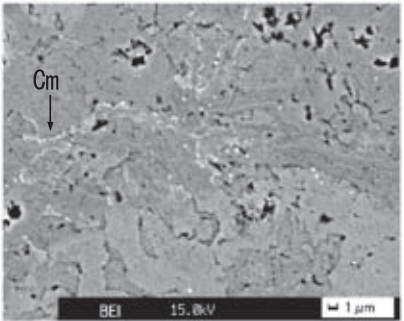
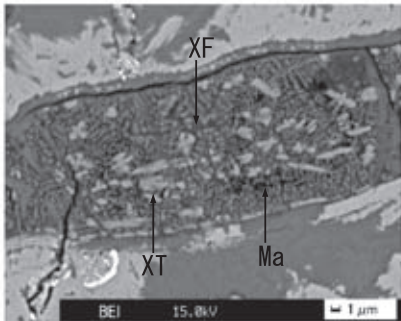
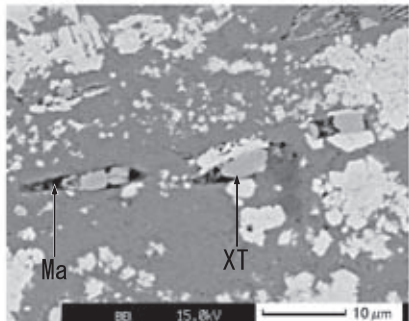
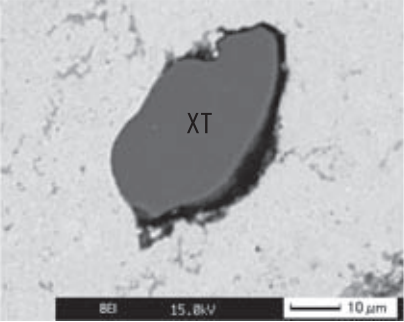
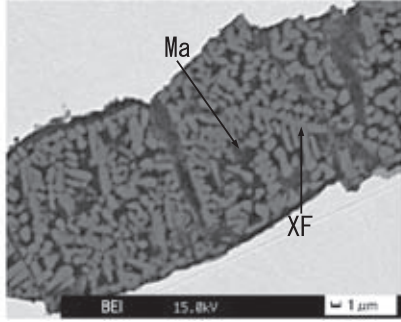
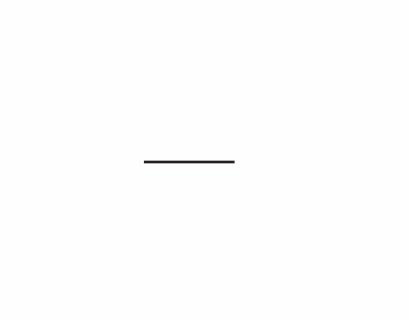
** I0=酸化鉄(Wus=ウスタイト、Hem=ヘマタイト、XT=鉄チタン酸化物、Fa=鉄かんらん石、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

第20表 鉄塊の分析結果

No.	化学組成(mass%)											鉱物組成				
	T	Fe	Cu	Ni	Co	P	Ti	Si	Ca	Al	Mg	V	As			
11	65.29	0.002	0.111	<0.001	0.001	0.328	0.915	4.18	0.978	1.67	0.579	0.161	<0.01	(10, Tmag, Fa, Ma), (10, XT, XF, Ma)		
12	55.22	0.006	0.205	0.001	0.013	0.125	3.57	7.61	1.27	4.38	1.51	0.483	<0.01	(Tmag, Fa, Ha, Ma), (XT, Ha, XF, Ma)		
13	5.96	<0.001	0.159	<0.001	<0.001	0.169	1.06	17.69	3.79	7.19	0.981	0.018	<0.01	(Pl, Opx), (XT, Ha, XF, Ma)		
15	61.83	0.007	0.193	0.002	0.01	0.179	1.84	13.26	1.84	5.95	1.63	0.306	<0.01	XT, XF, Ma		
15	32.03	0.004	0.16	0.002	0.005	0.121	1.14	19.82	3.04	7.48	1.66	0.077	<0.01	XT, Ha, XF, Ma		

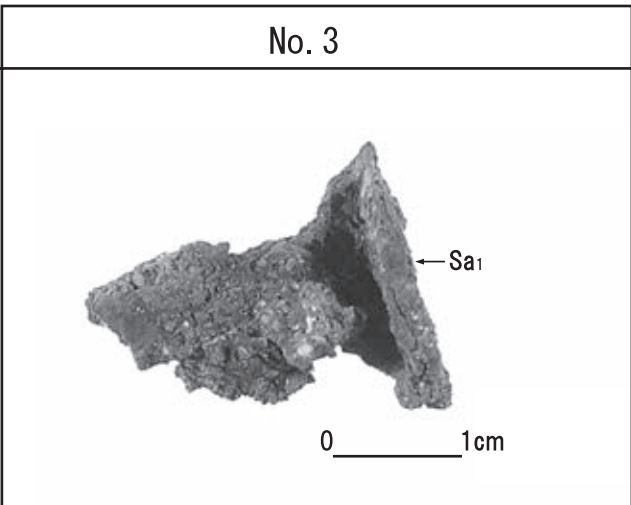
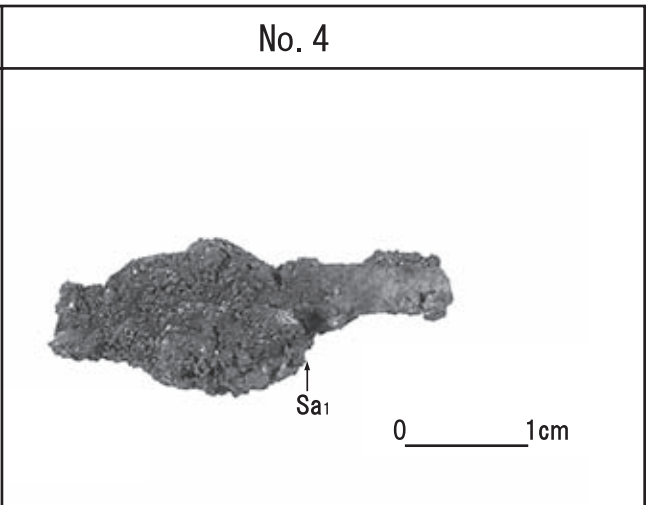
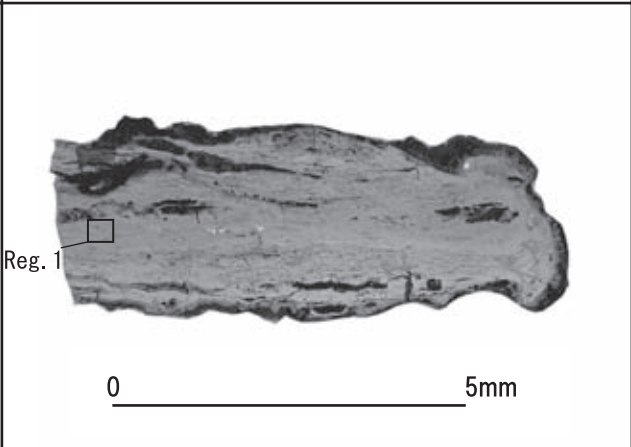
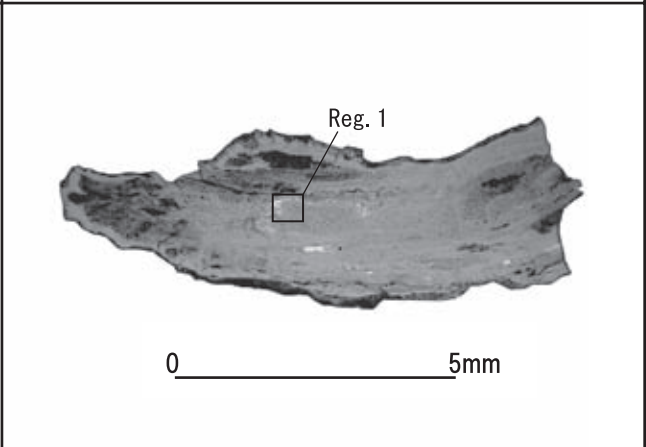
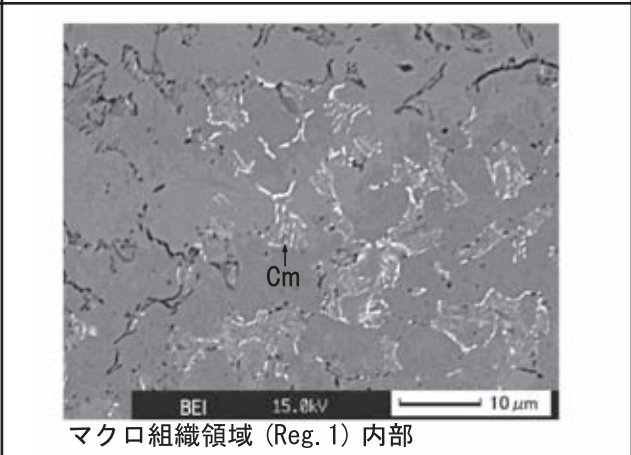
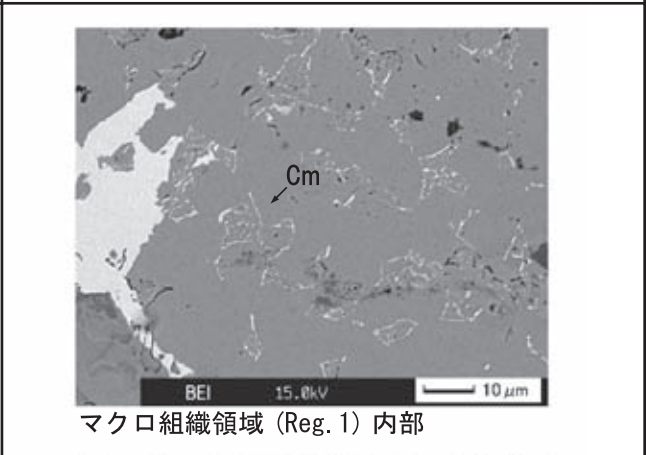
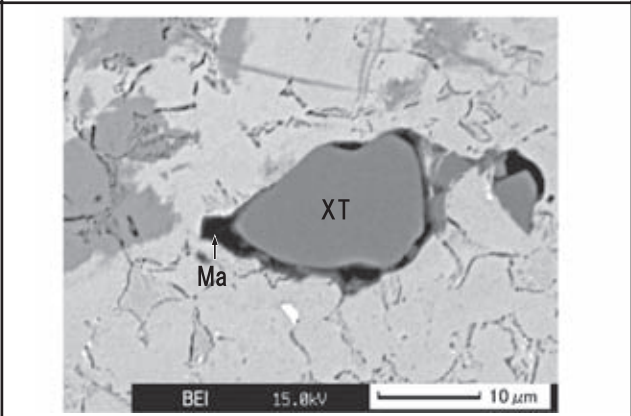
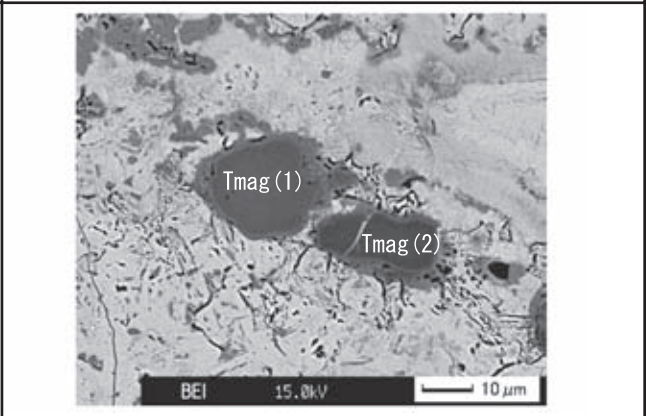
* No.は第15表に対応。Saはサンプル抽出位置。化学成分分析はICP-AES法による。

** I0=酸化鉄、XT=鉄チタン酸化物(Tmag=チタノマグネサイト)、Ha=鉄-Al-O系化合物、XF=Fe-Mg-Si-O系化合物(Pa=鉄かんらん石)、Opx=斜方輝石、Pl=斜長石、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

	No. 1	No. 2	
外観			
マクロ組織		Sa1	Sa2
			
ミクロ組織	 <p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p>	 <p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p>	 <p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p>
		 <p>マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>	

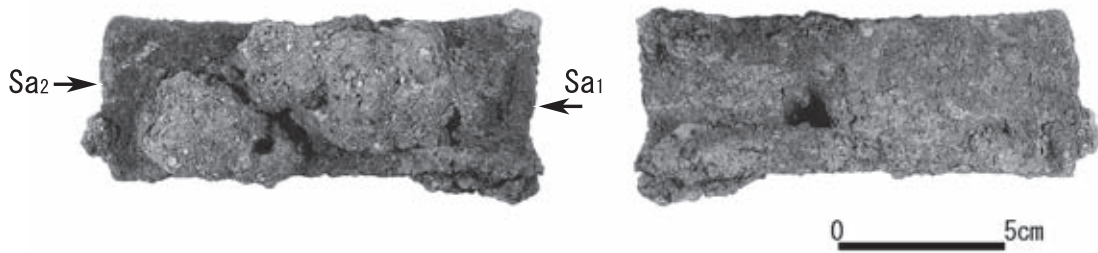
No. (分析番号)は第15表に対応。外観の矢印は試料摘出位置。ミクロ組織はマクロ組織領域 (Reg. 1) または領域 (Reg. 2) 内部。Cmはセメントまたはその欠落孔。XT=Fe-Ti-Al-Mg-V-O系化合物、XF=Fe-Mg-Si-O系化合物、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

第142図 No. 1 およびNo. 2 から摘出した試料の組織観察結果

	No. 3	No. 4
外観		
マクロ組織		
ミクロ組織	 <p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p>	 <p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p>
非金属介在物		

No. (分析番号)は第15表に対応。外観の矢印は試料抽出位置。ミクロ組織はマクロ組織領域(Reg. 1)内部。Cmはセメントaitまたはその欠落孔。XT=Fe-Ti-Al-Mg-V-O系化合物(Tmag=チタノマグネタイト)、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

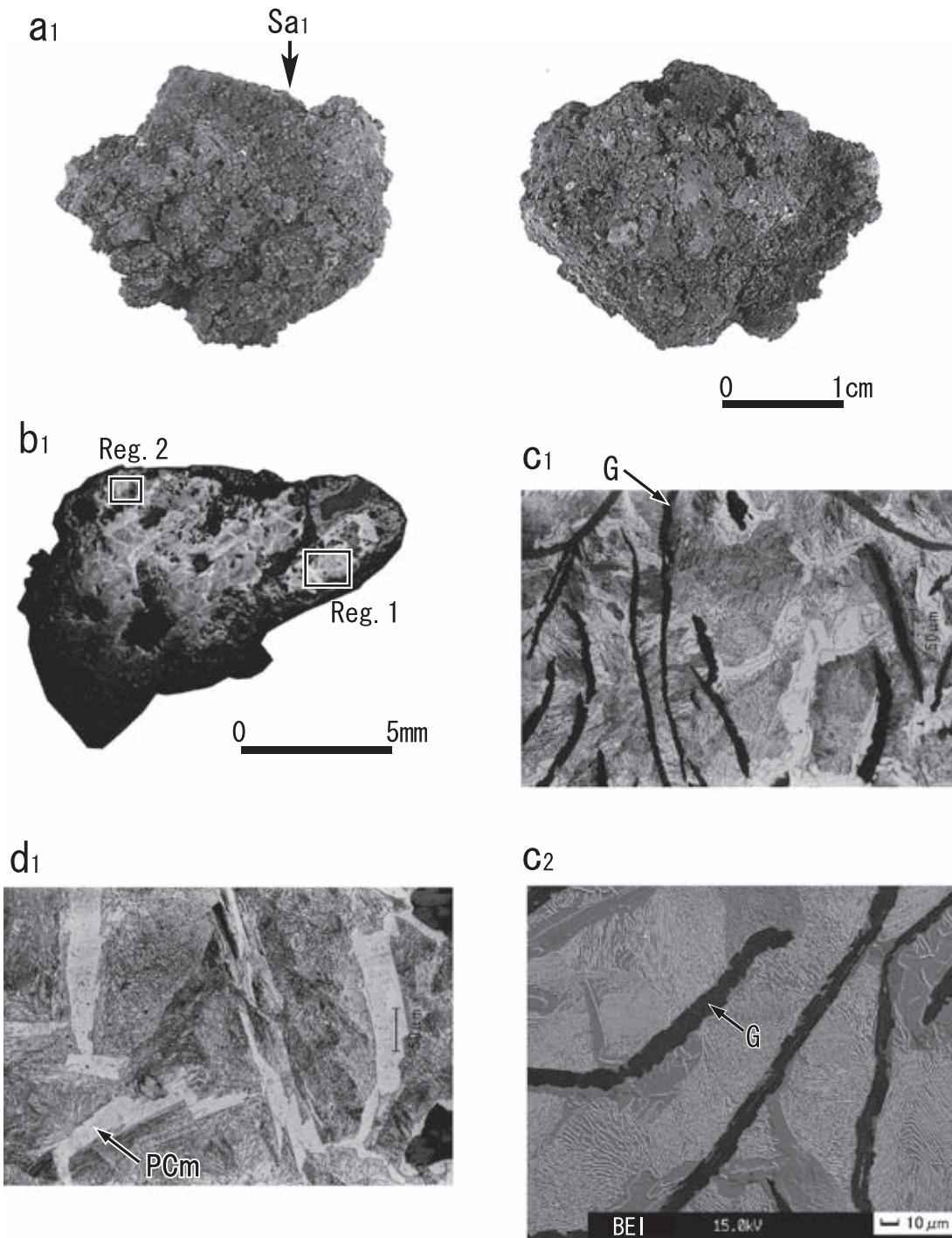
第143図 No. 3 およびNo. 4 から抽出した試料の組織観察結果



	Sa1	Sa2
マクロエッチング組織		
ミクロエッチング組織	<p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部 マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>	<p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部 マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>
非金属介在物		

No. (分析番号)は第15表に対応。外観の矢印は試料摘出位置。エッチングはナイトール(硝酸2.5mlとエチルアルコール97.5mlの混合溶液)による。ミクロエッチングはマクロエッチング領域(Reg. 1)および領域(Reg. 2)内部。IO=酸化鉄(Wus=ウスタイト)、Fa=鉄かんらん石、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

第144図 No.7から摘出した試料の組織観察結果



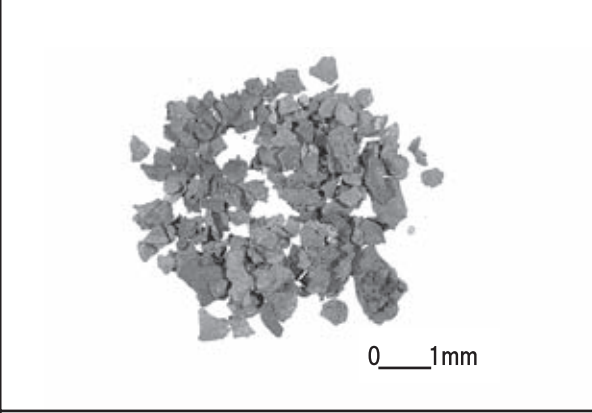
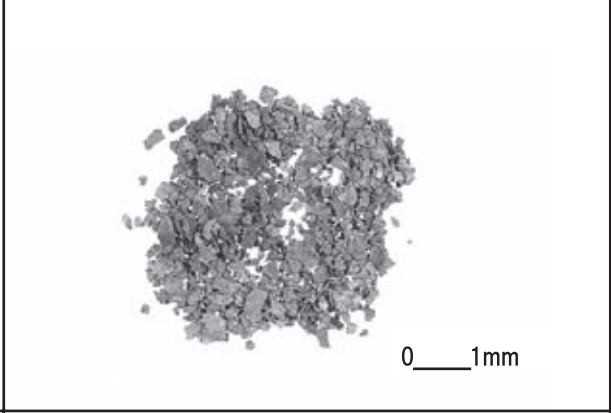
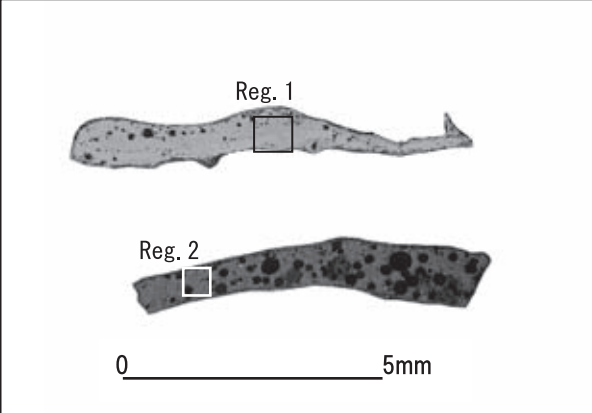
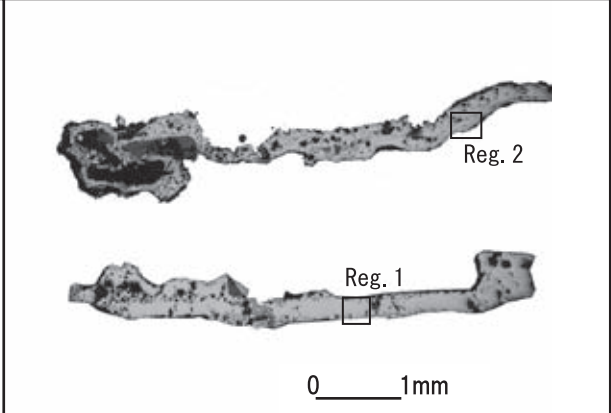
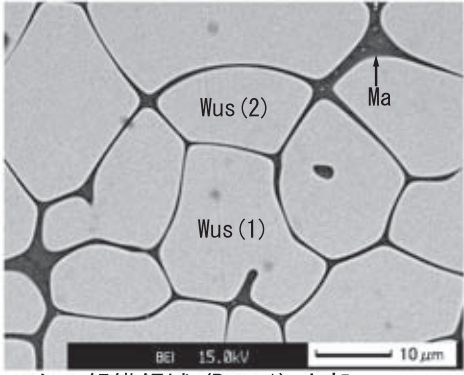
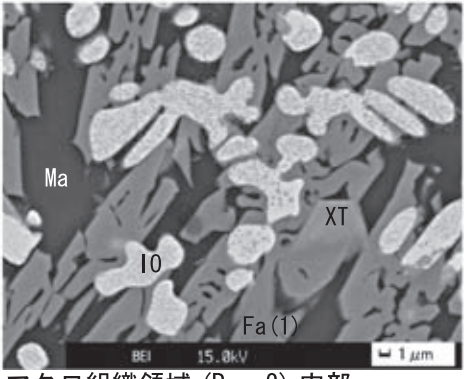
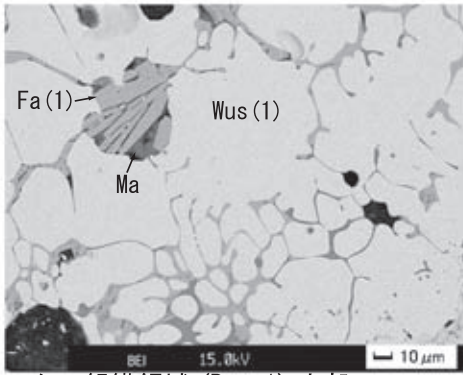
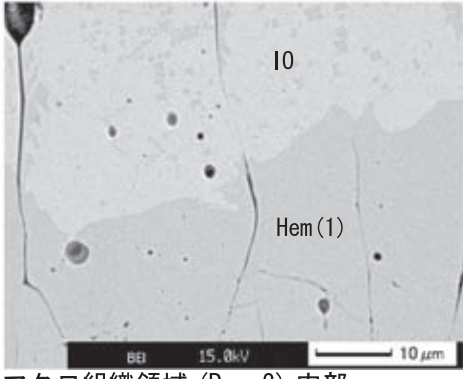
No. (分析番号)は第15表に対応。a1：外観。矢印は試料摘出位置。b1：マクロエッチング組織。エッチングはナイタールによる。c1・2：b1領域(Reg. 1)内部のマイクロエッチング組織。d1：b1領域(Reg. 2)内部のマイクロエッチング組織。G=片状黒鉛、PCm=初析セメントライト。

第145図 No.5から抽出した試料の組織観察結果

	No. 6	No. 8	No. 9
外観			
マクロ組織			
ミクロ組織	<p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p> <p>マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>	<p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p> <p>マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>	<p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p> <p>マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>

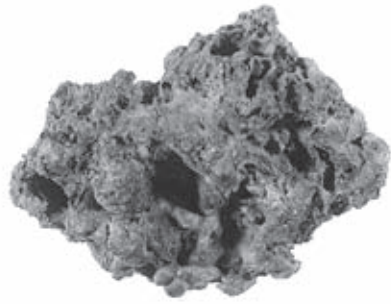
No. (分析番号)は第15表に対応。外観の矢印は試料摘出位置。ミクロ組織はマクロ組織領域 (Reg. 1) および (Reg. 2) 内部。Wus=ウスタイト、XT=Fe-Ti-Al-Mg-V-O系化合物、XF = Fe-Mg-Si-O系化合物、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

第146図 No. 6・8・9から摘出した試料の組織観察結果

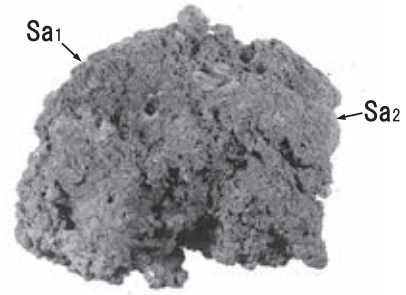
	No. 10	No. 14
外観		
マクロ組織		
ミクロ組織	 <p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p>  <p>マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>	 <p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p>  <p>マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>

No. (分析番号)は第15表に対応。ミクロ組織はマクロ組織領域 (Reg. 1) および (Reg. 2) 内部。
 I0=Fe-O系化合物 (Wus=ウスタイト、Hem=ヘマタイト)、Fa=鉄かんらん石、XT=Fe-Ti-Al-Mg-V-O系化合物、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

第147図 No.10およびNo.14から抽出した試料の組織観察結果



0 5cm

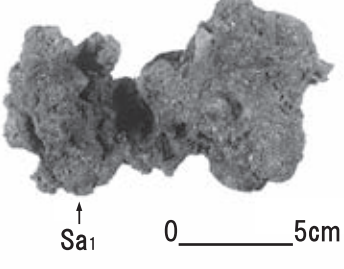
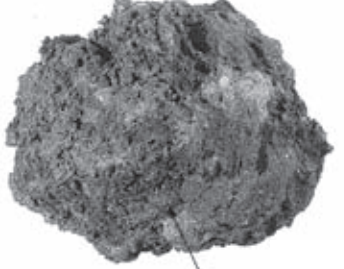
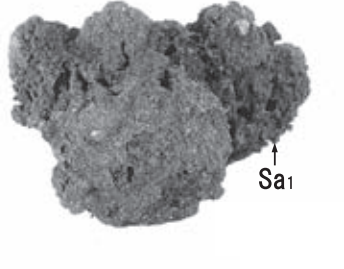
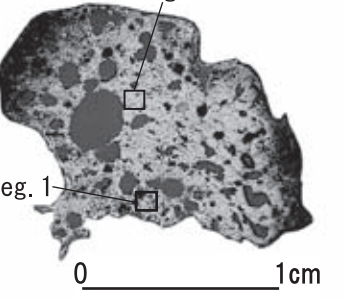
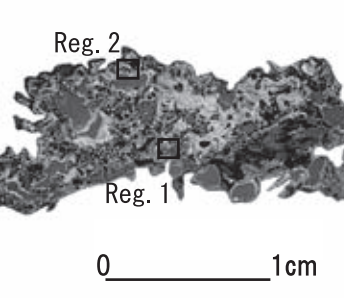
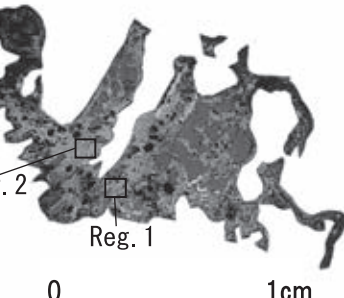
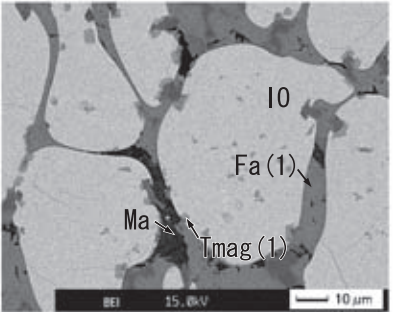
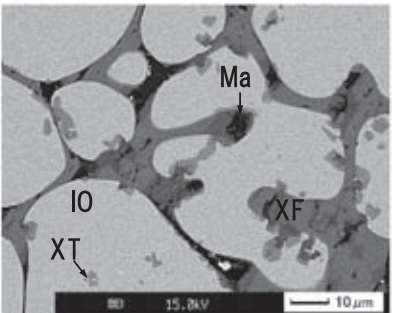
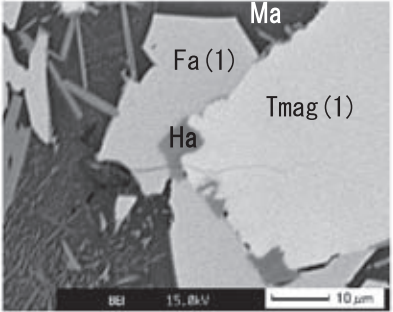
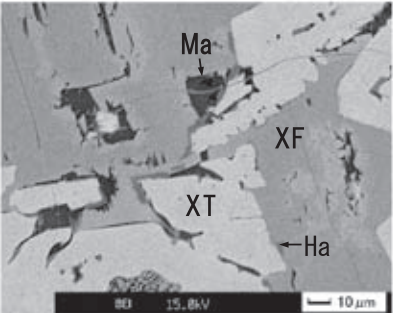
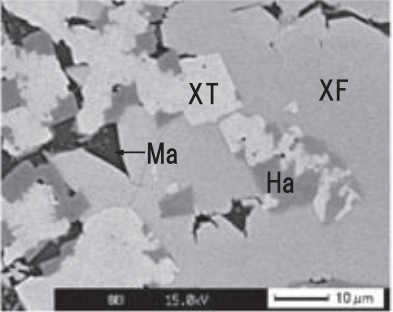
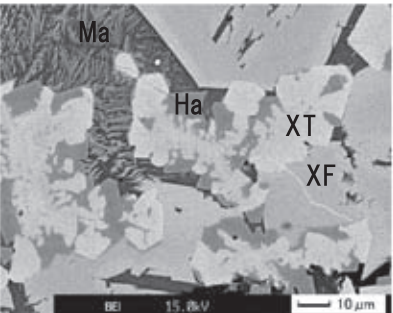


0 5cm

	Sa ₁	Sa ₂
マクロ組織	<p>0 1cm</p>	<p>0 1cm</p>
ミクロ組織	<p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p> <p>マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>	<p>マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部</p> <p>マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部</p>

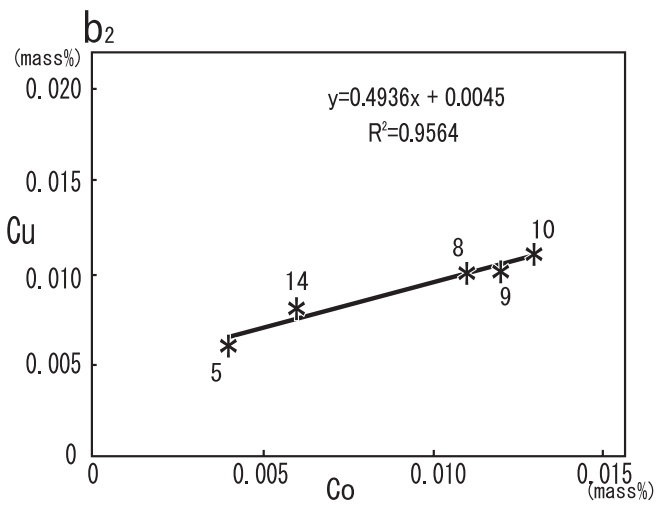
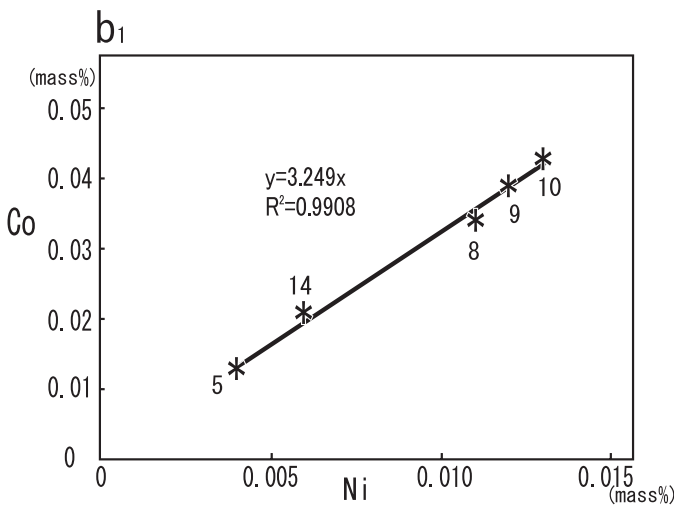
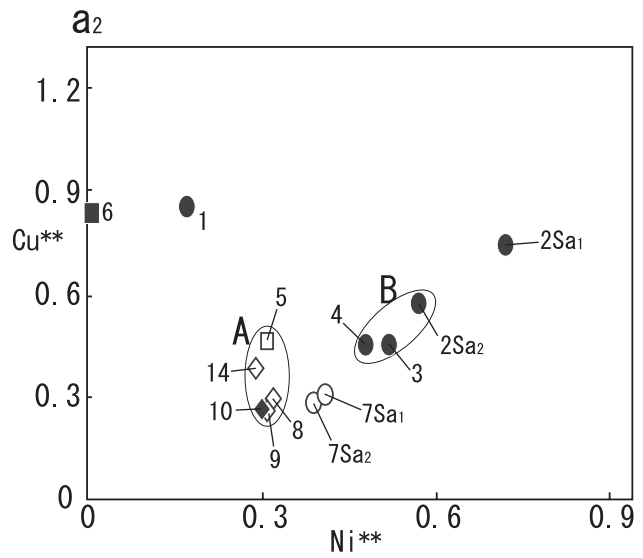
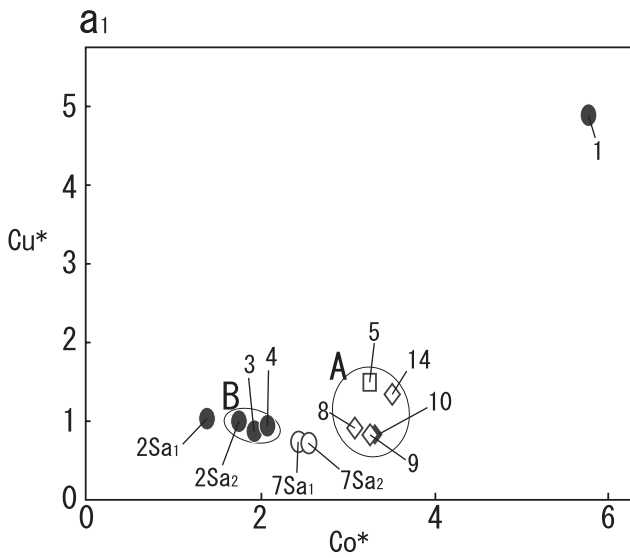
No. (分析番号)は第15表に対応。ミクロ組織はマクロ組織領域 (Reg. 1) および (Reg. 2) 内部。
 XT=Fe-Ti-Al-Mg-V-O系化合物 (Tmag=チタノマグネタイト)、XF=Fe-Mg-Si-O系化合物、
 Ha=Fe-Al-O系化合物、PI=斜長石、Opx=斜方輝石、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

第148図 No.13から抽出した試料の組織観察結果

	No. 11	No. 12	No. 15
外観			
マクロ組織			
ミクロ組織	 マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部  マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部	 マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部  マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部	 マクロ組織領域 (Reg. 1) 内部  マクロ組織領域 (Reg. 2) 内部

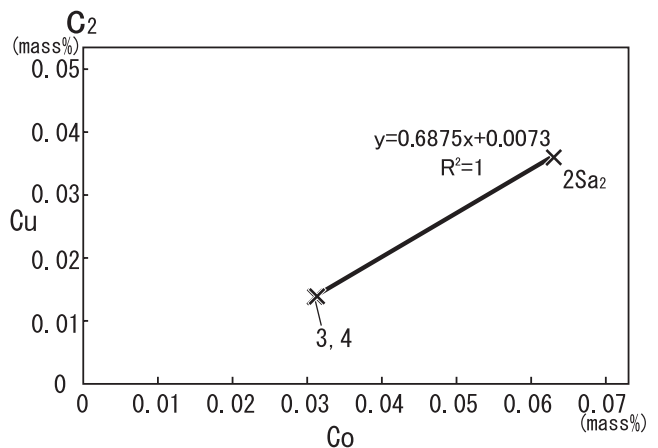
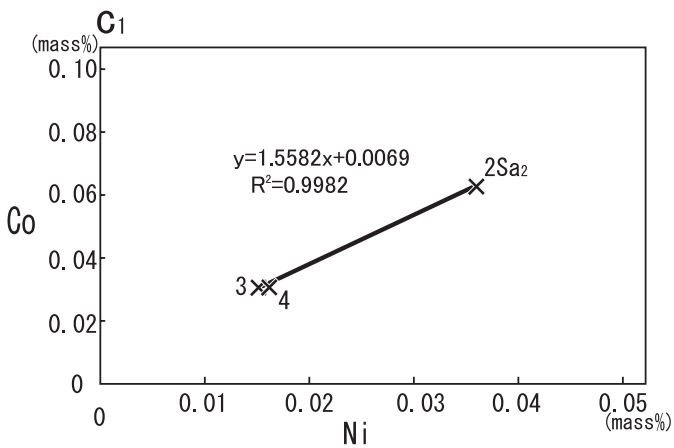
No. (分析番号)は第15表に対応。ミクロ組織はマクロ組織領域(Reg. 1)および(Reg. 2)内部。IO=酸化鉄、XT = Fe-Ti-Al-Mg-V-O系化合物(Tmag=チタノマグネタイト)、XF=Fe-Mg-Si-O系化合物(Fa=鉄かんらん石)、Ha =Fe-Al-O系化合物、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

第149図 No.11・12・15から抽出した試料の組織観察結果



a1.2領域Aに分布する5試料に含有されるNiとCoの相関

a1.2領域Aに分布する5試料に含有されるCoとCuの相関

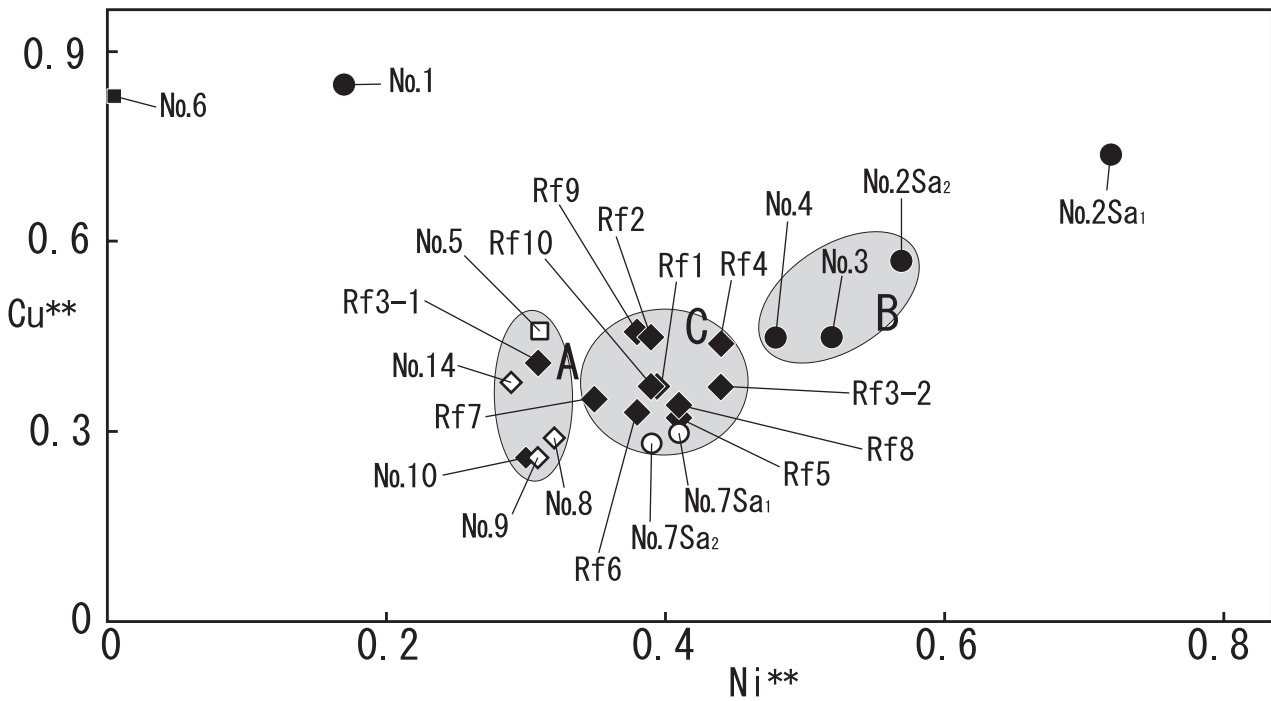
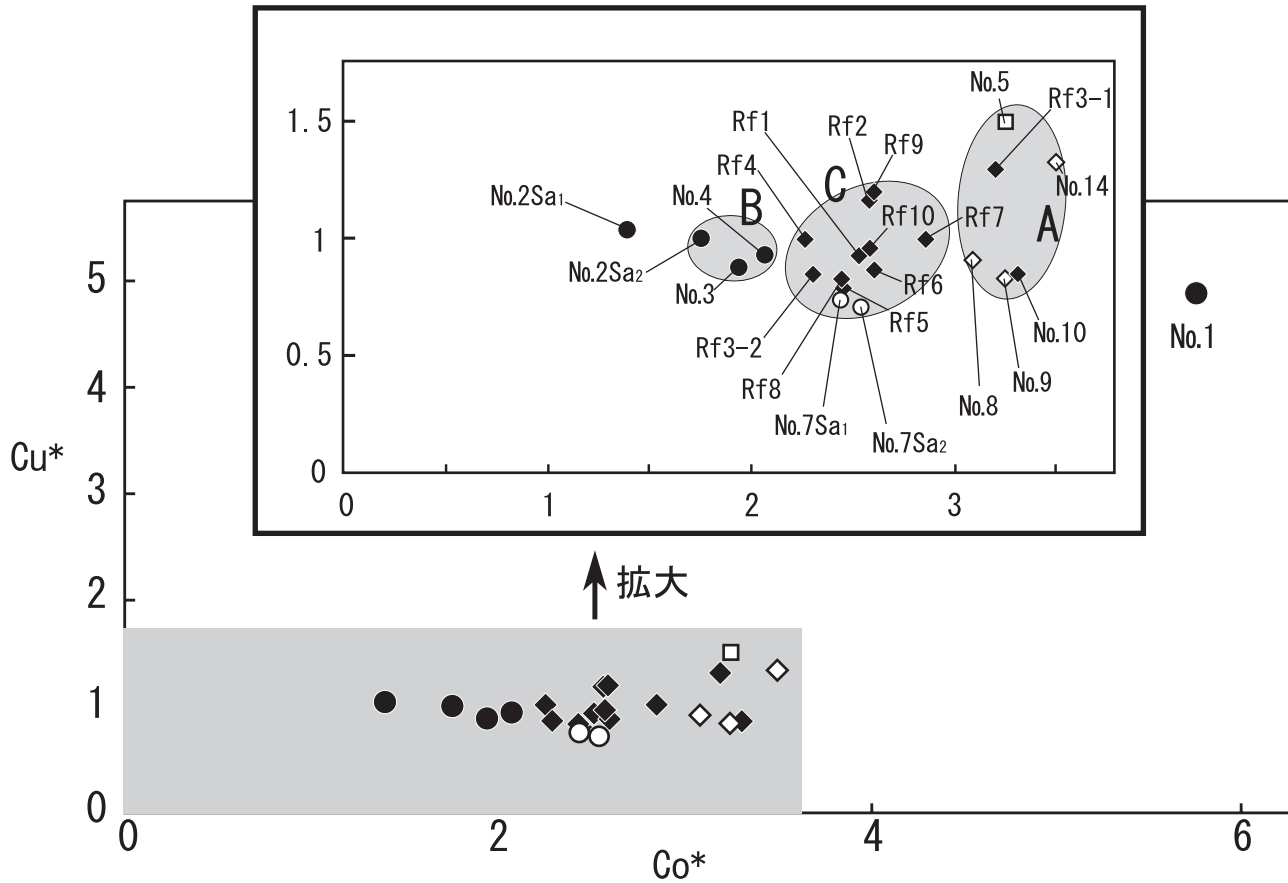


a1.2領域Bに分布する3試料に含有されるNiとCoの相関

a1.2領域Bに分布する3試料に含有されるCoとCuの相関

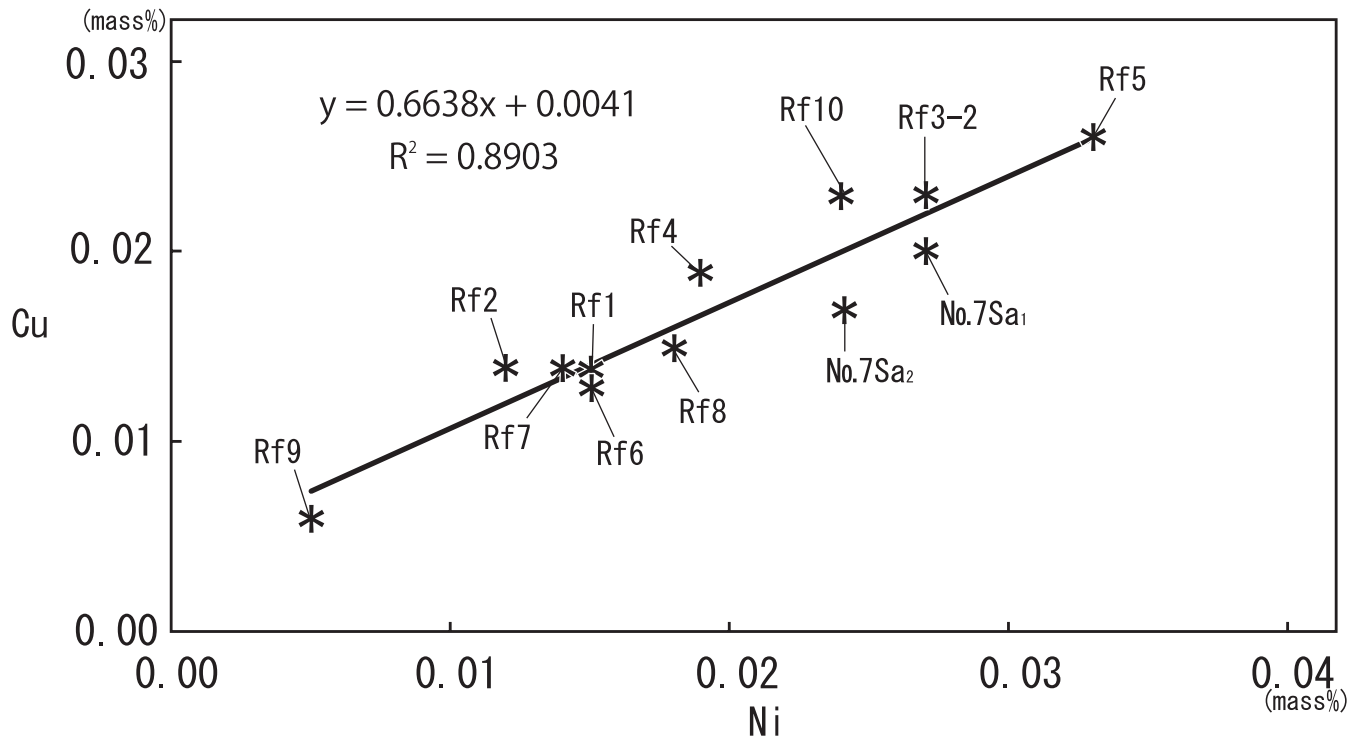
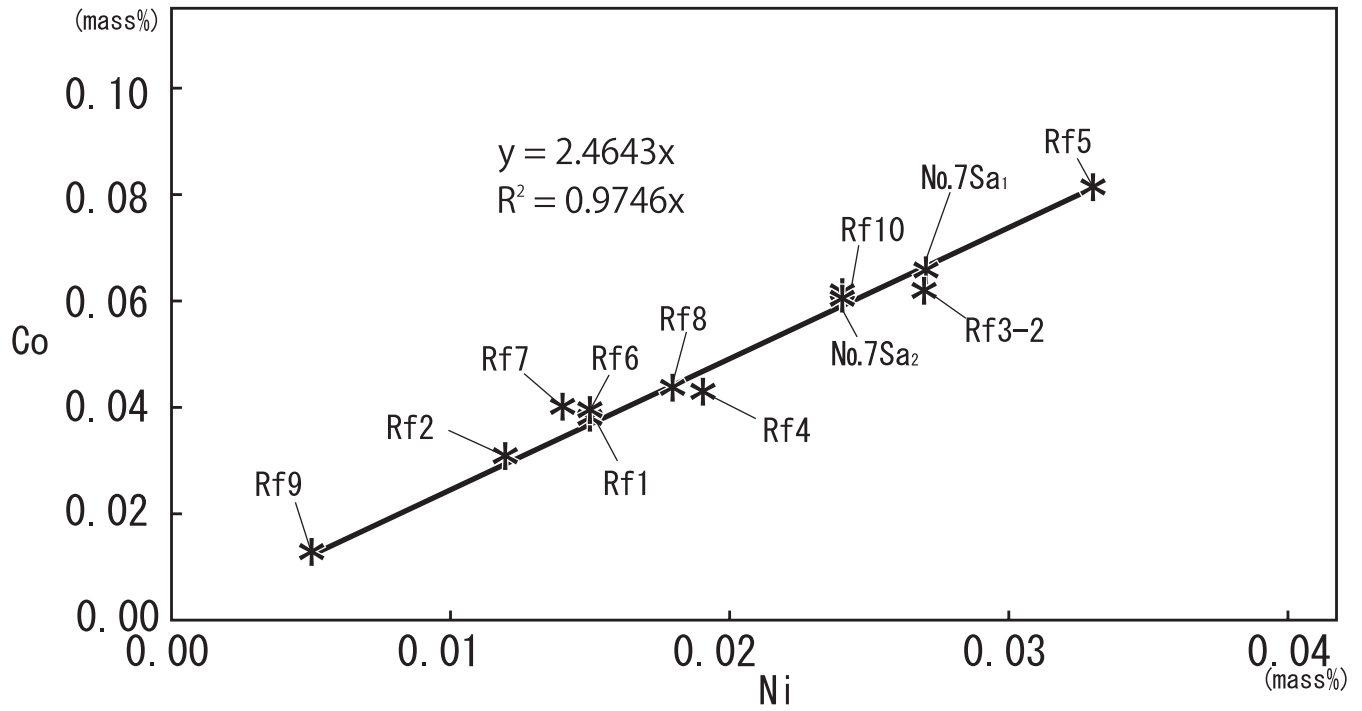
No. は第15表に対応。黒丸(●) = 鉄チタン酸化物が見出された鉄器、白丸(○) = 鉄チタン酸化物が見出されなかった鉄器、白四角(□) = 鉄チタン酸化物が見出されなかった鉄塊、黒四角(■) = 鉄チタン酸化物が見出された鉄塊、白菱形(◇) = 鉄チタン酸化物が見出されなかった鍛造剥片、黒菱形(◆) = 鉄チタン酸化物が見出された鍛造剥片。Co* = (mass%Co) / (mass%Ni)、Cu* = (mass%Cu) / (mass%Ni)、Ni** = (mass%Ni) / (mass%Co)、Cu** = (mass%Cu) / (mass%Co)。

第150図 分析した鉄器・鉄塊・鍛造剥片に含有されるNi・Co・Cuの三成分比と相関



No. は第15表に対応。Rf1~5=富田下大日遺跡出土鉄器 (Rf1=棒状鉄器、Rf2=有袋鉄斧、Rf3=鉄鋤、Rf4=大形鋤先、Rf5=刀子)、Rf6~10=富田漆田遺跡出土鉄器・鉄片 (Rf6=釘、Rf7=鏝、Rf8=刀子、Rf9=鉄片、Rf10=刀子)。黒丸(●)=鉄チタン酸化物が見出された鉄器、白丸(○)=鉄チタン酸化物が見出されなかった鉄器、白四角(□)=鉄チタン酸化物が見出されなかった鉄塊、黒四角(■)=鉄チタン酸化物が見出された鉄塊、白菱形(◇)=鉄チタン酸化物が見出されなかった鍛造剥片、黒菱形(◆)=鉄チタン酸化物が見出された鍛造剥片。
 $Co^* = (mass\%Co) / (mass\%Ni)$ 、 $Cu^* = (mass\%Cu) / (mass\%Ni)$ 、 $Ni^{**} = (mass\%Ni) / (mass\%Co)$ 、 $Cu^{**} = (mass\%Cu) / (mass\%Co)$ 。

第151図 五代砂留遺跡群出土鉄器・鉄塊・鍛造剥片および富田漆田・富田下大日遺跡出土鉄器・鉄片に含有されるNi・Co・Cuの三成分比



第152図 151図領域Cに分布する鉄器に含有されるNi・Co・Cuの相関

第5章 調査成果のまとめ

第1節 十字鑄造銅鏃について

1. はじめに

古墳時代の群馬県出土の銅鏃については15年前にまとめたことがあった(杉山1995)。その後、群馬県内出土の銅鏃と県外の代表的な銅鏃のうち両鑄造りの柳葉式銅鏃について詳述することがあった(杉山2008)。今回五代砂留遺跡群から十字鑄の銅鏃が1点出土したことで、群馬県内の十字鑄造銅鏃について取り上げることにした。

銅鏃の分類方法については種々あるが、柳葉鏃の中で通有に使用される十字鑄の分類名称を使用して、記述を行うことにする。

同時期の県内の十字鑄造銅鏃の類例から考えられるその特徴や時期的位置づけを行うものである。

2. 群馬県内出土の十字鑄造銅鏃概要

群馬県内では、前橋天神山古墳より30本の銅鏃が出土している。その内訳は十字鑄造柳葉銅鏃が26本、両鑄造柳葉式銅鏃が4本出土している。両鑄造柳葉銅鏃は、奈良県メスリ山古墳出土のものに形態・厚み等極めて近い。前橋天神山古墳からは珍しく十字鑄造を中心組成とした銅鏃のセットが形成されている。他に、高崎市下佐野遺跡からも1本出土している。藤岡市三本木古墳からは、時期的に新しくなるやや細長くなった形態の十字鑄造が3本出土している。

太田市頼母子古墳からは、両鑄造とともに、十字鑄造で五代砂留遺跡群のものと同じ逆刺のつくものが2本出土している。そして本遺跡の前橋市五代砂留遺跡群からは逆刺がつく十字鑄造のものが1本出土している。以上、群馬県内には3古墳・2遺跡から計32本の十字鑄造銅鏃が出土していることが分かった。そのうち逆刺を持つものは、太田市頼母子古墳例と前橋市五代砂留遺跡群例の2つのみである。

3. 十字鑄造銅鏃の特徴

まず、十字鑄造柳葉銅鏃の特徴について述べてみる。十字鑄は、基本的には刃先端から茎に至る直線の鑄に対

して、横方向の鑄を上半部に持つものである。鋒からふくらをもって、横鑄にいたり、そこからやや内彎して刃部先端にいたるものである。逆刺を持つ形態はこの端部から逆刺を形成し、茎に至る。また、逆刺を持たないものは、やや内彎あるいは外彎して茎に至るという外形をとる。鏃身上半部(横鑄の線より上)に厚みがあり、鏃身下半部の上半部で一番薄くなり、茎に近づくにつれ厚みを増す。鏃最大幅ももちろん横鑄の所が一番幅広である。逆刺を持たない十字鑄造銅鏃の編年のポイントは3つある。一つは横鑄の厚みが厚みのあるものから薄くなっていくことである。一つは鏃身長が短いものから長いものへ変化することである。一つは刃部より下の茎に至る内湾状を呈するものから外湾状を呈するものになることである。前橋天神山古墳の例と藤岡市三本木古墳の例を比べると良く分かる。

4. 五代砂留遺跡群出土の十字鑄銅鏃について

五代砂留遺跡群の十字鑄銅鏃(第153図1)は逆刺を持つもので、攪乱中から出土したものである。全長5.4cm、身部長3.7cm、刃部最大幅1.95cm、刃部最小幅1.4cm、刃部最大厚0.55cm、刃部最小厚0.4cm、逆刺幅1.6cm、刃部長3.7cm、茎長2.2cm、茎幅0.4cm、茎最大厚0.4cmである。鏃身の十字鑄の横鑄より上部には縦方向の研磨痕があり、十字鑄の横鑄より下部には横方向に研磨痕があり、部位により研磨の方向を変えていることが分かる。

5. 五代砂留遺跡群出土例以外の県内十字鑄銅鏃概要

①太田市頼母子古墳例(太田市)(第153図2・3)

逆刺を持つ鏃で、五代砂留遺跡群から出土した鏃の形態と同じである。28本の両鑄造柳葉銅鏃と共伴する。

2は全長4.5cm、身部長3.3cm、刃部最大幅1.65cm、刃部最小幅1.3cm、刃部最大厚0.45cm、逆刺幅1.4cm、刃部長3.3cm、茎長1.5cm、茎幅0.5cmである。

3は、全長4.5cm、身部長3.15cm、刃部最大幅1.8cm、刃部最小幅1.4cm、刃部最大厚0.6cm、逆刺幅1.4cm、刃

部長3.15cm、茎長1.4cm、茎幅0.45cmである。

2点ともに小型で、厚みのあるのが特徴であるが、両者の偏差が大きい。

②前橋天神山古墳例(前橋市)(第153図4・5)

逆刺を持たない十字鑄造銅鏃である。十字鑄造銅鏃は、総数26本あり、非常に数が多い。26本の平均をとると、全長5.1～5.8、身部長3.0～3.2cm、刃部最大幅1.7～1.9cm、刃部最小幅1.35～1.4cm、刃部最大厚0.7～0.8cm、刃部最小厚0.5～0.6cm、茎長1.8～2.2cmである。比較的偏差が少なく、大きさ・厚みともに整っている。

③下佐野遺跡例(高崎市)(第153図6)

逆刺を持たない十字鑄造銅鏃である。欠損している部分が多く、欠損部がある場合の数値を表現するのに数値+と表現する。本来は表示した数値より少し大きめということを示すものである。下佐野例は全長3.75+cm、身部長3.4+cm、刃部最大幅1.5+cm、刃部最小幅1.05+cm、刃部最大厚0.5cm、刃部長3.0+cm、茎長0.3cm、茎幅0.3cmである。欠損部を含めたとしても県内例としては小さな例である。

④三本木古墳例(藤岡市)(第153図7・8)

逆刺を持たない十字鑄造銅鏃である。3本出土例があるが、形態・数値ともにほぼ一定のものである。全長6.7～7.2cm、身部長4.4cm、刃部最大幅2.0cm、刃部最小幅1.9cm、刃部最大厚0.65～0.5cm、刃部長3.4～3.6cm、茎長2.1～2.2cm、茎幅0.4cmである。全体的に鏃身が長身化して、鏃身部の茎に至る曲線も緩やかな外湾するカーブを呈している。このような特徴は前期の柳葉系鉄

鏃で、新しい形態と考えられるものである。

6. 五代砂留遺跡群出土の十字鑄造銅鏃の特徴と編年的位置づけ

以上の県内十字鑄造銅鏃の概要から、五代砂留遺跡群について以下の特徴と編年的位置を述べる。

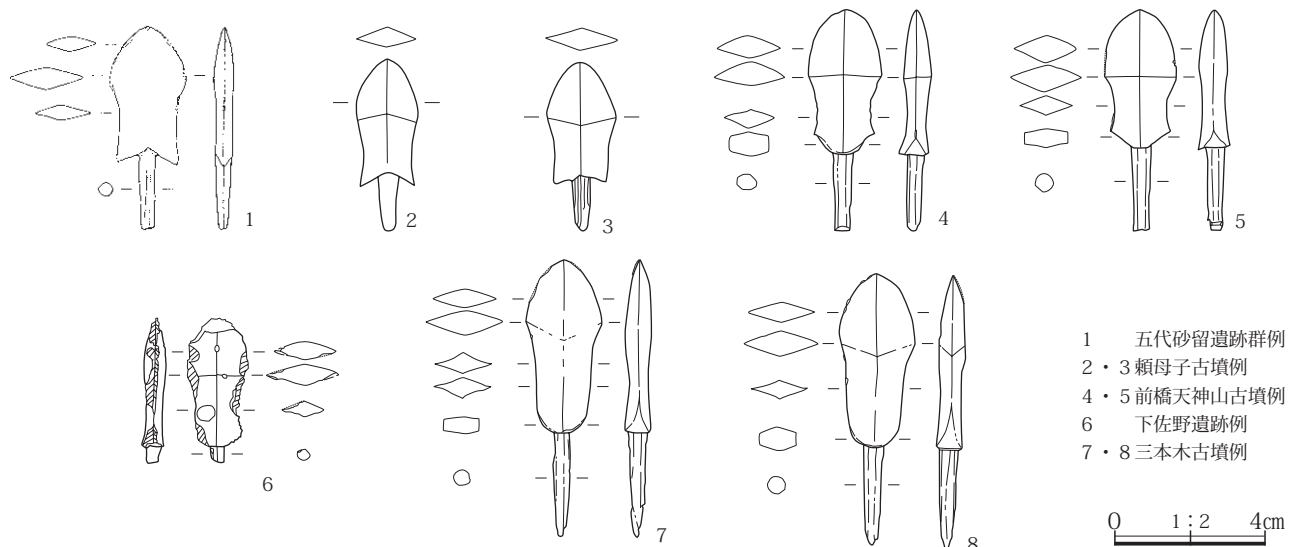
五代砂留遺跡群例は県内では珍しい逆刺を持つ十字鑄造銅鏃である。県内例では頼母子古墳例しかない。国内でも数例である。鏃身長・幅ともに頼母子古墳例より大きい。参考までに茨城県丸山古墳の逆刺のある十字鑄造銅鏃例を見てみると、身部長3.7～3.8cm、刃部最大幅2.1～2.2cmとやはり、五代砂留遺跡群例より大型である。ただ、長さに対する幅の比率が五代砂留遺跡群例は、頼母子古墳例の3や茨城丸山古墳例より小さく形態的に細長くやや長身化しているという特徴がある。

編年的位置づけであるが、各種の銅鏃例を見ると、皆時期が下がると長身化していくことが認められ、逆刺の無い十字鑄造銅鏃例では、前述したように、前橋天神山古墳例から藤岡三本木古墳例の長身化が良い例である。

このようにして見ると、五代砂留遺跡群例は、頼母子古墳例より新しいが、長身化をあまりしてないので前期後葉まではいかない時期と考えて良いであろう。

杉山秀宏 1995 「群馬県出土の銅鏃について」『群馬県内古墳出土の武器武具』群馬県古墳時代研究会

杉山秀宏 2008 「両鑄造柳葉式銅鏃について～群馬県内の資料を中心に～」『成塚向山古墳群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



第153図 群馬県内出土十字鏃

第2節 縄文時代遺構について

縄文時代の遺構として検出されたのは住居3軒、土坑1409基である。45区で検出された16号住居は出土遺物、住居施設(埋甕炉)に使われていた遺物等から縄文時代前期・諸磯c期の遺構であると考えられる。34区から検出された22号住居・24号住居は炉以外の住居付帯施設が検出されず、帰属時期を遺構から確認することはできなかった。しかし、住居近隣グリッドより加曽利B1式土器片が検出されており、縄文時代後期加曽利B1式期の住居である可能性が高い。

本遺跡において縄文土器片を伴った土坑は13基検出された。縄文前期後半の土坑が8基、後期前半の土坑が2基、後期と考えられる土坑1基、前期もしくは後期と考えられる土坑1基であった。

なかでも45区から検出された1373号土坑は諸磯c式深鉢土器(第125図1)が角礫に潰された状態で出土しており、「墓」との想定もあり得たが、調査では証拠となる痕跡や遺物は得られなかった。

本遺跡では、縄文包含層として縄文土器片2816片及び縄文時代石器227点を出土した。土器片は早期から後期加曽利B式土器まで出土した。石器もほぼ土器と同じ時期のものであり、縄文時代早期から後期まで人々の生活のあとが確認された。前期諸磯期と後期堀之内期にピークがあったことは第3章9節で述べた通りである。周辺遺跡の動向¹⁾を考えると、縄文時代前期は、五代中原I・II・III遺跡にて黒浜期の住居1軒・諸磯期の住居が6軒軒検出されている。五代伊勢宮II・V遺跡では黒浜期の住居2軒・諸磯期の住居3軒が検出されている。五代木福I遺跡では黒浜から諸磯a式にかけての住居が1軒検出されている。中原遺跡は標高約136m～約140mにかけて、伊勢宮遺跡は標高約127m～約134mと、標高約140m～約150mに展開している五代砂留遺跡群より一段低い位置である。本遺跡45区と五代川を挟んだ西側の台地に位置する芳賀東部団地遺跡群では前期花積下層式土器を伴う住居1軒・関山式期の住居5軒・黒浜期の住居17軒・諸磯a式期の住居9軒・諸磯b式期の住居3軒・諸磯c式期の住居8軒が検出されている。芳賀東部団地遺跡群で検出された住居に伴う形式の土器は関山式土器

を除き、五代砂留遺跡群でも土器片が出土している。

前期の住居43軒を検出した芳賀東部団地遺跡群だが、縄文時代中期になると加曽利E4式土器を伴う住居が2軒検出されただけである。縄文時代中期の遺構は芳賀東部団地遺跡群・五代砂留遺跡群より一段下がった地形面で多く検出されている。伊勢宮II・IV・V・VI遺跡では加曽利E4式期を中心に、中期中葉の住居が37軒検出されている。五代竹花遺跡では加曽利E3式土器を伴う住居が2軒、五代深堀II遺跡では同じく加曽利E3式土器を伴う住居が1軒検出されている。本遺跡では五領ヶ台式土器片及び加曽利E3・4式土器片が包含層から検出されているが、数量は前期及び後期の遺物に比べると少ない(第10表)。

縄文時代中期の遺構を検出した上記遺跡のうち、芳賀東部団地遺跡群以外からは、後期の遺構は検出されなかった。芳賀東部工業団地遺跡では後期称名寺期の住居3軒、堀之内期の住居1軒を検出している。本遺跡でも34区の住居跡2軒は縄文時代後期に属するものと考えられる。また後期に属する遺物を伴う土坑3基を検出している。さらに、本遺跡では縄文時代の一つのピークを後期堀之内期ととらえた。

以上のことから、本遺跡及び周辺では、縄文時代前期には標高140m～150mの地点(五代砂留遺跡群・芳賀東部団地遺跡群)を中心に集落が形成され、一段下の台地上では数軒のみの居住であった。その後中期になると標高130mを中心とした台地上(五代中原遺跡・竹花遺跡・深堀遺跡)で集落形成が行われるが、後期になると再び一段高い台地(五代砂留遺跡群・芳賀東部団地遺跡群)で集落を形成していたと考えられる。後期後葉以降は本遺跡を含め周辺で遺構は検出されていない。

中期に低高地に集落が展開するのは、赤城山山体崩落とそれに伴う土砂流出に要因の一端があることも考えられる。このように、分布の偏向は植生変動や地形変動などの自然的変化に起因することが想定される。

註

1)本遺跡と周辺遺跡の位置関係は第3表及び第9図で示している。

参考文献

鬼形芳夫1985「赤城山麓における縄文文化の展開」『群馬県史研究』21
 粕川村教育委員会1981『稲荷山K1・安通、洞A3』
 粕川村教育委員会1986『粕川村の遺跡』
 群馬県1990『群馬県史』通史編1
 新里村教育委員会1984『新里村の遺跡』

前橋市1966『前橋市史』第一巻
 前橋市教育委員会1984『芳賀東部団地遺跡Ⅰ』
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001『五代竹花遺跡 五代木福Ⅰ遺跡 五代伊勢宮Ⅰ遺跡』
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002『五代伊勢宮Ⅱ遺跡』
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002『五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中原Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡』
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003『五代伊勢宮Ⅴ遺跡』
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003『五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡』
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004『五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡』

第3節 古墳時代の遺構・遺物について

古墳時代の遺構として検出されたのは住居8軒、溝1条である。いずれも低地部45区で検出された。住居の構築時期は浅間C軽石降下以降であることが判明している。竪穴住居は、一般的な形態と規模で集落を構成する世帯単位の居住施設と理解される。

出土遺物の時期は、第2章で記載したように古墳時代前期中葉である。遺構の残存状況が悪く、出土した土器も少なく「甕」「壺」「高杯」「鉢」「器台」といったこの時期の主要器種組成を揃えている住居は検出されなかった。出土土器の特徴は、出土した甕のほとんどが単口縁平底甕であることだろう。これは、底部径が大きく自立できるものであったと考えられる。単口縁台付甕やS字状口縁台付甕(以下S字甕と記す)も出土しているが、単口縁平底甕に比べると圧倒的に少数である。群馬県古墳前期には、S字甕に転換するとの綜覧的な動きはあるが、地域的偏差としての平底甕主体の組成は注目してよい。次に、在来系弥生土器であり、赤城南麓でも出土例がある樽式土器とその系譜を引く土器片が出土していないことを挙げる。このことから、本遺跡の住居群は樽式土器消滅後の時期に帰属すると考えている。ところで客体的に見られるS字甕であるが、20号住居より出土したS字甕の一部(第82図6)は、肩から胴部片であり、S字甕の特徴の一つである横線が消失していない。このことから、その分類を田口一郎氏の編年Ⅲ期(田口2000)に位置付けたい¹⁾。18号住居より出土したS字甕の口縁部片(第74図10)も、口縁端部に面を持つことから田口編年Ⅲ期に属するものと見られる。樽式土器の消滅及び、田口編年Ⅲ期のS字甕盛行は浅間C軽石降下以降の事象であると捉えられている。このことは、本遺跡の住居群

の構築時期とも矛盾しない。

赤城南麓地域の古墳時代前期土器の特徴を述べる。赤城南麓では、樽式土器や赤井戸式・吉ヶ谷式土器と東海西部系を中心とした外来系の土器の共伴現象が見られる(深澤1998)。本遺跡近隣では、芳賀東部団地遺跡のH456号住居から赤井戸式・吉ヶ谷式土器が、古墳時代前期後葉に位置づけられる柱状脚部を有する高杯を伴って出土している。本遺跡ではそのような事例はみられていない。本遺跡出土の外来系の土器は、数量は少ないが東海西部系のS甕をはじめとして、南関東系の甕(26号住居第97図6)・畿内系の模倣である二重口縁壺(20号住居第82図8)などである。古墳時代前期の外来系土器の流入と在地化、在来系の変容といった動態のなかで、本遺跡でも確認することが出来たのは、樽式系でも東海西部系でもない様相を示す土器群の存在といえよう。本遺跡からの出土が数少ないとはいえ、S字甕は編年上の位置づけや、他遺跡例との時系列上の比較のうえで鍵となる。群馬県古墳時代前期を総括した深澤編年に対比すれば古墳時代前期中段階に位置づけてよい。歴年代で考えれば、3世紀末から4世紀第一四半期と捉えられる。

五代砂留遺跡群の古墳時代集落がある場所(45区)は低地地形であり、調査以前には古墳時代以降の水田耕地域の可能性が指摘されていた²⁾。しかし、今回の調査で古墳時代前期の居住域であることが判明した。重複した住居がないこと、土器型式に時間差がさほど認められないことから、本遺跡は一時期・一世代の短期的集落と言える。本遺跡周辺では、3世紀末から4世紀代の遺跡として芳賀東部団地遺跡群、五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡があげられる。芳賀東部団地遺跡群は、本遺跡と五代川を挟んだ西側台地上に位置し、古墳時代前期の住居が73軒検出されている。五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡は、本遺跡南側一段低い平坦面に展開しており、古墳時代前期の住居が63軒検出されている。芳賀東部団地遺跡群・五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡それぞれの調査から浅間C軽石降下以降の集落であることがわかっており、本遺跡の集落と共時性をもつ可能性が高い。五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡の調査では、住居が重複しており、浅間C軽石降下後、カマドを有する住居が出現するまでの時期を1～4期に時期区分している。芳賀東部団地遺跡群では住居の変遷に時間差があることが考えられるが、重複している住居が4軒のみと少なく、調査報

告では時期細分と変遷の様相まで言及していない。

五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡は古墳時代前期の時期区分をしており、五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡と本遺跡の土器による時期比較を試みる。本遺跡から比較に耐えられる良好な資料が出土していないことから、直接の比較検討は難しいものとするが、本遺跡出土遺物の範囲で若干の考察をする。五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡では、脚部が柱状を呈し屈脚する、いわゆる布留型高杯を有する住居が4期段階とし、1・2期は樽式土器片がわずかに含まれる段階としている。本遺跡では樽式土器の系譜と考えられる土器片は出土しておらず、柱状脚部を持つ高杯も出土していないことから本遺跡は五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡の3期に相当すると考えておきたい。また、前述した芳賀東部団地遺跡群H456号住居は布留型高杯を共伴しており、五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡の4期に相当すると考えられる。

以上のことから、芳賀東部団地遺跡群および五代中原Ⅱ・Ⅲ遺跡では古墳時代前期中葉から後葉にかけて継続的に集落が構築されていたと言える。立地条件・出土住居軒数を考えると、芳賀東部団地遺跡群が当地域の中核集落だったのであろう。五代砂留遺跡群の集落は4世紀に入ったある段階で人口増などの理由から派生移転をしたものと推測する。しかし継続的な定着はせず、一世代程度で居住域を他へ移したことが考えられる。一方、長期定着型の集落ととらえうる芳賀東部工業団地遺跡・五代中原Ⅰ・Ⅱ遺跡では4世紀代を通して、集落が営まれるが、5世紀段階のカマド出現時期には集落が収束してゆく。このことは大型古墳分布の変化ともあいまった県下全域に及ぶほどの地域再編成に関連するものと考えられる。

最後に、注目すべき遺物として古墳時代前期の逆刺を持つ十字鑄造銅鏃をあげる。この銅鏃の本来の出自が古墳であったか否かは大きな課題である。銅鏃が副葬される古墳が必ずしも大型古墳であるとは言えないが、群馬での同類出土例のみを考えると地域を代表する大型前期古墳である³⁾。昭和10年に県下一斉調査された上毛古墳綜覧によると本遺跡が所在する旧芳賀村地区では64墳もの古墳が記録されているがほとんどが6世紀から7世紀にかけての古墳である。芳賀西部団地の群集墳も6世紀を中心としている。少なくとも本遺跡が帰属し、他の2例古墳の構築時期である4世紀の古墳は遺跡周辺では判

明していない。大型古墳被葬者より下位階層の集落を統括した首長の存在は推測できても、銅鏃の所有・墓への副葬がありえたのか、今後の課題となろう。

註

1)田口一郎氏の編年は井野川流域を対象としたものであり、赤城南麓域との差異も考えられるが、現在のところ県内のS字状口縁台付甕研究の基軸となる田口氏の分析を採る。

2)五代中原Ⅲ遺跡報告書にて指摘されている。

3)太田市頼母子古墳・前橋市天神山古墳の2墳。

参考文献

大木紳一郎・小島純一1986「赤井戸式土器と吉ヶ谷式土器」『粕川村の遺跡』粕川村教育委員会

田口一郎1981「遺物の検討」『元鳥名將軍塚古墳』高崎市教育委員会

田口一郎2000「北関東西部におけるS字口縁甕の波及と定着」『第7回東海考古学フォーラム S字甕を考える』

友廣哲也1991「群馬県における古墳時代前期の土器様相」『群馬考古学手帳』2

深澤敦仁1998「上野における土器の交流と画期」『庄内式土器研究』XVI

深澤敦仁1999「赤井戸式土器の行方」『群馬考古学手帳』9

前橋市教育委員会1984『芳賀東部団地遺跡Ⅰ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003『五代伊勢宮Ⅵ遺跡・五代中原Ⅱ遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004『五代中原Ⅲ遺跡・五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡』

若狭徹・深澤敦仁2005「北関東における古墳出現期の社会」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』第1分冊新潟県考古学会

第4節 平安時代の遺構について

平安時代の遺構として検出されたのは住居15軒・掘立柱建物2棟・鍛冶遺構1基・溝条・道路状遺構1条である。出土遺物から住居は9世紀後半から10世紀にかけて営まれていたものと考えられる。鍛冶遺構も出土遺物から住居群と同時期と考えられる。ここで出土した鉄類の化学分析の結果、運び込まれた原料鉄を処理し鋼製造がおこなわれ、日常生活に必要な鋼製鉄器が製作されていた可能性が高いことがわかった。即ち、集落で原料鉄及び製品鉄器の供給を受け、あらたに日常生活に必要な鉄製品を製作していたと推定される。さらに利用目的を果たした鉄製品を再利用していたと言える。

9世紀から10世紀にかけての時期は本遺跡周辺でも集落が多様に展開をする時期である。本遺跡の西に隣接する芳賀東部団地遺跡群では、古墳時代前期の終わりと共に集落は収束するが、6世紀から再び集団の居住域となり、11世紀後半まで集落が展開していくことが分かっている。特に9世紀はこの遺跡の集落展開のピークであり、9世紀前葉には46軒の住居が、中葉には94軒になり、後葉には79軒の住居が営まれていた。本遺跡の南方に存在

する五代伊勢宮V遺跡では9世紀の住居が18軒、五代竹花II遺跡では12軒が検出されている。芳賀東部団地遺跡はその集落規模から、律令制下の「藤沢郷」の可能性が指摘されている¹⁾が、郷の可能性はともかく、当該地域に於ける中心的な集落であったであろうことは間違えなく言える。芳賀東部団地の載る台地が居住域としての限界を超えたか、あるいは農耕地の拡大のため、周辺地に支群的な集落が作られることとなり本遺跡もその支群の一つと考えている。

製鉄に関する遺構は周辺遺跡では本遺跡以外に芳賀東部団地遺跡群で製鉄址5基・五代伊勢宮IV遺跡・五代木福III遺跡で鍛冶工房跡が検出されている。井上唯雄氏は五代伊勢宮IV遺跡の発掘報告書において、芳賀東部団地遺跡を中心とする行政単位の中で、その中心集落において鉄素材を管理し、関係する郷の支群に分け与えたと考察している²⁾。本遺跡も芳賀東部団地遺跡群の支群のひとつと考えられ、中心的集落から原料鉄を供給されるという構図に組み込まれる集団であり、鍛冶従事者の存在を想定できる。また、本遺跡以外での鍛冶工房跡の存在は、それぞれの支群の中で日常的に鉄製品が製作されていたことが考えられる。遺跡の立地関係や集落規模から原料鉄の供給元は隣接する芳賀東部団地遺跡群を第一の候補に挙げるべきだろう。ただし、製鉄遺跡と関連させた鉄素材の生産・流通の解明には、いまだその証拠となる資料が限られているのが現状である。

註

1)前橋市教育委員会1988『芳賀東部団地遺跡II』pp.343では藤沢郷に所属する可能性が高いと指摘されている。

2)井上唯雄2002「五代伊勢宮VI遺跡と鍛冶工房」『五代伊勢宮VI遺跡・五代中原II遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団pp.44-45

参考文献

前橋市教育委員会1984『芳賀東部団地遺跡I』

前橋市教育委員会1988『芳賀東部団地遺跡II』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002『五代伊勢宮III遺跡・五代深堀II遺跡・五代中原I遺跡・五代伊勢宮IV遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003『五代伊勢宮V遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004『五代竹花II遺跡、五代木福III遺跡』

第5節 地域の中での歴史的評価

上武道路第8工区は赤城南麓を東西に通過しており、第8工区の発掘調査はいわば赤城南麓に東西軸のトレンチをいれたようなものである。それぞれの遺跡では、該当場所の南北での地域の歴史的状況は分からないことが多い。幸いにして本遺跡周辺では芳賀東部工業団地、五代南部工業団地造成に伴う発掘により、第8工区でも他の遺跡に比べ周辺地域の状況が把握しやすい遺跡であった。以下、存在の確認できた時代ごとに地域史解明のてがかりとなった成果についてまとめてみる。

本遺跡の縄文時代に関しては、早期から後期までの遺構と土器を主体とする出土遺物があり、中でも比較的充実していたのが前期と後期であった。周辺遺跡の動向と併せて考えると、縄文時代前期では本遺跡地を含む標高140m～150mの地点で集落が展開し、中期になると一段下の台地で集落が築かれ、後期になると再びこの台地に戻ってくると考えられる。自然環境の変化に起因すると考えられる縄文時代の前期から後期にかけての集落動向がうかがわれる。

古墳時代前期では、それまで生産域と考えられていた低地部で集落と考えられる住居群が検出された。本遺跡に隣接する芳賀東部団地及び五代中原II・III遺跡では浅間C軽石降下以降、古墳時代前期が終わる頃まで継続して住居が営まれていたが、本遺跡では4世紀前半の一時期のみの短期的な営みであった。起因となる事象は不明だが、弥生時代には居住対象域ではなかった場所を開拓し、居住域を広げた。しかし、そこでの営みも一世代程度でその役割を終えたことになる。古墳時代前期におけるこの地域の水田開拓のあり方を考える上での貴重な資料となろう。

平安時代では、本遺跡が律令制下での郷とみられる芳賀東部団地遺跡を中心とする集団の一支群であることが推定される。鍛冶遺構の調査結果は、それまでの周辺遺跡の調査成果と併せて考えると、支群ごとに鍛冶作業が行われていた状況を想定することができる。中心となる集落から原料鉄が持ち込まれそれぞれの支群で日常的な鉄器を生産供給していたとの理解も可能だろう。郷経営の実態を解明する資料として注目しておきたい。

第6節 課題

第5節では本遺跡で判明した成果を周辺遺跡との関連で評価した。ここで派生した問題点を踏まえて、地域史解明に向けた今後の課題を述べる。

縄文時代では前期から後期にかけての集落動向がわかったが、その動向は芳賀東部団地を含む周辺地域以外の場所ではどうであったのか。今回の報告では紙幅の関係もあり検討することができなかったが、広い意味での赤城南麓・標高150m～120mの動向を検討すべきである。また、赤城山体崩壊といった地変に伴う自然環境系の変化との関係把握は最も重要な課題の一つと考える。

古墳時代前期では、まず水田生産域を検討する必要がある。調査以前において生産域と目されていた本遺跡45区は集落域であった。隣接する台地には中心となる長期的集落が展開していたことは何度も述べた。であれば、安定した稲作生産域が必ず近隣にあることが想定される。今後の発掘調査成果を待つところであるが、旧地形復原から、どこまで当時の水田耕地を特定できるかが課題となる。

第3節で指摘した通り、古墳時代前期の赤城南麓では、在来系及び遠隔地域の外来系土器が出土しており、それはそのまま遠隔地域間の交流があったことにつながる。上武道路第8工区は前橋市田口町の利根川につながる低地部分から、前橋市上泉町にかけて赤城南麓を東西に通貫しており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて多くの遺構が検出された。荒砥川以東の荒砥地域に比べて本地域は比較的不明であったため、群馬に於ける古墳社会形成過程を解明する上で、等質な面的広がりを対象とした分布論の検討を可能にするだろう。

平安時代についても、古墳時代と同様に生産域の検討をしなければならない。芳賀東部団地遺跡と本遺跡及び周辺遺跡が郷と支群の関係にあることは十分に考えられる。律令制下であるので、班田制の実施を視野に入れた居住域と生産域の景観復原が課題となろう。芳賀東部団地遺跡では、遺跡内を南北に走る谷地を水田として利用していたであろうと想定している¹⁾。集落に隣接する開析谷を水田として利用することは想像に難くない。45区の低地部は、水田検出の鍵層となるAs-B堆積層が確認

できず、水田の検出は不可能であった。畑作も含めた生産域の検討が今後の課題と言える。

註

1)前橋市教育委員会1988『芳賀東部団地遺跡Ⅱ』pp.335-pp.344まとめで言及されている。

参考文献

群馬県1990『群馬県史』通史編1

新里村教育委員会1984『新里村の遺跡』

能登健・石坂茂・小島敦子・徳江秀夫1983「赤城南麓における遺跡群研究」『信濃』35巻4号

前橋市1966『前橋市史』第一巻

前橋市教育委員会1988『芳賀東部団地遺跡Ⅱ』

第21表 五代砂留遺跡群遺物観察表

1号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	18図 PL.35	灰釉陶器 耳皿	床上17cm	口縁部僅かに欠損	口径11.0 底径5.2 器高2.5	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無焼成。施釉方法は漬け掛け。	
2	18図 PL.35	須恵器 皿	床上5cm	1/3	口径14.0底径6.8 器高2.9 台部径6.0	細砂粒/酸化焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
3	18図 PL.35	須恵器 杯	床上8cm	完形	口径13.2 底径6.4 器高4.1	細砂粒・粗砂粒・角閃石/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
4	18図 PL.35	須恵器 椀	床上4cm	1/2	口径14.8 底径5.6 器高4.8	細砂粒/還元焰/淡黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整、底部器面磨滅。	
5	18図 PL.35	須恵器 椀	床上2cm	口縁部～底部片	口径15.8 底径8.0	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は剥落、底部は回転糸切りか。	
6	18図 PL.35	須恵器 椀	カマド	口縁部～体部片	口径13.9	細砂粒・褐粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	
7	18図 PL.35	須恵器 椀	埋土	口縁部片	口径15.8	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。	
8	18図 PL.35	土師器 甕	埋土、カマド	口縁部～胴部下位片	口径17.7 胴部径23.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
9	18図 PL.35	土師器 甕	埋土、カマド	底部胴部下位	底径2.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。内面はヘラナデ。	
10	18図 PL.35	土師器 甕	埋土、カマド	胴部片		細砂粒/良好/橙	胴部は外面亜がヘラ削り、内面はヘラナデ。	
11	18図 PL.35	砥石	床直		長(6.8) 幅(4.9) 重147.8		四面使用。上下両端を欠損。	切り砥石、粗粒輝石安山岩。

2号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	21図 PL.35	黒色土器 椀		口縁部片		細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙		
2	21図 PL.35	須恵器 杯	床上4cm	底部片	底径5.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
3	21図 PL.35	須恵器 椀	床上4cm	底部～体部	底径6.6	細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
4	21図 PL.35	須恵器 椀	床上37cm	底部～体部	底径6.8 台部径6.8	細砂粒・粗砂粒・角閃石/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
5	21図 PL.35	土師器 甕	床上12cm	口縁部～胴部下位	口径19.4 胴部径22.3	細砂粒・褐粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
6	21図 PL.35	土師器 甕	床上1cm	口縁部～胴部上位	口径20.4	細砂粒・褐粒/良好/橙	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
7	21図 PL.35	土師器 甕	床上74cm	底部～胴部下位	底径3.5	細砂粒/良好/にぶい赤褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
8	21図 PL.35	銅製品 銭貨		上部の一部欠損	径4.0 厚0.1 孔1.3 残存重0.8		皇朝十二銭「長年大寶」。残存状態は不良。	848年(嘉祥元年) 铸造
9	22図 PL.35	砥石	床直	上下両端を欠損	長(6.8) 幅(4.9) 重147.8		四面使用。	切砥石、粗粒輝石安山岩。
10	22図 PL.35	石製品	床直埋土		長4.9 幅4.9 重100.6		断面三角形状を呈す砥石上端に径5mmの孔を両側穿孔する。右側面に粗い櫛歯タガネ痕(横位条線)が残る。	切砥石、砥沢石。

3号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	25図 PL.36	須恵器 椀	床上5cm	口縁部～体部片	口径13.6	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
2	25図 PL.36	須恵器 杯	カマド埋土	底部～体部下位片	底径6.2	細砂粒・角閃石/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
3	25図 PL.36	須恵器 椀	床上20cm	底部～体部片	底径6.5 台部径6.0	細砂粒/還元焰燻/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	燻焼成は内面のみ。
4	25図 PL.36	灰釉陶器 椀	床上3cm	口縁部片	口径16.8	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は刷毛塗りか、釉薬が厚く不鮮明。	光ヶ丘1号窯式期
5	25図 PL.36	土師器 小型甕	床直	口縁部～胴部中位	口径11.8 胴部径13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	内面に煤が付着。
6	25図 PL.36	土師器 甕	床直	口縁部～胴部下位	口径18.4 胴部径21.6	細砂粒・褐粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
7	26図 PL.36	土師器 甕	床上1cm	口縁部～胴部下位	口径18.8 胴部径21.8	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
8	26図 PL.36	土師器 甕	床上15cm	口縁部～胴部下位	口径20.1 胴部径24.4	細砂粒・褐粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

遺物観察表

4号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	29図 PL.36	土師器 杯	床上4cm	完形	口径12.4底径 8.5器高3.5	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、 体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
2	29図 PL.36	土師器 杯	床上3cm	2/5	口径13.4底径 9.0器高3.8	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ 削り。	
3	29図 PL.36	土師器 杯	埋土	口縁部～体 部片	口径13.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ。	
4	29図 PL.36	須恵器 椀	床上26cm	口縁部1/4欠 損	口径12.4底径 5.8器高4.5	細砂粒・角閃石/ 還元焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無 調整。	
5	29図 PL.36	須恵器 椀		1/3	口径12.1底径 5.4器高4.6台 部径5.3	細砂粒/還元焰燻/ 黒	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転糸切り。	
6	29図 PL.36	須恵器 椀	床上6cm	1/4	口径14.0底径 6.9器高5.3台 部径6.8	細砂粒・角閃石粒/ 還元焰/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転糸切り。	
7	29図 PL.36	須恵器 椀	カマド埋土	1/2	口径14.7底径 6.4器高4.8台 部径6.2	細砂粒・角閃石粒・ 軽石粒/還元焰燻/ オリープ黒	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転糸切り。	
8	29図 PL.36	須恵器 椀	床上9cm	1/5	口径15.2底径 6.6器高5.2台 部径6.1	細砂粒・軽石/還 元焰/灰オリープ	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転糸切り。	
9	29図 PL.36	須恵器 椀	床上30cm	口縁部～体 部上半片	口径13.7	細砂粒・軽石/還 元焰/灰オリープ	ロクロ整形、回転右回り。	
10	29図 PL.36	須恵器 椀	床上30cm	口縁部～体 部片	口径13.8	細砂粒・ガラス質 粒/還元焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。	内外面に墨書、 外面「武」または 「成」か。内面は 判読不能。
11	29図 PL.36	須恵器 椀	床上26cm	口縁部～体 部片	口径13.9底径 7.5	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。高台が貼付される形態。	
12	29図 PL.36	須恵器 椀	床上3cm	口縁部～体 部片	口径15.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。体部に輪積み痕が残る。	
13	29図 PL.36	須恵器 杯	埋土	底部片	底径4.8	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無 調整。	
14	29図 PL.36	須恵器 椀	床上4cm	底部～体部 下半	底径6.2台部径 5.4	細砂粒・褐粒・角 閃石/酸化焰/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転糸切り。	
15	29図 PL.37	須恵器 椀	床上12cm	底部～体部 下半	底径7.2台部径 6.6	細砂粒/酸化焰き み/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。	内外面に墨書。 外面は判不能、 内面は「相●」か。
16	29図 PL.37	土師器 甕	床上1cm	口縁部～胴 部中位片	口径18.2胴部 径22.3	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
17	29図 PL.37	土師器 甕	床上19cm	口縁部～胴 部上位片	口径18.4	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は 横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
18	30図 PL.37	土師器 甕	埋土	口縁部～胴 部上位片	口径18.5	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
19	30図 PL.37	土師器 甕	床上8cm	口縁部～胴 部上位片	口径18.8	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は 横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
20	30図 PL.37	土師器 甕	床上14cm	口縁部～胴 部中位片	口径18.8 胴部径20.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
21	30図 PL.37	土師器 甕	床上15cm	口縁部～胴 部上位片	口径19.4	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
22	30図 PL.37	土師器 甕	床上5cm	口縁部～胴 部下位	口径19.5 胴部径21.7	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
23	30図 PL.37	土師器 甕	床上1cm	口縁部～胴 部下位	口径19.7 胴部径22.8	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は 横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
24	30図 PL.38	土師器 甕	床直	口縁部～胴 部中位	口径19.9 胴部径22.1	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
25	31図 PL.38	土師器 甕	床上5cm	口縁部～胴 部中位	口径20.0 胴部径23.3	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	胴部に歪あり。
26	31図 PL.38	土師器 甕	床上2cm	口縁部～胴 部上位片	口径20.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
27	31図 PL.38	土師器 甕	床上13cm	口縁部～胴 部下位	口径20.6 胴部径22.5	細砂粒・褐粒/埋 赤褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は 横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
28	31図 PL.38	土師器 甕	床上36cm	口縁部～胴 部中位片	口径20.8胴部 径20.5	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
29	31図 PL.38	土師器 甕	床上4cm	口縁部～胴 部中位片	口径20.8 胴部径22.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
30	31図 PL.38	石製品	埋土		長4.4 幅2.1 重12.1		上端側に浅いU字状の凹線を巡らせる。各面とも 粗い磨き整形。	柱状、軽石。
31	31図 PL.38	敲石	床直		長(18.0) 幅7.0 重812.9		上端側小口部・側縁に打痕。下端側の破損は打撃 痕があり、使用に伴う破損であることが確実。	棒状礫、粗粒輝 石安山岩。

5号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	33図 PL.38	土師器 杯	埋土	1/5	口径11.8 底径	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ 削り。	
2	33図 PL.38	須恵器 椀	床直層、埋 土	口縁部～体 部片	口径12.8	細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
3	33図 PL.38	須恵器 椀	埋土	口縁部～体 部片	口径14.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
4	33図 PL.38	須恵器 杯	床直	底部片	底径8.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調 整。	
5	33図 PL.39	土師器 甕	床直	口縁部～胴 部中位	口径19.5 胴部径21.5	細砂粒・褐粒/良 好/橙	外面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	外面胴部の一部 に煤が付着。
6	33図 PL.39	土師器 甕	床上19cm	口縁部～胴 部中位片	口径19.6 胴部径20.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ、器面磨滅で単位不鮮明。	
7	34図 PL.39	土師器 甕	床上3cm	口縁部～胴 部下位	口径20.2 胴部径20.3	細砂粒・褐粒/良 好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、頸部 下に削り残り箇所がみられる。内面胴部はヘラナ デ。	
8	34図 PL.38	土師器 甕	床上10cm	口縁部～胴 部上半片	口径20.0 胴部径19.6	細砂粒/良好/明赤 褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は 横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
9	34図 PL.39	土師器 甕	床直	口縁部～胴 部中位	口径20.8 胴部径21.3	細砂粒・褐粒/良 好/にぶい橙	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横 ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
10	34図 PL.39	土師器 甕	床上2cm	底部～胴部 下位	底径3.7	細砂粒・褐粒/良 好/橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
11	35図 PL.39	須恵器 甕	床直	底部～胴部 下半	底径15.5	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石・白粒/還 元焰/灰	底部は手持ちヘラ削り、胴部は叩き痕をナデ消し ている、最下位にヘラ削り。内面はアテ具痕をナ デ消している。	
12	34図 PL.39	敲石	床直		長12.0 幅13.0 重1221.9		上端側小口部に打痕。下端側は被熱破損。	扁平礫、粗粒輝 石安山岩

6号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	37図 PL.40	須恵器 杯	床上10cm	3/4	口径13.0 底径7.2	細砂粒・黒斑/還 元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調 整。	
2	37図 PL.40	須恵器 杯	床上20cm	1/4	口径13.7 底径7.0	細砂粒・褐粒/酸 化焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調 整。	
3	37図 PL.40	須恵器 皿	床上24cm	2/5	口径14.2 底径7.2	細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転系切り。	
4	37図 PL.40	須恵器 杯	埋土	底部片	底径5.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調 整。	
5	37図 PL.40	須恵器 椀	床上52cm	底部～体部 片	底径8.6	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。高台は剥落、底部はナデ。	内面燻焼成。
6	37図 PL.40	土師器 甕	床上13cm	口縁部～胴 部上半片	口径19.7			
7	37図 PL.40	土師器 甕	床上3cm	口縁部～胴 部上半	口径21.5 胴部径25.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は 横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
8	37図 PL.40	土師器 甕	床上24cm	底部～胴部 下位片	底径4.0	細砂粒/良好/褐灰	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
9	37図 PL.40	須恵器 甕	床上40cm	胴部片		細砂粒/還元焰/灰	外面は僅かに平行叩き痕が残る。内面のアテ具痕 はナデ消されている。	

7号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	40図 PL.40	須恵器 椀	床直	口縁部一部 欠損	口径14.2 底径7.9	細砂粒/酸化焰き み/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転系切り。	
2	40図 PL.40	須恵器 椀	床直	3/5	口径14.4 底径6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転系切り。	
3	40図 PL.40	須恵器 椀	埋土	口縁部片	口径14.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
4	40図 PL.40	須恵器 椀	埋土	底部～体部 片	底径6.2	細砂粒/酸化焰き み/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調 整。	
5	40図 PL.40	須恵器 椀	埋土	底部～体部 片	底径6.0	細砂粒・白粒/還 元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調 整。	
6	40図 PL.40	須恵器 椀	埋土	底部～体部 片	底径7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転系切り無調 整。	
7	40図 PL.40	須恵器 椀	埋土	底部片	底径7.1 台部径7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は 回転系切り。	
8	40図 PL.40	須恵器 椀	埋土	底部片	底径7.0 台部径7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は 回転系切り。	
9	41図 PL.40	土師器 甕	床直	口縁部～胴 部下位	口径17.8 胴部径20.4	細砂粒・褐粒/良 好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
10	41図 PL.40	土師器 甕	床上22cm	底部～胴部 下位片	底径3.6	細砂粒/良好/灰黄 褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

遺物観察表

8号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	43図 PL.40	土師器 杯	床直	一部欠損	口径11.3 底径7.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
2	43図 PL.40	土師器 杯	床上2cm	口縁部～底部片	口径12.0 底径8.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
3	43図 PL.40	須恵器 椀	床上14cm	1/3	口径14.5 底径8.2	細砂粒・粗砂粒・角閃石・白粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
4	43図 PL.40	須恵器 杯	床上35cm	底部	底径7.4	細砂粒・粗砂粒・角閃石/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
5	43図 PL.40	土師器 甗	床上3cm	口縁部～胴部中位片	口径19.1 胴部径21.5	細砂粒/良好/橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
6	43図 PL.40	土師器 甗	床上12cm	口縁部～頸部片	口径21.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
7	43図 PL.40	鉄器 刀子		刃・柄部とも端部欠	長7.0 刃部幅1.2 厚0.2 茎部幅1.0 厚0.3重		刃部は長期による使用のためか砥ぎによる擦り減りが顕著。錆化が進んでいる。	

9号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	46図 PL.41	土師器 杯	床直	口縁部～底部片	口径11.8 底径7.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
2	46図 PL.41	土師器 杯	埋土	口縁部～体部片	口径13.9	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ。	
3	46図 PL.41	須恵器 杯	埋土	口縁部～底部片	口径14.6 底径8.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
4	46図 PL.41	須恵器 杯	床直	口縁部片	口径13.5	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
5	46図 PL.41	須恵器 椀	埋土	口縁部片	口径13.9	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
6	46図 PL.41	土師器 甗	床上22cm	口縁部～頸部片	口径18.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
7	46図 PL.41	土師器 甗	床上1cm	口縁部～胴部上半	口径20.0 胴部径22.9	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
8	46図 PL.41	土師器 甗	床上6cm	底部～胴部下位片	底径4.4	細砂粒・ガラス質粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面に煤が付着。
9	46図 PL.41	土師器 甗	埋土	底部～胴部下位	底径4.5	細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

10号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	49図 PL.41	土師器 杯	埋土	1/4	口径11.1 底径5.6	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半は手持ちヘラ削り、底部は砂底。	内外面の口縁部から体部に煤が薄く付着。
2	49図 PL.41	土師器 杯	床上6cm	ほぼ完形	口径12.9 底径5.8	細砂粒/良好燻/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
3	49図 PL.41	土師器 杯	床上3cm	1/2	口径12.0 底径6.0	細砂粒・角閃石粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
4	49図 PL.41	土師器 杯	床上27cm	1/3	口径12.5 底径5.2	細砂粒・褐粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、口縁部下にナデがかすかに残る、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
5	49図 PL.41	土師器 椀	埋土	2/5	口径14.2 底径6.3	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	高台は貼付、口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半は手持ちヘラ削り、底部はナデ。	
6	49図 PL.41	土師器 椀	床上1cm	底部～体部片	底径6.0 台部径5.8	細砂粒・角閃石/良好/橙	高台は貼付、体部上半ナデ、下半は手持ちヘラ削り、底部はナデ。	
7	49図 PL.41	黒色土器 椀	埋土	口縁部片	口径12.8	細砂粒/酸化焰燻/灰黄褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転方向不明。内面はヘラ磨き。	
8	49図 PL.41	須恵器 椀	床上42cm	2/5	口径12.8 底径5.6	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面口縁部に「若」の墨書。
9	49図 PL.41	須恵器 椀	床直	3/4	口径13.9 底径6.0	細砂粒・粗砂粒/酸化焰/淡黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
10	49図 PL.41	須恵器 椀	床上27cm	ほぼ完形	口径13.5 底径7.0	細砂粒・ガラス質粒/酸化焰燻/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
11	49図 PL.41	須恵器 椀	床上7cm	口縁部1/4欠損	口径13.8 底径6.9	細砂粒・粗砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	高台の作りが雑。
12	49図 PL.41	須恵器 椀	床上42cm	3/4	口径15.3 底径7.9	細砂粒・粗砂粒・角閃石・褐粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
13	49図 PL.41	須恵器 椀	カマド掘方	1/3残、高台剥落	口径13.8 底径6.4	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落、底部は回転糸切り。	

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
14	49図 PL.41	灰釉陶器 皿	床上1cm	口縁部～体 部片	口径13.6 底径6.4	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期
15	49図 PL.41	灰釉陶器 椀	埋土	口縁部～体 部片	口径13.4	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式期
16	49図 PL.41	灰釉陶器 椀	埋土	底部～体部 片	底径7.3 台部径6.9	緻密/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ナデ。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯式期か。
17	49図 PL.41	灰釉陶器 椀	床上5cm	底部～体部 片	底径7.8 台部径7.0	微砂粒/還元焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ナデ、体部下位は回転ヘラ削り。施釉方法は刷毛塗りか。内面底部にも一筆。	光ヶ丘1号窯式期(古)。産地？
18	49図 PL.41	土師器 小型甕	床上8cm	口縁部～胴 部中位片	口径11.6 胴部径14.2	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
19	49図 PL.41	土師器 小型甕	床直	口縁部～胴 部中位片	口径12.6 胴部径14.0	細砂粒・粗砂粒・ 角閃石粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
20	50図 PL.41	土師器 甕	床上7cm	口縁部～胴 部下位片	口径17.6 胴部径20.8	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
21	50図 PL.42	土師器 甕	床上10cm	口縁部～胴 部下位片	口径18.6 胴部径21.5	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
22	50図 PL.42	鉄器 鎌		両端部とも 端部欠	長9.8刃部幅 3.7厚0.2重		錆化が進んでいる。	
23	50図 PL.42	鉄器 釘		中ほどを欠 損	長推定6.7 幅 0.7 厚0.5重		頭部は叩いて折り曲げ、錆化が進んでいる。	
24	PL.42	小鉄塊			長1.9 幅1.3 厚1.1 重3.6			
25	PL.42	小鉄塊			長2.8 幅1.9厚 1.8 重17.9			
26	50図 PL.42	敲石	床上10cm		長6.2 幅6.0 重214.5		上端側小口部に打痕。背面側は弱く摩耗。磨石としてはサイズが小さく、敲石とした。	偏平円礫、粗粒輝石安山岩
27	50図 PL.42	紡錘車	床上16cm		径4.8 厚1.2 重26.2		使用面側は光沢が乏しく、多方向の線条痕。裏面側は光沢を帯び、孔(径8mm)周辺が弱く窪む。	薄型偏平、蛇紋岩

11号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	52図 PL.42	土師器 椀	カマド	1/3	口径11.8 底径5.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
2	52図 PL.42	土師器 椀	床上12cm	口縁部片	口径15.8	細砂粒/良好/灰黄	口縁部横ナデ、体部上半はナデ、下半はヘラ削り。	
3	52図 PL.42	須恵器 椀	床上12cm	口縁部3/4欠 損	口径12.6底径 7.2	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
4	52図 PL.42	須恵器 椀	カマド	口縁部片	口径13.3	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
5	52図 PL.42	須恵器 椀	床上6cm	口縁部片	口径15.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
6	52図 PL.42	須恵器 椀	埋土、カマ ド	口縁部片	口径16.8	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
7	52図 PL.42	須恵器 椀	床上14cm	底部～体部 片	底径6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰オリー ブ	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
8	52図 PL.42	須恵器 椀	床上5cm	底部～体部 片	底径6.0	細砂粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面底部に「乙」の墨書。
9	52図 PL.42	須恵器 椀	埋土	底部～体部 片	底径6.6	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/還元焰/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
10	52図 PL.42	灰釉陶器 椀	埋土	底部～体部 下位半片	底径7.2 台部径6.8	緻密/還元焰/灰オ リーブ	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式期。
11	52図 PL.42	土師器 甕	床上15cm	口縁部～胴 部下位片	口径12.7胴部 径13.4	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
12	52図 PL.42	土師器 台付甕	床上11cm	胴部下半片	底径3.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付。胴部はヘラ削り、底部付近は横ナデ。内面はヘラナデ。	
13	52図 PL.42	土師器 甕	床直	ほぼ完形	口径20.1 底径 4.2 器高26.6 胴部径22.3	細砂粒・粗砂粒・ ガラス質粒/良好/ 明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部は底部から胴部がヘラナデ。	外面の大半はに煤が付着。
14	52図 PL.42	土師器 甕	床上20cm	底部～胴部 下位	底径5.7	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面は部分的に煤けている。

12号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	55図 PL.43	須恵器 椀	床上1cm	ほぼ完形	口径11.3 底径 6.3器高4.2	細砂粒・白粒/還 元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整か、底部摩滅が激しい。	
2	55図 PL.43	須恵器 椀	床上6cm	ほぼ完形	口径12.9 底径 4.5 器高4.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は砂底、体部下位に手持ちヘラ削り。	
3	55図 PL.43	須恵器 椀	埋土	口縁部片	口径13.1	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
4	55図 PL.43	土師器 杯	埋土	底部小片		細砂粒/良好/橙	底部はヘラ削り。	外面底部に墨書、残存が一部のため判読不能。
5	55図 PL.43	土師器 杯	埋土	底部小片		細砂粒/良好/橙	底部はヘラ削り。	外面底部に墨書、判読不能。
6	55図 PL.43	須恵器 杯	埋土	口縁部小片		細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。	外面口縁部に墨書、残存が一部のため判読不能。
7	55図 PL.43	須恵器 杯	埋土	口縁部小片		細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。	外面口縁部に墨書、残存が一部のため判読不能。
8	55図 PL.43	土師器 甕	床上3cm	口縁部～胴部上位片	口径17.3	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
9	55図 PL.43	土師器 甕	床上22cm	口縁部～胴部上位片	口径19.4	細砂粒・ガラス質粒/良好/にぶい橙	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

13号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	57図 PL.43	須恵器 椀	埋土	1/4	口径11.9 底径6.9 器高3.9	細砂粒・軽石粒/酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形は器面磨滅のため不明。	
2	57図 PL.43	須恵器 椀	床上2cm	ほぼ完形	口径12.6 底径5.6 器高5.0	細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
3	57図 PL.43	須恵器 椀	床上6cm	1/4	口径12.9 底径6.2 器高4.2	細砂粒/酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか。	
4	57図 PL.43	灰釉陶器 皿	埋土	1/2	口径14.2 底径7.4 器高3.2 台部径7.0	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ナデ。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
5	57図 PL.43	灰釉陶器 輪花皿	床上23cm	3/4	口径15.7 底径7.5 器高3.4 台部径7.0	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ナデ。施釉方法は刷毛塗り。	内面底部に重ね焼き痕が残る。光ヶ丘1号窯式期。
6	57図 PL.43	灰釉陶器 椀	床上4cm	ほぼ完形	口径13.2 底径6.8 器高4.5 台部径6.2	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ナデ。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
7	57図 PL.43	灰釉陶器 椀	床上4cm	口縁部～体部片	口径16.8	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。
8	57図 PL.43	須恵器 椀	床上5cm	4/5	口径13.5 底径6.8	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落、底部は回転糸切りか。	内面に漆が付着、体部はほとんど剥落。
9	57図 PL.43	須恵器 椀	床上6cm	口縁部～体部片	口径13.2	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	口唇部は大きく外反する。
10	57図 PL.43	須恵器 椀	床上1cm	口縁部～体部片	口径14.2	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
11	57図 PL.43	須恵器 椀	床直	底部～体部	底径6.2 台部径6.0	細砂粒/酸化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ナデ。	
12	57図 PL.43	須恵器 椀	床直	底部～体部	底径7.0 台部径6.2	細砂粒/酸化焰・外面燻/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ナデ。	
13	57図 PL.43	土師器 甕	床上8cm	口縁部～胴部上位片	口径13.1	細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
14	57図 PL.43	土師器 甕	床直	口縁部～胴部上位片	口径19.0	細砂粒・粗砂粒・角閃石・ガラス質粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
15	57図 PL.43	土師器 甕	床直	胴部片		細砂粒・粗砂粒・角閃石・ガラス質粒/良好/橙	内面胴部に輪積み痕が残る。外面はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
16	58図 PL.43	鉄器 斧		完形	長10.4 幅4.0 厚3.1重		柄取付部の断面は環状を呈す。錆化が進んでいるが、残存状態は良好である。	
17	58図 PL.43	敲石	埋土		長(8.4) 幅8.1 重366.8		側縁に打痕。表裏面とも摩耗が著しく、刃ならし傷様の深い線条痕があり、砥石としての可能性がある。	扁平楕円礫、石英閃緑岩

14号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	60図 PL.44	土師器 杯	掘方	口縁部～体部片	口径14.0 底径12.6	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)は手持ちヘラ削り。	内外面に煤が斑点状に付着。
2	60図 PL.44	土師器 甕	カマド掘り方	底部～胴部下	底径4.0	細砂粒/良好/にぶい橙	内面胴部に輪積み痕が残る。底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面胴部に煤がうすく付着。

15号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	66図 PL.44	土師器 高杯	埋土	杯身部片	口径9.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はヘラ削り。内面には斜放射状ヘラ磨き。	

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
2	66図 PL.44	土師器 鉢	床上2cm	口縁部～体 部片	口径12.9	細砂粒/良好/橙	内外面とも口縁部は横ナデ、体部は残存部分が少ないため不鮮明。	
3	66図 PL.44	土師器 鉢	埋土	口縁部～体 部片	口径17.4	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部から体部はへら磨きか、単位不鮮明。内面は体部から体部に横ナデ。	
4	66図 PL.44	土師器 鉢	床直	口縁部1/5欠 損	口径12.2 器高6.4 頸部径9.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	内面頸部に輪積み痕が残る。口縁部は上半が横ナデ、下半から胴部中位はハケ目(6本)、下位から底部はへら削り。内面は口縁部上半が横ナデ、下半がハケ目、底部から胴部はへらナデ。	
5	66図 PL.44	土師器 埴	床上8cm	口縁部1/4欠 損	口径13.9 器高6.9 頸部径7.8	細砂粒・褐粒/良 好/にぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はへら磨き、器面磨滅のため単位不明。胴部から底部は横位のへら磨き。内面は口縁部が斜放射、底部から胴部が放射状へら磨き。	
6	66図 PL.44	土師器 埴	床上2cm	口縁部～頸 部片	口径11.8 頸部径7.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。内面は斜放射状へら磨き。	
7	66図 PL.44	土師器 埴	床直	口縁部片	口径12.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はへら磨きか、単位不鮮明。内面はハケ目後上位と中位は横ナデ、下位は残る。	
8	66図 PL.44	土師器 埴	埋土	口縁部～胴 部片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は上半が横ナデ、下半が縦位のハケ目(8本)、胴部はへら磨きか。内面は口縁部が斜めのハケ目。	
9	66図 PL.44	土師器 鉢	埋土	口縁部下半 ～体部片		細砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削りか。	
10	66図 PL.44	土師器 壺	床上11cm	口縁部下半 ～胴部片	頸部径10.0	細砂粒・白粒/良 好/赤褐	外面と内面口縁部は赤色塗彩。口縁部から胴部はへら磨き。内面は口縁部がハケ目後へらナデか。胴部はへらナデ。	
11	66図 PL.44	土師器 台付甗	床上6cm	底部～脚部	底径4.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付。胴部から脚部上位はハケ目(7～8本)、内面脚部はナデ。	内面の脚部側底部には砂粒の多い粘土貼付。
12	67図 PL.44	土師器 甗	床上11cm	口縁部～胴 部中位片	口径18.0 胴部径22.5	細砂粒・白粒/良 好/にぶい橙	口縁部から胴部はハケ目(7本)。内面は口縁部がハケ目、胴部はへらナデ。	
13	67図 PL.44	土師器 甗	埋土	口縁部～頸 部片		細砂粒/良好/灰褐	内外面ともハケ目(8本)。	
14	67図 PL.44	土師器 甗	埋土	口縁部～頸 部片			内外面ともハケ目(9本)。	
15	67図 PL.44	土師器 甗	床上7cm	底部～胴部 下位	底径6.2	細砂粒・ガラス質 粒/良好/にぶい赤 褐	底部はへら削り、胴部はハケ目後部分的にナデ。内面は底部から胴部がハケ目。	
16	67図 PL.44	石製品?	床上12cm		長(1.3) 幅2.2 重2.5		外観は基石状。表裏面とも線状痕を伴う光沢面がある。	扁平円礫、珪質頁岩
17	67図 PL.44	敲石	床上12cm		長(6.9) 幅4.2 重145.8		上端側小口部の両側に打痕。下端側を欠損。	角柱状礫、変質安山岩
18	67図 PL.44	敲石	床上28cm		長(10.1) 幅6.3 重295			かこう岩

16号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	埋土	胴部1/2		粗砂、細礫/良好/ 赤褐	屈曲する器形。屈曲部上位は横位、斜位の集合沈線帯を施し、縦長棒状、ボタン状貼付文を付す。屈曲部下は縦位展開する集合沈線帯を施し、貼付文を全面、密に付す。	諸磯c式
2	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	床上40cm	口縁部破片		粗砂、黒色粒/ふ つう/灰黄褐	口縁が緩く内湾。口縁部に横位鋸歯状の集合沈線帯を作し、以下、縦位展開するモチーフを描き、貼付文を付す。	諸磯c式
3	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	床上21cm	口縁部破片		粗砂、細礫、片岩 /ふつう/橙	口縁が内湾。口縁部に横位集合沈線帯を作し、以下、縦位展開するモチーフを描き、貼付文を付す。	諸磯c式
4	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	床上33cm	口縁部破片			No. 3と同一個体。	諸磯c式
5	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	床上34cm	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/にぶ い橙	口縁を短く外反させ、口唇部に刻みを付す。口縁部に横位集合沈線帯を作し、以下、縦位展開するモチーフを描く。	諸磯c式
6	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	埋土	口縁部破片		細砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/浅黄 橙	口縁が内湾。口縁部に横位集合沈線帯を作し、貼付文を付す。	諸磯c式
7	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	床上28cm	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/にぶ い橙	口縁下から菱形状の集合沈線帯を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
8	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	床上32cm	胴部破片		粗砂、黒色粒/ふ つう/にぶい褐	横位、縦位展開する集合沈線帯を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
9	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	埋土	胴部破片		粗砂、黒色粒/ふ つう/黒褐	横位集合沈線帯をめぐらして文様帯を区画、上位は斜格子目状、下位は縦位展開する集合沈線帯を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
10	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	埋土	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/良好/にぶい 赤褐	菱形状の集合沈線帯を施し、貼付文を付す。	諸磯c式

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
11	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	床上33cm	胴部破片		粗砂、細礫、白色 粒、黒色粒/ふつ う/にぶい黄褐	斜位、横位の集合沈線を施す。	諸磯 c 式
12	69図 PL.44	縄文土器 深鉢	床上26cm	底部破片		細砂、黒色粒/良 好/暗赤褐	横位集合沈線を施す。	諸磯 c 式
13	69図 PL.45	縄文土器 深鉢	埋土	底部破片		粗砂/ふつう/灰黄 褐	縦位展開する集合沈線を施す。	諸磯 c 式
14	69図 PL.45	縄文土器 深鉢	床上34cm	口縁部破片		細砂、黒色粒/良 好/明赤褐	R Lを横位施文する。	前期後葉
15	69図 PL.45	縄文土器 深鉢	床上41cm	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒、石英/良好/ 橙	R Lを横位施文する。	前期後葉
16	69図 PL.45	縄文土器 深鉢	床上 9 cm	底部破片	底径5.2	細砂、黒色粒/ふ つう/にぶい橙	ロッキングを横位鋸歯状、弧状に施す。	浮島式
17	69図 PL.45	打製石斧	床上15cm		長13.2 幅6.6 重160.3		完成状態。刃部に近い側縁下端に摩耗痕が残る。 刃部は偏刃様にリダクションされている。巻縛痕 は不明瞭。	短冊型、黒色頁 岩
18	69図 PL.45	磨製石斧	床上19cm		長(10.6) 幅6.4 重261.8		刃部を除き、打痕が残り、研磨は粗い。基部側を 欠損。裏面側に被熱剥落の痕跡がある。	乳房状、変玄武 岩
19	69図 PL.45	石匙	床上19cm		長7.2 幅3.0 重22.2		規格的・素市区の剥離で刃部を作出。身を丁寧に 作り出している。	縦型、チャート
20	69図 PL.45	凹石	床上 6 cm		長7.9 幅7.0 重322.7		表裏面とも礫中央付近に集合打痕・摩耗痕。被熱 してヒビ割れている。	偏平円礫、粗粒 輝石安山岩
21	69図 PL.45	凹石	床直		長9.0 幅7.5 重436.4		表裏面とも中央付近に集合打痕・摩耗痕。被熱し てスガが付着。	偏平楕円礫、粗 粒輝石安山岩
22	69図 PL.45	凹石	床上 4 cm		長10.1 幅9.1 重575.9		表裏面に集合打痕、側縁敲打痕。礫面の摩耗が著 しく、弱い稜を形成、摩耗は集合打痕を覆う。	楕円礫、粗粒輝 石安山岩

17号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	71図 PL.45	土師器 甕	埋土	口縁部～頸 部片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内外面とも口縁部はハケ目後ナデ、から胴部はハ ケ目(8本)。	

18号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	74図 PL.45	土師器 鉢	床上 5 cm	口縁部～底 部片	口径14.0	細砂粒・ガラス質 粒・褐粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ磨きか。内面は底部 から体部に放射状ヘラ磨き。	
2	74図 PL.45	土師器 鉢	掘方	口縁部片	口径14.0	細砂粒/良好/赤褐	内外面とも口縁部はヘラ磨きか、単位不鮮明。	
3	74図 PL.45	土師器 鉢	床直	口縁部～体 部片	口径18.4	細砂粒/良好/赤褐	口縁部はハケ目後ヘラ磨きか、体部は縦位のヘラ 磨き。内面は頸部を除きヘラ磨き。	
4	74図 PL.45	土師器 鉢	床上 4 cm	底部～体部 下位	底径5.8	細砂粒・ガラス質 粒/良好/橙	底部はヘラナデ、体部は縦位のヘラ磨き。内面は 底部から体部に放射状ヘラ磨き。	
5	74図 PL.45	土師器 小型鉢	床上 2 cm	ほぼ完形	口径7.4 底径2.5 器高5.6	細砂粒・ガラス質 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部から体部・底部はハケ目(7本)、器面磨滅 で一部不鮮明。内面は口縁部はハケ目、底部から 胴部はヘラナデ。	
6	74図 PL.45	土師器 小型鉢	床直	完形	口径8.7 器高6.5	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部はハケ目後斜めのヘラ磨き、体部から底部 はハケ目、器面磨滅で一部不鮮明。内面は口縁部 はハケ目、底部から胴部はヘラナデ。	
7	74図 PL.45	土師器 埴	床上 1 cm	ほぼ完形	口径10.2 器高5.8	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい橙	内外面とも器面磨滅のため不鮮明であるが、ない 芸面の口縁部はヘラ磨きか。	
8	74図 PL.45	土師器 脚付埴	床直	埴部1/2	口径12.4	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	脚部は貼付、脚部から胴部はヘラ磨き。内面は口 縁部から底部までヘラ磨き。	
9	74図 PL.45	土師器 器台	床直	受け部片	口径7.8	細砂粒・ガラス質 粒/良好/にぶい赤 褐	受け部口縁部は斜め、底部は横位のヘラ磨き。内 面は口縁部が横位、底部が縦位のヘラ磨き。	
10	74図 PL.45	土師器 台付甕	床上 7 cm	口縁部～胴 部上位片	口径16.8	細砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(7本)。内面胴部 はヘラナデ。	
11	74図 PL.45	土師器 甕	床上 4 cm	口縁部～胴 部下位片	口径11.5 胴部径17.2	細砂粒・ガラス質 粒・褐粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はハケ目(4本)。 内面は口縁部下半から胴部がヘラナデ。	
12	74図 PL.45	土師器 甕	床上 4 cm	口縁部～胴 部上位片	口径14.7	細砂粒・雲母/良 好/にぶい黄橙	口縁部と胴部にはハケ目が部分的に残る。内面は 口縁部がヘラ磨き、胴部がヘラナデ。	
13	74図 PL.45	土師器 甕	床上 4 cm	口縁部～胴 部上位片	口径15.8	細砂粒・粗砂粒・ ガラス質粒・軽石/ 良好/にぶい橙	口縁部から頸部はハケ目後横ナデ、胴部はハケ目 (7本)。内面は頸部から胴部がヘラナデ。	
14	75図 PL.45	土師器 甕	床上 2 cm	底部～胴部 下位	底径5.6	細砂粒・ガラス質 粒/良好/にぶい赤 褐	底部にボタン状の突起が貼付、底部ナデ、胴部は ハケ目(5～6本)、内面はハケ目(3本)。	
15	75図 PL.45	土師器 甕	床上15cm	底部～胴部 下位	底径8.9	細砂粒・ガラス質 粒・白粒/良好/に ぶい赤褐	底部はヘラ削り、胴部はヘラ磨き。内面はヘラナ デ。	

No.	挿図番号 PL. 番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
16	75図 PL.45	土師器 甕	床直	底部～胴部 下位	底径9.2	細砂粒・ガラス質 粒/良好/にぶい赤 褐	底部はヘラ削り、胴部はハケ目(8本)。内面もハケ目。	
17	75図 PL.45	敲石	床上2cm		長9.7 幅6.1 重550.6			楕円礫、粗粒輝石安山岩

19号住居

No.	挿図番号 PL. 番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	78図 PL.45	土師器 埴		胴部片		微砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部は内外面とも横位のヘラ磨き。	
2	78図 PL.45	土師器 甕		底部～胴部 下位	底径6.6	細砂粒・白粒/良好/にぶい黄橙	底部はハケ目(10本)後周囲をナデ、胴部はヘラ削り後ハケ目とヘラ磨き。内面はヘラナデ。	

20号住居

No.	挿図番号 PL. 番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	82図 PL.45	土師器 高杯	床直	ほぼ完形	口径18.3 器高13.2 脚部径10.2	細砂粒・雲母・褐 粒/良好/にぶい黄 橙	脚部は貼付。杯身口縁部は横ナデ、体部上位が柳描き、体部中位から脚部はヘラ磨き、内面は杯身部が全面的にヘラ磨き、脚部は上半がナデ下半は柳描き。	脚部に円形の透孔が3カ所。
2	82図 PL.45	土師器 高杯	床上1cm	杯身部片	口径16.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ磨き。内面はほぼ全面ヘラ磨き。	
3	82図 PL.45	土師器 埴		ほぼ完形	口径12.6 底径3.4 器高5.2	細砂粒・ガラス質 粒/良好/にぶい黄 橙	内外面とも全面的にヘラ磨き。	
4	82図 PL.45	土師器 埴	床直	口縁部片	口径10.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口唇部は横ナデ、口縁部は縦位のヘラ磨き。内面も同様。	
5	82図 PL.46	土師器 小型甕	床上5cm	完形	口径6.6 底径 4.2 器高8.4	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
6	82図 PL.46	土師器 台付甕	床上5cm	胴部片		細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部は斜めのハケ目(6本)後上位に横位のハケ目。内面はヘラナデ。	
7	82図 PL.46	土師器 甕	床直	口縁部～胴部 上位片	口径11.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口唇部は横ナデ口縁部から頸部はヘラ磨き、胴部はヘラナデ。内面は口縁部がヘラ磨き、胴部はヘラナデ。	
8	82図 PL.46	土師器 壺	床上4cm	口縁部～頸部 片	口径27.4	細砂粒・雲母・褐 粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部は縦位のヘラ磨き、頸部はハケ目(10本)、内面は横位のヘラ磨き。	
9	82図 PL.46	手捏ね土 器鉢形	床上3cm	口唇部の一部 を欠損	口径4.2 底径 2.3 器高3.1	細砂粒・ガラス質 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部横ナデ、体部はハケ目(8～9本)、底部はナデ。内面は底部から体部がナデ。	
10	82図 PL.46	手捏ね土 器鉢形	床上2cm	口唇部の一部 を欠損	口径4.2 底径 2.9 器高3.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から体部・底部はナデ。内面は底部から口縁部までナデ。	
11	82図 PL.46	手捏ね土 器鉢形	床上7cm	口唇部の一部 を欠損	口径4.0 底径 3.0 器高3.3	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から体部・底部はナデ。内面は底部から口縁部までナデ。	
12	82図 PL.46	手捏ね土 器鉢形	床上4cm	口唇部の一部 を欠損	口径3.6 底径 3.1 器高4.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部～体部はハケ目(10本)、底部はナデ。内面は底部から体部がナデ。	
13	82図 PL.46	手捏ね土 器鉢形	床上7cm	口唇部の一部 を欠損	口径3.6 底径 3.4 器高3.5	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から体部・底部はナデ。内面は底部から口縁部までナデ。	
14	82図 PL.46	手捏ね土 器鉢形	床上2cm	口唇部の一部 を欠損	口径4.0 底径 3.0 器高3.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から体部・底部はナデ。内面は底部から口縁部までナデ。	
15	82図 PL.46	手捏ね土 器鉢形	床上1cm	口唇部の一部 を欠損	口径4.8 底径 3.4 器高4.3	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から体部・底部はナデ。内面は底部から口縁部までナデ。	
16	82図 PL.46	手捏ね土 器鉢形	床直	3/4	口径5.0 底径 2.7 器高5.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁は横ナデ、体部から底部はナデ。内面は底部から体部までナデ。	
17	83図 PL.46	砥石	床上3cm		長(8.7) 幅3.8 重63.2		四面使用。糸巻状を呈し、砥石は激しく消耗している。	切り砥石、砂岩
18	83図 PL.46	砥石	床上2cm		長(9.8) 幅7.1 重281.1		四面使用。背面側および上端小口部に刃ならし傷。	切り砥石、珪質粘板岩
19	83図 PL.46	砥石	床上37cm		長24.6 幅16重 3265.2		背面側のみ摩耗。摩耗部は目が潰れ、光沢を帯びる。	扁平楕円礫、粗粒輝石安山岩
20	83図 PL.46	敲石	床上14cm		長15.4 幅7.1 重950.8		両側面に敲打痕・衝撃剥離痕。被熱して部分的にヒビ割れている。	柱状亜円礫、粗粒輝石安山岩

21号住居

No.	挿図番号 PL. 番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	87図 PL.46	土師器 鉢	床直	1/3	口径8.1 底径6.1 器高5.6	細砂粒/良好/にぶい赤勝	口縁部から体部はハケ目、器面磨滅で不鮮明、底部はヘラ削り。内面は底部から体部がヘラナデ。	
2	87図 PL.46	土師器 鉢	床上1cm	底部～体部	底径4.9	細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部はヘラ削り、体部はヘラ削り後ナデ。内面は底部から体部がヘラナデ。	
3	87図 PL.46	土師器 鉢	床上1cm	底部～体部	底径4.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面体部に輪積み痕が残る。底部はヘラナデ、体部はナデ。内面はヘラナデ。	
4	87図 PL.46	土師器 鉢	床直	2/5	口径13.3 底径7.2 器高3.7	細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面は口縁部から体部・底部にかけてヘラ磨き。内面は口縁部が横ナデ、底部から体部がヘラ磨き。	

遺物観察表

No.	挿図番号 PL. 番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
5	87図 PL.46	土師器 埴	床上2cm	口縁部僅かに欠損	口径12.0 底径2.0 器高7.9 胴部径9.3	細砂粒・褐粒/良好/にぶい黄橙	外面頸部に接合痕が残る。口縁部から胴部はヘラ磨き、底部はナデ。内面は全面的にヘラ磨き。	
6	87図 PL.46	土師器 埴	床直	1/2	口径13.3 器高6.9	細砂粒/良好/にぶい黄橙	内外面とも赤色塗彩。内外面とも全面横位のヘラ磨き。	
7	88図 PL.46	土師器 埴	床上1cm	口縁部	口径13.3	細砂粒/良好/にぶい赤褐	内外面赤色塗彩。内外面とも横位のヘラ磨き。	
8	88図 PL.46	土師器 台付甕	床上3cm	脚部	脚部径8.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面はハケ目であるが大部分ナデ消されている。内面はハケ目(10本)。	
9	88図 PL.46	土師器 蓋	床直	摘み片	摘み4.3	細砂粒/良好/にぶい黄橙	摘みは貼付、内外面ともナデ。	
10	88図 PL.46	土師器 甕	床直	口縁部～胴部下位片	口径13.5	細砂粒・ガラス質粒/良好/にぶい橙	口縁部から胴部はヘラ磨き。内面は口縁部がヘラ磨きか、単位不鮮明、胴部はヘラナデ。	
11	88図 PL.46	土師器 甕	床上15cm	口縁部～胴部上半片	口径13.4 胴部径15.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部は縦位のハケ目(8～9本)後頸部下は横ナデ。内面は胴部が横位のハケ目。	
12	88図 PL.47	土師器 甕	床上2cm	口縁部～胴部下位片	口径13.3 胴部径17.4	細砂粒・褐粒・ガラス質粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は櫛描き、胴部はヘラ削り後中位以下にヘラ磨き。内面は口縁部が櫛描き、胴部はヘラナデ。	
13	88図 PL.47	土師器 甕	床直	口縁部～胴部下位片	口径13.7	細砂粒・白粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、胴部上位はヘラナデ、中位から下位はヘラ磨き。内面は口縁部がハケ目、胴部はヘラナデ。	
14	88図 PL.47	土師器 甕	床直	口縁部～胴部下位片	口径13.3 胴部径17.5	細砂粒・粗砂粒・褐粒・軽石/良好/にぶい赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半から胴部はヘラ削り(ヘラナデに近い)。内面は口縁部が横ナデ、胴部はヘラナデ。	
15	89図 PL.47	土師器 甕	床直	3/4	口径16.6 底径7.3 器高19.5 胴部径17.1	細砂粒・軽石/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、頸部から胴部はヘラ削り後胴部下半位ヘラ磨き、底部はヘラ削り。内面は底部から同部会はヘラナデ、中位・上位はヘラ磨き。	
16	88図 PL.47	土師器 甕	床直	2/3	口径16.6 底径7.2 器高19.5 胴部径17.9	細砂粒・軽石/良好/明黄褐	口唇部は横ナデ、口縁部上半はナデ、下半から胴部はヘラ削り(ヘラナデに近い)一部器面磨滅のため単位不明、底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
17	89図 PL.47	土師器 甕	床直	口縁部～胴部上位片	口径15.9	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は口縁部がヘラ磨き、胴部はヘラナデ。	
18	89図 PL.47	土師器 甕	床直	胴部片		細砂粒・粗砂粒・軽石/良好/明赤褐	内面位輪積み痕が残る。外面はヘラ削り後一部にヘラ磨き、内面はヘラナデ。	
19	89図 PL.47	土師器 甕	床上5cm	胴部下位片		細砂粒/良好/にぶい橙	外面はヘラ削り後ヘラ磨き、内面はヘラナデ。	
20	89図 PL.47	土師器 甕	床直	胴部片		細砂粒・粗砂粒/良好/橙	外面はハケ目(6～7本)、内面はヘラナデ後部分的にヘラ磨き。	
21	89図 PL.47	土師器 甕	床上5cm	底部～胴部下位片	底径5.7	細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削りか。内面はヘラナデ。	
22	89図 PL.47	土師器 甕	床上4cm	底部～胴部下位片	底径6.0	細砂粒・ガラス質粒/良好/にぶい黄橙	底部はヘラ削り、胴部はハケ目(7本)。内面はハケ目後一部ヘラ磨き。	
23	89図 PL.47	土師器 甕	床上10cm	底部～胴部下位片	底径6.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底部はヘラ削り、胴部もヘラ削り、器面磨滅で単位不鮮明。内面はヘラナデ。	
24	89図 PL.47	土師器 甕	床上2cm	底部～胴部下位片	底径6.5	細砂粒・褐粒/良好/にぶい黄橙	底部はヘラ削り、胴部はハケ目(6～7本)。内面はヘラナデ。	
25	89図 PL.47	土師器 甕	床直	底部～胴部下位片	底径6.6	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面は底部がヘラナデ、胴部はヘラ磨き。	
26	89図 PL.47	砥石	床直		長11.3 幅6.6 厚さ381		背面側に縦線条痕を伴う摩耗面。小口部両端に打痕。	偏平礫、粗粒輝石安山岩

25号住居

No.	挿図番号 PL. 番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	94図 PL.48	土師器 鉢	埋土	口縁部片	口径12.6	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は斜めのヘラ磨き、内面はやや雑な縦位のヘラ磨き。	
2	94図 PL.48	土師器 高杯	床上2cm	脚部	脚部径10.8	細砂粒・角閃石/良好/にぶい黄橙	脚部は縦位のヘラ磨き。内面は上位がナデ、中位がヘラナデ、下位はハケ目。	
3	94図 PL.48	土師器 壺	床上6cm	口縁部片	口径16.6	細砂粒・褐粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は折り返し。外面は横ナデ、内面は器面剥離のため不明。	
4	94図 PL.48	土師器 甕	床上6cm	底部～胴部下位	底径6.6	細砂粒/良好/灰黄褐	底部はヘラナデ、胴部はハケ目(7本)、内面はハケ目。	
5	94図 PL.48	石製品	床上4cm		長13.2 幅12.4 重360.6		背面側・左辺中央をノッチ状に加工。加工部に回転穿孔による小孔を穿つ。表裏面とも赤化しているが、背面側は転石としての礫面、裏面側は分割したのち粗く磨き整形しており、表皮内部の赤化はなく、被熱赤化したものということになる。	亜円礫? 軽石。
6	94図 PL.48	砥石	床上10cm		長9.2 幅7.7 重753.2		全面に敲打痕が広がり、器種認定した。小口部上端側は敲打痕のほか、著しい摩耗痕が広がる。	球形礫、粗粒輝石安山岩。
7	94図 PL.48	砥石			長14.3 幅8.1 重534.0		右辺に石斧様の側縁加工を施し、下端を大割した礫器状の石器を再利用したもの。砥石としての機能部は背面側・右辺にあり、黒く光沢を帯びている。	礫器? 黒色頁岩

26号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	97図 PL.48	土師器 直口壺	サブトレン チ	口縁部～頸 部片	口径11.2	細砂粒/良好/淡黄 褐	口縁部は内外面とも赤色塗彩。外面は上位が横位、 中・下位が縦位、内面は横位のヘラ磨き。	出土位置不明
2	97図 PL.48	土師器壺	床上5cm	頸部～胴部 上半片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	内面胴部に輪積み痕が残る。胴部はヘラ削り後ヘ ラ磨き。内面は胴部上位がヘラナデ、中位がヘラ 磨き。	
3	97図 PL.48	土師器 埴	住居内3柱 穴	底部～胴部 下半片	底径2.0	細砂粒・軽石・ガ ラス質微粒・/良 好/灰黄褐	底部から胴部はヘラ削り、一部にヘラ磨き。内面 はヘラナデ。	
4	97図 PL.48	土師器 器台	床上4cm	脚部一部欠 損	口径7.6 脚部径9.4 器高8.3	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	受け部口縁部と脚部端部は横ナデ、底部から脚部 はヘラ磨き。内面は受け部がヘラ磨き、脚部はハ ケ目(4本)。	脚部上位に透孔 が3カ所。
5	97図 PL.48	土師器 器台	床直	脚部1/2欠損	口径7.7 脚部 径9.3器高24.8	細砂粒/良好/明黄 褐	受け部口縁部は横ナデ、底部から脚部はヘラ磨き。 内面は受け部・脚部ともヘラ磨き。	脚部上位に透孔 が3カ所。
6	97図 PL.48	土師器 台付甕	床上7cm	5/6	口径16.1脚部 径9.4器高24.8	細砂粒・褐粒/良 好/橙	脚部は貼付。口縁部から脚部はハケ目(6本)、胴 部下半は磨滅のため単位不鮮明。内面は口縁部が ハケ目、胴部はヘラナデ、脚部は上半がヘラナデ、 下半がハケ目。	
7	98図 PL.48	土師器 甕	床上4cm	口縁部～胴 部下位	口径10.0胴部 径13.5	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部と胴部はハケ目(9本)。内面は口縁部がハ ケ目、胴部はヘラナデ。	
8	98図 PL.48	土師器 甕	床上4cm	3/4	口径15.9底径 6.5器高22.7胴 部径23.2	細砂粒・褐粒/良 好/にぶい橙	口唇部は横ナデ、口縁部から胴部上位はヘラナデ、 中位から下位上半はヘラ磨き、下半と底部はヘラ 削り。内面は口縁部上半が横ナデ、下半はヘラ磨 き、底部から胴部はヘラナデ。	
9	98図 PL.48	土師器 甕	床上7cm	1/2	口径16.8底径 6.6器高23.8胴 部径21.6	細砂粒・軽石・褐 粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ、頸部にはハケ目(7～8本)が残 る、胴部と底部はヘラ削り。内面は口縁部はハケ 目、底部から胴部はヘラナデか。	
10	98図 PL.48	土師器 甕	埋土	口縁部下半 ～頸部片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部から胴部はハケ目(単位不鮮明)。内面は口 縁部がヘラ磨き、胴部はヘラナデ。	
11	98図 PL.48	土師器 甕	床直	底部～胴部 下位片	底径8.0	細砂粒/良好燻/黒	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
12	98図 PL.49	土師器 壺	床上2cm	口縁部～胴 部上半	口径13.1胴部 径24.5	細砂粒・褐粒・軽 石/良好/にぶい黄 橙	内面胴部に輪積み痕が残る。下半はハケ目(8本)、 胴部はヘラ削り後ハケ目。内面は口縁部から胴部 上位がハケ目、中位はヘラナデ。	
13	98図 PL.48	土師器 壺	床上7cm	口縁部～頸 部片	口径15.8	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は外面が縦位のヘラ磨き、内面は横位のヘ ラ磨き。	

27号住居

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	101図 PL.49	須恵器 皿	住居内1柱 穴	口縁部片	口径13.8	細砂粒/酸化焰/褐 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
2	101図 PL.49	須恵器 皿	埋土	底部～体部 片	底径6.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。高台は剥落、底部は 回転糸切り。	
3	101図 PL.49	須恵器 椀	床上6cm	外面底部の 1/2剥落	口径13.9 底径 6.9 器高5.0 台部径6.4	細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転糸切り。	外面口縁部に 「内」の墨書。
4	101図 PL.49	須恵器 椀		1/2	口径14.2 底径 7.2 器高5.2 台部径6.7	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転糸切り。	
5	101図 PL.49	須恵器 椀		口縁部1/3欠 損	口径14.3 底径 8.0 器高5.6 台部径7.5	細砂粒・褐粒/酸 化焰/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転糸切り。	
6	101図 PL.49	須恵器 椀	カマド	口縁部～体 部片	口径13.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	
7	101図 PL.49	須恵器 椀	カマド	口縁部～体 部片	口径17.0	細砂粒・ガラス質 粒/還元焰燻/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位は回転ヘラ 削り。	
8	101図 PL.49	須恵器 椀	埋土	底部～体部 片	底径6.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調 整。	
9	101図 PL.49	須恵器 椀	床直	底部～体部 片	底径7.0	細砂粒・褐粒/酸 化焰/明黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調 整。	
10	101図 PL.49	土師器 甕	カマド	口縁部～胴 部上位片	口径19.4	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
11	101図 PL.49	土師器 甕	カマド	底部～胴部 下位	底径3.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

1号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	110図 PL.49	灰釉陶器 椀	埋土	底部～体部 片	底径7.4 台部径7.2	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転ナデ。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期。

4号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	110図 PL.49	須恵器 椀	埋土	口縁部～底 部片	口径12.4 底径 5.1 器高3.7	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し技法は 不明。	

遺物観察表

5号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	110図 PL.49	灰釉陶器 椀	埋土	底部～体部 片	底径7.4 台部径7.0	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ナデ。施釉方法は不明。	大原2号窯式期か。

7号溝

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	110図 PL.49	土師器 鉢		1/4	口径12.6 器高6.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部花暗目のヘラ磨き、体部から胴部あはハケ目(8本)。内面は口縁部が斜放射状、体部は横位のヘラ磨き。	
2	110図 PL.49	土師器 甕		口縁部～胴 部上位片	口径20.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は上半がナデ、下半から胴部はハケ目(8本)、内面は口縁部がハケ目、胴部はヘラ磨き。	

鍛冶遺構

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	119図 PL.49	須恵器 杯	284号土坑	口縁部一部 欠損	口径12.6 底径 6.8 器高3.9	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面口縁部に「寸」の墨書。
2	119図 PL.49	須恵器 椀	284号土坑	2/3	口径12.8 底径6.3 器高4.6	細砂粒・粗砂粒・ 軽石/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面口縁部に「圭」の墨書。内面口縁部に煤が付着、燈明として使用か。
3	119図 PL.49	須恵器 椀	284号土坑	口縁部片	口径14.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。	外面口縁部墨書、部分のため判読不能。
4	119図 PL.49	須恵器 椀	284号土坑	底部～体部 片	底径6.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内外面の体部に墨書、判読不能。
5	119図 PL.49	須恵器 鉢	284号土坑	底部～体部 片	底径7.0 台部径7.2	細砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	内外面の体部に墨書、判読不能。
6	119図 PL.50	鉄滓	300号土坑 床直		長14.6 幅8.9 厚3.1 重352.3			磁力弱い。
7	119図 PL.50	鉄滓	286号土坑 床直		長12.9 幅10.7 厚5.1 重562.9			磁力弱い。
8	120図 PL.50	鉄滓	286号土坑 床直		長14.2 幅11.8 厚4.9 重631.1			磁力弱い。
9	120図 PL.50	鉄滓	286号土坑 床直		長14.6 幅9.7 厚8.6 重716.3			磁力弱い。
10	120図 PL.50	鉄滓	286号土坑 床上2cm		長5.2 幅3.9 厚3.4 重26.7			磁力弱い。
11	120図 PL.50	鉄滓	300号土坑 床上16cm		長9.1 幅7.6 厚2.5 重203.4			磁力弱い。
12	121図 PL.50	鉄滓	300号土坑 床上7cm		長10.0 幅7.3 厚4.7 重168.0			磁力弱い。
13	121図 PL.50	鉄滓	300号土坑 床直		長7.6 幅6.5 厚2.5 重135.5			磁力弱い。
14	121図 PL.50	鉄滓	300号土坑 床直		長6.7 幅5.1 厚2.7 重89.1			磁力弱い。
15	121図 PL.50	鉄滓	300号土坑 床直		長14.6 幅7.6 厚4.0 重288.9			磁力弱い。
16	PL.50	金床石			長31.0 幅41.5 重39900		裏面側に広い平坦面を持ち、断面五角形状を呈する。表面側礫稜部および裏面側平坦面に黒色・光沢を帯びた鉄滓・銹化した鉄滓が付着する。礫面は表面が酸化して赤褐色を呈しているが、被熱して表裏面・右側面の礫表皮が剥落している。	角礫状、粗粒輝石安山岩

17号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	縄文土器 深鉢	埋土	底部破片		細砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/にぶ い黄橙	L Rを充填施文した帯状沈線を横位多段に施す。沈線が一部区切り文状になる。	加曾利B1式

570号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	土師器 甕		口縁部～胴 部中位片	口径12.0 胴部径14.0	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	外面胴部に煤が付着。

1129号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	須恵器 杯		1/2	口径12.1 底径 6.3 器高3.7	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面口縁部に「〇井」の墨書。

1196号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	縄文土器 深鉢	床上1cm	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/赤褐	斜位の集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式

1199号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	縄文土器 深鉢	埋土	胴部破片		粗砂、黒色粒/ふつつう/にぶい黄橙	口縁下の内折する部位。集合沈線による横帯構成で、横帯間に弧状の沈線を施す。一部平行沈線間に斜位の刻みを充填施文。	諸磯b式

1226号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	縄文土器 深鉢	床上19cm	胴部破片		粗砂、黒色粒/良好/にぶい赤褐	集合沈線による横帯構成。横帯間に鋸歯状の平行沈線を施す。	諸磯b式

1227号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	縄文土器 深鉢	床上37cm	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつつう/橙	無文。	後期前葉

1260号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	縄文土器 深鉢		口縁部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつつう/にぶい黄橙	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、LRを充填施文。余白を沈線で重層させる。	堀之内2式

1370号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	縄文土器 深鉢		胴部破片		粗砂/ふつつう/にぶい黄褐	集合沈線により縦位展開するモチーフを描く。	諸磯c式

1371号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	125図 PL.50	縄文土器 深鉢		胴部破片		粗砂/ふつつう/橙	集合沈線により縦位展開するモチーフを描く。	諸磯c式
2	125図 PL.50	縄文土器 深鉢		胴部破片			No.3と同一個体。	前期末葉
3	125図 PL.50	縄文土器 深鉢		胴部破片		粗砂、黒色粒/ふつつう/にぶい黄橙	結節浮線を横位多段に施し、ソーメン状浮線を斜位に貼付する。地文にRL横位施文。	前期末葉

1373号土坑

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	126図 PL.51	縄文土器 深鉢	1、45-K-9	口縁～胴下位2/3	口径24.1現存器高20.5	細砂、黒色粒/良好/にぶい橙	緩やかに外反しながら立ち上がり、口縁が短く内折する器形。口唇肥厚。横位集合沈線をめぐらして幅狭な口縁部文様帯を区画、矢羽根状の集合沈線を施す。胴部文様帯は4単位に縦位区画し、レンズ状など縦位展開するモチーフを描く。口唇から区画文にかけて棒状やボタン状貼付文を周回させ、胴部は半截竹管内皮による刺突を施した2個1組のボタン状貼付文を付す。	諸磯c式
2	126図 PL.51	打製石斧			長(8.7)幅6.1重70.6		完成状態?右側側縁が内側に入りするなど、初期の形状から大きく変形している。エッジは新鮮であり、製作途上に破損した可能性も否定できない。	短冊型、細粒輝石安山岩
3	126図 PL.51	石鏃			長3.0幅1.9重1.9		完成状態。周辺加工は粗く、断面厚は厚い。	凹基無茎鏃、チャート
4	126図 PL.51	磨石			長39.9幅(10.6)重919.1		背面側は摩耗して平坦面を形成。側縁敲打痕。裏面側は被熱して大きく剥落。	偏平円礫、細粒輝石安山岩

縄文包含層出土土器

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-T-18IV層	口縁部破片		粗砂、黒色粒/良好/赤褐	口唇が軽く肥厚し、口縁が外反。口唇部、口縁内面に縦走、肥厚部に斜行、頸部に横走するLRを施文する。	井草I式
2	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-S-15IV層	胴部破片		粗砂、片岩/良好/赤褐	燃糸文R、絡条体条痕を縦位施文する。	井草式
3	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	表土	胴部破片		粗砂、片岩/良好/赤褐	燃糸文Rをまばらに縦位施文する。	稲荷台式
4	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-R-18IV層	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい黄橙	口縁下に沈線を1条めぐらすが、連続する沈線ではなく、やや斜位の短沈線を連ねている。	東山式

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
5	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-0-15IV 層	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	口縁下に1条の沈線をめぐらす。	東山式
6	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-R-18IV 層	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/ふつう/にぶい黄橙	口縁下に1条の沈線をめぐらす。	東山式
7	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	IV層	口縁部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	口縁下に1条の沈線をめぐらす。	東山式
8	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	46-A-17IV 層	胴部破片		粗砂、片岩/良好/明赤褐	山形押型文を縦位施文する。	押型文系
9	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	46-Q-14IV 層	胴部破片			No.8と同一個体。	押型文系
10	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	2号住居	胴部破片		粗砂、白色粒/良好/橙	楕円押型文を縦位施文する。	押型文系
11	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	表土	胴部破片		粗砂、細礫、白色粒、黒色粒/良好/明赤褐	横位沈線を施す。	田戸下層式
12	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	46-A-17IV 層	胴部破片			No.11と同一個体。	田戸下層式
13	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	R-13IV層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/ふつう/黒褐	斜位沈線を施す。	田戸下層式
14	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	22-1号溝	胴部破片		粗砂、繊維/ふつう/にぶい赤褐	内外面に条痕を施す。	条痕文系
15	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV 層	胴部破片		細砂、白色粒、石英、繊維/ふつう/橙	0段多条RLを縦長菱形形状に施紋する。	花積下層式
16	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-R-18IV 層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英、繊維/ふつう/にぶい黄橙	RLを斜位施文する。	花積下層式
17	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	第1確認面	口縁部破片		細砂、繊維/ふつう/にぶい黄橙	0段多条RL横位施文を地文とし、横位、斜位の平行沈線を施す。	黒浜式、出土位置不明
18	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-T-15・16	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英、繊維/ふつう/橙	RL、LRを羽状施文する。	黒浜式
19	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、繊維/ふつう/暗赤褐	RL、LRを羽状施文する。	黒浜式
20	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-P-14IV 層	口縁部破片		粗砂、細礫、繊維/ふつう/にぶい黄橙	口唇内削ぎ。無節LRを横位施文する。	黒浜式
21	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英、繊維/ふつう/橙	RL、LR羽状施文を地文とし、間隔の空く連続爪形文を横位にめぐらす。	黒浜式
22	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-P-12、 Q-12IV層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、繊維/ふつう/橙	RL、LRを羽状施文する。	黒浜式
23	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	46-A-17	胴部破片		粗砂、細礫、黒色粒、繊維/ふつう/明赤褐	条線によるコンパス文を横位にめぐらす。	黒浜式
24	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	文化課試掘 トレンチ	胴部破片		細砂、白色粒、石英、繊維/ふつう/橙	0段多条LR、RLを羽状施文する。	黒浜式、出土位置不明
25	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	21号住居 113	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、繊維/ふつう/橙	RL、LRを羽状施文する。	黒浜式
26	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		細砂、繊維/ふつう/橙	斜行する2条巻の撚糸文Rを横位施文する。内面研磨。	黒浜式
27	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	表採	胴部破片		細砂、繊維/ふつう/橙	斜行する2条巻の撚糸文Lを斜位施文する。	黒浜式
28	129図 PL.51	縄文土器 深鉢		底部破片		細砂、白色粒、黒色粒、繊維/ふつう/明赤褐	連続爪形文を横位多段に施す。	黒浜式
29	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	32-S-7カ クラン	口縁部破片		細砂、白色粒/良好/明赤褐	口縁が短く外反。連続爪形文を横位施文する。	諸磯a式
30	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	21号住居 136	口縁部破片		細砂/ふつう/にぶい黄橙	連続爪形文を横位多段に施す。	諸磯a式
31	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	用地70	胴部破片		細砂、白色粒/良好/橙	連続爪形文により木葉文を描き、RLを充填施文する。	諸磯a式
32	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	S-7カク ラン	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/良好/明赤褐	RLを横位施文する。	諸磯a式
33	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	表土	胴部破片		粗砂、黒色粒、片岩/良好/橙	連続爪形文により幾何学モチーフを描く。	諸磯b式

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
34	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-0-14IV 層	口縁部破片		粗砂、細礫、片岩/ 良好/赤褐	波状口縁。浮線による横帯構成。波頂部下に貼付文を付す。	諸磯b式
35	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	東	胴部破片		粗砂、白色粒/ふ つつ/にぶい赤褐	波状口縁で口縁の内湾する部位。浮線による構成で、渦巻状モチーフなどを描く。	諸磯b式
36	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	45-K-8 IV 層	胴部破片		粗砂、細礫、白色 粒、黒色粒/良好/ 赤褐	口縁の内湾する部位。浮線による横帯構成で、屈曲部に縦位、斜位の浮線を施す。	諸磯b式
37	129図 PL.51	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつつ/明赤 褐	浮線による横帯構成。横帯間に斜位や弧状のモチーフを施す。地文にRL横位施文。浮線は白色粘土を用いる。	諸磯b式
38	129図 PL.52	縄文土器 深鉢	45-K-8、表 土	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつつ/にぶ い黄褐	口縁の内湾する部位。浮線による横帯構成で、屈曲部に斜位、弧状の浮線を施す。地文にRL横位施文。	諸磯b式
39	129図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地87	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつつ/赤褐	浮線による横帯構成。地文に無節LR横位施文。	諸磯b式
40	129図 PL.52	縄文土器 深鉢	45-0-14IV 層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつつ/にぶ い橙	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。	諸磯b式
41	129図 PL.52	縄文土器 深鉢	西低地117	胴部破片		粗砂、黒色粒/良 好/にぶい赤褐	浮線による横帯構成。	諸磯b式
42	129図 PL.52	縄文土器 深鉢	IV層層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒、石英/ふつ う/にぶい黄褐	浮線による横帯構成。地文にLR横位施文。	諸磯b式
43	129図 PL.52	縄文土器 深鉢	45-0-14IV 層	胴部破片		粗砂/ふつつ/にぶ い黄褐	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。	諸磯b式
44	129図 PL.52	縄文土器 深鉢	15号住居	胴部破片		粗砂、白色粒/ふ つつ/にぶい黄橙	浮線による横帯構成。地文にRL横位施文。	諸磯b式
45	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	15号住居	胴部破片		粗砂、黒色粒/ふ つつ/にぶい黄橙	浮線による横帯構成。浮線間に刺突を充填施文する。地文にRL横位施文。	諸磯b式
46	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	表土	胴部破片		粗砂、細礫/ふつ う/にぶい黄橙	波状口縁で口縁が内折。結節沈線による横帯構成。	諸磯b式
47	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片		粗砂、黒色粒/良 好/橙	波状口縁で口縁が内折する。集合沈線による横帯構成。波頂部下に入組状の集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯b式
48	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつつ/にぶ い黄橙	双頂の波状口縁。貼付文が剥落した痕跡あり。	諸磯b式
49	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片			No.48と同一個体。波状口縁で、口縁に山形状の小突起を連ねる。集合沈線による横帯構成。横帯間に弧状の集合沈線を施す。	諸磯b式
50	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	表土	口縁部破片		粗砂、細礫、白色 粒、黒色粒/ふつ う/にぶい橙	双頂の大波状口縁で、内湾する。集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
51	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片		粗砂、細礫/良好/ にぶい赤褐	波状口縁。集合沈線による横帯構成で、横帯間に連弧状やU字状、斜位の集合沈線を施す。	諸磯b式
52	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片			No.51と同一個体。	諸磯b式
53	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/良好/にぶい 赤褐	波状口縁。集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
54	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	45-C-15IV 層	口縁部破片		粗砂、細礫、黒色 粒/ふつつ/にぶい 赤褐	波状口縁で口縁が緩く外反。集合沈線による横帯構成。	諸磯b式
55	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		粗砂、黒色粒、石 英/良好/暗赤褐	集合沈線による横帯構成。地文にRL横位施文。	諸磯b式
56	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片			No.55と同一個体。	諸磯b式
57	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片			No.55と同一個体。横帯間に菱形状の平行沈線を施す。	諸磯b式
58	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	45-P-14IV 層	胴部破片		粗砂、細礫/良好/ にぶい赤褐	集合沈線により風車状入組文を描く。地文にRL横位施文。	諸磯b式
59	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		粗砂、細礫、白色 粒、石英/良好/に ぶい赤褐	平行沈線による横帯構成。横帯間に弧状の平行沈線を施す。	諸磯b式
60	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	西低地24	胴部破片		粗砂、黒色粒/ふ つつ/にぶい橙	くの字状の屈曲する器形。集合沈線による横帯構成で、横帯間に縦位集合沈線、X字状沈線を施す。	諸磯b式
61	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	東低地	底部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつつ/浅黄 橙	前々段反摺LRを地文とし、横位平行沈線を施す。	諸磯b式
62	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	45-P-14IV 層	胴部破片		粗砂、細礫/良好/ 暗赤褐	集合沈線による横帯構成。横帯間に鋸歯状の集合沈線を施す。補修孔あり。	諸磯b式
63	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	45-P-16IV 層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつつ/暗赤 褐	集合沈線による横位帯構成。地文にRL横位施文。	諸磯b式

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
64	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	西低地58	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/良好/橙	集合沈線による横帯構成。横帯間に鋸歯状の平行沈線を施す。	諸磯b式
65	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	45-L-10	胴部破片		粗砂、細礫、白色粒、黒色粒/良好/明赤褐	平行沈線による横帯構成。地文にR L横位施文。	諸磯b式
66	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	15号住居	胴部破片		粗砂、黒色粒/良好/暗赤褐	集合沈線による横帯構成。地文にR L横位施文。	諸磯b式
67	130図 PL.53	縄文土器 深鉢	東低地、表土、西低地	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい赤褐	集合沈線による横帯構成。地文にR L横位施文。	諸磯b式
68	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	床直	胴部破片		粗砂、細礫/良好/橙	集合沈線による横位帯構成。横帯間に縦位、斜位の集合沈線を充填施文する。	諸磯b式
69	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	46-A-17	口縁部破片		粗砂、黒色粒、石英/良好/暗赤褐	波状口縁で口縁が内折する。内折部にR Lを横位施文し、貼付文を付す。	諸磯b式
70	130図 PL.52	縄文土器 深鉢	表土	口縁部破片		粗砂/良好/赤褐	縦位鋸歯状の集合沈線を施す。口唇部を肥厚させ、斜位の集合沈線を充填施文。	諸磯c式
71	130図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-P-14IV層	口縁部破片		粗砂、白色粒/ふつう/にぶい黄橙	断面V字状の大波状突起。斜位、鋸歯状の集合沈線を施す。	諸磯c式
72	130図 PL.53	縄文土器 深鉢	表土	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/橙	口縁外端に刻みをめぐらす。口縁下に横位集合沈線を施し、以下、縦位展開する集合沈線を施す。	諸磯c式
73	130図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-N-14IV層	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	横位集合沈線をめぐらして幅狭な口縁部文様帯を区画、口縁部に矢羽根状集合沈線を充填施文、胴部は縦位展開するモチーフを描く。口縁外端に抉るような刺突を加える。	諸磯c式
74	130図 PL.53	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい黄橙	口縁外端に刻みをめぐらす。横位、縦位展開する集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
75	130図 PL.53	縄文土器 深鉢	25号住居	口縁部破片		粗砂、細礫、白色粒/良好/暗赤褐	口縁が内湾。横位集合沈線をめぐらして幅狭な口縁部文様帯を区画、矢羽根状集合沈線を充填施文し、貼付文を付す。	諸磯c式
76	130図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-S-15IV層	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/ふつう/にぶい黄橙	耳たぶ状などの貼付文を付す。	諸磯c式
77	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-T-16IV層	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい橙	口縁が強く内湾。屈曲部に横位集合沈線をめぐらして幅狭な口縁部文様帯を区画、斜位の集合沈線を施し、貼付文を付す。胴部は縦位展開するモチーフを描く。	諸磯c式
78	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	表土	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい橙	口縁下から鋸歯状の集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
79	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	確認面	口縁部破片		粗砂/良好/橙	斜位の集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式、出土位置不明
80	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	床上8cm	口縁部破片		粗砂/良好/にぶい褐	横位集合沈線を施して貼付文を付す。口縁内面を肥厚させ、斜位の集合沈線を施して貼付文を付す。	諸磯c式
81	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片		粗砂、細礫/ふつう/にぶい褐	口縁下に斜位の集合沈線を施し、以下、幅広の横位集合沈線帯を作出、貼付文を付す。剥落しているが縦長の貼付文の痕跡あり。口縁内面を肥厚させ、斜位の集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
82	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-L-10	口縁部破片		粗砂、黒色粒/良好/にぶい赤褐	口縁が緩く内湾。横位集合沈線を施し、貼付文を密に付す。2個一対の長い貼付文が見られる。	諸磯c式
83	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-L-10	口縁部破片			No.82と同一個体。	諸磯c式
84	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-L-9・10	胴部破片			No.82と同一個体。	諸磯c式
85	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-L-10	胴部破片			No.82と同一個体。	諸磯c式
86	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/暗赤褐	横位集合沈線をめぐらして文様帯を区画、縦位展開する集合沈線を施す。地文にR L横位施文。	諸磯c式
87	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-P-16、R-16IV層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/橙	横位集合沈線をめぐらして文様帯を区画、胴部文様帯に縦位区画、レンズ状の集合沈線を施し、斜格子目平行沈線を充填施文する。	諸磯c式
88	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	45-0-13・14IV層	胴部破片		粗砂、白色粒/良好/にぶい赤褐	横位集合沈線をめぐらして文様帯を区画、胴部文様帯に縦位区画、レンズ状の集合沈線を施し、V字状集合沈線を充填施文する。	諸磯c式
89	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	T-16IV層、床直	胴部破片		粗砂、片岩/良好/明赤褐	縦位区画、鋸歯状の集合沈線を施す。	諸磯c式
90	131図 PL.53	縄文土器 深鉢		胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい橙	横位集合沈線をめぐらして文様帯を区画、縦位展開する集合沈線を施す。地文にR L横位施文。	諸磯c式
91	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/赤褐	胴部文様帯下端の部位。横位集合沈線を施して文様帯を区画、レンズ状の集合沈線を施す。地文にR L横位施文。	諸磯c式
92	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	25号住居、T-16IV層	胴部破片			No.89と同一個体。	諸磯c式

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
93	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	26号住居 サブトレチ	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/灰黄褐	横位、縦位の集合沈線を施す。	諸磯c式、出土位置不明
94	131図 PL.54	縄文土器 深鉢	床直	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/良好/橙	大形深鉢。横位集合沈線を施し、以下、縦位展開するモチーフを描く。2個一対の貼付文を付す。	諸磯c式
95	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	45P-12IV層	胴部破片		粗砂、細礫/ふつう/にぶい橙	屈曲する部位。屈曲部に横位、矢羽根状の集合沈線を施して刻みをめぐらし、貼付文を付す。	諸磯c式
96	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		粗砂、細礫/ふつう/にぶい橙	屈曲する器形。横位集合沈線を施し、屈曲部に貼付文をめぐらす。剥落しているが、屈曲部上にも貼付文を付していた痕跡が見られる。	諸磯c式
97	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		粗砂、細礫/良好/にぶい赤褐	屈曲する部位。斜位、横位の集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
98	131図 PL.53	縄文土器 深鉢	IV層	胴部破片		粗砂、細礫/良好/明黄褐	屈曲する部位。斜位の集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
99	131図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-R-13IV層	胴部破片		細砂、白色砂/良好/明赤褐	屈曲する部位。横位集合沈線を施して貼付文を付す。	諸磯c式
100	131図 PL.54	縄文土器 深鉢	25号住居掘方	胴部破片		細砂、白色粒/良好/にぶい橙	No.99と同一個体。屈曲部下の部位で縦位展開する集合沈線を施し、円形刺突を押捺した貼付文を付す。地文にRL横位施文。	諸磯c式
101	131図 PL.54	縄文土器 深鉢	21号住居1	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい赤褐	鋸歯状の集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
102	131図 PL.54	縄文土器 深鉢	表土	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/良好/灰黄褐	斜格子目状の集合沈線を施し、貼付文を付す。	諸磯c式
103	131図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-R-13IV層	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/良好/明赤褐	縦位集合沈線を施し、複数条の縦長貼付文を付す。貼付文に半截竹管内皮による刺突を施す。	諸磯c式
104	131図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-R-15IV層	胴部破片			No.103と同一個体。	諸磯c式
105	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片		粗砂、雲母/良好/にぶい赤褐	口縁がくの字状に短く外反。屈曲部下に円孔をめぐらす。	前期後葉
106	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	IV層	口縁部破片		粗砂/良好/にぶい赤褐	口縁がくの字状に短く外反。屈曲部下に円孔をめぐらす。	前期後葉
107	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	表土	肩部破片		細砂、黒色粒/良好/にぶい黄橙	くの字状に内屈する部位。口縁屈曲部下に円孔をめぐらす。	前期後葉
108	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	20号住居	肩部破片		粗砂、白色粒、雲母/良好/明赤褐	肩が丸く内湾する。口縁下に円孔をめぐらす。	前期後葉
109	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-K-10	胴部破片		粗砂、白色粒、雲母/ふつう/にぶい黄橙	屈曲部下の部位。段を有す。	前期後葉
110	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/良好/黒褐	屈曲部下の部位。肥厚させた段を有す。	前期後葉
111	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	西低地	胴部破片		粗砂、黒色粒/良好/暗赤褐	屈曲部下の部位。肥厚させた段を有す。	前期後葉
112	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	東低地	口縁部破片		細砂、黒色粒/良好/灰黄褐	胴部が膨らみ、口縁が緩く外反する。口縁下に縦位の短沈線帯を作出し、以下、三角文を横位多段に施す。	興津式
113	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	15号住居	口縁部破片		細砂/良好/にぶい黄橙	口縁下にロッキングを施し、貝殻による刺突をめぐらす。	興津式
114	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV層	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/良好/明赤褐	折り返し状の肥厚口縁で、肥厚部に斜位の集合沈線を施す。肥厚部下に刺突と思われる凹みが見られる。	興津式
115	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	15号住居	胴部破片		細砂/良好/にぶい赤褐	貝殻先端圧痕を横位多段に施す。	興津式
116	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	15号住居	胴部破片		細砂、黒色粒/ふつう/橙	貝殻腹縁文を横位に施し、平行沈線で区画する。	興津式
117	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-P-13IV層	胴部破片		粗砂、黒色粒/ふつう/にぶい橙	結束LR、RLによる羽状縄文を横位施文する。	前期後葉
118	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV層	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/橙	端部結節の結束LR、RLによる羽状縄文を横位施文する。	前期後葉
119	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	25号住居	胴部破片		粗砂、細礫/ふつう/橙	結節LRを横位施文する。	前期後葉
120	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	26号住居床直	胴部破片		粗砂、細礫/良好/灰黄褐	結節LRを横位施文する。	前期後葉
121	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-O-13IV層	底部破片			No.121と同一個体。	前期後葉
122	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	表土	胴部破片		粗砂、細礫、白色粒、黒色粒/良好/橙	縦位沈線を垂下させて起点とし、連弧状の集合沈線を施す。	前期末葉
123	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-S-15IV層	胴部破片		粗砂/良好/にぶい黄橙	横位、鋸歯状の集合沈線の施し、余白に印刻を施す。	前期末葉
124	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	25号住居掘方	胴部破片		粗砂、細礫/良好/にぶい黄橙	弧状の沈線、三角印刻を施す。余白に櫛歯状工具による短条線を充填施文する。	前期末葉

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
125	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-S-17IV	胴部破片			No.124と同一個体。横位、鋸歯状の沈線を施している。	前期末葉
126	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	46-A-17	口縁部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい黄褐	口縁が短く内折。口縁部に押捺を伴う隆線をめぐらし、内折部をまたぐ縦位の浮線を貼付する。	前期末葉
127	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	46-A-17IV	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/暗赤褐	折り返し状の肥厚口縁で、下端を三角形に掘り取るによって鋸歯状を作出。肥厚部下はR Lを横位施文する。	前期末葉
128	132図 PL.54	縄文土器 深鉢	45-P-12IV	口縁部破片		粗砂、黒色粒、石英、雲母/良好/明赤褐	口縁内面肥厚。平行沈線により区画し、区画内に斜格子目沈線を充填施文する。	五領ヶ台式
129	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-O-14IV	口縁部破片		細砂、細礫/良好/にぶい黄褐	口縁内面肥厚。横位、縦位の平行沈線を施し、三角印刻を交互施文する。地文にL R横位施文。	五領ヶ台式
130	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-O-14IV	口縁部破片		細砂、細礫/良好/明赤褐	口縁内面肥厚。横位平行沈線により区画し、上位にL Rを充填施文、下位に逆U字状の平行沈線を充填施文する。	五領ヶ台式
131	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-O-14IV	胴部破片		細砂、黒色粒、石英/良好/明赤褐	L Rを施した隆帯を垂下、L R縦位施文を地文とし、平行沈線、三角印刻を沿わせる。文様帯内に平行沈線による鋸歯状文を描き、余白に三角印刻を施す。	五領ヶ台式
132	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-O-13IV	胴部破片			No.131と同一個体。沈線を沿わせた隆帯を垂下させ、交互刺突を施す。	五領ヶ台式
133	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-P-14IV	胴部破片			No.131と同一個体。縦位、矢羽根状の沈線を施す。	五領ヶ台式
134	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-P-14IV	胴部破片			No.131と同一個体。縦位沈線、縦位短沈線を施す。	五領ヶ台式
135	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-O-14IV	胴部破片			No.131と同一個体。縦位、矢羽根状の沈線を施す。	五領ヶ台式
136	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	表土	胴部破片		細砂、黒色粒/ふつう/橙	横位平行沈線をめぐらして区画、沈線による対弧状モチーフを描き、三角印刻を沿わせる。間隙に三角形区画を作出、中心に三角印刻を施す。	五領ヶ台式
137	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-T-16IV	胴部破片		細砂、黒色粒/ふつう/明赤褐	緩く外反する器形。横位平行沈線を施し、三角印刻を沿わせる。下端が肥厚部なのかやや盛り上がりが見られ、刻みをめぐらしている。No.153と同一個体を思われる。	五領ヶ台式
138	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-P-12IV	口縁部破片		細砂/良好/にぶい黄橙	口縁内面肥厚。横位2条の沈線、竹管外皮による刺突をめぐらす。	五領ヶ台式
139	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-O-13IV	胴部破片			No.138と同一個体。内湾する器形。連弧状の沈線を施し、竹管外皮による刺突を沿わせる。橋状把手が付されていた痕跡あり。	五領ヶ台式
140	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-S-17IV	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい赤褐	屈曲する器形。屈曲部に縦位の刻みをめぐらす。	五領ヶ台式
141	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	沈線により逆U字状モチーフを描き、R Lを充填施文する。	加曾利E 3式
142	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/ふつう/にぶい赤褐	沈線による懸垂文を施し、R Lを縦位充填施文する。	加曾利E 3式
143	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV	胴部破片			No.141と同一個体。	加曾利E 3式
144	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/浅黄橙	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆帯下にL Rを充填施文する。	加曾利E 4式
145	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-I-13IV	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/ふつう/にぶい黄橙	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、列点を充填施文する。	称名寺式
146	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	20号住居掘方	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/ふつう/にぶい黄橙	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、列点を充填施文する。	称名寺式
147	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-O-12IV	口縁部破片		粗砂、黒色粒、石英/ふつう/浅黄橙	口縁に小突起を付す。円形刺突を伴う鎖状隆帯を垂下。口縁内面肥厚。	堀之内1式
148	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-P-13IV	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/良好/にぶい黄橙	口縁の突起。窩文連繫文を伴う。	堀之内1式
149	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい黄橙	波状口縁。口縁がくの字状に緩く内屈、内面を肥厚させる。内折部内外面に弧状沈線、窩文連繫文を施す。	堀之内1式
150	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV	口縁部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/浅黄橙	口縁がくの字状に短く内折。口縁内面肥厚。無文。	堀之内1式
151	132図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV	胴部破片		粗砂、細礫/良好/灰褐	鎖状隆帯を垂下、帯状沈線により幾何学モチーフを描く。	堀之内1式
152	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	東低地	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい褐	横位沈線をめぐらし、以下、斜位、弧状の沈線を施す。間隙にL Rを充填施文。	堀之内1式

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
153	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-P-14IV 層	胴部破片		粗砂、細礫、白色 粒、黒色粒/ふつ う/にぶい黄橙	横位沈線をめぐらし、以下、弧状の沈線を垂下さ せる。間隙にLRを充填施文。	堀之内1式
154	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV 層	胴部破片		細砂、白色粒、黒 色粒、石英/良好/ にぶい黄橙	横位沈線をめぐらし、以下、弧状の沈線を施す。 間隙にLRを充填施文。	堀之内1式
155	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	床直	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/にぶ い黄橙	横位沈線をめぐらし、以下、弧状の沈線を施す。	堀之内1式
156	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV 層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/灰黄 褐	くの字状に緩く外屈。屈曲部に3条の沈線をめぐ らし、以下、縦位や弧状の沈線を施す。間隙にLR を充填施文。屈曲部に貼付文を付す。	堀之内1式
157	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV 層	胴部破片		粗砂、黒色粒/ふ つう/にぶい黄橙	横位沈線をめぐらし、以下、X字状の沈線を施す。 間隙にLRを充填施文。	堀之内1式
158	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV 層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/浅黄 橙	横位沈線をめぐらし、以下、斜位、X字状の沈線 を施す。間隙にLRを充填施文。	堀之内1式
159	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV 層	胴部破片		粗砂、黒色粒/ふ つう/黒褐	横位沈線をめぐらし、以下、弧状の沈線を垂下さ せる。間隙にLRを充填施文。	堀之内1式
160	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV 層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/にぶ い黄橙	横位沈線をめぐらし、以下、弧状の沈線を施す。 間隙にLRを充填施文。	堀之内1式
161	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	26号住居、 45-F-15IV 層	胴部破片		細砂、黒色粒/ふ つう/褐灰	弧状の沈線を垂下させ、LRを充填施文する。	堀之内1式
162	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV 層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/良好/にぶい 黄橙	集合沈線により幾何学モチーフを描き、LRを充 填施文する。	堀之内1式
163	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	表土、N-11 IV層	胴部破片		細砂、黒色粒/ふ つう/にぶい黄橙	弧状の集合沈線を垂下させる。	堀之内1式
164	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	46-A-17IV 層	胴部破片		粗砂、雲母/ふつ う/褐灰	横位、弧状の沈線を施す。	堀之内1式
165	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	26号住居、 45-Q-13IV 層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/黒褐	弧状の集合沈線を垂下させ、LRを充填施文する。	堀之内1式
166	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	床上17cm	胴部破片		粗砂、黒色粒/ふ つう/にぶい黄橙	集合沈線を垂下させる。	堀之内1式
167	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	床上29cm	口縁部破片		細砂、白色粒、黒 色粒、石英/ふつ う/にぶい黄橙	帯状沈線により三角形や半円状など幾何学モ チーフを描き、LRを充填施文する。	堀之内2式
168	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	床上17cm	口縁部破片			No.167と同一個体。口縁下に貼付文を付す。	堀之内2式
169	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	床上6cm	胴部破片			No.167と同一個体。	堀之内2式
170	133図 PL.55	縄文土器 深鉢	0-13IV層	胴部破片		細砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/にぶ い黄橙	帯状沈線により楕円状モチーフを描き、LRを充 填施文する。No.167と同一個体の可能性が高い。	堀之内2式
171	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-R-13、 Q-13	口縁部破片		細砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/褐灰	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、沈線を重 層。内部にLRを充填施文する。	堀之内2式
172	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-R-13IV 層	胴部破片			No.171と同一個体。	堀之内2式
173	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV 層	胴部破片			No.171と同一個体。	堀之内2式
174	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-P-12IV 層	口縁部破片		細砂、黒色粒/ふ つう/褐灰	沈線により幾何学モチーフを描き、LRを充填施 文する。	堀之内2式
175	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	46-A-17	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒、石英/ふつ う/にぶい黄橙	LRを充填させた横位帯状沈線をめぐらして文様 帯を区画、文様帯内に対弧状の集合沈線を施し、 余白にLRを充填施文する。	堀之内2式
176	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-P-14IV 層	口縁部破片		細砂、黒色粒、石 英/ふつう/褐灰	横位帯状沈線を施し、LRを充填施文する。横位 沈線を重層。	堀之内2式
177	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	46-A-17	胴部破片			No.175と同一個体。文様帯下端の部位。	堀之内2式
178	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV 層	口縁部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/にぶ い黄橙	横位帯状沈線を施し、LRを充填施文する。	堀之内2式
179	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	IV層	口縁部破片		粗砂、黒色粒、雲 母/ふつう/にぶい 黄橙	帯状沈線により三角形モチーフを描き、LRを 充填施文する。	堀之内2式
180	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-R-13IV 層	胴部破片		細砂/ふつう/にぶ い黄橙	8の字貼付文を付し、縁取るように帯状沈線を施 してLRを充填施文する。	堀之内2式
181	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	20号住居	胴部破片		細砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/にぶ い黄橙	帯状沈線により三角形モチーフを描き、LRを 充填施文する。	堀之内2式
182	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	床上14cm	胴部破片		粗砂、白色粒、黒 色粒/ふつう/にぶ い黄橙	帯状沈線により三角形モチーフを描き、LRを 充填施文する。	堀之内2式

遺物観察表

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
183	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	46-A-17	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/黄橙	帯状沈線により三角形モチーフを描き、LRを充填施文する。	堀之内2式
184	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	33-D-12	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい橙	横位帯状沈線を施し、LRを充填施文する。	堀之内2式
185	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	用地88IV層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/橙	文様帯下端の部位で緩く屈曲する。帯状沈線により三角形モチーフを描き、LRを充填施文する。	堀之内2式
186	133図 PL.56	縄文土器 深鉢	46-A-17	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/ふつう/にぶい黄橙	帯状沈線による重層する三角形など幾何学モチーフを描き、LRを充填施文する。	堀之内2式
187	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	21号住居	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい赤褐	帯状沈線により逆J字状モチーフを描き、LRを充填施文する。	堀之内2式
188	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	表土	胴部破片		粗砂、細礫、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、LRを充填施文。沈線を重層させる。	堀之内2式
189	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-0-14IV層	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	帯状沈線により菱形モチーフを描き、LRを充填施文。沈線を重層させる。	堀之内2式
190	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-P-14IV層	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	帯状沈線により幾何学モチーフを描き、LRを充填施文。沈線を重層させる。	堀之内2式
191	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-R-13IV層	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	帯状沈線により円状モチーフを描き、LRを充填施文。沈線を重層させる。	堀之内2式
192	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-Q-13IV層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒、石英/良好/灰黄褐	帯状沈線により円文を描く。	堀之内2式
193	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	表土	底部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/橙	推定底径10.0cm。底部が張り出す器形。底面に網代痕。	堀之内2式
194	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	表土、45-P-14IV層	底部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/橙	推定底径9.4cm。底部が張り出す器形。横位帯状沈線を施し、LRを充填施文する。	堀之内2式
195	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-S-14IV層	口縁部破片		粗砂、黒色粒/ふつう/灰黄褐	算盤玉状の器形で口縁外面肥厚。屈曲部上位に帯状沈線による重層の菱形モチーフを描き、LRを充填施文する。	堀之内2式
196	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	26住	把手		粗砂/ふつう/にぶい黄橙	把手頂部に刻みを付し、円孔を穿つ。	堀之内式
197	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV層	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	帯状沈線による重層の幾何学文を描く。	堀之内2式
198	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-Q-12IV層	胴部破片		細砂、白色粒、黒色粒、石英/ふつう/にぶい黄橙	LRを充填させた横位帯状沈線をめぐらして区画、重層する沈線により楕円状モチーフを描く。	堀之内2式
199	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-R-13IV層	肩部破片		細砂、白色粒、黒色粒/ふつう/灰黄褐	算盤玉状の器形。屈曲部上位に横位、斜位の集合沈線を施し、LRを充填施文する。	堀之内2式
200	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-R-16IV層	注口部破片		粗砂、細礫、白色粒/ふつう/灰黄褐	胴部との接点に貼付が見られる。	堀之内式
201	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	45-S-15IV層	胴部破片		粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/灰黄褐	扁平な隆帯により渦巻文など幾何学モチーフを施し、隆帯上にLRを施文する。	堀之内2式
202	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	34-K-?IV層	胴部破片		細砂、黒色粒/良好/橙	緩く内湾する器形。帯縄文、区切り文を施す。	加曾利B1式
203	134図 PL.56	縄文土器 深鉢	34-K-20IV層	胴部破片		細砂、黒色粒/ふつう/にぶい黄橙	算盤玉状の器形。屈曲部上位に横位沈線、下位に入組状の沈線を施し、LRを充填施文する。	加曾利B1式
204	134図 PL.56	土製円盤	26号住居		長2.6 幅2.7 厚さ1.1	粗砂、白色粒、黒色粒/ふつう/橙		前期後葉
205	134図 PL.56	土製円盤	45-0-13IV層		長2.5 幅2.6 厚さ0.9	細砂、白色粒、黒色粒/良好/にぶい黄橙		前期後葉

縄文包含層出土石器

No.	挿図番号 PL.番号	種類器種	出土位置	石材	計測値(cm, g)	形態・素材	成形・整形の特徴	摘要
1	135図 PL.57	打製石斧	46-A-17	細粒輝石安山岩	長(14.8)幅5.1 重202.3	短冊型	完成状態。刃部摩耗・捲縛痕あり。上端側を欠損。	
2	135図 PL.57	打製石斧	45-R-16	黒色頁岩	長12.0 幅4.3 重105.6	短冊型	完成状態。刃部摩耗が著しい。断面は大きく反る。	
3	135図 PL.57	打製石斧	33区	黒色頁岩	長9.2幅4.7重95.8	直刃斧	完成状態。両側縁を粗く加工。加工は短冊型石斧と違い、側縁が潰れることはない。刃部の剥離は浅く粗い。	中グリッド33から出土
4	135図 PL.57	打製石斧	33区	細粒輝石安山岩	長(8.8)幅(5.7)重80.0	短冊型	完成状態?左側縁は石斧様の加工と同様。右側縁は折れ面。石斧刃部は素材のエッジを用い、未加工。	中グリッド33から出土
5	135図 PL.57	打製石斧	33区	黒色頁岩	長12.7 幅7.5 重284.7	分銅型	完成状態。側縁を大きく抉れ摩耗している。風化して不明瞭だが、刃部摩耗も確実視される。	中グリッド33から出土

No.	挿図番号 PL. 番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
6	135図 PL.57	打製石斧	西低地	黒色頁岩	長10.5 幅6.4 重150.6	分銅型	完成状態。上端側刃部に摩耗痕。側縁は大きく抉れ、エッジは新鮮。下端刃部は再生され、大きく変形。	
7	135図 PL.57	磨製石斧	45-S-17	変玄武岩	長12.7幅6.2重 415.3	乳房状	完成状態。上端側を破損後剥離、再生利用している。	
8	135図 PL.57	磨製石斧	13号住居26	粗粒輝石安山岩	長(8.6)幅 (5.9)重222.6	乳房状	完成状態。頭部側を残して破損。上端の先端部に打痕・衝撃剥離痕があり、敲打具として再利用。	
9	135図 PL.57	磨製石斧	45-T-18	変玄武岩	長(5.4)幅 (4.9)重108.7	乳房状	完成状態。頭部側破片。上端に打痕があり、再利用された可能性が残る。	
10	136図 PL.57	石鏃	45区	黒曜石	長(2.5)幅 (1.4)重0.9	凹基無茎鏃	未製品。裏面側は周辺加工。両側の返し部を欠損。	中グリッド45から出土
11	136図 PL.57	石鏃	33-R-8	黒色頁岩	長2.6幅(1.8) 重1.2	凹基無茎鏃	完成状態。加工は粗く、断面厚も厚い。	
12	136図 PL.57	石鏃	45-Q-13	珪化木?	長3.2幅1.8重 1.4	凹基無茎鏃	完成状態。細身長身のタイプ。剥離は斜向並行剥離様で、優品の部類に属す。	
13	136図 PL.57	石鏃	33区	黒色頁岩	長3.5幅(1.6) 重2.5	凹基無茎鏃	未製品。石器先端・右辺の返し部を欠損。周辺加工。	中グリッド33から出土
14	136図 PL.57	石鏃		黒曜石	長1.5幅1.1重 0.3	凹基無茎鏃	完成状態?基部をU字状に大きく抉る。加工は粗い。	
15	136図 PL.57	石鏃	45-O-13	黒曜石	長(1.1)幅 (1.4)重0.3	凹基無茎鏃	未製品。先端から右辺側を欠損。小型三角形を呈す。	
16	136図 PL.57	石鏃	45-P-13	黒曜石	長2.1幅1.6重 1.3	凹基無茎鏃	未製品。周辺加工に止まり、形状のみが認定要素。	
17	136図 PL.57	石鏃?		黒曜石	長2.1幅1.2重 0.9		鋸歯状の側縁形状を呈する。鋸歯状のエッジは裏面側から剥離して得られ、これを上下両端の器軸に並行する小剥離痕が切る。石鏃として捉えることが妥当か。	
18	136図 PL.57	石鏃	45-O-14	黒色安山岩	重5.6	凹基無茎鏃	未製品。加工が粗く、製作初期に破損したもの。	
19	136図 PL.57	石鏃	45-T-15	黒色頁岩	長3.5幅(2.0) 重1.1	有茎鏃	完成状態。返し部は弱く抉れ、茎は端部を欠損する。	
20	136図 PL.57	石匙?	45-Q-12	頁岩	長(2.4)幅1.9 重6.9		摘み部の破片?摘み部は浅く弧状に抉れる。	
21	136図 PL.57	石匙	45-I-12	黒曜石	長(3.1)幅 (2.9)重3.9	横型	完成状態。表裏面とも加工が前面に及ぶ優品。刃部は潰れ、激しく使い込まれている。	
22	136図 PL.57	石錐	45-Q-13	チャート	長(2.0)幅 (0.7)重0.4		未製品?エッジは新鮮で、使用した痕跡は見られない。	
23	136図 PL.57	楔形石器	45-Q-13	黒曜石	長2.2幅1.7重 2.7	剥片	上下両端の小剥離痕が対向する。剥離は剥片の厚味を減じるもので、剥離が内側に入り破損したもののだろう。	
24	136図 PL.57	楔形石器	45-R-13	チャート	長2.0幅1.8重 5.0	剥片	上下両端の小剥離痕が対向する。下端の平坦剥離面を打面としている。	
25	136図 PL.57	石核	15号住居	黒色頁岩	長7.8幅4.9重 104.5	幅広剥片	上下両端から小型剥片を剥離。裏面側側縁に粗い加工があり、器種転用したものかもしれない。石核の剥離面構成・石材の風化状況からみて旧石器としての可能性も否定できない。	
26	137図 PL.57	凹石	22-O-17	粗粒輝石安山岩	長10.0幅7.8重 739.6	楕円磔	背面側の平坦面に敲打痕を伴う摩耗が広がる。	
27	137図 PL.57	凹石	1226号土坑4	粗粒輝石安山岩	長10.9幅7.7重 479.5	偏平楕円磔	表裏面とも中央付近に集合打痕2ヶ所があり、その内部まで摩耗している。側縁に敲打・摩耗痕がある。	
28	137図 PL.57	凹石	1226号土坑3	粗粒輝石安山岩	長9.0幅8.0重 440.7	偏平円磔	表裏面とも中央付近に集合打痕2ヶ所がある。石材が粗く、表裏面の摩耗については不明瞭。	
29	137図 PL.57	凹石	45-Q-12	粗粒輝石安山岩	長8.1幅7.7重 421.2	偏平円磔	表裏面とも摩耗が著しく、中央付近に集合打痕が残る。側縁に被熱による剥落、ヒビがある。	
30	137図 PL.57	凹石		かこう岩	長9.2幅6.6重 228.6	偏平楕円磔	背面側中央付近に集合打痕があるほか、小口部両端に打痕。表裏面とも摩耗が著しい。	
31	137図 PL.58	磨石	45-P-12	粗粒輝石安山岩	長14.3幅6.4重 639.3	棒状磔	表裏面とも摩耗が著しい。右辺側側縁に敲打痕。	
32	137図 PL.58	磨石	45-O-15	粗粒輝石安山岩	長12.7幅5.5重 394.0	棒状磔	表裏面とも摩耗。摩耗面には弱い稜が生じている。小口部の両端には弱い打痕がある。	
33	137図 PL.58	磨石	45-K-9	かこう岩	長8.3幅7.5重 404.0	偏平円磔	表裏面に摩耗痕。被熱してヒビ割れている。	
34	138図 PL.58	敲石	東低地	砂岩	長10.7幅5.3重 305.1	棒状磔	小淵部両端に打痕。	
35	138図 PL.58	敲石	45-T-16	砂岩	長7.1幅5.0重 137.5	偏平磔	小口部両端の側縁を機能部として敲打、これにより両端は尖り気味となる。「ロケット状」と称される敲石は、継続使用する過程で生成されることだろう。	
36	138図 PL.58	敲石		細粒輝石安山岩	長(6.4)幅4.6 重105.6	偏平棒状磔	上端側側縁に打痕を有する。打痕に接して線条痕を伴う摩耗痕が広がるようにも見える。	
37	138図 PL.58	石皿	43-S-12	粗粒輝石安山岩	長(18.2)幅 (14.9)重 1813.2	無縁		
38	138図 PL.58	スタンプ型石器	26号住居	細粒輝石安山岩	長11.6幅8.9重 614.0	偏平磔	磔を分割、平坦な底面部を作出。底面部には摩耗痕が著しい。体部下端に衝撃剥離痕が並ぶ。	

遺物観察表

No.	挿図番号 PL. 番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
39	138図 PL.58	スタンプ 型石器	46-A-16	変玄武岩	長11.3幅8.3重 761.7	偏平礫	礫を分割、平坦な底面部を作出。底面部には敲打・ 摩耗痕が著しく、これに接する体部に衝撃剝離痕 が並ぶ。	
40	139図 PL.58	多孔石	45-P-14	粗粒輝石安 山岩	長(29.4)幅 (23.1)重 6100.0	垂角礫	裏面側平坦面に孔を穿つ。	
41	139図 PL.58	石製品	46-A-17	軽石	長4.9幅3.7重 9.6	河床礫?	板状を呈する形状からみて、表裏面の平坦面は研 磨等によることは明らかである。線条痕等は不明 だがエッジの整形も確實視されよう。	
42	139図 PL.58	砥石	45-R-15	砂岩	長(4.4)幅5.0 重313.0	偏平礫	左辺側エッジに弱い稜がある。全体的に摩耗は弱 く、砥石としての使用頻度は低い。	
43	139図 PL.58	石製研磨 具	45-Q-12	溶結凝灰岩	長5.8幅4.2重 130.1	楕円礫	線条痕を伴う光沢面が広がり、部分的に弱い稜を 形成する。小口部下端に打痕が残る。	
44	139図 PL.58	石製研磨 具	45-P-11	粗粒輝石安 山岩	長5.7幅4.6重 134.7	楕円礫	全面に線条痕が広がり、部分的に弱い稜を形成。	
45	139図 PL.58	石製品	45-Q-13	頁岩	長2.3幅1.9重 1.3	垂飾り	エッジを研磨し、逆三角形の形状を作出。径3 mm前後の孔2を両側穿孔する。背面側上端・左に 礫面の痕跡が残る。	

遺構外出土遺物

No.	挿図番号 PL. 番号	種類器種	出土位置	残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	摘要
1	140図 PL.58	土師器埴		底部～胴部 下位片		細砂粒/良好/明赤 褐	底部はヘラナデ、胴部はヘラ磨き。内面はヘラ磨 きか。	
2	140図 PL.58	土師器甕		口縁部～胴 部中位片	口径15.0 胴部径23.6	細砂粒・ガラス質 粒/良好/にぶい黄 褐	口縁部上半は横ナデ、下半から胴部上半はハケ目 (7本)、下半はヘラ削り後中位から下位にヘラ磨 き。内面は口縁部がハケ目、胴部はヘラナデ、頸 部下はヘラ磨き。	
3	140図 PL.58	土師器甕		口縁部～胴 部中位	口径15.6 胴部径21.8	細砂粒・角閃石/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、胴部は縦位の櫛描き(4本)、内面 は口縁部から頸部下に櫛描き、胴部はヘラナデ。	
4	140図 PL.58	土師器甕		口縁部～胴 部上半片	口径17.6 胴部径23.3	細砂粒・ガラス質 粒/良好/灰黄褐	口縁部上半は横ナデ、下半から頸部下はハケ目 (7本)、胴部派ヘラ削り。内面は口縁部がハケ目、 胴部はヘラナデ後上位にヘラ磨き。	
5	140図 PL.59	土師器甕		底部	底径6.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部には木夜痕がかすかに残る、胴部はハケ目。 内面はナデ。	
6	140図 PL.59	須恵器椀		底部片	底径6.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調 整。	
7	140図 PL.59	須恵器椀		口縁部～体 部片	口径14.0	細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。	
8	140図 PL.59	須恵器椀		底部片	底径6.3 台部径6.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転糸切り。	
9	140図 PL.59	須恵器椀		底部～体部 下半	底径8.6 台部径8.4	細砂粒・ガラス質 粒/還元焰/燻初灰	ロクロ整形、回転右回り。	
10	141図 PL.59	須恵器椀		口縁部～体 部片	口径14.6 底径6.0	細砂粒・角閃石/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。高台が貼付されている 形態か。	
11	141図 PL.59	須恵器椀		底部	底径6.6 台部径6.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は砂 底か。	
12	141図 PL.59	灰釉陶器 皿		底部～体部 片	底径7.6 台部径7.0	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転ヘラナデ。施釉方法は刷毛塗りか。	光ケ丘1号窯式 期、内面に重焼 き痕が残る。
13	141図 PL.59	灰釉陶器 皿		底部～体部 片	底径7.8 台部径7.3	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転ヘラナデ。施釉方法は刷毛塗り、内面底部にも 施釉。	光ケ丘1号窯式 期(古)。
14	141図 PL.59	灰釉陶器 椀		口縁部片	口径15.7	緻密/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は刷毛塗り か、釉薬厚く不鮮明。	光ケ丘1号窯式 期。
15	141図 PL.59	灰釉陶器 椀		底部～体部 片	底径7.6 台部径7.0	微砂粒多/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回 転ナデ。施釉方法は不明。	大原2号窯式期 か。
16	141図 PL.59	須恵器椀		口縁部片		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。	外面体部に墨書。 小片のため判読 不能。
17	141図 PL.59	須恵器椀		体部片		細砂粒/酸化焰/灰 黄	ロクロ整形、回転方向不明。	外面体部に墨書。 小片のため判読 不能。
18	141図 PL.59	土師器甕		口縁部～胴 部上位片	口径17.2	細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
19	141図 PL.59	土師器甕		口縁部～胴 部上位片	口径19.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面 胴部はヘラナデ。	
20	141図 PL.59	土製品鞆 羽口		中位片	径8.0	細砂粒/良好/浅黄 橙	外面はヘラナデ。右側がやや還元していることか ら炉内側か。	
21	141図 PL.59	土製品鞆 羽口		送風口側片		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はヘラナデ、送風口側面はナデ。	
22	141図 PL.59	銅製品鏃		完形	長5.3 刃部幅 1.9 厚0.6 茎 部幅0.4 厚0.4 重13.3		良好な残存状態。	

第22表 15号住居出土炭化物

遺構	No.	樹種	備考
15住	A-1	コナラ亜属	形状不明瞭
15住	A-2	コナラ亜属	割材
15住	A-3	クヌギ節	割材
15住	A-4	クヌギ節	割材
15住	B-1	クヌギ節	巾11cm厚さ1～3cmつぶれている 1・2区別できない
15住	B-2	クヌギ節	
15住	C-1	クヌギ節	3×2.5割材 断面三角
15住	C-2	クヌギ節	巾8.5厚さ3と2cm割材板
15住	C-3	クヌギ節	割材板状幅9厚さ2cm 大径
15住	C-4	クヌギ節	割材幅11厚さ4cm断面三角 大径
15住	C-5	クヌギ節	割材板状幅10厚さ3cm 大径
15住	C-6	クヌギ節	割材板状幅7厚さ2cm 大径
15住	C-7	クヌギ節・カヤ状植物体	7・8区別できず
15住	C-8	クヌギ節・カヤ状植物体	7・8区別できず
15住	D-1	クヌギ節	割材 幅8厚さ2cm
15住	D-2	クヌギ節	割材
15住	E-1	クヌギ節	割材 幅5.5厚さ2cm板状
15住	E-2	コナラ亜属	2・3・4区別できず
15住	E-3	コナラ亜属	
15住	E-4	コナラ亜属	
15住	F-1	クヌギ節	割材幅10厚さ2.5みかん割
15住	G-1	クヌギ節	割材幅10厚さ3cmみかん割
15住	H-1	クヌギ節	割材幅7cm厚さ4cm4/1カットに近い
15住	H-2	コナラ亜属	割材幅8厚さ2.5cm板状
15住	H-3	クヌギ節	割材幅4cm厚さ4cm4/1カット
15住	I-1	クヌギ節	割材破片 厚板か角材の破片 巾/厚さ2.5cm以上
15住	J-1	クヌギ節	割材幅5.5+cm厚さ2.5みかん割
15住	J-2	クヌギ節	割材幅3cm厚さ2.5cmみかん割
15住	K-1	クヌギ節	割材幅7厚さ1.5みかん割
15住	K-2	クヌギ節	割材幅8厚さ1.5みかん割
15住	K-4	クヌギ節	割材幅13厚さ3cmみかん割
15住	K-5	クヌギ節	割材幅7厚さ3cmみかん割
15住	L-1	クヌギ節	割材幅10厚さ3.5cmみかん割板状
15住	N-1	クヌギ節	割材板状幅14厚さ3.5～1.5cm
15住	P-1	クヌギ節	割材板状幅9厚さ1cm
15住	Q-1	クヌギ節	割材幅6厚さ2cmみかん割
15住	R-1	クヌギ節	割材破片幅5厚さ2cm
15住	S-1	クヌギ節	割材幅5cm厚さ1cm薄板状・巾7厚さ2.5cmみかん割
15住	S-2	クヌギ節	
15住	S-3	クヌギ節	
15住	U-1	クヌギ節	割材小破片
15住	U-2	クヌギ節	割材幅9厚さ2.5cmみかん割材の下に径3cmのクヌギ丸木有り
15住	V-1	クヌギ節	割材幅5厚さ2.5cmみかん割材
15住	V-2	コナラ亜属	割材幅11厚さ5cm断面不明瞭
15住	V-3	コナラ亜属	割材幅4cm断面不明瞭
15住	V-4	コナラ亜属	割材形状不明瞭
15住	V-5	クヌギ節	割材形状不明瞭
15住	M-1	クヌギ節	割材板状幅14厚さ2.5cm
15住	O-1	クヌギ節	割材板状幅6厚さ1.5cm
15住	T-1	クヌギ節	割材板状幅12厚さ1.5cm
15住	T-2	コナラ亜属	割材幅5厚さ2.5cm板状
15住	T-3	コナラ亜属	割材幅7厚さ2.5cm板状
15住	なし	コナラ亜属	タッパ入り 半径6cm厚いみかん割材幅4cm厚さ5cm
15住	なし	クヌギ節	タッパ入り 割材破片

※大径 推定直径40cm以上の材を大径と表記した

写真図版



赤城山南麓地形（南方から）

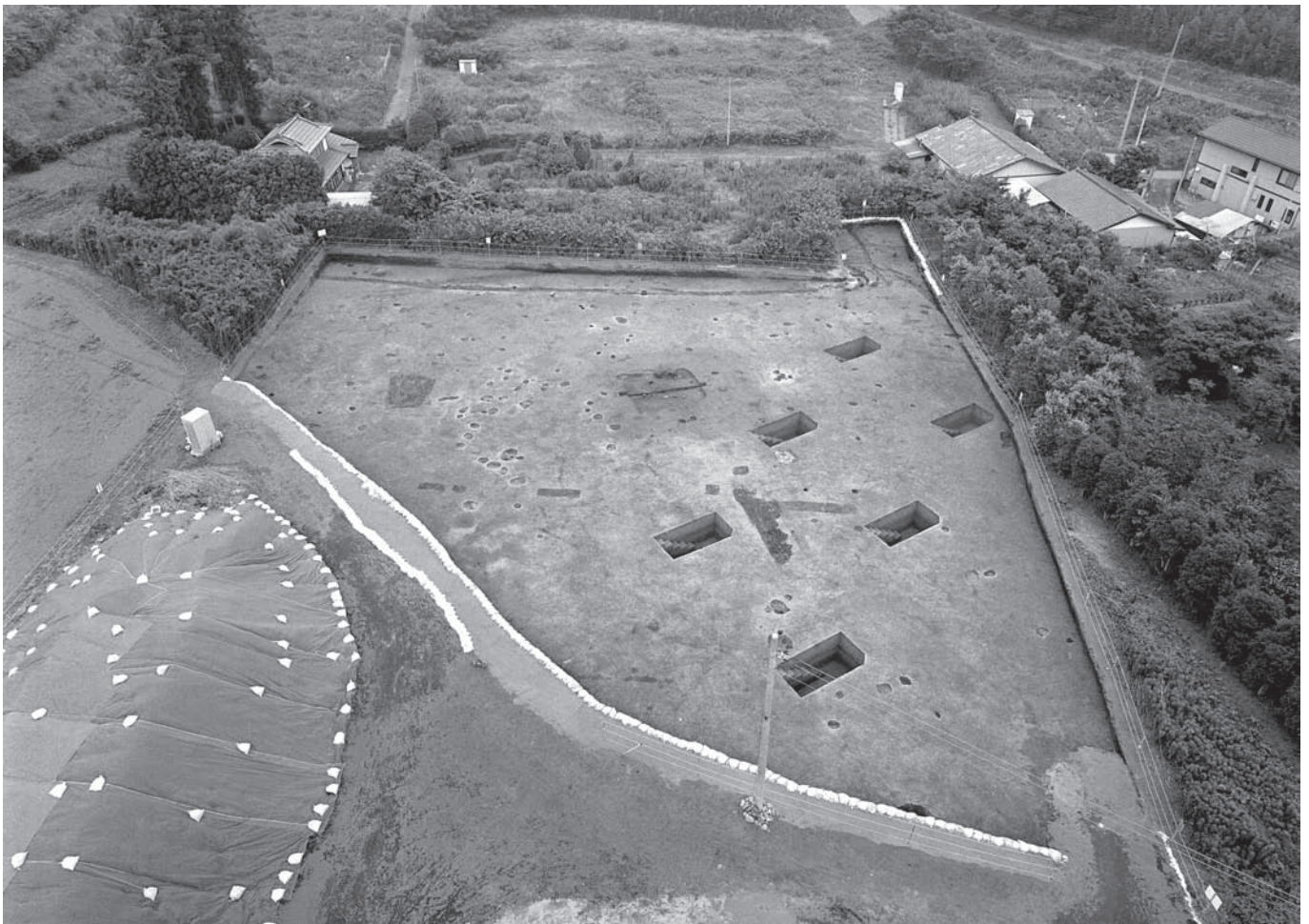


遺跡全景（北方から）

PL.2



遺跡全景（南方から）



22区全景（西から）



32区全景(南から)



33区全景(南から)

PL.4



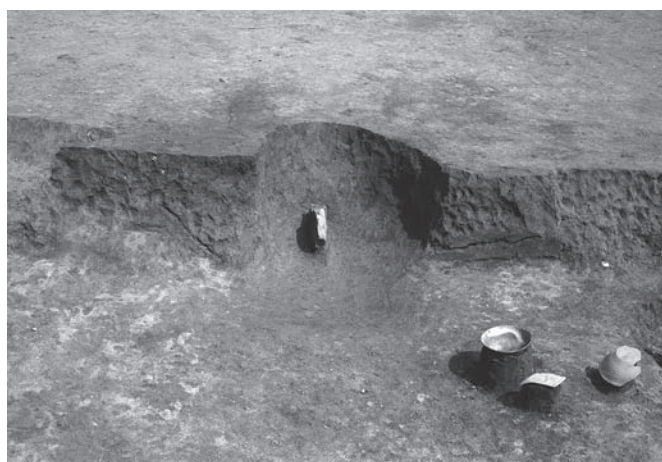
34区全景(西から)



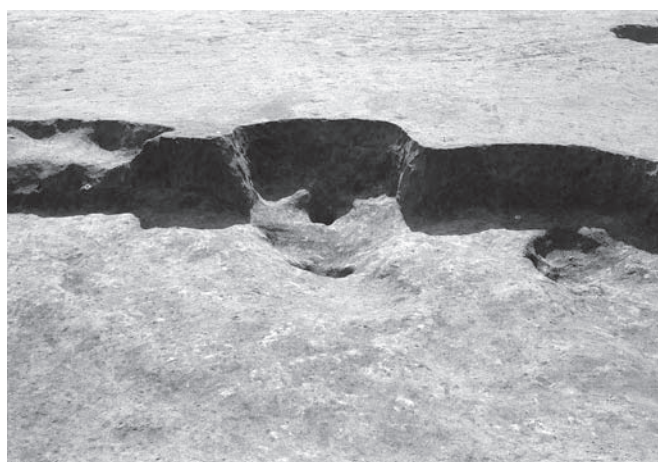
45区全景(北から)



1 1号住居全景(北西から)



2 1号住居カマド全景(北西から)



3 1号住居カマド掘方全景(北西から)



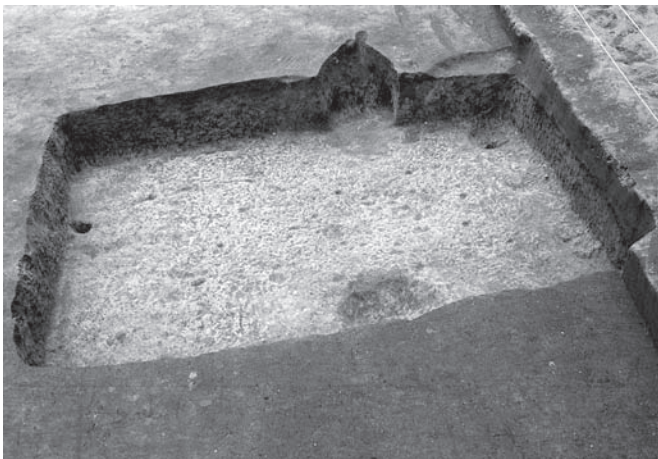
4 1号住居遺物出土状況(北西から)



5 1号住居調査状況



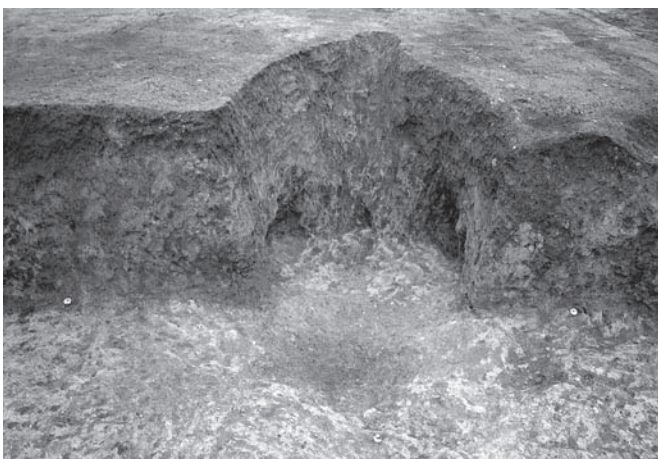
1 2号住居遺物出土状況(西から)



2 2号住居全景(西から)



3 2号住居カマド遺物出土状況(西から)



4 2号住居カマド全景(西から)



5 2号住居掘方全景(西から)



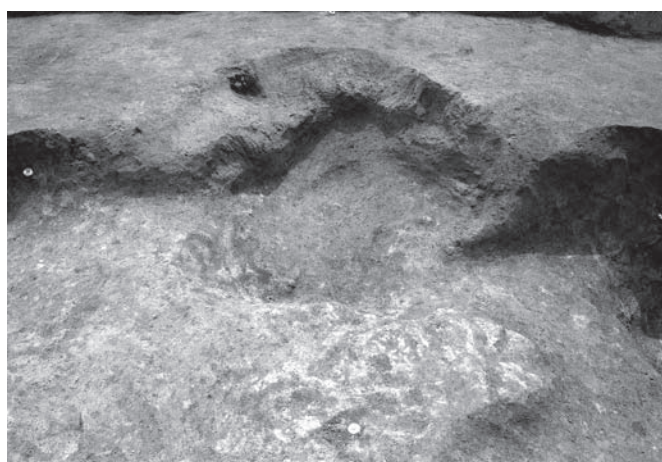
1 3号住居全景(西から)



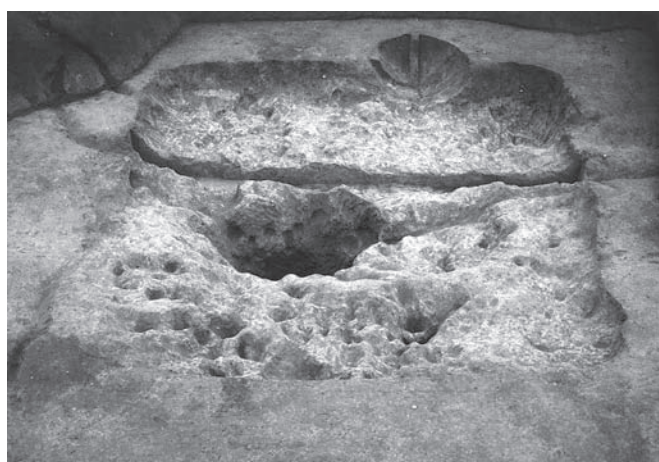
2 3号住居遺物出土状況(西から)



3 3号住居カマド遺物出土状況(西から)



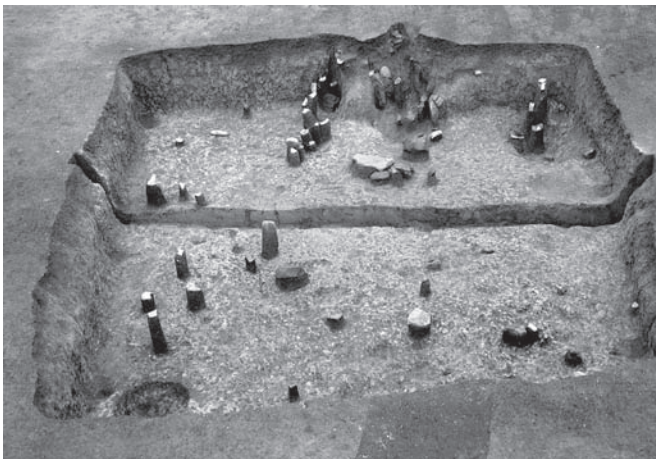
4 3号住居カマド全景(西から)



5 3号住居掘方全景(西から)



1 4号住居全景(西から)



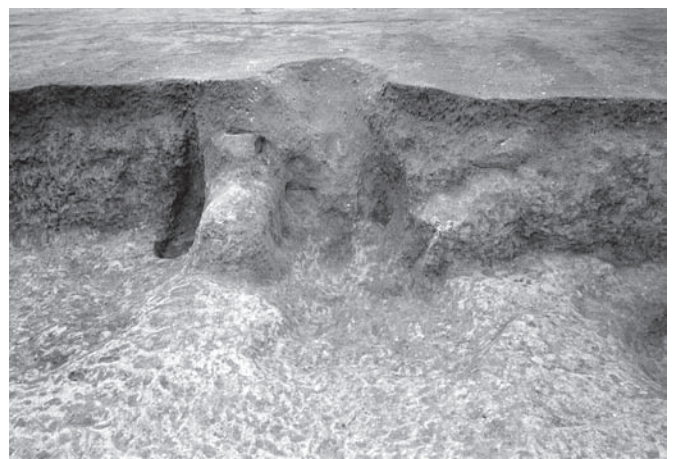
2 4号住居遺物出土状況(西から)



3 4号住居カマド全景(西から)



4 4号住居掘方全景(西から)



5 4号住居カマド掘方全景(西から)



1 5号住居全景(西から)



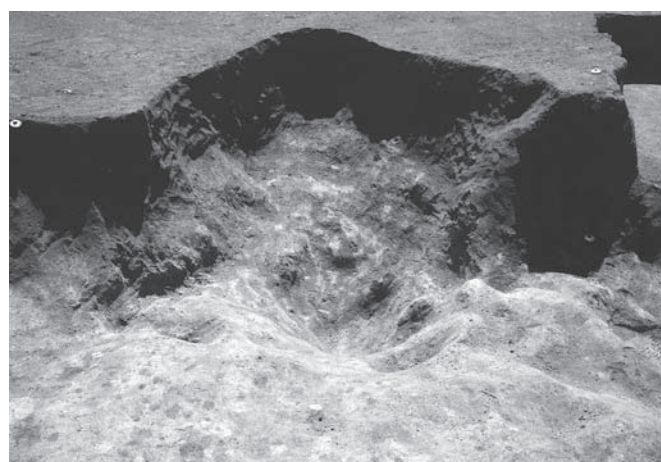
2 5号住居遺物出土状況(西から)



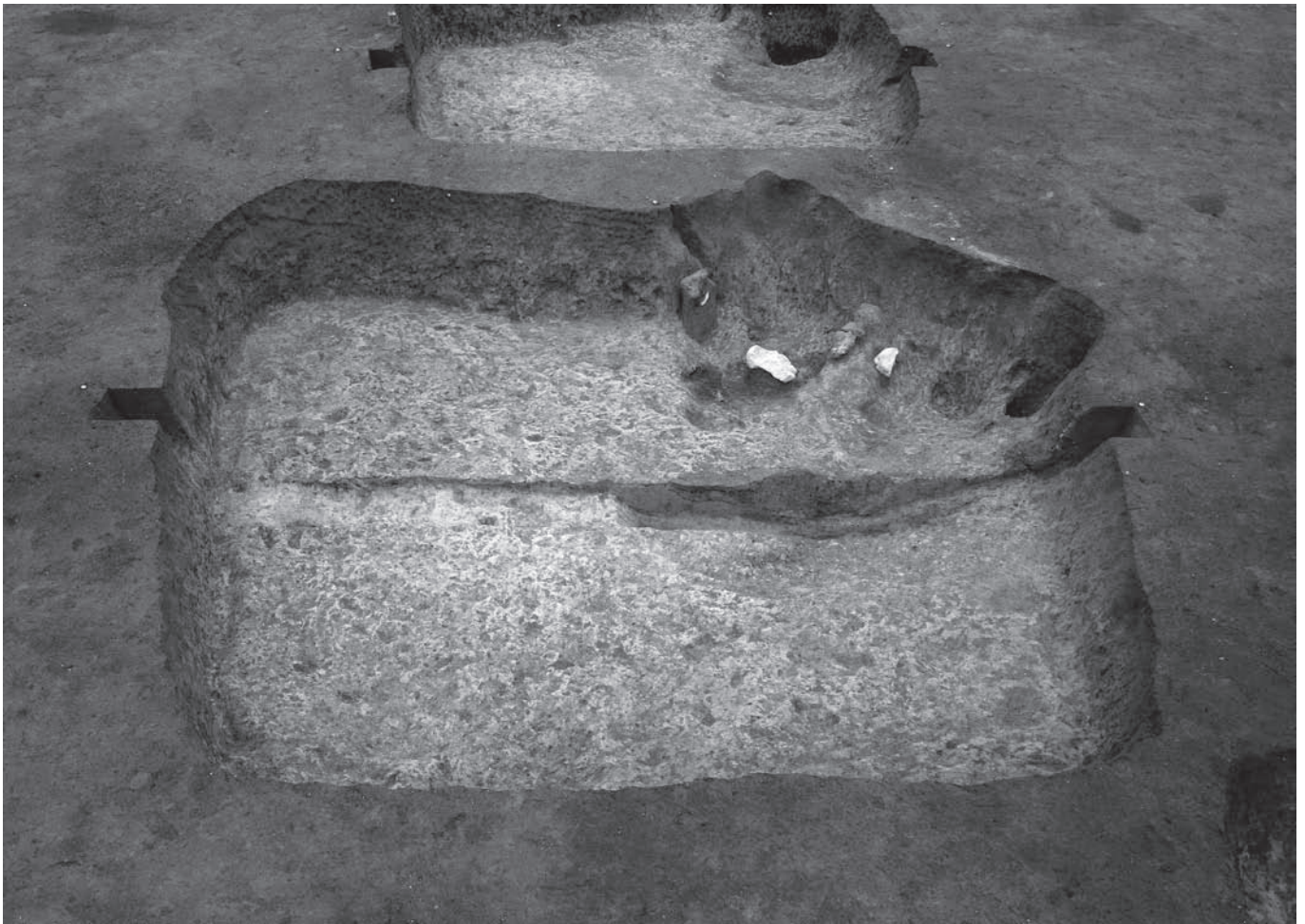
3 5号住居カマド遺物出土状況(西から)



4 5号住居掘方全景(西から)



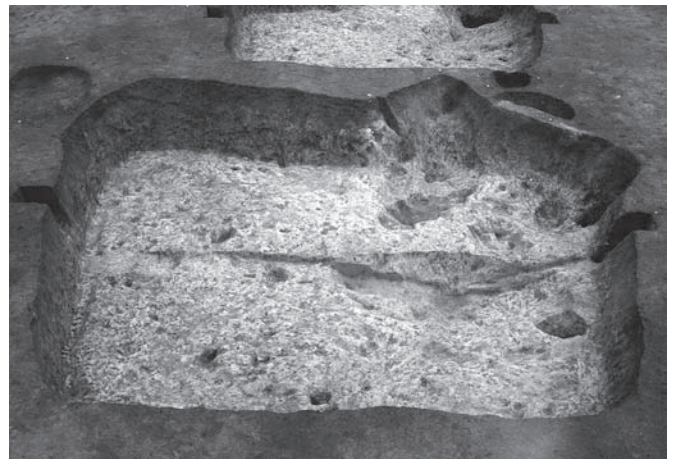
5 5号住居カマド掘方全景(西から)



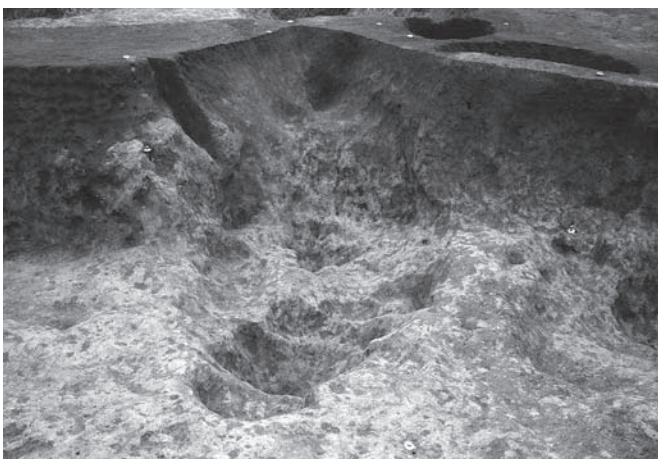
1 6号住居全景(西から)



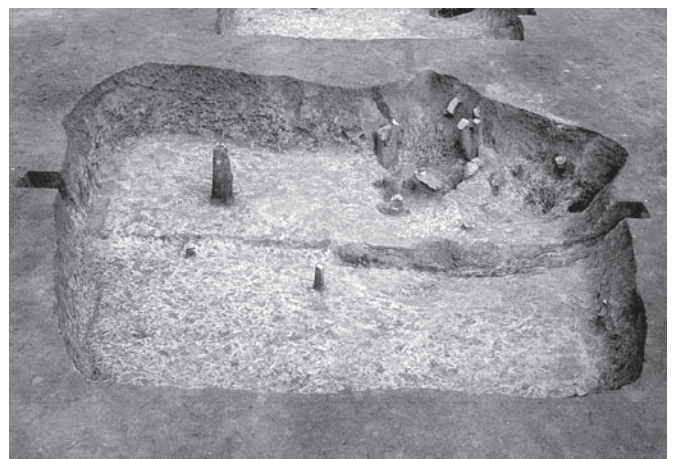
2 6号住居カマド全景(西から)



3 6号住居掘方全景(西から)



4 6号住居カマド掘方全景(西から)



5 6号住居遺物出土状況(西から)



1 7号住居全景(西から)



2 7号住居カマド全景(西から)



3 7号住居掘方全景(西から)



4 7号住居カマド全景(西から)



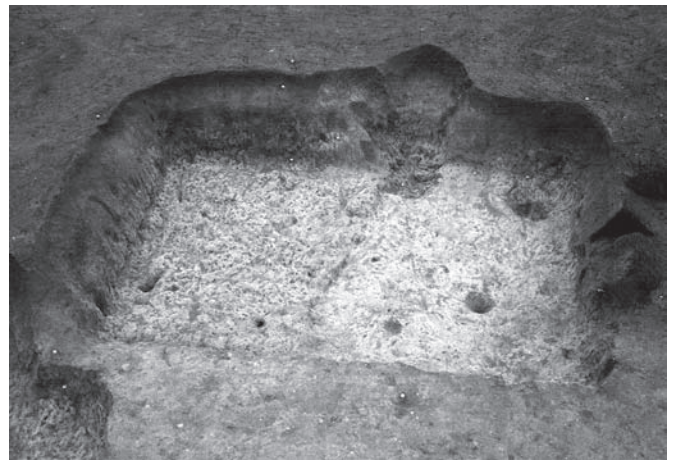
5 7号住居カマド掘方全景(西から)



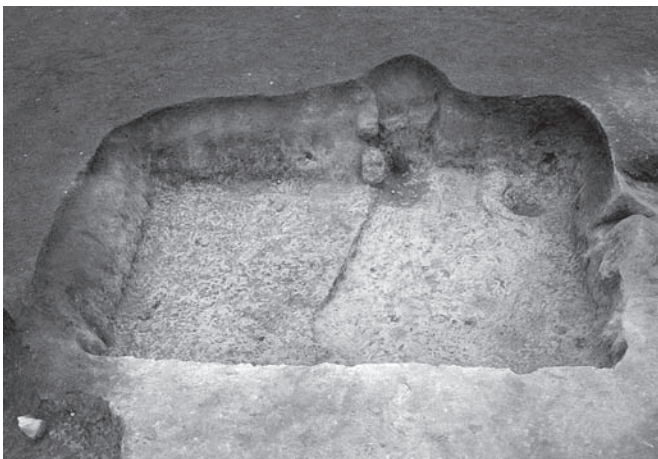
1 8号住居遺物出土状況(西から)



2 8号住居カマド全景(西から)



3 8号住居掘方全景(西から)



4 8号住居全景(西から)



5 8号住居調査状況



1 9号住居遺物出土状況(西から)



2 9号住居カマド全景(西から)



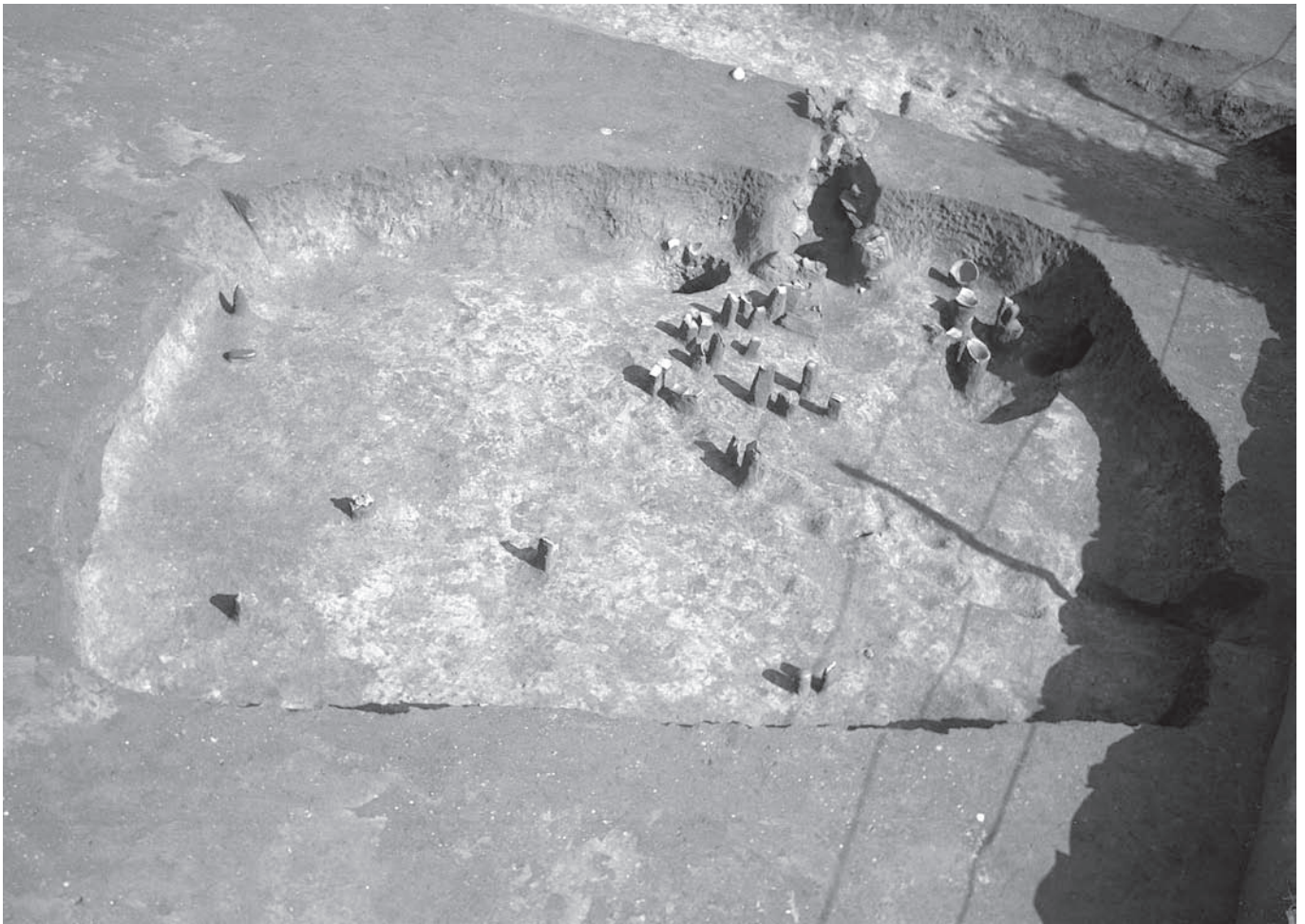
3 9号住居掘方全景(西から)



4 9号住居カマド遺物出土状況(西から)



5 8号住居・9号住居全景(西から)



1 10号住居全景(西から)



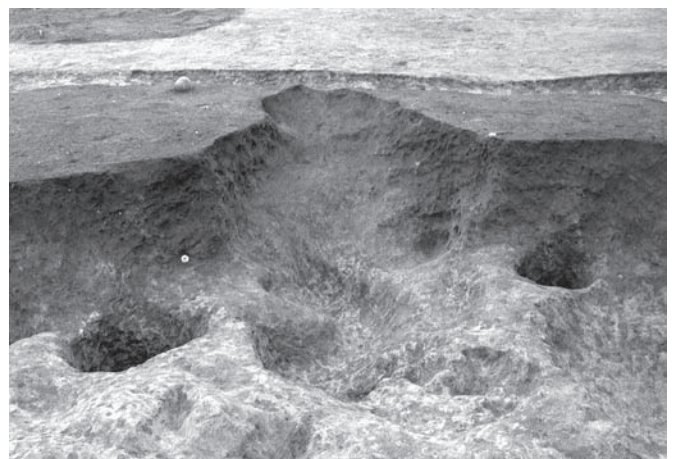
2 10号住居カマド全景(南西から)



3 10号住居掘方全景(西から)



4 10号住居カマド石組状況(西から)



5 10号住居カマド掘方全景(西から)



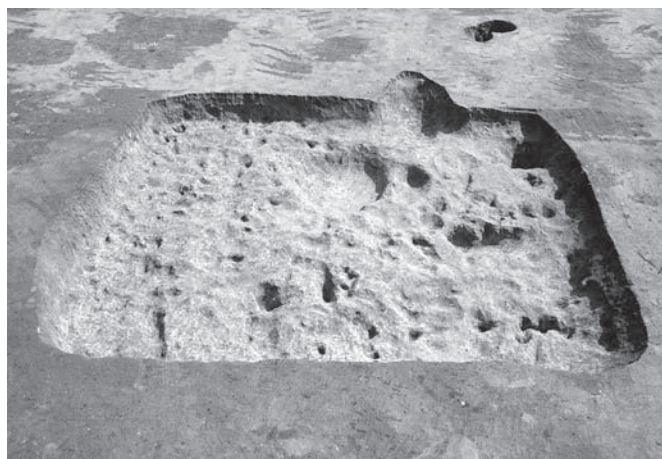
1 11号住居全景(西から)



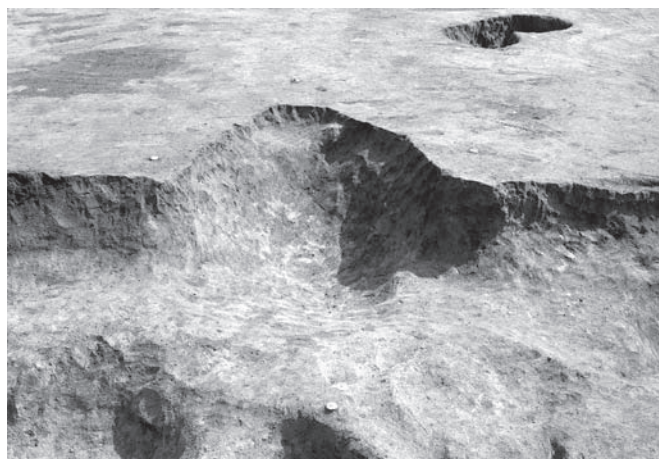
2 11号住居遺物出土状況(北から)



3 11号住居カマド全景(西から)



4 11号住居掘方全景(西から)



5 11号住居カマド掘方全景(西から)



1 12号住居全景(西から)



2 12号住居カマド遺物出土状況(西から)



3 12号住居カマド全景(西から)



4 12号住居カマド掘方全景(西から)



5 12号住居調査状況



1 13号住居全景(西から)



2 13号住居遺物出土状況(北西から)



3 13号住居カマド全景(西から)



4 13号住居掘方全景(西から)



5 13号住居カマド掘方全景(西から)



1 14号住居全景(西から)



2 14号住居掘方全景(西から)



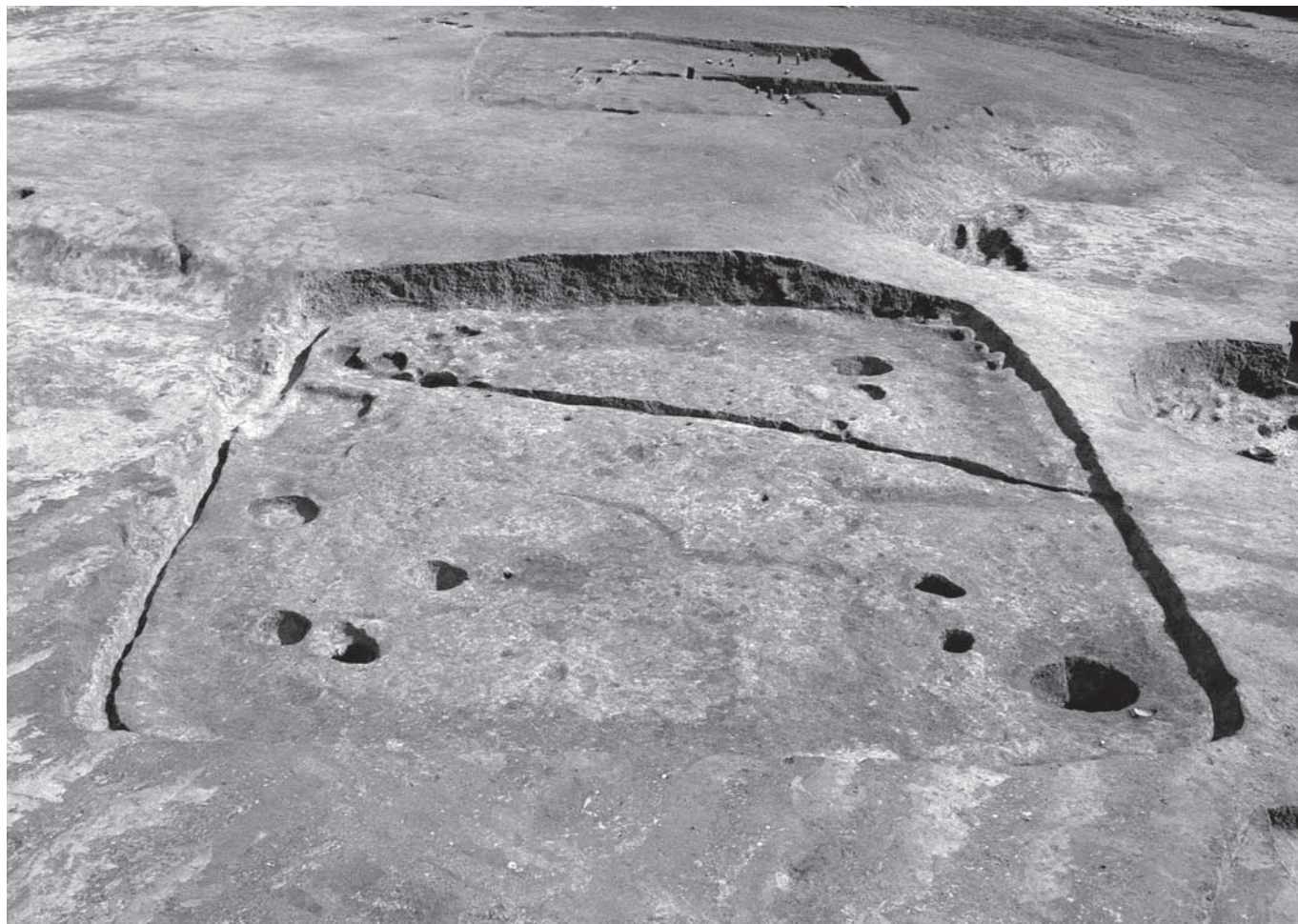
3 14号住居カマド全景(西から)



4 14号住居カマド掘方全景(西から)



5 14号住居調査状況(南東から)



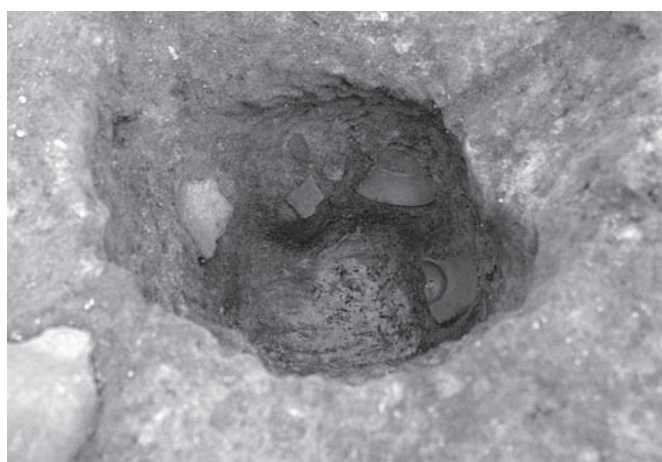
1 15号住居全景(南西から)



2 15号住居遺物出土状況(南西から)



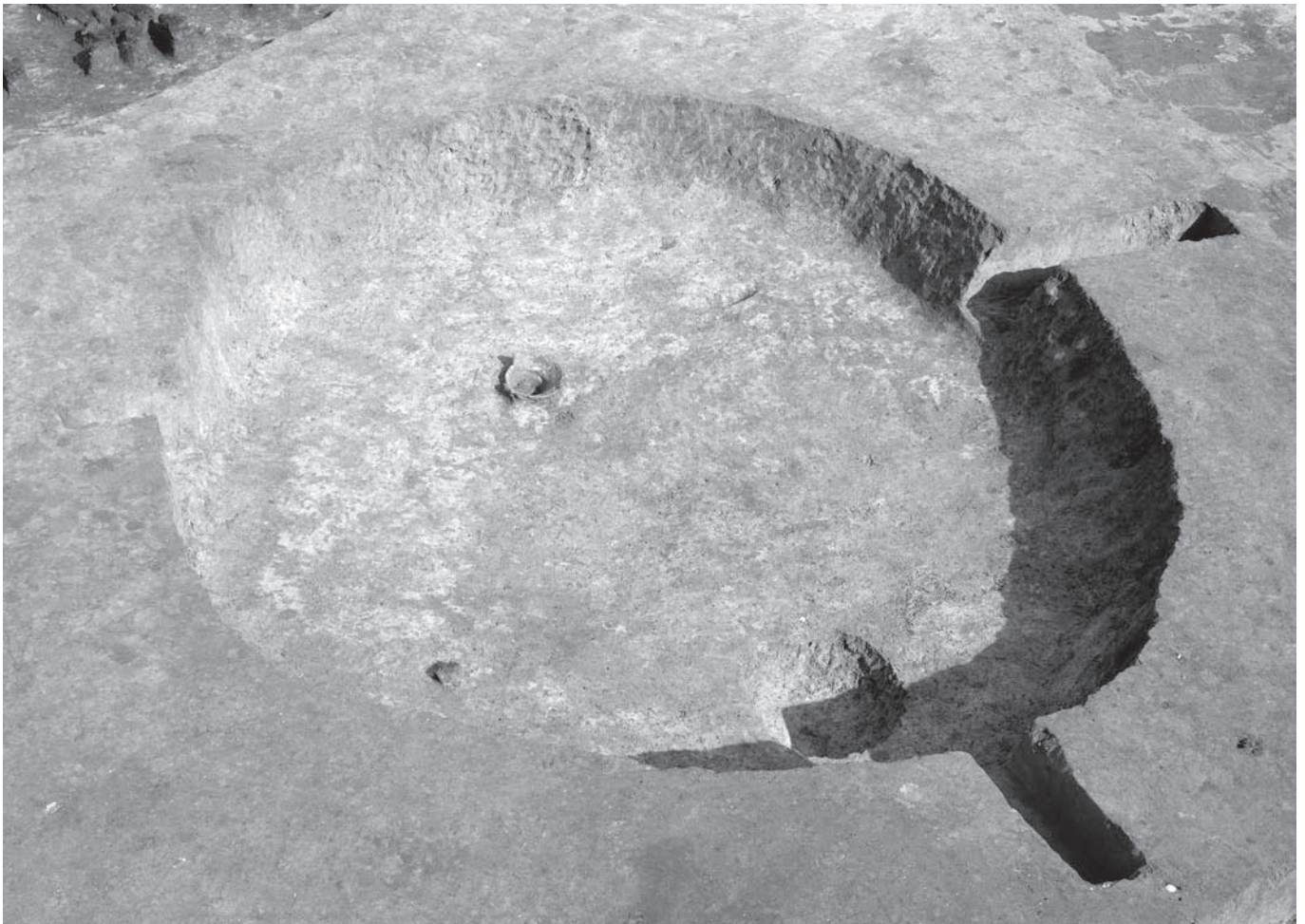
3 15号住居炭化物出土状況



4 15号住居5号ピット全景



5 15号住居掘方全景(南西から)



1 16号住居全景(南西から)



2 16号住居掘方全景(南西から)



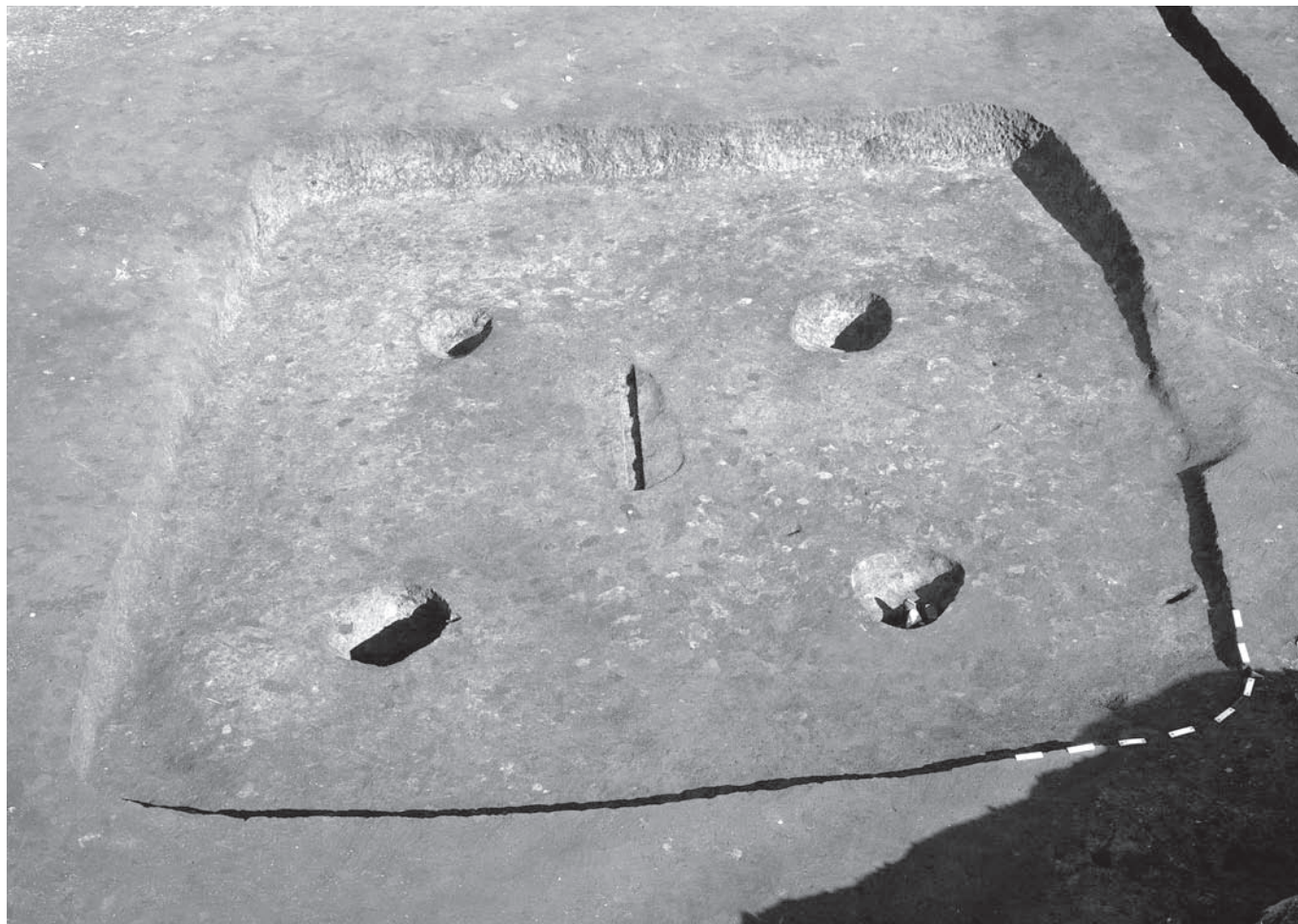
3 16号住居埋甕(西から)



4 16号住居遺物出土状況その1



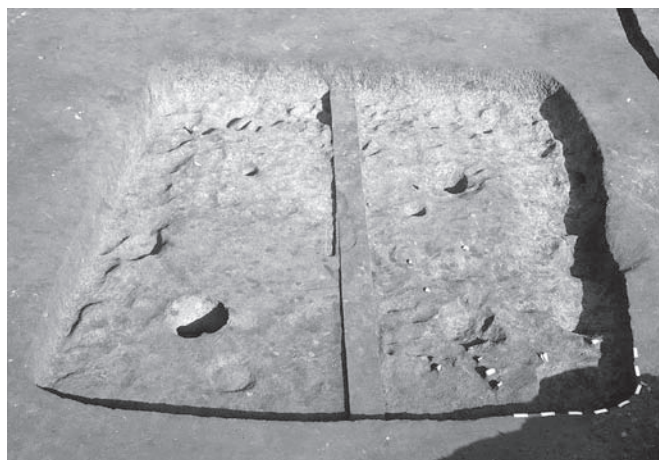
5 16号住居遺物出土状況その2



1 18号住居全景(南西から)



2 18号住居炉跡全景(北西から)



3 18号住居掘方全景(南西から)



4 18号住居遺物出土状況(南西から)



5 18号住居掘方遺物出土状況



1 20号住居全景(南西から)



2 20号住居炉跡全景



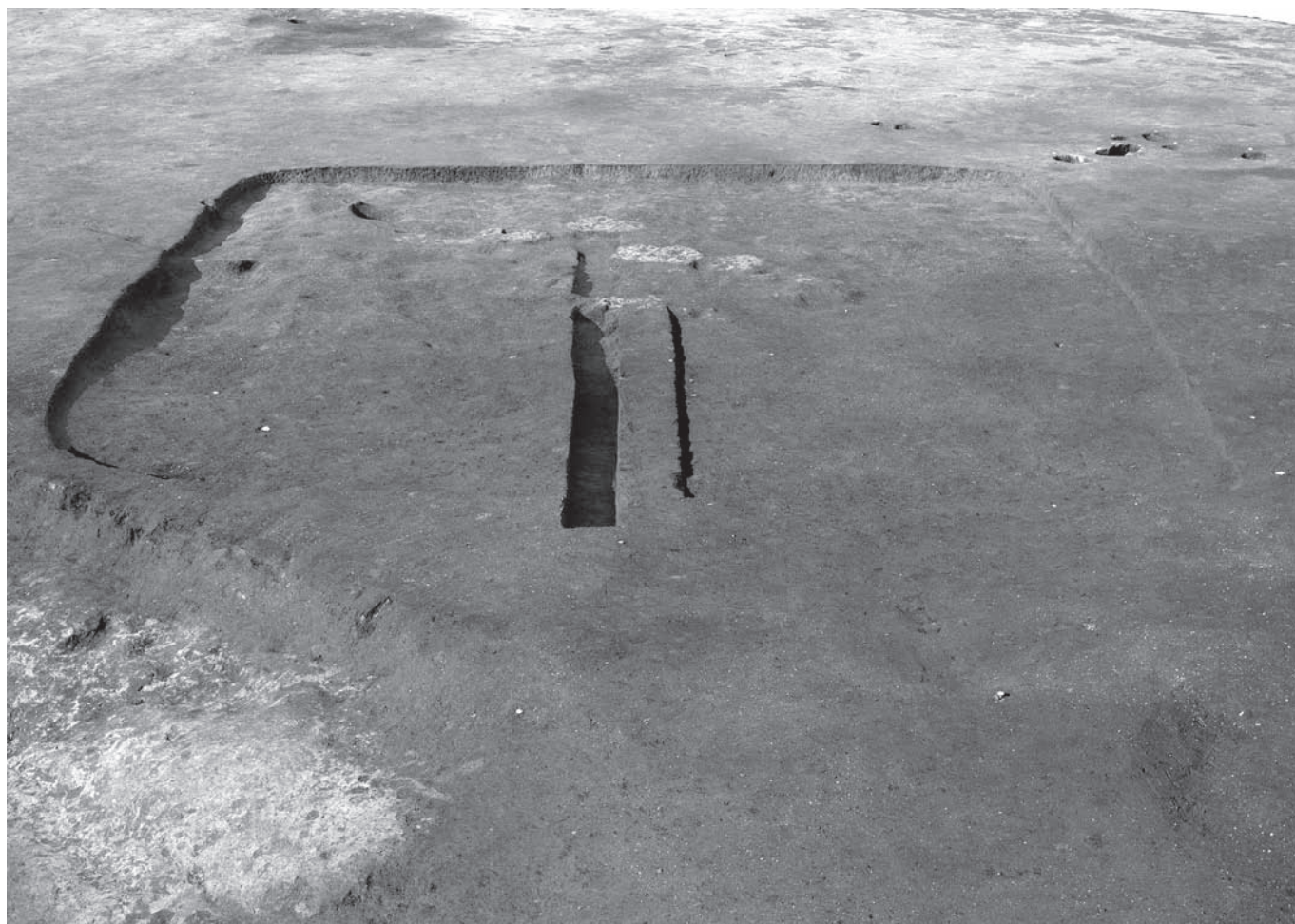
3 20号住居掘方全景(南西から)



4 20号住居5号ピット全景(北東から)



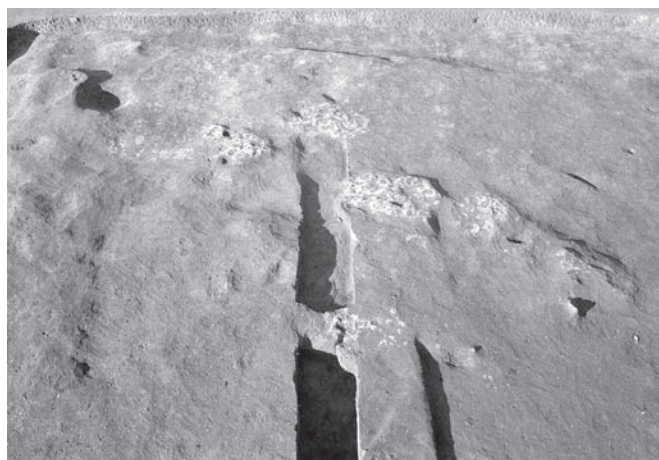
5 20号住居6号ピット全景(北東から)



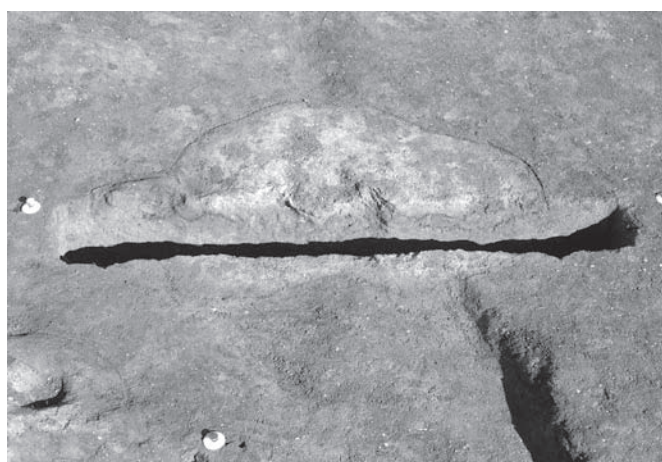
1 21号住居全景(南西から)



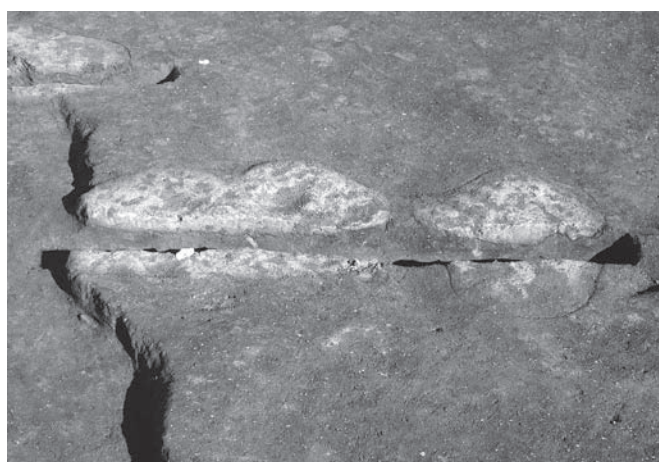
2 21号住居遺物出土状況



3 21号住居焼土全景(南西から)



4 21号住居焼土断面C-C(南西から)



5 21号住居焼土断面E-E(南西から)



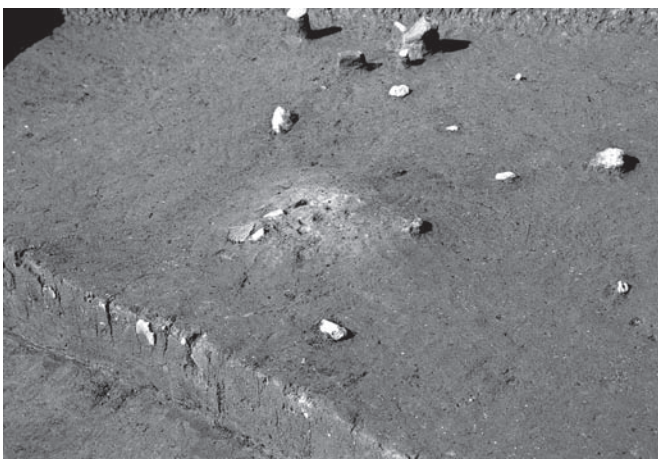
1 25号住居全景(南から)



2 25号住居炉断面(南から)



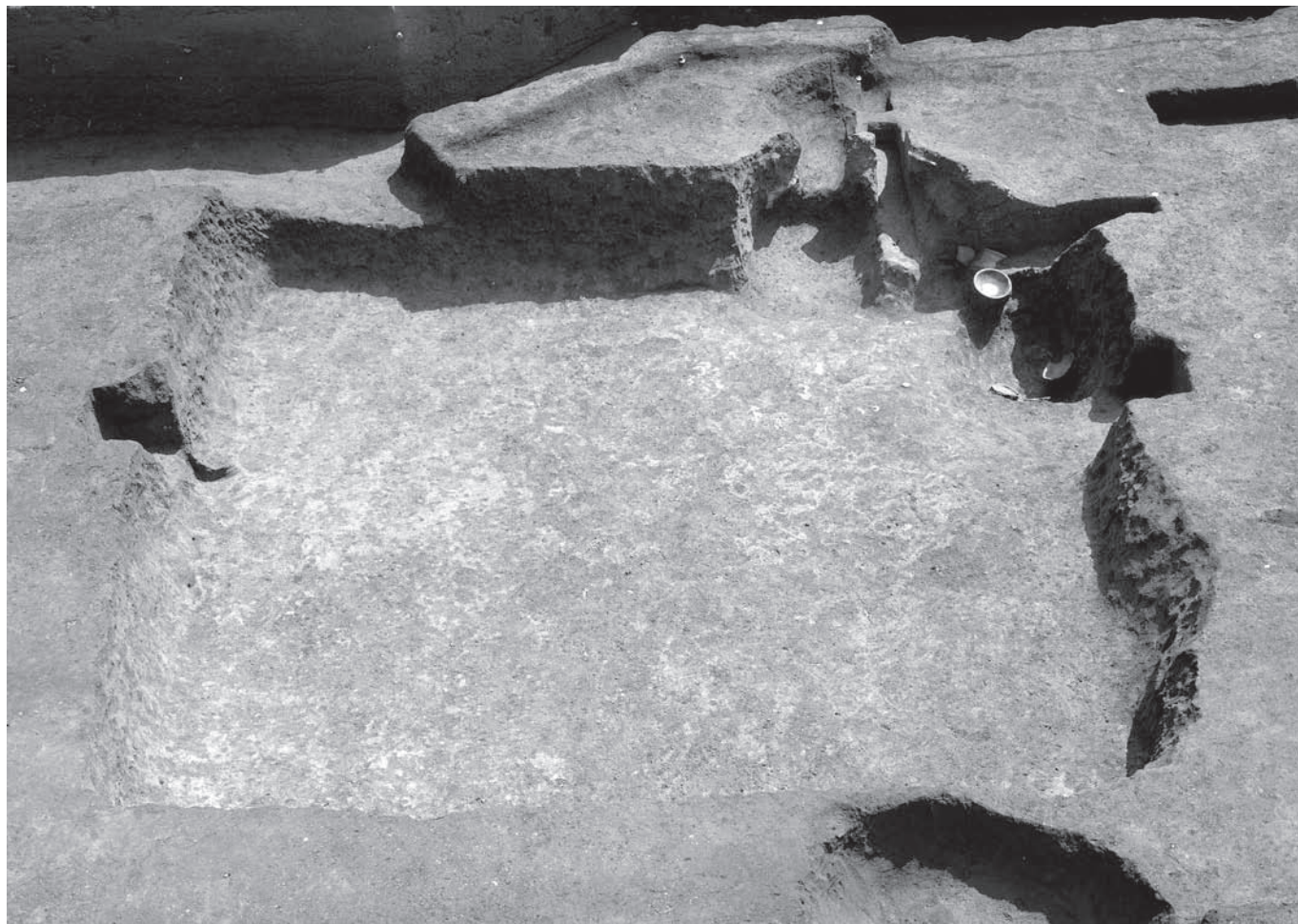
3 25号住居掘方全景(西から)



4 25号住居炉全景(南から)



5 25号住居遺物出土状況(西から)



1 27号住居全景(北西から)



2 27号住居カマド全景(北西から)



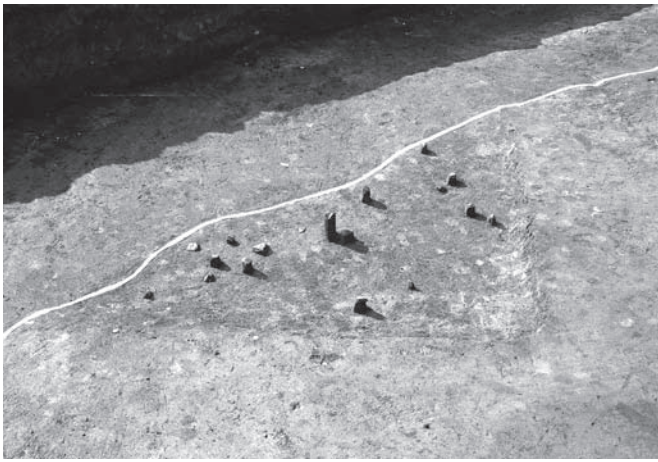
3 27号住居掘方全景(北西から)



4 27号住居カマド掘方全景(北西から)



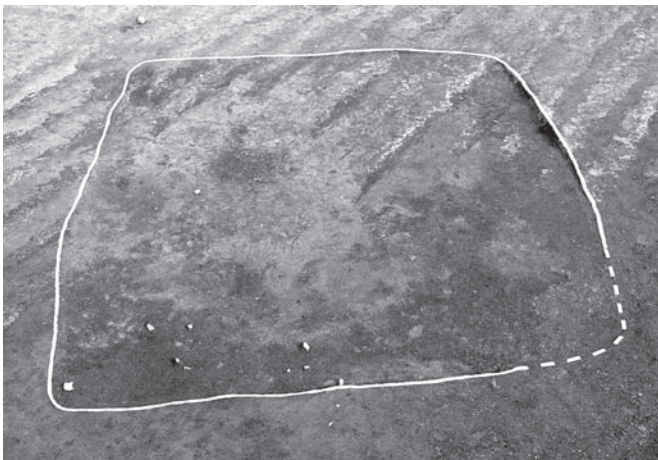
5 27号住居遺物出土状況(北から)



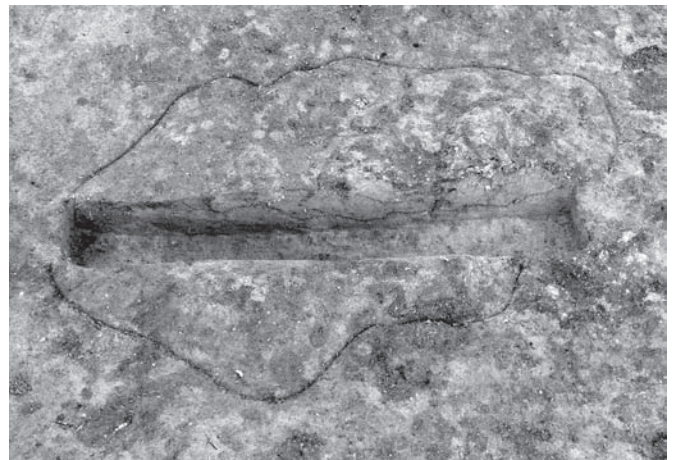
1 17号住居全景(北東から)



2 17号住居掘方全景(北東から)



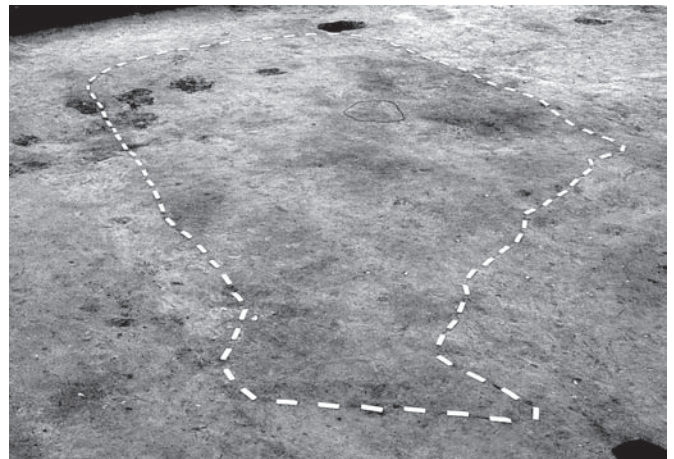
3 19号住居全景(北東から)



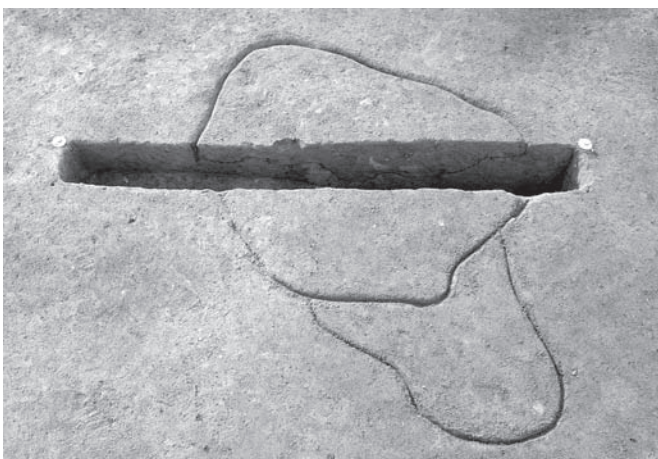
4 19号住居炉断面(北東から)



5 19号住居掘方全景(北東から)



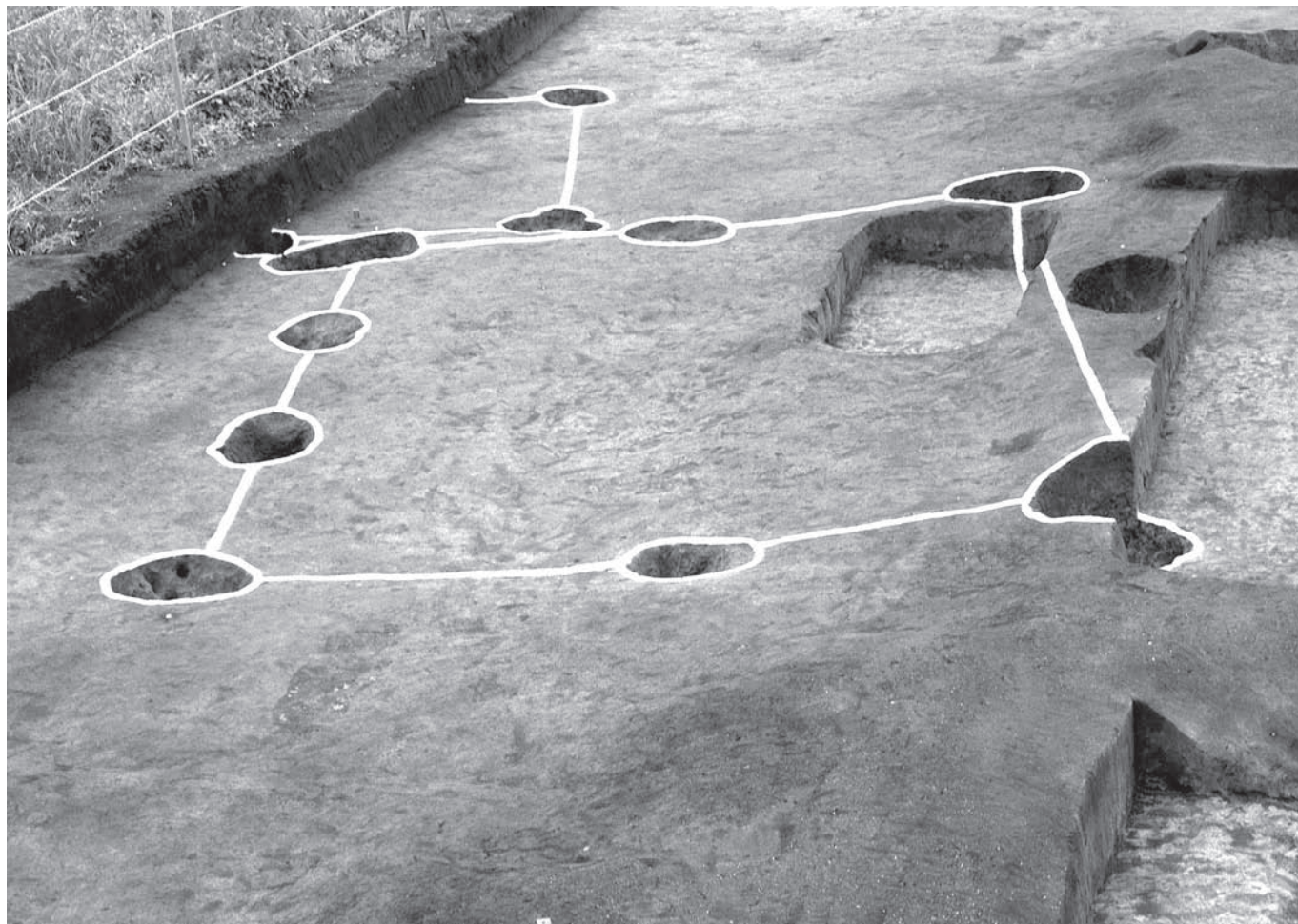
6 22号住居全景(北東から)



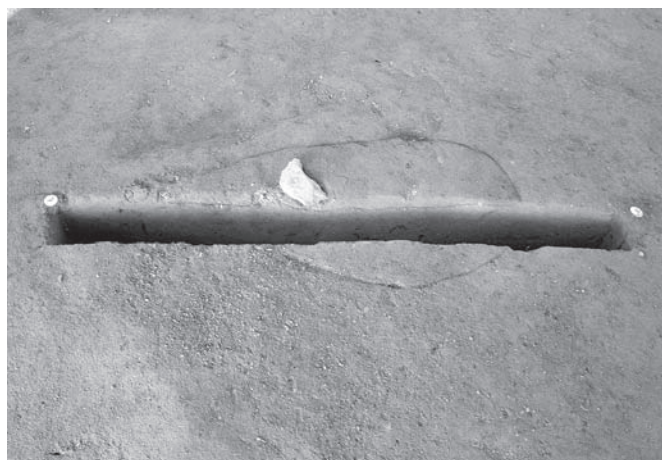
7 22号住居炉全景(東から)



8 23号住居全景(南から)



1 1号・2号掘立柱建物全景(東から)



2 24号住居炉全景(北東から)



3 26号住居全景(南西から)



4 26号住居掘方全景(南西から)



5 26号住居遺物出土状況(南西から)



1 1～4号溝全景(西から)



2 1号溝全景(南東から)



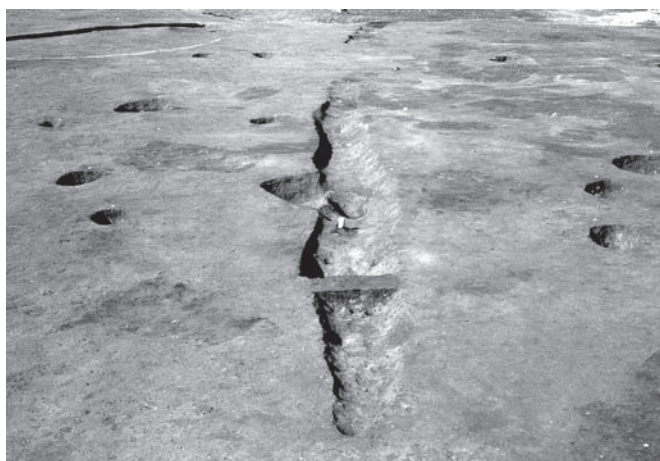
3 5号溝掘方全景(北から)



1 4号溝全景(北から)



2 8号溝全景その1(南西から)



3 8号溝全景その2(南東から)



4 9号溝全景(北から)



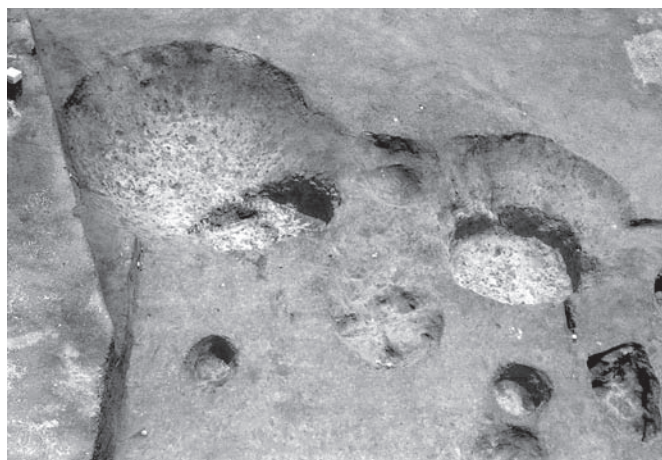
1 7号溝全景(北東から)



2 3号道全景(北から)



1 鍛冶遺構遺物出土状況(北東から)



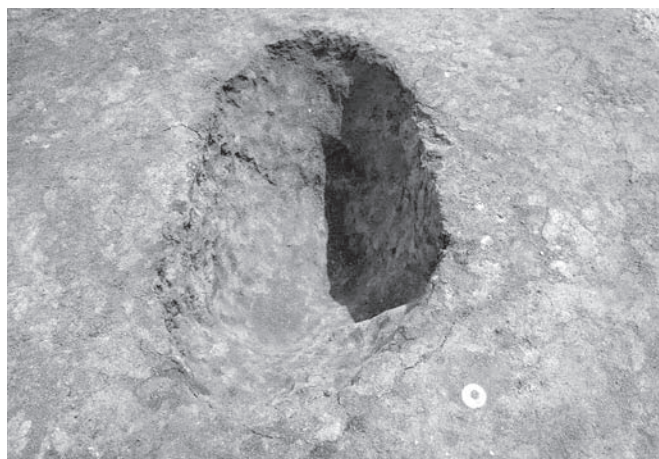
2 鍛冶遺構全景(北東から)



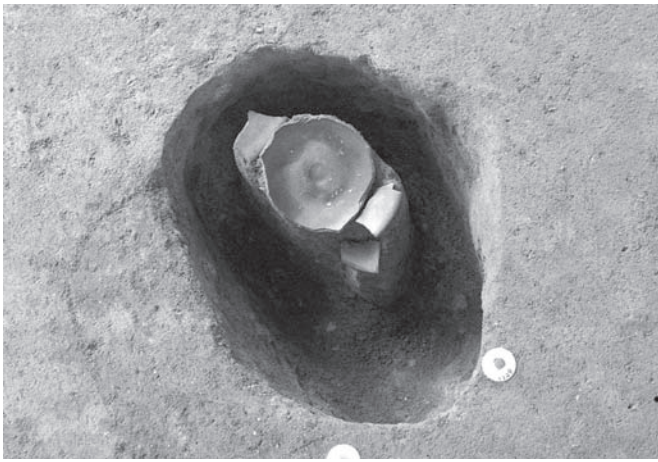
3 鍛冶遺構遺物出土状況(南東から)



4 1号竪穴状遺構全景(南から)



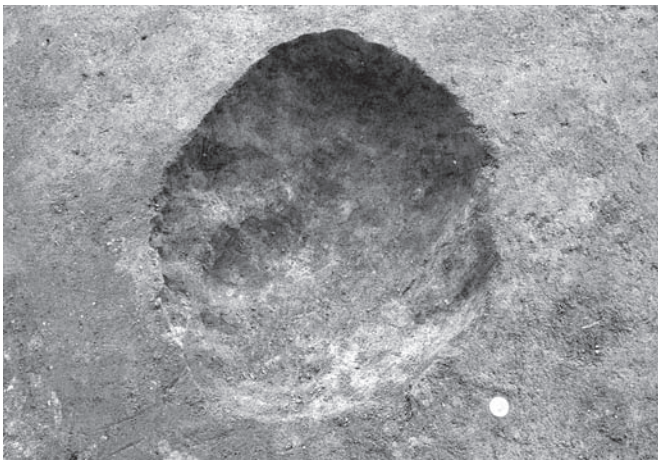
5 17号土坑全景(北から)



1 1129号土坑全景(北から)



2 1196号土坑全景(北から)



3 1199号土坑全景(北から)



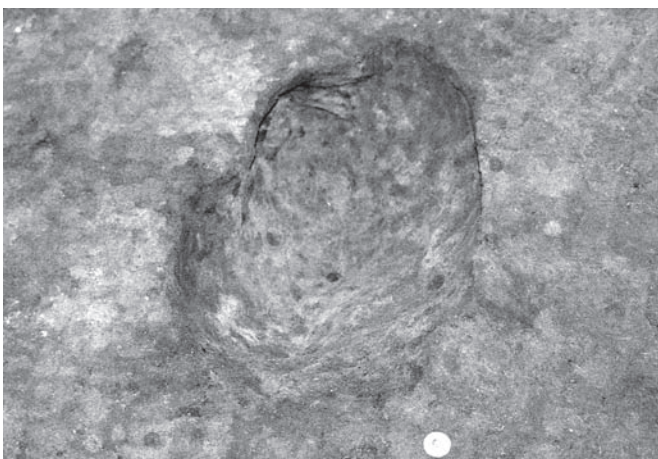
4 1225号土坑全景(南から)



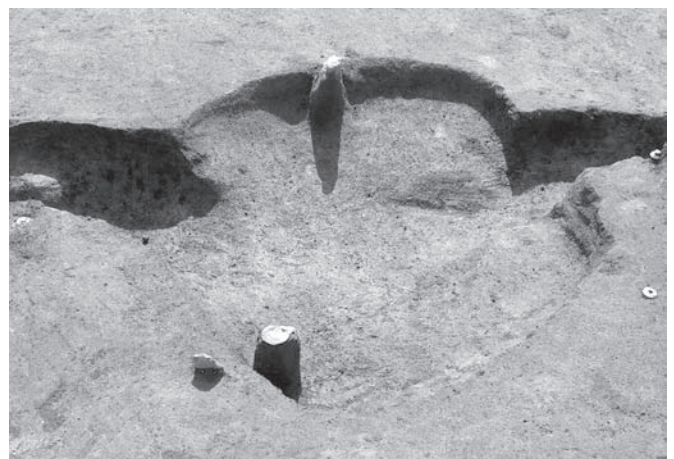
5 1226号土坑全景(南から)



6 1227号土坑全景(北東から)



7 1260号土坑全景(北から)



8 1369号土坑全景(北から)



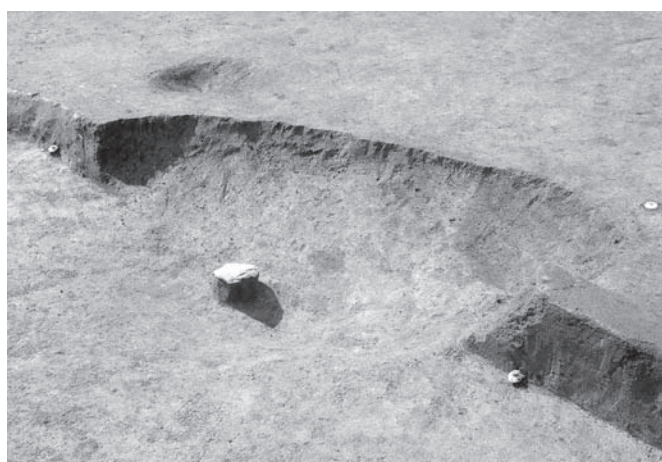
1 1373号土坑全景(北から)



2 1373号土坑深鉢出土状況(北西から)



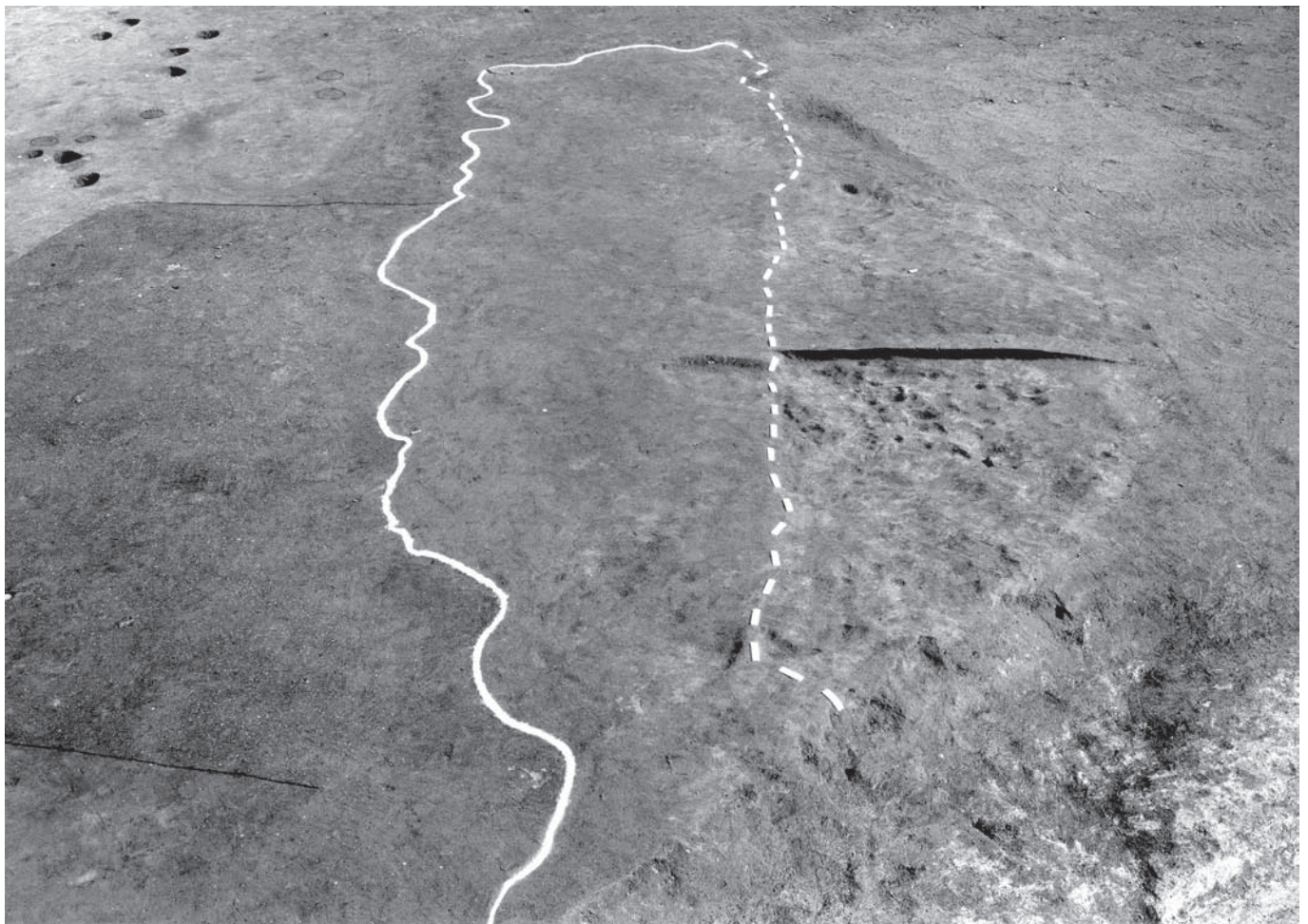
3 1370号土坑全景(北から)



4 1371号土坑全景(北から)



5 1379号土坑全景(北から)



1 As-B混入土を含む水田全景(北から)



2 谷地全景(北東から)

1号住居出土遺物



18図-1



18図-2



18図-4



18図-3



18図-6



18図-5



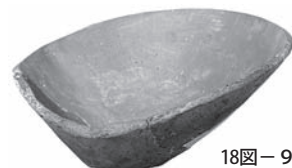
18図-7



18図-8



18図-10



18図-9



18図-11

2号住居出土遺物



21図-1



21図-2



21図-3



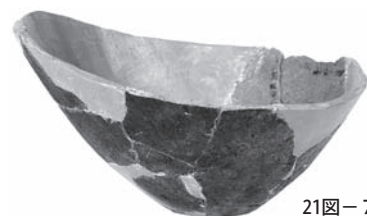
21図-4



21図-6



21図-5



21図-7



21図-8



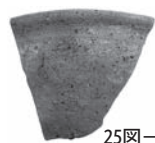
22図-10



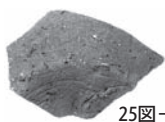
22図-9

PL.36

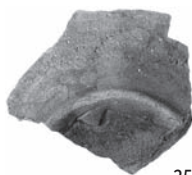
3号住居出土遺物



25图-1



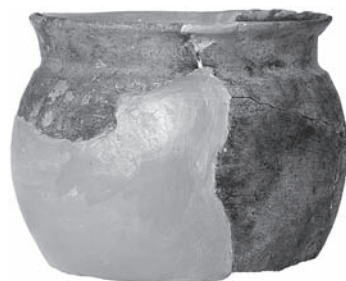
25图-2



25图-3



25图-4



25图-5



25图-6



26图-7

4号住居出土遺物



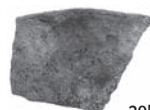
26图-8



29图-1



29图-2



29图-3



29图-4



29图-5



29图-6



29图-7



29图-8



29图-9



29图-10



29图-11



29图-12

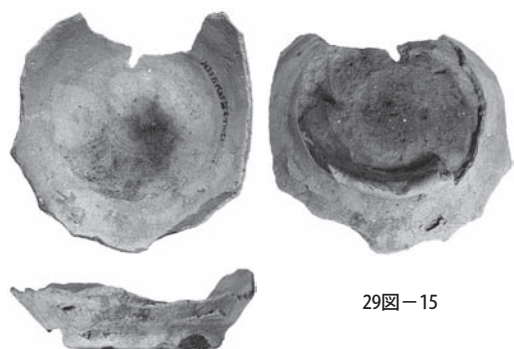


29图-13

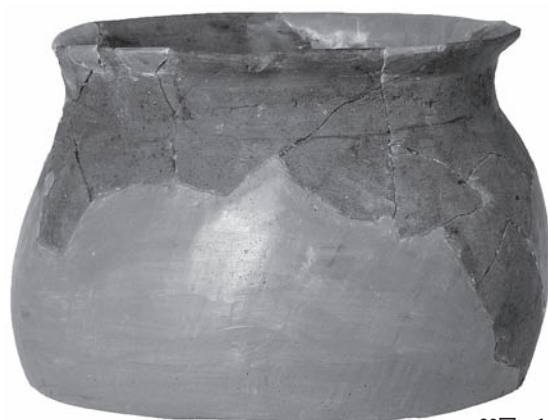


29图-14

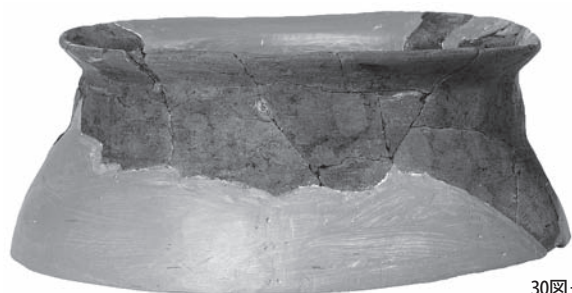
4号住居出土遺物



29図-15



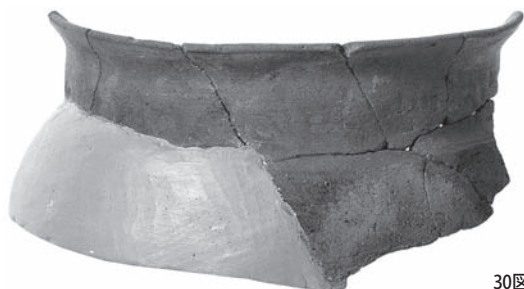
29図-16



30図-18



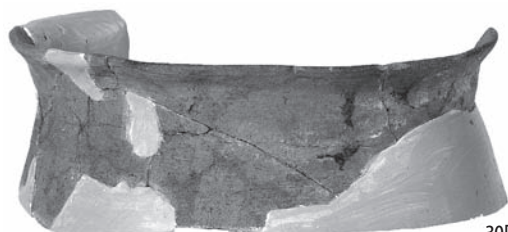
29図-17



30図-19



30図-20



30図-21



30図-22



30図-23

PL.38

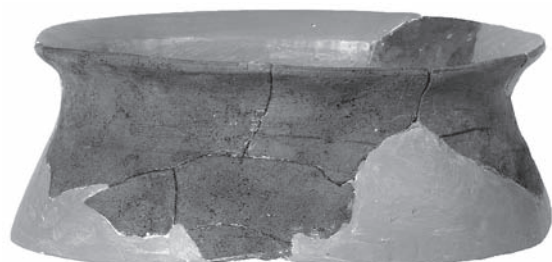
4号住居出土遺物



30图-24



31图-25



31图-26



31图-27



31图-28



31图-30



33图-1



33图-2



33图-3



33图-4

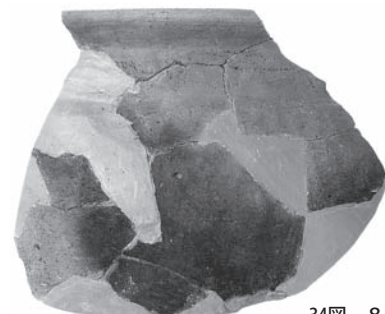


31图-29



31图-31

5号住居出土遺物



34图-8

5号住居出土遺物



33图-5



33图-6



34图-7



34图-9



34图-10



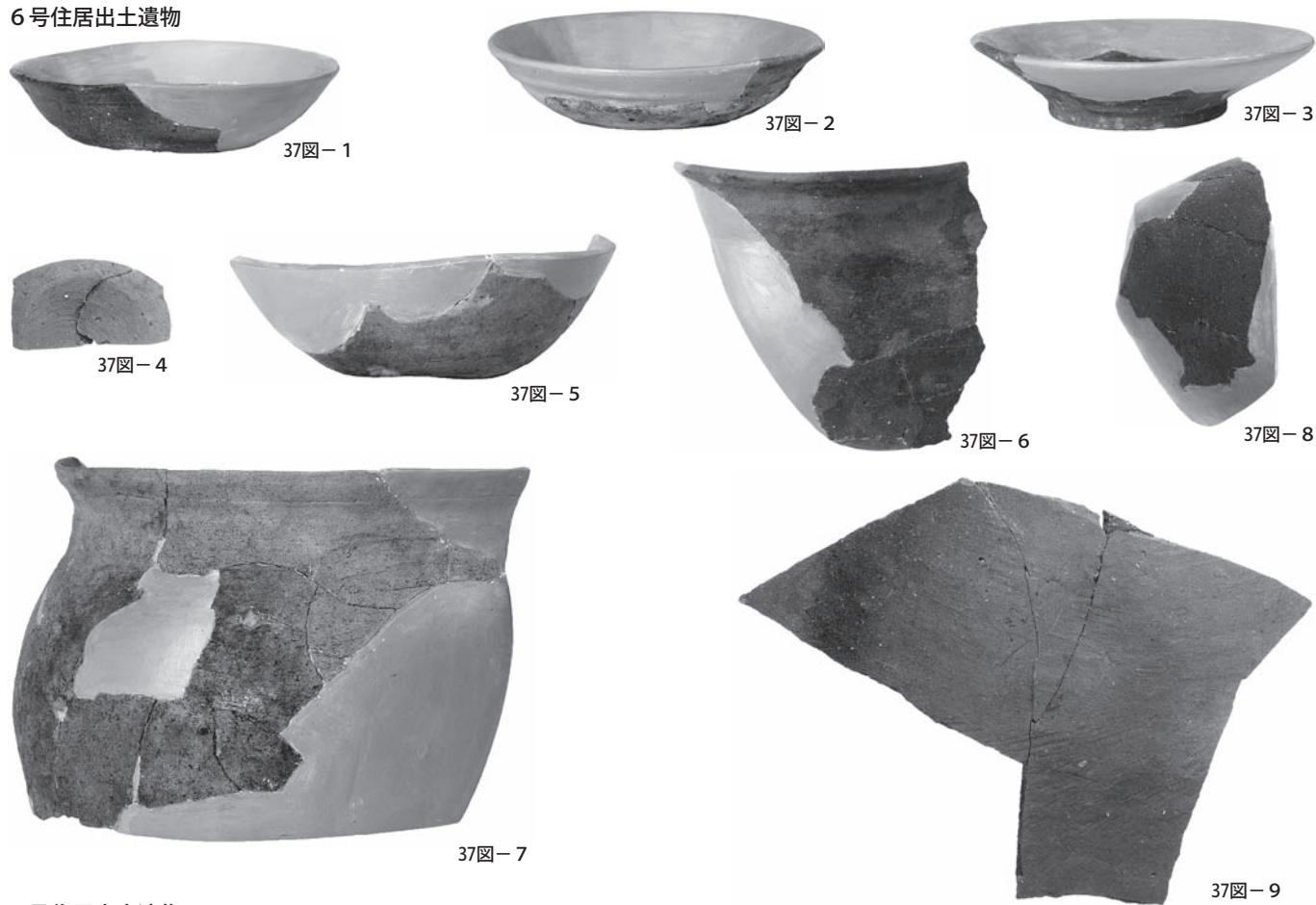
35图-11



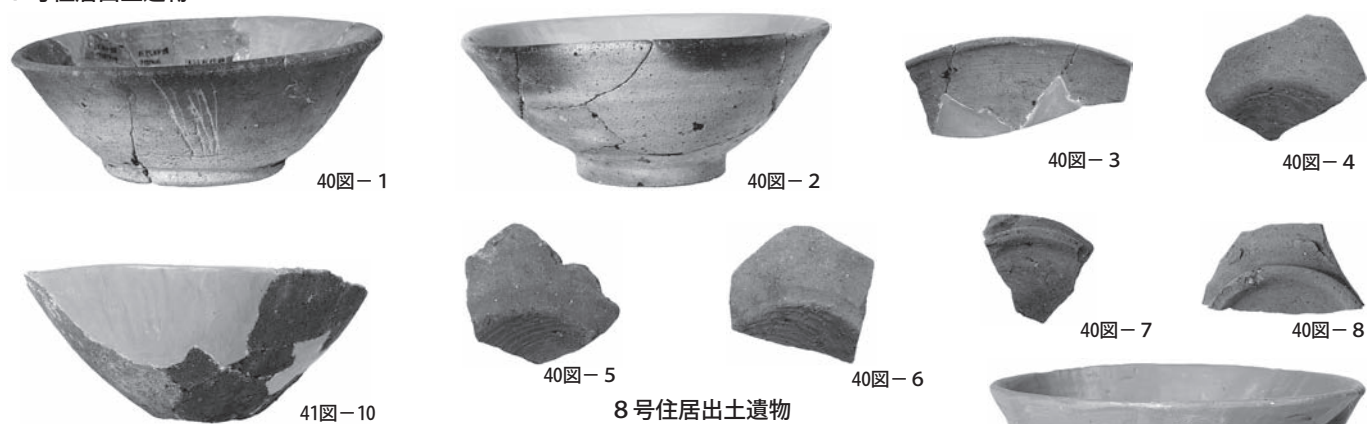
34图-12

PL.40

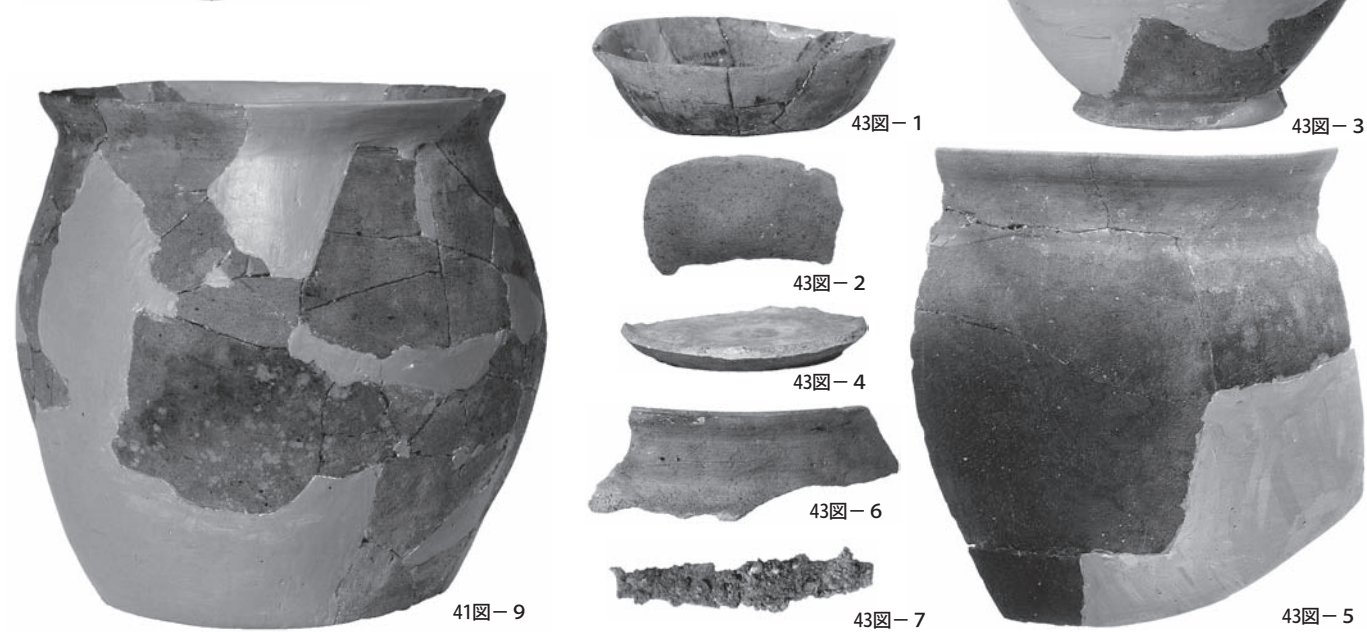
6号住居出土遺物



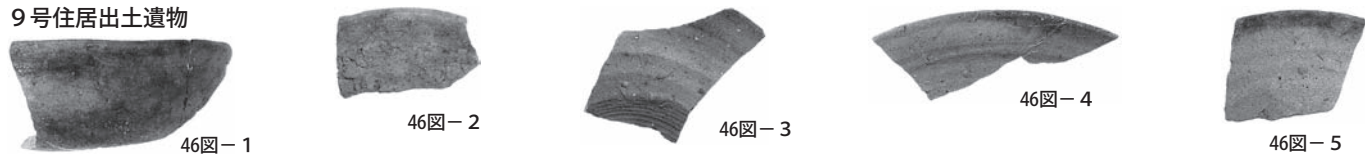
7号住居出土遺物



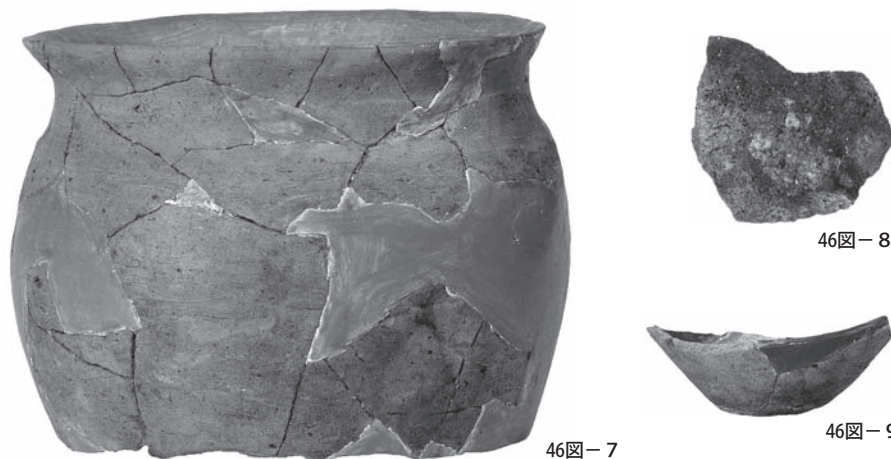
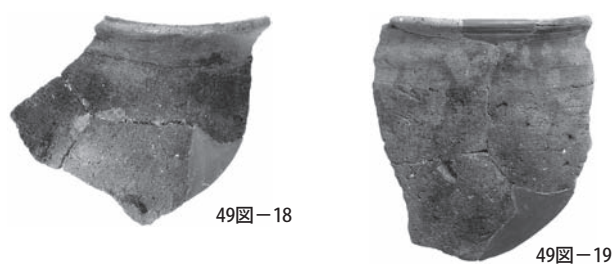
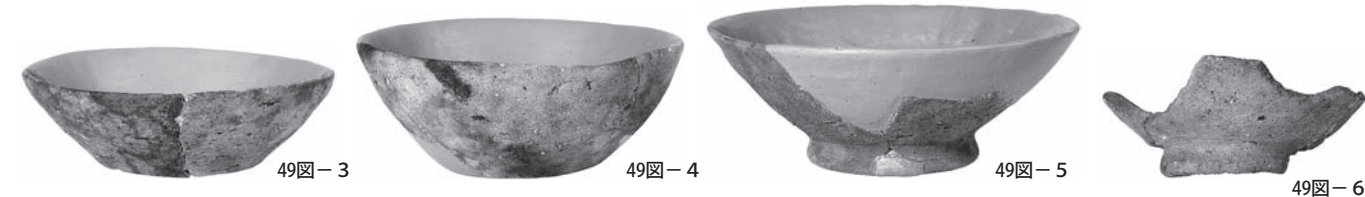
8号住居出土遺物



9号住居出土遺物



10号住居出土遺物



PL.42

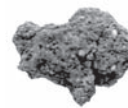
10号住居出土遺物



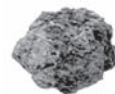
50図-21



50図-22



24



25



50図-23

11号住居出土遺物



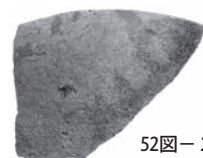
50図-26



50図-27



52図-1



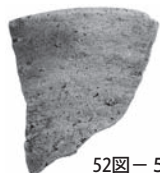
52図-2



52図-3



52図-4



52図-5



52図-6



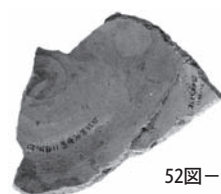
52図-7



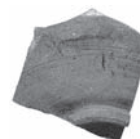
52図-9



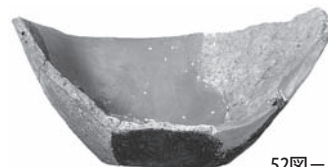
52図-13



52図-8



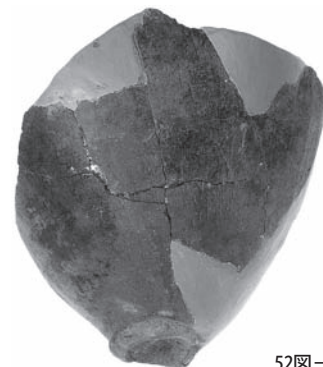
52図-10



52図-14



52図-11



52図-12

12号住居出土遺物



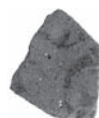
55図-1



55図-2



55図-3



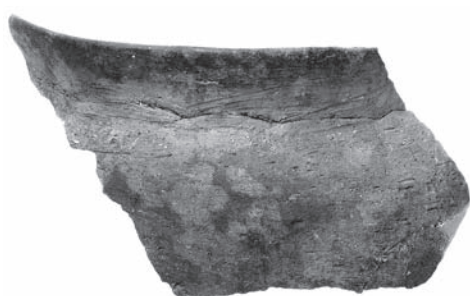
55図-4



55図-5



55図-8



55図-9



55図-6



55図-7

13号住居出土遺物



57図-1



57図-2



57図-3



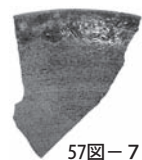
57図-4



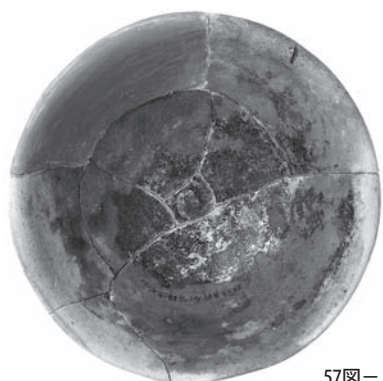
57図-5



57図-6



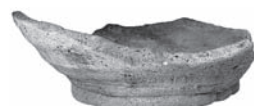
57図-7



57図-8



57図-10



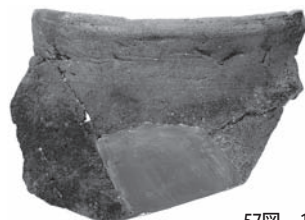
57図-11



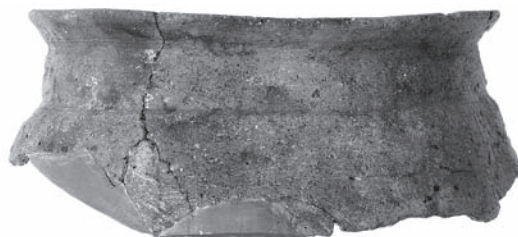
57図-9



57図-12



57図-13



57図-14



57図-15



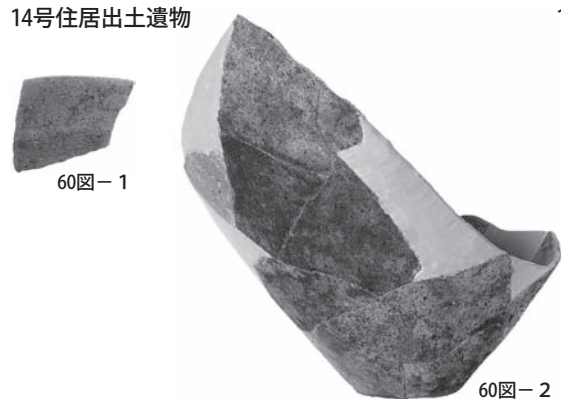
58図-17



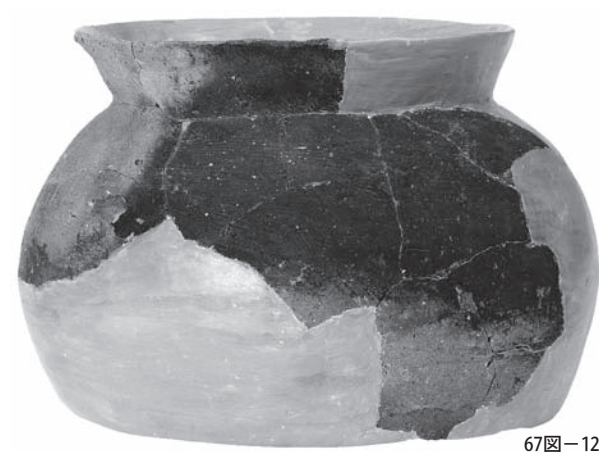
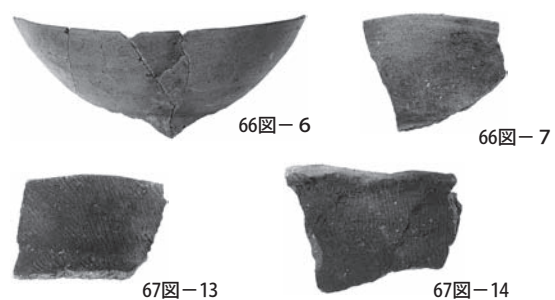
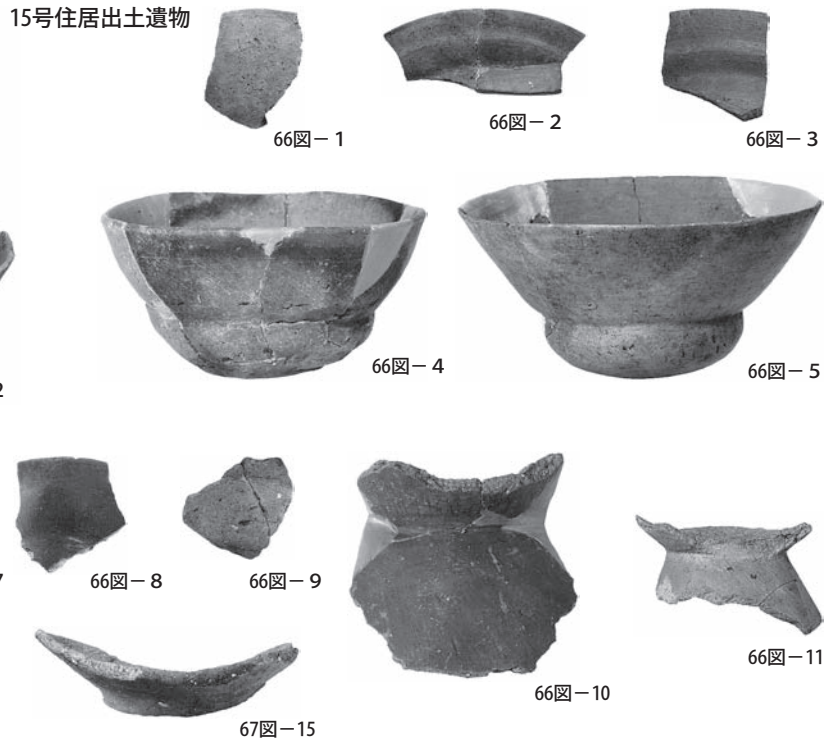
58図-16

PL.44

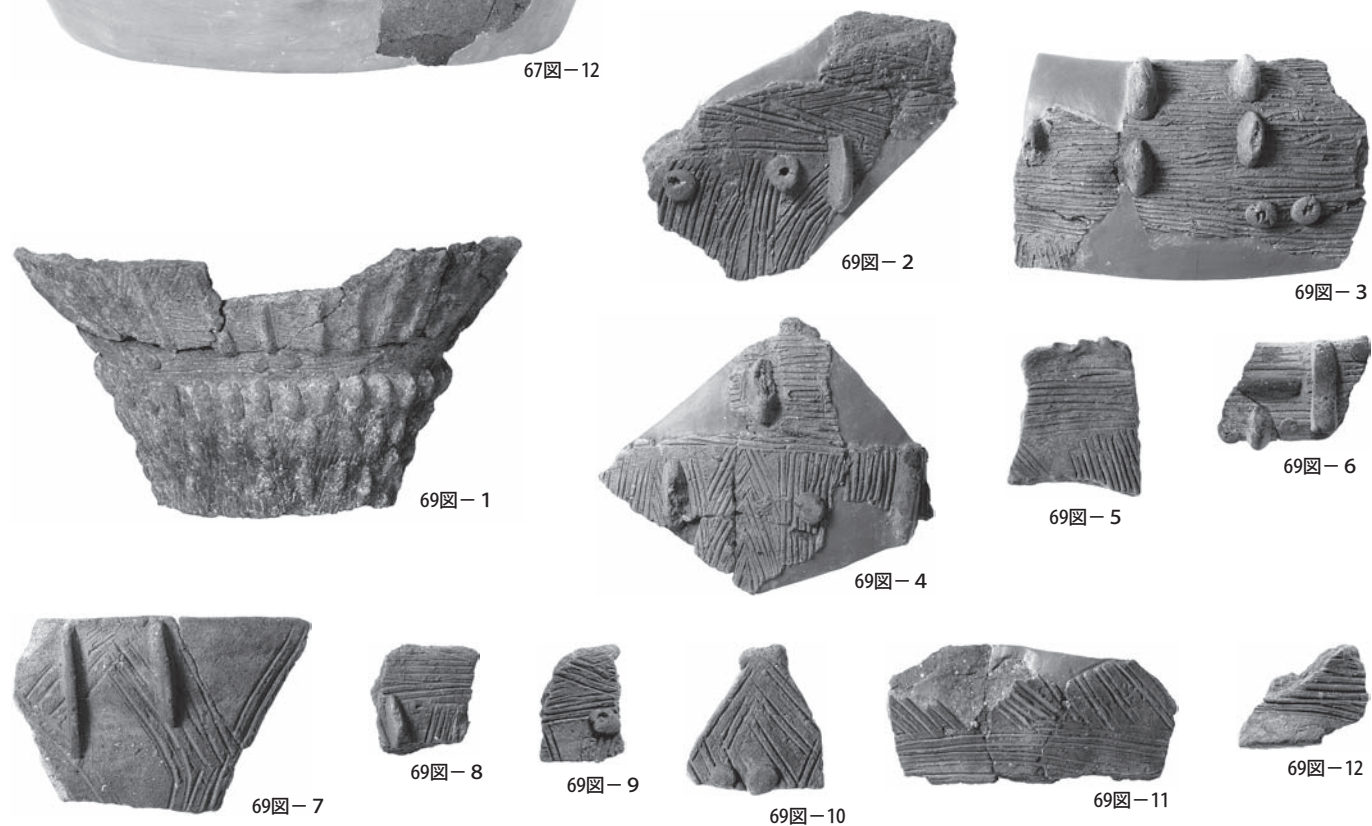
14号住居出土遺物



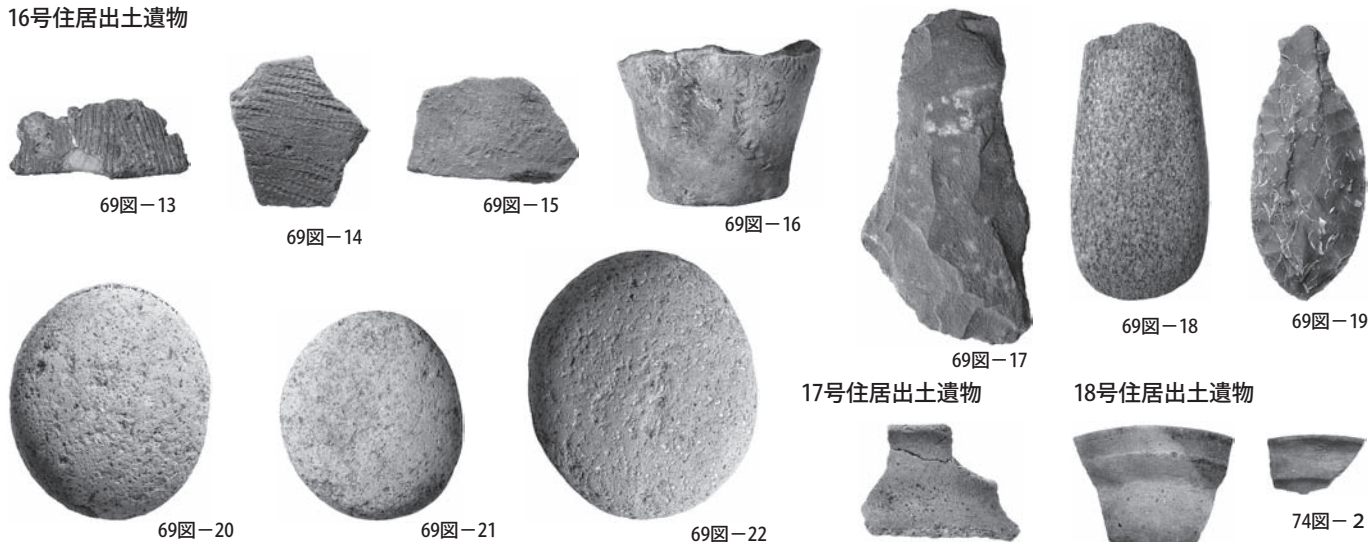
15号住居出土遺物



16号住居出土遺物



16号住居出土遺物



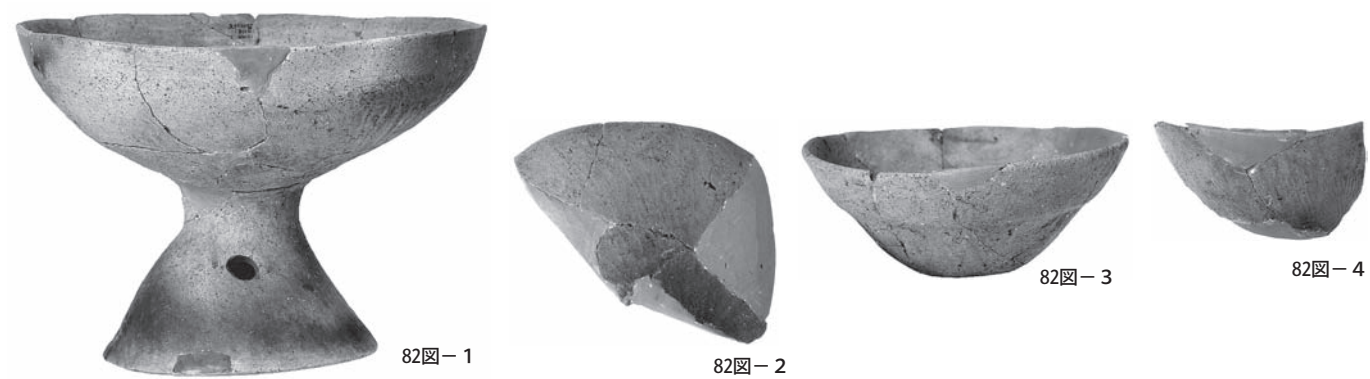
17号住居出土遺物

18号住居出土遺物



19号住居出土遺物

20号住居出土遺物

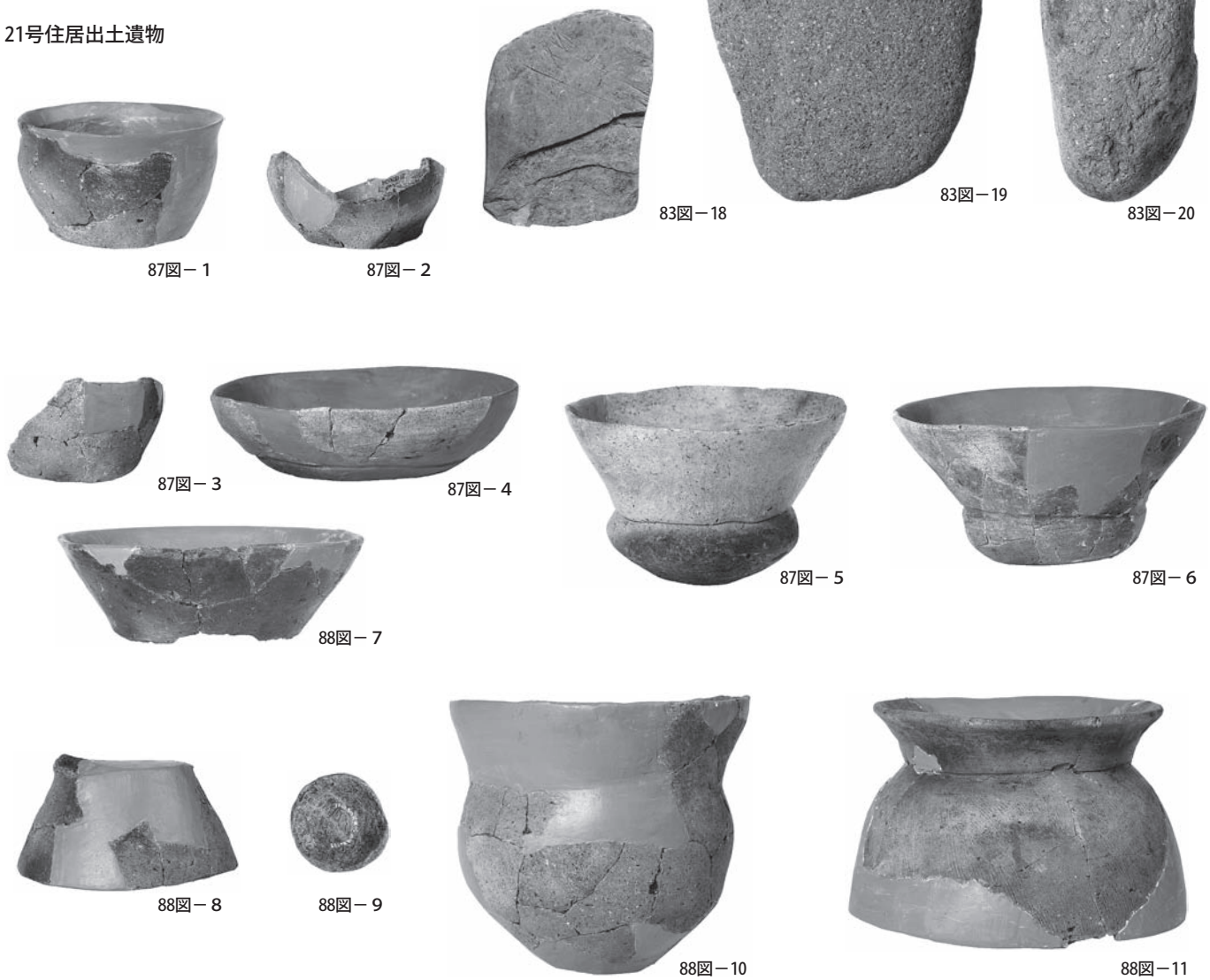


PL.46

20号住居出土遺物



21号住居出土遺物



21号住居出土遺物



88図-12



88図-13



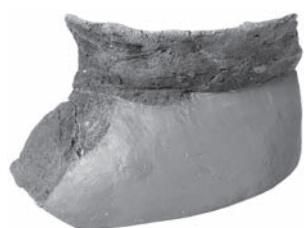
88図-14



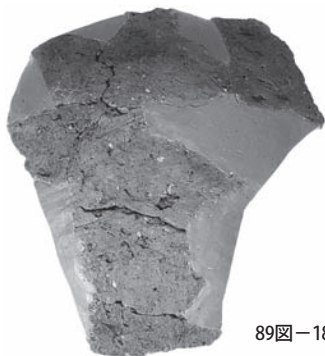
89図-15



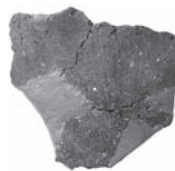
88図-16



89図-17



89図-18



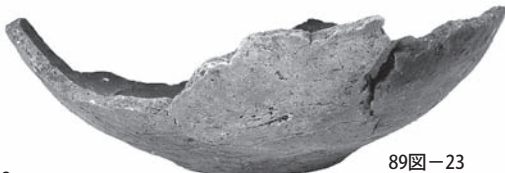
89図-19



89図-20



89図-21



89図-23



89図-24



89図-22



89図-25



89図-26

PL.48

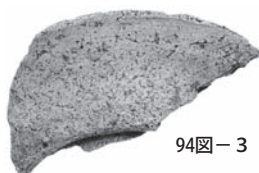
25号住居出土遺物



94图-1



94图-2

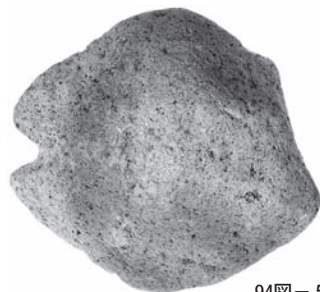


94图-3



94图-4

26号住居出土遺物



94图-5



94图-6



94图-7



97图-1



97图-2



97图-3



97图-4



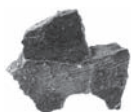
97图-5



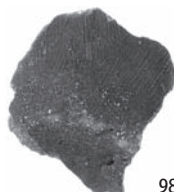
97图-6



98图-7



98图-10



98图-11



98图-13



98图-8

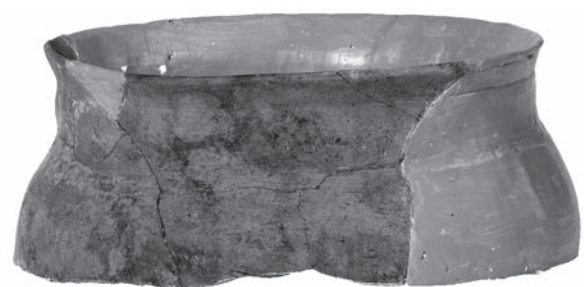


98图-9

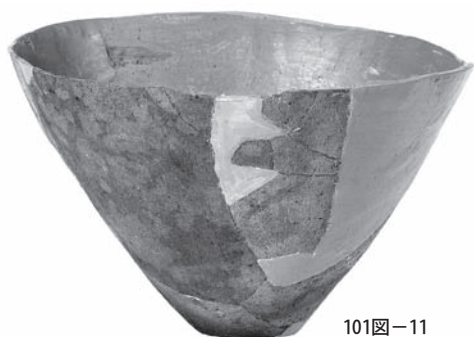
26号住居出土遺物



98図-12



101図-10

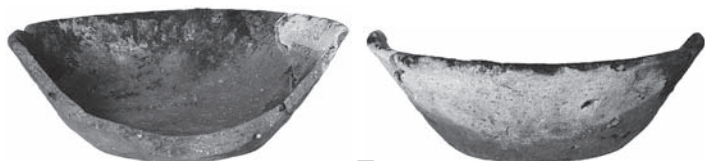


101図-11

鍛冶遺構出土遺物



119図-1



119図-2



119図-3

27号住居出土遺物



101図-1



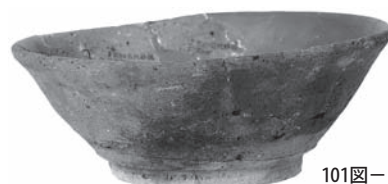
101図-3



101図-2



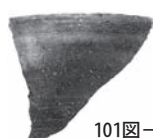
101図-4



101図-5



101図-6



101図-7



101図-8



101図-9

溝出土遺物



110図-1 溝1



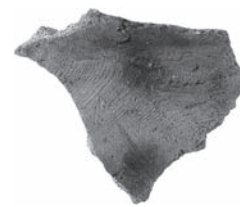
110図-4 溝1



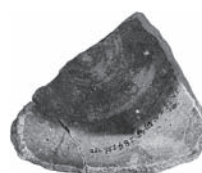
110図-5 溝1



110図-7 溝1



110図-7 溝2



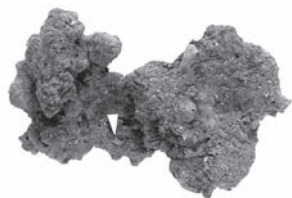
119図-4



119図-5

PL.50

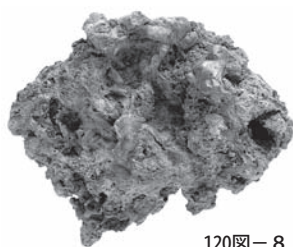
鍛冶遺構出土遺物



119図-6



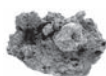
119図-7



120図-8



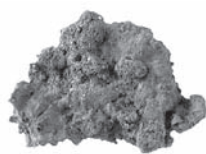
120図-9



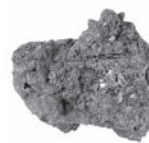
120図-10



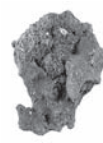
120図-11



121図-12



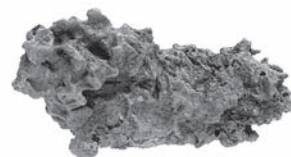
121図-13



121図-14



16

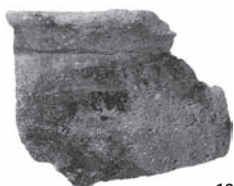


121図-15

土坑出土遺物



125図-17土坑1



125図-570土坑1



125図-1129土坑1



125図-1196土坑1



125図-1199土坑1



125図-1226土坑1



125図-1227土坑1



125図-1260土坑1



125図-1370土坑1



125図-1371土坑1



125図-1371土坑2



125図-1371土坑3

土坑出土遺物



126圖-1373土坑 1



126圖-1373土坑 2

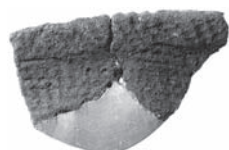


126圖-1373土坑 3



126圖-1373土坑 4

繩文包含層出土土器



129圖-1



129圖-2



129圖-3



129圖-4



129圖-5



129圖-6



129圖-7



129圖-8



129圖-9



129圖-10



129圖-11



129圖-12



129圖-13



129圖-14



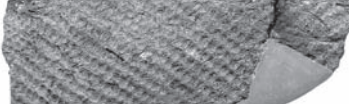
129圖-15



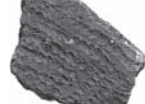
129圖-16



129圖-17



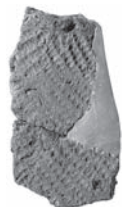
129圖-18



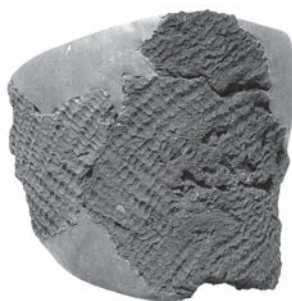
129圖-19



129圖-20



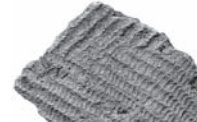
129圖-21



129圖-22



129圖-23



129圖-24



129圖-25



129圖-30



129圖-31



129圖-32



129圖-26



129圖-27



129圖-28



129圖-29



129圖-33



129圖-34



129圖-35



129圖-36



129圖-37

繩文包含層出土土器



130圖-67



130圖-71



130圖-72



130圖-73



130圖-74



130圖-75



130圖-76



131圖-77



131圖-78



131圖-79



131圖-80



131圖-81



131圖-82



131圖-83



131圖-85



131圖-84



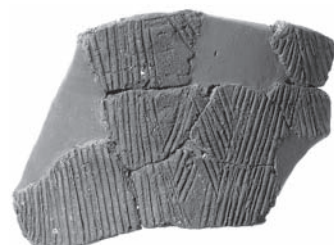
131圖-86



131圖-87



131圖-88



131圖-89



131圖-90



131圖-91



131圖-92



131圖-93



131圖-95



131圖-96



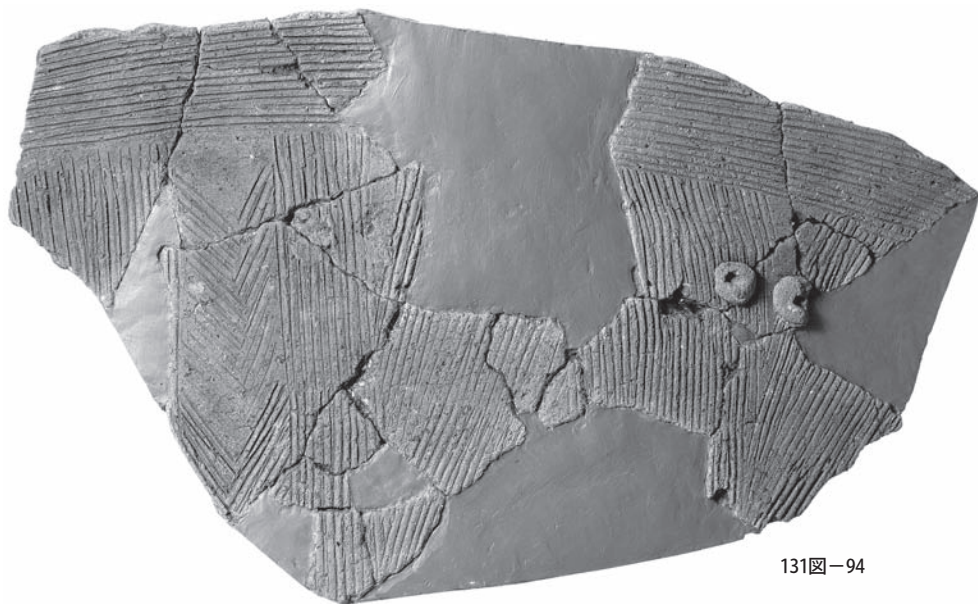
131圖-97



131圖-98

PL.54

繩文包含層出土土器



131圖-94



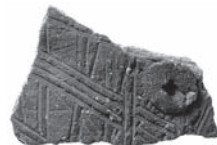
131圖-99



131圖-100



131圖-101



131圖-102



131圖-103



131圖-104



132圖-105



132圖-106



132圖-107



132圖-108



132圖-109



132圖-110



132圖-111



132圖-112



132圖-113



132圖-114



132圖-115



132圖-116



132圖-117



132圖-118



132圖-119



132圖-120



132圖-121



132圖-122



132圖-123



132圖-124



132圖-125



132圖-126



132圖-127



132圖-128

繩文包含層出土土器



132図-129



132図-130



132図-131



132図-132



132図-133



132図-134



132図-135



132図-136



132図-137



132図-138



132図-139



132図-140



132図-141



132図-142



132図-143



132図-144



132図-145



132図-146



132図-147



132図-148



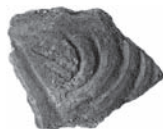
132図-149



132図-150



132図-151



133図-152



133図-153



133図-154



133図-155



133図-156



133図-157



133図-158



133図-159



133図-160



133図-161



133図-162



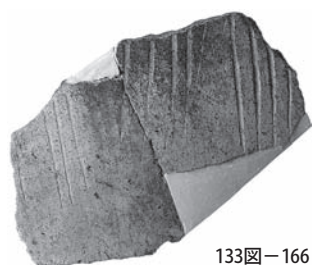
133図-163



133図-164



133図-165



133図-166



133図-167



133図-168



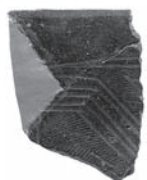
133図-169



133図-170

PL.56

繩文包含層出土土器



133圖-171



133圖-172



133圖-173



133圖-174



133圖-175



133圖-176



133圖-177



133圖-178



133圖-179



133圖-180



133圖-181



133圖-182



133圖-183



133圖-184



133圖-185



133圖-186



134圖-187



134圖-188



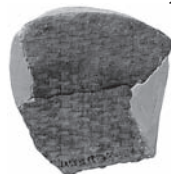
134圖-191



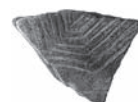
134圖-192



134圖-193



134圖-189



134圖-190



134圖-194



134圖-195



134圖-196



134圖-197



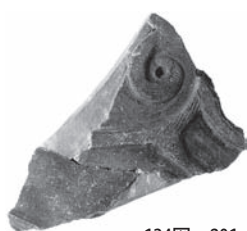
134圖-198



134圖-199



134圖-200



134圖-201



134圖-202



134圖-203



134圖-204



134圖-205

繩文包含層出土石器



135圖-1



135圖-2



135圖-3



135圖-4



135圖-5



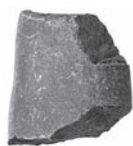
135圖-6



135圖-7



135圖-8



135圖-9



136圖-10



136圖-11



136圖-12



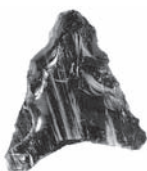
136圖-13



136圖-14



136圖-15



136圖-16



136圖-17



136圖-18



136圖-19



136圖-20



136圖-21



136圖-22



136圖-23



136圖-24



136圖-25



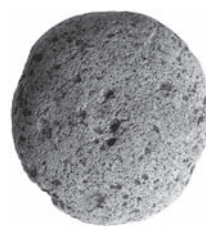
137圖-26



137圖-27



137圖-28



137圖-29



137圖-30

PL.58

繩文包含層出土石器



137圖-31



137圖-32



137圖-33



138圖-34



138圖-35



138圖-36



138圖-37



138圖-38



138圖-39



139圖-40



139圖-41



139圖-42



139圖-43



139圖-44

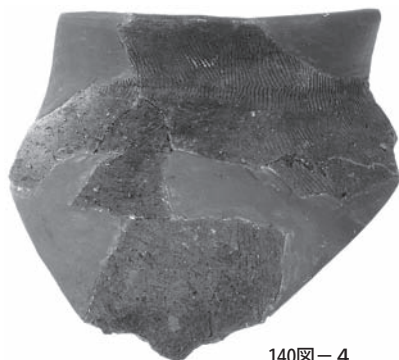


139圖-45

遺構外出土遺物



140圖-1



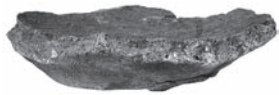
140圖-4



140圖-2



140圖-3



140図-5



140図-6



140図-7



140図-8



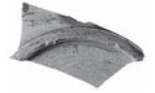
140図-9



141図-10



141図-11



141図-12



141図-13



141図-14



141図-15



141図-16



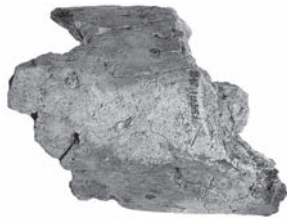
141図-17



141図-18



141図-19



141図-20



141図-21



141図-22

報告書抄録

書名ふりがな	ごだいすなどめいせきぐん
書名	五代砂留遺跡群
副書名	一般国道(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第530集
編著者名	高井佳弘/宮下寛/斎藤聡/長谷川博幸/杉山秀宏
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20120305
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	ごだいすなどめいせきぐん
遺跡名	五代砂留遺跡群
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししごだいまち
遺跡所在地	群馬県前橋市五代町
市町村コード	10201
遺跡番号	00772
北緯(日本測地系)	362440
東経(日本測地系)	1403304
北緯(世界測地系)	364451
東経(世界測地系)	1403252
調査期間	20070501-20080331/20080402-20080630
調査面積	19,529
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/古墳/平安
遺跡概要	縄文-竪穴住居16+土坑1411+遺物包含層/古墳-竪穴住居8+溝1/古代-竪穴住居1+溝1/平安-竪穴住居15+掘立柱建物2+鍛冶遺構1+土坑13+溝2+道路状遺構1/その他-中世-水田-近世-溝4-時期不明-竪穴状遺構8+谷地1
特記事項	縄文時代前期の抱石葬墓坑 古墳時代前期集落、平安時代鍛冶遺構
要約	本報告書は一般国道(上武道路)改築工事に伴い、平成18年度から発掘調査が行われた五代砂留遺跡群の報告である。本遺跡からは、縄文時代前期の住居、古墳時代前期の集落、9世紀の集落の中でも住居・鍛冶遺構・道路状遺構などが検出されている。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第530集

五代砂留遺跡群

一般国道(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)

平成24年(2012)2月27日 印刷

平成24年(2012)3月5日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／杉浦印刷株式会社

五代砂留遺跡群遺構 全体図 (1/800)

